2026年度
カーボンニュートラル科目
講義概要（シラバス）

法政大学

科目一覧［発行日：2026/5/1］最新版のシラバスは、法政大学Webシラバス（https://syllabus.hosei.ac.jp/）で確認してください。

凡例　その他属性

〈他〉：他学部公開科目
〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目
〈S〉：サティフィケートプログラム_SDGs
〈ダ〉：サティフィケートプログラム_ダイバーシティ
〈カ〉：サティフィケートプログラム_カーボンニュートラル
〈グ〉：グローバル・オープン科目
〈実〉：実務経験のある教員による授業科目
〈ア〉：サティフィケートプログラム_アーバンデザイン
〈未〉：サティフィケートプログラム_未来教室

【A0030】環境法［吉岡　郁美］春学期授業/Spring …… 1
【A0048】消費者法Ⅰ［大澤　彩］春学期授業/Spring …… 2
【A0067】国際人権法Ⅰ［松田　浩道］秋学期授業/Fall …… 4
【A0068】国際人権法Ⅱ［松田　浩道］秋学期授業/Fall …… 6
【A0520】都市政策［杉崎　和久］春学期授業/Spring …… 8
【A0521】まちづくり論［杉崎　和久］秋学期授業/Fall …… 10
【A0645】国際協力講座［木内　真理子］秋学期授業/Fall …… 12
【A0749】国際機構論Ⅰ［本多　美樹］春学期授業/Spring …… 13
【A0900】協同組合論［杉崎　和久、上山　紀子、小林　幸治］秋学期授業/Fall …… 14
【A3165】東洋史特講Ⅳ［塩沢　裕仁］秋学期授業/Fall …… 16
【A3209】東洋考古・美術史［塩沢　裕仁］春学期授業/Spring …… 17
【A9835】カーボンニュートラル推進リーダー育成講座（入門）［三田地　真実］オータムセッション/Autumn Session 18
建築学科_基盤科目_人文社会系_人文分野【B1012】文化と文明［小林　信也］秋学期授業/Fall …… 21
システムデザイン学科_基盤科目_人文社会系_人文分野【B1012】文化と文明［小林　信也］秋学期授業/Fall …… 22
都市環境デザイン工学科_基盤科目_人文社会系_人文分野【B1012】文化と文明［小林　信也］秋学期授業/Fall …… 23
都市環境デザイン工学科_基盤科目_総合系_環境分野【B1019】環境とエネルギー［下田　昭郎］春学期授業/Spring 24
建築学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B1100】技術者倫理［南後　由和］秋学期授業/Fall …… 25
都市環境デザイン工学科_基盤科目_理工系_自然科学分野【B1268】ジオロジカルエンジニアリング［中谷　匡志］秋学期授業/Fall …… 27
システムデザイン学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B1300】技術者倫理［池田　尚司］春学期授業/Spring 29
システムデザイン学科_基盤科目_人文社会系_人文分野【B2010】文化人類学［思　沁夫］秋学期授業/Fall …… 31
都市環境デザイン工学科_基盤科目_人文社会系_人文分野【B2010】文化人類学［思　沁夫］秋学期授業/Fall …… 32
建築学科_基盤科目_人文社会系_人文分野【B2010】文化人類学［思　沁夫］秋学期授業/Fall …… 33
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B2051】都市デザイン［上山　肇］春学期前半/Spring(1st half) …… 34
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B2051】都市デザイン［上山　肇］春学期前半/Spring(1st half) …… 35
建築学科_専門科目_基礎科目【B2051】都市デザイン［上山　肇］春学期前半/Spring(1st half) …… 36
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B2056】公共空間デザイン及演習［下吹越　武人、大西　景太、福井　恒明、山田　裕貴］秋学期授業/Fall …… 37
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B2056】公共空間デザイン及演習［下吹越　武人、大西　景太、福井　恒明、山田　裕貴］秋学期授業/Fall …… 38
建築学科_専門科目_展開科目【B2056】公共空間デザイン及演習［下吹越　武人、大西　景太、福井　恒明、山田　裕貴］秋学期授業/Fall …… 39
建築学科_専門科目_基礎科目【B2401】建築生理心理１［加用　現空］春学期授業/Spring …… 40
建築学科_専門科目_展開科目【B2434】設備デザイン基礎［中野　淳太］秋学期授業/Fall …… 41
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B2668】デザインケーススタディ［土屋　雅人、大西　景太、ＳＥＯＮＧ　ＹＯＵＮＧ　ＡＨ］春学期授業/Spring …… 42
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B2708】プロダクトデザイン理論［安積　伸］春学期授業/Spring … 44
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B2726】メカニカルデザイン［山田　泰之］春学期後半/Spring(2nd half) …… 45
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B2729】デザイン・バックキャスティング［松山　祥樹］秋学期後半/Fall(2nd half) …… 46
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B2730】サービスＵＸデザイン［平田　昌大］春学期後半/Spring(2nd half) …… 48

システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B2743】 メカニカルデザイン演習［山田　泰之］ 秋学期後半/Fall(2nd half) 50
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B3001】 サステイナブルデザイン［中野　淳太］ 秋学期後半/Fall(2nd half) 51
建築学科_専門科目_基礎科目【B3001】 サステイナブルデザイン［中野　淳太］ 秋学期後半/Fall(2nd half) 52
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B3001】 サステイナブルデザイン［中野　淳太］ 秋学期後半/Fall(2nd half) 53
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3010】 ランドスケープデザイン［大木　一、保　清人］ 春学期授業/Spring 54
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B3010】 ランドスケープデザイン［大木　一、保　清人］ 春学期授業/Spring 56
建築学科_専門科目_基礎科目【B3010】 ランドスケープデザイン［大木　一、保　清人］ 春学期授業/Spring 58
建築学科_専門科目_基礎科目【B3013】 環境工学［中野　淳太］ 春学期授業/Spring 60
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B3013】 環境工学［中野　淳太］ 春学期授業/Spring 61
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B3013】 環境工学［中野　淳太］ 春学期授業/Spring 62
建築学科_専門科目_基礎科目【B3410】 建築計画１［岩佐　明彦］ 春学期授業/Spring 63
建築学科_専門科目_基礎科目【B3411】 建築計画２［岩佐　明彦］ 秋学期授業/Fall 64
建築学科_専門科目_基礎科目【B3413】 建築材料［網野　禎昭、永野　尚吾］ 春学期前半/Spring(1st half) 65
建築学科_専門科目_展開科目【B3417】 木造建築の構法［網野　禎昭］ 秋学期前半/Fall(1st half) 66
建築学科_専門科目_展開科目【B3427】 空間の構造デザイン［浜田　英明］ 春学期授業/Spring 67
建築学科_専門科目_展開科目【B3428】 鉄筋コンクリートのデザイン［浜田　英明］ 春学期授業/Spring 68
建築学科_専門科目_基礎科目【B3436】 建築生理心理２［加用　現空］ 秋学期授業/Fall 69
建築学科_専門科目_基礎科目【B3437】 建築気候［中野　淳太］ 秋学期授業/Fall 70
建築学科_専門科目_展開科目【B3438】 光・視環境［中野　淳太］ 春学期授業/Spring 71
建築学科_専門科目_展開科目【B3448】 材料のデザイン［宮田　雄二郎］ 春学期授業/Spring 72
建築学科_専門科目_基礎科目【B3535】 設備入門［石川　裕司］ 秋学期授業/Fall 74
建築学科_基盤科目_総合系_環境分野【B3537】 文明と資源［網野　禎昭］ 秋学期後半/Fall(2nd half) 76
都市環境デザイン工学科_基盤科目_総合系_環境分野【B3537】 文明と資源［網野　禎昭］ 秋学期後半/Fall(2nd half) 77
システムデザイン学科_基盤科目_総合系_環境分野【B3537】 文明と資源［網野　禎昭］ 秋学期後半/Fall(2nd half) 78
建築学科_専門科目_基礎科目【B3541】 構法スタジオ１［永野　尚吾、溝部　公寛、鈴木　理考、河野　泰治、網野　禎昭、五十嵐　理人、北村　武留、藤田　雄介］ 春学期前半/Spring(1st half) 79
建築学科_専門科目_基礎科目【B3542】 構法スタジオ２［永野　尚吾、溝部　公寛、鈴木　理考、河野　泰治、五十嵐　理人、北村　武留、藤田　雄介］ 秋学期前半/Fall(1st half) 80
建築学科_専門科目_展開科目【B3543】 環境デザインスタジオ［中野　淳太、加用　現空］ 春学期授業/Spring ... 81
建築学科_専門科目_基礎科目【B3580】 サステナブルデザイン［中野　淳太］ 秋学期後半/Fall(2nd half) 82
【B3580】 サステナブルデザイン［中野　淳太］ 秋学期後半/Fall(2nd half) 83
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B3580】サステナブルデザイン［中野　淳太］秋学期後半/Fall(2nd half) 84
【B3584】 デザイン工学概論［南後　由和］ 春学期授業/Spring 85
【B3584】 デザイン工学概論［南後　由和］ 春学期授業/Spring 87
【B3584】 デザイン工学概論［南後　由和］ 春学期授業/Spring 89
【B3585】 マテリアルデザイン［宮田　雄二郎］ 春学期授業/Spring 91
【B3585】 マテリアルデザイン［宮田　雄二郎］ 春学期授業/Spring 93
【B3585】 マテリアルデザイン［宮田　雄二郎］ 春学期授業/Spring 95
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3714】 ジオテクニカルデザイン［酒井　久和］ 春学期授業/Spring 97
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3830】 品質マネジメント［池庄司　雅臣］ 秋学期授業/Fall 98
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B3830】 品質マネジメント［池庄司　雅臣］ 秋学期授業/Fall 99
建築学科_専門科目_展開科目【B3830】 品質マネジメント［池庄司　雅臣］ 秋学期授業/Fall 100
【B3838】 医療福祉工学［川瀬　利弘］ 秋学期授業/Fall 101
【B3838】 医療福祉工学［川瀬　利弘］ 秋学期授業/Fall 102
【B3838】 医療福祉工学［川瀬　利弘］ 秋学期授業/Fall 103
【C0222】 社会と美術［平野　真弓］ 春学期授業/Spring 104
【C0223】 メディアと社会［稲垣　立男］ 秋学期授業/Fall 107
【C0233】 ジェンダー論［佐々木　一惠］ 春学期授業/Spring 109
【C0242】 国際文化協力［松本　悟］ 春学期授業/Spring 111
【C0437】 社会とデータサイエンス［和泉　順子］ 秋学期授業/Fall 112
【C0438】 道具による感覚・体験のデザイン［甲　洋介］ 秋学期授業/Fall 113
【C0770】 文化情報のデザインワークショップ［松田　美奈子］ 春学期授業/Spring 114

【C0810】道具のデザイン学［松田　美奈子］春学期授業/Spring …… 115
【C0814】文化と生物［島野　智之、川上　裕司、黒沼　真由美、松崎　素道、鈴木　忠、富川　光］秋学期授業/Fall 116
【C0815】文化と環境情報［島野　智之、佐々木　美貴、中西　由季子、忽那　賢志、塚田　訓久、島田　瑞穂、吉川　翠、長谷川　真紀子］秋学期授業/Fall …… 117
【C0854】現代美術論［平野　真弓］秋学期授業/Fall …… 119
【C0902】世界とつながる地域の歴史と文化［髙柳　俊男］春学期授業/Spring …… 122
【C0947】北米文化論（ケベック講座）［廣松　勲］秋学期授業/Fall …… 124
【C0999】フランス語圏の文化Ⅳ（複言語・複文化社会）［廣松　勲］春学期授業/Spring …… 125
【C1040】国際関係研究Ⅰ［松本　悟］春学期授業/Spring …… 126
【C1041】国際関係研究Ⅱ［松本　悟］秋学期授業/Fall …… 127
【C1048】実践国際協力［松本　悟］秋学期授業/Fall …… 128
【C1119】言語文化演習［佐々木　直美］春学期・秋学期/Spring・Fall …… 129
【C1169】言語文化演習［佐々木　直美］春学期・秋学期/Spring・Fall …… 131
【C1219】言語文化演習［佐々木　直美］春学期・秋学期/Spring・Fall …… 133
【C1269】言語文化演習［佐々木　直美］春学期・秋学期/Spring・Fall …… 135
【C2004】国際法Ⅰ［岡松　暁子］春学期授業/Spring …… 137
【C2005】国際法Ⅱ［岡松　暁子］秋学期授業/Fall …… 138
【C2014】環境法Ⅱ［永野　秀雄］秋学期授業/Fall …… 139
【C2017】国際環境法［岡松　暁子］秋学期授業/Fall …… 140
【C2025】地球環境政治論［横田　匡紀］春学期授業/Spring …… 141
【C2110】環境経済論Ⅰ［杉野　誠］春学期授業/Spring …… 143
【C2111】環境経済論Ⅱ［杉野　誠］秋学期授業/Fall …… 144
【C2116】CSR論Ⅰ［長谷川　直哉］春学期授業/Spring …… 145
【C2117】CSR論Ⅱ［長谷川　直哉］秋学期授業/Fall …… 147
【C2217】環境社会論Ⅰ［藤田　研二郎］春学期授業/Spring …… 149
【C2218】環境社会論Ⅱ［藤田　研二郎］秋学期授業/Fall …… 151
【C2227】災害政策論［川副　早央里］秋学期授業/Fall …… 153
【C2311】環境倫理学Ⅱ［吉永　明弘］秋学期授業/Fall …… 154
【C2416】環境科学Ⅰ［佐々木　大輔］春学期授業/Spring …… 155
【C2417】環境科学Ⅱ［佐々木　大輔］秋学期授業/Fall …… 156
【C2432】自然災害論［杉戸　信彦］秋学期授業/Fall …… 157
【C2501】環境管理論Ⅱ［大野　香代］春学期授業/Spring …… 158
【C2503】環境教育論［野田　恵］春学期授業/Spring …… 160
【C5055】成人学習のデザイン（生涯学習支援論Ⅱ）［久井　英輔］秋学期授業/Fall …… 162
関連科目【C5343】生涯学習支援論Ⅰ［松橋　義樹］春学期授業/Spring …… 164
展開科目_選択必修（体験型）【C7128】メディアリテラシー実習Ⅰ［坂本　旬］春学期授業/Spring …… 166
展開科目_選択必修（体験型）【C7129】メディアリテラシー実習Ⅱ［坂本　旬］秋学期授業/Fall …… 168
人文・社会・自然科学系【H3123】環境と資源［中嶋　吉弘］春学期授業/Spring …… 170
人文・社会・自然科学系【H3124】環境と資源［中嶋　吉弘］秋学期授業/Fall …… 172
機械工学科機械工学専修_学科専門科目【H5008】環境・エネルギー入門［山脇　栄道］春学期授業/Spring …… 174
機械工学科機械工学専修_学科専門科目【H5075】製品開発工学［吉田　一朗］春学期授業/Spring …… 176
機械工学科機械工学専修_学科専門科目【H5087】エネルギー変換工学［飯島　晃良］春学期授業/Spring …… 179
電気電子工学科_学科専門科目【H5512】基礎アナログ電子回路［安田　彰］春学期授業/Spring …… 180
電気電子工学科_学科専門科目【H5514】応用アナログ電子回路［安田　彰］秋学期授業/Fall …… 181
電気電子工学科_学科専門科目【H5545】アナログ回路デザイン［安田　彰］春学期授業/Spring …… 182
電気電子工学科_学科専門科目【H5552】パワーエレクトロニクス［早乙女　英夫］春学期授業/Spring …… 183
電気電子工学科_学科専門科目【H5563】ディジタル回路デザイン［安田　彰］秋学期授業/Fall …… 184
経営システム工学科_学科専門科目【H6812】保全性工学［田村　信幸］秋学期授業/Fall …… 185
学部共通科目【H7001】グリーンケミストリ［渡邊　雄二郎］春学期授業/Spring …… 186
学部共通科目【H7006】環境と人間［植田　央］春学期授業/Spring …… 187
学部共通科目【H7042】食品科学［三浦　豊］春学期授業/Spring …… 188
学部共通科目【H7073】応用環境化学［渡邊　雄二郎］秋学期授業/Fall …… 189
学部共通科目【H7304】植物病学概論［濱本　宏］秋学期授業/Fall …… 190
学部共通科目【H7305】植物分子細胞生物学［鍵和田　聡］秋学期授業/Fall …… 191
応用植物科学科_学科専門科目【H8003】栽培植物学［佐野　俊夫］春学期授業/Spring …… 192
応用植物科学科_学科専門科目【H8009】診断技術論［大井田　寛、濱本　宏、廣岡　裕吏、酒井　啓充］春学期授業/Spring …… 193

応用植物科学科_学科専門科目【H8014】雑草学［佐野　俊夫、村岡　哲郎］秋学期授業/Fall 194
応用植物科学科_学科専門科目【H8015】植物医科ビジネス論［宮内　陽介、川名　祥史、小倉　里江子］秋学期授業/Fall 195
応用植物科学科_学科専門科目【H8018】植物医科学応用実験　Ｉ［津田　新哉、濱本　宏、鍵和田　聡、佐野　俊夫、大島　研郎、大井田　寛、池田　健太郎、鶴岡　康夫、廣岡　裕吏、鈴木　聡、武井　円、小林　慶範］春学期授業/Spring 196
応用植物科学科_学科専門科目【H8019】植物医科学応用実験　ＩＩ［津田　新哉、濱本　宏、鍵和田　聡、佐野　俊夫、大島　研郎、大井田　寛、池田　健太郎、齋藤　範彦、廣岡　裕吏、武井　円、小林　慶範］秋学期授業/Fall 197
学部共通科目【H8023】植物細菌学［大島　研郎］春学期授業/Spring 198
応用植物科学科_学科専門科目【H8026】環境昆虫学［望月　文昭］春学期授業/Spring 199
応用植物科学科_学科専門科目【H8030】植物感染生理学［鍵和田　聡］春学期授業/Spring 200
応用植物科学科_学科専門科目【H8035】植物生理病学［佐野　俊夫、亀和田　國彦］春学期授業/Spring 201
応用植物科学科_学科専門科目【H8036】植物医科学専門実験　Ｉ［津田　新哉、中山　喜一、濱本　宏、鍵和田　聡、佐野　俊夫、大島　研郎、大井田　寛、池田　健太郎、齋藤　範彦、廣岡　裕吏、武井　円、小林　慶範］春学期授業/Spring 202
応用植物科学科_学科専門科目【H8037】植物医科学専門実験　ＩＩ［津田　新哉、中山　喜一、濱本　宏、鍵和田　聡、佐野　俊夫、大島　研郎、大井田　寛、池田　健太郎、齋藤　範彦、廣岡　裕吏、武井　円、小林　慶範］秋学期授業/Fall 203
応用植物科学科_学科専門科目【H8104】植物管理技術論［安達　俊輔、桂　圭佑、若林　侑］春学期授業/Spring 204
応用植物科学科_学科専門科目【H8108】植物栄養学［亀和田　國彦］春学期授業/Spring 205
応用植物科学科_学科専門科目【H8109】生物学実験統計分析演習［松下　秀介］春学期授業/Spring 207
応用植物科学科_学科専門科目【H8117】ホーティカルチャー論［津田　新哉、鈴木　栄、彦坂　晶子、堀内　尚美］春学期授業/Spring 208
応用植物科学科_学科専門科目【H8119】植物医科インフォマティクス演習［大島　研郎］秋学期授業/Fall 209
応用植物科学科_学科専門科目【H8120】実践植物遺伝学［坂井　真、黒羽　剛］春学期授業/Spring 210
創生科学科_学科専門科目【H9050】創生科学基礎演習III［金沢　誠］秋学期授業/Fall 212
創生科学科_学科専門科目【H9353】物理学基礎Ⅴ（熱統計力学Ⅰ）［梶田　雅稔］秋学期授業/Fall 213
創生科学科_学科専門科目【H9376】地球科学基礎Ⅱ（リモートセンシング）［佐藤　修一］春学期授業/Spring .. 214
創生科学科_学科専門科目【H9379】イノベーションと企業経営［呉　暁林］春学期授業/Spring 215
【K6054】日本経済論Ａ［小黒　一正］春学期授業/Spring 217
【K6055】日本経済論Ａ［青野　幸平］春学期授業/Spring 218
【K6056】日本経済論Ｂ［小黒　一正］秋学期授業/Fall 219
【K6057】日本経済論Ｂ［青野　幸平］秋学期授業/Fall 220
【K6062】財政学Ａ［小林　克也］春学期授業/Spring 221
【K6063】財政学Ａ［廣川　みどり］春学期授業/Spring 222
【K6064】財政学Ｂ［小林　克也］秋学期授業/Fall 223
【K6065】財政学Ｂ［廣川　みどり］秋学期授業/Fall 224
【K6128】コーポレートガバナンス論Ａ［胥　鵬］春学期授業/Spring 225
【K6129】コーポレートガバナンス論Ｂ［胥　鵬］秋学期授業/Fall 227
【K6152】経済人類学Ａ［友松　夕香］春学期授業/Spring 229
【K6153】経済人類学Ｂ［友松　夕香］秋学期授業/Fall 230
【K6154】環境経済論Ａ［松波　淳也］春学期授業/Spring 231
【K6155】環境経済論Ａ［松波　淳也］春学期授業/Spring 232
【K6156】環境経済論Ｂ［松波　淳也］秋学期授業/Fall 233
【K6157】環境経済論Ｂ［松波　淳也］秋学期授業/Fall 234
【K6160】経済地理Ａ［近藤　章夫］春学期授業/Spring 235
【K6161】経済地理Ｂ［近藤　章夫］秋学期授業/Fall 236
【K6209】環境科学Ａ［岡部　雅史］春学期授業/Spring 237
【K6210】環境科学Ｂ［岡部　雅史］秋学期授業/Fall 238
【K6223】環境政策論Ａ［西澤　栄一郎］春学期授業/Spring 239
【K6224】環境政策論Ｂ［西澤　栄一郎］秋学期授業/Fall 240
【K6229】経済政策論Ａ［小原　拓也］春学期授業/Spring 241
【K6230】経済政策論Ｂ［濱秋　純哉］秋学期授業/Fall 242
【K6337】マクロ経済学Ａ［宮﨑　憲治］春学期授業/Spring 243
【K6338】マクロ経済学Ｂ［宮﨑　憲治］秋学期授業/Fall 244
【K6343】マクロ経済学Ａ［八木橋　毅司］春学期授業/Spring 245
【K6344】マクロ経済学Ｂ［八木橋　毅司］秋学期授業/Fall 246

【K6347】 財政学A(市ヶ谷開講) ［島澤　諭］ 春学期授業/Spring …… 247
【K6348】 財政学B(市ヶ谷開講) ［島澤　諭］ 秋学期授業/Fall …… 248
【K6349】 経済政策論A(市ヶ谷開講) ［森脇　大輔］ 春学期授業/Spring …… 249
【K6350】 経済政策論B(市ヶ谷開講) ［濱秋　純哉］ 秋学期授業/Fall …… 250
【K6721】 Principles of Economics A ［ＪＥＳＳ　ＤＩＡＭＯＮＤ］ 春学期授業/Spring …… 251
Advanced Courses／専門科目_Disciplinary Courses／IGESS科目_Ⅱ. Global Economy【K6721】 Principles of Economics A ［ＪＥＳＳ　ＤＩＡＭＯＮＤ］ 春学期授業/Spring …… 252
【K6722】 Principles of Economics B ［ＪＥＳＳ　ＤＩＡＭＯＮＤ］ 秋学期授業/Fall …… 253
Advanced Courses／専門科目_Disciplinary Courses／IGESS科目_Ⅱ. Global Economy【K6722】 Principles of Economics B ［ＪＥＳＳ　ＤＩＡＭＯＮＤ］ 秋学期授業/Fall …… 254
【L0114】 環境生態学 ［鞠子　茂］ 秋学期授業/Fall …… 255
【LA001】 社会政策科学入門B ［北浦　康嗣］ 春学期授業/Spring …… 256
【LA003】 社会政策科学入門D ［天本　哲史］ 秋学期授業/Fall …… 257
【LA010】 ミクロ経済学 ［北浦　康嗣］ 春学期授業/Spring …… 258
【LA011】 マクロ経済学 ［北浦　康嗣］ 秋学期授業/Fall …… 259
【LA105】 地域産業論Ⅰ ［加藤　寛之］ 春学期授業/Spring …… 260
【LA200】 サステイナビリティ論A ［髙橋　洋］ 秋学期授業/Fall …… 261
【LA212】 環境政策論Ⅰ ［髙橋　洋］ 春学期授業/Spring …… 262
【LA213】 環境政策論Ⅱ ［髙橋　洋］ 秋学期授業/Fall …… 263
【LA300】 グローバル市民社会論A ［岡野内　正］ 春学期授業/Spring …… 264
【LA301】 グローバル市民社会論B ［中筋　直哉］ 春学期授業/Spring …… 265
【LA302】 グローバル社会のローカリティ ［中筋　直哉］ 秋学期授業/Fall …… 266
【LA308】 国際協力論 ［岡野内　正］ 秋学期授業/Fall …… 267
【LB000】 社会学への招待 ［徳安　彰］ 秋学期授業/Fall …… 268
【LB013】 歴史社会学Ⅰ ［鈴木　智道］ 春学期授業/Spring …… 269
【LB027-a】 社会調査実習 ［堅田　香緒里］ 年間授業/Yearly …… 270
【LB027-b】 社会調査実習 ［樋口　明彦］ 年間授業/Yearly …… 272
【LB027-c】 社会調査実習 ［三井　さよ］ 年間授業/Yearly …… 273
【LB027-d】 社会調査実習 ［池田　裕］ 年間授業/Yearly …… 274
【LB029-a】 調査研究法B ［樋口　明彦］ 春学期授業/Spring …… 275
【LB029-b】 調査研究法B ［堅田　香緒里］ 春学期授業/Spring …… 276
【LB029-c】 調査研究法B ［三井　さよ］ 春学期授業/Spring …… 277
【LB202】 環境社会学Ⅰ ［茅野　恒秀］ 春学期授業/Spring …… 278
【LB203】 環境社会学Ⅱ ［茅野　恒秀］ 秋学期授業/Fall …… 279
【LB206】 都市と地域の社会学Ⅰ ［茅野　恒秀］ 春学期授業/Spring …… 280
【LB207】 都市と地域の社会学Ⅱ ［茅野　恒秀］ 秋学期授業/Fall …… 281
【LB404】 国際関係論Ⅰ ［二村　まどか］ 春学期授業/Spring …… 283
【LD002】 メディア社会入門Ⅰ ［大森　翔子］ 春学期授業/Spring …… 284
【LD200】 消費者行動論 ［諸上　茂光］ 春学期授業/Spring …… 285
【LD201】 消費者行動モデリング ［諸上　茂光］ 秋学期授業/Fall …… 286
【LD202】 マーケティング実践 ［諸上　茂光］ 秋学期授業/Fall …… 287
【LD300】 メディアテクノロジーと社会 ［橋爪　絢子］ 春学期授業/Spring …… 288
【LD301】 メディアテクノロジーと社会分析 ［橋爪　絢子］ 秋学期授業/Fall …… 289
【LD309】 ソーシャルメディア論 ［藤代　裕之］ 春学期授業/Spring …… 290
【LD310】 ソーシャルメディア分析 ［藤代　裕之］ 秋学期授業/Fall …… 291
【LE221】 Content-Based English BⅠ（Global Issues）［二村　まどか］ 春学期授業/Spring …… 292
【LE222】 Content-Based English BⅡ（Global Issues）［二村　まどか］ 秋学期授業/Fall …… 293
【N0154】 生命の科学Ⅱ ［鞠子　茂］ 秋学期授業/Fall …… 294
【N0158】 基礎数学Ⅱ ［中田　行彦］ 秋学期授業/Fall …… 295
【N1001】 地域問題入門 ［野田　岳仁］ 春学期授業/Spring …… 296
【N1002】 コミュニティマネジメント入門 ［水野　雅男、図司　直也、佐野　竜平、土肥　将敦、野田　岳仁、杉浦　ちなみ］ 春学期授業/Spring …… 297
【N1003】 社会問題論 ［大澤　優真］ 春学期授業/Spring …… 298
【N1052】 社会的包摂論 ［水野　雅男］ 秋学期授業/Fall …… 299
【N1053】 地域計画論 ［杉浦　ちなみ］ 秋学期授業/Fall …… 300
【N1054】 コミュニティビジネス論 ［土肥　将敦］ 秋学期授業/Fall …… 301
【N1055】 ローカルイノベーション論 ［野田　岳仁、水野　雅男、図司　直也、土肥　将敦］ 秋学期授業/Fall … 302

【N1059】 アジア地域開発論（2020年度以前入学者）［佐野　竜平］ 秋学期授業/Fall 303
【N1059】 アジア地域開発論（2021年度以降入学者）［佐野　竜平］ 秋学期授業/Fall 304
【N1102】 医療政策論［小磯　明］ 春学期授業/Spring 305
【N1107】 都市住宅政策論［水野　雅男］ 春学期授業/Spring 306
【N1108】 地域文化政策論［杉浦　ちなみ］ 春学期授業/Spring 307
【N1109】 環境政策論［藤澤　浩子］ 春学期授業/Spring 308
【N1111】 政策評価論［倉根　明徳］ オータムセッション/Autumn Session 310
【N1113】 地域経済論［図司　直也］ 秋学期授業/Fall 311
【N1116】 国際協力論［佐野　竜平］ 春学期授業/Spring 312
【N1117】 Community Based Inclusive Development ［佐野　竜平］ 秋学期授業/Fall 313
【N1151】 地域経営論［遠藤　聖子］ 春学期授業/Spring 314
【N1152】 ソーシャルイノベーション論［土肥　将敦］ 春学期授業/Spring 316
【N1153】 ソーシャルマネジメント論［樋口　邦史］ 春学期授業/Spring 317
【N1154】 ソーシャルファイナンス論［徳永　洋子］ 春学期授業/Spring 318
【N1155】 NPO論［渡真利　紘一］ 秋学期授業/Fall 319
【N1156】 協同組合論［西井　賢悟］ 秋学期授業/Fall 321
【N1159】 災害支援論［青木　信夫、正谷　絵美］ 春学期授業/Spring 323
【N1160】 人権活動論［寺中　誠］ 春学期授業/Spring 325
【N1161】 農山村とコミュニティ［図司　直也］ 春学期授業/Spring 326
【N1162】 コミュニティアート［吉野　裕之］ 秋学期授業/Fall 327
【N1163】 コミュニティスポーツ［深野　聡］ オータムセッション/Autumn Session 328
【N1164】 地域遺産マネジメント論［須田　英一］ 春学期授業/Spring 330
【N1165】 地域ツーリズム［野田　岳仁］ 秋学期授業/Fall 331
【N1166】 住民参加の手法［杉崎　和久］ 春学期授業/Spring 332
【N1170】 地域交通マネジメント論［吉田　樹］ オータムセッション/Autumn Session 333
【N1171】 ボランタリーアクション（2021年度以降入学者）［髙井　大輔］ 秋学期授業/Fall 335
【N1171】 ボランタリーアクション（2020年度以前入学者）［髙井　大輔］ 秋学期授業/Fall 336
【N1172】 Disability and Development in Asia ［佐野　竜平］ 春学期授業/Spring 337
【N1208】 セルフヘルプグループ［横川　剛毅］ 春学期授業/Spring 338
【N1209】 スクールソーシャルワーク［宮地　さつき］ 春学期授業/Spring 339
【N6002】 まちづくりの思想［水野　雅男、図司　直也、佐野　竜平、土肥　将敦、野田　岳仁、杉浦　ちなみ］ 春学期授業/Spring 340
【N6055】 地域の歴史と文化［野田　岳仁、水野　雅男、図司　直也、土肥　将敦］ 秋学期授業/Fall 341
【N6151】 地域経営論（SSI）［遠藤　聖子］ 春学期授業/Spring 342
【N6155】 NPO論（SSI）［渡真利　紘一］ 秋学期授業/Fall 344
【N6162】 コミュニティアート（SSI）［吉野　裕之］ 秋学期授業/Fall 346
【N6165】 地域ツーリズム（SSI）［野田　岳仁］ 秋学期授業/Fall 347
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6212】 文化人類学方法論Ｂ［菊池　真理］ 秋学期授業/Fall 348
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6317】 教養ゼミⅠ ［島野　智之］ 春学期授業/Spring 350
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6318】 教養ゼミⅡ ［島野　智之］ オータムセッション/Autumn Session 352
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6335】 人間と地球環境［宇野　真介］ 春学期授業/Spring 354
【Q6335】 人間と地球環境［宇野　真介］ 春学期授業/Spring 356
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6336】Human Impact on the Global Environment ［宇野　真介］ 秋学期授業/Fall 358

LAW300AB（法学 / law 300）

環境法

吉岡　郁美

授業形式：講義　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境法に関する2単位の科目として、環境法の全体像の紹介を試みる。環境保全の制度の進展は目覚ましく、環境法令についても頻繁に制定・改廃が行われているが、最新の法令の状況、学説の議論を踏まえつつも、環境法の法体系や基本原理の理解に講義の重点を置くことにしたい。
本科目は「行政・公共政策と法コース」、「国際社会と法コース」に属する。民法・憲法等の基本関連科目のほか、「行政法入門Ⅰ・Ⅱ」、「行政法作用法Ⅰ・Ⅱ」、「行政救済法Ⅰ・Ⅱ」の知識・理解をもつ受講者には、より精確な講義の理解が可能となる。

【到達目標】
Ⅰ知識面
①受講者が、環境法分野における法令、理論、判例を学ぶことを通じ、憲法、民法、行政法等の関連知識を確実なものとすることができる、あるいは、これらの分野を本格的に学習する足がかりとすることができる講義を目指す。
②さらに進んで、受講者が、地球温暖化問題、東アジアの環境汚染、環境問題への参加、司法アクセスの改善等、法政策的な課題についても、最新の知識が収得できる講義を目指す。
Ⅱ 能力面
①受講者が、法律文献を正確に読解できる力を身に付けることを目指す。併せて、受講者が、最高裁判所をはじめとする裁判例の論理を正確に把握できる能力を身に付けることを目指す。
②受講者が、関連する自然科学上の知識について高校レベルの正確な知識を踏まえ、環境問題の正しい把握の上に法的な分析を行うことできる能力を身に付けることを目指す。
③受講者が、興味・関心に応じ、自然科学の基礎的な文献にも取り組む積極的な姿勢を身に付けることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
通常の講義形式(全面対面方式)。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業概要・成績評価の方法、調査研究の方法
第2回	環境法の歴史、法体系の展開	公害法の生成、公害対策基本法、公害・環境訴訟の展開
第3回	現行の環境法体系	地球環境問題、環境基本法、原子力法制の環境法への組込み等 環境法の特徴 環境法の諸原則
第4回	環境組織法１	主要な環境法令における組織体制 地方分権と環境法
第5回	環境組織法２	公私協働 グローバル化の影響
第6回	環境作用法１	手続・計画的手法 規制的手法
第7回	環境作用法２	誘導的手法 合意的手法 事後的な措置
第8回	事例研究	環境法が運用されている事例を知る
第9回	環境救済法	行政訴訟を中心に、環境問題と訴訟の関係について紹介する
第10回	環境法と食品法	環境法と関連個別法分野の関係を中心に、組織・作用・救済を考える
第11回	環境法とエネルギー法	環境法と関連個別法分野の関係を中心に、組織・作用・救済を考える
第12回	環境法と文化法	環境法と関連個別法分野の関係を中心に、組織・作用・救済を考える
第13回	環境法と都市法	環境法と関連個別法分野の関係を中心に、組織・作用・救済を考える
第14回	まとめ・確認レポート	授業内容を総括し、確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
○学際的な科目であり、応用科目であるので、授業中でわからない用語等が出てきた場合には、自主的に環境省ホームページ等を検索して調べることが望ましい。
○また、環境問題の実態は科学技術上の基礎知識がないと理解できないことも多いので、興味関心のあるテーマについては環境省のホームページ等の解説を調べることが望まれる。
○本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は用いない。学習支援システムに事前に資料をアップする。教室においては配布しない。

【参考書】
（図書館等において、参照し活用すること）
大塚直『環境法BASIC（第4版）』（有斐閣、2023年）　5,060円
大塚直『環境法〔第4版〕』（有斐閣、2020年）　5,280円
北村喜宣『環境法〔第6版〕』（弘文堂、2023年）　4,620円

【成績評価の方法と基準】
14回目に授業内容の確認を行う。特に授業内容で関心を持ったテーマについて、好きな文献を参照しながら論じてもらう（70％）。
各回の最後あるいは途中で課題を出すことがある（40％）。問題の理解度、文章技術を問う。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム等を使用する。参照すべき行政法規がミニ六法には掲載されていないこともあるので、対面での参加の場合には、法令データベースを参照できる情報機器(無線LANの接続が可能なPC、スマートフォーン等)を持参することが望ましい。

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
【Course outline 】This lecture is a two-credit course and deals with an overview of environmental law.
【Learning Objectives 】The purpose of this lecture is to learn the basics of environmental law while focusing on domestic environmental law.
【Learning activities outside of classroom 】Students should prepare for the lessons, deepen their learning through face-to-face lectures, and consolidate their understanding through subsequent review.
【Grading Criteria /Policy 】I. End-of-term classroom exam (70%) . Ⅱ. Submission of reaction papers (40%).

LAW300AB（法学 / law 300）

消費者法Ⅰ

大澤　彩

授業形式：講義　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
私たちの消費生活では、契約トラブル、悪質商法、食の安全など、日々様々な法律問題が生じている。このような法律問題を考える上で必要となってくるのが、消費者法と呼ばれる領域の法知識・考え方である。本講義は消費者法についての考え方、知識を身につけ、日常生活における法律問題を考える際に必要なリーガルマインドを有した「消費者」になることを目的とする。
学習にあたっては、民法はもちろん、消費者契約法・製造物責任法などの特別法、さらには消費者行政に重要な役割を果たしている行政機関や行政規制の役割、民事訴訟を中心とした紛争解決制度の現状など、様々な分野にわたる知識・理解・関心が求められる。
消費者法Ⅰでは、主に契約をめぐる法的問題につき、民法のみならず消費者契約法、特定商取引法、割賦販売法などの特別法の内容とともに学ぶ。それにより、消費者契約をめぐるトラブルに対処するための法解釈・適用の在り方を理解することができる。
「裁判と法コース」「行政・公共政策と法コース」「企業・経営と法コース（商法中心コース）・（労働法中心コース）」「文化・社会と法コース」に属する。

【到達目標】
民法の契約総論、各論部分のみならず、消費者契約法、特定商取引法、割賦販売法などの特別法の知識を身につける。
契約トラブルなどの日常的な消費者問題に対して民法・各種特別法がいかなる役割を果たしているのかについて、法律の規定のみならず判例・学説をもとに理解する。これによって、民法の特に総則・債権法部分の発展的な学習を行うこともできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
①授業日2日前までにレジュメを学習支援システムにアップする。レジュメに「事前課題」をのせることもある。受講生はこの事前課題やレジュメ、教科書、さらには裁判例集を読んで予習しておくこと。②授業日は、受講者がすでに教科書を読んでいることを前提に、発展的な解説を行う。③質問は随時、学習支援システム内の掲示板（毎回の講義毎にトピックを設定する）で受け付ける。また、授業開始前・終了後にも受け付ける。④事前課題に関する意見を学習支援システム内の掲示板に書き込んでもらい、授業内でその書き込みをふまえた補足解説を行うこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	消費者法とは何か①	消費者法とは何か。消費者基本法。教科書Unit1
第2回	消費者法とは何か②	消費者・事業者概念。教科書Unit2
第3回	消費者契約の締結過程の適正化①契約の成立	消費者契約の成立、契約締結上の過失。教科書Unit3
第4回	消費者契約の締結過程の適正化②民法の役割	民法の錯誤、詐欺。教科書Unit4
第5回	消費者契約の締結過程の適正化③消費者契約法	消費者契約法4条など。教科書Unit5
第6回	消費者契約の締結過程の適正化④交渉力の不均衡	民法の強迫、消費者契約法4条など。教科書Unit6
第7回	消費者契約の内容の適正化①中心的債務：公序良俗	公序良俗規定と消費者取引。教科書Unit7
第8回	消費者契約の内容の適正化②不当条項規制その1	民法による不当条項規制、約款論。教科書Unit8
第9回	消費者契約の内容の適正化③不当条項規制その2	消費者契約法8条〜10条。教科書Unit9
第10回	消費者契約と特定商取引法①	特定商取引法の概要。教科書Unit11
第11回	消費者契約と特定商取引法②	クーリングオフ、通信販売規制、過量販売規制など。教科書Unit12
第12回	消費者取引とシステム責任論①割賦販売法	割賦販売法の概要、抗弁の接続。教科書Unit13
第13回	消費者取引とシステム責任論②名義貸し、不正利用、預金トラブル	クレジットカードの不正利用、預金トラブル。教科書Unit14
第14回	消費者取引と不法行為法	消費者取引における不法行為法の役割。教科書Unit15

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業2日前までにアップするレジュメや教科書を使って予習すること。また、教科書や消費者法判例集の指定箇所等、学習支援システムで指示された文献はきちんと読んでおくこと。学生が予習をしてきていることを前提に授業日に解説を行う。
講義内容によっては、学習支援システムに「事前課題」をアップすることがあるので、この課題を解くつもりで教科書の指定箇所や消費者法判例集の指定箇所を読むと理解が深まる。「事前課題」に対する解答や意見を学習支援システムの掲示板に書き込むのも歓迎する。また、新聞やテレビ、インターネット等で日頃から私たちの日常生活におけるトラブルについてのニュースを見聞きしておくことも重要である。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
大澤彩『消費者法（第2版）』（商事法務、2025年）
このほかに、オリジナル教材『消費者法裁判例集』を使用する予定。詳細は初回授業で指示するため、それまでは購入しないこと。

【参考書】
中田邦博＝鹿野菜穂子編『基本講義消費者法（第6版）』（日本評論社、2026年）
河上正二＝沖野眞已編『消費者法判例百選（第2版）』（有斐閣、2020年）
松本恒雄＝後藤巻則編『消費者法判例インデックス』（商事法務、2017年）
大村敦志『消費者法（第4版）』（有斐閣、2011年）

【成績評価の方法と基準】
学期末に定期試験（対面での試験が可能である場合）を行う。この学期末試験による評価を100％とする。
以上は予定であり、詳しくは開講時に学習支援システムで指示する。

【学生の意見等からの気づき】
テキストの記述が詳細なので、レジュメの内容や授業ではもう少しかみ砕いた説明を心がける。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムへのアクセスが容易になるよう、パソコンやタブレットを準備して欲しい。

【その他の重要事項】
・レジュメに頼らず、自分でノートをとる習慣を身につけること。大学の授業を受ける上で本来望まれる姿勢は教員の話を聞き取って自分でノートをとるという姿勢である。
・学習支援システムの「お知らせ」をこまめにチェックすること。

・契約法（Ⅰ～Ⅳ）・不法行為法の講義をすでに受講、ないしは同時に受講していることが望ましい。
・2026年度は「消費者法Ⅰ」を開講する。「消費者法Ⅱ」は2027年度に開講する予定である。
・消費者問題に直接取り組む弁護士のみならず、消費者問題に対する対処が求められており、そのための部署も設けられている国・地方公共団体の職員を目指す学生、さらには、近年コンプライアンス意識が一層顕著になっているすべての企業で働くことになる学生にとっても重要な科目である。
SDG ｓの観点からも受講することをお勧めする。
学生向けに消費者法を学ぶことの意味について書いた、拙稿「消費者法－私達＝「消費者」のよりよい消費生活のために」法学教室487号（2021年）別冊付録掲載を読んで欲しい。

【Outline (in English)】
We learn the consumer law, especially, the consumer contract law. The goals of this course are to comprehend this law.
Before / after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand tne course content.
Final grade will be calculated according to the term-end examination(100%).

LAW300AB（法学 / law 300）

国際人権法 I

松田　浩道

授業形式：講義　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　国際人権法の歴史や各人権条約の仕組み、それらの国内適用にあたっての憲法上の課題を考えることを通して、基本的人権とは何か、基本的人権を守るためにいかなる制度が用意され、どのように機能し、国内法の下でどのように適用されているのかを理解する。
　それを基礎として、受講者が関心を持つ様々な人権問題が、国際人権法上どのように扱われているのかを調査し、どのような権利の主張・擁護の方法があり得るのかを考え、自分の考えをアウトプットできるようになることを目的とする。

【到達目標】
1. 国際法規範と憲法に関する理論的枠組みを理解する。
2. 国際人権法に関する多様な各論的トピックについて一次文献を調べ、自らの意見を論理立てて発表する。
3. 以上を踏まえ、多様な国際人権規範を用いた法的主張を組み立てられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
授業は大別して、以下の3つの要素からなります。
1）教科書『国際法と憲法秩序』を用いて、国際法規範を用いた法的主張について、理論的な理解を深める
2）教科書『アクティブラーニング国際人権法』を用いて、さまざまな各論的トピックについてグループ・プレゼンテーション・ディスカッションを行う
3）学期末に期末試験（教科書持ち込み可）を行い、総合的な理解を確認する
毎回の授業では、リアクションペーパーの提出を必須とします。
プレゼンテーションに対するフィードバックは、授業中に口頭で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入（授業の内容と進め方・評価方法に関する説明を含む）	国際人権法の枠組で扱う問題、国際人権法を学ぶ意義や方法を概観する。
2	国際法規範を用いた法的主張 / 国際人権法の基礎知識の確認	教科書『国際法と憲法秩序』を用いて、国際法規範を用いた法的主張の概要を理解する / 教科書『アクティブラーニング国際人権法』序章を用いて、国際人権法の基礎知識を確認する
3	教科書『アクティブラーニング国際人権法』・グループ分け、発表準備（1）	教科書『アクティブラーニング国際人権法』を用いたグループプレゼンテーション、ディスカッションの準備をする
4	教科書『アクティブラーニング国際人権法』・グループ分け、発表準備（2）	前回に引き続き、教科書『アクティブラーニング国際人権法』を用いたグループプレゼンテーション、ディスカッションの準備をする
5	子どもの権利	教科書『アクティブラーニング国際人権法』第1章に基づき、グループプレゼンテーション、ディスカッションを行う
6	高齢者の権利	教科書『アクティブラーニング国際人権法』第2章に基づき、グループプレゼンテーション、ディスカッションを行う
7	障害者の権利	教科書『アクティブラーニング国際人権法』第3章に基づき、グループプレゼンテーション、ディスカッションを行う
8	ジェンダーに基づく暴力とハラスメント	教科書『アクティブラーニング国際人権法』第4章に基づき、グループプレゼンテーション、ディスカッションを行う
9	「慰安婦」問題	教科書『アクティブラーニング国際人権法』第5章に基づき、グループプレゼンテーション、ディスカッションを行う
10	性的マイノリティ / LGBTQの権利	教科書『アクティブラーニング国際人権法』第6章に基づき、グループプレゼンテーション、ディスカッションを行う
11	部落差別問題	教科書『アクティブラーニング国際人権法』第7章に基づき、グループプレゼンテーション、ディスカッションを行う
12	先住民族の権利	教科書『アクティブラーニング国際人権法』第8章に基づき、グループプレゼンテーション、ディスカッションを行う
13	判例研究	国際人権法に関する最新の国内判例を用いてディスカッションを行う
14	期末試験・まとめと解説	期末試験（教科書持ち込み可能）を通じて、総合的な理解を確かめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に教科書を読み、疑問点を整理しておく。プレゼンテーションの際は、教科書で紹介されている文献を中心に、一次資料を調べてしっかりと読み込んでおく。
　本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
松田浩道『国際法と憲法秩序』（東京大学出版会、2020）ISBN978-4-13-036154-5
小坂田裕子ほか編集『アクティブラーニング国際人権法』（法律文化社、2025）ISBN978-4-589-04434-1

【参考書】
教科書に引用されているもののほか、授業のなかで詳しく紹介する。

【成績評価の方法と基準】
リアクション・ペーパー 20%
グループ・プレゼンテーション 40%
期末試験（教科書持ち込み可）40%
リアクション・ペーパーは、「critical thinkingを働かせ、自分の意見を論理的に表現しているか」という観点から、質および枚数の双方を総合考慮する。
グループ・プレゼンテーションは、教科書で紹介された文献を中心に、一次資料を調べ、読み込んでいるか、問いに対して明確に応答しているか、という点を評価対象とする。
期末試験は、授業で学んだことを踏まえ、国際法規範を用いた法的主張をみずから組み立てることができるか、確認する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目

【Outline (in English)】
This module aims to provide participants with basic understanding on international human rights law, including a concept of human rights, international mechanisms for human rights protection. It is expected that participants discuss on contemporary global and international affairs based on a comprehensive understanding on human rights.
Participants are expected, at the end of this module, to be able to;
- understand what human rights are, including their historical and philosophical backgrounds, legal basis and contemporary debate on them;
- understand how and by what international mechanisms in both world and regional levels, human rights are protected and promoted; and
- be involved in a debate on contemporary global and international affairs from a viewpoint of human rights.
Learning outcome of participants will be assessed on the basis of the end-of-term essay, in which a survey on international legal materials provided by the database of the UN human rights institutions, and discuss a human rights issue from a legal point of view.

LAW300AB（法学 / law 300）

国際人権法 II

松田　浩道

授業形式：講義　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際人権法Iに引き続き、国際人権法の歴史や各人権条約の仕組み、それらの国内適用にあたっての憲法上の課題を考えることを通して、基本的人権とは何か、基本的人権を守るためにいかなる制度が用意され、どのように機能し、国内法の下でどのように適用されているのかを理解する。
　それを基礎として、受講者が関心を持つ様々な人権問題が、国際人権法上どのように扱われているのかを調査し、どのような権利の主張・擁護の方法があり得るのかを考え、自分の考えをアウトプットできるようになることを目的とする。

【到達目標】
1. 国際法規範と憲法に関する理論的枠組みを理解する。
2. 国際人権法に関する多様な各論的トピックについて一次文献を調べ、自らの意見を論理立てて発表する。
3. 以上を踏まえ、多様な国際人権規範を用いた法的主張を組み立てられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
授業は大別して、以下の3つの要素からなります。
1）教科書『国際法と憲法秩序』を用いて、国際法規範を用いた法的主張について、理論的な理解を深める
2）教科書『アクティブラーニング国際人権法』を用いて、さまざまな各論的トピックについてグループ・プレゼンテーション・ディスカッションを行う
3）学期末に期末試験（教科書持ち込み可）を行い、総合的な理解を確認する
毎回の授業では、リアクションペーパーの提出を必須とします。
プレゼンテーションに対するフィードバックは、授業中に口頭で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入（授業の内容と進め方・評価方法に関する説明を含む）	国際人権法の枠組で扱う問題、国際人権法を学ぶ意義や方法を概観する
第2回	国際法規範を用いた法的主張 / 国際人権法の基礎知識の確認	教科書『国際法と憲法秩序』を用いて、国際法規範を用いた法的主張の概要を理解する / 教科書『アクティブラーニング国際人権法』序章を用いて、国際人権法の基礎知識を確認する
第3回	教科書『アクティブラーニング国際人権法』・グループ分け、発表準備（1）	教科書『アクティブラーニング国際人権法』を用いたグループプレゼンテーション、ディスカッションの準備をする
第4回	教科書『アクティブラーニング国際人権法』・グループ分け、発表準備（2）	前回に引き続き、教科書『アクティブラーニング国際人権法』を用いたグループプレゼンテーション、ディスカッションの準備をする
第5回	外国人の権利	教科書『アクティブラーニング国際人権法』第9章に基づき、グループプレゼンテーション、ディスカッションを行う
第6回	難民と庇護希望者の権利	教科書『アクティブラーニング国際人権法』第10章に基づき、グループプレゼンテーション、ディスカッションを行う
第7回	ヘイトスピーチ・ヘイトクライム問題	教科書『アクティブラーニング国際人権法』第11章に基づき、グループプレゼンテーション、ディスカッションを行う
第8回	刑事手続の人権	教科書『アクティブラーニング国際人権法』第12章に基づき、グループプレゼンテーション、ディスカッションを行う
第9回	ビジネスと人権	教科書『アクティブラーニング国際人権法』第13章に基づき、グループプレゼンテーション、ディスカッションを行う
第10回	感染症と人権	教科書『アクティブラーニング国際人権法』第14章に基づき、グループプレゼンテーション、ディスカッションを行う
第11回	環境と人権	教科書『アクティブラーニング国際人権法』第15章に基づき、グループプレゼンテーション、ディスカッションを行う
第12回	平和と人権	教科書『アクティブラーニング国際人権法』第16章に基づき、グループプレゼンテーション、ディスカッションを行う
第13回	判例研究	国際人権法に関する最新の国内判例を用いてディスカッションを行う
第14回	期末試験・まとめと解説	期末試験（教科書持ち込み可能）を通じて、総合的な理解を確かめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に教科書を読み、疑問点を整理しておく。プレゼンテーションの際は、教科書で紹介されている文献を中心に、一次資料を調べてしっかりと読み込んでおく。
　本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
松田浩道『国際法と憲法秩序』（東京大学出版会、2020）ISBN978-4-13-036154-5
小坂田裕子ほか編集『アクティブラーニング国際人権法』（法律文化社、2025）ISBN978-4-589-04434-1

【参考書】
教科書に引用されているもののほか、授業のなかで詳しく紹介する。

【成績評価の方法と基準】
リアクション・ペーパー 20%
グループ・プレゼンテーション 40%
期末試験（教科書持ち込み可）40%
リアクション・ペーパーは、「critical thinkingを働かせ、自分の意見を論理的に表現しているか」という観点から、質および枚数の双方を総合考慮する。
グループ・プレゼンテーションは、教科書で紹介された文献を中心に、一次資料を調べ、読み込んでいるか、問いに対して明確に応答しているか、という点を評価対象とする。
期末試験は、授業で学んだことを踏まえ、国際法規範を用いた法的主張をみずから組み立てることができるか、確認する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目

【Outline (in English)】
This module aims to provide participants with basic understanding on international human rights law, including a concept of human rights, international mechanisms for human rights protection. It is expected that participants discuss on contemporary global and international affairs based on a comprehensive understanding on human rights.
Participants are expected, at the end of this module, to be able to;
- understand what human rights are, including their historical and philosophical backgrounds, legal basis and contemporary debate on them;
- understand how and by what international mechanisms in both world and regional levels, human rights are protected and promoted; and
- be involved in a debate on contemporary global and international affairs from a viewpoint of human rights.
Learning outcome of participants will be assessed on the basis of the end-of-term essay, in which a survey on international legal materials provided by the database of the UN human rights institutions, and discuss a human rights issue from a legal point of view.

POL200AC（政治学 / Politics 200）

都市政策

杉崎　和久

授業形式：講義　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政治学科科目の中で「行政・地方自治科目群」に属し、多様な利害と価値観が錯綜する都市において、私たちの活動の基盤となる空間形成を制御するシステムである都市計画法等の諸制度の内容について概観するものである。

【到達目標】
１）都市空間の形成を制御するシステム（制度、プロセス等）を理解できること
２）都市空間の現代的な課題を認識し、成長を前提とした既存システムの抱える課題について考察できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・原則、対面方式で実施する（ただし、授業計画に示した授業回はオンライン方式で行う）。
・授業資料は、授業前日（月曜日中）までに学習支援システムにアップロードする（印刷配布をしない）。
・受講者は、授業終了当日（火曜日）中（締切：23時59分）までに講義課題を提出する（ただし、第１回のみは翌週締切とする）。
・必要に応じて、授業の中で解説を行うことを通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方の説明をしたあと、授業が対象とする都市とは何か、そして都市の成り立ちについて概観する。
第2回	工業化の進展と都市	工業化の進展とともに都市空間の在り方が変化し、また発生する課題への対応により近代都市計画の発生する経緯を概観する。
第3回	商業と都市空間	都市における経済活動が都市空間に与えた影響について概観する。
第4回	都市の住まい	都市住民の生活の器としての住宅が都市形成に与える影響、またセーフティネットとしての住宅を担保する住宅政策について概観する。
第5回	都市の防災	異常な自然現象などによって都市における活動や人名に被害を与える災害への対応などについて概観する。
第6回	都市の環境	私を取り巻く都市の環境問題、それらに対応するについて概観する。
第7回	都市計画概論	国土計画における都市計画、都市計画法の枠踏みを概観する。
第8回	都市の基本計画	都市の将来の姿を共有し、実現にための都市計画の手段を表現した都市計画マスタープランを概観する。
第9回	土地利用規制	都市計画の実現手法の一つである土地利用規制（ゾーニング、地域地区・用途地域、集団規定（建築基準法））について概観する。
第10回	開発許可制度	現在の都市計画法制定の背景となった経済成長期の開発の問題とそれを踏まえた開発許可制度の導入について概観する。
第11回	市街地開発事業	都市空間における面的整備を行う手法である市街地開発事業の種類、また代表的な手法である土地区画整理事業、市街地再開発事業について概観する。
第12回	都市施設	都市生活を支える機能を持つ都市施設、その代表的な施設である道路のあり方について概観する。
第13回	人口減少化の都市計画	人口減少社会における都市再生施策とコンパクトシティについて概観する。
第14回	都市計画の決め方	都市計画決定のプロセスとそれに対する市民参加について概観する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。
・「土地利用に関するレポート」は、自らが生活する地域の土地利用の現状、土地利用規制等を考察するため、資料収集や現地調査が必要となる。

【テキスト（教科書）】
・教科書は使用しない。授業では、スライド資料を使用する。

【参考書】
澤木昌典・嘉名光市　編著「図説 都市計画」（学芸出版社）
https://book.gakugei-pub.co.jp/gakugei-book/9784761528324/

【成績評価の方法と基準】
・評価は、「①授業ごとに出題する課題（14回）」の合計（70％）、「②レポート課題（２回）」の合計点（30％）の合計点で評価する（期末試験は実施しない）。
・なお、①の提出回数が9回未満（全14回のうち）、または②（２回のレポートのいずれか）の未提出がある場合には成績評価をしない（E評価とする）。
■「①授業ごとに出題する課題」の評価（５段階）は下記になる。
５：授業内容を踏まえて、独自に事例や制度の調査を行うなど独自の視点からの意見や考え方が記述されれている。
４：適切な分量を満たし、授業内容を踏まえた内容が記述されている。
３：授業内容を踏まえた内容が記述されていないか、適切な分量をみなしていない。
０：未提出、締切期限以降の提出（＊提出締切時間は厳守すること（締切時間を過ぎたものは理由の如何に関係なく、採点評価しない）。
■「②レポート課題」（２回）について
・出題は、説明用動画を用いて行う、出題時には学習支援システムを通じて連絡をする。
・提出は、学習支援システムを通じて行う。
・評価（５段階）は下記とする。
５：地域特性や回答者の特徴を踏まえるなど、独自の視点からの意見が記述されているなど優れた内容である。
４：レポートの課題主旨ができ、適切な内容である。
３：レポートの課題主旨が理解できていない内容である。
２：指定されたファイル形式以外で提出などの不備がある。または評価不能な内容である。
＊締切日時以降の提出は、いかなる理由があっても受理しない。そのため余裕をもって提出作業をすることが望ましい。

【学生の意見等からの気づき】
背景となる社会事情、実現する都市空間などについて理解を深めるため、具体的な都市における事例解説を行い、それらの解説のための視覚資料等の改善を行いたい。

【学生が準備すべき機器他】
この講義は、基本的には対面方式で実施するが、資料配布、課題提出等に学習支援システムを活用する。また、一部回では、オンデマンド教材で実施する。上記に対応するためのインターネット環境が必要になる。

【その他の重要事項】
受講に関する注意事項については、学習支援システムの冒頭に記載し、第１回授業動画の中で説明するので必ず視聴すること（動画のリンク先は、学習支援システムで連絡するので、必ず仮登録をすること）。
複数の地方自治体の現場において、行政と地域住民をつなぐまちづくりコーディネーターとして勤務経験を有する教員が地域での実践事例を交えながら、都市の空間制御に関する仕組みについて講義する。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
In this lecture, we overview the system to control the space in the city.
【到達目標（Learning Objectives）】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
A.Understanding the system that controls the formation of urban space
B.Recognizing the contemporary problems of urban space
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Your required study time is at least two hours for each class meeting.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Grading will be decided based on Mid-term report (30%), and reports at each class(70%).

POL200AC（政治学 / Politics 200）

まちづくり論

杉崎　和久

授業形式：講義　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政治学科科目の中で「行政・地方自治科目群」に属し、地域の課題解決や資源を活用した価値創造を目的とした地域住民、企業、行政等による取り組み（まちづくり）を対象とする。特に近講義では、地域住民等が主体的に関わる取り組みを中心として、各テーマごとに背景、関連する制度、具体的な取り組みなどを概観するものである。

【到達目標】
1）都市において表出している課題の存在とその背景となる構造を認識できること
2）まちづくりが多様な主体の協働によって行われることを理解し、各主体の役割について理解できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・原則、対面方式で実施する（ただし、授業計画に示した授業回はオンライン方式で行う）。
・授業資料は、授業前日（月曜日中）までに学習支援システムにアップロードする（印刷配布をしない）。
・受講者は、授業終了当日（火曜日）中（締切：23時59分）までに講義課題を提出する（ただし、第1回のみは翌週締切とする）。
・必要に応じて、授業の中で解説を行うことを通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本授業が対象とする「まちづくり」とは何かについて問題提起する。
第2回	地域防災	想定されている災害に備えた地域社会の取り組み等について理解する。
第3回	ユニバーサルデザイン・バリアフリー	多様な主体の社会参加を担保する都市空間のあり方を理解する。
第4回	地域福祉	人口減少、少子・高齢化が進行する中で安心して生活できる社会をつくるために地域社会で取り組み取り組みについて理解する。
第5回	都市のモビリティ	高齢社会における都市空間の移動の課題とその対応について理解する
第6回	公共施設マネジメント	人口減少、超高齢社会を進行し、かつ成長期に作られた公共施設が老朽化した中での公共施設のあり方、それへの対応について理解する。
第7回	ミクロの都市計画	地域環境の課題解決や価値の創造のために行う土地利用規制や施設整備などの都市計画（地区計画等）の仕組みを理解する。
第8回	都市における建物ストックの活用	人口減少等に伴う発生している空き家や空き店舗などの建物ストックの増加を予防したり、地域のために活用したりする取り組みを理解する。
第9回	郊外住宅地の再生	人口増加期に都市周辺に拡大した郊外住宅地の課題やそれに対する取り組みについて理解する。
第10回	歴史的町並みの保存・再生	歴史的価値を持つ街並みや集落を継承し、活用していく取組について理解する。
第11回	景観形成とまちづくり	都市の魅力を高める街並みづくり、景観形成について理解する。
第12回	観光施策と都市	都市における経済効果が期待される観光の取組とそれによる都市への影響について理解する。
第13回	公共空間の利活用	まちなかの賑わい創出等を目的とした公共空間利活用に関する取り組みについて理解する。
第14回	地域を運営する仕組み	社会状況の変化、施設の老朽化等に伴う、公共施設の在り方の変化について理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。
・「地域課題に関するレポート」は、自らが生活する地域の土地利用の現状、課題に関する考察をするため、資料収集や現地調査が必要となる。

【テキスト（教科書）】
・教科書は使用しない。授業では、スライド資料を使用する。

【参考書】
澤木昌典・嘉名光市　編著「図説 都市計画」（学芸出版社）
伊藤雅春・小林郁雄・澤田雅浩・野澤千絵・真野洋介・山本俊哉 編著「都市計画とまちづくりがわかる本　第二版」（彰国社）

【成績評価の方法と基準】
「②レポート課題（2回）」の合計点（30 %）の合計点で評価する（期末試験は実施しない）。
・なお、①の提出回数が 9 回未満（全 14 回のうち）、または②（2回のレポートのいずれか）の未提出がある場合には成績評価をしない（E評価とする）。
■「①授業ごとに出題する課題」の評価（5段階）は下記になる。
5：授業内容を踏まえて、独自に事例や制度の調査を行うなど独自の視点からの意見や考え方が記述されれている。
4：適切な分量を満たし、授業内容を踏まえた内容が記述されている。
3：授業内容を踏まえた内容が記述されていないか、適切な分量をみなしていない。
0：未提出、締切期限以降の提出（＊提出締切時間は厳守すること、締切時間を過ぎたものは理由の如何に関係なく、採点評価しない）。
■「②レポート課題」（2回）について
・出題は、説明用動画を用いて行う、出題時には学習支援システムを通じて連絡をする。
・提出は、学習支援システムを通じて行う。
・評価（5段階）は下記とする。
5：地域特性や回答者の特徴を踏まえるなど、独自の視点からの意見が記述されているなど優れた内容である。
4：レポートの課題主旨ができ、適切な内容である。
3：レポートの課題主旨が理解できていない内容である。
2：指定されたファイル形式以外で提出などの不備がある。または評価不能な内容である。
＊締切日時以降の提出は、いかなる理由があっても受理しない。そのため余裕をもって提出作業をすることが望ましい。

【学生の意見等からの気づき】
背景となる社会事情、実現する都市空間などについて理解を深める視覚資料
等の改善を行いたい。

【学生が準備すべき機器他】
この講義は、基本的には対面方式で実施するが、資料配布、課題提出等に学習支援システムを活用する。また、一部回では、オンデマンド教材で実施する。上記に対応するためのインターネット環境が必要になる。

【その他の重要事項】
・春学期の「都市政策」を受講している前提で講義を進める（ただし「都市政策」は未受講でも履修は認める）。
・受講に関する注意事項については、学習支援システムの冒頭に記載し、第１回授業動画の中で説明するので必ず視聴すること。
・授業担当者は、複数の地方自治体の現場において、行政と地域住民をつなぐまちづくりコーディネーターとして勤務経験を有する教員が地域での実践事例を交えながら、都市の空間制御に関する仕組みについて講義する。

【Outline (in English)】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
A.Understanding the existence of challenges in cities and the structures that contribute to them.
B.Understand that machizukuri is carried out through the collaboration of a variety of actors, and be able to understand the role of each actor.

POL200AD（政治学 / Politics 200）

国際協力講座

木内　真理子

授業形式：講義　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講座は、現実の国際協力実務に携わるプロフェッショナルによるオムニバス形式の講義をとおして、国際協力のさまざまな取り組みの現状と課題を学習・理解することを目的とする。これにより、将来、地球共生社会の実現を目指して国際協力の世界で活躍する人材の育成も目的とする。

【到達目標】
・国際協力分野に携わる様々なアクターによる政策や活動について、また、アクター間の連携について知識を深める。
・国際協力分野の実態と課題について知る。
・国際協力分野における課題に気づき、自分なりの意見を持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP4」に強く関連。「DP3」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
ゲストスピーカーによる講義と学生からの質疑応答で授業を構成する。授業後には講義への理解度を確認するため、支援システムを通じて毎回課題の提出を求める。
ゲストスピーカーの予定によってシラバスに変更が生じる場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	国際協力の形態と種類	国際協力の意義、形態と種類
第2回	国際協力の世界的潮流	開発協力専門家による講義と質疑応答
第3回	持続可能な開発のための2030アジェンダとSustainable Development Goals (SDGs)	開発援助専門家による講義と質疑応答
第4回	日本の国際協力：開発協力大綱と日本の政府開発援助（ODA）	ODAの実務家による講義と質疑応答
第5回	国際協力機構(JICA)の役割、活動と課題	JICA職員による講義と質疑応答
第6回	国際協力機構(JICA)の役割、活動と課題	JICA職員による講義と質疑応答
第7回	国際機関の役割、活動と課題	国際機関職員による講義と質疑応答
第8回	国際協力における開発コンサルタントの役割、活動と課題	開発コンサルタントによる講義と質疑応答
第9回	国際協力における市民社会団体・NGOの役割、活動と課題	NGOの職員による講義と質疑応答
第10回	国際協力における市民社会団体・NGOの役割、活動と課題	NGOの職員による講義と質疑応答
第11回	国際協力における民間企業の役割、活動と課題	民間企業による講義と質疑応答
第12回	国際協力とメディア	報道機関の職員による講義と質疑応答
第13回	国際協力におけるアクター間の連携について	連携推進機関の職員による講義と質疑応答
第14回	まとめ	復習と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。レジュメ、資料を適宜Hoppii上で配布する。

【参考書】
・山田満ほか編著『新しい国際協力論―グローバル・イシューに立ち向かう』（第3版）明石書店、2023年
・紀谷昌彦、山形辰史『私たちが国際協力する理由 人道と国益の向こう側』日本評論社、2019年
・南博、稲場雅紀『SDGs 危機の時代の羅針盤』岩波新書、2020年
・蟹江憲史『SDGs（持続可能な開発目標）』中公新書、2020年
・勝間靖（編）『持続可能な地球社会をめざして わたしのSDGsへの取組み』国際書院、2018年
・下村恭民・辻一人・稲田十一・深川由起子『国際協力 その新しい潮流 第３版』有斐閣選書、2016年
・浅沼信爾・小浜裕久『ODAの終焉』勁草書房、2017年
・Yasutami Shimomura, John Page, Hiroshi Kato (eds.), Japan's Development Assistance: Foreign Aid and the Post-2015 Agenda, Palgrave Macmillan, 2016
・Michael P. Todaro and Stephen C. Smith, Economic Development Thirteenth Edition, Pearson, 2020.

【成績評価の方法と基準】
質疑応答への積極的な参加などの平常点（30%）、課題の提出状況と内容（70%）から総合的に判断する。
＊遅刻は20分まで。それ以降の入室は欠席と見なす。
＊4 回以上課題未提出の場合は単位の授与はない。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
担当教員は、政府開発援助(ODA)とNGOの双方で開発支援事業を、NGOでは組織経営を経験した実務者です。これらの現場経験を踏まえて講義を進めます。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞開発経済学、開発社会学、国際協力、NPO/NGOマネジメント

【Outline (in English)】
This course will examine the various approaches, forms, and actors of international cooperation in different fields. Different lecturers who are involved in international cooperation from the Japanese government, international organizations, NGOs, and the private sector will give lectures on the activities that they are undertaking and hold discussions with the students. Through these lectures and discussions, the students will deepen their understanding on the broad range of international cooperation activities and issues involved.

POL300AD（政治学 / Politics 300）

国際機構論 I

本多　美樹

授業形式：講義　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では、国際政治学や国際関係論、あるいは国際法についての基本的な知識を活用しながら、国際社会が組織化したプロセスを検討することによって、現代の国際社会の姿をより正確に理解することを目的とする。国連およびその他の国際組織が、国際社会の秩序を維持・回復するためにどのような工夫を凝らして機能してきたのかについて、また、どのような課題に直面しているのかについて、理論と実践例から検討する。

【到達目標】
①時代とともに変容してきた国際機構の役割・機能について理解できるようになる。
②国際連合による国際の平和と安全維持への活動と課題について、理論と実践例から理解できるようになる。
③地球規模の問題を解決するために協働して取り組む多様なアクター（国家、地域・国際機関、市民社会など）について理解できるようになる。
④国際社会が直面する問題についての問題意識を明確にし、自分なりの意見を持つことができようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式で進めるが、議論の場ももつ。毎回授業後に課題の提出を求める。課題に対するコメントは個別にフィードバックするとともに、質問については、次の授業の冒頭に全体に向けて質問内容を共有しながら回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	国際機構論をどのように学ぶのか？
2	国際機構とは？	国際機構小史
3	近代国際秩序の形成と国際機構の萌芽①	国際機構の創設と国家の関係
4	近代国際秩序の形成と国際機構の萌芽②	「共通利益」認識の出現
5	国際連盟と国際連合①	国際連盟設立の経緯・役割・機能
6	国際連盟と国際連合②	国際連合設立の経緯・役割・機能
7	現代の国際社会における国際機構	グローバル・ガバナンスと国際機構
8	国際機構の活動①	同盟と集団安全保障
9	国際機構の活動②	平和への活動
10	国際機構の活動③	植民地独立と開発援助
11	国際機構の活動④	福祉と人権
12	国際機構の活動⑤	国際機構と法
13	変容する国際秩序と国際機構	国際機構の限界と問題点、課題
14	国際機構と国際機構論の課題	まとめ、試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業に出席する前にテキストの関連箇所を熟読し、授業後には復習をすること。また、関心を持ったトピックについては、各自で調べ学習をして理解を深めること。授業の予習・復習時間は各2時間程度を目安とする。

【テキスト（教科書）】
山田哲也『国際機構論入門』第2版（東京大学出版会、2023年）

【参考書】
石田淳ほか編著『国際平和論：脅威の認識と対応の模索』（有斐閣、2024年）
山田満ほか編著『新しい国際協力論：グローバル・イシューに立ち向かう』第3版（明石書店、2023年）
その他、授業内で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
各回授業後に提出する課題40％、期末試験60％のウェイトで成績評価を行う。「聴いて、書いて、考える」姿勢で授業に臨むこと。
なお、毎回、出席と課題の提出をはセットとして評価する。授業開始20分以降の入室は欠席とみなす。また、欠席した学生による課題の提出は認めない。4回以上欠席した学生（つまり4回以上課題の未提出者）は期末試験を受ける資格を失う。よって単位の授与はないので気を付けること。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム上で配布する資料にアクセスしておくこと。

【その他の重要事項】
「国際機構論II」は2027年度秋学期に開講予定。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際関係論、国際機構論、安全保障研究、国連研究
＜研究テーマ＞
国際社会による「平和」のための協働と確執、アジア太平洋地域の伝統的・非伝統的安全保障
＜主要研究業績＞
最近の主な著書として、「『ルールに基づく国際秩序』の妥当性：修正か強化か？」『グローバル・ガバナンス』第11号（2025年3月）、『国際平和論』（有斐閣、2024年）、「主権国家体制と国連：グローバル化の潮流の中で」『国連研究』第25号（2024年6月）、『新しい国際協力論―グローバル・イシューに立ち向かう』（明石書店、2023年）、『「非伝統的安全保障」によるアジアの平和構築』（明石書店、2021年）、「国連による『スマート・サンクション』と金融制裁」『国連の金融制裁』（東信堂、2018年）、Peacebuiding in Southeast Asia (Springer, 2024), COVID-19 and Atrocity Prevention in East Asia (Routledge, 2023)," United Nations Financial Sanctions (Routledge, 2020) などがある。執筆した主な教科書として、『入門国際政治経済学』（法律文化社、2026年）、『国際機構論　活動編』（国際書院、2020年）、『国際機構論　総合編』（国際書院、2015年）などがある。

【Outline (in English)】
This course aims to foster a deeper understanding of the contemporary international community. It examines the historical and institutional processes through which the international community has been formed and organized, drawing on fundamental knowledge of international politics, international relations, and international law.
And this course examines how the United Nations and other international organizations have functioned in maintaining and restoring order in the international community, using both theoretical perspectives and practical examples. It also analyzes the contemporary challenges faced by these organizations.

POL200AC（政治学 / Politics 200）

協同組合論

杉崎　和久、上山　紀子、小林　幸治

授業形式：講義　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政治学科科目の中で「政策」の分野に属する科目である。
一人ひとりが尊重され、生き活きと暮らし続ける社会を実現していくため、協同組合やNPO等の非営利市民事業による様々な取り組みが行なわれています。グローバリズムが加速する中で、貧困・格差の是正や仕事の創出等に関する協同組合の貢献は国際的に評価されており、国連は2012年を「国際協同組合年」として2013年に社会的連帯経済タスクフォースを立ち上げ、さらに2025年を2回目の「国際協同組合年」とし、2025年12月15日の国連総会で10年ごとに国際協同組合年（IYC）を設けることが決議されました。
一方、日本では人口が減少し、超高齢社会に突入し、少子化と労働者人口が減少する中、経済ばかりでなく社会システムの停滞・行き詰まりが表面化しています。こうした問題に市場や政府・行政だけでは十分に対応できない状況下においても、諸外国のように生協等の協同組合による実践の価値や可能性が広く認識されているとはいえません。このような中で2020年12月「労働者協同組合法」が成立し、協同組合運動は新しい段階を迎えています。なぜ今、「非営利・協同」の運動と事業に期待が寄せられているのか、もう一つの世界は可能か―協同組合と社会的連帯経済、つながりの再構築・拡大・強化の実践、といった点を本講座の中心テーマとし、協同組合あるいは非営利市民事業の歴史的・社会的背景、現状、そして今後の展望や可能性について、第一線の研究者および実践者による講義を行います。
講座のポイントとして、「協同組合・生協」と「生活クラブ（運動）」の理解と共感を育み、生活クラブがすすめてきた各種事業活動の紹介を通じて伝えます。特に、協同組合の歴史的経緯、国連・諸外国等の動向や制度、組織・仕組等をはじめ、生活クラブ生協・東京を中心にした生活クラブ運動グループの取組みを、「協同」、「共同」、「協働」の視点から多くの組合員や市民、生産者、関連団体、地域、自治体などと連携・協力のもとにすすめている点などをふまえた内容とします。

【到達目標】
①　世界における協同組合および社会的企業の歴史・沿革を踏まえ、日本における活動状況や今日的な意義や課題について知ること。
②　非営利市民事業及び協同組合が展開する事業・活動が、市民生活に及ぼす役割について知ること。
③　協同組合をはじめ非営利市民事業の今後の展望や可能性等について考えることなどを通じて、生活者・市民が主体者である新しい公共政策の理論と実践について考える基礎力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は原則「対面」で行う予定であるが、講師等の都合によりオンデマンド教材などを併用することがある。
この講座では、①世界の協同組合をはじめとした非営利・協同セクターが切り開いてきた歴史を学ぶとともに、②生協を中心にした日本の協同組合やNPO等の非営利市民事業の活動を広く検証し、③協同組合やNPO等を中心とする非営利・協同セクターが今日の日本の地域の課題解決にどのような可能性を持っているか、④生活者・市民が主体者である公共政策をどのように実践し、担っていくのか、など協同組合・非営利市民事業の現代的意義について、テーマ毎にゲストスピーカーによる実践報告を交えながら検討する。
授業中に授業内容に関するコメントを提出する。なお、小レポート等から提出された質問等について、学習支援システムを通じて、適宜回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス及び協同組合の動向	協同組合の歴史的経緯、国連・諸外国等の動向、国内の協同組合や生活クラブ及び運動グループによる運動・取組み（FEC-W、ローカルSDGｓ、など）、社会的連帯経済や国際協同組合年の国内での動向などの概要を紹介し、次回以降の講座の道しるべとします。
第2回	非営利活動と協同組合	協同組合法制の概要、NPO法（組織）をはじめとする非営利組織や労働者協同組合の制度や組織、諸外国との違いなどを中心にして「協同」の理念や政策・制度の動向などを紹介します.
第3回	生活クラブの消費材（づくり）と共同購入	生活クラブの運動と事業の根幹をなす「F（フード）自給への挑戦」の取組みの背景（食を取り巻く課題）と現在を、組合員参加のもとにすすめる「消費材づくり」と「共同購入」の仕組みなどを中心に紹介します。
第4回	地球と身体にやさしい食～私の食が世界・地球をつくる～	日本の協同組合が日本の食文化を守り伝えていくことに果たした役割は大きく、日本の風土に沿った食のあり方や添加物などの問題をとおした生活提案やまちづくりの取組み、協同組合の役割などを紹介します。
第5回	協同（共同）でつなぐ都市農業・福祉・教育	生活クラブは、都市農業の保全、育成、強化を柱の一つとしてきました。2016年度から開始しました、「生活クラブ農園・あきるの野」の実践の意義や成果、都市農業が抱える課題などを紹介します。
第6回	協同でつくるエネルギー ～エネルギー共同購入の試み	気候危機が地球規模での課題となっていますが、日本の施策は大幅に遅れています。「再生可能エネルギー」の開発と供給の実践、発電施設地域との交流と社会貢献など、生活クラブのエネルギー自給の取組みや課題、今後の展望などを紹介します。
第7回	協同（共同）ですすめる地域福祉	協同組合型の市民事業として、地域福祉の推進と地域社会づくりをめざす、アビリティクラブたすけあい（ACT）の活動を中心に、誰もが尊厳をもって、住み慣れた地域で暮らしつづけるための、課題を共有します。また、市民版地域福祉計画を作る中で、地域の仕組みの確立をめざす取り組みなどを紹介します。

第8回	協同組合と子育て支援	平岡晴子 生活クラブ社会的連帯経済コネクト機構 ・・・・ ・・・ワーカーズまちの縁がわ・・・・ 「個人化」時代の中、生活クラブ及び生活クラブ運動グループが取組む地域活動として、子どもを中心にした多世代の「居場所づくり」と福祉事業・活動とのつながり、その促進のための助成のしくみ、実践事例などを紹介します。
第9回	協同（共同）でつくる地域の場づくり	次の時代を担う人を育む子育て支援事業は、サステイナブルな社会を目指す取組みとの一つです。「子育ち・子育て」の取組などをとおして次世代・将来世代の子どもたちやその家族を社会がどのように支えるのかなど、生活クラブ保育園ぽむと子育て広場ぶらんこの実践などを紹介します。
第10回	ワーカーズ・コレクティブと労働者協同組合「協同労働」の実践	地域の社会的なニーズに対応して、市民相互の助け合い・支えあいを基本にした様々な事業活動を展開するワーカーズ・コレクティブとは何か、その働き方や実践事例などを紹介します。
第11回	「協同労働」とコミュニティワーク	人々が大事にされる働き方（ディーセントワーク）とデポーワーカーズなどによるコミュニティワークの実践の社会的な意義を紹介し、地域で働く地域（まち）づくりの担い手の取組みや働き方、共同・協同の仕組みなどを紹介します。
第12回	市民・組合員のお金の使い道・使い方	「草の根市民基金・ぐらん」など、資金助成による市民活動への支援や資金循環の流れや協同組合の役割などや「中間支援」の取組みによる地域社会づくり・市民セクターの強化の必要性などを紹介します。
第13回	協同の力で自治体政策をつくり・変える	地域づくりのためには自治体政策への関与、自治体との関係づくりが必要です。生活クラブ運動グループ政策担当、政策委員会、東京政策推進会議などの取組みから、地域づくりに必要な自治体政策づくりとその実現に向けた活動（政策提案運動）、「市民政治」活動の必要性、自治体議会への参加の取組みなどを紹介します。
第14回	協同組合で働く	講座全体の振り返りを通じて、非営利・協同組合（セクター）の今日的なミッションと意義につて理解を深めます。また、そのミッションへの取組みとして、生活クラブが多様な働き方を推し進める可能性を紹介しまとめとする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予定されたテーマについて自分なりに調べてみてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。配布資料は、授業前日までに学習支援システムにアップロードしますので、各自対応してください。

【参考書】
適宜、案内します。

【成績評価の方法と基準】
・評価は、「①授業ごとに出題する課題（14回）」の合計（84%）、「②レポート課題」（16%）の合計点で評価する（期末試験は実施しない）。
・なお、①の提出回数が9回未満（全14回のうち）、または②が未提出である場合には成績評価をしない（E評価とする）。
・①は各回講義の最後に講義内容に関するコメントをリアクションペーパーに記入し提出する。
・なお、小レポートの評価は下記とする。
A：授業内容を踏まえて、独自の視点からの意見や考え方が記述されれている。
B：適切な分量（リアクションペーパーの７割以上）を満たし、授業内容を踏まえた内容が記述されている。
C：授業内容を踏まえた内容が記述されていないか、適切な分量をみなしていない。
D：未記入
なお、授業時間外に提出した場合には理由の如何に関係なく、受理しない。

【学生の意見等からの気づき】
学生からの質問へは、なるべく早く対応したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
講師によって、パワーポイント、映像を活用します。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
This lecture will learn about the history, current situation, future prospects and possibilities of cooperatives or nonprofit projects.
【到達目標（Learning Objectives）】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
A.Learning about the status of activities in Japan and its significance and issues today, based on history of cooperatives and social enterprises around the world.
B.Recognizing the contemporary problems of urban space
C.Acquiring the basic ability to think about the theory and practice of new public policy in which consumers and citizens are the main actors.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Your required study time is at least two hours for each class meeting.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Grading will be decided based on reports at each class.

HIS200BE（史学 / History 200）

東洋史特講IV

塩沢　裕仁

授業コード：A3165　｜　曜日・時限：木3/Thu.3
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　東アジアの考古・美術・建築に対する研究の現状と課題の理解を目指します。
　近年増大する考古学の成果などを用い、ビジュアルな面から時間的・空間的に地域相をとらえることで、東アジアの考古・美術・建築に対する研究の現状と課題などが理解できるようになります。

【到達目標】
　高度な技術を生み出してきた東アジアの物質文化に対して、これまでとは違った見方、考え方、接し方、ひいては新たな認識をもつことができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　文化財の保護を主題とし、洛陽、西安、北京、南京、開封の都市文化を軸に講じていきます。
　中国三千年王朝史の9割にもおよぶ期間都が置かれてきた洛陽、西安、北京は、まさしく東アジアの文化の中心であり、そこに営まれた歴史、文化を理解することで、日本文化の淵源を理解することもできます。また、古代の都城が抱えた生活環境問題などを考えることで、今日の都市問題への問題提起を考えることができます。
　青銅器や陶磁器といった工芸資料にとどまらず石窟芸術や宮殿・陵墓建築などの考古・美術的な価値についても考えてみたいと思います。
　課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	長安の都市と陵墓	長安の都市圏と皇帝陵墓
第2回	洛陽の都市と陵墓	洛陽が有する都市空間
第3回	漢の諸文化	馬王堆漢墓
第4回	後漢三国・北朝の都城	許昌と鄴都
第5回	六朝の都城	六朝の都城建康と貴族文化
第6回	遊牧都市文化	フフホト・盛楽・大同・洛陽の遺構と出土遺物
第7回	仏教文化1	西域・敦煌・麦積山石窟
第8回	仏教文化2	雲崗・龍門石窟
第9回	隋唐の長安	隋唐の都城長安と隋唐陵墓
第10回	隋唐の洛陽	煬帝・武則天の都城洛陽
第11回	法門寺出土遺物	唐代の金属工芸技術
第12回	青磁と曜変天目	越窯・汝窯・釣窯・建窯
第13回	白磁	定窯と景徳鎮窯
第14回	漆器	茶文化と漆器

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　ほとんどの学生が当授業の内容に対しては初心者であると思います。講義の内容をよりよく理解するため、歴史事項だけでなく地理情報などの理解も必要です。あらかじめキーワードを授業内で示しますので、参考書等で確認しておくようにしてください。
　また、東京国立博物館東洋館、根津美術館、出光美術館などを自主的に参観し、東アジアの考古・美術に関する知識を増大させてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
　特定の教科書は使用しません。

【参考書】
　授業の進行に合わせ適宜紹介しますが、写真や図版が多用されておりますので『ビジュアル版世界の歴史5、中国文明の成立』（松丸道雄・永田英正、講談社、1985年）『ビジュアル版世界の歴史8、東アジアの世界帝国』（尾形勇、講談社、1985年）『ビジュアル版世界の歴史11、東アジアの変貌』（小山正明、講談社、1985年）には目を通しておいてもらいたいと思います。

【成績評価の方法と基準】
　期末試験100％。
　授業内で重点的な課題を提示します。試験では、それらを踏まえて自らの考えを示せるよう、平素より講義内容をまとめておくようにしてください。

【学生の意見等からの気づき】
　当授業の内容を将来に生かすため、博物館のほか百貨店や骨董店など身近なところで東アジアの物質文化に触れる機会を増やしてください。

【Outline (in English)】
【Course outline and Learning Objectives】On grasping the time and space area characteristic in visual aspect with increased archaeological data in China,we will be able to understand the study situation and issues on the Chinese Archaeology, Art and Architecture.
【Learning activities outside of classroom】Need two hours in a day.
【Grading Criteria /Policy】Based on written test 100 percent.

HIS200BE（史学 / History 200）

東洋考古・美術史

塩沢　裕仁

授業コード：A3209　｜　曜日・時限：木3/Thu.3
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　東アジアの考古・美術・建築に対する研究の現状と課題の理解を目指します。
　近年増大する考古学の成果などを用い、ビジュアルな面から時間的・空間的に地域相をとらえることで、東アジアの考古・美術・建築に対する研究の現状と課題などが理解できるようになります。

【到達目標】
　高度な技術を生み出してきた東アジアの物質文化に対して、これまでとは違った見方、考え方、接し方、ひいては新たな認識をもつことができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　文化財の保護を主題とし、洛陽、西安、北京、南京、開封の都市文化を軸に講じていきます。
　中国三千年王朝史の9割にもおよぶ期間都が置かれてきた洛陽、西安、北京は、まさしく東アジアの文化の中心であり、そこに営まれた歴史、文化を理解することで、日本文化の淵源を理解することもできます。また、古代の都城が抱えた生活環境問題などを考えることで、今日の都市問題への問題提起を考えることができます。
　青銅器や陶磁器といった工芸資料にとどまらず石窟芸術や宮殿・陵墓建築などの考古・美術的な価値についても考えてみたいと思います。
　課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	中国考古学の現状
第2回	新石器時代の聚落遺跡と出土遺物1	仰韶文化と彩陶
第3回	新石器時代の聚落遺跡と出土遺物2	竜山文化と灰陶、黒陶
第4回	文明多元論	河母渡・大地湾・夏家店・良渚・陶寺・石峁遺跡
第5回	中国王朝の曙	二里頭遺址と出土遺物
第6回	殷王朝の文化1	偃師商城・鄭州商城遺址と出土遺物
第7回	殷王朝の文化2	殷墟の甲骨と青銅器
第8回	周王朝の文化1	周原の遺跡と出土遺物
第9回	周王朝の文化2	東周洛陽の遺跡と出土遺物
第10回	春秋戦国の文化1	曾公乙墓と出土遺物
第11回	春秋戦国の文化2	曲阜孔廟と関連遺産
第12回	四川独自の文化	三星堆の遺構と出土遺物
第13回	秦初期の文化	天水・雍城の遺構と出土遺物
第14回	始皇帝の理想とその文化	始皇帝陵と兵馬俑

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　ほとんどの学生が当授業の内容に対しては初心者であると思います。講義の内容をよりよく理解するため、歴史事項だけでなく地理情報などの理解も必要です。あらかじめキーワードを授業内で示しますので、参考書等で確認しておくようにしてください。
　また、東京国立博物館東洋館、根津美術館、出光美術館などを自主的に参観し、東アジアの考古・美術に関する知識を増大させてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
　特定の教科書は使用しません。

【参考書】
　授業の進行に合わせ適宜紹介しますが、写真や図版が多用されておりますので『ビジュアル版世界の歴史5、中国文明の成立』（松丸道雄・永田英正、講談社、1985年）『ビジュアル版世界の歴史8、東アジアの世界帝国』（尾形勇、講談社、1985年）『ビジュアル版世界の歴史11、東アジアの変貌』（小山正明、講談社、1985年）などには目を通しておいてもらいたいと思います。

【成績評価の方法と基準】
　期末試験100％。
　授業内で重点的な課題を提示します。試験では、それらを踏まえて自らの考えを示せるよう、平素より講義内容をまとめておくようにしてください。

【学生の意見等からの気づき】
　当授業の内容を将来に生かすため、博物館のほか百貨店や骨董店など身近なところで東アジアの物質文化に触れる機会を増やしてください。

【Outline (in English)】
【Course outline and Learning Objectives】On grasping the time and space area characteristic in visual aspect with increased archaeological datas in China,we will be able to understand the study situation and issues on the Chinese Archaeology, Art and Architecture.
【Learning activities outside of classroom】Need two hours in a day.
【Grading Criteria /Policy】Based on written test 100 percent.

CMF100LJ（その他の複合領域 / Complex systems(Others) 100）

カーボンニュートラル推進リーダー育成講座（入門）

三田地　真実

開講時期：オータムセッション/Autumn Session　｜　単位数：2単位
曜日・時限：集中・その他　｜　キャンパス：市ヶ谷
備考（履修条件等）：

その他属性：〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　カーボンニュートラルを達成するために、地球規模で起きている環境・社会問題への理解を深める。授業では、カーボンニュートラルを推進している企業や自治体、本学キャンパスの施設見学など、実際の取り組みを知るためのフィールドワークを行い、多様な現場での実践例に触れて学びを広げる。各回の後半にはグループワークの時間を設け、訪問先に対して学生の視点から、カーボンニュートラル推進に向けた提案を行う。こうした活動を通じて、問題解決の場で必要となる話し合いの技術であるファシリテーションを実践的に学びながら、カーボンニュートラルを推進できるリーダーを育成する。

【到達目標】
１．コンテンツ（学習内容）のゴール：
　カーボンニュートラルを達成するために、地球規模の環境・社会問題の構造の理解を深め、
　身近なところからアクションを起こすことができる。
２．プロセス（学習過程）のゴール：
　環境・社会問題を解決していくための話し合いの技術（ファシリテーション）を学び、
　他の課題解決に対しても応用できる（毎回、ファシリテーションミニ講座を設定）。
３．最終課題：
　法政大学に対し、チームでカーボンニュートラルに関する取組の具体的な提案を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
大学ディプロマポリシーのうち「法政DP-Ⅳ」「法政DP-V」「法政DP-Ⅵ」「法政DP-VII」に関連。
大学ディプロマポリシーの詳細はこちら。
https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
毎回の授業の基本的な内容は、下記のとおり。
①　ゲストスピーカー（CNに取り組んでいる企業、自治体、及び本学教職員）による講義
②　フィールドワーク（企業及び本学の施設見学等）
③　①②を踏まえたグループワーク
最終回の授業では、法政大学に対してカーボンニュートラルに関する取組の提案をチームでプレゼンテーションする。本学教職員が審査員としての講評を行う。
毎回の授業終了後には各自で記入するリアクションペーパーを課し、提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
プレ講座（40分）	ガイダンス	9月5日（土）10：30〜12：10（予定） 授業全体のオリエンテーション 目的・進め方・内容等の説明 CNについての紹介動画視聴など
第１回〜第3回	取組紹介（１） 法政大学の取組（小金井） 研究紹介	9月11日（金）　小金井キャンパス 13：00〜17：30（予定） １）Think Globallyの視点から 澤柿教伸 先生 （本学業務執行理事、社会学部教授） ・診断医としての南極観測隊 ・人新世におこる南極の異変 ・イノベーションを起こすとき ２）Act Locally（その１） 本学のCN推進の取り組み全体像 岡本吉史先生 （理工学部教授、カーボンニュートラル推進センター副センター長） ・カーボンニュートラル推進センター の活動内容 渡邊雄二郎先生 （生命科学部教授、カーボンニュートラル推進センター運営委員、人材育成チームリーダー、カーボンニュートラル授業運営委員会委員長） ・鉱物によるCO2固定・回収の紹介 ・二酸化炭素濃度の測定の紹介 小金井キャンパスの施設見学 グループワーク
第４回〜第6回	取組紹介（２） 法政大学の取組（市ヶ谷） 千代田区の取組	9月12日（土）　市ヶ谷キャンパス 13：00〜17：30（予定） １）Act Locally（その２） 組織としての本学のCN推進の取り組み 法政大学施設保全部（カーボンニュートラル推進センター脱炭素化推進チーム） ・市ヶ谷キャンパスのバックヤード などの施設見学 ２）Act Locally（その３） 千代田区役所 ・市ヶ谷キャンパスの所在地である 千代田区の取り組み紹介 グループワーク
第７回〜第9回	取組紹介（３） 積水ハウスの取組	9月14日（月） 積水ハウス　エコファーストパーク等（茨城県古河市） 10：30〜17：00（予定） 積水ハウス ・積水ハウスの取り組み紹介 ・施設見学 グループワーク

第10回～	取組紹介（４）	9月15日（火）
第11回	東京ガスの取組	東京ガス　扇島LNG基地（神奈川県横浜市） 13：00～17：00（予定） 東京ガスエンジニアリングソリューションズ ・東京ガスの取り組み紹介 ・施設見学 グループワーク
第12回～	取組紹介（５）	9月17日（木）　多摩キャンパス
第14回	法政大学の取組（多摩） 授業全体のまとめ	10：30～17：30（予定） 池田寛二先生（名誉教授、元社会学部教授） 鞠子茂先生（社会学部教授） ・多摩キャンパスの森林から　カーボン・ニュートラルを考えよう ・多摩キャンパス森林・施設見学 グループ発表準備 法政大学への提言（グループ発表） 授業全体の省察

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の予習時間・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキスト（教科書）は使用しない。

【参考書】
■カーボンニュートラル関連の参考図書等は以下の通り。（(※）は全文ダウンロード可）
野村総合研究所編（2022）カーボンニュートラル、日経文庫
法政大学多摩環境委員会（2014）多摩キャンパス：自然と生物（※）
https://www.hosei.ac.jp/application/files/2615/7137/8082/tama_houkokusyo_2014.pdf
森林立地学会編（2012）森のバランス―植物と土壌の相互作用、東海大学出版
資源エネルギー庁スペシャルコンテンツ（キーワード検索すると関連記事が出てきます）：
https://www.enecho.meti.go.jp/about/special/johoteikyo/ondankashoene/
脱炭素ポータル：
https://ondankataisaku.env.go.jp/carbon_neutral/
その他、授業中に適宜配付する。
■ファシリテーション関連の参考図書は以下の通り。（(※）は全文ダウンロード可）
Justice, T. &Jamieson, D. W. (2012) The Facilitator's Fieldbook: Step-by-step Guides Checklist and Worksheet (3rd ed.), Harpercollins Leadership.
三田地真実（2009）環境との相互作用から理解する人間行動―応用行動分析学（ABA）の視点から、人間環境論集（法政大学人間環境学会)、10、23-42.（※）
三田地真実（2018）学生の行動を軸に見据えて、「機能するグループワーク」を企画・実施するために―行動分析学とファシリテーションの視点から、法政大学教育研究、９、27-39.（※）
https://researchmap.jp/mami_mitachi/published_papers/32140326
三田地真実（2022）対面授業のビデオ記録を活用した省察―経済学大人数授業アクティブ・ラーニング型授業での実践、名古屋高等教育研究、22、245-260.（※）
https://researchmap.jp/mami_mitachi/published_papers/36796477
中野民夫（監修）三田地真実（2013）ファシリテーター行動指南書―意味ある場づくりのために、ナカニシヤ出版
中野民夫・三田地真実（編著）(2016)ファシリテーションで大学が変わる―アクティブ・ラーニングにいのちを吹き込むには、ナカニシヤ出版
■リーダーシップ×行動分析学関連の参考図書は以下の通り。
島宗理（2015）リーダーのための行動分析学入門、日本実業出版社
三田地真実（2009）環境との相互作用から理解する人間行動―応用行動分析学（ABA）の視点から、人間環境論集（法政大学人間環境学会)、10、23-42.（※）
https://researchmap.jp/mami_mitachi/misc/22821962

【成績評価の方法と基準】
・各授業回におけるリアクションペーパー　40％
・最終プレゼンテーション（法政大学へのカーボンニュートラルに関する取り組みの提案）　20％
・最終レポート　40％

【学生の意見等からの気づき】
ポジティティブな意見：
「発言の場が多く、様々な意見を聞くことができる点。また、個人の考えにとどまらず、それを表現することによって、新たなアイデアに結びつけることができる点。」
「授業が多摩や小金井の教授からも受けることができ､学びが広がった。」
→これらについては、さらに発展させて、学内教職員に公開できる部分は公開することを検討している。
改善を要する意見：
「リーダー育成系をもう少し授業で取り上げると思っていたので期待していたものとは少し異なっていたから。」
→リーダー育成については、現在取り組める時間が十分ではないことから、今後はその部分についての演習や講義も含めていくことを検討している。

【学生が準備すべき機器他】
・自分専用のノートPC（スマートホンは除く）を毎回持参すること。
・本授業はグーグルクラスルームを使うので、8月末までに登録を済ませておくこと。（履修登録者にはグーグルクラスルームへの招待を行うので、各自で登録をしてください。）
・事前学習では以下の動画教材を使用する予定である。事前に視聴しておくことが望ましい。「カーボンニュートラルミニ講座：基礎学習編」（デザイン工学部 川久保俊教授（作成当時））
https://www.youtube.com/watch?v=hJwbUHO7pBs

【その他の重要事項】
・定員（25名程度）を超過した場合は、抽選を行う。
・本授業は、オータムセッションの期間中に集中講義の形式で実施する。実施日は、9月11日（金)、12日（土)、14日（月)、15日（火)、および17日（木）の予定。
・第１回授業の前のプレ講座（オンライン）に参加することを必須とする（9月5日（土）午前中を予定)。当日、都合が悪い場合は後日録画視聴参加でも可とする。
その際に、授業の目的、進め方、など授業のガイダンスを行う。また、カーボンニュートラルの基礎として『なぜカーボンニュートラルの実現を目指す必要があるのか』オンデマンドシステム（https://lms.hosei.ac.jp/rpv/home/default.aspx）を視聴する。
・9月11日（金）（第1回～第3回）および9月17日（木）（第12回～第14回）の授業回については、本学のカーボンニュートラル推進の取り組みの一つである本科目の授業内容やゲストスピーカーの教員のカーボンニュートラルに関連する研究の取り組みを周知するため、一部内容を学内（学生および教職員）に対して公開する。なお、9月17日（木）（第12回～第14回）に実施する法政大学への提言（グループ発表）についても、公開対象とする。
・本授業では、課題の提出や資料の配布などについてはグーグルクラスルームを使用するので、注意されたい（学習支援システムは使いません)。
・授業に関する質問については、授業の前後、グーグルクラスルーム、メールなどで随時受け付ける。
・フィールドワーク先への交通費、昼食代等は、自己負担となる。

【Outline (in English)】
【Course Description】
This course offers students an opportunity to understand environmental and social issues globally in order to achieve carbon neutrality. Students will participate in several field works, including commercial companies, local governments, and universities that have promoted carbon neutrality. At the end of the course, students are expected to present proposals to Hosei University as a team to enhance their carbon-neutral environment. Students will learn facilitation techniques throughout the course in order to promote group projects.
【Course Objectives】
The course will provide students with the opportunity to learn:
Content (Learning Material) Goals:

・To understand the structure of global environmental and social issues to achieve carbon neutrality.
・To take action in daily situations.
Process (Learning Process) Goals:
・How to facilitate group discussions to solve environmental and social problems.
・To apply facilitation skills to other problem-solving situations.
Final Assignment:
As a team, student must present concrete proposals for carbon-neutral initiatives to Hosei University
【Learning Activities Outside of Classroom】
Preparation for the final presentation will occur outside of class hours. The standard time allocated for preview and review for this course is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policies】
Reaction papers in each class session: 40%
Final presentation (proposal for carbon-neutral initiatives at Hosei University): 20%
Final report: 40%

ART100NA（芸術学 / Art studies 100）

文化と文明

小林　信也

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身近な東京の都市社会を素材としてその歴史を学ぶ。それによって我々が生きる現代都市文明・都市文化を相対化して把握するための視座を獲得する。

【到達目標】
現代都市東京のあり方を大きく規定する近世都市江戸の実態を知る。その知識を前提にして、現代都市東京の特質を理解する。これらの学習によって、都市再開発や歴史的街区の保全などの現状を批評するための基礎知識を得る。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
					◎	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	都市を視る目	都市図を読解する。
第02回	都市景観論	都市景観を分析することで何が得られるのかを考察する。
第03回	都市性とは	都市を定義する。 日本近世における都市の成立過程を理解する。
第04回	江戸町方の空間構造	江戸の町人地の空間構造についての基礎知識を得る。
第05回	江戸町方の社会構造	江戸町方の社会構造とその歴史的変容についての基礎知識を得る。
第06回	江戸の民衆世界	江戸の民衆世界の特質について知る。
第07回	江戸の裏店層	江戸の裏長屋に暮らす民衆生活の実態を知る。
第08回	江戸の広場	江戸の広場の利用実態を知る。
第09回	露店営業地	江戸の露店営業地の実態を知る。
第10回	民衆的市場	江戸の民衆的な市場社会の実態を知る。
第11回	都市民衆の居場所	民衆的市場社会の存在意義を理解する。
第12回	江戸の広場の行方	明治東京における都市空間の近代化過程について知る。
第13回	明治の新開町	明治東京において発生する新たな都市空間の実態を知る。
第14回	まとめ	全授業の総括と試験問題についての解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として、資料プリントを熟読しておく。復習として、授業内容の要旨を各自で文章化する。また、授業で取り上げた都内各地域へ実際に行ってみる。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
小林信也『江戸の民衆世界と近代化』(山川出版社、2002年)

【成績評価の方法と基準】
平常点10％と期末の論述試験90％。
なお、試験問題は前もって発表するので事前に答案の下書きを作成しておくことが望ましい。

【学生の意見等からの気づき】
授業時間外学習の指示をより具体的にする。

【その他の重要事項】
オフィスアワー：授業の前後あるいはe-mailで随時質問を受け付けます。

【Outline (in English)】
In this course we will learn about Japanese urban history closely examining society in Tokyo.
Relative viewpoints encompassing urban culture will be discussed.

ART100NA（芸術学 / Art studies 100）

文化と文明

小林　信也

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身近な東京の都市社会を素材としてその歴史を学ぶ。それによって我々が生きる現代都市文明・都市文化を相対化して把握するための視座を獲得する。

【到達目標】
現代都市東京のあり方を大きく規定する近世都市江戸の実態を知る。その知識を前提にして、現代都市東京の特質を理解する。これらの学習によって、都市再開発や歴史的街区の保全などの現状を批評するための基礎知識を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	都市を視る目	都市図を読解する。
第02回	都市景観論	都市景観を分析することで何が得られるのかを考察する。
第03回	都市性とは	都市を定義する。 日本近世における都市の成立過程を理解する。
第04回	江戸町方の空間構造	江戸の町人地の空間構造についての基礎知識を得る。
第05回	江戸町方の社会構造	江戸町方の社会構造とその歴史的変容についての基礎知識を得る。
第06回	江戸の民衆世界	江戸の民衆世界の特質について知る。
第07回	江戸の裏店層	江戸の裏長屋に暮らす民衆生活の実態を知る。
第08回	江戸の広場	江戸の広場の利用実態を知る。
第09回	露店営業地	江戸の露店営業地の実態を知る。
第10回	民衆的市場	江戸の民衆的な市場社会の実態を知る。
第11回	都市民衆の居場所	民衆的市場社会の存在意義を理解する。
第12回	江戸の広場の行方	明治東京における都市空間の近代化過程について知る。
第13回	明治の新開町	明治東京において発生する新たな都市空間の実態を知る。
第14回	まとめ	全授業の総括と試験問題についての解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として、資料プリントを熟読しておく。復習として、授業内容の要旨を各自で文章化する。また、授業で取り上げた都内各地域へ実際に行ってみる。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
小林信也『江戸の民衆世界と近代化』(山川出版社、2002年)

【成績評価の方法と基準】
平常点10％と期末の論述試験90％。
なお、試験問題は前もって発表するので事前に答案の下書きを作成しておくことが望ましい。

【学生の意見等からの気づき】
授業時間外学習の指示をより具体的にする。

【その他の重要事項】
オフィスアワー：授業の前後あるいはe-mailで随時質問を受け付けます。

【Outline (in English)】
In this course we will learn about Japanese urban history closely examining society in Tokyo.
Relative viewpoints encompassing urban culture will be discussed.

ART100NA（芸術学 / Art studies 100）

文化と文明

小林　信也

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身近な東京の都市社会を素材としてその歴史を学ぶ。それによって我々が生きる現代都市文明・都市文化を相対化して把握するための視座を獲得する。

【到達目標】
現代都市東京のあり方を大きく規定する近世都市江戸の実態を知る。その知識を前提にして、現代都市東京の特質を理解する。これらの学習によって、都市再開発や歴史的街区の保全などの現状を批評するための基礎知識を得る。

【修得できる能力】
（A）歴史・文化・自然の理解・尊重　40%
（B）技術者倫理　15%
（C）工学基礎学力　5%
（D）専門基礎学力　10%
（E）専門知識の活用・応用能力　5%
（F）総合デザイン能力　5%
（G）コミュニケーション能力　10%
（H）継続的学習能力　5%
（I）業務遂行能力　5%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	都市を視る目	都市図を読解する。
第02回	都市景観論	都市景観を分析することで何が得られるのかを考察する。
第03回	都市性とは	都市を定義する。 日本近世における都市の成立過程を理解する。
第04回	江戸町方の空間構造	江戸の町人地の空間構造についての基礎知識を得る。
第05回	江戸町方の社会構造	江戸町方の社会構造とその歴史的変容についての基礎知識を得る。
第06回	江戸の民衆世界	江戸の民衆世界の特質について知る。
第07回	江戸の裏店層	江戸の裏長屋に暮らす民衆生活の実態を知る。
第08回	江戸の広場	江戸の広場の利用実態を知る。
第09回	露店営業地	江戸の露店営業地の実態を知る。
第10回	民衆的市場	江戸の民衆的な市場社会の実態を知る。
第11回	都市民衆の居場所	民衆的市場社会の存在意義を理解する。
第12回	江戸の広場の行方	明治東京における都市空間の近代化過程について知る。
第13回	明治の新開町	明治東京において発生する新たな都市空間の実態を知る。
第14回	まとめ	全授業の総括と試験問題についての解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として、資料プリントを熟読しておく。復習として、授業内容の要旨を各自で文章化する。また、授業で取り上げた都内各地域へ実際に行ってみる。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
小林信也『江戸の民衆世界と近代化』(山川出版社、2002年)

【成績評価の方法と基準】
平常点10％と期末の論述試験90％。
なお、試験問題は前もって発表するので事前に答案の下書きを作成しておくことが望ましい。

【学生の意見等からの気づき】
授業時間外学習の指示をより具体的にする。

【その他の重要事項】
オフィスアワー：授業の前後あるいはe-mailで随時質問を受け付けます。

【Outline (in English)】
In this course we will learn about Japanese urban history closely examining society in Tokyo.
Relative viewpoints encompassing urban culture will be discussed.

SES100NA（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 100）

環境とエネルギー

下田　昭郎

開講時期：春学期授業/Spring　｜　選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地球が新たな地質学的時代に向かっていることを意味するために「人新世」という言葉が提案されている。人間が「地球規模での変化」のおおきな駆動力の一つであるとの認識に由来する。産業革命に始まる人間活動(人口を含む、経済、資源利用、輸送、情報通信などの活動)は、特に20世紀後半以降、急速に増加・進展し、この現象は21世紀にはいっても継続している。人間活動を特徴づけるエネルギー・物質フローはグローバルに増加し続け、その環境への影響(大気環境変化、気候変化、生物多様性の変化など)は地球規模で顕現し、人類の持続可能性に問題を提起しています。
この授業では、エネルギー・環境に関する基礎的知識を学び、資源・エネルギー利用を核とする人間活動と環境との関わりの歴史的経緯を展望し、人間活動の環境インパクトを技術・豊かさ・文化の視点から分析し、エネルギー・環境問題を考える枠組み習得することを目的とします。

【到達目標】
人間活動とエネルギー・環境とに関わる問題に、自ら気づき、その背景/本質を理解し、解決策を考えるスキームを学ぶことを目指します。

【修得できる能力】
（A）歴史・文化・自然の理解・尊重　45%
（B）技術者倫理　30%
（C）工学基礎学力
（D）専門基礎学力
（E）専門知識の活用・応用能力
（F）総合デザイン能力　25%
（G）コミュニケーション能力
（H）継続的学習能力
（I）業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
○原則対面授業。ただし、必要に応じてリモート授業も実施。
○資料の提供は講義終了後に学習支援システムにアップロードを予定
○授業に関する最新の情報は学習支援システムに提示

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	事業方法等やスケジュールの説明
2	環境問題の変遷	地域環境問題から地球環境問題へ変遷の解説
3	地球温暖化の科学	温暖化の仕組み等についての解説
4	地球温暖化への国内外の対応	気候変動枠組み条約等の説明
5	世界のエネルギー事情	化石燃料への依存状態の説明
6	国内のエネルギー事情	東日本大震災以降の化石燃料への依存度増加等の説明
7	原子力の科学	原子力の長所、短所、将来的な見通し等の解説
8	温暖化防止のための技術開発	二酸化炭素の排出削減を目指す革新的技術等の紹介
9	温暖化防止のための政策	炭素税などの解説
10	温暖化防止のための企業の取り組み	SDGsなどの解説
11	エネルギー、環境問題と社会的受容性	リスクマネジメント等の重要性について
12	温暖化以外の地球環境問題	水問題など
13	予備日	進捗状況に対応
14	総合確認、小論文	講義全体を通してこの先我々が目指すべき方向性等を提案

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
国内外のエネルギー情勢及び環境変化の事象に興味を持つことを奨めます。例として、NASA（米国航空宇宙局）、UNFCCC（国連気候変動枠組条約）及びIEA(国際エネルギー機構)のWEBサイトでは、それぞれ最新の地球環境の現状に関するビジュアルデータ、重要な地球環境問題の取組み、及び世界エネルギー情勢に関する情報が提供されています。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
毎回分の資料を提供します。

【参考書】
特にありません。授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業内容全般の総合的確認（８０%）及びテーマ/内容ごとの受講状況（２０%）により評価します。
欠席４回以上は単位取得を認めない(評価D).

【学生の意見等からの気づき】
授業では毎回、主要点をまとめることで、授業内容を理解しやすくわかりやすいものとします。

【その他の重要事項】
授業終了後に教室で質問を受け付ける。また随時、電子メールでも質問を受け付ける。
環境及びエネルギーに関する技術・問題の調査・研究の経験を活かし、環境及びエネルギーに関わる幅広い講義をする。

【Outline (in English)】
(Course outline)
In this class, students will explore global warming and other global environmental issues from the perspective of human energy use. Specifically, we will examine the scientific background, mitigation technologies, policies, and other factors related to global environmental challenges.
(Learning Objectives)
The objective of this course is for students to become aware of issues related to human activities, energy, and the environment, to understand the background behind these issues, and to learn frameworks for thinking about possible solutions.
(Learning activities outside of classroom)
None.
(Grading Criteria/Policy)
Class participation and engagement will account for 80% of the grade, and attendance will account for 20%. More than four absences will not be accepted.

SEE200NB（科学教育・（教育工学） / Science education/ Educational technology 200）

技術者倫理

南後　由和

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　選択・必修の別：必修
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、主に建築界を対象として、高度に複雑化した現代社会および情報社会において技術がもたらす可能性と限界、ポジティヴな側面とネガティヴな側面について学ぶ。技術が社会や人間の行為のなかで、どのような位置を占めているかについての知見を深める。

【到達目標】
・技術が社会や環境に与える正と負の影響についてのリテラシーを体得する。
・利害関係者の意思が相反する都市および公共空間のあり方を多角的に理解する。
・建築士／建築家の社会的位置の変遷とその現在地を把握する。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
		◎	○			

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
各回のテーマに沿って、スライド教材を用いた講義をオンデマンド動画配信する。
毎回、リアクションペーパーを学習支援システムで提出することを課題とし、授業内容の理解の定着をはかる。リアクションペーパーのフィードバックは、授業中のコメントもしくは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要・成績評価の方法、社会学する実践感覚、道徳・倫理・法の比較、建築と技術者倫理、技術者リテラシー
2	落書き／グラフィティ（1）	落書き／グラフィティの両義性をめぐる問い、グラフィティ小史、落書き／グラフィティの分布と競い合い、落書き／グラフィティの監視・AI解析
3	落書き／グラフィティ（2）	匿名性をめぐるアプローチの比較、都市空間の読み取りと書き替え、グラフィティの拡張、公共空間における表現の自由と規制
4	公共空間	渋谷のジェントリフィケーション、渋谷の公共空間、排除アート
5	職能	建築家の養成、建築をめぐる制度化、建築家と建築士、建築界とハビトゥス
6	有名性	建築界における有名性、有名性の機能、界とマスメディア
7	事件・炎上	耐震偽装問題、新国立競技場コンペ、明治神宮外苑
8	失敗学	安全管理、リスク管理と危機管理、その他の職業倫理、失敗学と客観性・データの罠
9	技術と政治	地理学と地理学的想像力、地図と技術の変遷・地図の政治性、行動地理学・時間地理学・メンタルマップ、主題図とデザイナーなどによる地図表現
10	建築情報学	建築情報学、VR・メタバース、スマートシティ、建築物・AIと知的財産権
11	参加	住民説明会、ワークショップ、社会実験、インクルーシブデザイン
12	省察的実践	技術的合理性の限界、省察的実践、予防倫理学習
13	社会性	技術と社会、建築と社会、デジタルエシックス
14	総括	授業の振り返りとまとめ：リアクションペーパーのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、リアクションペーパーを学習支援システムで提出することを課題とする。
授業中に紹介する参考文献を読んで、理解を深めることが求められる。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
・日本建築学会編『日本建築学会の技術者倫理教材』丸善、2009.
・大山エンリコイサム『アゲインスト・リテラシー グラフィティ文化論』LIXIL出版、2015.
・ドナルド・A・ショーン『省察的実践者の教育 プロフェッショナル・スクールの実践と理論』柳沢昌一・村田晶子監訳、鳳書房、2017.
・ヘンリ・ペトロスキ 『人はだれでもエンジニア 失敗はいかに成功のもとになるか』北村美都穂訳、パンローリング、2019.
・後藤伸一 『建築と規範 利己から利他の建築へ』建築資料研究社、2022.

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー35％、期末試験65％
成績評価は100点満点とし、60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
具体例や図版の数をより増やした講義をする。

【学生が準備すべき機器他】
オンデマンド動画配信・教材配布・リアクションペーパー提出などのために、学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】
授業内容および順番は必要に応じて変更することがある。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this course, students explore the potentials and constraints, as well as the favorable and unfavorable facets of technology within the context of contemporary intricate societal and informational realms, primarily focusing on the architectural world. Students are expected to augment their understanding of the role of technology in society and human conduct.
【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:
-Acquire literacy regarding both the positive and negative impacts of technology on society and the environment.
-Develop a multifaceted understanding of urban and public spaces in which the intentions and interests of diverse stakeholders are in conflict.
-Understand the historical transformation and the contemporary positioning of architects and licensed architects within society.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Reaction papers: 35%、Term-end examination : 65%

CST100NC（土木工学 / Civil engineering 100）

ジオロジカルエンジニアリング

中谷　匡志

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ジオロジカルエンジニアリングは、地質学と工学の境界領域の学問と位置づけられる。本講座では、主として土木構造物に分類されるダムやトンネル・橋梁などの建設といった、とくに社会基盤事業にかかわる技術者に必要な地盤工学（あるいは地質工学）の基礎と、それを応用する知識を養うことを目的としている。

【到達目標】
1.土木構造物の基礎となる地盤について、その見方・考え方を習得する。
2.調査・設計・施工の各プロセスにおける地盤評価の重要性とその方法・内容を理解する。
3.地盤に起因するトラブルについて、評論家の立場ではなく、一技術者として倫理感や問題意識を持てるような思考力を培う。
4.基礎岩盤の支持力や斜面の安定対策の見識を深め、簡易な安定計算ができるようにする。
5.講義中に行う演習などによって、技術者としての文章表現力の基礎を習得する。

【修得できる能力】
（A）歴史・文化・自然の理解・尊重
（B）技術者倫理
（C）工学基礎学力　60%
（D）専門基礎学力　40%
（E）専門知識の活用・応用能力
（F）総合デザイン能力
（G）コミュニケーション能力
（H）継続的学習能力
（I）業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
地質情報概論（0.5回）は、学問領域における位置づけと、社会基盤事業とのかかわりを考える。
地質の基礎知識（1.5回)は、岩盤の種類と成因、地質年代と特徴、岩種からの問題点のイメージを通じて、地質に対する理解を深める。
特別講義（2回）では、「地球の動き／地震」「原子力発電所の地震・津波対策」を通じて、ジオロジカルエンジニアリングの最近の動向・トピックを紹介する。
地質調査・試験（1回）では、ボーリング、弾性波探査、原位置岩盤試験、地盤の分類（1回）では岩盤の工学的分類法について理解を深める。
ダムと地質情報（2回）、トンネルと地質情報（2回）、構造物基礎と地質情報（1回)では、重要な社会基盤事業であるダム、トンネル、橋梁の種類や施工方法、地質情報との関係を講義するとともに、貴重な実際の建設記録をＤＶＤなどで紹介し、理解を深める。
のり面と地質情報（2回）では、のり面の基本、設計方法、安定対策について理解を深めるとともに、実際に安定計算を試行する。
地すべりと地質情報（1回）では、近年、ゲリラ豪雨や台風などによる災害が多発している地すべり地形の特徴と見方について理解を深めるとともに、実際に安定計算を試行する。
最終の講義では、上記14回の講義内容、演習、小論文に対する講評、解説も行う。
授業形態は、原則スライドショーで行い、毎回演習を実施する。なお、演習解答の提出を出欠の確認とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	地質情報概論、地質の基礎知識(1) 社会基盤事業とジオロジカルエンジニアリングとの関わりの理解と地質の基礎知識を習得する。	ジオロジカルエンジニアリングの講義内容、社会基盤事業とジオロジカルエンジニアリングとの関係。岩盤の種類と成因、年代と特徴、岩種からの問題点のイメージ。
2	地質の基礎知識(2) 地質の基礎知識を習得する。	岩盤の風化・変質、地質構造。
3	特別講義(1) 「地球の動き／地震」の解釈の歴史的変遷、現状を理解する。	地震・活断層、津波、プレートテクニクス、地震予知。
4	地質調査・試験 代表的な地質調査・試験方法について知識を深める。	ボーリング、弾性波探査、原位置岩盤試験。
5	地盤の分類（岩盤分類） 岩盤を定量的に区分する方法について理解する。	岩盤分類法、海外の岩盤分類。
6	ダムと地質情報(1) ダムの設計と施工方法を理解する。	ダムの種類、ダムの基礎処理。日本で最も大きい黒部ダム施工事例。
7	ダムと地質情報(2) ダムの設計と施工方法を理解する。	ダムの歴史的発展、ダムの安定計算方法。
8	特別講義(2) 「原子力発電所の地震・津波対策について」最新の現状を理解する。	原子力発電所の地震対策、津波対策、再稼働方法。
9	トンネルと地質情報(1) トンネル・地下空洞の種類と施工方法を理解する。	トンネル・地下空洞の種類、施工方法、切羽前方探査。
10	トンネルと地質情報(2) トンネル・地下空洞の種類と施工方法を理解する。	日本で最も長い青函トンネルと大規模地下空洞である小丸川地下発電所の施工事例。
11	構造物基礎と地質情報 橋梁の歴史的変遷と橋梁基礎の安定性に関する考え方を理解する。	橋梁の種類と発展、橋梁基礎の安定性に関わる施工事例。
12	のり面と地質情報(1) 掘削のり面の基本と岩盤の異方性を通じて安定性を理解する。	掘削のり面の基本、岩盤の異方性とのり面の安定性との関係。
13	のり面と地質情報(2) のり面の安定対策方法と設計方法を習得する。	掘削のり面の安定対策、直線すべりの安定計算。
14	地すべりと地質情報 地すべり地形の見方と安定計算方法を習得する。講義全般をまとめる。	地すべり地形の特徴と見方、円弧すべりの安定計算。講義全般のキーワードの確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. 教科書全体の通読、教科書1章地盤の地質の予習・復習
2. 教科書1章地盤の地質の予習・復習
3. 新聞や関連雑誌・ホームページなどの情報収集
4. 教科書2章地盤の調査と試験・分類の予習・復習
5. 教科書2章地盤の調査と試験・分類の予習・復習
6. 教科書3章ダムと地質調査の予習・復習
7. 教科書3章ダムと地質調査の予習・復習
8. 新聞や関連雑誌・ホームページなどの情報収集
9. 教科書4章トンネル・地下空洞と地盤地質の予習・復習
10. 教科書4章トンネル・地下空洞と地盤地質の予習・復習
11. 教科書6章基礎と地盤地質の予習・復習
12. 教科書7章法面と地盤地質の予習・復習
13. 教科書7章法面と地盤地質の予習・復習
14. 教科書7章法面と地盤地質の予習・復習
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
改訂新版「建設工事と地盤地質」著者：古部 浩・武藤　光・山本浩之・宇津木慎司、発行所：古今書院 を使用する。

【参考書】
必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】
毎回の講義で実施する演習問題(記述・作図・計算など)の提出により習得度を評価し、その合計から評価点(100点満点)を算出する。
合否の基準は、100-90点をS、89-87点をA+、86-83点をA、82-80点をA-、79-77点をB+、76-73点をB、72-70点をB-、69-67点をC+、66-63点をC、62-60点をC-とし合格とする。59-0点または欠席4回以上をD、未受講、採点不能をEとし不合格とする。
期末試験は実施しないが、演習の習得度によりレポート提出を求める場合がある。

【学生の意見等からの気づき】
演習については、十分な時間を確保する。

【学生が準備すべき機器他】
三角関数付き電卓、目盛り付き三角定規、分度器を必携とする。

【その他の重要事項】
現役の建設会社に勤務する博士（学術）、技術士（応用理学）の資格を有する教員が、その経験と知識に則した地形・地質の観点から建設工事の着目点を講義する。なお、質問がある場合は、随時電子メール等で受け付ける。

【Outline (in English)】
Geological engineering is a discipline combining geology and civil engineering. In this course, we will introduce the basic of geotechnics (or geotechnical engineering) necessary for engineers involved in projects of social infrastructure, such as construction of dams, tunnels and bridges, which are mainly classified as civil engineering structures, and the knowledge to apply them.
At the end of the course, students are expected that understand the importance of ground evaluation in each process of survey, design and construction, and its method and contents.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading will be decided based on evaluating by submitting exercises to be conducted in each lecture. No final exam will be held.

SEE100ND（科学教育・（教育工学） / Science education/ Educational technology 100）

技術者倫理

池田　尚司

開講時期：春学期授業/Spring　｜　選択・必修の別：必修
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
デザイン工学技術者は、個人としての倫理こそ身につけているはずであるが、専門家としての倫理も身につけることが求められる。本講義は、科学技術に関わる倫理問題にはどんなものがあるか、また、技術者がもつべき倫理についてケーススタディを交えながら体系的に学ぶことを目的とする。特に、自分のデザインや技術が将来、社会や環境に及ぼす影響を推察することの重要性を認識する。

【到達目標】
（1）デザイン工学の技術者がもつべき倫理の概念と重要事項を体系的に理解する
（2）過去に起こった実事例から、内在する倫理問題を摘出する能力を身につける
（3）技術者倫理に基づき情報デザイン、システムデザイン、環境デザイン、安全建築設計等各分野の研究開発を推進できる技術を習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
デザイン工学系技術者がもつべき倫理事項を、文化や歴史、政治や経済、科学技術、自然環境など多角的な観点から、様々なケーススタディを織り込みながら、学習していく。倫理に関する意識づけのみならず、安全に関する具体的なスキルも併せて習得する。教科書を軸に、質問を投げかけながら答えてもらう問答法的なアプローチで講義を進める。また、各回事前課題を課し、授業の初めに、課題に対する解答例を示しフィードバックを行う。また、良い回答やコメントは授業内で紹介する。本年度については、対面講義とオンライン講義のハイブリッド形式とする。オンライン講義の場合はZoomにより行う。詳細は学習支援システムにアクセスし確認のこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	研究者・技術者の社会的責任と倫理	研究者・技術者にとっての倫理とは何かについて、歴史的経緯とともに学ぶ。さらに、倫理と法の関係についても考える。
2	研究者・技術者の行動規範とリスクマネジメント	研究者・技術者の行動規範などについて学ぶ。研究者・技術者が考慮すべきリスクとは何か、その大きさはどうやって測るのか、スクマネジメントはどう進めたらいいのかなどについて学ぶ。
3	技術情報と知的財産の保護	技術情報とは何かを知る。創出したアイデアや技術、デザインを守る知財権保護制度について学ぶ。さらに、特許の対象についても学習する。
4	説明責任	社会の知る権利とこれに対する技術者の果たすべき説明責任について考える。
5	製造物責任	製品を開発する側に生じる製造物責任の特徴や使う側との関係などについて考える。
6	ヒューマンエラー	ヒューマンエラーを知覚、認知、社会行動等、ユーザ側要因の観点から学び、精神論ではなく、工学的・科学的観点に基づくヒューマンエラーの予防的・対処的対策について考える。
7	化学倫理	化学物質、化学技術、ナノテクノロジーへの期待とリスク、およびその倫理について考える。さらに、放射性物質のリスクと取り扱いについても学ぶ。
8	生命倫理	ゲノム解析・遺伝子操作、クローン技術等における倫理を通し、生命や生死に対しどう関わるべきかについて考える。
9	情報ネットワーク社会と倫理	個人情報漏えい、ネットワーク犯罪、ソーシャルメディアでのトラブル等、情報化社会における様々な倫理問題について学ぶ。
10	AIと倫理	急速に進化する人工知能(AI)の急速な進化によって起きていることを知る。さらに，AIを開発・利用する際に考慮すべきリスクと倫理について学ぶ。
11	環境保全と倫理	環境・資源問題、エネルギー問題、さらに、環境保全に対する技術者取り組みについて考える。
12	企業と倫理・内部告発	組織の構造や文化と倫理について学ぶ。さらに，企業における具体的な取り組みについて知る。
13	多様性社会と技術者倫理	科学技術の進展によりクローズアップされてきた人権問題、社会のグローバル化、科学的と見せかけて実は科学論理的根拠がないいわゆる疑似科学等について、倫理の側面から考える。
14	技術者倫理の諸課題	バリアフリーからユニバーサルデザインへの流れについて知る。ユニバーサルデザインにおいて生じるコンフリクトなど倫理に関して残されている諸課題について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
シラバス内容を事前に確認し、教科者掲載ケーススタディを読んでおくこと。毎回の講義についての予習・復習時間は4時間ずつを標準とする。
Review the syllabus contents and read the case studies published by the subject in advance. The standard preparation and review time for each lecture is 4 hours each.

【テキスト（教科書）】
北原義典「はじめての技術者倫理　改訂第２版」講談社　(ISBN 978-4-06-541671-6)を使用。その章立てにしたがって進めるので、毎回持参のこと。その他、学習支援システムにアップされた資料を書き込み用に持参してもらう、もしくは、pdf参照してもらう場合もある。

【参考書】
中村昌允「技術者倫理とリスクマネジメント」　オーム社

林真理、宮澤健二、小野幸子「技術者の倫理」　コロナ社　　など

【成績評価の方法と基準】
技術者倫理の習得度に関する期末試験点数（80点）と平常の講義取り組み姿勢（20点）の合計をもって評価点とする。授業の取り組み姿勢とは、主に授業中の発言の活発さを指す。合計評価点60点以上を合格とする。ただし、出席率が70％以上であることを評価前提条件とする。
The final grade is based on the sum of the final exam score (80 points), which assesses the mastery of engineering ethics, and class participation (20 points). Class participation is primarily evaluated by the activeness of contributions during class. A total score of 60 points or higher is required to pass. However, an attendance rate of at least 70% is a mandatory prerequisite for evaluation.

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】
本年度、対面講義とオンライン講義のハイブリッド形式で行います。オンライン講義の際には、Zoomを利用するため、PCもしくはタブレット等を準備し、開講時間にアクセス、入室してください。また、連絡事項や資料は学習支援システムにアクセスし確認のこと。

【その他の重要事項】
討論を重視するため、必ず出席し、積極的発言をすることが大切。なお、本講義の担当教員は、30年あまりにわたる企業での実務経験をもち、その経験からの倫理問題も紹介する。学生からの質問については、授業終了後に教室にて、もしくは、随時、電子メールで受け付ける。

【Outline (in English)】
While design engineers are expected to possess personal ethics, they are also required to acquire professional ethics as specialists. This course aims to provide a systematic understanding of various ethical issues in science and technology, as well as the ethical standards expected of engineers, through the use of case studies. In particular, students will recognize the importance of anticipating the long-term impacts that their designs and technologies may have on society and the environment.

CUA100NA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 100）

文化人類学

思　沁夫

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
異文化への理解を深めることを通じて、ものの考え方や暮らし方が多様であることを知る。自分にとって当たり前だった発想や価値観を相対化し、見つめなおす契機を探る。それはこれからの時代を生きるために役立つ訓練になるだけでなく、それ自体がこのうえなく楽しいことでもある。この授業では、世界各地の具体的な事例と、これまでに文化人類学の領域で培われてきた方法論を参照しながら、そのための糸口をできるだけ多くつくることを目指す。

【到達目標】
テーマごとに文化人類学の基礎的な考え方を知り、併せてフィールドワークにもとづく良質な民族誌に触れることで、異文化を深く理解するための方法を学ぶ。また、身の回りで生じる出来事やメディアを通じて知る世界各地の記事について、その背景へと一歩踏み込んで理解するための粘り強い思考を身に付けることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
2026年度の授業はオンライン開催（13回）および対面形式での開催（1回）を予定している。
各回授業は、パワーポイントおよびレジュメ資料にもとづく講義形式で実施する。各回授業ごとにテーマを設定し、必要に応じて映像資料なども交えながら関連する方法論と事例を解説していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業のねらいと進め方、成績評価の方法について説明する。
2	文化人類学のなりたち	文化人類学という学問の歴史と、時代ごとに果たしてきた意義を学ぶ。
3	フィールドワークと民族誌	人類学と社会科学における他の学問領域との方法論的な特徴の差異を確認する。
4	環境と生業	世界のさまざまな地域の環境と、それに適応して暮らす人々の生活の多様性を知る。
5	贈与と経済	貨幣を介さない交換の意味を学び、経済合理的な思考の有効性を捉え直す。
6	儀礼と宗教	さまざまな世界観に即した儀礼を知り、その役割を考える。また、われわれの身の回りにある儀礼的行為とのつながりを考える。
7	儀礼と宗教	宗教と世俗の境界について整理し、宗教とは何かを考える。
8	病（やまい）	各地の伝統医療・民族医療と近代医療との関係を学び、人が癒されるとはどういったことなのかを考える。
9	家族・親族・婚姻	家族と親族の範囲と役割、婚姻にまつわる規則の多様性について学ぶ。
10	エスニシティ	「人種」「民族」「先住民」などにまつわる現象を考えるための方法を学ぶ。
11	コミュニティ	地縁、血縁にもとづく関係からインターネットで結びつく関係まで、さまざまな社会関係を包括して理解する視座を学ぶ。
12	移動と文化	ヒト、モノ、情報の流動性が高まる今日的な状況における「文化」とは何かを考える。
13	まとめ１	学生から反響が大きかったテーマを深く掘り下げる
14	まとめ２	授業内容の総括及び期末レポートの説明を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自分の身の回りの出来事、社会現象、若者たちの生活感やライフスタイルを観察し、文化人類学にまつわる理論や概念を応用し、自分なりに分析、考察すること。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定しない。ただし、毎回の授業で関連する文献を紹介するので、各自の関心に合わせて読み進めてほしい。

【参考書】
随時授業で関連する基礎文献や資料を紹介、配布する。

【成績評価の方法と基準】
授業への出席率および積極性を表す平常点(30パーセント)、学期末レポート（70パーセント）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
オンデマンド方式の動画配信について、公開時期や要望への対応の遅れが生じたほか、音声の強弱のむらや動画が冗長になるなどの課題が多々浮かび上がった。このほかにも、対面できないため伝えられない要望もあったかと思う。これらを踏まえ、今学期は機器の取り扱いに習熟する、授業時間外に寄せられる連絡にも柔軟に対応する、各回授業には過剰な内容を詰め込みすぎないよう配慮するなど、オンライン環境に適した授業づくりに努めたい。
また、オンライン化に伴って例年になく課題に追われるなど困難な状況に置かれた受講生も少なくないようだった。課題要求についても過大にならないよう配慮したい。

【学生が準備すべき機器他】
授業配信ではGoogle Classroom、リアルタイム相談窓口ではZoomミーティングの利用を予定している。このため、インターネット環境を整えたうえで受講の望んでほしい。

【その他の重要事項】
学生の関心や理解度に応じて、授業計画の内容や順序を変更する場合がある。

【Outline (in English)】
Armed with the knowledge that people's way of thinking and way of life diversifies through deepened understanding of different cultures, we explore opportunities to relativize common ideas and values and look back on them. In this course, we will learn useful points and concrete examples in this area by referring to methodologies developed in the field of cultural anthropology.

CUA100NA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 100）

文化人類学

思　沁夫

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
異文化への理解を深めることを通じて、ものの考え方や暮らし方が多様であることを知る。自分にとって当たり前だった発想や価値観を相対化し、見つめなおす契機を探る。それはこれからの時代を生きるために役立つ訓練になるだけでなく、それ自体がこのうえなく楽しいことでもある。この授業では、世界各地の具体的な事例と、これまでに文化人類学の領域で培われてきた方法論を参照しながら、そのための糸口をできるだけ多くつくることを目指す。

【到達目標】
テーマごとに文化人類学の基礎的な考え方を知り、併せてフィールドワークにもとづく良質な民族誌に触れることで、異文化を深く理解するための方法を学ぶ。また、身の回りで生じる出来事やメディアを通じて知る世界各地の記事について、その背景へと一歩踏み込んで理解するための粘り強い思考を身に付けることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
2026年度の授業はオンライン開催（13回）および対面形式での開催（1回）を予定している。
各回授業は、パワーポイントおよびレジュメ資料にもとづく講義形式で実施する。各回授業ごとにテーマを設定し、必要に応じて映像資料なども交えながら関連する方法論と事例を解説していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業のねらいと進め方、成績評価の方法について説明する。
2	文化人類学のなりたち	文化人類学という学問の歴史と、時代ごとに果たしてきた意義を学ぶ。
3	フィールドワークと民族誌	人類学と社会科学における他の学問領域との方法論的な特徴の差異を確認する。
4	環境と生業	世界のさまざまな地域の環境と、それに適応して暮らす人々の生活の多様性を知る。
5	贈与と経済	貨幣を介さない交換の意味を学び、経済合理的な思考の有効性を捉え直す。
6	儀礼と宗教	さまざまな世界観に即した儀礼を知り、その役割を考える。また、われわれの身の回りにある儀礼的行為とのつながりを考える。
7	儀礼と宗教	宗教と世俗の境界について整理し、宗教とは何かを考える。
8	病（やまい）	各地の伝統医療・民族医療と近代医療との関係を学び、人が癒されるとはどういったことなのかを考える。
9	家族・親族・婚姻	家族と親族の範囲と役割、婚姻にまつわる規則の多様性について学ぶ。
10	エスニシティ	「人種」「民族」「先住民」などにまつわる現象を考えるための方法を学ぶ。
11	コミュニティ	地縁、血縁にもとづく関係からインターネットで結びつく関係まで、さまざまな社会関係を包括して理解する視座を学ぶ。
12	移動と文化	ヒト、モノ、情報の流動性が高まる今日的な状況における「文化」とは何かを考える。
13	まとめ 1	学生から反響が大きかったテーマを深く掘り下げる
14	まとめ 2	授業内容の総括及び期末レポートの説明を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自分の身の回りの出来事、社会現象、若者たちの生活感やライフスタイルを観察し、文化人類学にまつわる理論や概念を応用し、自分なりに分析、考察すること。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定しない。ただし、毎回の授業で関連する文献を紹介するので、各自の関心に合わせて読み進めてほしい。

【参考書】
随時授業で関連する基礎文献や資料を紹介、配布する。

【成績評価の方法と基準】
授業への出席率および積極性を表す平常点(30パーセント)、学期末レポート（70パーセント）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
オンデマンド方式の動画配信について、公開時期や要望への対応の遅れが生じたほか、音声の強弱のむらや動画が冗長になるなどの課題が多々浮かび上がった。このほかにも、対面できないため伝えられない要望もあったかと思う。これらを踏まえ、今学期は機器の取り扱いに習熟する、授業時間外に寄せられる連絡にも柔軟に対応する、各回授業には過剰な内容を詰め込みすぎないよう配慮するなど、オンライン環境に適した授業づくりに努めたい。
また、オンライン化に伴って例年になく課題に追われるなど困難な状況に置かれた受講生も少なくないようだった。課題要求についても過大にならないよう配慮したい。

【学生が準備すべき機器他】
授業配信ではGoogle Classroom、リアルタイム相談窓口ではZoomミーティングの利用を予定している。このため、インターネット環境を整えたうえで受講の望んでほしい。

【その他の重要事項】
学生の関心や理解度に応じて、授業計画の内容や順序を変更する場合がある。

【Outline (in English)】
Armed with the knowledge that people's way of thinking and way of life diversifies through deepened understanding of different cultures, we explore opportunities to relativize common ideas and values and look back on them. In this course, we will learn useful points and concrete examples in this area by referring to methodologies developed in the field of cultural anthropology.

CUA100NA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 100）

文化人類学

思　沁夫

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
異文化への理解を深めることを通じて、ものの考え方や暮らし方が多様であることを知る。自分にとって当たり前だった発想や価値観を相対化し、見つめなおす契機を探る。それはこれからの時代を生きるために役立つ訓練になるだけでなく、それ自体がこのうえなく楽しいことでもある。この授業では、世界各地の具体的な事例と、これまでに文化人類学の領域で培われてきた方法論を参照しながら、そのための糸口をできるだけ多くつくることを目指す。

【到達目標】
テーマごとに文化人類学の基礎的な考え方を知り、併せてフィールドワークにもとづく良質な民族誌に触れることで、異文化を深く理解するための方法を学ぶ。また、身の回りで生じる出来事やメディアを通じて知る世界各地の記事について、その背景へと一歩踏み込んで理解するための粘り強い思考を身に付けることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
2026年度の授業はオンライン開催（13回）および対面形式での開催（1回）を予定している。
各回授業は、パワーポイントおよびレジュメ資料にもとづく講義形式で実施する。各回授業ごとにテーマを設定し、必要に応じて映像資料なども交えながら関連する方法論と事例を解説していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業のねらいと進め方、成績評価の方法について説明する。
2	文化人類学のなりたち	文化人類学という学問の歴史と、時代ごとに果たしてきた意義を学ぶ。
3	フィールドワークと民族誌	人類学と社会科学における他の学問領域との方法論的な特徴の差異を確認する。
4	環境と生業	世界のさまざまな地域の環境と、それに適応して暮らす人々の生活の多様性を知る。
5	贈与と経済	貨幣を介さない交換の意味を学び、経済合理的な思考の有効性を捉え直す。
6	儀礼と宗教	さまざまな世界観に即した儀礼を知り、その役割を考える。また、われわれの身の回りにある儀礼的行為とのつながりを考える。
7	儀礼と宗教	宗教と世俗の境界について整理し、宗教とは何かを考える。
8	病（やまい）	各地の伝統医療・民族医療と近代医療との関係を学び、人が癒されるとはどういったことなのかを考える。
9	家族・親族・婚姻	家族と親族の範囲と役割、婚姻にまつわる規則の多様性について学ぶ。
10	エスニシティ	「人種」「民族」「先住民」などにまつわる現象を考えるための方法を学ぶ。
11	コミュニティ	地縁、血縁にもとづく関係からインターネットで結びつく関係まで、さまざまな社会関係を包括して理解する視座を学ぶ。
12	移動と文化	ヒト、モノ、情報の流動性が高まる今日的な状況における「文化」とは何かを考える。
13	まとめ１	学生から反響が大きかったテーマを深く掘り下げる
14	まとめ２	授業内容の総括及び期末レポートの説明を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自分の身の回りの出来事、社会現象、若者たちの生活感やライフスタイルを観察し、文化人類学にまつわる理論や概念を応用し、自分なりに分析、考察すること。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定しない。ただし、毎回の授業で関連する文献を紹介するので、各自の関心に合わせて読み進めてほしい。

【参考書】
随時授業で関連する基礎文献や資料を紹介、配布する。

【成績評価の方法と基準】
授業への出席率および積極性を表す平常点(30パーセント)、学期末レポート（70パーセント）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
オンデマンド方式の動画配信について、公開時期や要望への対応の遅れが生じたほか、音声の強弱のむらや動画が冗長になるなどの課題が多々浮かび上がった。このほかにも、対面できないため伝えられない要望もあったかと思う。これらを踏まえ、今学期は機器の取り扱いに習熟する、授業時間外に寄せられる連絡にも柔軟に対応する、各回授業には過剰な内容を詰め込みすぎないよう配慮するなど、オンライン環境に適した授業づくりに努めたい。
また、オンライン化に伴って例年になく課題に追われるなど困難な状況に置かれた受講生も少なくないようだった。課題要求についても過大にならないよう配慮したい。

【学生が準備すべき機器他】
授業配信ではGoogle Classroom、リアルタイム相談窓口ではZoomミーティングの利用を予定している。このため、インターネット環境を整えたうえで受講の望んでほしい。

【その他の重要事項】
学生の関心や理解度に応じて、授業計画の内容や順序を変更する場合がある。

【Outline (in English)】
Armed with the knowledge that people's way of thinking and way of life diversifies through deepened understanding of different cultures, we explore opportunities to relativize common ideas and values and look back on them. In this course, we will learn useful points and concrete examples in this area by referring to methodologies developed in the field of cultural anthropology.

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

都市デザイン

上山　肇

開講時期：春学期前半/Spring(1st half)　｜　選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市化の時代から市街地集約の時代に向かう中、都市の質の充実が求められている。また、都心居住への回帰や中心市街地の衰退、生活の質の変化など、都市に求められる機能や役割が多様化するようになった。今後、既成市街地の質向上を図っていく場合、都市や空間のデザインは重要なキーワードとなる。本授業では、都市デザインを「都市や地域といった空間を対象に、人間の行動・活動や社会、環境、景観といったことを総合的に調整しながら、より良い都市環境・都市空間を創造・形成していく学際的かつ実践的な過程（プロセス）」と捉え、その基礎的な考え方を総合的に学習する。

【到達目標】
都市デザインとは何か、その対象と判断の切り口を理解するとともに、都市デザインとまちづくりの関連性について知る。また、テーマに応じた都市デザインの視点を自ら整理し、形として表現する能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
各回、都市デザインと都市デザインを取り巻く状況や考え方を講義し、途中行うミニテストにより理解度を確認する。授業期間中に1回程度の現地見学を折り込むことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/社会における都市デザインを取り巻く状況と諸問題①	まちづくりの課題が変化していく中で、都市デザインの対象領域、分野、内容をどのように捉えるべきか講義する。
2	社会における都市デザインを取り巻く状況と諸問題②	多様化するまちづくりの課題に応える都市デザインを進める上での現状と諸問題について考える。
3	まちづくりとは（まちづくりの定義）	都市デザインの背景にある「まちづくり」について考える。
4	都市の構成要素とデザインの概念	都市を構成する要素について整理しながら、「デザインすること」の意味について理解する。
5	デザイン手法（事業・制度）を活用したまちの姿①	都市をデザインするために押さえておきたい手法（計画、ルール・規制、プロセス、事業・制度）と仕組みについて理解する。
6	デザイン手法（事業・制度）を活用したまちの姿②	都市をデザインするために押さえておきたい手法（計画、ルール・規制、プロセス、事業・制度）と仕組みについて理解する。
7	身近に存在する様々な都市デザイン①	身近に存在する様々な都市デザインについて紹介する。
8	身近に存在する様々な都市デザイン②	身近に存在する様々な都市デザインについて紹介する。
9	身近に存在する様々な都市デザイン③	身近に存在する様々な都市デザインについて紹介する。
10	身近に存在する様々な都市デザイン④	身近に存在する様々な都市デザインについて紹介する。
11	都市デザインと地域社会①	地域社会の中における都市デザインのあり方を考える。
12	都市デザインと地域社会②	地域社会の中における都市デザインのあり方を考える。
13	都市デザインの背景に存在するリージョンとコミュニティ	都市デザインの背景に存在するリージョンとコミュニティの概念について学ぶ。
14	都市デザインとコミュニティデザイン	都市を取り巻くデザインの姿（都市と人との関係性）について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
公人の友社「自治体まちづくり学シリーズ④　まちづくり研究の基礎－政策デザインのすすめ－」

【参考書】
公人の友社「自治体まちづくり学シリーズ①②③⑤⑥」、特に③の「東京の自治体まちづくりⅡ－まちづくり計画（都市マスタープラン）の策定 他－」を参考にしてもらいたい。

【成績評価の方法と基準】
授業中に行うミニテスト(50%)並びに最終課題提出(50%)。欠席2日(4回)以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
・学生からの質問等については授業前後教室で受ける。
・担当講師は長年、行政（自治体）に勤務した経験があり、そうした経験を活かして自治体まちづくり全般を踏まえながら様々な角度から講義する。

【Outline (in English)】
In this class, we will comprehensively learn the basic concepts of urban design, which is understood as "an interdisciplinary and practical process of creating and shaping better urban environments and spaces by comprehensively adjusting human behavior and activities, society, the environment, and landscape, focusing on spaces such as cities and regions."
[learning goal]
This course will help students understand what urban design is, its subject matter and how to make decisions, as well as the relationship between urban design and town development. Students will also develop the ability to independently organize their own perspectives on urban design according to a theme and express them in a tangible form.
[Learning activities outside the classroom]
The standard time for preparation and review for this class is one hour each.
[Evaluation Criteria/Policy]
Each class will cover urban design and the circumstances and ideas surrounding it, with a mini-test conducted midway through to assess understanding.Mini-tests will be given during class (approximately 2 times). Absences of 2 days (4 times) or more will result in the student not receiving credit (grading D).

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

都市デザイン

上山　肇

開講時期：春学期前半/Spring(1st half)　｜　選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市化の時代から市街地集約の時代に向かう中、都市の質の充実が求められている。また、都心居住への回帰や中心市街地の衰退、生活の質の変化など、都市に求められる機能や役割が多様化するようになった。今後、既成市街地の質向上を図っていく場合、都市や空間のデザインは重要なキーワードとなる。本授業では、都市デザインを「都市や地域といった空間を対象に、人間の行動・活動や社会、環境、景観といったことを総合的に調整しながら、より良い都市環境・都市空間を創造・形成していく学際的かつ実践的な過程（プロセス）」と捉え、その基礎的な考え方を総合的に学習する。

【到達目標】
都市デザインとは何か、その対象と判断の切り口を理解するとともに、都市デザインとまちづくりの関連性について知る。また、テーマに応じた都市デザインの視点を自ら整理し、形として表現する能力を養う。

【修得できる能力】
（A）歴史・文化・自然の理解・尊重
（B）技術者倫理
（C）工学基礎学力　40%
（D）専門基礎学力　40%
（E）専門知識の活用・応用能力　20%
（F）総合デザイン能力
（G）コミュニケーション能力
（H）継続的学習能力
（I）業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
各回、都市デザインと都市デザインを取り巻く状況や考え方を講義し、途中行うミニテストにより理解度を確認する。授業期間中に1回程度の現地見学を折り込むことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/社会における都市デザインを取り巻く状況と課題①	まちづくりの課題が変化していく中で、都市デザインの対象領域、分野、内容をどのように捉えるべきか講義する。
2	社会における都市デザインを取り巻く状況と課題②	多様化する街づくり課題に応える都市デザインを進める上での現状と諸問題について考える。
3	まちづくりとは（まちづくりの定義）	都市デザインの背景にある「まちづくり」について考える。
4	都市の構成要素とデザインの概念	都市を構成する要素について整理しながら、「デザインすること」の意味について理解する。
5	デザイン手法（事業・制度）を活用したまちの姿①	都市をデザインするために押さえておきたい手法（計画、ルール・規制、プロセス、事業・制度）と仕組みについて理解する。
6	デザイン手法（事業・制度）を活用したまちの姿②	都市をデザインするために押さえておきたい手法（計画、ルール・規制、プロセス、事業・制度）と仕組みについて理解する。
7	身近に存在する様々な都市デザイン①	身近に存在する様々な都市デザインについて紹介する。
8	身近に存在する様々な都市デザイン②	身近に存在する様々な都市デザインについて紹介する。
9	身近に存在する様々な都市デザイン③	身近に存在する様々な都市デザインについて紹介する。
10	身近に存在する様々な都市デザイン④	身近に存在する様々な都市デザインについて紹介する。
11	都市デザインと地域社会①	地域社会における都市デザインのあり方を考える。
12	都市デザインと地域社会②	地域社会における都市デザインのあり方を考える。
13	都市デザインの背景に存在するリージョンとコミュニティ	都市デザインの背景に存在するリージョンとコミュニティの概念について学ぶ。
14	都市デザインとコミュニティデザイン	都市を取り巻くデザインの姿（都市と人との関係性）について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
公人の友社「自治体まちづくり学シリーズ④　まちづくり研究の基礎－政策デザインのすすめ－」

【参考書】
公人の友社「自治体まちづくり学シリーズ①②③⑤⑥」、特に③の「東京の自治体まちづくりⅡ－まちづくり計画（都市マスタープラン）の策定 他－）を参考にしてもらい。

【成績評価の方法と基準】
授業中に行うミニテスト(50%)並びに最終課題提出(50%)。欠席2日(4回)以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
・学生からの質問等については授業前後教室で受ける。
・担当講師は長年、行政（自治体）に勤務した経験があり、そうした経験を活かして自治体まちづくり全般を踏まえながら様々な角度から講義する。

【Outline (in English)】
In this class, we will comprehensively learn the basic concepts of urban design, which is understood as "an interdisciplinary and practical process of creating and shaping better urban environments and spaces by comprehensively adjusting human behavior and activities, society, the environment, and landscape, focusing on spaces such as cities and regions."
[learning goal]
This course will help students understand what urban design is, its subject matter and how to make decisions, as well as the relationship between urban design and town development. Students will also develop the ability to independently organize their own perspectives on urban design according to a theme and express them in a tangible form.
[Learning activities outside the classroom]
The standard time for preparation and review for this class is one hour each.
[Evaluation Criteria/Policy]
Each class will cover urban design and the circumstances and ideas surrounding it, with a mini-test conducted midway through to assess understanding.Mini-tests will be given during class (approximately 2 times). Absences of 2 days (4 times) or more will result in the student not receiving credit (grading D).

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

都市デザイン

上山　肇

開講時期：春学期前半/Spring(1st half)　｜　選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市化の時代から市街地集約の時代に向かう中、都市の質の充実が求められている。また、都心居住への回帰や中心市街地の衰退、生活の質の変化など、都市に求められる機能や役割が多様化するようになった。今後、既成市街地の質向上を図っていく場合、都市や空間のデザインは重要なキーワードとなる。本授業では、都市デザインを「都市や地域といった空間を対象に、人間の行動・活動や社会、環境、景観といったことを総合的に調整しながら、より良い都市環境・都市空間を創造・形成していく学際的かつ実践的な過程（プロセス）」と捉え、その基礎的な考え方を総合的に学習する。

【到達目標】
都市デザインとは何か、その対象と判断の切り口を理解するとともに、都市デザインとまちづくりの関連性について知る。また、テーマに応じた都市デザインの視点を自ら整理し、形として表現する能力を養う。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
○	◎					

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
各回、都市デザインと都市デザインを取り巻く状況や考え方を講義し、途中行うミニテストにより理解度を確認する。授業期間中に1回程度の現地見学を折り込むことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/社会における都市デザインを取り巻く状況と課題①	まちづくりの課題が変化していく中で、都市デザインの対象領域、分野、内容をどのように捉えるべきか講義する。
2	社会における都市デザインを取り巻く状況と課題②	多様化する街づくり課題に応える都市デザインを進める上での現状と諸問題について考える。
3	まちづくりとは（まちづくりの定義）	都市デザインの背景にある「まちづくり」について考える。
4	都市の構成要素とデザインの概念	都市を構成する要素について整理しながら、「デザインすること」の意味について理解する。
5	デザイン手法（事業・制度）を活用したまちの姿①	都市をデザインするために押さえておきたい手法（計画、ルール・規制、プロセス、事業・制度）と仕組みについて理解する。
6	デザイン手法（事業・制度）を活用したまちの姿②	都市をデザインするために押さえておきたい手法（計画、ルール・規制、プロセス、事業・制度）と仕組みについて理解する。
7	身近に存在する様々な都市デザイン①	身近に存在する様々な都市デザインについて紹介する。
8	身近に存在する様々な都市デザイン②	身近に存在する様々な都市デザインについて紹介する。
9	身近に存在する様々な都市デザイン③	身近に存在する様々な都市デザインについて紹介する。
10	身近に存在する様々な都市デザイン④	身近に存在する様々な都市デザインについて紹介する。
11	都市デザインと地域社会①	地域社会の中における都市デザインのあり方を考える。
12	都市デザインと地域社会②	地域社会の中における都市デザインのあり方を考える。
13	都市デザインの背景に存在するリージョンとコミュニティ	都市デザインの背景に存在するリージョンとコミュニティの概念について学ぶ。
14	都市デザインとコミュニティデザイン	都市を取り巻くデザインの姿（都市と人との関係性）について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
公人の友社「自治体まちづくり学シリーズ④　まちづくり研究の基礎－政策デザインのすすめ－」

【参考書】
公人の友社「自治体まちづくり学シリーズ①②③⑤⑥」、特に③の「東京の自治体まちづくりⅡ－まちづくり計画（都市マスタープラン）の策定 他－」を参考にしてもらいたい。

【成績評価の方法と基準】
授業中に行うミニテスト(50%)並びに最終課題提出(50%)。欠席2日(4回)以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
・学生からの質問等については授業前後教室で受ける。
・担当講師は長年、行政（自治体）に勤務した経験があり、そうした経験を活かして自治体まちづくり全般を踏まえながら様々な角度から講義する。

【Outline (in English)】
In this class, we will comprehensively learn the basic concepts of urban design, which is understood as "an interdisciplinary and practical process of creating and shaping better urban environments and spaces by comprehensively adjusting human behavior and activities, society, the environment, and landscape, focusing on spaces such as cities and regions."
[learning goal]
This course will help students understand what urban design is, its subject matter and how to make decisions, as well as the relationship between urban design and town development. Students will also develop the ability to independently organize their own perspectives on urban design according to a theme and express them in a tangible form.
[Learning activities outside the classroom]
The standard time for preparation and review for this class is one hour each.
[Evaluation Criteria/Policy]
Each class will cover urban design and the circumstances and ideas surrounding it, with a mini-test conducted midway through to assess understanding.Mini-tests will be given during class (approximately 2 times). Absences of 2 days (4 times) or more will result in the student not receiving credit (grading D).

CST300NA（土木工学 / Civil engineering 300）

公共空間デザイン及演習

下吹越　武人、大西　景太、福井　恒明、山田　裕貴

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
３学科共通の学部科目であり、３学科の学生が協力して都市空間の計画・設計を行う。都市はその広域的位置づけやその場の特性に応じて、都市基盤施設、建築物、様々な機器により構成されている。この科目ではこれらを総合的に計画、設計するための考え方と技法を学ぶ。

【到達目標】
与えられた場所の特性や機能を分析し、社会的背景と合理的判断に基づき街づくりの方向性提案ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
教員は基盤施設計画・土木デザイン、環境設計・ランドスケープデザイン、都市設計・まちづくり、建築設計、プロダクトデザインと多様な構成としており、都市空間の大から小までを対象に、計画設計を学ぶ。実践的経験を積むことを狙いとして、公益財団法人等が実施する計画コンペを題材に、参加登録し当授業の成果を当該コンペに提出する予定としている。
新型感染症対策を講じつつ、必要な範囲で対面型授業として実施予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の進め方、小課題	授業内容、進め方の説明。希望者多数で選抜が必要な場合小課題を課し、その結果をもって受講継続の可否を判断する。
2	第一課題の説明、検討の視点、事例等の説明	第一課題は、公共空間単体かつその内部空間の計画・設計とし、各自で行う。これに向けた視点等を教員より説明する。
3	第一課題エスキス	第一課題のエスキスを基に、計画・設計の考え方について検討、議論する。
4	第一課題仕上げ	第一課題を仕上げ、提出直前の段階まで進める。
5	第一課題提出、講評	第一課題の提出を受け、優秀作について発表、講評を行う。
6	第二課題説明、グループ編成	第二課題は地区レベルの空間を扱うものとし、地区再編の考え方整理から具体的な小空間の設計までを行う。
7	グループ検討	方針検討、計画の全体企画、各者の役割などを検討する。
8	方針に関するエスキス	対象地区の再編方針についてのエスキスを持ち寄り指導を受ける。
9	グループ作業	次の段階の作業を行う。
10	計画レベルのエスキス	計画レベルのエスキスを持ち寄り指導を受ける。
11	各者作業	仕上げに向けた作業を行う。
12	仕上げレベルのエスキス	最終形が見えるレベルの図面により指導を受ける。
13	作品の仕上げ作業	仕上げ作業を行う。
14	発表、講評	完成品を持って発表を行い、講評を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題対象地を訪問し、対象となる公共空間やその場での利用者のふるまいを観察する。
課題対象地の歴史的背景や都市計画等の行政計画について調査する。
提案内容の素案（エスキス）を作成する。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要な資料を配布する。

【参考書】
日本建築学会，コンパクト建築設計資料集成［都市再生］，丸善出版，2014
都市景観対象ウェブサイト（国土交通省「景観まちづくり」ウェブ）https://www.mlit.go.jp/toshi/townscape/toshi_townscape_tk_000022.html
土木学会デザイン賞ウェブサイト
https://design-prize.sakura.ne.jp

【成績評価の方法と基準】
中間提出物、エスキス対応（30％）、最終成果物（70％）。欠席４回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
図面の仕上げにおいて、貸与ＰＣを用いてＣＡＤまたはドロー系ソフトにより作図する必要がある。三角定規、三角スケール、色鉛筆などの製図機器が必要となる。

【その他の重要事項】
公共事業の現場管理や設計、景観政策立案の経験ならびに学識者として実務プロジェクトのアドバイザー経験のある教員や、建築・ランドスケープ等のデザイン実務経験のある教員が指導を行う。
学生からの質問等については授業前後教室で受けるとともに、専任教員については、履修の手引きに示されるオフィスアワーで対応する。兼任の教員については、Ｅメールで対応する。

【Outline (in English)】
In this course, students will learn the concepts and techniques for comprehensive planning and designing of cities.
Intermediate deliverables, Esquisse correspondence (30%), Final deliverables (70%). Students who are absent 4 or more times will not be allowed to acquire credits (grade D).
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CST300NA（土木工学 / Civil engineering 300）

公共空間デザイン及演習

下吹越　武人、大西　景太、福井　恒明、山田　裕貴

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
３学科共通の学部科目であり、３学科の学生が協力して都市空間の計画・設計を行う。都市はその広域的位置づけやその場の特性に応じて、都市基盤施設、建築物、様々な機器により構成されている。この科目ではこれらを総合的に計画、設計するための考え方と技法を学ぶ。

【到達目標】
与えられた場所の特性や機能を分析し、社会的背景と合理的判断に基づき街づくりの方向性提案ができるようになる。

【修得できる能力】
（A）歴史・文化・自然の理解・尊重　30%
（B）技術者倫理　30%
（C）工学基礎学力　20%
（D）専門基礎学力
（E）専門知識の活用・応用能力
（F）総合デザイン能力　20%
（G）コミュニケーション能力
（H）継続的学習能力
（I）業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
教員は基盤施設計画・土木デザイン、環境設計・ランドスケープデザイン、都市設計・まちづくり、建築設計、プロダクトデザインと多様な構成としており、都市空間の大から小までを対象に、計画設計を学ぶ。実践的経験を積むことを狙いとして、公益財団法人等が実施する計画コンペを題材に、参加登録し当授業の成果を当該コンペに提出する予定としている。
新型感染症対策を講じつつ、必要な範囲で対面型授業として実施予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の進め方、小課題	授業内容、進め方の説明。希望者多数で選抜が必要な場合小課題を課し、その結果をもって受講継続の可否を判断する。
2	第一課題の説明、検討の視点、事例等の説明	第一課題は、公共空間単体かつその内部空間の計画・設計とし、各自で行う。これに向けた視点等を教員より説明する。
3	第一課題エスキス	第一課題のエスキスを基に、計画・設計の考え方について検討、議論する。
4	第一課題仕上げ	第一課題を仕上げ、提出直前の段階まで進める。
5	第一課題提出、講評	第一課題の提出を受け、優秀作について発表、講評を行う。
6	第二課題説明、グループ編成	第二課題は地区レベルの空間を扱うものとし、地区再編の考え方整理から具体的な小空間の設計までを行う。
7	グループ検討	方針検討、計画の全体企画、各者の役割などを検討する。
8	方針に関するエスキス	対象地区の再編方針についてのエスキスを持ち寄り指導を受ける。
9	グループ作業	次の段階の作業を行う。
10	計画レベルのエスキス	計画レベルのエスキスを持ち寄り指導を受ける。
11	各者作業	仕上げに向けた作業を行う。
12	仕上げレベルのエスキス	最終形が見えるレベルの図面により指導を受ける。
13	作品の仕上げ作業	仕上げ作業を行う。
14	発表、講評	完成品を持って発表を行い、講評を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題対象地を訪問し、対象となる公共空間やその場での利用者のふるまいを観察する。
課題対象地の歴史的背景や都市計画等の行政計画について調査する。
提案内容の素案（エスキス）を作成する。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要な資料を配布する。

【参考書】
日本建築学会，コンパクト建築設計資料集成［都市再生］，丸善出版，2014
都市景観対象ウェブサイト（国土交通省「景観まちづくり」ウェブ）https://www.mlit.go.jp/toshi/townscape/toshi_townscape_tk_000022.html
土木学会デザイン賞ウェブサイト
https://design-prize.sakura.ne.jp

【成績評価の方法と基準】
中間提出物、エスキス対応（30％）、最終成果物（70％）。欠席４回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
図面の仕上げにおいて、貸与ＰＣを用いてＣＡＤまたはドロー系ソフトにより作図する必要がある。三角定規、三角スケール、色鉛筆などの製図機器が必要となる。

【その他の重要事項】
公共事業の現場管理や設計、景観政策立案の経験ならびに学識者として実務プロジェクトのアドバイザー経験のある教員や、建築・ランドスケープ等のデザイン実務経験のある教員が指導を行う。
学生からの質問等については授業前後教室で受けるとともに、専任教員については、履修の手引きに示されるオフィスアワーで対応する。兼任の教員については、Ｅメールで対応する。

【Outline (in English)】
In this course, students will learn the concepts and techniques for comprehensive planning and designing of cities.
Intermediate deliverables, Esquisse correspondence (30%), Final deliverables (70%). Students who are absent 4 or more times will not be allowed to acquire credits (grade D).
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CST300NA（土木工学 / Civil engineering 300）

公共空間デザイン及演習

下吹越　武人、大西　景太、福井　恒明、山田　裕貴

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
３学科共通の学部科目であり、３学科の学生が協力して都市空間の計画・設計を行う。都市はその広域的位置づけやその場の特性に応じて、都市基盤施設、建築物、様々な機器により構成されている。この科目ではこれらを総合的に計画、設計するための考え方と技法を学ぶ。

【到達目標】
与えられた場所の特性や機能を分析し、社会的背景と合理的判断に基づき街づくりの方向性提案ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
教員は基盤施設計画・土木デザイン、環境設計・ランドスケープデザイン、都市設計・まちづくり、建築設計、プロダクトデザインと多様な構成としており、都市空間の大から小までを対象に、計画設計を学ぶ。実践的経験を積むことを狙いとして、公益財団法人等が実施する計画コンペを題材に、参加登録し当授業の成果を当該コンペに提出する予定としている。
新型感染症対策を講じつつ、必要な範囲で対面型授業として実施予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の進め方、小課題	授業内容、進め方の説明。希望者多数で選抜が必要な場合小課題を課し、その結果をもって受講継続の可否を判断する。
2	第一課題の説明、検討の視点、事例等の説明	第一課題は、公共空間単体かつその内部空間の計画・設計とし、各自で行う。これに向けた視点等を教員より説明する。
3	第一課題エスキス	第一課題のエスキスを基に、計画・設計の考え方について検討、議論する。
4	第一課題仕上げ	第一課題を仕上げ、提出直前の段階まで進める。
5	第一課題提出、講評	第一課題の提出を受け、優秀作について発表、講評を行う。
6	第二課題説明、グループ編成	第二課題は地区レベルの空間を扱うものとし、地区再編の考え方整理から具体的な小空間の設計までを行う。
7	グループ検討	方針検討、計画の全体企画、各者の役割などを検討する。
8	方針に関するエスキス	対象地区の再編方針についてのエスキスを持ち寄り指導を受ける。
9	グループ作業	次の段階の作業を行う。
10	計画レベルのエスキス	計画レベルのエスキスを持ち寄り指導を受ける。
11	各者作業	仕上げに向けた作業を行う。
12	仕上げレベルのエスキス	最終形が見えるレベルの図面により指導を受ける。
13	作品の仕上げ作業	仕上げ作業を行う。
14	発表、講評	完成品を持って発表を行い、講評を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題対象地を訪問し、対象となる公共空間やその場での利用者のふるまいを観察する。
課題対象地の歴史的背景や都市計画等の行政計画について調査する。
提案内容の素案（エスキス）を作成する。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要な資料を配布する。

【参考書】
日本建築学会，コンパクト建築設計資料集成［都市再生］，丸善出版，2014
都市景観対象ウェブサイト（国土交通省「景観まちづくり」ウェブ）https://www.mlit.go.jp/toshi/townscape/toshi_townscape_tk_000022.html
土木学会デザイン賞ウェブサイト
https://design-prize.sakura.ne.jp

【成績評価の方法と基準】
中間提出物、エスキス対応（30％）、最終成果物（70％）。欠席４回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
図面の仕上げにおいて、貸与ＰＣを用いてＣＡＤまたはドロー系ソフトにより作図する必要がある。三角定規、三角スケール、色鉛筆などの製図機器が必要となる。

【その他の重要事項】
公共事業の現場管理や設計、景観政策立案の経験ならびに学識者として実務プロジェクトのアドバイザー経験のある教員や、建築・ランドスケープ等のデザイン実務経験のある教員が指導を行う。
学生からの質問等については授業前後教室で受けるとともに、専任教員については、履修の手引きに示されるオフィスアワーで対応する。兼任の教員については、Ｅメールで対応する。

【Outline (in English)】
In this course, students will learn the concepts and techniques for comprehensive planning and designing of cities.
Intermediate deliverables, Esquisse correspondence (30%), Final deliverables (70%). Students who are absent 4 or more times will not be allowed to acquire credits (grade D).
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

ADE200NB（建築学 / Architecture and building engineering 200）

建築生理心理１

加用　現空

開講時期：春学期授業/Spring　｜　選択・必修の別：必修
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体と建築空間の間では、熱や空気などの物質・エネルギーが常にやりとりされており、建築デザインは人間の生命活動や感覚に深く関わっている。また、建築空間は周辺環境との相互作用の中で成立し、その重なりの中で住環境や都市空間が形成される。本講義では、こうした身体ー建築ー環境の関係を環境とシステムの入れ子構造として捉え、履修者が建築環境と身体との関係を理解し、建築設計を考えるための基礎的な建築環境学の知識と視座を身につけることを目的とする。

【到達目標】
・建築環境をシステムとして捉え、身体・建築・周辺環境の関係を説明できる。
・建築デザインと環境要素（熱・空気など）のふるまいとの関係を説明できる。
・建築環境と身体の関係を検討するための基礎的な手法を用いることができる。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
		◎	○			

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
パワーポイントを用いて講義を展開する。講義資料は配布しないが、講義後復習用に講義録画リンク（Zoom）を公開する。講義は座学を中心に進めるが、授業内演習などを含む。受動的に聴講する授業形式ではなく、履修者同士で話し合いながら理解を深める授業形式を目指す。他履修者の妨げとなる私語は避け、相互に学びを深める学修環境構築への協力を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	講義の目的、概要
2	環境（1）	温冷感とエネルギー収支
3	環境（2）	人体のエネルギー収支
4	環境（3）	水蒸気のふるまい（空気線図、水蒸気分圧）
5	環境（4）	太陽光（太陽光、散乱、放射と波長、空の温度）
6	環境（5）	植物と光・エネルギー収支
7	建築（1）	環境と建築形態（境界のデザイン）
8	建築（2）	アクティブシステム：太陽光パネルと電灯照明
9	建築（3）	パッシブシステム：昼光利用
10	建築（4）	アクティブシステム：換気の原理
11	建築（5）	パッシブシステム：自然換気のエネルギー収支
12	都市（1）	屋外の熱環境1（放射環境、形態係数、熱影響）
13	都市（2）	屋外の熱環境2（風圧係数、気流）
14	まとめ	建築設計に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。特に授業終了時点で理解が十分でない部分については次回授業までに理解を深めておくこと。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
『人・建築・地球とエクセルギーー環境物理学入門』 宿谷昌則著(2024) 建築資料研究社
『エクセルギーと環境の理論: 流れ・循環のデザインとは何か』 宿谷昌則著(2010) 井上書院

【成績評価の方法と基準】
講義中に課す演習課題（30%）、授業後のフィードバックフォームの記入内容（30%）、講義終了後の期末試験（40%）によって判断する予定。なお、試験未受験、課題未提出の者の成績評価は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックはありません。

【Outline (in English)】
Course Outline: The architectural design takes an important role to create a secured and sanitary environment for our body system. The course focuses on the behaviour of mass and energy between the human body and the architectural space. Also, the behaviour can be seen between the architecture and the environment. The aim of the course is to understand the nested structure of the systems and the environment and connections between architectural space and our body system.
Learning Objectives: 1) To understand the concept of "System and the Environment", 2) To understand the behaviour of physical elements in the architecture, 3) To develop basic skills of mathematical modeling through exercises.
Learning Activities Outside of The Classroom: The preparation and review time for each lecture is about 2 hours. In particular, students, who don't have a sufficient understanding of the issue at the end of the lecture, are recommended to deepen their understanding before the next lecture.
Grading Criteria /Policy: Grades will be determined by the results of assignments during the course (30%), quality and quantity of the feedback form at the end of each lecture (30%), and the result of the final examination at the end of the course (40%). Grades will not be given to students who have not taken the examination or submitted the assignments.

ADE300NB（建築学 / Architecture and building engineering 300）

設備デザイン基礎

中野　淳太

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
建築設備の計画は，居住者の快適性・健康性を確保する上でも，省エネルギーを考慮する上でも重要である。本授業では、戸建住宅を対象に必要な条件を整理し、住宅設備設計を行う。電気設備・給排水衛生設備・換気設備・空気調和設備の多岐にわたる設備が単に機能するだけでは不十分である。地域インフラの状況、利用者のライフスタイルに合った利便性や快適性、将来的なライフスタイルの変化などを想定しながら、適切な設備システム・機器を選定し、設計できるようになることを目標とする。

【到達目標】
1）建築設備が居住者の快適性・健康性に果たす役割を理解する。
2）電気，空気調和，給排水の各設備分野の果たす役割を理解する。
3）建築設備が住宅のエネルギー消費量に大きく関係していることを理解する。
4）住宅の設備図面を一通り読み書きできるようにする。
5）与えられた条件に応じて適切な設備システム・設備機器の選定ができるようにする。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎			○			

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
　2階建ての住宅をサンプルとして設備を選定し、設備図を描く演習を行う。設備図面等の関連資料は授業開始時に配布するので遅刻しないこと。また、講義中の演習が非常に重要なので体調不良等のやむを得ない場合を除いて欠席や遅刻をしないよう注意すること。
　毎回の終了時，教員あるいはＴＡに演習の進行状況をチェックしてもらうこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	ガイダンス	設備設計に用いる意匠図の書き方と設備設計図の関係
2回	電気設備(1)	電気設備の基礎、電気設備の記号
3回	電気設備(2)	幹線計画、分電盤計画
4回	電気設備(3)	照明計画、コンセント計画
5回	電気設備(4)	電気設備図の作成
6回	給排水設備(1)	排水設備の記号、排水方式、排水計画、ビルの給排水設備
7回	給排水設備(2)	給水配管計画、給湯配管計画、ガス配管計画
8回	給排水設備(3)	排水配管計画、下水菅、雨水管
9回	空調設備(1)	冷暖房設備、ビルの空調設備
10回	空調設備(2)	換気計画、全熱交換器の選定、ダクト計画
11回	空調設備(3)	暖冷房設備の記号、床暖房の方式、エアコン容量の選定
12回	設計図書作成	全ての設備仕様と設備図面を一式の設計図書にまとめる
13回	住宅のエネルギー使用特性	日本の住宅エネルギー事情、地域特性、トップランナー基準
14回	プレゼンテーションと講評	これまでの学習事項の総復習を行い，各自の設備設計についてプレゼンテーションを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　本講義では身近な住宅設備を題材にしているため，予め自宅の設備やなじみのある建物の設備を調査するなど，積極的な予習を期待する。
　テキスト以外に必要な使用機器類（例えば電気照明設備計画では使用する照明機器類）のカタログや仕様などの情報を主体的に入手するなどの準備が必要である。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
適宜、資料を配布する。

【参考書】
「建築設備パーフェクトマニュアル」山田浩幸（エクスナレッジ）

【成績評価の方法と基準】
時限中に計算、機器選定、図面演習等を行い，毎回提出する。毎回の演習30％と最終プレゼンテーション70%により、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
紙図面製作のみでなく，ＰＣを用いた表現をも取り入れる。

【学生が準備すべき機器他】
ノートPC、タブレットPC等を持参する。また、教員の指示に応じて製図用具等を持参する。

【Outline (in English)】
The planning of building systems is essential for ensuring occupant comfort, health, and energy conservation. This course addresses the requirements and design of residential systems in single-family homes. It is not adequate for systems such as electrical, plumbing and sanitation, ventilation, and air conditioning to simply operate; they must be integrated to meet user needs. The course aims to equip students with the skills to select and design appropriate equipment, systems, and devices, taking into account regional infrastructure, user convenience and comfort, and potential future lifestyle changes.

DES300ND（デザイン学 / Design science 300）

デザインケーススタディ

土屋　雅人、大西　景太、ＳＥＯＮＧ　ＹＯＵＮＧ　ＡＨ

開講時期：春学期授業/Spring　｜　選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈優〉〈Ｓ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
デザインケーススタディは、一部演習を交えた講義形式の授業となります。
授業は３部構成となり、３名の教員が交代で行います。
本授業では、複雑化するデザインの開発領域において、実際の製品やサービスの事例を挙げながら、今日のデザインの社会的意義(デザインファンクション)、技術と社会との関係（デザインインターセクション)、および市場ニーズの分析手法(デザインマーケティング)を学びます。
第一部:デザインファンクション
第二部:デザインインターセクション
第三部:デザインマーケティング

【到達目標】
デザインファンクションおよびデザインインターセクション、デザインマーケティングの開発手法、開発理念に関する知識と今後のデザインのあり方を考察する能力を習得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本講義は対面を基本に行います。
講義全体は三部構成となり、第一部は１回目より５回目、第二部は６回目から９回目、第三部は10回目から14回目の講義となります。1回目はガイダンスが含まれます。
それぞれの講義概要は次の通りです。
第一部:デザインファンクションでは、今日のデザインが社会に与える役割、働き、価値などを、様々なデザイン領域の事例を通して解説し、その意義を学びます。
第二部：デザインインターセクションでは、技術変革と社会変動がデザインの創作/活用/評価にどのような影響を与え、議論を起こしながら相互発展してきたかについて解説し、その意義や使い方について学びます。
第三部:デザインマーケティングでは、デザイン開発に求められるユーザーニーズの分析手法として、多変量解析を用いた主観評価手法を事例を通して学習し、マーケット分析方法とコンセプトプランニングを学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス グラフィックデザイン１ 大西景太	この授業の要点、注意事項の説明をします。 広告、ブランディングなどのグラフィックデザインの実例を解説します。
2	グラフィックデザイン２ 大西景太	新しいグラフィック表現の開発とその活用例を解説します。
3	タイムベースドデザイン１ 大西景太	CM、MV、TVコンテンツなど映像デザインの事例を解説します。
4	タイムベースドデザイン２ 大西景太	AR、VR、MR に関するデザイン事例を解説します。
5	タイムベースドデザイン３ 大西景太	web やアプリ、展示空間などノンリニア映像の事例を解説します。
6	デザインとテクノロジー１ ソン ヨンア教授	AIが生成する創作物について最新事例を解説します。
7	デザインとテクノロジー ２ ソン ヨンア教授	インタフェースや分析ツールの変革が影響を与えたデザイン史について解説します。
8	デザインと社会１ ソン ヨンア教授	Technocracyの概念を紹介し、Speculative Designなど技術と未来社会との関係を問うデザイン分野について解説します。
9	デザインと社会２ ソン ヨンア教授	持続可能性、共生社会に向けたデザインの事例を解説します。
10	感性価値、ニーズ分析１ 土屋雅人教授	価値の多様性とユーザーニーズを学習します。
11	ニーズ分析２ 土屋雅人教授	身近な商品を題材としたニーズ分析、商品地図法を学びます。
12	ニーズ分析３ 土屋雅人教授	多変量解析（クラスター分析）を学びます。
13	ニーズ分析４ 土屋雅人教授	多変量解析（主成分分析）を学びます。
14	ニーズ分析５ 土屋雅人教授	多変量解析（クラスター分析、主成分分析）を組み合わせたニーズ分析を学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等)】
「デザインファンクション」「デザインインターセクション」「デザインマーケティング」の講義の中核は、デザイン活動が社会に与える役割や創造活動への貢献であり、デザインシンキングの視点から多面的な学習を行ってください。
授業内容の理解を促す課題（レポート等）には、指示に従って提出してください。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書)】
授業内で適宜指示します。

【参考書】
授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
積極的な授業参加と授業態度を評価対象とします。5回以上欠席および連続3回欠席の受講生は成績評価対象外となります。
遅刻は2回で1回の欠席扱いとなります（ただし正当な理由がある場合は欠席・遅刻ともその限りではない)。
成績は平常点３０%、課題４０%、試験３０%です。

【学生の意見等からの気づき】
講義内容をよく理解するためにも、参考図書、資料等の紹介を行う。

【学生が準備すべき機器他】
「第三部:デザインマーケティング」(担当土屋)ではノートPCを使いますので、必ず持参してください。
その他、ノートPC（Windows）を用いる箇所がありますので、教員の指示に従ってください。

【その他の重要事項】
A/B期で授業の曜日、時限がかわることに注意してください。

【Outline (in English)】
In this class, we will study the social significance of design (Design Function), the relationship between technology and society (Design Intersection) and the analysis method of market needs (Design Marketing), while giving examples of actual products and services in the complicated design development.
Part 1: Design Function
Part 2: Design Intersection
Part 3: Design Marketing
After each class, students will be expected to spend two hours to understand the course content and to write reports.
Your overall grade in the class will be decided based on the following,
In class contribution:30%, Short report:40%, Term-end examination:30%.

DES300ND（デザイン学 / Design science 300）

プロダクトデザイン理論

安積　伸

開講時期：春学期授業/Spring　｜　選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、プロダクトデザイン（以下PD）の創造性にとって重点な基礎知識・理論を学ぶ。
人間の創造行為としてのPDの歴史認識、社会的意義、デザインと機能の関係、PDと人間工学、PDに多く使用される素材と製造技術などを学習し、デザインと工学の関連性を理解する。

【到達目標】
インダストリアルデザインの近代～今日までの文化的文脈を理解する。
プロダクトデザイン開発プロセス概要の理解。PD企画の理解。PDの形状・造形の理解。PDと素材、素材表面処理の理解。PDの量産、小ロット生産技術概要の理解を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
AB期１４回（金曜日5限）
講義ノートを必ずとる事。
プロダクトデザインと基礎技術：
PD設計に必要な製品製造工法、素材、素材表面処理技術に関して学ぶ事が出来ます。
プロダクトデザインの基礎歴史的文脈：
現代のプロダクデザインが成立するまでの様々な取り組み事例や思想、近代デザインの歴史的文脈を学ぶことが出来ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス プロダクトデザインの原点 プロダクトデザインの対象	デザインの黎明から現在までを俯瞰し、プロダクトデザインという概念について紹介する。
2	プロダクトデザインの目的	事例を通してプロダクトデザイン目的、価値を考察する。
3	Thonet と 大量生産のデザイン	Thonet の開発した大量生産技術により開かれた、デザインの可能性について解説する。
4	W.Morris　と アーツアンドクラフツ運動	アーツアンドクラフツ運動の背景・思想・作品をW.Morris の生涯と共に紹介する。
5	モダンデザインへの展開	モダニズムへの過渡期に興った様々な思想と取り組みを紹介する。
6	ドイツ工作連盟	ドイツ工作連盟の思想・取り組み・後年への影響などを取り上げる。
7	バウハウス	バウハウスによって確立され、世界に多大な影響を及ぼしたデザインと思想について紹介する。
8	アメリカデザインの黎明	米国から生まれたデザインの思想と事例を紹介する。
9	縄文時代のものづくり	縄文時代のものづくり、加工法などを紹介する
10	民芸運動	民芸運動を近代日本のプロダクトデザインの潮流のひとつと捉え、紹介する
11	現代におけるプロダクトデザイン事例　①	現在進行形で現在進められているプロダクトデザインについて紹介する。
12	家具デザインと工法	家具デザインを通し、様々な工業生産技術を紹介する。
13	現代の展開と課題	プロダクトデザインにおける現在の取り組みと課題について紹介する。
14	現代におけるプロダクトデザイン事例　②	現在進行形で現在進められているプロダクトデザインについて紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各講義ノートを取り、内容について復習する
2週に1回、課題レポートの提出を求める
課題に要する時間は2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義進捗に合わせ適宜授業参考資料を配布する。

【参考書】
「もの」はどのようにつくられているのか？、Chris Lefteri 著、オライリージャパン
心を動かすデザインの秘密、荷方邦夫著、実務教育出版
プロダクトデザイン 101 のアイデア、スン・ジャン　マシュー・フレデリック著、フィルムアート社
世界デザイン史、安倍公正監修、美術出版社
他

【成績評価の方法と基準】
講義全体で4回以上の欠席および連続3回欠席の受講生は成績評価対象外となります。
遅刻は2回で1回の欠席扱いとなります。欠席一回につき－4点、遅刻-2点（ただし正当な理由がある場合は欠席・遅刻ともその限りではない。）
評価；　出席（50%）レポート課題（50%)

【学生の意見等からの気づき】
説明をよりゆっくりと進める

【その他の重要事項】
英国、日本でプロダクトデザイン実務経験のある教員が、その経験を生かしてプロダクトデザイン全般の文化的文脈基礎知識及び製造の基本技術を講義する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this course, students will learn the basic theory behind fundamental requirements in Product Design and creativity.
【Learning Objectives】
The aims of this course are the following:
- Understanding the cultural context of industrial design from modern times to today.
- Understanding the overview of the product design development process.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be required to submit an assignment report every two weeks. The standard time required for the homework is approximately two hours.
【Grading Criteria /Policy】
Grading Evaluation: Attendance (40%), Report assignment (60%)

MEC200ND（機械工学 / Mechanical engineering 200）

メカニカルデザイン

山田　泰之

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half)　｜　選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
物体と物体の動きの関係性を定める機構（メカニズム）に焦点をあてる。様々な機械に用いられる機構を中心に，機械をつくる材料特性、加工、生産性などの多角的視点から学ぶ。また実際に具体化させるための基礎的，応用的知識と実践方法を学ぶ。

【到達目標】
1)基本的な機械の機構（メカニズム）が理解できる．
2)メカニカルデザインを具体化するために必要は材料，加工法等の実設計について理解できる．
3)1)と2)の学修を通じて、機械の機構を企画・設計（デザイン）する手法の基礎を理解し、応用できる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
動きをともなうあらゆる製品には「機構（メカニズム）」が存在する．機構は製品を企画・設計（デザイン）するにあたり，エンジニアはもちろん、デザイナも理解しておかなければならない重要な要素である．本講義では，リンク機構，カム機構，伝動装置，歯車，流体駆動，ロボットなど，主なメカニズムの基礎と，その具体化にかかわる材料や加工法の選定などを含めたメカニカルデザイン全般について学ぶ．講義は対面を主体に実施するが，状況をみてオンラインやコンテンツ配信なども併用する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	・機械設計とは何か，身近な機械機構，材料と加工法の事例紹介
第2回	設計基礎	図面とCADを用いた機械設計と設計プロセス
第3回	機械要素	機械要素や規格品の活用（締結要素や材料規格）
第4回	機械要素	構造と材料の選定について 機械要素：ギヤ
第5回	伝達機構	様々な伝達機構や，柔軟伝達機構について説明する．
第6回	カム機構 リンク機構	・カム機構 ・リンク機構、緩衝装置
第7回	液体伝達機構	液体伝達要素を利用したメカニカルデザイン
第8回	アクチュエータ 中間課題	アクチュエータのメカニカルデザインについて紹介する． 中間課題
第9回	材料	様々な材料を利用したメカニカルデザイン
第10回	構造	機械の様々な構造
第11回	機械加工・工具	様々な部品の機械加工方法や道具の紹介
第12回	移動機構	移動機構のメカニカルデザインについて紹介する．
第13回	応用的なメカニカルデザイン	応用的なメカニカルデザインについて紹介する．
第14回	期末課題	期末課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1)シラバスの内容を事前に確認する
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
必要な教材，資料は随時で紹介する．
参考図書の機構学（ISBN-13: 978-4627668911）は，
学内あるいはVPN接続により，電子書籍で閲覧可能です．
https://kinoden.kinokuniya.co.jp/hosei_u/bookdetail/p/KP00031635/
参考図書の基礎機械材料は図書館にあります．

【参考書】
1)機構学　ISBN-13: 978-4627668911
2）基礎機械材料　ISBN-13: 978-4563069216

【成績評価の方法と基準】
平常点・確認小テスト（20％）
課題提出と期末テストにより（80％）
により総合的に評価する．
出席回数の少ない学生は評価しない．

【学生の意見等からの気づき】
学習内容が，「実際にどのような商品や製品に応用され活用されているのかが，イメージできない」との指摘があった．事例紹介を増やし，学習内容と実社会で利用されている技術の関連付けを明確にしながら説明するよう心がける．

【Outline (in English)】
The theme of this course is to apply basic principles of geometry and general mechanics to various mechanical problems. Students will solve problems by modeling motion phenomena using simulation software and visualization techniques. Through the above process, they will understand the basics of methods for designing highly functional mechanisms through lectures and practical training. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content

DES300ND（デザイン学 / Design science 300）

デザイン・バックキャスティング

松山　祥樹

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half)　｜　選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
問題解決や価値創造といった社会に対するデザインの役割は近年さらなる拡大を見せ、取り扱われるテーマや求められるアプローチも、その複雑性を増しています。
本授業では、日常生活での課題や環境問題などに加え、ジェンダーや人種に関する人権問題や、貧困や教育における社会格差など様々な事例を取り扱いながら、より良い未来に向けた問題解決のためのデザインの在り方を学びます。
一律に何が正しいと定義できない複雑なテーマに対し、あらゆる人々や物事に与える影響を考慮・検討しながら価値創出を模索する過程を通し、多角的な視点から物事の本質を見極め、解決に導く力を養います。

【到達目標】
本授業では、グループワークを通し、リサーチ、問題定義、解決提案とその具体化までを行う。
それぞれの提案は、プロセスからアプトプットまでを１冊の本の形式に美しくまとめることで、自身の考えや提案を正しく魅力的に伝え、共感を導くツールにまで仕上げることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
第一課題では、共通のテーマに対しグループワークでの提案を行います。第二課題ではそれぞれのグループごとに課題選定を行い、その解決提案を行います。
各課題のプレゼンテーションの後、講義時間内にて講評によるフィードバックを行います。またディスカッションの時間を設けることで、設定したテーマや提案に対しての考察を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	全体ガイダンス 講義(導入) 課題グループ分け	全体概要の説明 講義(本講義の目的と狙い) 課題に取り組むチーム分けの実施
2	導入ディスカッション 課題リサーチ	エクササイズとしてのディスカッションワーク 各チームごとに社会課題のリサーチを開始
3	リサーチの共有 講義(関連デザイン事例)	各自のリサーチ結果の共有 関連するデザイン事例の講義
4	フォーカステーマの選定	各チーム、フォーカスするテーマをディスカッションし選定する
5	中間プレゼンテーション テーマの共有	選定したテーマとその背景をポスター形式にまとめ、各チームごとに簡易なプレゼンテーションを行う
6	テーマの深掘り リサーチ計画の立案	各チーム選定したテーマに対し、課題を深ぼるためのリサーチワークを行う インタビューや実験の計画を検討する
7	リサーチ結果の共有	インタビューや実験、デスクリサーチの結果を共有し、アイデアの方向性を定める
8	ソリューションアイデア検討	着目した課題を解決するためのアイデア検討ワークを行う
9	ソリューションアイデアの共有	検討したアイデアを共有し、改善点を検討する 適宜、プロトタイプなどを制作して検証を行う
10	プロトタイプの確認 講義(ブックデザイン事例)	制作したプロトタイプや検証結果を確認する 最終的にまとめるブックのデザイン事例の講義
11	アウトプットの進捗確認	最終提案に向けたアウトプット全体の進捗状況を確認し、完成に向けた作業を実施する
12	講義(アウトプットの作り込み)	アウトプットの完成度を高めるためのデザイン事例に関する講義
13	最終プレゼンテーション前半	各チームごとに、最終提案の発表を行う
14	最終プレゼンテーション後半 全体講評・総括	各チームごとに、最終提案の発表を行う 全体の総括として、講評を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間内にまとまりきらない作業は、時間外で自主的に行ってもらいます。
日常生活を注意深く観察し、暮らしの不便や困りごとを見出すことに加え、自身とは違う環境や価値観の人々、世界で起きている出来事やニュースについても積極的に情報収集し、見識や考察を深めて下さい。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「Design as an Attitude -姿勢としてのデザイン-」　アリス・ローソーン (著), 石原薫 (翻訳) フィルムアート社

【参考書】
授業内で必要に応じ適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
授業参加度の平常点評価を30点、課題プレゼンテーション内容を40点、最終成果物を30点とした計100点満点で評価する。
総合点が９０点以上をA+、９０点未満８０点以上をA、８０点未満７０点以上をB、７０点未満６０点以上をC、６０点未満をDとする。ただし、１点でも提出レポートが欠けている者はDとする。
１コマ欠席- 10点、遅刻- 5点。ただし、５コマ以上欠席した者はDとする。
（なお、病欠、忌引き、SSI大会、公式練習等は欠席対象から除外、ただし当該証明書を提出する事。）

【学生の意見等からの気づき】
進行・制作に関する要求があれば、随時考慮してゆきます。

【学生が準備すべき機器他】
提案作成及びプレゼンテーションに必要なソフトウエアを各自のPCに入れておく。

【その他の重要事項】
プロダクトデザイナーとしての経験を有する教員が、実務で必要な知識・経験・考え方に関する指導を行う。
授業終了後に教室で質問を受け付ける，または随時，電子メールで質問を受け付ける

【Outline (in English)】
【Course outline and Learning Objectives】
The role of design in society has been expanding further in recent years, and the problems and approaches which designers deal with have become complex.This course teaches how design can be used to solve problems for a better future. Various themes are used in this course that cannot be defined as being right : daily-life problems, discrimination and human rights related to gender and race, and social disparities in poverty and education.
In Design Backcasting, you develop your ability of identifying complex problems by design considering the impact on people and societies from multiple perspectives.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be asked to work independently outside of class time on tasks that cannot be completed within the class time. The standard preparation time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
The evaluation is based on a total of 100 points, consisting of 30 points for the normal assessment of class participation, 40 points for the content of the assignment presentation and 30 points for the final product.
A+ for a total score of 90 or more points, A for 80 or more points below 90, B for 70 or more points below 80, C for 60 or more points below 70 and D for 60 or more points below 60.
Absence from one class - 10 points, tardiness - 5 points. However, a D is given to students who are absent for more than five sessions.
(Sickness, bereavement, SSI competitions, official practices, etc. are excluded from absences, but the relevant certificate must be submitted.)

DES300ND（デザイン学 / Design science 300）

サービスＵＸデザイン

平田　昌大

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half)　｜　選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人々の価値観の多様化、技術の発展などを背景に、製品・サービスに求められる価値はより複雑多様化している。「サービスデザイン」とは、そういった製品・サービス (または取り組み)を開発するために、テクノロジー・クリエイティブ・ビジネスを包含した総合的な視点でアプローチするデザイン領域である。本授業では、顧客体験(UX)を重点とした新規サービスの企画を行い、調査からアイデア発想、プロトタイプ、プレゼンテーションまでの一連の過程のなかで、サービスデザインの基本的な視座を獲得する。
今年度は「Intrinsic Motivation(内発的動機)」をテーマに、自身の興味関心のある領域を基軸としたサービスを企画し、投資家へのプレゼンテーションを想定した演習課題を行う。

【到達目標】
- テーマ課題を通して、基本的なサービスデザインプロセスを学び、考案したサービスを第三者へ魅力的に伝えることを目標とする。
- 成果物として、考案したサービスのプレゼンテーション及びプロトタイプの制作を行う。なお、UI(アプリケーションやウェブサイトなど)は必須ではないが、授業内でUIデザインの基礎について触れる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
原則としてチーム制作（受講人数により1チーム3～5名程度）とする。課題制作とその指導を行う演習を中心とし、必要に応じて関連する知識や方法を伝えるための講義を行う。課題制作の進捗に合わせて、プレゼンテーションや内容に対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	全体説明	・全体概要の説明(本授業の目的・意義・スコープ) ・講義(「サービスデザイン・UXデザイン」とは) ・アイスブレイク(既存サービスのリバースエンジニアリング) ・好き語りによるチームビルディング
2	テーマ探索 リサーチ計画・実施	・講義(リサーチの目的・手法・プロセスについて) ・個人/グループワーク(テーマの探索・仮説立案) ・グループワーク(リサーチ計画・リサーチ)
3	リサーチ結果の共有・分析	・講義(リサーチ分析・インサイト発掘・アイディエーション) ・個人/グループワーク(リサーチ結果共有・分析・インサイト発掘)
4	アイディエーション）	・個人/グループワーク(アイディエーション) 解説：ペルソナ、ジャーニーマップづくりの紹介と実践
5	アイデア中間発表	・アイデア全体発表(リサーチ結果にもとづくアイデアの発表) ・講義(UX検討・ビジネスモデリング・フィジビリティ検証)
6	UX検討 ビジネスモデリング フィジビリティ検証	・個人/グループワーク(アイデアブラッシュアップ・コンセプトアップ)
7	プロトタイピング ユーザーテスト(UX課題点の抽出)	・講義(プロトタイピング・ユーザーテスト) ・個人/グループワーク(プロトタイピング・ユーザーテスト)
8	サービスアイデアのブラッシュアップ	・グループワーク(アイデアブラッシュアップ・ユーザーテスト)
9	UIデザイン ユーザーテスト(UI課題点の抽出)	・講義(UIデザイン・ユーザーテスト) ・個人/グループワーク(UIデザイン・ユーザーテスト)
10	サービス詳細化	・グループワーク(UIデザイン・サービス詳細化)
11	プレゼンテーション作成	・講義(サービス提案のプレゼンテーション) ・個人/グループワーク(最終提案骨子制作)
12	提案のブラッシュアップ	・グループワーク(最終提案資料作成)
13	最終プレゼンテーション	・最終プレゼンテーション
14	最終プレゼンテーション 総評	・最終プレゼンテーション ・総評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、1回につき各2時間を標準とする。日常生活で感じる課題や不満を内省的に観察すると共に、身辺の製品・サービスの意図や構造を考察すること。

【テキスト（教科書）】
特になし。適宜、授業内で参考資料、文献、サイト等を紹介する。

【参考書】
1.「This is Service Design Thinking 日本語版」マーク・スティックドーンほか編著/ビー・エヌ・エヌ新社
2.「This is Service Design Doing サービスデザインの実践」マーク・スティックドーンほか 編, ビー・エヌ・エヌ新社
3.「デザインリサーチの教科書」木浦幹雄 著,ビー・エヌ・エヌ新社
4.「リーン・スタートアップ」伊藤穣一ほか著,日経BP
5.「起業の科学 スタートアップサイエンス」田所雅之著,日経BP
6.「ビジネスモデル図鑑2.0」近藤哲郎著, KADOKAWA

【成績評価の方法と基準】
出席・授業態度（40点）
提出物（20点）
プレゼンテーション内容（40点）
総合点が90点以上をSとし、
89～87点をA+、86～83点をA、82～80点をA-
79～77点をB+、76～73点をB、72～70点をB-
69～67点をC+、66～63点をC、62～60点をC-
60点未満をDとする。

5コマ欠席および連続3日欠席の受講生は成績評価対象外とする。なお15分以上の遅刻は2回で1回の欠席扱いとなる。(ただし正当な理由がある場合は欠席・遅刻ともその限りではない。)

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【学生が準備すべき機器他】
PC（プレゼン資料作成)、必要に応じてプロトタイピングツール（AdobeXD など）や、オンラインホワイトボードツール（Miro など)、授業内で紹介する無料のアプリなど。必要に応じてプロトタイプ制作用の素材（紙や画材など）や加工道具が必要となる。

【その他の重要事項】
サービスデザイナー/UIUXデザイナーとしての経験を有する教員が、実務で必要な知識・経験・考え方に関する指導を行う。
授業終了後に教室で質問を受け付ける，または随時，電子メールで質問を受け付ける．

【Outline (in English)】
【Course outline】
Service design is a design field that approaches the development of complex products and services from a holistic perspective that encompasses technology, creativity, and business. In this class, we will plan a new service with an emphasis on user experience , and acquire a basic perspective on service design through a series of processes from research to idea generation, prototyping, and presentation.
This year's theme is "Intrinsic motivation," and the students will plan a service based on their own area of interest, and conduct an exercise in preparation for a presentation to investors.
【Learning Objectives】
The goal is to learn the basic service design process through thematic assignments and to communicate the devised service in an attractive manner.
Students will be required to make a presentation and a prototype of their service. In addition, UI (applications, websites, etc.) is not required, but the basics of UI design will be covered in class.
【Learning activities outside of classroom】
The standard preparation and review time for this class is two hours each.
Students should observe the frustrations they feel in their daily lives and consider the intentions and structures of the products and services around them.
【Grading Criteria /Policy)】
Attendance and class attitude (40 points)
Submission of work (20 points)
Presentation content (40 points)
A total score of 90 or higher is considered an S.
A+ for 89-87, A for 86-83, A- for 82-80
A+ for 89-87, A for 86-83, A- for 82-80, B+ for 79-77, B for 76-73, B- for 72-70, C+ for 69-67, and C- for 69-67.
A score of 69 to 67 is C+, 66 to 63 is C, 62 to 60 is C-.
A score of less than 60 is considered a D.
Students who are absent for 5 classes or 3 consecutive days will not be graded. Students who are tardy for more than 15 minutes will be counted as one absence. (However, if there is a valid reason, both absences and tardies will not be counted as one absence.)

MEC200ND（機械工学 / Mechanical engineering 200）

メカニカルデザイン演習

山田　泰之

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half)　｜　選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
動きをともなうあらゆる製品には「機構（メカニズム）」が存在する．機構はメカニカルな製品を企画・設計（デザイン）するにあたり，デザイナ，エンジニアが理解しておかなければならない重要な要素である．本演習では，自動車，家電，文房具，玩具など普段から身近にあるプロダクトのメカニカルデザインを題材として、リンク機構やカム機構，伝動装置，歯車など主な機械要素を用いた設計の基礎について学修する．実際に機構の分解組立てや，簡単な設計課題の演習を通じて，メカニズムデザインしながら理解を深める．

【到達目標】
・基本的な機械の機構（メカニズム）やその運動を理解できる．
・小規模な機構（メカニズム）を含むシステムを企画・設計（デザイン）できる．
・小規模な機械設計の問題解決のプロセスが実践できる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
演習課授業のため，基本的に対面で実施する．ものづくり実践を行うため，安全のため参加する際の服装についても指示を行う．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	メカニカルデザイン入門	メカニカルデザイン（B期）の要点を復習しつつ，本講義で特に重要な減速機やリンク機構について詳細を説明する．
第2回	機械の分解と図面	デザインから実物、実物からリバースエンジニアリングする際に重要は計測技術として家電製品の分解と，ノギス等を利用した計測演習を行う。
第3回	機械設計と動力学	機械設計における動力学の関係の説明と，それを実践的に学ぶラピットプロトタイピング演習課題を実施する．
第4回	機械設計と動力学	機械設計における動力学の関係の説明と，それを実践的に学ぶラピットプロトタイピング演習課題を実施する．
第5回	機械設計と運動の生成	機械を動かすために必要な，動力，減速機，リンク機構等を簡易的な模型実験により実践的に学ぶ．
第6回	機械設計と運動の生成	機械を動かすために必要な，動力，減速機，リンク機構等を簡易的な模型実験により実践的に学ぶ．
第7回	デジタルファブリケーション演習	3Dプリンタをはじめとしたデジタルファブリケーションについて実践的に学ぶ
第8回	デジタルファブリケーション演習	3Dプリンタをはじめとしたデジタルファブリケーションについて実践的に学ぶ
第9回	機械設計と運動の生成2 機構の制作	機械を動かすために必要な，動力，減速機，リンク機構等を簡易的な模型実験により実践的に学ぶ．機構を身近な材料で試作する演習を行う．
第10回	機械設計と運動の生成2 機構の制作	機械を動かすために必要な，動力，減速機，リンク機構等を簡易的な模型実験により実践的に学ぶ．機構を身近な材料で試作する演習を行う．
第11回	極限環境でのメカニカルデザイン	宇宙，南極，火山，深海，レースなど様々な極限環境では特殊なメカニカルデザインがなされている．それらの第一線で活躍する研究者，エンジニア，デザイナによる講演
第12回	極限環境でのメカニカルデザイン	宇宙，南極，火山，深海，レースなど様々な極限環境では特殊なメカニカルデザインがなされている．それらの第一線で活躍する研究者，エンジニア，デザイナによる講演
第13回	機構の創作	演習課題に対して各個人が制作した成果物のメカニズムについてスライドと動画を用いて発表審査を行う．
第14回	機構の創作	演習課題に対して各個人が制作した成果物のメカニズムについてスライドと動画を用いて発表審査を行う．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1)シラバスの内容を事前に確認する。
2)メカニカルデザインの基礎知識として，テクノロジ基礎論やメカニカルデザインの内容を復習して活用する．
3）ソリッドワークスで簡単なモデリングが可能なように復習しておく．
本授業はCADオペレーティングを習う授業ではないので，基本的にCADソフトの使い方を指導しない．
3)要求仕様に沿った課題を設計する。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要な教材，資料は適宜紹介する．あるいは電子媒体で配信する．

【参考書】
1)機構学　　ISBN-13: 978-4627668911

【成績評価の方法と基準】
平常時の課題への取り組み（20％）
課題の提出（80％）
により総合的に評価する．
出席回数の少ない学生は評価しない．

【学生の意見等からの気づき】
N/A

【学生が準備すべき機器他】
演習では適宜必要な道具や工具，材料の指示があるため持参する．

【Outline (in English)】
In this program, students acquire the fundamentals of designing high-performance mechanisms using three-dimensional CAD/CAM software with practical training. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

サステイナブルデザイン

中野　淳太

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half)　｜　選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ア〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然エネルギーを利用した建築原理や環境計画手法を習得しながら，建築のサステナブルデザインに関する知識を身につける。パッシブ手法を活用し、なるべく少ないエネルギーで快適に過ごせる住宅を計画する。

【到達目標】
1）自然エネルギーを利用し、環境に低負荷な手法の原理を理解する。
2）自然エネルギー利用の手法をどのように応用するかを習得する。
3）気象データを理解し、その特徴を実社会に応用する方法を習得する。
4）図表や計算を通じて、パッシブ手法を用いた環境計画を習得する。
これらを通して、様々な分野に応用できるサステナブル（持続可能）な技術の応用力を習得することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
授業では、パッシブ手法の基礎に関する講義と計算や図表を用いた環境計画を行う。Excelを用いた計算を行うため、パソコンを持参のこと。最終的に、自分の計画したサステナブル住宅のプレゼンを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	気候特性とクリモグラフ	気候を形成する要素を理解し、その組みあわせによる特性を理解する。
2回	気候特性の分析	気象データから気候特性を分析し、特徴をまとめる。
3回	太陽エネルギーと太陽位置	地球の自転と公転の原理を理解し、太陽エネルギーの特性を理解する。
4回	太陽位置の計算	太陽位置を計算し、季節や地域による太陽位置の違いを理解する。
5回	日射と実効放射	短波長放射（日射）と長波長放射の到達経路と特性を理解する。
6回	日射量と実効放射量の計算	方位に応じた日射量と長波長放射量の求め方を理解する。
7回	建築外皮の熱性能	建築外皮を通じた熱貫流および日射熱取得の原理を理解する。
8回	断熱性能の設計	指定された性能の外皮仕様を設計する。
9回	日除けの原理	開口部に対する日射遮蔽の原理を理解する。
10回	日除けの設計	窓の方位と寸法に適した日除けを設計する。
11回	冷房負荷と暖房負荷	冷房能力および暖房能力を求めるのに必要となる熱負荷の原理を理解する。
12回	外皮性能と自然室温	外皮性能に応じた自然室温を計算し、外皮熱性能の改善を図る。
13回	プレゼンテーション1	自分の計画したサステイナブル住宅について発表・講評をする。
14回	プレゼンテーション2	自分の計画したサステイナブル住宅について発表・講評をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義の理論を復習すること。また，シラバスを読んで次の講義の内容を予習する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
原則として使用せず，必要に応じて講義に関する資料を配布する

【参考書】
田中俊六 他、『最新 建築環境工学』、井上書院
猪岡達夫、『デザイナーのための建築環境計画　熱・日射・風』、丸善出版
など

【成績評価の方法と基準】
時限中に計算、設計等を行い，毎回提出する。毎回の演習（30～50%）とプレゼンテーション（50～70%）により、総合的に判断する。未提出課題が3回を超えた者の評価は行わない。

【学生の意見等からの気づき】
演習は，今まで経験していない内容もあるが，想像力を発揮して課題に対し積極的に取り組むこと。

【学生が準備すべき機器他】
事前の教員の指示に従い、Excelの使えるPC等、製図用具等を持参する。

【その他の重要事項】
講義を聴くだけでなく、各回の演習を通じた環境計画手法の習得が重要である。

【Outline (in English)】
Course outline: This course aims to acquire engineering knowledge of sustainable design while learning architectural principles and environmental planning methods that utilize natural energy. Students will plan a house that uses as little energy as possible while maitaining comfort.
Learning Objectives:1) Understand the principles of methods that utilize natural energy and have a low impact on the environment. (2) Learn how to apply the methods of natural energy utilization. (3) Understand weather data and learn how to apply its characteristics to the building design. (4) Master environmental planning using passive methods through charts and calculations.
Through these, the goal is to acquire the ability to apply sustainable technology that can be applied to various fields.
Learning activities outside of classroom: Students are required to study the relevant parts of the textbook in advance. In addition, students are expected to review the textbook and perform similar exercises in the textbook. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy: The evaluation will be based on a total of 30-50% of the exercises and 50-70% of the final presentation.

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

サステイナブルデザイン

中野　淳太

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half)　｜　選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ア〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然エネルギーを利用した建築原理や環境計画手法を習得しながら，建築のサステナブルデザインに関する知識を身につける。パッシブ手法を活用し、なるべく少ないエネルギーで快適に過ごせる住宅を計画する。

【到達目標】
1）自然エネルギーを利用し、環境に低負荷な手法の原理を理解する。
2）自然エネルギー利用の手法をどのように応用するかを習得する。
3）気象データを理解し、その特徴を実社会に応用する方法を習得する。
4）図表や計算を通じて、パッシブ手法を用いた環境計画を習得する。
これらを通して、様々な分野に応用できるサステナブル（持続可能）な技術の応用力を習得することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
授業では、パッシブ手法の基礎に関する講義と計算や図表を用いた環境計画を行う。Excelを用いた計算を行うため、パソコンを持参のこと。最終的に、自分の計画したサステナブル住宅のプレゼンを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	気候特性とクリモグラフ	気候を形成する要素を理解し、その組みあわせによる特性を理解する。
2回	気候特性の分析	気象データから気候特性を分析し、特徴をまとめる。
3回	太陽エネルギーと太陽位置	地球の自転と公転の原理を理解し、太陽エネルギーの特性を理解する。
4回	太陽位置の計算	太陽位置を計算し、季節や地域による太陽位置の違いを理解する。
5回	日射と実効放射	短波長放射（日射）と長波長放射の到達経路と特性を理解する。
6回	日射量と実効放射量の計算	方位に応じた日射量と長波長放射量の求め方を理解する。
7回	建築外皮の熱性能	建築外皮を通じた熱貫流および日射熱取得の原理を理解する。
8回	断熱性能の設計	指定された性能の外皮仕様を設計する。
9回	日除けの原理	開口部に対する日射遮蔽の原理を理解する。
10回	日除けの設計	窓の方位と寸法に適した日除けを設計する。
11回	冷房負荷と暖房負荷	冷房能力および暖房能力を求めるのに必要となる熱負荷の原理を理解する。
12回	外皮性能と自然室温	外皮性能に応じた自然室温を計算し、外皮熱性能の改善を図る。
13回	プレゼンテーション1	自分の計画したサステイナブル住宅について発表・講評をする。
14回	プレゼンテーション2	自分の計画したサステイナブル住宅について発表・講評をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義の理論を復習すること。また，シラバスを読んで次の講義の内容を予習する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
原則として使用せず，必要に応じて講義に関する資料を配布する

【参考書】
田中俊六 他、『最新 建築環境工学』、井上書院
猪岡達夫、『デザイナーのための建築環境計画　熱・日射・風』、丸善出版
など

【成績評価の方法と基準】
時限中に計算、設計等を行い，毎回提出する。毎回の演習（30～50%）とプレゼンテーション（50～70%）により、総合的に判断する。未提出課題が3回を超えた者の評価は行わない。

【学生の意見等からの気づき】
演習は，今まで経験していない内容もあるが，想像力を発揮して課題に対し積極的に取り組むこと。

【学生が準備すべき機器他】
事前の教員の指示に従い、Excelの使えるPC等、製図用具等を持参する。

【その他の重要事項】
講義を聴くだけでなく、各回の演習を通じた環境計画手法の習得が重要である。

【Outline (in English)】
Course outline: This course aims to acquire engineering knowledge of sustainable design while learning architectural principles and environmental planning methods that utilize natural energy. Students will plan a house that uses as little energy as possible while maitaining comfort.
Learning Objectives:1) Understand the principles of methods that utilize natural energy and have a low impact on the environment. (2) Learn how to apply the methods of natural energy utilization. (3) Understand weather data and learn how to apply its characteristics to the building design. (4) Master environmental planning using passive methods through charts and calculations.
Through these, the goal is to acquire the ability to apply sustainable technology that can be applied to various fields.
Learning activities outside of classroom: Students are required to study the relevant parts of the textbook in advance. In addition, students are expected to review the textbook and perform similar exercises in the textbook. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy: The evaluation will be based on a total of 30-50% of the exercises and 50-70% of the final presentation.

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

サステイナブルデザイン

中野　淳太

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half)　｜　選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ア〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然エネルギーを利用した建築原理や環境計画手法を習得しながら，建築のサステナブルデザインに関する知識を身につける。パッシブ手法を活用し、なるべく少ないエネルギーで快適に過ごせる住宅を計画する。

【到達目標】
1）自然エネルギーを利用し、環境に低負荷な手法の原理を理解する。
2）自然エネルギー利用の手法をどのように応用するかを習得する。
3）気象データを理解し、その特徴を実社会に応用する方法を習得する。
4）図表や計算を通じて、パッシブ手法を用いた環境計画を習得する。
これらを通して、様々な分野に応用できるサステナブル（持続可能）な技術の応用力を習得することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
授業では、パッシブ手法の基礎に関する講義と計算や図表を用いた環境計画を行う。Excelを用いた計算を行うため、パソコンを持参のこと。最終的に、自分の計画したサステナブル住宅のプレゼンを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	気候特性とクリモグラフ	気候を形成する要素を理解し、その組みあわせによる特性を理解する。
2回	気候特性の分析	気象データから気候特性を分析し、特徴をまとめる。
3回	太陽エネルギーと太陽位置	地球の自転と公転の原理を理解し、太陽エネルギーの特性を理解する。
4回	太陽位置の計算	太陽位置を計算し、季節や地域による太陽位置の違いを理解する。
5回	日射と実効放射	短波長放射（日射）と長波長放射の到達経路と特性を理解する。
6回	日射量と実効放射量の計算	方位に応じた日射量と長波長放射量の求め方を理解する。
7回	建築外皮の熱性能	建築外皮を通じた熱貫流および日射熱取得の原理を理解する。
8回	断熱性能の設計	指定された性能の外皮仕様を設計する。
9回	日除けの原理	開口部に対する日射遮蔽の原理を理解する。
10回	日除けの設計	窓の方位と寸法に適した日除けを設計する。
11回	冷房負荷と暖房負荷	冷房能力および暖房能力を求めるのに必要となる熱負荷の原理を理解する。
12回	外皮性能と自然室温	外皮性能に応じた自然室温を計算し、外皮熱性能の改善を図る。
13回	プレゼンテーション1	自分の計画したサステイナブル住宅について発表・講評をする。
14回	プレゼンテーション2	自分の計画したサステイナブル住宅について発表・講評をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義の理論を復習すること。また，シラバスを読んで次の講義の内容を予習する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
原則として使用せず，必要に応じて講義に関する資料を配布する

【参考書】
田中俊六 他、『最新 建築環境工学』、井上書院
猪岡達夫、『デザイナーのための建築環境計画　熱・日射・風』、丸善出版
など

【成績評価の方法と基準】
時限中に計算、設計等を行い，毎回提出する。毎回の演習（30～50%）とプレゼンテーション（50～70%）により、総合的に判断する。未提出課題が3回を超えた者の評価は行わない。

【学生の意見等からの気づき】
演習は，今まで経験していない内容もあるが，想像力を発揮して課題に対し積極的に取り組むこと。

【学生が準備すべき機器他】
事前の教員の指示に従い、Excelの使えるPC等、製図用具等を持参する。

【その他の重要事項】
講義を聴くだけでなく、各回の演習を通じた環境計画手法の習得が重要である。

【Outline (in English)】
Course outline: This course aims to acquire engineering knowledge of sustainable design while learning architectural principles and environmental planning methods that utilize natural energy. Students will plan a house that uses as little energy as possible while maitaining comfort.
Learning Objectives:1) Understand the principles of methods that utilize natural energy and have a low impact on the environment. (2) Learn how to apply the methods of natural energy utilization. (3) Understand weather data and learn how to apply its characteristics to the building design. (4) Master environmental planning using passive methods through charts and calculations.
Through these, the goal is to acquire the ability to apply sustainable technology that can be applied to various fields.
Learning activities outside of classroom: Students are required to study the relevant parts of the textbook in advance. In addition, students are expected to review the textbook and perform similar exercises in the textbook. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy: The evaluation will be based on a total of 30-50% of the exercises and 50-70% of the final presentation.

DES200NA（デザイン学 / Design science 200）

ランドスケープデザイン

大木　一、保　清人

開講時期：春学期授業/Spring　｜　選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ランドスケープデザインの基礎知識や実例の見学を通じて設計手法を理解する。さらに具体的な敷地における設計課題に取り組み、ランドスケープデザインの検討プロセスを体験する。

【到達目標】
ランドスケープデザインが取り扱う領域の内容や計画手法の概要を理解する。また、具体的な敷地におけるランドスケープデザインの検討プロセスを理解する。

【修得できる能力】
（A）歴史・文化・自然の理解・尊重　30%
（B）技術者倫理　30%
（C）工学基礎学力　20%
（D）専門基礎学力
（E）専門知識の活用・応用能力
（F）総合デザイン能力　20%
（G）コミュニケーション能力
（H）継続的学習能力
（I）業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本授業は講義，見学会，設計演習によって構成される。はじめにランドスケープデザインの概要についての講義を実施する。その後グループにより設計演習課題に取り組む。演習課題は毎回のエスキス（設計案を持参し講師の指導を受ける）によってブラッシュアップさせる。そのため授業時間外に設計案の検討を行う必要がある。また、演習課題の進捗に応じ，ゲストによるレクチャー等を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス・ランドスケープ概論1	ランドスケープの領域性や計画概論を学ぶ
(2)	ランドスケープ概論2/敷地調査	実例を交えての設計手法等を学ぶ
(3)	設計演習/現地調査・結果のまとめ	現地を歩き、土地の文脈等を調べて必要な機能を検討する
(4)	ファーストインプレッション	調査した内容を踏まえ、各自で提案方針の発表を行う
(5)	設計演習/敷地分析・コンセプト	現地調査を基に敷地のポテンシャルを読み解く
(6)	設計演習/配置計画・ゾーニング	配置計画や動線を地形を操作しながら検討する
(7)	設計演習/中間発表1・ゲストレクチャー	ゲスト講師を招いてのミニレクチャーと中間発表を行う
(8)	設計演習/配置計画・空間デザイン	具体的な仕上げや植栽も含めた空間デザインを検討する
(9)	設計演習/空間デザイン	具体的な仕上げや植栽を含めた空間デザインの内容を深化させる
(10)	ゲストレクチャー/講評	ランドスケープデザインのゲスト講師を招いてのレクチャーとミニ講評を行う
(11)	設計演習/中間発表2	プレゼンボードに提案内容をまとめて発表する
(12)	設計演習/ブラッシュアップランドスケープ概論3	課題の進捗に合わせてランドスケープデザインの具体的な技法について学ぶ
(13)	設計演習/ブラッシュアップ	提案内容・プレゼンのブラッシュアップを進める
(14)	設計演習/講評会	提案に関する最終講評を行い、講師のフィードバックを受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
2　課題対象地の敷地分析
3・4　設計コンセプト案の検討
5　ゾーニング・配置計画の検討
6　中間発表準備
7・8　配置計画・空間デザインの検討
9　空間デザインの検討
10　中間発表準備
11・12　提案内容のブラッシュアップ
13　講評会準備
14　最終提出物の作成
本授業の準備・復習時間は，各回2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。資料は授業中に適宜配布する。

【参考書】
忽那裕樹他：図解パブリックスペースのつくりかた（学芸出版社）
長谷川浩己：風景にさわる（丸善出版）
小野寺康：広場のデザイン（彰国社）
武田史朗編著：テキスト ランドスケープデザインの歴史（学芸出版社）
JLAU：ランドスケープアーキテクトになる本I，II（マルモ出版）

【成績評価の方法と基準】
中間発表（2回）の内容（30%），最終講評および成果品の内容（70%）による。
発表時やエスキス時の積極性や良好なデザインには個人に対して加点を行う。
中間発表・最終講評の欠席者には単位取得を認めない（評価D）。
欠席4回以上は単位取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】
グループ分けのタイミングを個人の提案後に行う。

【学生が準備すべき機器他】
設計案検討のため、製図用具・模型製作用具が必要となる。模型材料はグループ内で費用負担して購入する。
検討や成果品作成のため、貸与パソコン等のノートPCを用いた作業が必要となる。

【その他の重要事項】
実際のランドスケープデザインに携わる実務者が、デザインの考え方や設計手法を踏まえて授業を行う。
オフィスアワーについて，質問等は授業終了直後に対応する。

【Outline (in English)】
（Course outline）
The course will provide students with basic knowledge of landscape design and actual examples of landscape design, as well as an understanding of design techniques through observation of actual examples of landscape design. In addition, students will experience the process of landscape design by working on a design project on a specific site. Understand design techniques through observation of actual examples of landscape design. In addition, students will experience the process of landscape design by working on a design project on a specific site.
（Learning Objectives）

The goal of this course is to provide an overview of the content and planning methods of the areas addressed by landscape design. It also helps to understand the process of landscape design study on a specific site.
（Learning activities outside of classroom）
2 Site analysis of the subject site
3 &4 Examination of proposed design concept
5 Examination of zoning and layout plan
6 Preparation for interim presentation
7 &8 Study of layout plan and spatial design
9 Examination of space design
10 Preparation for mid-term presentation
11 &12 Brush up on proposals
13 Preparation for critique session
14 Preparation for final submission
The standard preparation and review time for this class is 2 hours for each session.
（Grading Criteria /Policy）
The content of the midterm presentations (twice) (30%) and the final critique and deliverables (70%) will be considered.
Individual points will be given for positive attitude and good design during presentations and essays.
Students absent from the mid-term presentation and final review will not receive credit (grade D).
No credit for more than four absences (grade D) will be given.

DES200NA（デザイン学 / Design science 200）

ランドスケープデザイン

大木　一、保　清人

開講時期：春学期授業/Spring　｜　選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ランドスケープデザインの基礎知識や実例の見学を通じて設計手法を理解する。さらに具体的な敷地における設計課題に取り組み、ランドスケープデザインの検討プロセスを体験する。

【到達目標】
ランドスケープデザインが取り扱う領域の内容や計画手法の概要を理解する。また、具体的な敷地におけるランドスケープデザインの検討プロセスを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本授業は講義，見学会，設計演習によって構成される。はじめにランドスケープデザインの概要についての講義を実施する。その後グループにより設計演習課題に取り組む。演習課題は毎回のエスキス（設計案を持参し講師の指導を受ける）によってブラッシュアップさせる。そのため授業時間外に設計案の検討を行う必要がある。また、演習課題の進捗に応じ，ゲストによるレクチャー等を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス・ランドスケープ概論1	ランドスケープの領域性や計画概論を学ぶ
(2)	ランドスケープ概論2/敷地調査	実例を交えての設計手法等を学ぶ
(3)	設計演習/現地調査・結果のまとめ	現地を歩き、土地の文脈等を調べて必要な機能を検討する
(4)	ファーストインプレッション	調査した内容を踏まえ、各自で提案方針の発表を行う
(5)	設計演習/敷地分析・コンセプト	現地調査を基に敷地のポテンシャルを読み解く
(6)	設計演習/配置計画・ゾーニング	配置計画や動線を地形を操作しながら検討する
(7)	設計演習/中間発表1・ゲストレクチャー	ゲスト講師を招いてのミニレクチャーと中間発表を行う
(8)	設計演習/配置計画・空間デザイン	具体的な仕上げや植栽も含めた空間デザインを検討する
(9)	設計演習/空間デザイン	具体的な仕上げや植栽を含めた空間デザインの内容を深化させる
(10)	ゲストレクチャー/講評	ランドスケープデザインのゲスト講師を招いてのレクチャーとミニ講評を行う
(11)	設計演習/中間発表2	プレゼンボードに提案内容をまとめて発表する
(12)	設計演習/ブラッシュアップランドスケープ概論3	課題の進捗に合わせてランドスケープデザインの具体的な技法について学ぶ
(13)	設計演習/ブラッシュアップ	提案内容・プレゼンのブラッシュアップを進める
(14)	設計演習/講評会	提案に関する最終講評を行い、講師のフィードバックを受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
2　課題対象地の敷地分析
3・4　設計コンセプト案の検討
5　ゾーニング・配置計画の検討
6　中間発表準備
7・8　配置計画・空間デザインの検討
9　空間デザインの検討
10　中間発表準備
11・12　提案内容のブラッシュアップ
13　講評会準備
14　最終提出物の作成
本授業の準備・復習時間は，各回2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。資料は授業中に適宜配布する。

【参考書】
忽那裕樹他：図解パブリックスペースのつくりかた（学芸出版社）
長谷川浩己：風景にさわる（丸善出版）
小野寺康：広場のデザイン（彰国社）
武田史朗編著：テキスト ランドスケープデザインの歴史（学芸出版社）
JLAU：ランドスケープアーキテクトになる本I，II（マルモ出版）

【成績評価の方法と基準】
中間発表（2回）の内容（30%），最終講評および成果品の内容（70%）による。
発表時やエスキス時の積極性や良好なデザインには個人に対して加点を行う。
中間発表・最終講評の欠席者には単位取得を認めない（評価D）。
欠席4回以上は単位取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】
グループ分けのタイミングを個人の提案後に行う。

【学生が準備すべき機器他】
設計案検討のため、製図用具・模型製作用具が必要となる。模型材料はグループ内で費用負担して購入する。
検討や成果品作成のため、貸与パソコン等のノートPCを用いた作業が必要となる。

【その他の重要事項】
実際のランドスケープデザインに携わる実務者が、デザインの考え方や設計手法を踏まえて授業を行う。
オフィスアワーについて，質問等は授業終了直後に対応する。

【Outline (in English)】
(Course outline)
The course will provide students with basic knowledge of landscape design and actual examples of landscape design, as well as an understanding of design techniques through observation of actual examples of landscape design. In addition, students will experience the process of landscape design by working on a design project on a specific site. Understand design techniques through observation of actual examples of landscape design. In addition, students will experience the process of landscape design by working on a design project on a specific site.
(Learning Objectives)
The goal of this course is to provide an overview of the content and planning methods of the areas addressed by landscape design. It also helps to understand the process of landscape design study on a specific site.
(Learning activities outside of classroom)
2 Site analysis of the subject site
3 &4 Examination of proposed design concept
5 Examination of zoning and layout plan
6 Preparation for interim presentation
7 &8 Study of layout plan and spatial design
9 Examination of space design
10 Preparation for mid-term presentation
11 &12 Brush up on proposals

13 Preparation for critique session
14 Preparation for final submission
The standard preparation and review time for this class is 2 hours for each session.
（Grading Criteria /Policy）
The content of the midterm presentations (twice) (30%) and the final critique and deliverables (70%) will be considered.
Individual points will be given for positive attitude and good design during presentations and essays.
Students absent from the mid-term presentation and final review will not receive credit (grade D).
No credit for more than four absences (grade D) will be given.

DES200NA（デザイン学 / Design science 200）

ランドスケープデザイン

大木　一、保　清人

開講時期：春学期授業/Spring　｜　選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ランドスケープデザインの基礎知識や実例の見学を通じて設計手法を理解する。さらに具体的な敷地における設計課題に取り組み、ランドスケープデザインの検討プロセスを体験する。

【到達目標】
ランドスケープデザインが取り扱う領域の内容や計画手法の概要を理解する。また、具体的な敷地におけるランドスケープデザインの検討プロセスを理解する。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎			○		○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本授業は講義，見学会，設計演習によって構成される。はじめにランドスケープデザインの概要についての講義を実施する。その後グループにより設計演習課題に取り組む。演習課題は毎回のエスキス（設計案を持参し講師の指導を受ける）によってブラッシュアップさせる。そのため授業時間外に設計案の検討を行う必要がある。また、演習課題の進捗に応じ，ゲストによるレクチャー等を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス・ランドスケープ概論1	ランドスケープの領域性や計画概論を学ぶ
(2)	ランドスケープ概論2/敷地調査	実例を交えての設計手法等を学ぶ
(3)	設計演習/現地調査・結果のまとめ	現地を歩き、土地の文脈等を調べて必要な機能を検討する
(4)	ファーストインプレッション	調査した内容を踏まえ、各自で提案方針の発表を行う
(5)	設計演習/敷地分析・コンセプト	現地調査を基に敷地のポテンシャルを読み解く
(6)	設計演習/配置計画・ゾーニング	配置計画や動線を地形を操作しながら検討する
(7)	設計演習/中間発表1・ゲストレクチャー	ゲスト講師を招いてのミニレクチャーと中間発表を行う
(8)	設計演習/配置計画・空間デザイン	具体的な仕上げや植栽も含めた空間デザインを検討する
(9)	設計演習/空間デザイン	具体的な仕上げや植栽を含めた空間デザインの内容を深化させる
(10)	ゲストレクチャー/講評	ランドスケープデザインのゲスト講師を招いてのレクチャーとミニ講評を行う
(11)	設計演習/中間発表2	プレゼンボードに提案内容をまとめて発表する
(12)	設計演習/ブラッシュアップランドスケープ概論3	課題の進捗に合わせてランドスケープデザインの具体的な技法について学ぶ
(13)	設計演習/ブラッシュアップ	提案内容・プレゼンのブラッシュアップを進める
(14)	設計演習/講評会	提案に関する最終講評を行い、講師のフィードバックを受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
2　課題対象地の敷地分析
3・4　設計コンセプト案の検討
5　ゾーニング・配置計画の検討
6　中間発表準備
7・8　配置計画・空間デザインの検討
9　空間デザインの検討
10　中間発表準備
11・12　提案内容のブラッシュアップ
13　講評会準備
14　最終提出物の作成
本授業の準備・復習時間は，各回2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。資料は授業中に適宜配布する。

【参考書】
忽那裕樹他：図解パブリックスペースのつくりかた（学芸出版社）
長谷川浩己：風景にさわる（丸善出版）
小野寺康：広場のデザイン（彰国社）
武田史朗編著：テキスト ランドスケープデザインの歴史（学芸出版社）他

【成績評価の方法と基準】
中間発表の内容（30%），最終講評および成果品の内容（70%）による。発表時やエスキス時の積極性や良好なデザインには個人に対して加点を行う。
中間発表・最終講評の欠席者には単位取得を認めない（評価D）。
欠席４回以上は単位取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】
グループ分けのタイミングを個人の提案後に行う。

【学生が準備すべき機器他】
設計案検討のため、製図用具・模型製作用具が必要となる。模型材料はグループ内で費用負担して購入する。
検討や成果品作成のため、貸与パソコン等のノートPCを用いた作業が必要となる。

【その他の重要事項】
実際のランドスケープデザインに携わる実務者が、デザインの考え方や設計手法を踏まえて授業を行う。
オフィスアワーについて，質問等は授業終了直後に対応する。

【Outline (in English)】
（Course outline）
The course will provide students with basic knowledge of landscape design and actual examples of landscape design, as well as an understanding of design techniques through observation of actual examples of landscape design. In addition, students will experience the process of landscape design by working on a design project on a specific site. Understand design techniques through observation of actual examples of landscape design. In addition, students will experience the process of landscape design by working on a design project on a specific site.
（Learning Objectives）
The goal of this course is to provide an overview of the content and planning methods of the areas addressed by landscape design. It also helps to understand the process of landscape design study on a specific site.
（Learning activities outside of classroom）
2 Site analysis of the subject site
3 &4 Examination of proposed design concept
5 Examination of zoning and layout plan
6 Preparation for interim presentation

7 &8 Study of layout plan and spatial design
9 Examination of space design
10 Preparation for mid-term presentation
11 &12 Brush up on proposals
13 Preparation for critique session
14 Preparation for final submission
The standard preparation and review time for this class is 2 hours for each session.
（Grading Criteria /Policy）
The content of the midterm presentations (twice) (30%) and the final critique and deliverables (70%) will be considered.
Individual points will be given for positive attitude and good design during presentations and essays.
Students absent from the mid-term presentation and final review will not receive credit (grade D).
No credit for more than four absences (grade D) will be given.

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

環境工学

中野　淳太

開講時期：春学期授業/Spring　｜　選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
建築は、内部に快適な環境を創りだすとともに、周囲に対する悪影響（負荷）を最小限におさえなければならない。環境要素として熱，空気，光，音、太陽を取り上げ、これらが人間に与える影響を理解するとともに、環境をコントロールするための建築的手法（パッシブデザイン）と建築設備（アクティブデザイン）の役割を習得する。

【到達目標】
環境要素が人体に与える影響および建築の環境デザインへの応用を習得することを到達目標とする。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
			◎		○	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP4」、都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
各回の講義でテーマが設定されており、物理的側面からの解説と環境デザインへの応用事例から構成されている。身の回りにある環境デザインを意識し、授業中に出される課題に取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	ガイダンス、気候と伝統的民家	世界各地の気候特性、伝統的民家の気候適応
2回	人と環境01　温熱環境	体温調節機能、暑さ・寒さの感覚、温熱環境6要素、行動性体温調節
3回	人と環境02　光環境	目の構造、明るさ・まぶしさの感覚、昼光照明、人工照明
4回	人と環境03　空気環境	衛生と換気、汚染物質、自然換気、機械換気
5回	人と環境04　音環境	耳の構造、音の大きさ・高さ・音色、遮音と吸音
6回	人と環境05　健康と知的生産性	住環境と健康、執務環境と知的生産性、最新オフィスの設計
7回	建築デザインと環境01　太陽光	直射光と天空光、採光窓、室内での光の拡散
8回	建築デザインと環境02　熱	太陽熱・日射、日除け、断熱・気密、ソーラーハウス
9回	建築デザインと環境03　空気と風	室内空気の流れ、採風、煙突効果、ビル風
10回	建築デザインと環境04　環境デザインの事例紹介	建築環境デザインの事例とできあがるまでのプロセス
11回	建築設備と環境01　身の回りの建築設備	空調設備、給排水設備、電気設備、住宅の建築設備、ビルの建築設備
12回	建築設備と環境02　建築とエネルギー	住宅のエネルギー使用特性、建築物省エネ法、省エネルギー技術、LCCO2
13回	建築設備と環境03　建築設備デザインの事例紹介	建築設備設計デザインの事例、設計のプロセス
14回	講評会	課題のプレゼンテーションと講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で取り上げられる環境要素を意識し、身の回りの環境デザインを発見すると共にその意図を考察し、課題に取り組む。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定しない。適宜、資料を配付する。

【参考書】
田中俊六ほか、『最新 建築環境工学[改訂４版]』，井上書院
荻原廣高ほか、『建築環境デザインのディテール』，彰国社

【成績評価の方法と基準】
各回の課題、最終プレゼンテーションの内容を総合して評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
授業内容を聞くだけにとどめず、理解した内容をノートに取ることが重要である。

【Outline (in English)】
Architecture must create a comfortable environment inside and minimize the negative impact on the surrounding environment. The course focuses on heat, air, light, sound, and the sun to understand their effects on humans and the role of passive and active methods in controlling the environment.　Each lecture has a theme and consists of explanations from the physical aspect and environmental design applications.　Students are expected to become aware of the environmental design around them.　The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.　Evaluation will be made according to the working assignments and presentations.

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

環境工学

中野　淳太

開講時期：春学期授業/Spring　｜　選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
建築は、内部に快適な環境を創りだすとともに、周囲に対する悪影響（負荷）を最小限におさえなければならない。環境要素として熱，空気，光，音、太陽を取り上げ、これらが人間に与える影響を理解するとともに、環境をコントロールするための建築的手法（パッシブデザイン）と建築設備（アクティブデザイン）の役割を習得する。

【到達目標】
環境要素が人体に与える影響および建築の環境デザインへの応用を習得することを到達目標とする。

【修得できる能力】
（A）歴史・文化・自然の理解・尊重
（B）技術者倫理　20%
（C）工学基礎学力　30%
（D）専門基礎学力　30%
（E）専門知識の活用・応用能力　20%
（F）総合デザイン能力
（G）コミュニケーション能力
（H）継続的学習能力
（I）業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP4」、都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
各回の講義でテーマが設定されており、物理的側面からの解説と環境デザインへの応用事例から構成されている。身の回りにある環境デザインを意識し、授業中に出される課題に取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	ガイダンス、気候と伝統的民家	世界各地の気候特性、伝統的民家の気候適応
2回	人と環境01　温熱環境	体温調節機能、暑さ・寒さの感覚、温熱環境6要素、行動性体温調節
3回	人と環境02　光環境	目の構造、明るさ・まぶしさの感覚、昼光照明、人工照明
4回	人と環境03　空気環境	衛生と換気、汚染物質、自然換気、機械換気
5回	人と環境04　音環境	耳の構造、音の大きさ・高さ・音色、遮音と吸音
6回	人と環境05　健康と知的生産性	住環境と健康、執務環境と知的生産性、最新オフィスの設計
7回	建築デザインと環境01　太陽光	直射光と天空光、採光窓、室内での光の拡散
8回	建築デザインと環境02　熱	太陽熱・日射、日除け、断熱・気密、ソーラーハウス
9回	建築デザインと環境03　空気と風	室内空気の流れ、採風、煙突効果、ビル風
10回	建築デザインと環境04　環境デザインの事例紹介	建築環境デザインの事例とできあがるまでのプロセス
11回	建築設備と環境01　身の回りの建築設備	空調設備、給排水設備、電気設備、住宅の建築設備、ビルの建築設備
12回	建築設備と環境02　建築とエネルギー	住宅のエネルギー使用特性、建築物省エネ法、省エネルギー技術、LCCO2
13回	建築設備と環境03　建築設備デザインの事例紹介	建築設備設計デザインの事例、設計のプロセス
14回	講評会	課題のプレゼンテーションと講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で取り上げられる環境要素を意識し、身の回りの環境デザインを発見すると共にその意図を考察し、課題に取り組む。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定しない。適宜、資料を配付する。

【参考書】
田中俊六ほか、『最新 建築環境工学[改訂４版]』，井上書院
荻原廣高ほか、『建築環境デザインのディテール』，彰国社

【成績評価の方法と基準】
課題、最終プレゼンテーションの内容を総合して評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
授業内容を聞くだけにとどめず、理解した内容をノートに取ることが重要である。

【Outline (in English)】
Architecture must create a comfortable environment inside and minimize the negative impact on the surrounding environment. The course focuses on heat, air, light, sound, and the sun to understand their effects on humans and the role of passive and active methods in controlling the environment. Each lecture has a theme and consists of explanations from the physical aspect and environmental design applications. Students are expected to become aware of the environmental design around them. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Evaluation will be made according to the working assignments and presentations.

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

環境工学

中野　淳太

開講時期：春学期授業/Spring　｜　選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
建築は、内部に快適な環境を創りだすとともに、周囲に対する悪影響（負荷）を最小限におさえなければならない。環境要素として熱，空気，光，音、太陽を取り上げ、これらが人間に与える影響を理解するとともに、環境をコントロールするための建築的手法（パッシブデザイン）と建築設備（アクティブデザイン）の役割を習得する。

【到達目標】
環境要素が人体に与える影響および建築の環境デザインへの応用を習得することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP4」、都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
各回の講義でテーマが設定されており、物理的側面からの解説と環境デザインへの応用事例から構成されている。身の回りにある環境デザインを意識し、授業中に出される課題に取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	ガイダンス、気候と伝統的民家	世界各地の気候特性、伝統的民家の気候適応
2回	人と環境01　温熱環境	体温調節機能、暑さ・寒さの感覚、温熱環境6要素、行動性体温調節
3回	人と環境02　光環境	目の構造、明るさ・まぶしさの感覚、昼光照明、人工照明
4回	人と環境03　空気環境	衛生と換気、汚染物質、自然換気、機械換気
5回	人と環境04　音環境	耳の構造、音の大きさ・高さ・音色、遮音と吸音
6回	人と環境05　健康と知的生産性	住環境と健康、執務環境と知的生産性、最新オフィスの設計
7回	建築デザインと環境01　太陽光	直射光と天空光、採光窓、室内での光の拡散
8回	建築デザインと環境02　熱	太陽熱・日射、日除け、断熱・気密、ソーラーハウス
9回	建築デザインと環境03　空気と風	室内空気の流れ、採風、煙突効果、ビル風
10回	建築デザインと環境04　環境デザインの事例紹介	建築環境デザインの事例とできあがるまでのプロセス
11回	建築設備と環境01　身の回りの建築設備	空調設備、給排水設備、電気設備、住宅の建築設備、ビルの建築設備
12回	建築設備と環境02　建築とエネルギー	住宅のエネルギー使用特性、建築物省エネ法、省エネルギー技術、LCCO2
13回	建築設備と環境03　建築設備デザインの事例紹介	建築設備設計デザインの事例、設計のプロセス
14回	講評会	課題のプレゼンテーションと講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で取り上げられる環境要素を意識し、身の回りの環境デザインを発見すると共にその意図を考察し、課題に取り組む。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定しない。適宜、資料を配付する。

【参考書】
田中俊六ほか、『最新 建築環境工学[改訂４版]』，井上書院
荻原廣高ほか、『建築環境デザインのディテール』，彰国社

【成績評価の方法と基準】
課題、最終プレゼンテーションの内容を総合して評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
授業内容を聞くだけにとどめず、理解した内容をノートに取ることが重要である。

【Outline (in English)】
Architecture must create a comfortable environment inside and minimize the negative impact on the surrounding environment. The course focuses on heat, air, light, sound, and the sun to understand their effects on humans and the role of passive and active methods in controlling the environment. Each lecture has a theme and consists of explanations from the physical aspect and environmental design applications. Students are expected to become aware of the environmental design around them. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Evaluation will be made according to the working assignments and presentations.

ADE200NB（建築学 / Architecture and building engineering 200）

建築計画１

岩佐　明彦

開講時期：春学期授業/Spring　｜　選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　建築計画学とは建築設計おいて規範となる理論であり，人体寸法，動作特性，知覚，心理，文化的文脈，コミュニケーション，作業効率，社会制度など様々な決定根拠がその背景にある．
　本講は建築設計初学者を対象とし、身近な事例を手がかりに建築空間とその決定原理の関係を理解するとともに、建築設計において適切に決定原理を適用するための基礎を学ぶ。

【到達目標】
・設計事例からその空間の意図を読み取るとともに、そこで行われる活動を想定する技術を身につける。
・建築空間を規定する原理や根拠を理解する。
・建築設計において適切に決定原理を適用するための基礎を身につける。
・設計根拠の導出を通して社会・文化と建築設計を接続して思考する視点を身につける。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
		○	◎			

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・各回のテーマに従って解説と演習を行う。
・デザインスタジオと連携し、デザインスタジオで必要とされる知識や情報を適宜提供する。
・講義内で演習を行う。
・講義の内容（順序）は変更になる可能性がある。
・「建築計画２」と併せて履修することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／建築設計と決定根拠	身近な場所に学ぶ空間の決定原理 DS3課題の補足解説
第2回	住む１／住戸・住宅	環境の中の距離・寸法 用途や動作で規定される空間
第3回	住む２／住宅＋α	図式化による空間の理解
第4回	働く１／オフィス・コワーキングスペース	用途や動作で規定される空間 室と場面
第5回	働く２／オフィス・コワーキングスペース	知的生産性と環境 ワーケーション
第6回	育てる１／幼稚園・保育園・こども園	目的・制度・ユーザー・行為から考える幼稚園 DS3課題の補足解説
第7回	育てる２／幼稚園・保育園・こども園	子供環境を考える DS3課題の事例解説
第8回	知る１／図書館	プログラムと建築 情報媒体の進化と建築の変化
第9回	知る２／図書館	蔵書の拡大と建築の変化
第10回	知る３／図書館	機能分化と平面計画
第11回	知る４／図書館	知の広場としての図書館 「本」の役割の変化
第12回	教える・学ぶ１／学校・ラーニングセンター	学びと環境
第13回	教える・学ぶ２／学校・ラーニングセンター	教育システムと建築
第14回	災害と建築／避難所	セーフティネットと建築

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で紹介したキーワードおよび建物事例についての理解を深めるために、授業後に各自で調べ、知識を整理・把握することが必要である。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
「建築計画のリベラルアーツ―社会を読み解く12章」朝倉書店

【参考書】
建築計画教科書（彰国社）
コンパクト建築設計資料集成（丸善）
住宅特集、新建築、GA HOUSEなどの各建築雑誌

【成績評価の方法と基準】
・講義内の演習課題（５０%）
・レポート課題（５０%）
・レポートに関しては、インターネットの記事や他に提出されたレポートに甚だしく類似した内容のものは評価外とする。
・合計100点満点中60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
オンライン形式のため、PCの使用は必須である。
資料配布はpdfで行うが、一部資料はプリントアウトが必要である。
講義内の演習で色鉛筆（１２色程度）と細ペン（0.3～0.5mm）を使用するので準備すること。

【その他の重要事項】
・DS3に関連した項目を取り扱うため、DS3と併せて履修することが望ましい。
・提出物に学籍番号・名前をきちんと記載すること。記載がない場合、評価不能（未提出扱い）となるので注意すること。
・レポート等を提出する際に、アップロード先（提出フォルダ）を間違える学生が散見されるので十分に注意すること。

【Outline (in English)】
[Course outline]
　Architectural planning is a normative theory of architectural design, which is based on various decision-making principles such as human dimensions, motion characteristics, perception, psychology, cultural context, communication, work efficiency, and social systems.
　This course is intended for beginning architectural designers to understand the relationship between architectural space and its decision-making principles using familiar examples, and to learn the basics of applying decision-making principles appropriately in architectural design.
[Learning Objectives]
To understand the intention of the space from design examples and to acquire the skills to envision the activities that will take place in the space.
To understand the principles and rationale that define architectural space.
To acquire the basis for applying the principles of decision making appropriately in architectural design.
To acquire the viewpoint to think about the connection between society and culture and architectural design through the derivation of design rationale.
[Learning activities outside of classroom]
In order to deepen your understanding of the keywords and building examples introduced in class, it is necessary to organize and grasp your knowledge by doing your own research after class.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria/Policy]
Exercises in the lecture (50%)
Report assignment (50%)

ADE200NB（建築学 / Architecture and building engineering 200）

建築計画２

岩佐　明彦

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　建築計画学とは建築設計おいて規範となる理論であり、人体寸法、動作特性、知覚、心理、文化的文脈、コミュニケーション、作業効率、社会制度など様々な決定根拠がその背景にある。
　本講は「建築計画学１」で学んだ知識を更に発展させ、より広範な社会の仕組みや制度と建築空間の関係を理解するとともに、建築設計を通して社会に貢献していくための手法を学ぶ。

【到達目標】
・建築空間を規定する原理や根拠の理解を通して、建築と社会・文化とのつながりを学ぶ。
・空間の意図やそこで行われる活動を建築設計にフィードバックする技術を身につける。
・社会の課題解決の手法としての建築設計の役割を理解する。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
		○	◎			

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・「建築計画１」が履修済みであることが望ましい。
・各回のテーマに従って解説と演習を行う。
・デザインスタジオと連携し、デザインスタジオで必要とされる知識や情報を適宜提供する。
・講義内で演習を行う。
・講義の内容（順序）は変更になる可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	社会と建築は合せ鏡である DS4 課題解説
2	集う１／集合住宅・住宅地	住宅供給と社会
3	集う２／集合住宅・住宅地	住戸配置の計画 住戸のアクセス形式
4	集う３／集合住宅・住宅地	住戸の平面計画 都市と集合住宅
5	鑑る１／美術館・博物館	美術館の歴史 DS4 課題解説
6	鑑る２／美術館・博物館	美術館の計画（展示室）
7	鑑る３／美術館・博物館	第４世代の美術館
8	住の多様性１	コーポラティブ住宅 シェアハウス
9	住の多様性２	暮らし方と住宅計画
10	住の多様性３	ポストコロナの建築計画
11	セーフティネット１／応急仮設	応急仮設住宅 危機的環境移行を支える建築
12	セーフティネット２／災害復興	復興公営住宅
13	セーフティネット３／高齢社会	グループホーム コレクティブハウス
14	演じる／劇場	演劇空間の計画

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で紹介したキーワードおよび建物事例についての理解を深めるために、授業後に各自で調べ、知識を整理・把握することが必要。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「建築計画のリベラルアーツ―社会を読み解く12章」朝倉書店

【参考書】
建築計画教科書（彰国社）
コンパクト建築設計資料集成（丸善）
住宅特集、新建築、GA HOUSEなどの各建築雑誌
建築と都市のパブリックスペース（鹿島出版会）
アクティビティを設計せよ（彰国社）

【成績評価の方法と基準】
・講義内の演習課題（５０%）
・レポート課題（５０%）
・レポートに関しては、インターネットの記事や他に提出されたレポートに甚だしく類似した内容のものは評価外とする。
・合計100点満点中60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
なし

【学生が準備すべき機器他】
オンライン形式のため、PCの使用は必須である。
資料配布はpdfで行うが、一部資料はプリントアウトが必要である。
講義内の演習で色鉛筆（１２色程度）と細ペン（0.3～0.5mm）を使用するので準備すること。

【その他の重要事項】
・DS4に関連した項目を取り扱うため、DS4と併せて履修することが望ましい。
・提出物に学籍番号・名前をきちんと記載すること。記載がない場合、評価不能（未提出扱い）となるので注意すること。
・レポート等を提出する際に、アップロード先（提出フォルダ）を間違える学生が散見されるので十分に注意すること。

【Outline (in English)】
[Course outline]
　Architectural planning is a normative theory of architectural design, which is based on various determinants such as human dimensions, behavioral characteristics, perception, psychology, cultural context, communication, work efficiency, and social systems.
　This course is designed to further develop the knowledge acquired in "Architectural Planning 1" to understand the relationship between architectural space and broader social systems and institutions, and to learn methods to contribute to society through architectural design.
[Learning Objectives]
To understand the connection between architecture and society and culture through an understanding of the principles and rationale that define architectural space.
To acquire the skills to feed back the intention of space and the activities that take place in it to architectural design.
To understand the role of architectural design as a method of solving social problems.
[Learning activities outside of classroom]
In order to deepen your understanding of the keywords and building examples introduced in class, it is necessary to organize and grasp the knowledge by doing your own research after class.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria/Policy]
Exercises in the lecture (50%)
Report assignment (50%)

ADE200NB（建築学 / Architecture and building engineering 200）

建築材料

網野　禎昭、永野　尚吾

開講時期：春学期前半/Spring(1st half)　｜　選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
基本的な建築材料の工学的特質はもとより、様々な建築材料が開発されるに至った歴史・社会的な背景、とくに各時代の資源事情などもあわせて解説する。また、この授業では、構法スタジオ１の演習課題を進める上で理解すべきコンクリート基礎や木造軸組構造、仕上工法についても講義する。

【Outline (in English)】
Starting with studies of fundamental engineering characteristics of architectural materials, students will understand the history/social background of various developed materials, particularly looking at information on resources in each period.

【到達目標】
建築材料に技術者として接するだけではなく、これまで諸文明が限りある資源をもとに建設され、数多の問題を乗り越えた結果として現代があるという事実を、現代文明の住人として捉える。実際の建物において建築材料がどのように使われているのか具体的に理解する。
Understanding the application of materials to buildings. Discussing the historical natural resource depletions to understand the importance of symbiosis between our civilization and natural resource application.

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
		○	◎		○	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
主要建築材料の開発背景、加工製造方法、特性、そして、各材が応用された代表的な建築物を紹介する。また、現代で多用される材料については、建築物への応用上の留意点について重点的に解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	コンクリート１	水硬性セメント・鉄筋コンクリートの発明、コンクリートの種類と基本特性
2	コンクリート２	鉄筋コンクリートの施工と管理、基礎工法
3	木材１	森林と林産業、木材の基本特性
4	木材２	木造軸組、木質材料、接合具
5	鋼・非鉄金属	製鉄のしくみ、鋼の基本特性、鋼の加工、鋼の腐食、鋼の生産、非鉄金属
6	断熱	断熱の原理、気体・固体・液体の熱伝導、各種断熱材、ガラスの断熱性
7	防水	防水材料、防水・防湿工法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義で説明のあった建築材料の使われ方を、実際の建築物の観察により確認しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
Observe real buildings to review the application of building materials presented in the lecture. Preparation for the lecture and the review requires two hours respectively.

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
「ぜんぶ絵でわかる１木造住宅」飯塚豊（エクスナレッジ）
「350万円で自分の家をつくる[改訂カラー版]」畠山サトル（エクスナレッジ）

【成績評価の方法と基準】
期末試験の結果（100%）
Evaluate the final exam result.
期末試験の得点60%以上を合格とします。
A passing score of the final exam is 60% or more.

【学生の意見等からの気づき】
実際の材料サンプルの活用。

【学生が準備すべき機器他】
特に使用しない。

【その他の重要事項】
建築設計に携わる教員が実務経験から得た最新の知見を織り交ぜた授業を行う

ADE300NB（建築学 / Architecture and building engineering 300）

木造建築の構法

網野　禎昭

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half)　｜　選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、多数の伝統建築や現代の先端事例を多角的に分析し、木造建築の設計や開発に必要な知識を得ることを目的とする。

【到達目標】
日本、欧州の伝統構法のしくみを理解する。さらに、これら伝統構法の発展形としての現代の諸構法や、さまざまな工業化木質材料を活用した構法についても理解する。
Understanding traditional wooden building constructions in Japan and in Europe. Understanding the evolution of constructions and contemporary varieties including industrialized building systems.

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
	◎	○		◎		

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
各回、実際の木造建築事例をとりあげ、これらを建築設計、構造設計、物理設計、生産施工計画等の諸側面から総合的に分析する。標準的な構法よりも、よりイノベイティヴな実例の解説に重きをおき、学生諸氏の創造力を刺激する考えである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	民家１	地域性と木造民家の形- 日本
2	民家２	地域性と木造民家の形- 欧州
3	民家３	地域性と木造民家の形- 欧州
4	歴史的木橋１	グルーベンマン、パラーディオの橋他、産業革命以前の木橋
5	歴史的木橋２	グルーベンマン、パラーディオの橋他、産業革命以前の木橋
6	現代の木橋１	木造エンジニアによる木橋
7	現代の木橋２	木造エンジニアによる木橋
8	現代の木橋３	木造エンジニアによる木橋
9	塔	Gliwice, Pyramidenkogel, Sauvabelin, Korkeasaariの各塔他
10	大型スパン建築１	梁架構、方杖架構、アーチ、トラス、張弦梁等、様々なフレーム・システム
11	大型スパン建築２	折板、吊屋根、シェル等、様々な面構造システム
12	非戸建木造１	木造集合住宅
13	非戸建木造２	木造によるオフィス、学校建築などの最新実例
14	木造研究	低質木材の活用 木質コンポジット材 非木材林産資源による建築

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
木造建築の挙動を実感するために、「壁－１グランプリ」の見学あるいは参加を勧める。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
Observing “Kabe-1 grand prix” is recommended to understand the behavior of wooden structures. Preparation for the lecture and the review requires two hours respectively.

【テキスト（教科書）】
特に使用しない

【参考書】
Timber Construction Manual

【成績評価の方法と基準】
期末試験結果（100％）による
Evaluate the final exam result.
期末試験の得点60%以上を合格とします。
A passing score of the final exam is 60% or more.

【学生の意見等からの気づき】
写真や図版などの映像資料の質の充実
教員による実作の詳細解説

【学生が準備すべき機器他】
特に使用しない

【その他の重要事項】
建築設計に携わる教員が実務経験から得た最新の知見を織り交ぜた授業を行う

【Outline (in English)】
This course aims to provide the knowledge required for the designing of wooden structures, analyzing a range of diverse traditional and cutting-edge modern construction examples.

ADE300NB（建築学 / Architecture and building engineering 300）

空間の構造デザイン

浜田　英明

開講時期：春学期授業/Spring　｜　選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
構造は建築に力学的安全性を与えると同時に、建築の造形とも大きく関わっている。また、建築構造を理解するには、解析・計算によるアプローチの他に、構造を概念として把握する必要がある。この授業では、様々な構造システムの発想と歴史的変遷、力学的メカニズム、造形上の問題、具体的実現例などを解説し、建築空間における構造デザインの意味についての理解を促す。

【到達目標】
建築物の基本骨格となる様々な構造要素および構造システムの概念をスケッチや図式等を用いて具体的に記述・表現できる程度の、建築家としての基礎的な素養を身につけることを目標とする。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎		○		○	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
テキスト「建築構造のしくみ」に従い、基本的には数式を一切使用することなく、さまざまな建築構造要素・システムについての基本概念を段階的に述べ、それらを応用した構造デザイン例を紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	梁と柱（1）	梁の発生、梁のメカニズム、梁の種類と諸形式
2	梁と柱（2）	梁と柱の構造、マグサ構造、ラーメン構造
3	トラス（1）概説	トラスの原始的発想と現代的発想、迫り持ちトラスと梁トラス
4	トラス（2）メカニズム	迫り持ちトラスのメカニズム、梁トラスのメカニズム、ヒンジ、2次応力、不静定トラス
5	トラス（3）諸形式	平行弦トラスと小屋組トラス、ハウ、プラット、ワーレン、タウン、キングポスト、橋梁トラス
6	アーチ（1）概説	アーチの出現、組積アーチ、ヴォールト、スラスト
7	アーチ（2）メカニズム、諸形式	荷重支持のメカニズム、アーチの形状と荷重、静定・不静定アーチ、アーチの安定
8	ドーム（1）概説	アーチとドーム、パンテオン、組積ドームの発展
9	ドーム（2）メカニズム	球殻、経線応力、緯線応力、古代ドームと近代ドーム、テンショングリング
10	シェル構造	曲面の分類、EPシェル、HPシェル、シェルのメカニズム、膜応力、応力撹乱
11	スペースフレーム	スペースフレームの定義、大量生産、骨組パターンの構成、ジオデシックドーム、B.フラー、均質立体骨組、ジョイント
12	ケーブル構造	ケーブル構造の原理、1方向、2方向、放射方向、吊りケーブル、押えケーブル、コンプレッショングリング
13	膜構造	膜構造、空気膜構造の原理、エアドームとエアアーチ、サスペンション膜、骨組膜
14	タワーと超高層建築 耐震・免震・制振	タワーの変遷と構造システム，超高層建築の変遷と構造システム、耐震、免震、制振

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で紹介された模範的構造デザイン例の見学あるいは建築雑誌等からの資料収集を行う。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
川口衞 他：建築構造のしくみ　力の流れとかたち　第2版（建築の絵本），彰国社

【参考書】
授業内で適宜指示をする。

【成績評価の方法と基準】
評価項目：配分（評価基準等）
演習課題：40％（A～Dの4段階評価で,未提出はD評価）
定期試験：60％（試験の際，各自A4用紙1枚にまとめた直筆メモの持ち込みを許可する）
なお，５回以上欠席したものは成績評価しない
評価素点100点満点中60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
模型を使用した説明の割合を増やす。

【その他の重要事項】
構造設計一級建築士である教員が，自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

【Outline (in English)】
Course outline:
At the same time as lending mechanical stability, structure is strongly related to a building's form.　In order to understand building structure, in addition to approaches through analysis and calculation, comprehending structure as a concept is important.　This course will develop understanding of the meaning of structural design in construction space through elucidating the concepts and historical transitions of various structural systems, mechanisms, problems related to form and solutions of real world problems.
Learning Objectives:
The goal of this course is to provide students with the basic architectural knowledge to the extent that they can describe and express the various structural elements and structural system concepts that form the basic framework of buildings using sketches, diagrams, etc.
Learning activities outside of classroom:
Students will observe exemplary structural design examples introduced in class or collect materials from architectural journals.
Standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria/Policy:
Grading will be based on the results of exercises and periodic examinations.　Students who are absent three times in a row or five times or more in total will not be graded.

ADE300NB（建築学 / Architecture and building engineering 300）

鉄筋コンクリートのデザイン

浜田　英明

開講時期：春学期授業/Spring　｜　選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
鉄筋コンクリート構造に関して，その特性および基本理論，構造設計手法，最新の技術動向について学ぶ。

【到達目標】
基本的な専門用語，コンクリートおよび鉄筋の性質を整理した上で，鉄筋コンクリート構造を含む各種コンクリート系構造の原理を理解すること，鉄筋コンクリート部材の曲げおよびせん断挙動を把握すること，鉄筋コンクリート部材の構造設計の基本的な考え方を修得すること，この3点を目標とする。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
○			○		○	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
鉄筋コンクリートは，現在極めて広範囲に使用されている建築主要材料であり，圧縮には強いが引張に弱いコンクリートを，引張に強い鉄筋で補強した複合材料である。
この授業では，まず，鉄筋コンクリートの主要材料たりうる長所と注意すべき短所について整理する。その後，複合材料としての基本的な力学理論および設計手法について解説していく。
理解の定着を図るために，演習課題や演習・復習授業を適宜実施する。
また，鉄筋コンクリート構造以外の各種コンクリート系構造についても解説し，最新の技術動向について触れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	鉄筋コンクリート概論	授業ガイダンス 鉄筋コンクリートの原理と特徴 コンクリート系構造の基礎知識
2	コンクリートの性質	コンクリートの種類， 応力－ひずみ曲線， 強度，その他の性質
3	鉄筋の性質 鉄筋とコンクリートの付着	鉄筋の種類，強度， 応力－ひずみ曲線 鉄筋とコンクリートの付着のしくみ
4	鉄筋コンクリートの力学の基本概念	曲率と平面保持仮定 中心軸圧縮柱の応力計算 付着・定着と配筋の原則
5	梁部材の曲げ設計1 （ひび割れモーメント，許容曲げモーメント）	無筋梁の曲げ挙動 単筋梁の曲げ挙動 複筋梁の曲げ挙動 釣合鉄筋比
6	梁部材の曲げ設計2 （終局曲げモーメント，曲げ変形能力）	単筋梁，複筋梁の終局曲げモーメント モーメント－曲率曲線
7	柱部材の曲げ設計1 （ひび割れモーメント，許容曲げモーメント）	無筋柱の曲げ挙動 鉄筋コンクリート柱の設計基本式 N-M 相関曲線
8	柱部材の曲げ設計2 （終局曲げモーメント，曲げ変形能力）	終局曲げモーメント Nu-Mu 相関曲線 柱の変形能力に関わる要因
9	演習および復習	梁・柱部材の曲げ設計演習 専門用語の整理 ひび割れと配筋方法
10	鉄筋コンクリート部材のせん断挙動	せん断破壊形式 せん断力の伝達メカニズム せん断補強筋の役割
11	梁・柱部材のせん断設計	せん断補強設計の要点 梁・柱の許容せん断耐力 設計用せん断力
12	柱梁接合部のせん断設計	柱梁接合部の種類 接合部まわりの応力状態 柱梁仕口部の設計
13	スラブの設計 壁部材の設計	スラブの種類と力学 スラブの応力計算 たわみと振動障害 耐震壁の役割と力学 許容応力度設計 終局強度
14	各種コンクリート系構造と最新の技術動向	コンクリート系構造の種類 プレストレストコンクリートの特徴と原理 最新の技術動向

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考書等による予習と授業後の復習，宿題の演習課題，これらに積極的に取り組むこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で印刷物を適宜配布するが，下記参考書のうち，自分に合ったものを一冊購入することを勧める。

【参考書】
谷川恭雄 他：鉄筋コンクリート構造　理論と設計，森北出版
市之瀬敏勝：鉄筋コンクリート構造，共立出版
福島正人 他：鉄筋コンクリート構造，森北出版
西谷章：鉄筋コンクリート構造入門，鹿島出版会
日本建築学会：鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説2010，丸善

【成績評価の方法と基準】
評価項目：配分（評価基準等）
演習課題：40%（A～Dの4段階評価で，未提出はD評価）
定期試験：60%（試験の際，各自A4用紙1枚にまとめた直筆メモの持ち込みを許可する）
なお，5回以上欠席したものは成績評価しない。
評価素点100点満点中60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
板書を消すまでの時間をもう少し長くするとともに，学生が説明を十分聞けるように時間配分を調節する。

【その他の重要事項】
この授業とともに「材料のデザイン」「構造計算プログラミング」「エンジニアリングスタジオ」を履修することでさらに理解が深まるので，その履修を強く勧める。
また，建築士資格の取得を目指す学生は受講することを勧める。
構造設計一級建築士である教員が，自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

【Outline (in English)】
Course outline:
In this course students will learn about reinforced concrete structure, including their characteristics and fundamental theory, structural planning process and recent technological developments.
Learning Objectives:
The objectives of this course are threefold: to understand the principles of various concrete structures including reinforced concrete structures, to grasp the flexural and shear behavior of reinforced concrete members, and to master the basic concepts of structural design of reinforced concrete members, after organizing basic terminology and the properties of concrete and steel bars.
Learning activities outside of classroom:
Students are expected to prepare for the class by using reference books, review after class, and actively work on homework exercises and assignments.The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria/Policy:
Grading will be based on the results of exercises and periodic examinations. Students who are absent three times in a row or five times or more in total will not be graded.

ADE200NB（建築学 / Architecture and building engineering 200）

建築生理心理２

加用　現空

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、建築環境と身体との関係を理解する基礎的な知識を踏まえ、それらを建築デザインとして具体化するための方法を学ぶ。体感的な環境経験と建築環境学の知識を統合し、数理的な視点から建築環境のふるまいを捉えることで、身体と環境のつながりをデザインとして構築するための思考と技術を、履修者が身につけることを目的とする。

【到達目標】
・ 身体と環境の関係に着目し、建築環境の状態を構造的に捉えて説明できる。
・ 建築環境のふるまいを表現するための基礎的な数理モデルを構築できる。
・ モデル化した建築環境を用いて、建築デザインの検討を行うことができる。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
		◎			○	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
パワーポイントを用いて講義を展開する。講義資料は配布しないが、講義後復習用に講義録画リンク（Zoom）を公開する。講義は座学を中心に進めるが、授業内演習などを含む。受動的に聴講する授業形式ではなく、履修者同士で話し合いながら理解を深める授業形式を目指す。他履修者の妨げとなる私語は避け、相互に学びを深める学修環境構築への協力を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	講義の目的、概要、プログラムインストール
2	数理モデリング基礎（1）	建築環境学の数理モデリング、環境とシステム、入力と出力
3	数理モデリング基礎（2）	収支式、差分方程式
4	モデリング演習（1）	Grasshopperプログラミング基礎
5	モデリング演習（2）	Grasshopperプログラミング実践
6	パラメトリックスタディ	目的関数、設計変数、制約条件
7	演習（1）	建築形態のデザイン検討（太陽軌道、日射熱取得量）
8	熱収支のモデル化	伝導、対流、放射
9	演習（2）	屋根面構成のデザイン検討
10	光の振る舞いのモデル化	反射、吸収、透過
11	演習（3）	昼光導入のデザイン検討
12	空間換気特性のモデル化	圧力エネルギー、運動エネルギー、熱エネルギー
13	演習（4）	開口位置と開口面積のデザイン検討
14	まとめ	建築デザインに向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
パワーポイントを用いて講義を展開する。講義資料は共有しないが、講義後復習用に講義録画（Zoom）リンクを公開する。講義内容や課題に対する質問はHoppiiの掲示板等で回答する。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
『人・建築・地球とエクセルギー―環境物理学入門』 宿谷昌則著(2024) 建築資料研究社
『エクセルギーと環境の理論: 流れ・循環のデザインとは何か』 宿谷昌則著(2010) 井上書院
『建築環境デザインのディテール　光・熱・風・水・音』荻原廣高（他）著（2024）彰国社
『Parametric Design with Grasshopper　建築／プロダクトのための、Grasshopperクックブック［改訂第3版］』石津優子、堀川淳一郎著（2024）ビー・エヌ・エヌ

【成績評価の方法と基準】
講義中に課す演習課題（30%）、授業後のフィードバックフォームの記入内容（30%）、講義終了後の期末試験（40%）によって判断する予定。なお、試験未受験、課題未提出の者の成績評価は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックはありません。

【Outline (in English)】
Course Outline: In the course "Physiology and Psychology in Building 1", The knowledge about the basics on building physics which focuses on the connection between the human body and the environment. To apply this knowledge in architectural design, the mathematical modelling method is needed. However, the recent computational simulation tools are highly developed and its algorithms are in the black boxes. The aim of the course is to integrate sensitive recognition by the human body and the knowledge of building physics, and to learn applying mathematical modelling methods into architectural design with deductive approach.
Learning Objectives: 1) To acquire the scope to understand the status of the built environment, 2) To understand the basics of mathematical modeling, 3) To develop basic skills of mathematical modeling through exercises.
Learning Activities Outside of The Classroom: The preparation and review time for each lecture is about 2 hours. In particular, students, who don't have a sufficient understanding of the issue at the end of the lecture, are recommended to deepen their understanding before the next lecture.
Grading Criteria /Policy: Grades will be determined by the results of assignments during the course (30%), quality and quantity of the feedback form at the end of each lecture (30%), and the result of the final examination at the end of the course (40%). Grades will not be given to students who have not taken the examination or submitted the assignments.

ADE200NB（建築学 / Architecture and building engineering 200）

建築気候

中野　淳太

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　選択・必修の別：必修
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は建築計画・設計において、直感やひらめきなどの感性で生み出されるデザインとは異なり、理論的に説明でき、定量的に取り扱われる工学的な知識を習得することを目的とします。すなわち、冬の日射、夏の通風の利用、また各のすきま風、夏の日射をいかに防いでより快適な室内環境を創るかなど、積極的に自然エネルギを利用、制御して省エネルギも考慮に入れた優れた建築計画をするための基礎知識を修得するための学問です。従って、本科目で学ぶ分野は主として人間と建築を取り巻く自然環境との関係であり、具体的な項目としては快適条件、日射、室内換気、建築伝熱、湿気・結露です。これらの項目について、現実に則した具体的な数値を使って演習問題を解きながら捜業を進めます。

【到達目標】
1）環境工学で用いる用語とその単位を理解，習得する。
2）熱環境の基礎理論を理解し，実在建築や実際の現象への応用手法を習得する。
3）必要換気量，自然換気（風力換気・温度差換気）の理論を理解し，実在建築への応用手法を習得する。
4）湿り空気の性質を把握し，壁体の透湿理論・結露の原理を理解し，実在建築への結露防止手法を習得する。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
			◎		○	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
1回の授業はテーマを明確にし，2回目以降は基礎理論の解説（講義）と演習により構成している。予め，キストの該当部分を予習し，主体的に講義を受けて理解し，演習を行い，そのテーマを習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	ガイダンス、気候と建築	環境のスケール、気候、クリモグラフ、建築物省エネ法
2回	伝熱理論の基礎	熱とエネルギー、単位、3つの伝熱形態、顕熱と潜熱
3回	人の熱的快適条件	自立性体温調節のメカニズム、人体の熱収支、温熱環境指標（PMV、SET*）
4回	太陽エネルギーと太陽位置	太陽エネルギーの特性、地球の自転と公転、真太陽時と平均太陽時、太陽位置
5回	日射と長波長放射	直達日射、天空日射、全天日射、大気放射、地表面放射、実効放射
6回	建築伝熱と熱貫流	熱伝導率、熱コンダクタンス、総合熱伝達、熱抵抗、熱貫流率
7回	相当外気温	日射吸収率、放射率、反射率、透過率、相当外気温
8回	住宅の熱性能	外断熱と内断熱、熱損失係数、外皮平均熱貫流率、自然室温
9回	湿り空気と結露	湿り空気、状態値、湿り空気線図、表面結露、内部結露
10回	換気の原理と必要換気量	機械換気、汚染物質、振戦外気、第1種～第3種換気、必要換気量
11回	自然換気の圧力差	静圧と動圧、外部風、風圧係数、煙突効果
12回	圧力差と換気量	ベルヌーイの定理、総合実効面積、換気量
13回	総合環境性能評価	地球環境問題、環境負荷、LEED、CASBEE
14回	建築の省エネと省CO2の動向	建築物省エネ法、改正省エネ基準、一次エネルギー使用量、二酸化炭素排出量

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予めキストの該当部分を予習すること。ならびに時間内のテキストを復習し，テキスト内の類似演習を行うこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
田中俊六ほか，『最新 建築環境工学』，井上書院

【参考書】
『理科年表』，丸善
倉渕隆『初学者の建築講座　建築環境工学』，市ヶ谷出版社

【成績評価の方法と基準】
毎回の演習を２０%，最終試験を８０%とし総合して評価する

【学生の意見等からの気づき】
・遅刻をしないこと。
・１回の授業で扱う内容は豊富であるので，情報を「写す」のではなく，自分で主体的にノートをとる態度にすること。主体的な態度で臨むこと。
・授業内に行う演習は限られた時間内に集中して行い，指定された時間に提出すること，遅れて提出は認められない。
・演習やテキストの練習問題を自宅で解くなど，自宅学習（復習）を行うこと。
・毎回の演習，期末試験で正解が得られなかった箇所を十分復習し，不明な点は積極的に質問すること。

【学生が準備すべき機器他】
関数機能の付いた計算機を持参すること。

【Outline (in English)】
Course outline: This course aims to acquire engineering knowledge in architectural planning and design that can be explained theoretically and quantitatively. The main topics are the relationship between climate and buildings, including comfort conditions, solar radiation, ventilation, building heat transfer, and humidity. Students will work on these topics by solving exercises.
Learning Objectives:(1) Understand and master the terms and units used in environmental engineering. (2) Understand the basic theory of required ventilation rate and natural ventilation. (3) To understand the basic theory of thermal environment and its application to actual phenomena. (4) To understand the properties of moist air and condensation mechanisms and to master the methods of preventing condensation.
Learning activities outside of classroom: Students are required to study the relevant parts of the textbook in advance. In addition, students are expected to review the textbook and perform similar exercises in the textbook. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy: The evaluation will be based on a total of 20% of the exercises and 80% of the examinations.

ADE300NB（建築学 / Architecture and building engineering 300）

光・視環境

中野　淳太

開講時期：春学期授業/Spring　｜　選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
建築における光環境として日照、日射，自然採光、人工照明を対象とし，光や熱に対する理論を学習し，人間の視覚特性を理解しながら，建築デザインに生かす手法を習得する。

【到達目標】
到達目標は下記の通り。
1）太陽位置を把握して，日影や日照時間，日射熱量，建築の日射受熱量などの算定方法を習得する。
2）測光量と単位，採光・照明の基礎理論を理解し，照明計画などの応用手法を習得する。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
○			◎			

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
1回の授業はテーマを明確にし，2回目以降は基礎理論の解説（講義）と演習により構成している。予め，テキストの該当部分を予習し，主体的に講義を受けて理解し，限られた時間内で演習を行い，そのテーマを習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	ガイダンス、太陽位置算定に必要な時刻表現	地方真太陽時，地方平均太陽時，中央標準時均時差
2回	太陽位置の算定方法	太陽方位角，太陽高度，太陽赤緯
3回	日影図	日影図，日影曲線，日影時間曲線
4回	日差し曲線	日差し曲線，日照図表
5回	各平面への日影	水平面・鉛直面への影
6回	日射量	直達日射，天空日射，全天日射，日射受熱量
7回	日除けの設計	庇、袖壁、ルーバー、ブリーズソレイユ
8回	光の物理表記と単位	光束，照度，光束発散度，光度，輝度
9回	点光源による照度・均等拡散面の性質	入射の余弦定理，完全拡散面，反射，吸収，透過，拡散
10回	光束法	光束法を用いた照明計画
11回	昼光照明	昼光率、立体角投射率
12回	ＸＹＺ表色系	ＲＧＢ表色系，　ＸＹＺ表色系，xy色度図
13回	色彩調和理論	視覚心理，視認性・誘目性，色調，色彩調和理論，色彩計画
14回	総復習	光環境・視環境の総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内での演習問題の復習を十分行っておくこと。さらに，身近な例を学習関連する新聞記事を読むこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
田中俊六他著『最新 建築環境工学』，井上書院

【参考書】
『理科年表』，丸善

【成績評価の方法と基準】
毎回の演習点：２０％，期末試験点：８０％の割合で評価

【学生の意見等からの気づき】
・太陽光は地球環境と密接に関係しているので，そのつもりで履修すること。
・光環境は，熱環境とも関連しているので，建築気候の熱環境の分野も復習すること。
・授業は遅刻をしないこと。
・日影図は，単純な幾何なのに従来から理解していない学生が多いので，注意すること。

【学生が準備すべき機器他】
関数電卓を必ず持参すること。また、教員の指示に応じて製図用具等を準備すること。

【Outline (in English)】
This course focuses on sunlight, solar radiation, daylighting, and artificial lighting as light environments in architecture. Students will learn theories of light and heat, understand human visual characteristics, and acquire methods to apply them to architectural design.
Through this class, students will be able to:
(1) Understand the position of the sun and learn how to calculate shading, hours of sunlight, solar heat capacity, and the amount of heat received by buildings by solar radiation.
(2) To understand the basic theory of photometric quantities and units, lighting, and illumination, and to master applied methods such as color planning based on color psychology by understanding the color system.
The course comprises a lecture on fundamental theory and exercises with a clear theme. Students are expected to prepare the relevant part of the textbook in advance, attend and understand the lecture independently, and master the theme by doing exercises within a limited time. Students are expected to review the exercises in the class sufficiently. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Evaluation will be based on the following ratios: 20% for the exercises in each class and 80% for the final examination.

ADE300NB（建築学 / Architecture and building engineering 300）

材料のデザイン

宮田　雄二郎

開講時期：春学期授業/Spring　｜　選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
建築・都市構造物の構造デザインにおいて，構造耐力，耐久性，耐火性能，環境性能，コストど，多様な要求性能を検証したうえで，最適な材料を選択することが重要です。そのためには，それぞれの材料毎に特性を理解し，それを活かして構造物を構築する工学的手法を学ぶ必要があります。この授業では，「構造材料」に焦点を当てその製造方法から加工方法，力学特性，その他各種性能について実例を交えて解説します。現代の構造工学において特に重要な「鋼構造」，「鉄筋コンクリート構造」，「木構造」のデザインを理解するための基礎知識を修得することを目的とします。

【到達目標】
・構造材料の製造方法，加工方法を理解する。
・構造材料の応力度－ひずみ度関係など力学特性を理解する。
・構造材料の耐久性，耐火性能を理解する。
・構造材料それぞれの特徴を活かした工法の概要を理解する。
・構造材料ぞれぞれの塑性特性および破壊までのエネルギー吸収性能を理解する。
・構造材料の特性を活かした構造デザインの実践例を知る。
・異なる構造材料のそれぞれの長所を組み合わせる設計法の概要を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・教材資料を授業支援システムにアップロードします。
・授業内で教材資料を解説します。
・授業内で紹介する参考書など自習して理解を深めること。
・中間テストを３回実施して，理解度を確認します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業ガイダンス 構造材料の種類
2	鋼材 1	金属材料の種類，鋼の製造法・加工法
3	鋼材 2	鋼材の性質
4	鋼材 3	鋼材と構造物のデザイン
5	中間テスト①	鋼材に関するテスト テストの解説
6	コンクリート材料1	セメントの種類，セメントの製造法
7	コンクリート材料2	骨材の種類，コンクリートの種類と性質 応力- ひずみ曲線
8	コンクリート材料3	コンクリートと構造物のデザイン
9	中間テスト②	コンクリートに関するテスト テストの解説
10	木質材料1	木質材料の種類と性質
11	木質材料2	木質材料と製造法・加工法
12	木質材料3	木質材料と建物のデザイン
13	材料の選択と構造物のデザイン	構造材料の特性比較と構造デザイン実例
14	中間テスト③	木質材料に関するテスト テストの解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業テキストの復習，および参考書等による自習に取り組むこと。
本授業の自習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業支援システムにテキストをアップロードします。

【参考書】
授業システムで適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
講義内で中間テストを3回実施し，１回目 30%，２回目 30%，３回目 40%の配分で成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
この授業の後に「鉄筋コンクリートのデザイン」，「鋼のデザイン」，「木造建築の構法」を履修することでさらに理解が深まるので，その履修を強く勧める。
また，建築士資格の取得を目指す学生は受講することを勧める。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In the structural design of architectural and urban structures, it is important to select the most appropriate materials after examining various performance requirements such as structural strength, durability, fire resistance, environmental performance, and cost. To achieve this, it is necessary to understand the characteristics of each material and to learn engineering methods to construct structures that take advantage of these characteristics. In this course, we will focus on "structural materials" and explain their manufacturing methods, processing methods, mechanical properties, and various other performances with actual examples. The objective of this course is to acquire basic knowledge to understand the design of steel, reinforced concrete, and wood structures, which are particularly important in modern structural engineering.
【Learning Objectives】
To understand the manufacturing and processing methods of structural materials.
To understand the mechanical properties of structural materials, such as stress-strain relationships.
To understand the durability and fire resistance of structural materials.
To understand the outline of construction methods utilizing the characteristics of each structural material.
To understand the plastic properties of structural materials and their energy absorption performance up to fracture.
To understand the practical examples of structural design utilizing the characteristics of structural materials.
To understand the design methods that combine the advantages of different structural materials.
【Learning activities outside of classroom】
Students are required to review the class textbook and to engage in self-study using reference books, etc.

The standard self-study and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
There will be three tests in the lecture and the grading will be 30% for the first test, 30% for the second test, and 40% for the third test.

ADE200NB（建築学 / Architecture and building engineering 200）

設備入門

石川　裕司

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
建築設備は、生活に不可欠な「水・空気・電気」を自然環境と人工環境を加減・融合し、適切な室内環境を創ることである。それと同時に居住性の良し悪しから建物の評価を大きく左右する要素でもあり、建築デザインにも大きく影響する。太古の昔から人は水辺に居を構え集落を造り、時の経過、更に時代の変遷と共に、利便性・快適性を追求し、人為的に室内環境の創造と調整を行ってきた。将来も技術の進歩につれてこれが継承されて行かなくてはならない。これらのことを、建築設備の学習テーマとし授業を進める。

【到達目標】
＜授業の到達目標＞
建築設備の学習項目である、「①空気調和・換気設備、②給排水・衛生設備、③電力・通信情報設備」のうち、適切な室内環境を創る「①空調・換気」と生命の根源である「②の水（給排水）」と利便性の代表である「③の電気（あかりと動力及び通信情報）」について学習する。将来を担う建築技術者としての基礎知識を身につける。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
		○	◎			

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
「本授業は、対面授業を基本として、実施を予定しています。」
変更等があった場合には、履修本登録期間までにデザイン工学部事務より、Web掲示板でお知らせいたします。Web掲示板を随時ご確認ください」
＜授業の概要＞
授業は、前述の「授業の到達目標及びテーマ」と後述の「授業計画」の表に沿って実施するものとする。但し授業の内容は、時代のニーズ並びに、技術の進歩により変更する場合もある。
＜授業の方法＞
授業でデータ等を確認する必要上、テキストを使用するが、進め方として画像や映像（PPT又はDVD等）を主に使用し、目からの情報を重視した方法をとる。一方、授業の要所要所で、学生のレベル向上と、学生・教員相互による授業内容理解度効果確認のための、時間内演習テストを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	建築設備ガイダンス 建築設備	（建物に絶対必要） ・身近な物から考える建築設備 ・水・排水 ・電気 ・空調・換気 （設備て何） ・設備の歴史（必要から生まれた人工的環境の創造。現在に受け継がれる古人知恵）
2	給水設備	（安全な水） ・水の基礎的知識 ・生活と水 ・給水・給湯計画法 ・給水方式と系統 ・水系汚染防止等 （水の使い方） ・給水量の計算
3	給湯設備 ガス設備	（安全で便利な湯・ガス） ・湯・ガスの基礎知識 ・生活と湯・ガス ・給湯方式と系統 ・安全対策等
4	排水設備 衛生器具設備	（どこに流れる） ・排水、通気方式と系統 ・排水トラップ ・雨水 （きれいな排水） ・汚水処理 （安全・きれいな） ・衛生器具の発展
5	電気設備	（ビルの電気） ・電気の基礎知識
6	照明設備	（いろんな灯り） ・照明の基礎 ・照明計画法 ・ＬＥＤ、Ｈｆ蛍光灯 ・明視照明と雰囲気照明 ・システム天井照明 ・照度計算
7	防災設備・消火設備	（火事だ） ・自動火災報知と避難（火の消し方） ・消火の原理 ・消火方式・基礎
8	監視・制御	（室温一定） ・制御機器の種類 ・中央監視設備の概要 ・ＢＥＭＳについて
9	空気調和設備	（快適・不快） ・室内環境維持 ・空気の性質 ・空気の状態変化
10	熱負荷の種類	（室温と外気温） ・室内外条件 ・負荷の種類 ・熱負荷計算
11	空調方式・熱源方式	（室を冷やす、暖める） ・空調機器 （冷水・温水を作る） ・ビル用一般冷温熱源 ・ヒートポンプエアコン
12	空気搬送設備・水搬送設備	（空気で快適） ・ダクト設備 （冷水・温水・冷媒で快適） ・配管設備
13	換気・機械排煙と防煙	（空気は汚れる） ・換気の必要性 ・空気清浄度保持のための換気計算法 ・省エネと換気 （火災と避難） ・排煙方式と目的
14	エネルギー消費	（省エネ） ・省エネルギーと設備 ・ビル消費エネルギーと地球温暖化 ・省エネルギー計算法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習
１．既存の身近な建物の環境・設備をよく観察することから始まる。
２．家族を含めた学生諸氏の生活状態を自己観察する。
例えば、水の使用状況や使用する時間帯、照明の点灯・冷暖房の使用状態の把握…。
３．学内や、常に利用したり、又は利用した学外諸施設（駅・ホテル・劇場・店舗・病院…）の環境・設備関連項目の観察と、利用しているヒトの行動や観察。
４．上記の気付き項目を、ランダムでも良いから、図や寸法を交え忘れずにメモにしておく。

【テキスト（教科書）】
最新　建築設備工学　改訂２版（井上書院）　監修：田中俊六・著者：宇田川光弘他４名。3520円
必要に応じプリントを配布。

【参考書】
『図説　やさしい建築設備』著者：伏見建、朴賛弼、2800円
『最新　建築環境工学』（井上書院）　監修：田中俊六・著者：田尻他５名。3000円

【成績評価の方法と基準】
成績評価に関して、

定期試験成績を最重点基準事項とする。
評価基準は、小テスト・レポートの出題回数により変動するが、、以下の各項についてポイントの加減を行う。
①期末試験（60％）小テスト・レポート（30％）平常点（10％）により評価する。
②平常点評価（授業態度・遅刻・早退）特別の事情がない限り、これは大きな減点対象となる。
③時間内テストなどで不正行為があると認めた場合には、当然単位は与えない。定期試験同等と心得られたい。
④学生諸氏が、TAを含む教員との間に万一不信行為があった場合は、各種不正行為を含め単位は与えない。

【学生の意見等からの気づき】
授業中の、小テストやレポート課題を取り入れて、計算関係の理解度を深める。その他は、前年同様の授業の進め方、評価等の方法を踏襲する。但し、授業内容は、システムでは省エネの重要性、機器類では、CGS(Co-Generation System)、Hf蛍光灯、LED燈等、時代の流れ並びに、技術の進歩に沿って前年とは大きく異なることもある。

【学生が準備すべき機器他】
テキスト（教科書）は、授業中は持参すること。又、必要に応じて計算問題を行うに当たって電卓（関数電卓）・定規・色鉛筆（ボールペン）等を持参すること。

【その他の重要事項】
建築技術者としての基礎知識を身につけるため履修の推奨する。又、建築設備の科目の対象とするものは、建築設計・工事監理等の業務に関する知識、能力の養成に資するものである。
現役の建築設備設計者としての経験を持つ教員が、その経験を活かして講義する。
また、授業の前後あるいはe-mailで随時質問を受け付けます。

【Outline (in English)】
Course outline
In this course, students will be introduced to "water, air, and electricity," which are essential to life.
The goal of this course is to acquire the basic knowledge as a building facility engineer.
It begins with a careful observation of the environment and facilities of the existing building.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 60%、Short reports : 30%、in class contribution: 10%

ENV300NB（環境保全学 / Environmental conservation 300）

文明と資源

網野　禎昭

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half)　｜　選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、一般的な資源論の授業で扱う森林や水など有形の自然資源の他、人材や入手可能な技術といった無形資源についてもフォーカスし、私たちの建築や暮らしの背景にある社会と資源の相互関係について考察します。

【到達目標】
単に物質消費の節約という観点からだけではなく、建築や社会の様々な側面を持続可能性に関連付けて考える上での問題意識を養います。
The discussion focuses not only on the effective use of resources. We develop problem awareness that associates various aspects of our society with the sustainable development.

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
	◎	◎				

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
担当教員が研究・設計活動を通して得た知見をもとに、授業の各回ごとにトピックを設定し、研究発表形式で授業を進めます。トピックによっては、テーマに関連した研究に携わっている学生や卒業生も発表に参加します。学生と教員間でのディスカッションを重視するため、授業後半において問いかけの時間を設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	森林資源と建築デザイン	ヨーロッパにおける木造都市の展開
2	伝統社会の資源管理	パンから考えるスイス山岳地域の資源管理
3	地域と時代と産業立地	ドイツにおける木材産業立地 日本における木材産業立地
4	ウィーン・グルンダーツァイトの集合住宅について	スケルトン・インフィルの起源について
5	戦艦大和について	戦時下における国家規模での技術開発がもたらしたもの
6	繊維という資源	生地と仕立てについて 化学繊維の再利用について
7	地域の技術資源と建築	ペーター・ツムトーアについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各トピックについて、様々な情報媒体（インターネットや新聞等）を授業前に調べて概要を知っておくことが授業理解に役に立つ。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
Pre-research using the internet or the newspapers on the topic of each lecture. Preparation for the lecture and the review requires two hours respectively.

【テキスト（教科書）】
特にありません

【参考書】
特にありません

【成績評価の方法と基準】
筆記試験80%の他、平常点20%とします。履修人数によっては、筆記試験を口頭試問に変えることがあります。平常点は、授業内での自主的な発言の有無を評価しますので、積極的に授業参加してください。
Evaluate a written exam result (80%) and active remarks (20%). For small class the written exam can be replaced by an oral exam.
総合得点60%以上を合格とします。
A passing total score is 60% or more.

【学生の意見等からの気づき】
授業内での議論は活発になってきました。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業なので、各自ZOOMをセットアップして授業に臨むこと。

【その他の重要事項】
研究発表形式の授業であるため、テーマや内容を一部変更する可能性があります。

【Outline (in English)】
This lecture focuses not only on the tangible natural resources like woods and water but also on the intangible ones such as human resources and available technologies to discuss the reciprocity between our society and the resources behind the architecture and daily life. The topic of each lecture reflects the up-to-date study results derived from the research and design experiences of the lecture.

ENV300NB（環境保全学 / Environmental conservation 300）

文明と資源

網野　禎昭

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half)　｜　選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、一般的な資源論の授業で扱う森林や水など有形の自然資源の他、人材や入手可能な技術といった無形資源についてもフォーカスし、私たちの建築や暮らしの背景にある社会と資源の相互関係について考察します。

【到達目標】
単に物質消費の節約という観点からだけではなく、建築や社会の様々な側面を持続可能性に関連付けて考える上での問題意識を養います。
The discussion focuses not only on the effective use of resources. We develop problem awareness that associates various aspects of our society with the sustainable development.

【修得できる能力】
（A）歴史・文化・自然の理解・尊重　50%
（B）技術者倫理　50%
（C）工学基礎学力
（D）専門基礎学力
（E）専門知識の活用・応用能力
（F）総合デザイン能力
（G）コミュニケーション能力
（H）継続的学習能力
（I）業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
担当教員が研究・設計活動を通して得た知見をもとに、授業の各回ごとにトピックを設定し、研究発表形式で授業を進めます。トピックによっては、テーマに関連した研究に携わっている学生や卒業生も発表に参加します。学生と教員間でのディスカッションを重視するため、授業後半において問いかけの時間を設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	森林資源と建築デザイン	ヨーロッパにおける木造都市の展開
2	伝統社会の資源管理	パンから考えるスイス山岳地域の資源管理
3	地域と時代と産業立地	ドイツにおける木材産業立地 日本における木材産業立地
4	ウィーン・グルンダーツァイトの集合住宅について	スケルトン・インフィルの起源について
5	戦艦大和について	戦時下における国家規模での技術開発がもたらしたもの
6	繊維という資源	生地と仕立てについて 化学繊維の再利用について
7	地域の技術資源と建築	ペーター・ツムトーアについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各トピックについて、様々な情報媒体（インターネットや新聞等）を授業前に調べて概要を知っておくことが授業理解に役に立つ。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
Pre-research using the internet or the newspapers on the topic of each lecture. Preparation for the lecture and the review requires two hours respectively.

【テキスト（教科書）】
特にありません

【参考書】
特にありません

【成績評価の方法と基準】
筆記試験80%の他、平常点20%とします。履修人数によっては、筆記試験を口頭試問に変えることがあります。平常点は、授業内での自主的な発言の有無を評価しますので、積極的に授業参加してください。
Evaluate a written exam result (80%) and active remarks (20%). For small class the written exam can be replaced by an oral exam.
総合得点60%以上を合格とします。
A passing total score is 60% or more.

【学生の意見等からの気づき】
授業内での議論は活発になってきました。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業なので、各自ZOOMをセットアップして授業に臨むこと。

【その他の重要事項】
研究発表形式の授業であるため、テーマや内容を一部変更する可能性があります。

【Outline (in English)】
This lecture focuses not only on the tangible natural resources like woods and water but also on the intangible ones such as human resources and available technologies to discuss the reciprocity between our society and the resources behind the architecture and daily life. The topic of each lecture reflects the up-to-date study results derived from the research and design experiences of the lecture.

ENV300NB（環境保全学 / Environmental conservation 300）

文明と資源

網野　禎昭

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half)　｜　選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、一般的な資源論の授業で扱う森林や水など有形の自然資源の他、人材や入手可能な技術といった無形資源についてもフォーカスし、私たちの建築や暮らしの背景にある社会と資源の相互関係について考察します。

【到達目標】
単に物質消費の節約という観点からだけではなく、建築や社会の様々な側面を持続可能性に関連付けて考える上での問題意識を養います。
The discussion focuses not only on the effective use of resources. We develop problem awareness that associates various aspects of our society with the sustainable development.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
担当教員が研究・設計活動を通して得た知見をもとに、授業の各回ごとにトピックを設定し、研究発表形式で授業を進めます。トピックによっては、テーマに関連した研究に携わっている学生や卒業生も発表に参加します。学生と教員間でのディスカッションを重視するため、授業後半において問いかけの時間を設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	森林資源と建築デザイン	ヨーロッパにおける木造都市の展開
2	伝統社会の資源管理	パンから考えるスイス山岳地域の資源管理
3	地域と時代と産業立地	ドイツにおける木材産業立地 日本における木材産業立地
4	ウィーン・グルンダーツァイトの集合住宅について	スケルトン・インフィルの起源について
5	戦艦大和について	戦時下における国家規模での技術開発がもたらしたもの
6	繊維という資源	生地と仕立てについて 化学繊維の再利用について
7	地域の技術資源と建築	ペーター・ツムトーアについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各トピックについて、様々な情報媒体（インターネットや新聞等）を授業前に調べて概要を知っておくことが授業理解に役に立つ。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
Pre-research using the internet or the newspapers on the topic of each lecture. Preparation for the lecture and the review requires two hours respectively.

【テキスト（教科書）】
特にありません

【参考書】
特にありません

【成績評価の方法と基準】
筆記試験80%の他、平常点20%とします。履修人数によっては、筆記試験を口頭試問に変えることがあります。平常点は、授業内での自主的な発言の有無を評価しますので、積極的に授業参加してください。
Evaluate a written exam result (80%) and active remarks (20%). For small class the written exam can be replaced by an oral exam.
総合得点60%以上を合格とします。
A passing total score is 60% or more.

【学生の意見等からの気づき】
授業内での議論は活発になってきました。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業なので、各自ZOOMをセットアップして授業に臨むこと。

【その他の重要事項】
研究発表形式の授業であるため、テーマや内容を一部変更する可能性があります。

【Outline (in English)】
This lecture focuses not only on the tangible natural resources like woods and water but also on the intangible ones such as human resources and available technologies to discuss the reciprocity between our society and the resources behind the architecture and daily life. The topic of each lecture reflects the up-to-date study results derived from the research and design experiences of the lecture.

ADE200NB（建築学 / Architecture and building engineering 200）

構法スタジオ１

永野　尚吾、溝部　公寛、鈴木　理考、河野　泰治、網野　禎昭、五十嵐　理人、北村　武留、藤田　雄介

開講時期：春学期前半/Spring(1st half)　｜　選択・必修の別：必修
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
構法スタジオ１、構法スタジオ２では、設計演習を通して架構や各部位の仕組みを実践的に理解し、詳細に図面化する能力を身につけることを目標とする。

【到達目標】
木造軸組構造による小型の建築物を設計課題として、構法スタジオ１では、空間計画と架構計画について習得する。エスキスでは描画力を養うために図面は手描きとし、図面の内容を立体的に理解するために軸組模型の作成も行う。
By designing a small sized wooden building, the students learn the living space planning and the structural planning in parallel. To acquire the drawing skills, all plans and sketches must be drawn by hand. Model construction is also required for the three-dimensional understanding of construction.

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎			◎			◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
各週ごとにテーマとして設定された設計上の問題に取り組み、これを図化あるいは模型化し、そのチェックを受けることで設計を進める。最終的に、基本図・骨組模型・構造図・詳細図などの提出を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	課題説明	設計課題の解説
	基本構想１	基本的な空間構想に着手する
2	基本構想２	基本的な空間構想を固める
3	架構設計１	柱位置・主梁方向の検討
4	架構設計２	屋根・床など平面架構の検討
5	架構設計３	耐震壁・ブレースの検討
6	図面のまとめ	図面の最終チェックを受ける
7	最終講評	課題を提し講評を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各週チェック時の指摘事項に対しては、参考文献調査や自主的な実地見学などを通し、これを十分理解し、課題の最終提出に備えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
Reference research and site visits are helpful to find the solution for matters in question and complete the plans. Preparation for the lecture and the review requires two hours respectively.

【テキスト（教科書）】
必要に応じ資料を配布。

【参考書】
「ぜんぶ絵でわかる1木造住宅」飯塚豊（エクスナレッジ）
「350万円で自分の家をつくる[改訂カラー版]」畠山サトル（エクスナレッジ）

【成績評価の方法と基準】
最終提出物の評価（100％）による。正当な理由なく授業を4回以上欠席すると単位認定の対象外となるので注意。
Evaluate the final submission. Unjustifiable absence more than four times results in evaluation "E (failure)".
総合得点60%以上を合格とします。
A passing total score is 60% or more.

【学生の意見等からの気づき】
木材や接合部の実物サンプルを提示する。

【その他の重要事項】
建築設計に携わる教員が実務経験から得た最新の知見を織り交ぜた授業を行う

【Outline (in English)】
This studio program on construction methods aims to provide students with a practical understanding of types of methods through planning exercises and the ability to create detailed blueprints.

ADE200NB（建築学 / Architecture and building engineering 200）

構法スタジオ２

永野　尚吾、溝部　公寛、鈴木　理考、河野　泰治、五十嵐　理人、北村　武留、藤田　雄介

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half)　｜　選択・必修の別：必修
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
構法スタジオ１、構法スタジオ２では、設計演習を通して架構や各部位の仕組みを実践的に理解し、詳細に図面化する能力を身につけることを目標とする。

【到達目標】
構法スタジオ１で設計した軸組構造に対して、構法スタジオ２では、断熱や防水、通気、仕上げを設計し、建築物として完成させる。構法スタジオ１と同様に、描画力を養うために手描き図面によりエスキスを進めるが、提出図面に関してはＣＡＤソフトを利用し、実務に即した作図方法を習得する。
Following Building Construction Studio 1, Building Construction Studio 2 requires the students to design the heat isolation, water proof, ventilation and finishing to complete the building design. As with BCS1, hand drawings are recommended.

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎			◎			◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
各週ごとにテーマとして設定された設計上の問題に取り組み、これを図化し、そのチェックを受けることで設計を進める。最終的に、各種詳細図の提出を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	屋根・壁・床の断面設計１	屋根・壁の一般断面の検討／内・外装の検討
2	屋根・壁・床の断面設計２	床の一般断面の検討／床・天井仕上の検討
3	開口部の断面設計	開口部と外壁の取り合い
4	屋根・壁・床の取り合い設計１	基礎・床・外壁の取り合い
5	屋根・壁・床の取り合い設計２	屋根・外壁・庇の取り合い
6	図面のまとめ	図面の最終チェックを受ける
7	最終講評	課題を提し講評を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各週チェック時の指摘事項に対しては、参考文献調査や実地見学などを通し、これを十分理解し、課題の最終提出に備えること。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
Reference research and site visits are helpful to find the solution for matters in question and complete the plans. Preparation for the lecture and the review requires two hours respectively.

【テキスト（教科書）】
必要に応じ資料を配布。

【参考書】
「ぜんぶ絵でわかる1木造住宅」飯塚豊（エクスナレッジ）
「350万円で自分の家をつくる[改訂カラー版]」畠山サトル（エクスナレッジ）

【成績評価の方法と基準】
最終提出物の評価（100％）による。正当な理由なく授業を4回以上欠席すると単位認定の対象外となるので注意。
Evaluate the final submission.　Unjustifiable absence more than four times results in evaluation "E (failure)".
総合得点60%以上を合格とします。
A passing total score is 60% or more.

【学生の意見等からの気づき】
可能な限り、実際の施工現場の見学や、縮尺の大きな部分模型製作を取り入れる。

【その他の重要事項】
建築設計に携わる教員が実務経験から得た最新の知見を織り交ぜた授業を行う

【Outline (in English)】
This studio program on construction methods aims to provide students with a practical understanding of types of methods through planning exercises and the ability to create detailed blueprints.

ADE300NB（建築学 / Architecture and building engineering 300）

環境デザインスタジオ

中野　淳太、加用　現空

開講時期：春学期授業/Spring　｜　選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、環境デザインに必要な基本的な知識を習得すると共に、具体的な課題に取り組みながら環境デザインのプロセスを体験的に学ぶ。

【到達目標】
建築環境デザインにあたって、屋内環境（音、光、温熱、空気環境等）の他に屋外環境（地域、地球環境保全等）の両側面への配慮が重要であることを学ぶ。環境シミュレーションなどを通じて建築環境を定量的に評価することを学ぶ。また、現地調査や環境測定を通じて、実体験（体感）と数値をリンクさせる。身につけた基礎知識、シミュレーション技術、環境評価技能を活かした建築環境デザイン手法を習得する。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎		◎	○			

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
前半の課題では、演習を通じて環境分析手法および調査手法を習得する。また、実環境の測定や調査を通じて、実体験と数値をリンクさせる。後半の課題では、具体的な建築設計プロジェクトに取り組みながら環境デザインを試行する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・敷地の環境分析手法	講義の趣旨説明。敷地の環境分析手法の理解。
2	建築環境測定	環境測定の意義の理解。環境測定機器の原理理解。測定手法の習得、測定結果の考察。
3	敷地の選定と環境調査	課題となる建築のための敷地選定。環境測定および調査による敷地の特性抽出。
4	プレゼンテーション（1）	敷地調査および建築概要に関するプレゼンテーション。
5	環境シミュレーションの基礎（1）	Rhinoceros + Grasshopperを用いた形態のパラメトリックスタディ。
6	環境シミュレーションの基礎（2	Rhinoceros + Grasshopperを用いた日射環境解析手法の習得と演習。
7	環境シミュレーションの基礎（3）	Rhinoceros + Grasshopperを用いた光環境解析法の習得と演習。
8	エスキース（1）	環境解析に基づく建築形態のスタディ。
9	プレゼンテーション（2）	プロジェクト基本構想。敷地と建築の関係。空間イメージ。ヴォリュームスタディなど。
10	環境評価の基礎（1）	建築物省エネ法および断熱性能等級の理解。建築外皮熱性能の評価。
11	環境評価の基礎（2）	総合環境性能評価（CASBEE）の理解。環境品質（Quality）、環境負荷（Load）の視点の習得。
12	エスキース（2）	環境シミュレーションによるスタディ
13	エスキース（3）	多目的環境制御の視点を取り入れた環境デザイン。プレゼンテーションの準備。
14	ファイナルレビュー	プレゼンテーション。講評会。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
環境配慮デザインが施された建築を実際に訪れてその空間を体験すること。各種環境要素：光、音、空気（風の流れ）、熱（あたたかさ、涼しさ）などがどのように制御されて心地の良い空間となっているか考察すること。同時に、地域環境との調和や地球環境保全への取り組みなどにも着目すること。本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に教科書は定めないが、必要な資料は適宜配布する。

【参考書】
講義実施時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
演習課題・エスキース・プレゼン・成果作品を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
環境シミュレーションから得られる結果を正しく解釈し、建築デザインのスタディに活用する。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコンを持参のこと

【Outline (in English)】
Course outline:Students will acquire the basic knowledge necessary for environmental design and learn the process of environmental design by working on specific issues in this lecture.
Learning Objectives: In designing the built environment, students learn the importance of considering both the indoor environment (sound, light, heat, air quality, etc.) and the outdoor environment (local and global environmental conservation, etc.). In addition, students learn to evaluate the built environment quantitatively through environmental simulations. Furthermore, students will learn building environmental design methods that utilize the basic knowledge, simulation techniques, and environmental evaluation skills they have acquired.
Learning activities outside of classroom:Students should actually visit a building with an environmentally conscious design and experience the space. Consider how various environmental elements: light, sound, air (wind flow), heat (warmth, coolness), etc. are controlled to create a comfortable space. At the same time, focus on harmony with the local environment and efforts to preserve the global environment. The standard preparation and review time for this class is 4 hours each.
Grading Criteria /Policy: Grades will be based on a comprehensive evaluation of esquisse, presentation, and portfolio of work. 5 or more absences will not be considered for grading.

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

サステナブルデザイン

中野　淳太

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half)　｜　選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ア〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然エネルギーを利用した建築原理や環境計画手法を習得しながら，建築のサステナブルデザインに関する知識を身につける。パッシブ手法を活用し、なるべく少ないエネルギーで快適に過ごせる住宅を計画する。

【到達目標】
1）自然エネルギーを利用し、環境に低負荷な手法の原理を理解する。
2）自然エネルギー利用の手法をどのように応用するかを習得する。
3）気象データを理解し、その特徴を実社会に応用する方法を習得する。
4）図表や計算を通じて、パッシブ手法を用いた環境計画を習得する。
これらを通して、様々な分野に応用できるサステナブル（持続可能）な技術の応用力を習得することを到達目標とする。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
	○	◎			○	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
授業では、パッシブ手法の基礎に関する講義と計算や図表を用いた環境計画を行う。Excelを用いた計算を行うため、パソコンを持参のこと。最終的に、自分の計画したサステナブル住宅のプレゼンを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	気候特性とクリモグラフ	気候を形成する要素を理解し、その組みあわせによる特性を理解する。
2回	気候特性の分析	気象データから気候特性を分析し、特徴をまとめる。
3回	太陽エネルギーと太陽位置	地球の自転と公転の原理を理解し、太陽エネルギーの特性を理解する。
4回	太陽位置の計算	太陽位置を計算し、季節や地域による太陽位置の違いを理解する。
5回	日射と実効放射	短波長放射（日射）と長波長放射の到達経路と特性を理解する。
6回	日射量と実効放射量の計算	方位に応じた日射量と長波長放射量の求め方を理解する。
7回	建築外皮の熱性能	建築外皮を通じた熱貫流および日射熱取得の原理を理解する。
8回	断熱性能の設計	指定された性能の外皮仕様を設計する。
9回	日除けの原理	開口部に対する日射遮蔽の原理を理解する。
10回	日除けの設計	窓の方位と寸法に適した日除けを設計する。
11回	冷房負荷と暖房負荷	冷房能力および暖房能力を求めるのに必要となる熱負荷の原理を理解する。
12回	外皮性能と自然室温	外皮性能に応じた自然室温を計算し、外皮熱性能の改善を図る。
13回	プレゼンテーション1	自分の計画したサステイナブル住宅について発表・講評をする。
14回	プレゼンテーション2	自分の計画したサステイナブル住宅について発表・講評をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義の理論を復習すること。また，シラバスを読んで次の講義の内容を予習する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
原則として使用せず，必要に応じて講義に関する資料を配布する

【参考書】
田中俊六 他、『最新 建築環境工学』、井上書院
猪岡達夫、『デザイナーのための建築環境計画　熱・日射・風』、丸善出版
など

【成績評価の方法と基準】
時限中に計算、設計等を行い，毎回提出する。毎回の演習（30～50%）とプレゼンテーション（50～70%）により、総合的に判断する。未提出課題が3回を超えた者の評価は行わない。

【学生の意見等からの気づき】
演習は，今まで経験していない内容もあるが，想像力を発揮して課題に対し積極的に取り組むこと。

【学生が準備すべき機器他】
事前の教員の指示に従い、Excelの使えるPC等、製図用具等を持参する。

【その他の重要事項】
講義を聴くだけでなく、各回の演習を通じた環境計画手法の習得が重要である。

【Outline (in English)】
Course outline: This course aims to acquire engineering knowledge of sustainable design while learning architectural principles and environmental planning methods that utilize natural energy. Students will plan a house that uses as little energy as possible while maitaining comfort.
Learning Objectives:1) Understand the principles of methods that utilize natural energy and have a low impact on the environment. (2) Learn how to apply the methods of natural energy utilization. (3) Understand weather data and learn how to apply its characteristics to the building design. (4) Master environmental planning using passive methods through charts and calculations.
Through these, the goal is to acquire the ability to apply sustainable technology that can be applied to various fields.
Learning activities outside of classroom: Students are required to study the relevant parts of the textbook in advance. In addition, students are expected to review the textbook and perform similar exercises in the textbook. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy: The evaluation will be based on a total of 30-50% of the exercises and 50-70% of the final presentation.

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

サステナブルデザイン

中野　淳太

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half)　｜　選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ア〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然エネルギーを利用した建築原理や環境計画手法を習得しながら，建築のサステナブルデザインに関する知識を身につける。パッシブ手法を活用し、なるべく少ないエネルギーで快適に過ごせる住宅を計画する。

【到達目標】
1）自然エネルギーを利用し、環境に低負荷な手法の原理を理解する。
2）自然エネルギー利用の手法をどのように応用するかを習得する。
3）気象データを理解し、その特徴を実社会に応用する方法を習得する。
4）図表や計算を通じて、パッシブ手法を用いた環境計画を習得する。
これらを通して、様々な分野に応用できるサステナブル（持続可能）な技術の応用力を習得することを到達目標とする。

【修得できる能力】
（A）歴史・文化・自然の理解・尊重
（B）技術者倫理
（C）工学基礎学力
（D）専門基礎学力　30%
（E）専門知識の活用・応用能力　40%
（F）総合デザイン能力　30%
（G）コミュニケーション能力
（H）継続的学習能力
（I）業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
授業では、パッシブ手法の基礎に関する講義と計算や図表を用いた環境計画を行う。Excel を用いた計算を行うため、パソコンを持参のこと。最終的に、自分の計画したサステナブル住宅のプレゼンを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	気候特性とクリモグラフ	気候を形成する要素を理解し、その組みあわせによる特性を理解する。
2回	気候特性の分析	気象データから気候特性を分析し、特徴をまとめる。
3回	太陽エネルギーと太陽位置	地球の自転と公転の原理を理解し、太陽エネルギーの特性を理解する。
4回	太陽位置の計算	太陽位置を計算し、季節や地域による太陽位置の違いを理解する。
5回	日射と実効放射	短波長放射（日射）と長波長放射の到達経路と特性を理解する。
6回	日射量と実効放射量の計算	方位に応じた日射量と長波長放射量の求め方を理解する。
7回	建築外皮の熱性能	建築外皮を通じた熱貫流および日射熱取得の原理を理解する。
8回	断熱性能の設計	指定された性能の外皮仕様を設計する。
9回	日除けの原理	開口部に対する日射遮蔽の原理を理解する。
10回	日除けの設計	窓の方位と寸法に適した日除けを設計する。
11回	冷房負荷と暖房負荷	冷房能力および暖房能力を求めるのに必要となる熱負荷の原理を理解する。
12回	外皮性能と自然室温	外皮性能に応じた自然室温を計算し、外皮熱性能の改善を図る。
13回	プレゼンテーション1	自分の計画したサステイナブル住宅について発表・講評をする。
14回	プレゼンテーション2	自分の計画したサステイナブル住宅について発表・講評をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義の理論を復習すること。また，シラバスを読んで次の講義の内容を予習する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
原則として使用せず，必要に応じて講義に関する資料を配布する

【参考書】
田中俊六 他、『最新 建築環境工学』、井上書院
猪岡達夫、『デザイナーのための建築環境計画　熱・日射・風』、丸善出版
など

【成績評価の方法と基準】
時限中に計算、設計等を行い，毎回提出する。毎回の演習（30～50%）とプレゼンテーション（50～70%）により、総合的に判断する。未提出課題が3回を超えた者の評価は行わない。

【学生の意見等からの気づき】
演習は，今まで経験していない内容もあるが，想像力を発揮して課題に対し積極的に取り組むこと。

【学生が準備すべき機器他】
事前の教員の指示に従い、Excel の使える PC 等、製図用具等を持参する。

【その他の重要事項】
講義を聴くだけでなく、各回の演習を通じた環境計画手法の習得が重要である。

【Outline (in English)】
Course outline: This course aims to acquire engineering knowledge of sustainable design while learning architectural principles and environmental planning methods that utilize natural energy. Students will plan a house that uses as little energy as possible while maitaining comfort.
Learning Objectives:1) Understand the principles of methods that utilize natural energy and have a low impact on the environment. (2) Learn how to apply the methods of natural energy utilization. (3) Understand weather data and learn how to apply its characteristics to the building design. (4) Master environmental planning using passive methods through charts and calculations.
Through these, the goal is to acquire the ability to apply sustainable technology that can be applied to various fields.
Learning activities outside of classroom: Students are required to study the relevant parts of the textbook in advance. In addition, students are expected to review the textbook and perform similar exercises in the textbook. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy: The evaluation will be based on a total of 30-50% of the exercises and 50-70% of the final presentation.

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

サステナブルデザイン

中野　淳太

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half)　｜　選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ア〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然エネルギーを利用した建築原理や環境計画手法を習得しながら，建築のサステナブルデザインに関する知識を身につける。パッシブ手法を活用し、なるべく少ないエネルギーで快適に過ごせる住宅を計画する。

【到達目標】
1）自然エネルギーを利用し、環境に低負荷な手法の原理を理解する。
2）自然エネルギー利用の手法をどのように応用するかを習得する。
3）気象データを理解し、その特徴を実社会に応用する方法を習得する。
4）図表や計算を通じて、パッシブ手法を用いた環境計画を習得する。
これらを通して、様々な分野に応用できるサステナブル（持続可能）な技術の応用力を習得することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
授業では、パッシブ手法の基礎に関する講義と計算や図表を用いた環境計画を行う。Excelを用いた計算を行うため、パソコンを持参のこと。最終的に、自分の計画したサステナブル住宅のプレゼンを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	気候特性とクリモグラフ	気候を形成する要素を理解し、その組みあわせによる特性を理解する。
2回	気候特性の分析	気象データから気候特性を分析し、特徴をまとめる。
3回	太陽エネルギーと太陽位置	地球の自転と公転の原理を理解し、太陽エネルギーの特性を理解する。
4回	太陽位置の計算	太陽位置を計算し、季節や地域による太陽位置の違いを理解する。
5回	日射と実効放射	短波長放射（日射）と長波長放射の到達経路と特性を理解する。
6回	日射量と実効放射量の計算	方位に応じた日射量と長波長放射量の求め方を理解する。
7回	建築外皮の熱性能	建築外皮を通じた熱貫流および日射熱取得の原理を理解する。
8回	断熱性能の設計	指定された性能の外皮仕様を設計する。
9回	日除けの原理	開口部に対する日射遮蔽の原理を理解する。
10回	日除けの設計	窓の方位と寸法に適した日除けを設計する。
11回	冷房負荷と暖房負荷	冷房能力および暖房能力を求めるのに必要となる熱負荷の原理を理解する。
12回	外皮性能と自然室温	外皮性能に応じた自然室温を計算し、外皮熱性能の改善を図る。
13回	プレゼンテーション1	自分の計画したサステイナブル住宅について発表・講評をする。
14回	プレゼンテーション2	自分の計画したサステイナブル住宅について発表・講評をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義の理論を復習すること。また，シラバスを読んで次の講義の内容を予習する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
原則として使用せず，必要に応じて講義に関する資料を配布する

【参考書】
田中俊六 他、『最新 建築環境工学』、井上書院
猪岡達夫、『デザイナーのための建築環境計画　熱・日射・風』、丸善出版
など

【成績評価の方法と基準】
時限中に計算、設計等を行い，毎回提出する。毎回の演習（30～50%）とプレゼンテーション（50～70%）により、総合的に判断する。未提出課題が3回を超えた者の評価は行わない。

【学生の意見等からの気づき】
演習は，今まで経験していない内容もあるが，想像力を発揮して課題に対し積極的に取り組むこと。

【学生が準備すべき機器他】
事前の教員の指示に従い、Excelの使えるPC等、製図用具等を持参する。

【その他の重要事項】
講義を聴くだけでなく、各回の演習を通じた環境計画手法の習得が重要である。

【Outline (in English)】
Course outline: This course aims to acquire engineering knowledge of sustainable design while learning architectural principles and environmental planning methods that utilize natural energy. Students will plan a house that uses as little energy as possible while maitaining comfort.
Learning Objectives:1) Understand the principles of methods that utilize natural energy and have a low impact on the environment. (2) Learn how to apply the methods of natural energy utilization. (3) Understand weather data and learn how to apply its characteristics to the building design. (4) Master environmental planning using passive methods through charts and calculations.
Through these, the goal is to acquire the ability to apply sustainable technology that can be applied to various fields.
Learning activities outside of classroom: Students are required to study the relevant parts of the textbook in advance. In addition, students are expected to review the textbook and perform similar exercises in the textbook. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy: The evaluation will be based on a total of 30-50% of the exercises and 50-70% of the final presentation.

ADE100NA（建築学 / Architecture and building engineering 100）

デザイン工学概論

南後　由和

開講時期：春学期授業/Spring　｜　選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：2023年度以降入学生のみ受講可

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、建築・都市環境デザイン工学・システムデザインに関する具体的なトピックを領域横断的に扱い、社会の変化によるデザイン工学の変遷について多面的に学ぶ。デザインおよび工学の表層にとらわれず、それらの背後にある諸問題を認識し、多角的に考察する実践感覚を養う。

【到達目標】
・建築・都市環境デザイン工学・システムデザインをめぐる学際性への知見を深める。
・建築・都市環境デザイン工学・システムデザインの経験の読み解きを通じて、「作る」ことと「使う」ことの二項対立を超えた視座を培う。
・メディア環境や地球環境の変化によって、デザイン工学が視野に入れるべき領域がどのように拡張しつつあるのかについての洞察力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
各回のテーマに沿って、スライド教材を用いた講義をオンデマンド動画配信する。
毎回、リアクションペーパーを学習支援システムで提出することを課題とし、授業内容の理解の定着をはかる。リアクションペーパーのフィードバックは、授業中のコメントもしくは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要・成績評価の方法、工学とは何か、デザインとは何か、デザイン工学をめざして
2	学際性	学際性、社会学する実践感覚、社会-空間論、アクターネットワーク理（ANT）
3	観察と記述	考現学、デザイン・サーヴェイ、路上観察学会、アトリエ・ワン、エスノグラフィ
4	メディアと空間	メディアとしての空間、空間のメディア表現、空間のなかのメディア、メディアのなかの空間
5	アーカイヴ	都市の記憶―集合的記憶、映画の都市表象分析
6	情報デザイン	インフォグラフィックス、ピクトグラム・ダイアグラム・ノーテーション
7	スケール	建築のスケール、地図とは何か、地図のスケールと地理学的想像力
8	ひとり空間	「おひとりさま」現象、〈ひとり空間〉とは何か、都市・日本・情報社会と〈ひとり空間〉、コロナ禍における〈ひとり空間〉の変容
9	群衆空間	群衆とは何か、〈群衆空間〉とは何か、渋谷スクランブル交差点、音楽フェス
10	インフラ	建築と土木、テクノスケープ、東京湾岸
11	商業空間	SC小史、SCの空間的特徴、陳列・什器
12	システム	遊びとルール、ゲームと建築・都市、P2Pプラットフォームと都市
13	デザインの拡張	建築的思考、デザイン思考、デザインリサーチ
14	総括	授業の振り返りとまとめ：リアクションペーパーのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、リアクションペーパーを学習支援システムで提出することを課題とする。
授業中に紹介する参考文献を読んで、理解を深めることが求められる。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
・アンリ・ルフェーヴル 『空間の生産』斎藤日出治訳、青木書店、2000.
・明治大学神代研究室・法政大学宮脇ゼミナール 『復刻 デザイン・サーヴェイ』彰国社、2012.
・アンソニー・ダン, フィオー・レイビー『スペキュラティヴ・デザイン 問題解決から、問題提起へ。』久保田晃弘監修・千葉敏生訳、BNN新社、2015.
・三浦展・藤村龍至・南後由和『商業空間は何の夢を見たか 1960 2010年代の都市と建築』平凡社、2016.
・永原康史 『インフォグラフィックスの潮流 情報と図解の近代史』誠文堂新光社、2016.
・南後由和『ひとり空間の都市論』筑摩書房、2018.

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー35％、期末試験65％
成績評価は100点満点とし、60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
具体例や図版の数をより増やした講義をする。

【学生が準備すべき機器他】
オンデマンド動画配信・教材配布・リアクションペーパー提出などのために、学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】
授業内容および順番は必要に応じて変更することがある。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course addresses particular themes pertaining to Architecture, Civil and Environmental Engineering, and systemic design in a transdisciplinary fashion, enabling students to comprehend the evolution of design engineering in response to societal shifts from manifold viewpoints. Students are tasked with cultivating a pragmatic discernment to discern the myriad issues underlying design and engineering, and to evaluate them from diverse perspectives, transcending superficial constraints of design and engineering.
【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:
-Deepen their understanding of the interdisciplinary nature of architecture, civil and environmental engineering, and systems design.
-Cultivate a perspective that transcends the binary opposition between “making” and “using” through the critical interpretation of experiences in architecture, civil and environmental engineering, and systems design.
-Develop insight into how changes in media environments and the global environment are expanding the domains that design engineering must take into consideration.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Reaction papers: 35%、Term-end examination : 65%

ADE100NA（建築学 / Architecture and building engineering 100）

デザイン工学概論

南後　由和

開講時期：春学期授業/Spring　｜　選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：2023年度以降入学生のみ受講可

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、建築・都市環境デザイン工学・システムデザインに関する具体的なトピックを領域横断的に扱い、社会の変化によるデザイン工学の変遷について多面的に学ぶ。デザインおよび工学の表層にとらわれず、それらの背後にある諸問題を認識し、多角的に考察する実践感覚を養う。

【到達目標】
・建築・都市環境デザイン工学・システムデザインをめぐる学際性への知見を深める。
・建築・都市環境デザイン工学・システムデザインの経験の読み解きを通じて、「作る」ことと「使う」ことの二項対立を超えた視座を培う。
・メディア環境や地球環境の変化によって、デザイン工学が視野に入れるべき領域がどのように拡張しつつあるのかについての洞察力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
各回のテーマに沿って、スライド教材を用いた講義をオンデマンド動画配信する。
毎回、リアクションペーパーを学習支援システムで提出することを課題とし、授業内容の理解の定着をはかる。リアクションペーパーのフィードバックは、授業中のコメントもしくは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要・成績評価の方法、工学とは何か、デザインとは何か、デザイン工学をめざして
2	学際性	学際性、社会学する実践感覚、社会-空間論、アクターネットワーク理（ANT）
3	観察と記述	考現学、デザイン・サーヴェイ、路上観察学会、アトリエ・ワン、エスノグラフィ
4	メディアと空間	メディアとしての空間、空間のメディア表現、空間のなかのメディア、メディアのなかの空間
5	アーカイヴ	都市の記憶―集合的記憶、映画の都市表象分析
6	情報デザイン	インフォグラフィックス、ピクトグラム・ダイアグラム・ノーテーション
7	スケール	建築のスケール、地図とは何か、地図のスケールと地理学的想像力
8	ひとり空間	「おひとりさま」現象、〈ひとり空間〉とは何か、都市・日本・情報社会と〈ひとり空間〉、コロナ禍における〈ひとり空間〉の変容
9	群衆空間	群衆とは何か、〈群衆空間〉とは何か、渋谷スクランブル交差点、音楽フェス
10	インフラ	建築と土木、テクノスケープ、東京湾岸
11	商業空間	SC小史、SCの空間的特徴、陳列・什器
12	システム	遊びとルール、ゲームと建築・都市、P2Pプラットフォームと都市
13	デザインの拡張	建築的思考、デザイン思考、デザインリサーチ
14	総括	授業の振り返りとまとめ：リアクションペーパーのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、リアクションペーパーを学習支援システムで提出することを課題とする。
授業中に紹介する参考文献を読んで、理解を深めることが求められる。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
・アンリ・ルフェーヴル 『空間の生産』斎藤日出治訳、青木書店、2000.
・明治大学神代研究室・法政大学宮脇ゼミナール 『復刻 デザイン・サーヴェイ』彰国社、2012.
・アンソニー・ダン, フィオー・レイビー『スペキュラティヴ・デザイン 問題解決から、問題提起へ。』久保田晃弘監修・千葉敏生訳、BNN新社、2015.
・三浦展・藤村龍至・南後由和『商業空間は何の夢を見たか 1960 2010年代の都市と建築』平凡社、2016.
・永原康史 『インフォグラフィックスの潮流 情報と図解の近代史』誠文堂新光社、2016.
・南後由和『ひとり空間の都市論』筑摩書房、2018.

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー35％、期末試験65％
成績評価は100点満点とし、60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
具体例や図版の数をより増やした講義をする。

【学生が準備すべき機器他】
オンデマンド動画配信・教材配布・リアクションペーパー提出などのために、学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】
授業内容および順番は必要に応じて変更することがある。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course addresses particular themes pertaining to Architecture, Civil and Environmental Engineering, and systemic design in a transdisciplinary fashion, enabling students to comprehend the evolution of design engineering in response to societal shifts from manifold viewpoints. Students are tasked with cultivating a pragmatic discernment to discern the myriad issues underlying design and engineering, and to evaluate them from diverse perspectives, transcending superficial constraints of design and engineering.
【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:
-Deepen their understanding of the interdisciplinary nature of architecture, civil and environmental engineering, and systems design.
-Cultivate a perspective that transcends the binary opposition between “making” and “using” through the critical interpretation of experiences in architecture, civil and environmental engineering, and systems design.
-Develop insight into how changes in media environments and the global environment are expanding the domains that design engineering must take into consideration.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Reaction papers: 35%、Term-end examination : 65%

ADE100NA（建築学 / Architecture and building engineering 100）

デザイン工学概論

南後　由和

開講時期：春学期授業/Spring　｜　選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：2023年度以降入学生のみ受講可

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、建築・都市環境デザイン工学・システムデザインに関する具体的なトピックを領域横断的に扱い、社会の変化によるデザイン工学の変遷について多面的に学ぶ。デザインおよび工学の表層にとらわれず、それらの背後にある諸問題を認識し、多角的に考察する実践感覚を養う。

【到達目標】
・建築・都市環境デザイン工学・システムデザインをめぐる学際性への知見を深める。
・建築・都市環境デザイン工学・システムデザインの経験の読み解きを通じて、「作る」ことと「使う」ことの二項対立を超えた視座を培う。
・メディア環境や地球環境の変化によって、デザイン工学が視野に入れるべき領域がどのように拡張しつつあるのかについての洞察力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
各回のテーマに沿って、スライド教材を用いた講義をオンデマンド動画配信する。
毎回、リアクションペーパーを学習支援システムで提出することを課題とし、授業内容の理解の定着をはかる。リアクションペーパーのフィードバックは、授業中のコメントもしくは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要・成績評価の方法、工学とは何か、デザインとは何か、デザイン工学をめざして
2	学際性	学際性、社会学する実践感覚、社会-空間論、アクターネットワーク理（ANT）
3	観察と記述	考現学、デザイン・サーヴェイ、路上観察学会、アトリエ・ワン、エスノグラフィ
4	メディアと空間	メディアとしての空間、空間のメディア表現、空間のなかのメディア、メディアのなかの空間
5	アーカイヴ	都市の記憶―集合的記憶、映画の都市表象分析
6	情報デザイン	インフォグラフィックス、ピクトグラム・ダイアグラム・ノーテーション
7	スケール	建築のスケール、地図とは何か、地図のスケールと地理学的想像力
8	ひとり空間	「おひとりさま」現象、〈ひとり空間〉とは何か、都市・日本・情報社会と〈ひとり空間〉、コロナ禍における〈ひとり空間〉の変容
9	群衆空間	群衆とは何か、〈群衆空間〉とは何か、渋谷スクランブル交差点、音楽フェス
10	インフラ	建築と土木、テクノスケープ、東京湾岸
11	商業空間	SC小史、SCの空間的特徴、陳列・什器
12	システム	遊びとルール、ゲームと建築・都市、P2Pプラットフォームと都市
13	デザインの拡張	建築的思考、デザイン思考、デザインリサーチ
14	総括	授業の振り返りとまとめ：リアクションペーパーのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、リアクションペーパーを学習支援システムで提出することを課題とする。
授業中に紹介する参考文献を読んで、理解を深めることが求められる。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
・アンリ・ルフェーヴル 『空間の生産』斎藤日出治訳、青木書店、2000.
・明治大学神代研究室・法政大学宮脇ゼミナール 『復刻 デザイン・サーヴェイ』彰国社、2012.
・アンソニー・ダン, フィオー・レイビー『スペキュラティヴ・デザイン 問題解決から、問題提起へ。』久保田晃弘監修・千葉敏生訳、BNN新社、2015.
・三浦展・藤村龍至・南後由和『商業空間は何の夢を見たか 1960 2010年代の都市と建築』平凡社、2016.
・永原康史 『インフォグラフィックスの潮流 情報と図解の近代史』誠文堂新光社、2016.
・南後由和『ひとり空間の都市論』筑摩書房、2018.

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー35％、期末試験65％
成績評価は100点満点とし、60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
具体例や図版の数をより増やした講義をする。

【学生が準備すべき機器他】
オンデマンド動画配信・教材配布・リアクションペーパー提出などのために、学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】
授業内容および順番は必要に応じて変更することがある。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course addresses particular themes pertaining to Architecture, Civil and Environmental Engineering, and systemic design in a transdisciplinary fashion, enabling students to comprehend the evolution of design engineering in response to societal shifts from manifold viewpoints. Students are tasked with cultivating a pragmatic discernment to discern the myriad issues underlying design and engineering, and to evaluate them from diverse perspectives, transcending superficial constraints of design and engineering.
【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:
-Deepen their understanding of the interdisciplinary nature of architecture, civil and environmental engineering, and systems design.
-Cultivate a perspective that transcends the binary opposition between “making” and “using” through the critical interpretation of experiences in architecture, civil and environmental engineering, and systems design.
-Develop insight into how changes in media environments and the global environment are expanding the domains that design engineering must take into consideration.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Reaction papers: 35%、Term-end examination : 65%

ADE300NA（建築学 / Architecture and building engineering 300）

マテリアルデザイン

宮田　雄二郎

開講時期：春学期授業/Spring　｜　選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
建築・都市構造物の構造デザインにおいて，構造耐力，耐久性，耐火性能，環境性能，コストど，多様な要求性能を検証したうえで，最適な材料を選択することが重要です。そのためには，それぞれの材料毎に特性を理解し，それを活かして構造物を構築する工学的手法を学ぶ必要があります。この授業では，「構造材料」に焦点を当てその製造方法から加工方法，力学特性，その他各種性能について実例を交えて解説します。現代の構造工学において特に重要な「鋼構造」，「鉄筋コンクリート構造」，「木構造」のデザインを理解するための基礎知識を修得することを目的とします。

【到達目標】
・構造材料の製造方法，加工方法を理解する。
・構造材料の応力度－ひずみ度関係など力学特性を理解する。
・構造材料の耐久性，耐火性能を理解する。
・構造材料それぞれの特徴を活かした工法の概要を理解する。
・構造材料ぞれぞれの塑性特性および破壊までのエネルギー吸収性能を理解する。
・構造材料の特性を活かした構造デザインの実践例を知る。
・異なる構造材料のそれぞれの長所を組み合わせる設計法の概要を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・教材資料を授業支援システムにアップロードします。
・授業内で教材資料を解説します。
・授業内で紹介する参考書など自習して理解を深めること。
・中間テストを３回実施して，理解度を確認します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業ガイダンス 構造材料の種類
2	鋼材 1	金属材料の種類，鋼の製造法・加工法
3	鋼材 2	鋼材の性質
4	鋼材 3	鋼材と構造物のデザイン
5	中間テスト①	鋼材に関するテスト テストの解説
6	コンクリート材料1	セメントの種類，セメントの製造法
7	コンクリート材料2	骨材の種類，コンクリートの種類と性質 応力- ひずみ曲線
8	コンクリート材料3	コンクリートと構造物のデザイン
9	中間テスト②	コンクリートに関するテスト テストの解説
10	木質材料1	木質材料の種類と性質
11	木質材料2	木質材料と製造法・加工法
12	木質材料3	木質材料と建物のデザイン
13	材料の選択と構造物のデザイン	構造材料の特性比較と構造デザイン実例
14	中間テスト③	木質材料に関するテスト テストの解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業テキストの復習，および参考書等による自習に取り組むこと。
本授業の自習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業支援システムにテキストをアップロードします。

【参考書】
授業システムで適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
講義内で中間テストを3回実施し，１回目 30%，２回目 30%，３回目 40%の配分で成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
この授業の後に「鉄筋コンクリートのデザイン」，「鋼のデザイン」，「木造建築の構法」を履修することでさらに理解が深まるので，その履修を強く勧める。
また，建築士資格の取得を目指す学生は受講することを勧める。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In the structural design of architectural and urban structures, it is important to select the most appropriate materials after examining various performance requirements such as structural strength, durability, fire resistance, environmental performance, and cost. To achieve this, it is necessary to understand the characteristics of each material and to learn engineering methods to construct structures that take advantage of these characteristics. In this course, we will focus on "structural materials" and explain their manufacturing methods, processing methods, mechanical properties, and various other performances with actual examples. The objective of this course is to acquire basic knowledge to understand the design of steel, reinforced concrete, and wood structures, which are particularly important in modern structural engineering.
【Learning Objectives】
To understand the manufacturing and processing methods of structural materials.
To understand the mechanical properties of structural materials, such as stress-strain relationships.
To understand the durability and fire resistance of structural materials.
To understand the outline of construction methods utilizing the characteristics of each structural material.
To understand the plastic properties of structural materials and their energy absorption performance up to fracture.
To understand the practical examples of structural design utilizing the characteristics of structural materials.
To understand the design methods that combine the advantages of different structural materials.
【Learning activities outside of classroom】
Students are required to review the class textbook and to engage in self-study using reference books, etc.

The standard self-study and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
There will be three tests in the lecture and the grading will be 30% for the first test, 30% for the second test, and 40% for the third test.

ADE300NA（建築学 / Architecture and building engineering 300）

マテリアルデザイン

宮田　雄二郎

開講時期：春学期授業/Spring　｜　選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
建築・都市構造物の構造デザインにおいて，構造耐力，耐久性，耐火性能，環境性能，コストど，多様な要求性能を検証したうえで，最適な材料を選択することが重要です。そのためには，それぞれの材料毎に特性を理解し，それを活かして構造物を構築する工学的手法を学ぶ必要があります。この授業では，「構造材料」に焦点を当てその製造方法から加工方法，力学特性，その他各種性能について実例を交えて解説します。現代の構造工学において特に重要な「鋼構造」，「鉄筋コンクリート構造」，「木構造」のデザインを理解するための基礎知識を修得することを目的とします。

【到達目標】
・構造材料の製造方法，加工方法を理解する。
・構造材料の応力度－ひずみ度関係など力学特性を理解する。
・構造材料の耐久性，耐火性能を理解する。
・構造材料それぞれの特徴を活かした工法の概要を理解する。
・構造材料ぞれぞれの塑性特性および破壊までのエネルギー吸収性能を理解する。
・構造材料の特性を活かした構造デザインの実践例を知る。
・異なる構造材料のそれぞれの長所を組み合わせる設計法の概要を学ぶ。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
○			◎			

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・教材資料を授業支援システムにアップロードします。
・授業内で教材資料を解説します。
・授業内で紹介する参考書など自習して理解を深めること。
・中間テストを３回実施して，理解度を確認します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業ガイダンス
	鋼材 1	構造材料の種類 鋼の製造法・加工法
2	鋼材 2	鋼材の性質
3	鋼材 3	鋼材を用いた工法
4	鋼材 4	鋼材と構造物のデザイン
5	中間テスト①	鋼材に関するテスト テストの解説
6	コンクリート 1	セメントの種類，セメントの製造法
7	コンクリート 2	骨材の種類，コンクリートの種類と性質 応力- ひずみ曲線
8	コンクリート 3	コンクリートを用いた工法
9	コンクリート 4	コンクリートと構造物のデザイン
10	中間テスト②	コンクリートに関するテスト テストの解説
11	木質材料 1	木質材料の種類と性質
12	木質材料 2	木質材料と製造法・加工法
13	木質材料 3	木質材料を用いた工法
14	木質材料 4	木質材料と建物のデザイン

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業テキストの復習，および参考書等による自習に取り組むこと。
本授業の自習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業支援システムにテキストをアップロードします。

【参考書】
授業システムで適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
中間テストと期末テスト実施する．中間１回目 30%，中間２回目 30%，期末 40%の配分で成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
この授業の後に「鉄筋コンクリートのデザイン」，「鋼のデザイン」，「木造建築の構法」を履修することでさらに理解が深まるので，その履修を強く勧める。
また，建築士資格の取得を目指す学生は受講することを勧める。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In the structural design of architectural and urban structures, it is important to select the most appropriate materials after examining various performance requirements such as structural strength, durability, fire resistance, environmental performance, and cost. To achieve this, it is necessary to understand the characteristics of each material and to learn engineering methods to construct structures that take advantage of these characteristics. In this course, we will focus on "structural materials" and explain their manufacturing methods, processing methods, mechanical properties, and various other performances with actual examples. The objective of this course is to acquire basic knowledge to understand the design of steel, reinforced concrete, and wood structures, which are particularly important in modern structural engineering.
【Learning Objectives】
To understand the manufacturing and processing methods of structural materials.
To understand the mechanical properties of structural materials, such as stress-strain relationships.
To understand the durability and fire resistance of structural materials.
To understand the outline of construction methods utilizing the characteristics of each structural material.
To understand the plastic properties of structural materials and their energy absorption performance up to fracture.
To understand the practical examples of structural design utilizing the characteristics of structural materials.

To understand the design methods that combine the advantages of different structural materials.
【Learning activities outside of classroom】
Students are required to review the class textbook and to engage in self-study using reference books, etc.
The standard self-study and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
There will be three tests in the lecture and the grading will be 30% for the first test, 30% for the second test, and 40% for the third test.

ADE300NA（建築学 / Architecture and building engineering 300）

マテリアルデザイン

宮田　雄二郎

開講時期：春学期授業/Spring　｜　選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
建築・都市構造物の構造デザインにおいて，構造耐力，耐久性，耐火性能，環境性能，コストど，多様な要求性能を検証したうえで，最適な材料を選択することが重要です。そのためには，それぞれの材料毎に特性を理解し，それを活かして構造物を構築する工学的手法を学ぶ必要があります。この授業では，「構造材料」に焦点を当てその製造方法から加工方法，力学特性，その他各種性能について実例を交えて解説します。現代の構造工学において特に重要な「鋼構造」，「鉄筋コンクリート構造」，「木構造」のデザインを理解するための基礎知識を修得することを目的とします。

【到達目標】
・構造材料の製造方法，加工方法を理解する。
・構造材料の応力度－ひずみ度関係など力学特性を理解する。
・構造材料の耐久性，耐火性能を理解する。
・構造材料それぞれの特徴を活かした工法の概要を理解する。
・構造材料ぞれぞれの塑性特性および破壊までのエネルギー吸収性能を理解する。
・構造材料の特性を活かした構造デザインの実践例を知る。
・異なる構造材料のそれぞれの長所を組み合わせる設計法の概要を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・教材資料を授業支援システムにアップロードします。
・授業内で教材資料を解説します。
・授業内で紹介する参考書など自習して理解を深めること。
・中間テストを３回実施して，理解度を確認します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業ガイダンス 構造材料の種類
2	鋼材 1	金属材料の種類，鋼の製造法・加工法
3	鋼材 2	鋼材の性質
4	鋼材 3	鋼材と構造物のデザイン
5	中間テスト①	鋼材に関するテスト テストの解説
6	コンクリート材料1	セメントの種類，セメントの製造法
7	コンクリート材料2	骨材の種類，コンクリートの種類と性質 応力- ひずみ曲線
8	コンクリート材料3	コンクリートと構造物のデザイン
9	中間テスト②	コンクリートに関するテスト テストの解説
10	木質材料1	木質材料の種類と性質
11	木質材料2	木質材料と製造法・加工法
12	木質材料3	木質材料と建物のデザイン
13	材料の選択と構造物のデザイン	構造材料の特性比較と構造デザイン実例
14	中間テスト③	木質材料に関するテスト テストの解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業テキストの復習，および参考書等による自習に取り組むこと。
本授業の自習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業支援システムにテキストをアップロードします。

【参考書】
授業システムで適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
講義内で中間テストを3回実施し，１回目 30%，２回目 30%，３回目 40%の配分で成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
この授業の後に「鉄筋コンクリートのデザイン」，「鋼のデザイン」，「木造建築の構法」を履修することでさらに理解が深まるので，その履修を強く勧める。
また，建築士資格の取得を目指す学生は受講することを勧める。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In the structural design of architectural and urban structures, it is important to select the most appropriate materials after examining various performance requirements such as structural strength, durability, fire resistance, environmental performance, and cost. To achieve this, it is necessary to understand the characteristics of each material and to learn engineering methods to construct structures that take advantage of these characteristics. In this course, we will focus on "structural materials" and explain their manufacturing methods, processing methods, mechanical properties, and various other performances with actual examples. The objective of this course is to acquire basic knowledge to understand the design of steel, reinforced concrete, and wood structures, which are particularly important in modern structural engineering.
【Learning Objectives】
To understand the manufacturing and processing methods of structural materials.
To understand the mechanical properties of structural materials, such as stress-strain relationships.
To understand the durability and fire resistance of structural materials.
To understand the outline of construction methods utilizing the characteristics of each structural material.
To understand the plastic properties of structural materials and their energy absorption performance up to fracture.
To understand the practical examples of structural design utilizing the characteristics of structural materials.
To understand the design methods that combine the advantages of different structural materials.
【Learning activities outside of classroom】
Students are required to review the class textbook and to engage in self-study using reference books, etc.

The standard self-study and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
There will be three tests in the lecture and the grading will be 30% for the first test, 30% for the second test, and 40% for the third test.

CST300NC（土木工学 / Civil engineering 300）

ジオテクニカルデザイン

酒井　久和

開講時期：春学期授業/Spring　｜　選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地盤調査，地盤災害，基礎，地盤改良，地盤掘削について学習するとともに，様々な構造物の設計演習を通じて総合的デザイン能力を高め，設計の考え方を習得する．

【到達目標】
①インフラ建設時の調査法，設計法，地盤災害について理解する．
②建設工事に必要な地盤調査法や建設時の地盤災害を理解し，ボーリング柱状図から事前に問題点を抽出する力を養成する．
③浅い基礎，深い基礎の設計方法と構造物の支持力機構を理解する．
④地盤改良や掘削の方法について理解する．

【修得できる能力】
（A）歴史・文化・自然の理解・尊重
（B）技術者倫理
（C）工学基礎学力
（D）専門基礎学力　20%
（E）専門知識の活用・応用能力　60%
（F）総合デザイン能力　20%
（G）コミュニケーション能力
（H）継続的学習能力
（I）業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
「地盤環境工学」の発展として，インフラ建設時の調査法，設計法，地盤災害について講義を行う．前半では，建設時の地盤災害，浅い基礎の設計方法，液状化のメカニズムについて学び，後半は，深い基礎の設計方法，地盤改良や掘削の方法について学習する．構造物設計上の要点を把握した状態でボーリング柱状図を読むことで事前に問題点を抽出する力を養成する．
授業は学年暦通り実施する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス，地盤調査法	サウンディング，サンプリングによる地盤構造の把握
2	建設時の地盤災害	ボイリングの現象，検討方法，対策法
3	建設時の地盤災害	ヒービング，盤膨れの現象，検討方法，対策法
4	浅い基礎の概説	浅い基礎の種類と施工法
5	浅い基礎の設計法	浅い基礎の支持力の考え方
6	浅い基礎の設計演習	浅い基礎の設計演習と解説
7	液状化現象	メカニズム，液状化対策と液状化判定
8	深い基礎の概説	支持力機構，基礎に要求される性能，杭の工法，材質，形状による分類
9	深い基礎の概説	工法の特徴と施工法の概要
10	深い基礎の検討	検討方法，鉛直支持力の計算法の概説
11	深い基礎の設計法	鉛直支持力，負の摩擦力の計算演習
12	地盤改良・掘削方法	地盤改良工法の概説，適用例．各種掘削工法の概説，特徴．
13	地盤特性値の解釈調査と留意点	設計地盤定数の求め方と留意点，ボーリング柱状図の読み方
14	期末まとめ	第1回～13回の理解の確認と質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. 今回授業内容の復習
2. 同　上
3. 同　上
4. 同　上
5. 同　上
6. 同　上
7. 同　上
8. 同　上
9. 同　上
10. 同　上
11. 同　上
12. 同　上
13. 同　上
14. 同　上
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし．
プリントを適宜配布する

【参考書】
地盤工学会：地盤調査法
日本道路協会：杭基礎設計便覧（平成18年度）
吉見吉昭，福武毅芳：地盤液状化の物理と評価・対策技術，技報堂出版
日本道路協会：道路土工構造物技術基準・同解説

【成績評価の方法と基準】
定期試験70％，レポート30％
欠席４回以上は単位取得を認めない(評価D).

【学生の意見等からの気づき】
初回講義の際にこれまでの成績評価状況を説明し，受講意欲のない学生に対しては，早めに履修を諦めさることができたところ，学生の授業評価が低いものがなくなり，興味のある学生の受講環境を高めることができた．引き続き学生に考えさせ，総合デザイン力の向上を目指したい．

【学生が準備すべき機器他】
関数電卓,PC

【その他の重要事項】
建設会社の設計部で実務を担当した教員が設計経験を活かして講義を行う．

【Outline (in English)】
The main objectives of the Geological Environmental Engineering 2 Program are the following:
1) Graduates will acquire fundamental knowledge on geotechnology: ground survey, ground disaster, foundation, ground improvement and excavation methods.
2) Graduates will enhance their ability of general design by design practices of several types of infrastructure.
This class's standard preparation and review time is about 2 hours, respectively.
Grade evaluation: Periodic examination 70% + Report 30% =100%, provided that no credit will be given for more than four absences; grade D.

MEC300NA（機械工学 / Mechanical engineering 300）

品質マネジメント

池庄司　雅臣

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
科学は自然界の現象を解釈し、物理法則として定式化することを目指している。一方、技術は、自然界にないもの、人間が欲するものを設計し、作り出すことを目指す。技術においては、科学の成果を利用するが、必ずしも理想的には実現できないのが現実である。技術にとっての品質はどれだけ理想に近いかを表現し、その完成度を表す。この授業の中では、品質評価をベースに理想に近いものを実現する方法論を、共通技術として学ぶ。この共通技術は、世界的にはTaguchi Methodsとして知られており、国内では「品質工学」と呼ばれている。
一般に、品質は技術品質と商品品質に分けられる。商品品質には、機能そのもの、製品の色、形状、デザインなどがある。これらは、使用者の用途・嗜好に左右されることが多く、その良否に客観的に評価することは難しい。一方、技術品質とは、「システムが、技術的に望ましくない項目によって社会に与える損失」で表現される。損失の中には、機能のばらつき（機能性）による損失や弊害項目による損失が含まれるが、技術品質の評価には客観性があり、技術の対象とすることができる。技術品質を評価する場合、理想からのばらつき及び使用状況の中での製品の機能のばらつきとしてSN比で評価することができる。SN比を手がかりに、製品を設計し、生産するプロセスを最適化する方法が品質工学の方法である。これを正しく理解することにより、最適なシステムを設計し、運用していく共通技術を獲得することができる。

【到達目標】
技術の基本である機能と機能性の考え方を知り、自分自身の技術に関しての適用を考えられるようにする。
特に、製品の使用者のいろいろな条件の中で、製品がきちんと機能することを定量化したロバストネスの指標であるSN比の考え方と計算方法、効率的な実験の進め方を習得し、製品や技術を設計するに当たって検討すべき事項を学ぶ。
本講義は「品質工学」をベースとしているが、異なるスタンスである「品質管理」についても触れることで、品質マネジメントの総合的な理解を得ることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
品質工学の考え方と方法を、講義、事例研究、演習を通して学ぶ。
品質工学を進めるのに必要な、実験計画法、分散分析の計算法など簡単な統計計算法を織り込みながら、授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義全体の流れ、品質工学の考え方を紹介する。
2	品質とは：機能と機能性	品質の考え方、設計においてロバストネス評価が重要であることを述べる。
3	分散分析入門	SN比の前段として分散分析について述べる。
4	SN比の導入：理想関数からのばらつき	ロバストネスの評価方法について述べる。
5	直交表入門	多くの因子を取り上げた効率的な実験の方法を述べる。
6	損失関数	社会的損失を定量化し、使いやすくする損失関数の考え方を知る。
7	オンライン品質工学：プロセスの運用	損失関数を用いた、システムの運用方法を考える。
8	計測技術におけるSN比と評価	実験で重要な測定の信頼性をSN比で評価する。
9	実験による設計技術の開発（1）	いろいろな分野の評価の事例を学ぶ。
10	実験による設計技術の開発（2）	応用事例を知る。
11	許容差設計	ばらつきの低減化の成果をもとに、コストと品質のバランスを取る。
12	品質管理の考え方（1）	品質管理の考え方や、QC 7つ道具に代表される手法について説明する。
13	品質管理の考え方（2）	管理図やその背景にある統計的な考え方について説明する。
14	本講義のまとめ	まとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習、計算、レポートなどの宿題あり。
課題については次回講義のレジュメで詳細な解説を付けるので、その内容については十分に復習されたい。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。
（毎回配布するレジュメに基づいて授業を進める）

【参考書】
1）矢野宏：品質工学概論、日本規格協会、2009
2）田口玄一、横山巽子：ベーシック品質工学へのとびら、日本規格協会、2007
3）田口伸：タグチメソッド入門、日本規格協会、2016
4）矢野耕也、水谷淳之介、山本桂一郎：初学者のための品質工学、コロナ社、2013

【成績評価の方法と基準】
授業への取り組みや理解度、および演習レポートをもとに評価する。
（平常点：40%、演習レポート：60%）

【学生の意見等からの気づき】
なるべく平易な解説を心がけます。解らない事は適宜質問して下さい。

【その他の重要事項】
・データ分析の豊富な業務経験を持つ教員が、品質マネジメントで必要となるデータの扱い方や分析手法、統計的な考え方について講義する。
・随時、電子メールで質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
The goal of science is to interpret natural phenomena, representing physical principles via formulae. On the other hand, the goal of technology is to design things which don't exist in the natural world that are desirable to humans and produce them. While technology uses the results of science, in the real world it is not always possible to succeed in creating ideal applications for them. Quality is an expression of how close technology comes to the ideal, and representing its scale of completion. In this course we will learn common methods for determining how technologies can be produced at close to ideal levels through the use of quality indicators as a base. These methods are known throughout the world as the Taguchi Methods, and in Japan as "quality engineering".
In general, quality can be divided into technological quality and product quality. Product quality includes function, color, shape, design etc. On the other hand, technological quality is a representation of the negative effects of undesirable technological flaws of a system on society. While the negative effects include those from overfunctionality, abusive practice etc., objective aspects of quality evaluation also exist, linking it the application of technology. When measuring technological quality, the signal to noise ratio of how it diverges from the ideal in both principle and practice can be calculated. Using this hint is one of the methods of quality engineering to design products and optimize the processes of production. By properly understanding these principles, it is possible to form common technologies for optimal system design and management.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be approximately two hours per class. Please refer to the course materials for information on assignment contents and how to solve them.
【Grading Criteria /Policy】
The final grade will be determined by the degree of commitment to the class (40%) and the assignment report (60%).

MEC300NA（機械工学 / Mechanical engineering 300）

品質マネジメント

池庄司　雅臣

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
科学は自然界の現象を解釈し、物理法則として定式化することを目指している。一方、技術は、自然界にないもの、人間が欲するものを設計し、作り出すことを目指す。技術においては、科学の成果を利用するが、必ずしも理想的には実現できないのが現実である。技術にとっての品質はどれだけ理想に近いかを表現し、その完成度を表す。この授業の中では、品質評価をベースに理想に近いものを実現する方法論を、共通技術として学ぶ。この共通技術は、世界的にはTaguchi Methodsとして知られており、国内では「品質工学」と呼ばれている。
一般に、品質は技術品質と商品品質に分けられる。商品品質には、機能そのもの、製品の色、形状、デザインなどがある。これらは、使用者の用途・嗜好に左右されることが多く、その良否に客観的に評価することは難しい。一方、技術品質とは、「システムが、技術的に望ましくない項目によって社会に与える損失」で表現される。損失の中には、機能のばらつき（機能性）による損失や弊害項目による損失が含まれるが、技術品質の評価には客観性があり、技術の対象とすることができる。技術品質を評価する場合、理想からのばらつき及び使用状況の中での製品の機能のばらつきとしてSN比で評価することができる。SN比を手がかりに、製品を設計し、生産するプロセスを最適化する方法が品質工学の方法である。これを正しく理解することにより、最適なシステムを設計し、運用していく共通技術を獲得することができる。

【到達目標】
技術の基本である機能と機能性の考え方を知り、自分自身の技術に関しての適用を考えられるようにする。
特に、製品の使用者のいろいろな条件の中で、製品がきちんと機能することを定量化したロバストネスの指標であるSN比の考え方と計算方法、効率的な実験の進め方を習得し、製品や技術を設計するに当たって検討すべき事項を学ぶ。
本講義は「品質工学」をベースとしているが、異なるスタンスである「品質管理」についても触れることで、品質マネジメントの総合的な理解を得ることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
品質工学の考え方と方法を、講義、事例研究、演習を通して学ぶ。
品質工学を進めるのに必要な、実験計画法、分散分析の計算法など簡単な統計計算法を織り込みながら、授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義全体の流れ、品質工学の考え方を紹介する。
2	品質とは：機能と機能性	品質の考え方、設計においてロバストネス評価が重要であることを述べる。
3	分散分析入門	SN比の前段として分散分析について述べる。
4	SN比の導入：理想関数からのばらつき	ロバストネスの評価方法について述べる。
5	直交表入門	多くの因子を取り上げた効率的な実験の方法を述べる。
6	損失関数	社会的損失を定量化し、使いやすくする損失関数の考え方を知る。
7	オンライン品質工学：プロセスの運用	損失関数を用いた、システムの運用方法を考える。
8	計測技術におけるSN比と評価	実験で重要な測定の信頼性をSN比で評価する。
9	実験による設計技術の開発（1）	いろいろな分野の評価の事例を学ぶ。
10	実験による設計技術の開発（2）	応用事例を知る。
11	許容差設計	ばらつきの低減化の成果をもとに、コストと品質のバランスを取る。
12	品質管理の考え方（1）	品質管理の考え方や、QC 7つ道具に代表される手法について説明する。
13	品質管理の考え方（2）	管理図やその背景にある統計的な考え方について説明する。
14	本講義のまとめ	まとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習、計算、レポートなどの宿題あり。
課題については次回講義のレジュメで詳細な解説を付けるので、その内容については十分に復習されたい。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。
（毎回配布するレジュメに基づいて授業を進める）

【参考書】
1）矢野宏：品質工学概論、日本規格協会、2009
2）田口玄一、横山巽子：ベーシック品質工学へのとびら、日本規格協会、2007
3）田口伸：タグチメソッド入門、日本規格協会、2016
4）矢野耕也、水谷淳之介、山本桂一郎：初学者のための品質工学、コロナ社、2013

【成績評価の方法と基準】
授業への取り組みや理解度、および演習レポートをもとに評価する。
（平常点：40%、演習レポート：60%）

【学生の意見等からの気づき】
なるべく平易な解説を心がけます。解らない事は適宜質問して下さい。

【その他の重要事項】
・データ分析の豊富な業務経験を持つ教員が、品質マネジメントで必要となるデータの扱い方や分析手法、統計的な考え方について講義する。
・随時、電子メールで質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
The goal of science is to interpret natural phenomena, representing physical principles via formulae. On the other hand, the goal of technology is to design things which don't exist in the natural world that are desirable to humans and produce them. While technology uses the results of science, in the real world it is not always possible to succeed in creating ideal applications for them. Quality is an expression of how close technology comes to the ideal, and representing its scale of completion. In this course we will learn common methods for determining how technologies can be produced at close to ideal levels through the use of quality indicators as a base. These methods are known throughout the world as the Taguchi Methods, and in Japan as "quality engineering".
In general, quality can be divided into technological quality and product quality. Product quality includes function, color, shape, design etc. On the other hand, technological quality is a representation of the negative effects of undesirable technological flaws of a system on society. While the negative effects include those from overfunctionality, abusive practice etc., objective aspects of quality evaluation also exist, linking it the application of technology. When measuring technological quality, the signal to noise ratio of how it diverges from the ideal in both principle and practice can be calculated. Using this hint is one of the methods of quality engineering to design products and optimize the processes of production. By properly understanding these principles, it is possible to form common technologies for optimal system design and management.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be approximately two hours per class. Please refer to the course materials for information on assignment contents and how to solve them.
【Grading Criteria /Policy】
The final grade will be determined by the degree of commitment to the class (40%) and the assignment report (60%).

MEC300NA（機械工学 / Mechanical engineering 300）

品質マネジメント

池庄司　雅臣

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
科学は自然界の現象を解釈し、物理法則として定式化することを目指している。一方、技術は、自然界にないもの、人間が欲するものを設計し、作り出すことを目指す。技術においては、科学の成果を利用するが、必ずしも理想的には実現できないのが現実である。技術にとっての品質はどれだけ理想に近いかを表現し、その完成度を表す。この授業の中では、品質評価をベースに理想に近いものを実現する方法論を、共通技術として学ぶ。この共通技術は、世界的にはTaguchi Methodsとして知られており、国内では「品質工学」と呼ばれている。
一般に、品質は技術品質と商品品質に分けられる。商品品質には、機能そのもの、製品の色、形状、デザインなどがある。これらは、使用者の用途・嗜好に左右されることが多く、その良否に客観的に評価することは難しい。一方、技術品質とは、「システムが、技術的に望ましくない項目によって社会に与える損失」で表現される。損失の中には、機能のばらつき（機能性）による損失や弊害項目による損失が含まれるが、技術品質の評価には客観性があり、技術の対象とすることができる。技術品質を評価する場合、理想からのばらつき及び使用状況の中での製品の機能のばらつきとしてSN比で評価することができる。SN比を手がかりに、製品を設計し、生産するプロセスを最適化する方法が品質工学の方法である。これを正しく理解することにより、最適なシステムを設計し、運用していく共通技術を獲得することができる。

【到達目標】
技術の基本である機能と機能性の考え方を知り、自分自身の技術に関しての適用を考えられるようにする。
特に、製品の使用者のいろいろな条件の中で、製品がきちんと機能することを定量化したロバストネスの指標であるSN比の考え方と計算方法、効率的な実験の進め方を習得し、製品や技術を設計するに当たって検討すべき事項を学ぶ。
本講義は「品質工学」をベースとしているが、異なるスタンスである「品質管理」についても触れることで、品質マネジメントの総合的な理解を得ることを目標とする。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
		○			◎	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
品質工学の考え方と方法を、講義、事例研究、演習を通して学ぶ。
品質工学を進めるのに必要な、実験計画法、分散分析の計算法など簡単な統計計算法を織り込みながら、授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義全体の流れ、品質工学の考え方を紹介する。
2	品質とは：機能と機能性	品質の考え方、設計においてロバストネス評価が重要であることを述べる。
3	分散分析入門	SN比の前段として分散分析について述べる。
4	SN比の導入：理想関数からのばらつき	ロバストネスの評価方法について述べる。
5	直交表入門	多くの因子を取り上げた効率的な実験の方法を述べる。
6	損失関数	社会的損失を定量化し、使いやすくする損失関数の考え方を知る。
7	オンライン品質工学：プロセスの運用	損失関数を用いた、システムの運用方法を考える。
8	計測技術におけるSN比と評価	実験で重要な測定の信頼性をSN比で評価する。
9	実験による設計技術の開発（1）	いろいろな分野の評価の事例を学ぶ。
10	実験による設計技術の開発（2）	応用事例を知る。
11	許容差設計	ばらつきの低減化の成果をもとに、コストと品質のバランスを取る。
12	品質管理の考え方（1）	品質管理の考え方や、QC 7つ道具に代表される手法について説明する。
13	品質管理の考え方（2）	管理図やその背景にある統計的な考え方について説明する。
14	本講義のまとめ	まとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習、計算、レポートなどの宿題あり。
課題については次回講義のレジュメで詳細な解説を付けるので、その内容については十分に復習されたい。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。
（毎回配布するレジュメに基づいて授業を進める）

【参考書】
1）矢野宏：品質工学概論、日本規格協会、2009
2）田口玄一、横山巽子：ベーシック品質工学へのとびら、日本規格協会、2007
3）田口伸：タグチメソッド入門、日本規格協会、2016
4）矢野耕也、水谷淳之介、山本桂一郎：初学者のための品質工学、コロナ社、2013

【成績評価の方法と基準】
授業への取り組みや理解度、および演習レポートをもとに評価する。
（平常点：40%、演習レポート：60%）

【学生の意見等からの気づき】
なるべく平易な解説を心がけます。解らない事は適宜質問して下さい。

【その他の重要事項】
・データ分析の豊富な業務経験を持つ教員が、品質マネジメントで必要となるデータの扱い方や分析手法、統計的な考え方について講義する。
・随時、電子メールで質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
The goal of science is to interpret natural phenomena, representing physical principles via formulae. On the other hand, the goal of technology is to design things which don't exist in the natural world that are desirable to humans and produce them. While technology uses the results of science, in the real world it is not always possible to succeed in creating ideal applications for them. Quality is an expression of how close technology comes to the ideal, and representing its scale of completion. In this course we will learn common methods for determining how technologies can be produced at close to ideal levels through the use of quality indicators as a base. These methods are known throughout the world as the Taguchi Methods, and in Japan as "quality engineering".
In general, quality can be divided into technological quality and product quality. Product quality includes function, color, shape, design etc. On the other hand, technological quality is a representation of the negative effects of undesirable technological flaws of a system on society. While the negative effects include those from overfunctionality, abusive practice etc., objective aspects of quality evaluation also exist, linking it the application of technology. When measuring technological quality, the signal to noise ratio of how it diverges from the ideal in both principle and practice can be calculated. Using this hint is one of the methods of quality engineering to design products and optimize the processes of production. By properly understanding these principles, it is possible to form common technologies for optimal system design and management.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be approximately two hours per class. Please refer to the course materials for information on assignment contents and how to solve them.
【Grading Criteria /Policy】
The final grade will be determined by the degree of commitment to the class (40%) and the assignment report (60%).

BME200NA（人間医工学 / Biomedical engineering 200）

医療福祉工学

川瀬　利弘

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
医療福祉の分野で、機械工学や電子工学、情報工学がどのように応用されているのかを学ぶ。それによりこの分野の発展には工学技術とヒトの科学的理解が必要不可欠であることを理解する。

【到達目標】
1. 福祉工学の基本理念を理解する
2. 様々な技術の基本原理と最新の状況を理解する
3. 生理学や神経科学の大まかな理解に基づき、福祉機器や医療機器について考えられるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
福祉工学を学ぶ上で必要となる基本的な生理学や神経科学、それに基づいた生体計測や、関連する信号処理技術、治療工学、生活支援工学などを、最近の研究成果を踏まえつつわかりやすく講義する。
毎回授業支援システムより資料を配付し、講義の最後にその回のポイントについて小テストを行う。授業の初めに、前回の授業で提出された回答をもとに、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	福祉工学概論	ヒトの感覚・運動機能を機械で補助・代行する分野としての福祉工学について、歴史と現状を概説する。
2	生体計測1：概論	福祉工学に関連する生体計測について、得られる信号の種類や特徴、基本的な取り扱い方を講義する。
3	生体計測2：生体の電気的現象	ヒトの感覚・運動機能を支えている神経や筋肉の電気的現象について講義する。
4	生体計測3：電気的計測	生体から電気的な信号を取り出すための電極のしくみや、これを用いた脳波計や筋電計などを、実際の計測の様子を示しつつ解説する。
5	生活支援工学1：義肢・装具	義肢・装具について、基本的なものから、筋電義手など工学的技術を用いたものまで解説する。
6	生活支援工学2：リハビリテーション・ロボティクス	リハビリテーション訓練や運動支援のためのロボット技術について講義する。
7	生活支援工学3：人工感覚	五感の障害を取り除くための人工感覚技術について講義する。義手に関する身体錯覚実験のデモも行う。
8	生活支援工学4：ブレイン-マシン・インタフェース	脳波などの生体信号計測を用いたインタフェース技術について講義する。生体信号によるインタフェース技術のデモも行う。
9	治療工学1：医療用ロボット	手術支援ロボットなど、医療現場で使われるロボットについて解説する。
10	治療工学2：医療画像	障害や疾患に関する生体内部の情報を得るための医用画像技術について講義する。
11	治療工学3：医療のための情報技術	人工知能などの情報技術による、診断や医療ロボットの高度化について講義する。
12	治療工学4：医療のためのメカトロニクス	医療用ロボットに必要となる機械工学などの技術について講義する。
13	福祉工学と感性	障害を抱える当事者の主観的な感覚と福祉工学の関わりについて講義する。
14	福祉・医療機器のこれから	福祉・医療機器の現状をまとめ、残されている課題と、その解決に向けて行われている研究や活動を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
期末のレポート課題では、文献などの調査をした結果と自分の考えを文章と図を用いてまとめる。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内に資料を配布するため不要

【参考書】
『福祉工学の挑戦：身体機能を支援する科学とビジネス』（中公新書）
『生まれながらのサイボーグ：心・テクノロジー・知能の未来』（春秋社）
『読みとく脳生理学 失うと生活に困る脳のはたらき』（羊土社）
『医用工学の基礎』（東京電機大学出版局）
『目の見えない人は世界をどう見ているのか』（光文社新書）

【成績評価の方法と基準】
評価方法：毎回の講義中における小テスト(50%)、および期末のレポート課題(50%)で評価する
評価基準：本科目において設定した達成目標を60%以上達成している学生を合格とする。
出席回数（オンライン参加含む）および欠席時の講義録画視聴記録から、講義参加が少ないと判断した場合は、単位取得を認めない場合がある。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の小テストの結果や前年度の授業改善アンケート結果を参考に、よりわかりやすい説明とするなど、授業内容の改善に努める。
基本的にオンラインだが、アンケートを踏まえ2023年度からは一部対面とし、対面講義のときに生体信号による機器制御や錯覚のデモンストレーションを行っている。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムに講義資料をアップロードし、授業中は貸与パソコンでダウンロード・閲覧できるようにする。

【その他の重要事項】
質問は随時電子メール等により受け付ける。

【Outline (in English)】
Course outline:
In the context of health and welfare, students will learn about the roles of mechanical, electrical, and software engineering. They will understand how engineering technology and a scientific understanding of human functions and behavior are essential factors in the development of this field.
Learning objectives:
By the end of the course, students should be able to:
- Understand the basic principles of welfare engineering.
- Understand the fundamental concepts and the latest advancements in various technologies in this field.
- Consider the design and application of welfare and medical instruments based on a general scientific understanding of human functions and behavior.
Learning activities outside of classroom:
For the final report, students will research a specific area of welfare engineering and summarize their insights on the topic.
Before and after each class, students are expected to spend approximately four hours reviewing and deepening their understanding of the course content.
Grading criteria/policy:
Grades will be determined based on quizzes given in each lecture (50%) and the final report (50%).

BME200NA（人間医工学 / Biomedical engineering 200）

医療福祉工学

川瀬　利弘

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
医療福祉の分野で、機械工学や電子工学、情報工学がどのように応用されているのかを学ぶ。それによりこの分野の発展には工学技術とヒトの科学的理解が必要不可欠であることを理解する。

【到達目標】
1. 福祉工学の基本理念を理解する
2. 様々な技術の基本原理と最新の状況を理解する
3. 生理学や神経科学の大まかな理解に基づき、福祉機器や医療機器について考えられるようになる

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
					◎	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
福祉工学を学ぶ上で必要となる基本的な生理学や神経科学、それに基づいた生体計測や、関連する信号処理技術、治療工学、生活支援工学などを、最近の研究成果を踏まえつつわかりやすく講義する。
毎回授業支援システムより資料を配付し、講義の最後にその回のポイントについて小テストを行う。授業の初めに、前回の授業で提出された回答をもとに、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	福祉工学概論	ヒトの感覚・運動機能を機械で補助・代行する分野としての福祉工学について、歴史と現状を概説する。
2	生体計測1：概論	福祉工学に関連する生体計測について、得られる信号の種類や特徴、基本的な取り扱い方を講義する。
3	生体計測2：生体の電気的現象	ヒトの感覚・運動機能を支えている神経や筋肉の電気的現象について講義する。
4	生体計測3：電気的計測	生体から電気的な信号を取り出すための電極のしくみや、これを用いた脳波計や筋電計などを、実際の計測の様子を示しつつ解説する。
5	生活支援工学1：義肢・装具	義肢・装具について、基本的なものから、筋電義手など工学的技術を用いたものまで解説する。
6	生活支援工学2：リハビリテーション・ロボティクス	リハビリテーション訓練や運動支援のためのロボット技術について講義する。
7	生活支援工学3：人工感覚	五感の障害を取り除くための人工感覚技術について講義する。義手に関する身体錯覚実験のデモも行う。
8	生活支援工学4：ブレイン-マシン・インタフェース	脳波などの生体信号計測を用いたインタフェース技術について講義する。生体信号によるインタフェース技術のデモも行う。
9	治療工学1：医療用ロボット	手術支援ロボットなど、医療現場で使われるロボットについて解説する。
10	治療工学2：医療画像	障害や疾患に関する生体内部の情報を得るための医用画像技術について講義する。
11	治療工学3：医療のための情報技術	人工知能などの情報技術による、診断や医療ロボットの高度化について講義する。
12	治療工学4：医療のためのメカトロニクス	医療用ロボットに必要となる機械工学などの技術について講義する。
13	福祉工学と感性	障害を抱える当事者の主観的な感覚と福祉工学の関わりについて講義する。
14	福祉・医療機器のこれから	福祉・医療機器の現状をまとめ、残されている課題と、その解決に向けて行われている研究や活動を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
期末のレポート課題では、文献などの調査をした結果と自分の考えを文章と図を用いてまとめる。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内に資料を配布するため不要

【参考書】
『福祉工学の挑戦：身体機能を支援する科学とビジネス』（中公新書）
『生まれながらのサイボーグ：心・テクノロジー・知能の未来』（春秋社）
『読みとく脳生理学　失うと生活に困る脳のはたらき』（羊土社）
『医用工学の基礎』（東京電機大学出版局）
『目の見えない人は世界をどう見ているのか』（光文社新書）

【成績評価の方法と基準】
評価方法：毎回の講義中における小テスト(50%)、および期末のレポート課題(50%)で評価する
評価基準：本科目において設定した達成目標を60%以上達成している学生を合格とする。
出席回数（オンライン参加含む）および欠席時の講義録画視聴記録から、講義参加が少ないと判断した場合は、単位取得を認めない場合がある。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の小テストの結果や前年度の授業改善アンケート結果を参考に、よりわかりやすい説明とするなど、授業内容の改善に努める。
基本的にオンラインだが、アンケートを踏まえ2023年度からは一部対面とし、対面講義のときに生体信号による機器制御や錯覚のデモンストレーションを行っている。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムに講義資料をアップロードし、授業中は貸与パソコンでダウンロード・閲覧できるようにする。

【その他の重要事項】
質問は随時電子メール等により受け付ける。

【Outline (in English)】
Course outline:
In the context of health and welfare, students will learn about the roles of mechanical, electrical, and software engineering. They will understand how engineering technology and a scientific understanding of human functions and behavior are essential factors in the development of this field.
Learning objectives:
By the end of the course, students should be able to:
- Understand the basic principles of welfare engineering.
- Understand the fundamental concepts and the latest advancements in various technologies in this field.
- Consider the design and application of welfare and medical instruments based on a general scientific understanding of human functions and behavior.
Learning activities outside of classroom:
For the final report, students will research a specific area of welfare engineering and summarize their insights on the topic.
Before and after each class, students are expected to spend approximately four hours reviewing and deepening their understanding of the course content.
Grading criteria/policy:
Grades will be determined based on quizzes given in each lecture (50%) and the final report (50%).

BME200NA（人間医工学 / Biomedical engineering 200）

医療福祉工学

川瀬　利弘

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
医療福祉の分野で、機械工学や電子工学、情報工学がどのように応用されているのかを学ぶ。それによりこの分野の発展には工学技術とヒトの科学的理解が必要不可欠であることを理解する。

【到達目標】
1. 福祉工学の基本理念を理解する
2. 様々な技術の基本原理と最新の状況を理解する
3. 生理学や神経科学の大まかな理解に基づき、福祉機器や医療機器について考えられるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
福祉工学を学ぶ上で必要となる基本的な生理学や神経科学、それに基づいた生体計測や、関連する信号処理技術、治療工学、生活支援工学などを、最近の研究成果を踏まえつつわかりやすく講義する。
毎回授業支援システムより資料を配付し、講義の最後にその回のポイントについて小テストを行う。授業の初めに、前回の授業で提出された回答をもとに、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	福祉工学概論	ヒトの感覚・運動機能を機械で補助・代行する分野としての福祉工学について、歴史と現状を概説する。
2	生体計測1：概論	福祉工学に関連する生体計測について、得られる信号の種類や特徴、基本的な取り扱い方を講義する。
3	生体計測2：生体の電気的現象	ヒトの感覚・運動機能を支えている神経や筋肉の電気的現象について講義する。
4	生体計測3：電気的計測	生体から電気的な信号を取り出すための電極のしくみや、これを用いた脳波計や筋電計などを、実際の計測の様子を示しつつ解説する。
5	生活支援工学1：義肢・装具	義肢・装具について、基本的なものから、筋電義手など工学的技術を用いたものまで解説する。
6	生活支援工学2：リハビリテーション・ロボティクス	リハビリテーション訓練や運動支援のためのロボット技術について講義する。
7	生活支援工学3：人工感覚	五感の障害を取り除くための人工感覚技術について講義する。義手に関する身体錯覚実験のデモも行う。
8	生活支援工学4：ブレイン-マシン・インタフェース	脳波などの生体信号計測を用いたインタフェース技術について講義する。生体信号によるインタフェース技術のデモも行う。
9	治療工学1：医療用ロボット	手術支援ロボットなど、医療現場で使われるロボットについて解説する。
10	治療工学2：医療画像	障害や疾患に関する生体内部の情報を得るための医用画像技術について講義する。
11	治療工学3：医療のための情報技術	人工知能などの情報技術による、診断や医療ロボットの高度化について講義する。
12	治療工学4：医療のためのメカトロニクス	医療用ロボットに必要となる機械工学などの技術について講義する。
13	福祉工学と感性	障害を抱える当事者の主観的な感覚と福祉工学の関わりについて講義する。
14	福祉・医療機器のこれから	福祉・医療機器の現状をまとめ、残されている課題と、その解決に向けて行われている研究や活動を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
期末のレポート課題では、文献などの調査をした結果と自分の考えを文章と図を用いてまとめる。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内に資料を配布するため不要

【参考書】
『福祉工学の挑戦：身体機能を支援する科学とビジネス』（中公新書）
『生まれながらのサイボーグ：心・テクノロジー・知能の未来』（春秋社）
『読みとく脳生理学 失うと生活に困る脳のはたらき』（羊土社）
『医用工学の基礎』（東京電機大学出版局）
『目の見えない人は世界をどう見ているのか』（光文社新書）

【成績評価の方法と基準】
評価方法：毎回の講義中における小テスト(50%)、および期末のレポート課題(50%)で評価する
評価基準：本科目において設定した達成目標を60%以上達成している学生を合格とする。
出席回数（オンライン参加含む）および欠席時の講義録画視聴記録から、講義参加が少ないと判断した場合は、単位取得を認めない場合がある。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の小テストの結果や前年度の授業改善アンケート結果を参考に、よりわかりやすい説明とするなど、授業内容の改善に努める。
基本的にオンラインだが、アンケートを踏まえ2023年度からは一部対面とし、対面講義のときに生体信号による機器制御や錯覚のデモンストレーションを行っている。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムに講義資料をアップロードし、授業中は貸与パソコンでダウンロード・閲覧できるようにする。

【その他の重要事項】
質問は随時電子メール等により受け付ける。

【Outline (in English)】
Course outline:
In the context of health and welfare, students will learn about the roles of mechanical, electrical, and software engineering. They will understand how engineering technology and a scientific understanding of human functions and behavior are essential factors in the development of this field.
Learning objectives:
By the end of the course, students should be able to:
- Understand the basic principles of welfare engineering.
- Understand the fundamental concepts and the latest advancements in various technologies in this field.
- Consider the design and application of welfare and medical instruments based on a general scientific understanding of human functions and behavior.
Learning activities outside of classroom:
For the final report, students will research a specific area of welfare engineering and summarize their insights on the topic.
Before and after each class, students are expected to spend approximately four hours reviewing and deepening their understanding of the course content.
Grading criteria/policy:
Grades will be determined based on quizzes given in each lecture (50%) and the final report (50%).

ART200GA（芸術学 / Art studies 200）

社会と美術

平野　真弓

配当年次／単位：1〜4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：受講希望者が1000人を超えた場合、抽選を行います。抽選方法については学習支援システムを通じて連絡しますので、よく確認をしておいてください。

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際文化学部基幹科目「社会と美術」は、普段接する機会の少ない、先進的な表現領域に対する理解を深めるための入門的な授業です。この講義では、特に21世紀以降に関心を集めている社会と芸術との関係に焦点を当て、パフォーミング・アーツ、音楽、建築などの表象の世界の様々な事例を参照し、社会と芸術の接点や関係性について探求します。
本授業は、「近現代美術の歴史と理論」と「現代社会の課題と美術」という2つのテーマで構成されており、各領域のキーワードからそれぞれの課題や問題を検討、議論します。
第一部　「近現代の芸術史と理論」では、18世紀以降から21世紀までの美術史と理論を包括的に学び、芸術表現の変遷とその背後にある思想や理論を探求します。
第二部　「現代社会の課題と美術」では、社会や時代を映す鏡としての芸術表現と現代社会との関係について具体例を交えながら学びます。21世紀以降に注目されている社会と芸術との関係を扱ったアートの世界に焦点を当てていきます。

【到達目標】
近現代の美術史と現代社会と美術に関する課題の事例を紹介していきます。近現代美術史の基本を理解すること、各時代の社会的課題と芸術との関連を見いだすことがこの講義の目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
オンデマンド方式により授業を行います。
授業当日の流れ（重要）
1.　指定された公開日に、Google Classroomにその日の学習内容を掲載した資料（Google sites）のリンクを掲載する。
2.　資料を見ながら学習を進める。（当日であれば、授業時間外に学習しても構いません。）
3.　サイト内に小テストや授業内レポートのリンク（Google Forms）が掲載されているので、回答して提出する。
4.　授業内容に関する質問については、Google Formsに書き込んでおくと回答します。
授業の方法
　授業時間になるとGoogle Classroomを通じて受講に必要なリンク先や課題の提出について公開します。公開したウェブサイトに授業に関連したテキストや授業概要の映像（YouTube、40‐ 60分程度）、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは年度末まで公開しておきます。
課題
　受講後、Google Formsで課題（小テストと簡単なレポート）を提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。
質問・相談
　一般的な質問や相談についてはGoogle Classroomのチャット機能を使ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義内容について、進め方と方法、評価方法と基準
第2回	近代美術の誕生 古典主義、ロマン派、写実主義、印象派	近代の始まりと芸術運動に関する講義を行います。近代は、市民革命と産業革命によってその幕が開けられました。この時期の重要な出来事や社会の変遷が、芸術にも深い影響を与えました。市民革命によって生まれた新しい社会秩序や価値観、そして産業革命による技術の進化が、芸術家たちに新たな表現の手段を提供しました。古典主義、ロマン主義、写実主義、印象派などの芸術運動は、単なる美的表現にとどまらず、社会の変動や文化の転換を反映し、近代というコンセプトを徐々に体現していきます。授業では、これらの芸術運動を通して、近代社会の多様性や複雑性に迫り、芸術が社会と相互の作用について学んでいきます。
第3回	アバンギャルドの時代Ⅰ フォービズム、表現主義、キュビズム	印象派以降のフォービズム、表現主義、キュビズムを中心に、第一次世界大戦前の芸術運動の流れについて学びます。画家たちはより自由な表現を求めて様々な実験を始めます。フォービズムは色彩や筆触を強調し、視覚的な効果を追求しました。表現主義は主観的な感情の表現に力点を置きました。また、キュビズムは立体的視点から物体を捉える手法についての実験をしました。ポスト印象派と呼ばれた画家のゴーギャン、ゴッホ、セザンヌは、印象派以降のこれらの20世紀の前衛芸術運動に大きな影響を与え、新しい視点やアプローチを提示しました。授業ではこれらの芸術運動に関する理解を深め、背後に潜むアイディアや文化的な文脈にも焦点を当てて学んでいきます。
第4回	アバンギャルドの時代Ⅱ 未来派、ダダイズム シュルレアリズム、ロシア構成主義、バウハウス	第一次世界大戦前後のアバンギャルド芸術運動（前衛芸術）である未来派、ダダイズム、シュルレアリズムについて、またロシア革命前後のロシア構成主義とシュプレマティズムについて学びます。この時代登場した芸術運動は、現代アートの基となるコンセプチュアルな発想や、パフォーマンスやインスタレーションの原型となるような新しいアイディアが登場します。
第5回	ワークショップ1 単元の復習とワークショップ	近代美術の誕生、アバンギャルドの時代Ⅰ、アバンギャルドの時代Ⅱの復習及びワークショップを行います。

第6回	第二次世界大戦と戦後アメリカ美術 抽象表現主義、ネオダダ、ポップアート	第二次世界大戦により、ヨーロッパ各地は大きなダメージを受け、芸術の中心地としての地位をアメリカに譲ることとなりました。アメリカではその経済力を背景に、現代芸術の躍動的な拠点となり、さまざまな芸術運動が登場します。抽象表現主義、ネオダダ、ポップアート、ミニマル、コンセプチュアルアートなど、アメリカを中心として登場した芸術運動に加え、アンフォルメル、ヌーボー・レアリズム、アルテ・ポーヴェラなどヨーロッパの動向についても学びます。
第7回	1960年代の市民運動と新しい動向 フルクサス、パプニング、ビデオアートミニマリズム、コンセプチュアルアート、ランド・アート、アルテ・ポーヴェラ	1960年代になるとアフリカ系アメリカ人公民権運動、ベトナム反戦運動、女性解放運動、LSDを使った平和を訴えるフラワーパワージェネレーションなどの市民運動が盛んになります。1960年代の芸術シーンでは、伝統的な絵画や彫刻に留まらず、さまざまな新しい表現手法が登場しました。物質生よりも思想や概念に焦点を当てたミニマルアートやコンセプチュアルアート、ハプニングやパフォーマンスアートは身体や行為を介して会への関与をするなど、新しい芸術の動向が登場します。
第8回	多文化の時代 ポストミニマリズム、新表現主義、関係性の美術 、ソーシャリー・エンゲージドアート	1989年にベルリンの壁が崩壊して東西ドイツの境界線がなくなり、さらに東ヨーロッパ全体が消滅、冷戦構造が終焉を迎えます。東西対立の時代からアフリカやアジア、南米などを含んだ多文化の時代に移行します。アートの世界でも、1980年代以降アメリカやヨーロッパ中心からグローバルな考え方が一般的になります。アメリカのコマーシャリズムにより生まれた新表現主義の時代を経て、ミレニアム前夜にイギリスとヨーロッパで発生した二つのムーブメント、ヤング・ブリティッシュ・アーティスト」（YBA）とリレーショナルアートについての理解を深めます。21世紀に入り、芸術はますます社会に関与する方向へと進化しています。ソーシャリー・エンゲージド・アートやソーシャル・プラクティスといった社会に関与する芸術運動が盛んになっています。
第9回	ワークショップ2 ・単元の復習とワークショップ	戦後アメリカ美術、1960年代／市民運動と新しい動向、多文化の時代の講義内容に関する確認をします。
第10回	政治とアート 退廃芸術展と大ドイツ展、戦争画、東日本大震災とアート、表現の不自由展	第二次世界大戦前には社会主義国のソビエト連邦が国家となり、ドイツにはナチス党が台頭しました。戦争に至る思想統制の中、これらの国々の自由な芸術の精神は、弾圧を受けることになります。ベルリンの壁崩壊以降のアートの動きや近年の表現の自由をめぐる論争、文化政策の変化など、政治とアートについてプロパガンダ、社会主義リアリズム、ヨーゼフ・ボイスの社会彫刻、表現の不自由展などの具体的な事例を通じて、アートが政治的な状況にどのように対応し、影響を与えてきたのかについて理解します。
第11回	ジェンダーとアート	社会的・文化的な性区別を指す「ジェンダー」、性的マイノリティ（性的少数者）を表す総称である「LGBTQ」についての言及は一般的になってきていますが、現在でもジェンダーフリーや性的マイノリティの自由は十分に実現されていません。こうした課題に芸術が関与し、社会的な枠組みを拡大し、偏見や差別に対抗するための意識を喚起する役割を担い、社会が自由を獲得するためのプロセスについて考えます。
第12回	環境とアート	私たちは古くから自然を観察し、芸術作品の主題としてきました。自然が提供する様々な風景や生態系は、画家や彫刻家などのアーティストにとって永遠のインスピレーション源となっています。また、19世紀の自然主義の考え方や、近年のランドアートの試みなど、自然は芸術において重要な役割を果たしてきました。しかし、近年では地球規模での環境問題が深刻化し、私たちは自然との関係性を再評価せざるを得なくなっています。地球の温暖化、生態系の破壊、資源の枯渇など、環境問題は私たちの生活に直接関わるものとして認識されるようになりました。地球温暖と関連するエネルギー問題は、世界の大きな課題となっており、日本においては東日本大震災をきっかけとした自然災害と原発問題が今でも続いています。 アートの世界では環境問題への関心を高め、作品を通じて社会に対話を呼びかけます。アートを通じた環境問題へのアプローチは、単なる美的な観点だけでなく、社会的な意識を喚起し、持続可能な社会を喚起します。
第13回	感染症の時代	2020年以降、私たちは新型コロナウィルス感染症の拡大という未曾有の状況に直面しました。現在では、私たちにとってパンデミックはすでに少し以前にあった出来事のように感じています。過去にも天然痘、ペスト、スペイン風邪、エイズなどが世界中に大きな打撃を与えました。感染症が引き起こす社会的課題は、その時代背景や科学技術の進歩によって異なる側面を持ちます。アートはその時代の複雑な感情や社会的な変化を反映してきました。感染症の起こす社会的課題と各時代のアートが感染症をどのように表してきたのかを関連づけて学びます。
第14回	ワークショップ3 単元の復習、ワークショップ	14回の講義について振り返り、芸術と社会の問題についてディスカッションをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Google sitesで配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くあります。可能であれば企画展、常設展などの展覧会などを多く鑑賞してください。

本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Google sitesを通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】
山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019年
デイヴィッド・コッティントン（著者）、松井 裕美（翻訳）『現代アート入門』名古屋大学出版会、2020年
『改訂版 西洋・日本美術史の基本 美術検定1・2・3級公式テキスト』美術出版社、2014年
『続 西洋・日本美術史の基本』美術出版社、2016年
『新・アートの裏側を知るキーワード』美術出版社、2022年

【成績評価の方法と基準】
成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。
1.　平常点（50%）
2.　課題とレポート（50%）
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
ワークショップではスケッチによるプランや写真作品など簡単な実践に取り組みますが、受講される皆さんは例年課題について積極的に取り組まれているようです。楽しく解りやすい授業を心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のためにGoogle classroomを使いますが、履修に関する情報については学習支援システムを併用しますので、よく確認しておいてください。

【その他の重要事項】
受講希望者が1000人を超えた場合、抽選を行います。抽選方法については学習支援システムを通じて連絡しますので、よく確認をしておいてください。
実務経験のある教員による授業
平野真弓はフィリピン・マニラ在住のキュレーター・リサーチャーです。フィリピンを中心に東南アジアの展覧会史やキュレーションにまつわる思想や実践方法を研究しています。実践と研究活動で得た知識と経験を毎回の講義に反映させています。

【Outline (in English)】
Course outline
"Society and Art" is an introductory lecture that will allow you to see and think about the new world of expression that you rarely come into contact with. In particular, we will focus on the world of art, which deals with the relationship between society and art, which has been attracting attention since the 21st century. You will also learn about the points of contact between society and art and their relationships by referring to various examples of performing arts such as theatre, music, and the world of representations such as architecture. Focusing on the two themes of "art history and theory" (first half) and "society and art" (second half), we will examine and discuss each issue and problem from the keywords of each area.
1. Art history and theory Learn about the history and theory of modern and contemporary art from the 18th to 21st centuries, which is the basis for learning about society and art.
2. Society and art Learn about the relationship between media as a mirror that reflects society and the times and artistic expression, with concrete examples.
Learning Objectives
Introducing familiar examples of art history, contemporary society and art from the past to the present. This lecture aims to understand the workings of art history and to find universal and social issues from familiar problems.
Learning activities outside of the classroom
The content delivered on the Google site contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you. There are also many museums and galleries near the university. If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy
Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports. We emphasize the experimentality and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.
1. Initiatives for classes (50%)
2. Issues and reports (50%)
See rubrics for specific assessment guidelines.
Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.

ART200GA（芸術学 / Art studies 200）

メディアと社会

稲垣　立男

配当年次／単位：1〜4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉〈S〉〈ア〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
私たちは現在様々なメディアに接する環境にあり、それらを通じて個人や社会とつながることを可能にしています。一方でメディアの利用によって引き起こされる様々な問題もあり、多様化した現代のメディアについてよりいっそう理解を深める必要があります。
「メディアと社会」では、メディアが社会のなかでどのような役割を担っているのか、将来メディアはどのようになるべきなのか、映像資料などの具体例を交えて読み解いていきます。
「現代メディア史」「メディア論」「メディアと表象」の3つのテーマを軸として、各領域のキーワードからそれぞれの課題や問題を検討、議論します。
メディアの歴史
古代から現代までのメディアの変遷と歴史について学びます。
メディア論
社会の中で機能するメディアやその問題点について明らかにしていきます。
メディアと表象
メディアという観点から様々な表現を読み解いていきます。

【到達目標】
過去から現在に至るメディアと社会に関する身近な事例を紹介していきます。身近な問題から普遍的、社会的な課題を見いだすことがこの講義の目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
・受講希望者が1000人を超える場合、抽選を行います。
・オンデマンド方式により授業を行います。
授業当日の流れ（重要）
1.　指定された公開日に、Google Classroomにその日の学習内容を掲載した資料（Google Sites）のリンクを掲載する。
2.　資料を見ながら学習を進める。（当日であれば、授業時間外に学習しても構いません。）
3.　サイト内に小テストや授業内レポートのリンク（Google Forms）が掲載されているので、回答して提出する。
4.　授業内容に関する質問については、Google Formsに書き込んでおくと回答します。
授業の方法
　授業時間になるとGoogle Classroomを通じて受講に必要なリンク先や課題の提出について公開します。公開したウェブサイトに授業に関連したテキストや授業概要の映像（YouTube、40〜60分程度）、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは年度末まで公開しておきます。
課題
　受講後、Google Formsで課題（小テストと簡単なレポート）を提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。
質問・相談
　一般的な質問や相談についてはGoogle Classroomのチャット機能を使ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業計画
第2回	メディアの歴史1 絵と文字	今からおよそ6万6000年前に人類は言語能力を獲得したと言われています。（諸説あり）その後、絵や文字を使って記録するようになりました。ここでは文字の誕生とその発達の歴史について学びます。
第3回	メディアの歴史2 文字の進化	活字誕生以前の印刷技術、紙の誕生、活字の誕生と書体とフォントについて学びます。文字の発明により、私たちは様々な情報を記録として残すことが可能になりました。その後、記録を残すための技術が発達していきます。
第4回	ワークショップ（1） 単元の復習：絵と文字、文字の進化	タイポグラフィについて 書体とフォント フォントデザイン
第5回	メディアの歴史3 計算・通信・検索	メディアと歴史をテーマに、コンピューターの発明につながる技術と計算・通信・検索のもたらす社会の変化について学びます。
第6回	メディアの歴史4 マスメディア（新聞、雑誌、ラジオ、テレビ）	社会の近代化とともに登場した新聞、雑誌、ラジオ、テレビなどのマスメディアの起源について学びます。
第7回	ワークショップ（2） 単元の復習：計算・通信・検索、マスメディア	ワークショップ・未来のコミュニケーション
第8回	メディア論1 マクルーハンのメディア論	「メディアはメッセージ」、「グローバルヴィレッジ」など、メディアに関する新しい概念を発信したマクルーハンの理論やチョムスキーのメディアについてのメッセージについて学びます。
第9回	メディア論2 インターネット	1995年以降のインターネットの進化について、地域社会を取り巻くメディアの役割と課題について学びます。
第10回	ワークショップ（3） 単元の復習：マクルーハンのメディア論、インターネット	ワークショップ・インターネット
第11回	メディアと表象1 デジタルコンテンツの誕生	1877年のトーマス・エジソンによる録音技術の開発以降、アナログレコードやテープレコーダー、さらにデジタル技術の発展。2000年代から拡大したMP3プレーヤーやインターネットでの音楽配信サービスに至るまでの歴史について学びます。
第12回	メディアと表象2 プロパガンダ・コマーシャル	インスタレーション、パフォーマンス、リレーショナル・アートなどについて
第13回	メディアと表象3 メディアとアミューズメント	日本におけるクリスマスの受容の歴史について、また料理番組やレストラン批評、ネットでの料理の検索など料理をめぐるメディア論について学びます。

第14回　ワークショップ（4）単元の復習：デジタルコンテンツの誕生、プロパガンダ・コマーシャル、メディアとアミューズメント　メディアと社会をめぐるディスカッション
ワークショップ・デジタルのイメージ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Google Sitesで配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。美術展や音楽コンサート、ダンスや演劇の公演などを多く観るようにしてください。
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Google Sitesを通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】
マーシャル マクルーハン『メディア論―人間の拡張の諸相』みすず書房、1987年
吉見俊哉『メディア文化論―メディアを学ぶ人のための15話』有斐閣、2004年
ジョン・A. ウォーカー、サラ チャップリン『ヴィジュアル・カルチャー入門―美術史を超えるための方法論』晃洋書房、2001年

【成績評価の方法と基準】
成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性や積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。
1.　平常点（50%）
2.　課題とレポート（50%）
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
ワークショップではスケッチによるプランや写真作品など簡単な実践に取り組みますが、受講される皆さんは例年課題について積極的に取り組まれているようです。メディアに関する複雑な問題点について、わかりやすく教えていきたいと思います。

【その他の重要事項】
実務経験のある教員による授業
稲垣立男はコンテンポラリーアーティスト。フィールドワークによる作品制作と美術教育に関する実践と研究を国内外で実施しており、これらの現場での経験を毎回の講義に反映させています。

【Outline (in English)】
We can connect with individuals and society through media. On the other hand, there are various problems caused in the course of these connections, so we need to deepen our understanding of diversified media.
This course will explore what role media has in society, how future media should be, and concrete examples such as video materials.
Focusing on the three themes of "History of Contemporary Media," "Media Theory," and "Media and Representation," we will consider and discuss issues and issues from keywords in each area.
1. Media history
Learn about the history of the media from ancient times to the present.
2. Media theory
We will clarify the media that work in society and their problems.
3. Media and representation
Read and understand various expressions from the perspective of the media.
Learning Objectives
Introducing familiar examples of media and society from the past to the present. This lecture aims to find universal and social issues from everyday issues.
Learning activities outside of the classroom
The content delivered on the Google site contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you. There are also many museums and galleries near the university. If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy
Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports. We emphasize the experimentality and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.
1. Initiatives for classes (50%)
2. Issues and reports (50%)
See rubrics for specific assessment guidelines.
Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.

GDR200GA（ジェンダー / Gender 200）

ジェンダー論

佐々木　一惠

配当年次／単位：1〜4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉〈S〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
多様性に富むグローバルな文化・社会を理解する上で、ジェンダーは重要な視点の一つです。この授業では、文化的・社会的な性の有り様としてのジェンダーが、歴史的にどのように構築されまた変化してきたかを、言説という概念を軸に考えていきます。そこから、自文化ならびに異文化について、ジェンダーの視点を通じて、より多角的な分析と理解ができるようになることを目指します。

【到達目標】
１．ジェンダー研究における基礎的概念を理解できるようになる。
２．言説分析の基本的な方法論を習得し、ジェンダーに関連する諸問題について、基礎的な言説分析ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
【重要なお知らせ】初回の授業はオンデマンドで実施し、2週目以降は対面で授業を行います。受講を希望する人は4月9日（木）までに学習支援システムでこの授業を登録してください。受講希望者が100名を超える場合は抽選を行います。受講を希望される方は、4月9日（木）に学習支援システムでアップロードされる登録希望票を記入してください。締切は4月11日（土）の午前10時です。4月12日（日）に抽選結果を学習支援システムでお知らせします。第2回目からの授業は抽選に合格した人のみ受講できます。
●ジェンダー研究において重要な諸概念（母性・身体・家族・セクシュアリティ・恋愛・マスキュリニティなど）を、歴史的な視点と現代日本の日常生活における視点の双方から検討していきます。
●一次資料の簡単な分析を行ってもらいます。そこから、概念・方法論の理解と実践方法を学んでいきます。
●毎回の授業の最後に出される問いに対する分析を、リアクションペーパーの形で提出してもらいます。
●提出されたリアクション・ペーパーについては、翌週の授業で複数紹介しながら講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要について
2	「男らしさ」と男性学の視点	①役割理論から、「男らしさ」を一つの「役割モデル（role model）」として考察する。 ②1980年代以降の男性学の系譜について理解する。
3	「男らしさ」と相互行為論	①＜男らしさ＞を相互行為論（アーヴィング・ゴフマンのドラマトゥルギーならびにイブ・セジウィックのホモソーシャリティ）の概念から考察する。 ②ホモソーシャリティ（男同士の絆）と国民国家・近代スポーツ・軍隊について検討する。
4	「母性」イデオロギー	①日本における国民国家形成と「母親」への役割期待の関係性、並びにその変遷について検討する。 ②高度成長期における母性イデオロギーの形成について議論する。 ③今日の日本社会における母親・母性に関する問題と、その背景について検討する。
5	性役割と「母性」	母親や母性に関する言説が、法律や政策にどのような形で影響を与えているのかを、親権並びに代理出産を事例として検討する。
6	異性愛規範とゲイ・スタディーズの視点	①近現代日本における同性愛の系譜を辿りながら、異性愛規範について考察する。 ②セクシュアリティをアイデンティティ概念から捉え、クイア・スタディーズの新たな視点について検討する。
7	性の商品化と消費	①フェミニズムにおける重要なテーマである、「性と生殖に関する自己決定権」の背景としての、近代における性規範について考察する。 ②ポルノグラフィと買売春を事例に、セクシュアリティの問題を検討する。
8	ジェンダーと身体規範	①美容整形の系譜をたどり、近現代におけるジェンダー化された身体規範と整形美容の関係について検討する。 ②「改造」できる身体という概念にもとづく美容整形をめぐる議論とその論点について検討する。
9	身体と自己アイデンティティー	「消費」という視点から、身体とアイデンティティの問題について検討する。
10	「ロマンティック・ラブ」イデオロギーと恋愛の物語性	①「恋愛」という概念がどのように日本に定着していったのかを議論する。 ②ロマンティック・ラブ・イデオロギーについて検討する。 ③「恋愛」の物語性について、ドラマなどの事例から検討する。
11	近代家族と「家庭」イデオロギー	①「近代家族」と国民国家形成との関係性について検討する。 ②「近代家族」の規範となった３つのイデオロギー（ロマンティック・ラブ、母性、家庭）について検討する。 ③「近代家族」の変容とその背景について議論する。
12	フェミニズムとジェンダー論	フェミニズムの思想的背景や展開の概略を理解し、今日におけるジェンダー論の視座を議論する。
13	今学期の授業に関する質疑応答	質問やコメントに答える。
14	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次週の授業に関連する基礎概念について調べておくこと。授業内容の復習を行い、課題を作成すること。なお、本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。

【参考書】
伊藤公雄『男性学入門』（作品社、1996年）。

伊藤公雄、牟田和恵編『ジェンダーで学ぶ社会学』（世界思想社、2025年）。
千田有紀、中西祐子、青山薫『ジェンダー論をつかむ』（有斐閣、2013年）。
江原由美子、山崎敬一編『ジェンダーと社会理論』（有斐閣、2006年）。
高橋幸、永田夏来『恋愛社会学：多様化する親密な関係に接近する』（ナカニシヤ出版、2024年）。
木村涼子、伊田久美子、熊安貴美江『よくわかるジェンダー・スタディーズ』（ミネルヴァ書房、2013年）。
伊藤 公雄、樹村 みのり、國信 潤子『女性学・男性学 - ジェンダー論入門』（有斐閣、2019年）。

【成績評価の方法と基準】
リアクション・ペーパー　40　%
期末試験　　60　%
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
スマートフォンやパソコン等情報機器が必要です。

【その他の重要事項】
●初回の授業はオンデマンドで実施し、2週目以降は対面で授業を行います。
●受講を希望する人は4月9日（木）までに学習支援システムでこの授業を登録してください。受講希望者が100名を超える場合は抽選を行います。受講を希望される方は、4月9日（木）に学習支援システムでアップロードされる登録希望票を記入してください。締切は4月11日（土）の午前10時です。4月12日（日）に抽選結果を学習支援システムでお知らせします。
●第2回目からの授業は抽選に合格した人のみ受講できます。

【Outline (in English)】
The course is designed to facilitate an understanding of culture and society from the perspective of gender and sexuality. It introduces various issues related to gender and sexuality so that students become better able to analyze their own culture as well as other cultures in a multifaceted way from the standpoint of gender.
By the end of the course, students are expected to be able to: 1) understand the basic concepts in gender studies, and 2) acquire basic methods of discourse analysis and conduct basic discourse analysis on various gender-related issues.
Students will be expected to 1) check the basic concepts related to the next class lecture, and 2) review the content of the class and work on the assignments.
The final grade will be decided by the reaction paper (40%) and the final assignment (60%).

HUM200GA（その他の人文学 / humanities 200）

国際文化協力

松本　悟

配当年次／単位：1〜4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：100名前後が望ましい

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では国際文化論の観点から国際協力の基礎を学ぶものである。具体的には国際協力の歴史や仕組み、国際協力が文化に及ぼす影響、文化面の国際協力のあり方について知識を習得するとともに、それらを用いて論理的に考える力を養うことを目的とする。基幹科目なので、１、２年生には、専攻科目や演習で更に深めたい学問領域やテーマを見つける機会にして欲しい。

【到達目標】
（1）国際文化論および国際協力についての基礎的な知識を身につける。
（2）国際協力と文化を結びつけて論理的に事象を分析できる。
（3）「技術と文化」「開発コミュニケーション」「文化遺産保護」「難民」「パブリックディプロマシー」などに授業で扱うテーマついて説明できる。
（4）基幹科目としてアカデミックスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
■基本方針：対面で実施するが、学内業務の関係でオンデマンドを使用することもある。
■フィードバック：講義への質問は、学習支援システムの掲示板に質疑応答コーナーを設けて、そこでやり取りする。
■授業後課題：2回に1回程度課す。基幹科目なのでアカデミックスキルを高めることを目的とし、200字〜800字程度で書いてもらう。提出期限は授業日から3日以内。授業冒頭で課題への全体コメントを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション―国際文化協力とは―	この授業の狙い、進め方、国際文化協力の概論。リアルタイムオンライン授業で行い、履修希望者数を確認する。
2	技術と文化	川の水を煮沸せずに飲む行為を通して技術と文化について考える
3	普及とコミュニケーション	受け入れ「させる」ことをどう考えるか
4	協力される側だった日本	明治時代のお雇い外国人と「抵抗」を考える
5	日本への技術移転	贈与・交換・支配・互酬と国際協力
6	文化の受容と抵抗	文化接触（アカルチュレーション）から文化の受容を考える
7	文化財を守るとは	明治時代の日本で文化財をなぜ守るようになったのかを考える
8	国際的な文化財保護までの道のり	戦利品としての略奪と返還運動から文化財の国際的な捉え方の変化を考える
9	人類の遺産	世界遺産という発想はどこからきたのかを考える
10	政府開発援助（ODA）と文化協力	パブリックディプロマシーやソフトパワーについて考える
11	国際協力と想像力―期末レポートに向けて	期末レポートの課題文献とこの授業の繋がりを講義する
12	国際人権	文化要素としての人権について難民を例に「民権」との違いから考える
13	市民としての国際文化協力	日本の地域での難民受け入れを通して同化と社会的統合について考える
14	私と国際文化協力	担当教員の実務経験を踏まえて国際文化協力の授業での学びを再構成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業後課題は、法政大学の図書館HPのデーターベース等から文献を検索して論じるなど、大学生に必要な調査と思考を促すものである。
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
以下の本は、複数回の授業の参考文献であるとともに、期末レポートの課題文献となる。到達目標４に関係している。各自入手すること。
松本悟・佐藤仁編著（2021）『国際協力と想像力―イメージと「現場」のせめぎ合い』日本評論社。

【参考書】
毎回の講義に関連する参考文献はその都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・授業後課題への回答などの平常点50%、期末レポート50%。
・授業後課題は設問に200字〜800字程度で答えるもので、カッコ内の場合は減点となる（例：設問や指示に的確に答えていない、極端に短い、文章として辻褄が合わない）。
・期末レポートは、授業で学んだ内容を踏まえて、課題文献を分析するもので、知識を問うものではない。
・この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
・短い文章や期末レポートの書き方の説明が役に立ったという声が多いので継続する。
・学生から提出された授業後課題の答案に対して、個々人へのフィードバックを求める声があるが、履修者が多いためそれは不可能。また、労力の割に、それを活かそうと考えている学生が多いわけではない。したがって、提出された答案をもとに次の授業の冒頭でフィードバックし、それを各自が自分の答案に当てはめて自己分析してもらっている。自己採点能力も重要な力である。
・学習支援システムの「掲示板」を使って常時質問を受け付けている。
・授業後課題はコロナ禍では毎回出していたが、負担の大きさに鑑みて、現在では学期中に5〜6回にしている。受講者からは、大学でのレポートの書き方やデータベースの使い方が身についたと好評である。
・毎回グループ討議と発表を取り入れ、教員がフィードバックをする。単に学生が意見を言うだけでなく、それをもとに教員とやり取りを行うことで考えが深まると、学生から好評。

【学生が準備すべき機器他】
・教科書は春学期の前半（5月末頃）までには入手しておくこと

【その他の重要事項】
NHK記者や、開発協力分野のNGOとして実務に関わってきた教員が、その経験を事例として取り上げながら講義やコメントをする。

【Outline (in English)】
【Course outline】
What is international cooperation from the perspectives of intercultural studies? It should covers impacts of inter-national cooperation on cultures, inter-cultural cooperation or inter-national cooperation in cultural fields. By the end of this course, students will understand those aspects of cooperation beyond the national borders and will be able to analyze them logically.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students are expected to;
1) acquire the basic knowledge on intercultural studies and international cooperation.
2) be able to analyze the issues in associating international cooperation and culture.
3) understand the key concepts of "technology and culture", "development communication", "protection of cultural heritage", "refugees" or "public diplomacy".
4) acquire and be able to apply the academic skills to write a short or term paper.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content or to write a short essay on a given topic.
【Grading Criteria /Policy】
Grading will be decided based on a short essay at each class meeting (50%) and a term-end report (50%).

FRI200GA（情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200）

社会とデータサイエンス

和泉　順子

配当年次／単位：2〜4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：
備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報化社会が発展・普及していく中で、様々なものがデジタル化されインターネットに接続されつつある。この授業ではIoT（Internet of Things）やビッグデータ等に関連するデータサイエンスというキーワードから、パソコンで作成するデータだけでなくセンサや人の行動、公的機関からの公開情報等から得られるデータがどこでどのように利活用されているのかを学ぶ。また、データサイエンティストとはどんな人材なのかを議論しながら、様々なデータの性質や扱い方、可視化等を統計学等の観点から学び、実践する。

【到達目標】
ビッグデータ、IoT、オープンデータ、といった言葉で表現される膨大なデータの利活用としてデータサイエンスのいくつかの事例と、そこから作られる情報や価値について学ぶ。個々のデータの具体的な内容ではなく、異なる内容や形式を持ったデータに共通する性質や、データを正しく扱うために情報科学だけでなく社会科学分野にも重要な統計学などを学ぶ。また、同じデータでも可視化の方法によって伝わり方が違う事を学び、実践する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
講義はPCを使用した実習形式で行い、授業内のプレゼンテーション、課題・小テストおよびレポートにより学習結果を確認する。
情報実習室での対面授業を基本とするが、状況に応じてオンライン授業に切り替える場合もある。学期途中での授業形態の変更や それにともなう各回の授業計画の修正については、学習支援システム（Hoppii）でその都度提示する。抽選の可能性があるので、履修予定者は必ず初回授業前日までに学習支援システムで本科目を仮登録し、初回授業に参加すること。
課題等の提出・フィードバックは、授業内および学習支援システムを通じて行う。
授業に関する質疑応答については学習支援システムの掲示板機能を活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の説明、社会におけるデータサイエンスの重要性について
2	IoTとビッグデータ	IoT（Internet of Things）とは何か、ビッグデータの利活用事例を学ぶ
3	オープンデータの活用	公開されているオープンデータがどのように活用されているかを学び、自ら調べる
4	仮想空間のプライバシー	デジタルな空間、あるいはインターネット上におけるプライバシー確保に必要な技法の一部を学ぶ
5	統計処理の意味	データを抽出して価値を創出するために、どのような統計手法があるのかを学ぶ
6	統計分析の意味	統計処理したデータの分析から何が分かるのか、それが何に役立つのかを学ぶ
7	データの種類と尺度	４つの尺度と利用可能な測定値、および相関について学ぶ
8	統計の基本と実践（１）	平均値と中央値、正規分布、分散、標準偏差の意味について学ぶ
9	統計の基本と実践（２）	正規分布と確率について学ぶ
10	統計の基本と実践（３）	標本調査における無作為抽出と標本誤差について学ぶ
11	データの可視化	同じデータでも可視化の違いによって印象や伝わり方が異なることを学ぶ。また、データを説明するために適切なグラフは何かを学ぶ
12	データサイエンスの実践	自分の興味のあるオープンデータから適切な統計手法を用いてデータを読み取り表現する
13	プレゼンテーション	自分が調べ、読み取り、表現したことを授業内で発表する
14	議論と考察、授業のまとめ	授業内で扱ったデータについて質問を通して改善の余地を議論・考察する。 また授業のまとめを行い、授業内に簡単なレポートを作成、提出する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
統計学をはじめ数学の知識を多少使うため、各自の理解度に応じて適宜予習復習をすること。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
授業内で適宜指定する。

【参考書】
授業内で適宜指定する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、平常点20%、小テスト20%、プレゼンテーション30%、レポート30%で総合的に行う。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室のパソコンを使用した実習型の授業である。情報実習室で対面授業を行う場合は、教卓機パソコン画面上のテキストや資料を使用して進める。オンライン併用の場合は、各自で学習環境を整える必要がある。基本的にはWindowsでもmacOSでも構わないが、 Excelでデータ分析ができる環境を前提としている。
最終課題となるプレゼンテーションは対面授業であってもZoomを用いることを想定している。また、毎回の授業資料と課題は学習支援システムを利用して配布・提示する。
授業時間内にこれらに接続可能なネットワーク環境も必要である。

【その他の重要事項】
受講者数が定員を超過する場合は抽選を行う。
初回授業はZoomを用いたオンライン授業となるが、受講者数把握のため、受講希望者は初回授業日の前日までに学習支援システムに仮登録した上で初回授業に出席すること。
詳細は学習支援システムを参照し、授業資料や「お知らせ」を必ず確認すること。
授業内容は、「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」の内容を概ね理解していることを前提に進みます。

【Outline (in English)】
（Course outline）
In this class, you will learn how data, which may be obtained not only from data created by computers, but also from various sensors, human behavior, and information released by public institutions as "open data", is used in social activities. The keywords are "data science", "Internet of Things (IoT)", "open data" and "big data". Students will learn and practice the handling and visualisation of various types of data.
（Learning Objectives）
- Learn about some examples of data science as a way to make use of the vast amounts of data described by terms such as Big Data, IoT and Open Data.
- We will learn about the common properties of data with different contents and formats, and statistics.
- Learn and practice how the same data can be communicated in different ways depending on how it is visualised.
（Learning activities outside of classroom）
You will need to do some independent study (revision) to make up for any difficulties you have in understanding the lecture content.
（Grading Criteria /Policy）
Grading will be decided based on the mid-term exam (20%), in-class contribution(20%), and the term-end preseentaion (30%) and report (30%).

HUI200GA（人間情報学 / Human informatics 200）

道具による感覚・体験のデザイン

甲　洋介

サブタイトル：カラダの『体験』から空間をデザインする
配当年次／単位：１〜4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：教室の収容人数を超えた場合は選抜を行う。

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「体験」という個人的な出来事を、受講生がアタマとカラダを使って「体験し直す」ことを目指す科目である。

● 日常の体験こそ奥が深い

体験という言葉からあなたが思い浮かべるのは、忘れられない出来事、驚いたこと、可笑しな体験、つらかったことなど、ほとんどが『非日常的な』体験ではないだろうか。しかし体験の本質に迫りたいなら、むしろ、日常の豊かな体験にこそ目を向けるべきである。本講義によって受講生は、一見些細に思える日常の体験においてでさえ、身体のさまざまな感覚は研ぎ澄まされ、わずかな世界の変化を感じ取り、豊かに感情が湧き起こり、体験が生み出されていくさまを理解できるようになる。

● 『体験』から、空間をデザインする

今年度は、「空間の体験」を取り上げる。本講義を通じて受講生は、人間は他人との間にある距離・空間を絶妙にコントロールしながら、互いに巧みな空間行動をしていることを理解できるようになる。たとえばキャンパス、マーケット、カフェ、広場、駅ナカなど、多くの人々が行き交う場は、人間の空間行動の特性を観察し、解析するには格好の空間である。

身体は空間を感じ、体験を生み出す。空間のデザインによって、そこでの体験はどのように変化するのか。この理解をベースにし、日常の空間をデザインし直すことに取り組む。たとえばもっと快適に安らげるように、あるいはもっと自然な集中ができるように。

● 体験をデザインする、ということ

「経験」「体験」(*experience*) が今ほど注目される時代はない。一方で「経験の危機」も指摘される。仮想世界の浸透も手伝って、私たちの「体験」は急速に変化し、どこまでが想像で、どこからが本当の体験なのか、その境界は曖昧になりつつある。例えば、自分の身体と感覚を使って実際に体験していない出来事であっても、”あたかも体験したかのように”受け入れていることに気づく。本講義を通じて、この現象を、デザインの視点から批判的に問い直すことになる。

【到達目標】
受講生はつぎの３つについて、基本用語を使って簡潔な説明ができるようになる。

1) 体験するとはどのようなことか

2) 人間は、どのように空間を身体で感じ、感情を働かせながら、人との距離や空間を互いに調節し、巧みな空間行動をしているか

3) 空間の体験は、その空間のデザインによってどのように変化するのか。

そして、これらの知識を用いて具体的対象に対して基本を実践できるようになる。
これを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と、実際に手を動かすデザイン・ワークショップを組み合わせて展開させる。講義で取り上げる３つのテーマ、およびワークショップの概要は次の通りである。各回において受講生のコメントシートを踏まえながら前回内容のおさらいと解説をし、理解の深化を促す。

●【講義の３つのテーマ】
(a) 身体と感覚、体験するということ
(b) 空間を体験する。道具によって空間の体験を作る
(c) 身体の観点から、感覚・体験装置を再考する

●【デザインワークショップ】
さらに上記テーマのうち(b)空間体験に焦点を絞って、街角のカフェ、店、学校、オフィス空間、住宅内のリビングルームなど具体的な空間を例にとり、デザインワークショップによる実践を通じて理解する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の狙い、構成、進め方のガイダンス
第2回	**[A] 身体、感覚、体験**	体験と身体。自然との境界としての身体・感覚
第3回	感覚と体験	感覚を体験する。直接体験と間接体験
第4回	感情の科学：感情をともなう体験	感情を体験する。感情を伴う体験のメカニズム
第5回	**[B] 人間の空間行動と空間体験のデザイン**	カラダで空間を感じる（視・聴・多感覚）
第6回	人間の空間行動	観察しよう。人間が見せる面白い空間行動
第7回	人間の空間行動〜パーソナルスペース	空間行動は、文化の中に組み込まれている
第8回	デザインワークショップ１	からだが『空間を体験する』
第9回	**[C] 身体から、感覚・体験装置を問い直す**	体験*experience*から、空間をデザインする
第10回	空間の体験　〜道具によって空間の体験を作る	学校という空間、カフェという場所。空間体験から考え直す
第11回	身体からみた『日本庭園』　〜日本庭園のふしぎ	身体を覚醒させる装置としての日本庭園。時間的な連続性
第12回	デザインワークショップ２	カフェ、オフィス、学校、『場所』のデザイン、発表と討議
第13回	空間体験の仮想化	現実と仮想体験の融合。スヌーズレン。仮想現実VR、拡張現実AR、ミックスドリアリティMR、代替現実SR
第14回	まとめ：身体、感覚、体験 -revisit -	生きられた空間。経験としての芸術。経験の危機

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・デザイン課題、発表のための資料づくりがあります。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
初回時に指示をする。

【参考書】
・「経験としての芸術」(J. デューイ)講談社学術文庫, 2004
・「かくれた次元」(E.T. ホール)みすず書房, 1970
・「空間の経験―身体から都市へ」(Y.F. トゥアン)ちくま学芸文庫, 1993

【成績評価の方法と基準】
・レポート、作品制作 (50％)
・コメントシート、発表、討議への積極的な参画、平常点（50％）
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
履修者からの要望が多い、建築空間での事例研究を増やそうと思う。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布、コメントシート・課題提出等に学習支援システムを利用する。授業前後にアクセスし確認すること。

【その他の重要事項】
講義を言葉で理解するだけではなく、日常のあらゆる機会をとらえて、身体と感性を駆使して理解しよう。面白い建築を訪ねたり、街の人々の空間行動を新しい視点からウォッチングしたり、日本庭園に仕掛けられた身体体験を批評的に味わったり、闇の中で海辺の波音にじっと耳をすます体験が役に立つ。
教室の収容人数を超えた場合は選抜を行う。

【重要な関連科目】
「道具のデザイン学」「こころの科学」「仮想世界研究」と組合せ受講することが望ましい。それらで学んだ知識を用いて、この講義および実習をより深い理解に基づいて進めることができるようになる。

【情報機器・視聴覚設備の活用】
ＰＣおよび、ＤＶＤ、プロジェクター等の視聴覚設備を活用し、講義形式とワークショップを組み合わせた授業を展開する。

【Outline (in English)】
This class allows you to learn (a) the basic concepts of experience, emotion, feeling and embodiment, and (b) the “design of experience”. This year, we will focus on human spatial experience and the design of spatial experience.
By the end of the course, students should be able to (a) explain the relationship between experience, emotion, feeling and embodiment, and (b) practice basic principles of "experience-based design” based on the understanding of the above basic concepts.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Final grade will be decided based on (1) final report/work product (50%) and (2) short reports and the quality of the student’s in-class contribution (50%).

HUI200GA（人間情報学 / Human informatics 200）

文化情報のデザインワークショップ

松田　美奈子

サブタイトル：ユーザの体験を考え、デザインする実践ワークショップ
配当年次／単位：1〜4年／2単位
旧科目名：情報コミュニケーションI
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：受講状況により選抜することがあります
備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ユーザーの体験をデザインする『面白さ』と『奥深さ』を、実践的に学ぶ科目
私たちの日常生活はたくさんの道具であふれている。日常生活で出会う道具には文房具のような小さなモノからアミューズメントパークのような大きなモノまである。それらの道具が魅力的で使いやすいと日常生活も豊かで楽しくなる。
　このワークショップでは、「道具を使いやすくデザインする方法論」と「新しい近未来の道具のデザイン」という２つのテーマに取り組む。　道具をデザインするという一見難しく思える課題を、手法の習得と実践の両方をバランスよく配置して、実践的に学べる科目である。
●　ユーザー調査を行い、特性を理解し、道具を使いやすくデザインする
講義の前半では、「道具の使いやすさ」に着目する。
　私たちの日常を様々な側面で支えてくれる道具たちを、使いやすく魅力あるのにするにはどうすればよいか？　その鍵は、ユーザの特性と、ユーザに起こっている出来事の的確な理解にある。　道具のデザインを改良する具体的な方法論を、実習を通じて学ぶ。
●　新しい、近未来の道具をデザインする
講義の後半では、「新しい近未来の道具のデザイン」に着目する。
　まだ存在しない未来の道具をデザインするにはどのようにすればよいのか？
　その手掛かりはユーザーの潜在的なニーズの把握にある。　利用者の生活が豊かになるような近未来の道具を考案し、コンセプトをデザインするための方法論を、実習を通じて学ぶ。

【到達目標】
「道具をもっと使いやすくデザインすること」と「新しい近未来の道具をデザインすること」、この２つをテーマとして、デザイン手法を実践的に学ぶ。
●　２つのテーマは学習内容が異なる。各テーマの基礎となる基本的な考え方、理論、調査計画の立て方、評価方法、データ収集方法、分析方法を学び、実践できるようになる。
●　グループワークの進め方、結果のまとめ方、成果発表の工夫を学び、実践できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
「道具を使いやすくデザインする方法論」と「新しい近未来の道具のデザイン」、この２つのテーマについて、具体的なデザイン手法の基礎を学び、実践する。授業は、講義とワークショップを組み合わせる。また受講者の学習状況や実践力をコメントシート等によって把握し、進め方に反映する。
●　前半では、身近で気になる道具を１つ取り上げ、利用者にとってより使いやすい道具に改良するための方法論を、実験実習によって実践的に学ぶ。道具の使いにくさの問題現象を分析・整理し、システム改良を行うための認知工学的方法論とその考え方を、グループワークによる実験実習を通じて習得する。
●　後半では、具体的な利用者の日常生活のある場面に着目し、利用者の生活をさまざまな角度から分析することにより、利用者の生活を豊かにする具体的な道具を１つ考案し、コンセプトを明確化させていく作業をグループワークを通じて行う。
●　各テーマごとに、受講生またはグループによる成果発表の機会を設ける。グループワークや成果発表では、受講生どうしの討議を促すとともに解説を行い、さらに改良アイディアを深められるように工夫する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	「道具の使いやすさ」とユーザー中心のデザイン
2	道具の使いやすさ（理論編）	道具の使いやすさ評価の基本を学ぶ
3	道具の使いやすさ評価（実験計画編）	使いやすさ評価実験の計画を立てる
4	道具の使いやすさ評価（準備編）	「道具の使いやすさ評価」に用いる実験手法の実習と、実験準備
5	道具の使いやすさ評価（実験編）	「道具の使いやすさ評価」を実験実習する
6	道具の使いやすさ改良（分析・考察編）	実験データを分析し、それに基づいて道具の具体的な設計改良を考案する
7	道具の使いやすさ改良（提言編）	道具を改良する具体的な提案と資料を準備する
8	成果発表とクラス討議	発表と討議を通じて、道具を使いやすくする改良事例を互いに学ぶ
9	「未来のモノのデザイン」の考え方	未来に向けたデザインとHCD（人間中心設計）プロセス
10	新しい近未来の道具（ブレインストーミング）	ある具体的な人物の、具体的な生活場面を切り出す
11	新しい道具のデザイン（分析編）	利用者特性と具体的なニーズを分析する
12	新しい道具のデザイン（アイディア編）	要求分析から、道具を発想する
13	新しい道具のデザイン（提言編）	要求分析から、新しい道具の提言を練る
14	成果発表とクラス討議	発表と討議を通じて、近未来の道具の発想例を互いに学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする。授業時間外に観察や調査の実施、レポート作成などの活動が含まれる。

【テキスト（教科書）】
・「人間計測ハンドブック」第3章（認知心理過程の計測）（朝倉書店、産業技術総合研究所編）2013.
・ユーザインタフェースと認知モデル（甲洋介、人工知能学会論文誌）

【参考書】
・「ユーザーインタビューをはじめよう」（ポーチガル著、ビー・エヌ・エヌ新社）2017
・「デザイン思考が世界を変える〔アップデート版〕」(ティム・ブラウン著、早川書房) 2019
・「プロダクトデザインの基礎 スマートな生活を実現する」（JIDA編、ワークスコーポレーション）2014.
他については適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
・レスポンスシート、討議、発表、グループワークにおける貢献度合い (50％)
・課題レポート、プロトタイプなど制作物 (50％)
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。課題レポートの未提出者は単位認定できない。

【学生の意見等からの気づき】
グループディスカッションが有益とのコメントを踏まえ、講義と実習を効果的に組み合わせ、理解がより深まるように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布、レスポンスシート・課題提出等に学習支援システム等を利用する。授業前後にはアクセスし確認すること。

【その他の重要事項】
本科目では、グループワーク中心の発見型学習を通じて学生の就業力育成を支援する。
「文化情報学の実践」科目群〔共通のテーマ〕
「文化情報学の実践」科目群では、文化情報学における重要な主題を選び、その基本となる考え方、課題解決の手法、実践に必要な知識を実習を通して学ぶ。情報実習室の機材・設備を活用した実験・実習を通じ、ICT活用スキルに加えて、実験の計画、分析、専門文献調査、考察、報告などを実践的に学ぶ。
実務経験のある教員による授業
教員は一般企業で製品/サービスのデザインに関わる業務に20年以上従事。ビジネスの現場でも幅広く活用できる実践的なデザインアプローチを学ぶ。

【前提科目と関連科目】
・「道具のデザイン学」「道具による感覚・体験のデザイン」「こころの科学」を合わせて履修することで、知識と実践の相乗効果が得られる。

【情報機器・視聴覚設備の活用】
ＰＣ、プロジェクター等の視聴覚設備を使用する。

【Outline (in English)】
This class provides you with an unique "Design Workshop". This class allows you to actively learn: (1) how to re-design everyday artifacts by the "User Experience (UX) Design" methodology, and (2) how to create ideas of conceptual designs of a near-future artifact.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Final grade will be decided based on (1) final report/exam (50%) and (2) short reports and the quality of the student's in-class contribution (50%).

HUI200GA（人間情報学 / Human informatics 200）

道具のデザイン学

松田　美奈子

サブタイトル：魅力的な体験をデザインする、という考え方
配当年次／単位：2〜4年／2単位
旧科目名：ヒューマンインターフェイス論
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：毎年開講　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること
備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい< br /> 旧：ヒューマンイタンーフェイス論の修得者は履修不可

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
● デザイナーだけではない。利用者の視点がデザインに役立つ！
日常生活はたくさんの道具やサービスであふれている。日常生活で出会う道具にはコンタクトレンズのような小さなモノから建築物やアミューズメントパークのような大きなモノまである。それらの道具が魅力的で使いやすいと日常生活も豊かで楽しくなる。
　利用者としてのあなたの体験に目を向けよう。お気に入りの道具を楽しむこともあれば、面倒な操作で不快になった体験もあるだろう。
● デザインすると、暮らしはもっと快適になる
暮らしの道具やサービスを使いやすく魅力的にデザインすることは、その道具の利用者の生活をもっと豊かで快適なものにすることに直結している。道具のデザインは重要である。そのデザインに、ユーザからの視点が非常に役立つことが分かってきた。
● ユーザの体験（エクスペリエンス）をデザインする、という考え方
ではどうデザインするか。本講義では、利用者にとって使いやすく、魅力的なものをデザインすることを目指す方法論「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」の基本から、デザイン手順までを実践的に学べる。それは、デザインする際の主役である「ユーザ」について深く理解し、特性を分析する作業から始まる。
「モノづくり」、特に道具・家具・文具のデザインに興味のある皆さんの参画を期待する。
　文化や特性が異なるために摩擦が生じるのは人種や民族間だけではない。ロボットを始め、人が造った人工物と人間も、材質や見かけだけでなく、知的能力、言語コミュニケーション能力、感覚、情動などさまざまな側面において異なっている。このため、人工物と人間の間でも様々な摩擦が生じる。このことを学ぶことは、これからの社会に重要な、人と人工物が共生する社会について考える際の基礎となる。

【到達目標】
UXデザインの基礎が身につく
・使いやすく魅力的な道具やサービスをデザインするための方法論、「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」の基本的な考え方を説明できるようになる。
・デザインの基本原則から、ユーザ特性の分析方法、デザイン手順まで、実践的に説明できるようになる。
・最終課題に取り組むことで、道具・商品・サービスのデザイン案を、利用者のエクスペリエンス(experience=体験)の観点からデザインし、企画を提案できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
日常生活を豊かで暮らしやすくする「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」を、基本から実践までを体系的に学ぶことができる。
●各回において受講生のコメントシートを踏まえながら前回のおさらいと解説をし、理解の深化を促す。受講生どうしの討議・意見交換の機会を適宜促すとともに解説を行う。改良アイディアがさらに得られるように工夫する。
●「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」の手法を学び、実践する
特に後半では、具体的なデザイン方法論の基本から実践手順までを学ぶ。講義での説明に基づいて、各自が練習課題に取り組む。その成果を蓄積していくとレポートが仕上がるように工夫されている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	暮らしはデザインの可能性であふれている
2	『暮らし』をシナリオに書いてみよう	日常生活の道具に着目し、「暮らしのシナリオ」を描く
3	なぜ使いにくいモノが暮らしにあふれるのか	デザイナーだって、利用者に喜んでほしい
4	使いやすい道具は生活を快適にする	決め手は、ヒトと道具のコミュニケーションのデザインだ
5	ユーザの心理学	ユーザの認知過程: 道具の「使いにくさ」を科学的に解析する
6	ヒューマンエラー	ヒトは間違えやすく、思い込みが強く、新しい事をなかなか覚えない動物である
7	道具の使いやすさ	「使いやすさ」を定義する。ユーザビリティの国際規格
8	「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」① *User Experience (UX) Design*	ユーザの特性を理解し、体験*(experience)*をデザインする、という考え方
9	「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」②理論	*UX Design* の考え方の基礎と基本原則を学ぶ
10	「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」③手順	デザインの流れと、具体的な手順
11	道具のデザイン実習①商品の企画、ユーザー分析	魅力ある企画書を作るために ユーザ・ニーズとシナリオに基づくデザイン
12	道具のデザイン実習②デザインプロセス	ユーザの快適な体験*(experience)*をデザインする
13	道具のデザイン実習③評価技法の例	道具の使いやすさの評価技法
14	デザイン案の発表会	受講生によるデザイン案の発表、ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の復習を兼ねて、課題練習を少しづつ積み重ねる。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする。授業時間外に観察や調査の実施、レポート作成のなどの活動が含まれる。

【テキスト（教科書）】
・「誰のためのデザイン」（D.A.ノーマン、新曜社）2015

【参考書】
・「ユーザーインタビューをはじめよう」（ポーチガル著、ビー・エヌ・エヌ新社）2017
・「ユーザビリティエンジニアリング」（樽本徹也、オーム社)2014
・「UXデザインの教科書」（安藤昌也著、丸善出版）2016
・NPO人間中心設計推進機構：　http://www.hcdnet.org/
・ユーザインタフェースと認知モデル（甲洋介、人工知能学会論文誌）
・「人間計測ハンドブック」（甲ほか、朝川書店）2013

【成績評価の方法と基準】
・レスポンスシート、授業・討議における積極性な貢献度合い(50％)
・発表とレポート(50％)
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
受講生による互いのデザイン企画案の発表会が、大いに刺激になる、との感想が寄せられる。私もそれを楽しみにしている。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布、レスポンスシート・課題提出等に学習支援システム等を利用する。授業前後にアクセスし確認すること。

【その他の重要事項】
いわゆるコンピュータの授業ではないので、注意のこと。
【実務経験のある教員による授業】
教員は一般企業で製品/サービスのデザインに関わる業務に20年以上従事。ビジネスの現場でも幅広く活用できる実践的なデザインアプローチを学ぶ。

【履修条件】
・国際文化学部生は「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」を単位取得済みであること。
・他学部生（国際文化学部生以外）は初回の授業に出席し必ず先生に履修の許可について相談すること。

【関連科目】
・姉妹科目の「文化情報のデザインワークショップ」は、ユーザーエクスペリエンス・デザイン手法の実践ワークショップになっている。これと併行履修することで知識と実践の相乗効果が得られる。

【情報機器・視聴覚設備の活用】
ＰＣ、プロジェクター等の視聴覚設備を活用する。

【Outline (in English)】
This class allows you to learn the "User Experience (UX) Design". By the end of the course, student understands the basic principles of the "UX Design" and should be able to understand how to apply some basic methods.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Final grade will be decided based on (1) final report/exam (50%) and (2) short reports and the quality of the student's in-class contribution (50%).

BIO200GA（その他の総合生物・生物学 / Biology 200）

文化と生物

島野　智之、川上　裕司、黒沼　真由美、松崎　素道、鈴木　忠、富川　光

サブタイトル：生活にいかす生物との関わり
配当年次／単位：2〜4年／2単位
旧科目名：バイオインフォマティクス
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：毎年開講　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：
備考（履修条件等）：旧：バイオインフォマティクスの修得者は履修不可

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文化という視点からみた生命の実像を学ぶ.
内容は大きく2つに分けて，(I-II)「ヒトを取り巻く文化と生物」と，(III-V)「生物それ自体とその進化」について講義を行う．分野は衛生学，美術，生物学，農業にわたり，生物情報をどのようにヒトが利用しているのかを学ぶ.

【到達目標】
ヒトの生活と生物にまつわる歴史，文化そして，現代的な問題を解決する方法について，考え理解する．生物の多様性や進化について，考え理解する．現代の生物学は情報科学的側面を強く持っている.ここでは，生命活動における情報（主に遺伝情報）の特徴とその役割について，現代生物学の手法を体験し，現状を理解する.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
大学の行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。
講義はやわらかく，文系学生にも分かりやすい内容や説明を行う.
講義はオムニバス形式で，それぞれの分野の専門家に最新の知識を示してもらいます．11回までは，講義が中心ですが，特に，5-8回は，討議などもいれたアクティブラーニングの手法ももちいます．随時，ビデオやスライドを用いてわかりやすく紹介します.最後の実習（12回以降）は，実際にパソコンのソフトを用いて，外部の生物学専門機関が公開している種々のサービスを利用して行います.
メールの添付などの方法で課題等に対するフィードバックをおこないます.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス (I) ヒトの生活環境と生物 (1) 食文化と微生物 担当教員：川上	講義内容のあらすじ ①善玉菌と悪玉菌とは何か（細菌・真菌・ウイルスの違い）,②食中毒とは何か,③発酵食品に利用される微生物と食文化の発展について
2	(I) ヒトの生活環境と生物 (2) 健康的な食生活と微生物 担当教員：川上	①プロバイオティクスとは何か,②医食同源は健康的な食生活の基本,③人類の食糧難を引き起こす昆虫と救う昆虫（農業・食品害虫と昆虫食）について
3	(I) ヒトの生活環境と生物 (3) 住まいと害虫 担当教員：川上	①主な衛生害虫・衣類害虫・家屋害虫とその生態,②ダニ・昆虫アレルギーについて,③殺虫剤と害虫対策法
4	(I) ヒトの生活環境と生物 (4) 住まいと微生物 担当教員：川上	①病原体としての細菌・真菌（カビ)、②真菌アレルギーについて、③殺菌剤とIPM（総合的有害生物管理）による対策法
5	(I) ヒトの生活環境と生物 (5) 文化財を害虫やカビから守るためには 担当教員：川上	①文化財の保存科学現状と問題点、②カビ被害の実際と対策、③害虫被害の実際と対策
6	(I) ヒトの生活環境と生物 (6) 地球環境と微生物〜歴史を作る影の立役者〜 担当教員：川上	①感染症と人類の歴史、②ハンセン病と日本の歴史、③地球環境と農業分野への活用
7	(II) 生物の進化と塩基配列情報 (1) 塩基配列情報によって進化を推定する. 担当教員：島野	生物の進化を推定する．生物の遺伝子DNAの塩基配列情報から作成された系統樹から何がわかるのか.
8	(III) 動物とは？ (1) 死と復活 担当教員：鈴木	自然発生論争と蘇生論争
9	(III) 動物とは？ (2) 未発見の生物を発見するために，冒険に出よう. 担当教員：鈴木	生物と名前。なぜ生物に名前があるのか。どのように名前を付けるか。
10	(II) 生物と生態系 (1) 生物と環境の共進化 担当教員：松崎	生命の起源、共生による生物進化、地球環境の改変と適応
11	(II) 生物と生態系 (2) 生態系と寄生生物 担当教員：松崎	寄生生物が生態系で占める位置と役割（生態系改変や宿主操作）
12	(II) 生物と生態系 (3) 食文化と寄生生物 担当教員：松崎	寄生生物と食文化との関わり
13	(IV) 生物の分類と命名 (1) 人間生活と生物の分類 担当教員：富川	生物を分類し，名前を付けることの意味について，人間生活と関連付けて考える.
14	(V) 無脊椎動物解剖学 (1)無脊椎動物の体の仕組み 担当教員：黒沼	地球上で繁栄している無脊椎動物である節足動物の定義をおさらいし，様々な形態や筋肉のつき方,動きを比較する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義は，生物学だけでなく，情報科学，人文・社会科学などとの関連も含めて学ぶので，学生自身も普段から情報という視点で，様々な知識を相互に連関させて理解し,柔軟な思考ができるように努めてもらいたい.本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義テーマに合致する市販のテキストはない.個人的に作成した講義資料を使用する.

【参考書】
講義資料の最後に参考書のリストが掲げてある.教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

【成績評価の方法と基準】
基本は講義・実習の最後に提出してもらうレポート(60%)だが,この他に講義内で提出してもらう様々な文書(ビデオ等の感想,小テストなど)(40%)も加え,総合的に評価する.
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする.

【学生の意見等からの気づき】
今年度，カリキュラムを大幅に改訂し，国際文化学部の学生にも興味と応用的知識を提供するようにつとめている．引き続き，改善につとめている途中である.
受講生の数にもよるが，少数の場合は，個別に希望・要望等を聞いて講義内容・方法の改善に努めたい.

【学生が準備すべき機器他】
情報機器を使用します.パソコンにインストールされているソフトを元に，実習します.遺伝子データベース　http://www.ddbj.nig.ac.jp/searches-j.html を使います.

【その他の重要事項】
情報実習室で行うことに注意してください.

【Outline (in English)】
In this course, students will be introduced to how humans use biological information for culture through hygiene, art, biology, agriculture, etc., and the real image of life from the perspective of culture.
The content is divided into two major sections: (I-II) "Culture and organisms surrounding humans" and (III-V) "Organisms themselves and their evolution. The fields of study include hygiene, art, biology, and agriculture, and we will learn how humans use biological information.
Students are expected to complete the required assignments (class tests, assignment reports) at the end of each class.Your study time will be more than four hours for a class.
The basic grade is the report to be submitted at the end of the lecture/practice (60%). In addition to this, various documents to be submitted in the lecture (impressions of videos, etc., quizzes, etc.) (40%) will also be added, and students will be evaluated comprehensively.
Students who have achieved at least 60% of the objectives of the class will be graded on the basis of this grading system.

BIO200GA（その他の総合生物・生物学 / Biology 200）

文化と環境情報

島野　智之、佐々木　美貴、中西　由季子、忽那　賢志、塚田　訓久、島田　瑞穂、吉川　翠、長谷川　真紀子

サブタイトル：人間社会や文化が，生態系とどのように関わっているのか

配当年次／単位：2〜4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生物は、それぞれの生活環境に適した結果、多様性に富んだ進化の道を進んできている。多様な環境条件下で生活しているヒトは、環境に適応するためにさまざまな技術や思考を創造してきた。人間の活動と環境の相互作用によって構築される文化に着目し、自然科学及び人文社会科学の多面的な視点から、ヒトを取り巻く環境から得られる情報と文化の成り立ちや持続可能な社会について学ぶ。

【到達目標】
人間社会や文化が，生態系とどのように関わっているのかについて考え理解する．現代の生物学は情報科学的側面を強く持っている．ここでは，生態系，地球環境と，人間生活，食文化，病気などについて，現代生物学，栄養学，医学，保全生態学の観点から現状を理解する．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
大学の行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。
講義はやわらかく，文系学生にも分かりやすい内容や説明を行う．講義はオムニバス形式で，それぞれの分野の専門家に最新の知識を示してもらう．講義が中心だが，討議などもいれたアクティブラーニングの手法ももちいる．随時，ビデオやスライドを用いてわかりやすく紹介する．メールの添付などの方法をもちいて課題等に対するフィードバックをおこなう．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス (I) 生物多様性と持続可能性 (1) 生物多様性はなぜ必要なのか. 担当教員：島野	講義内容のあらすじ ①生物多様性条約　②食文化（乳製品）と生物多様性　③分類学と生物多様性
2	(II) 持続可能な社会づくりと未来 (1) SDG ｓ de 地方創生ワークショップ 担当教員：中西	「SDGs de 地方創生」を通じて、SDGsを「まちづくり」や「地方創生」の身近な“プロジェクト”に引き寄せながら “自分事として体感”する．地域で暮らす市民，事業者，ＮＰＯ，自治体など地域の様々なステークスホルダーが、持続可能なまちづくり【地方創生 ×SDGs】の目標実現に向けたプロセスを疑似体験する． ①「SDGs de 地方創生」 ②まちづくり ③地方創生 ④人口減少
3	(II) 持続可能な社会づくりと未来 (2)Change for the blue（海洋プラスチック課題）ワークショップ 担当教員：中西	「Change for the blue」を通して、海洋プラスチック削減のために、企業・組織の一員としてできること、一市民としてできることについて考え、市民意識、技術、経済状況等も踏まえて、ごみ削減を体感する。 ①Change for the blue ②海洋プラスチック ③ごみ削減
4	(II) 持続可能な社会づくりと未来 (3) レゴ(R)・シリアスプレイ(R)のMethodと教材を活用したワークショップ（ありたい未来の世界を考える） 担当教員：中西	レゴ(R)・シリアスプレイ(R)のメソッドと教材を活用し、ありたい未来の世界の姿についてコンストラクショニズムに基づき、作品を作成し、内省し、対話を行う。①レゴブロック ②コンストラクショニズム ③対話
5	(III) 感染症と日本社会 (1) 野生動物とヒトの間の感染症 担当教員：島田	日本の原風景である里山では、人々の生活様式の変化に伴う荒廃が進み、野生動物が増加している。イノシシやシカを用いたジビエ料理の文化も交え、野生動物とヒトの間を行き来する人獣共通感染症について考える。
6	(III) 感染症と日本社会 (2) 新興感染症 担当教員：忽那	①新型コロナウイルス感染症とは？ ②新型コロナウイルス感染症とリスクコミュニケーション ③新型コロナウイルス感染症が社会に与えた影響
7	(IV) 生態系と持続可能な人間活動 (1) 土壌汚染 担当教員：長谷川	人間活動の影響によりおこる、化学物質や薬品、畜産などによる土壌汚染問題について学ぶ。また、汚染土壌中に棲む土壌動物の特徴について理解する。 ①人間活動の問題点 ②土壌汚染の具体例 ③汚染物質の土壌動物への影響
8	(IV) 生態系と持続可能な人間活動 (2) 近代以前の日本と現代の日本 担当教員：長谷川	江戸時代の暮らしや環境について学び、現代日本の社会生活の特徴について理解する。 ①江戸時代の暮らし ②循環型社会 ③江戸時代の農業
9	(II) 持続可能な社会づくりと未来 (4) 1日の生活様式と食生活を振り返る（生活活動調査＆食事バランスガイド） 担当教員：中西	生活活動調査と食事バランスガイドの調査用紙に回答し、一日の身体活動量を算定、エネルギー必要量や必要な食事バランスを知るとともに、各自の一日の食事を振り返り、どのような栄養バランスの食事をしているのか知り、改善点を考える。①身体活動量 ②推奨エネルギー摂取量 ③食事バランスガイド
10	(III) 感染症と日本社会 (3) エイズと社会 担当教員：塚田 ※この回は，オンラインに変更する可能性があります．事前にお知らせしますので注意してください	①「エイズ」ってなんだろう ②「エイズ」と向き合うことでみえてくるもの
11	(I) 生物多様性と持続可能性 (2) 霊長類の生物多様性 担当教員：吉川	霊長類の社会：ヒトは霊長類の１種であるという視点から、ヒトを含めた霊長類の社会や行動の違い、共通点を学ぶ。また、環境への適応について、ヒトの進化の隣人といわれるアフリカのチンパンジー等の行動生態の研究事例を学び、理解を深める。 ①ヒトと、ヒト以外の霊長類について ②霊長類の行動と生態
12	(V) 自然環境と文化 (1) 保全・再生 担当教員：佐々木	水辺の環境である湿地とその保全や利活用を推進するラムサール条約について学ぶ. さらに，新潟市佐潟の「潟普請」，習志野市谷津干潟の「アオサ対策」などの事例に即して，湿地の保全や再生にかかわる文化について考える.
13	(V) 自然環境と文化 (2) wise use（ワイズユース） 担当教員：佐々木	ラムサール条約が推進するワイズユース（賢明な利用）について学ぶ. さらに，大崎市の「ふゆみずたんぼ米」，檜枝岐村の尾瀬や温泉による観光，豊岡市の「環境経済戦略」などの事例に即して，ワイズユースにかかわる文化を考える.
14	(V) 自然環境と文化 (3) CEPA 担当教員：佐々木	ラムサール条約が進めるCEPA（コミュニケーション、力量形成，学習・教育，普及活動）について学ぶ. さらに，高島市の「ふるさと絵屏風」，ラムサール条約登録湿地関係市町村会議の「学習・交流会」，日本湿地学会の活動などの事例に即して，CEPAにかかわる文化を考える.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義は，生物学だけでなく，情報科学，人文・社会科学などとの関連も含めて学ぶので，学生自身も普段から情報という視点で，様々な知識を相互に連関させて理解し,柔軟な思考ができるように努めてもらいたい.本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
講義テーマに合致する市販のテキストはない.作成した講義資料を使用する.

【参考書】
講義資料の最後に参考書のリストが掲げてある.

【成績評価の方法と基準】
基本は講義・実習の最後に提出してもらうレポート(60%)だが,この他に講義内で提出してもらう様々な文書(ビデオ等の感想,小テストなど)(40%)も加え,総合的に評価する.この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
国際文化学部の学生にも興味と応用的知識を提供するようにつとめている．引き続き，改善に努めている．
受講生の数にもよるが，少数の場合は，個別に希望・要望等を聞いて講義内容・方法の改善に努めたい．

【学生が準備すべき機器他】
Hoppii学習支援システムを利用するので，情報機器（パソコンやタブレット）などを準備して下さい．

【その他の重要事項】
※講義10回目，塚田先生ご担当回　オンラインに変更する可能性があります．事前にお知らせしますので注意してください．

【Outline (in English)】
In this course, students will be introduced that living organisms have evolved in biological diversity as a result of their suitability to their respective living environments. Humans, living under diverse environmental conditions, have created a variety of technologies and thoughts to adapt to their environment.
The goal of this course is to understand the origins of culture and sustainable society with information obtained from the environment surrounding humans from multiple perspectives in the natural sciences and humanities and social sciences, with a particular focus on culture constructed through the interaction between human activities and the environment.
Students are expected to complete the required assignments (class tests, assignment reports) at the end of each class.Your study time will be more than four hours for a class.
The basic grade is the report to be submitted at the end of the lecture/practice (60%). In addition to this, various documents to be submitted in the lecture (impressions of videos, etc., quizzes, etc.) (40%) will also be added, and students will be evaluated comprehensively.
Students who have achieved at least 60% of the objectives of the class will be graded on the basis of this grading system.

ART300GA（芸術学 / Art studies 300）

現代美術論

平野　真弓

配当年次／単位：2〜4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：受講希望者が1000人を超えた場合、抽選を行います。抽選方法については学習支援システムを通じて連絡しますので、よく確認をしておいてください。

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今日の現代美術の世界は、様々な分野の最先端の芸術の分野（美術、建築、音楽、パフォーミングアーツ、映像、詩など）が複雑に交差しながら形成されています。この講義では、現代美術の多様性に焦点を当て、理論と実践の両面から探求します。現代美術のコンテクストを社会学、人類学や科学など他の領域かと対比しながら分析し、その中で多文化主義・関係性・コミュニケーションなどのテーマを読み解いていきます。こうしたアプローチを通じて、現代美術がどのように社会的、文化的な変化と相互作用しているかを深く理解するための基盤について学びます。学と比較参照し、多文化・関係性・コミュニケーションなどをキーワードに読み解いていきます。

【到達目標】
講義では、現代美術と関連のある芸術分野についても扱い、様々な芸術の分野における実験的なアプローチを検証し俯瞰することで、それらの考え方、アイディアについての理解を深めます。
みなさんには馴染みの薄い分野であると思いますので、最初に美術史や美術理論の基本的な知識を確認します。また、講義の間にワークショップ（感覚的、体験的に学ぶこと）を行い、より理解を深めていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義映像や資料などの授業コンテンツをGoogle sites全て掲載して一定期間公開し、それをみながら授業を受講してもらうオンデマンド方式にします。
授業当日の流れ（重要）
1.指定された公開日に、Google Classroomにその日の学習内容を掲載した資料（Google sites）のリンクを掲載する。
2.資料を見ながら学習を進める。（当日であれば、授業時間外に学習しても構いません。）
3.Google Classroomに授業に関連した小テストや授業内レポートのリンク（Google Forms）が掲載されているので、回答して提出する。
4.授業内容に関する質問については、Google Formsに書き込んでおくと回答します。
授業の方法
授業時間になるとGoogle Classroomを通じて必要なリンク先や課題の提出について公開します。公開したウェブサイトに授業に関連したテキストや授業概要の映像（YouTube、40- 60分程度）、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは年度末まで公開しておきます。
課題
受講後、Google Formで小テスト、もしくは簡単なレポートを提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。
評価
実習課題とレポートの提出をもって出席とし、採点を行います。
質問・相談
一般的な質問や相談についてはGoogle Classroomを使ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 授業計画について	講義内容について 授業の進め方と方法について 評価方法と基準
第2回	メディアとアート 絵画・彫刻・ドローイング、写真・映像・インスタレーション	美術における様々な技法やメディアの探究について、その発展と変遷を詳細に考察します。この授業ではメディアの歴史的変遷と共に、アバンギャルドの時代から現代までの現代美術について学んでいきます。美術の歴史的なコンテクストの中で、異なる技法やメディアがどのように位置付けられ、進化してきたのかについて、探究していきます。
第3回	20世紀の美術 未来派・ダダ、シュルレアリスム 、アクション、ハプニング、ポップアート、 コンセプチュアル・ミニマルアート	第一次世界大戦前後のアバンギャルド芸術運動（前衛芸術）である未来派、ダダイズム、シュルレアリズムについて学びます。第二次世界大戦で壊滅的なダメージを受けたヨーロッパに代わり、経済力を背景にアメリカが現代芸術の中心地となりました。60年代以降には、概念的なアートや、ハプニング、ランドアートのような従来の絵画や彫刻にとらわれない表現様式が多く登場します。これらの表現は、芸術の領域に現代的な多様性をもたらしました。
第4回	21世紀の美術 新表現主義、YBA、関係性の美術 、ソーシャリー・エンゲージドアート	1980年代に、アメリカのコマーシャル・ギャラリーから生まれたムーブメント、「新表現主義」について学びます。新表現主義は、表現主義的なスタイルを追求し、絵画における感情的な表現と物質的な豊かさを再評価しました。また、ミレニアム前夜には、イギリスやフランスを中心に、二つの重要な芸術運動が登場しました。「ヤング・ブリティッシュ・アーティスト（YBA）」と呼ばれる運動で、若手アーティストの作品が国際的な注目を集めました。「リレーショナル・アート」は観客との関係性や環境との対話を重視することで、芸術の社会的な役割を再考しました。2010年代には「ソーシャリー・エンゲージド・アート」と「ソーシャル・プラクティス」という、社会的な関与をテーマにした芸術運動が注目を集めています。これらは芸術を社会問題に関与させ、社会的な変化を促すことに焦点を当てています。
第5回	ワークショップ1 単元のまとめ・ワークショップ	メディアとアート、20世紀の美術、21世紀の美術 の講義内容の確認をします。

第6回	現代アートとパフォーマンス1 パフォーマンス・アートの始まり／アクション、ハプニング、インスターション	パフォーマンス・アートは身体を用いて時間的な経過と共に行われる表現行為です。1960年代にアラン・カプローが「ハプニング」、また前衛音楽家のジョン・ケージは「イベント」という言葉を使って芸術の常識を破ろうとしました。70年代からは主にパフォーマンスアートと呼ばれるようになります。
第7回	現代アートとパフォーマンス2 社会と関わるアート／ビデオパフォーマンス、エンデュランスアート、テクノロジーとパフォーマンス、芸術と社会、委託されたパフォーマンス	ソーシャリー・エンゲージド・アートのような社会に対する直接的なアプローチのみならず、どのような時代の芸術作品もその作品が作られた社会と深く結びついています。各時代の社会と関わるアートに関する事例について学んでいきます。
第8回	身体とパフォーマンス パフォーミング・アーツ、バレエ、モダンバレエ、モダンダンス、コンテンポラリーダンス、舞踏	パフォーミング・アーツは視覚芸術であるファインアーツに対して演劇やダンスなどの舞台芸術、行為・アクションによって成立する芸術という意味で使われています。バレエに始まる近代ダンスの変遷、また現代演劇についても触れます。
第9回	音とパフォーマンス 現代音楽 ミュージック・コンクレート、フルクサス、ミニマル・ミュージック	シェーンベルクに始まり、ミュージック・コンクレート、ジョン・ケージの偶然性の音楽、ミニマルミュージックを経て現代に至る現代音楽の流れを美術の世界と比較しながら学んで行きます。
第10回	言葉とパフォーマンス ビート・ゼネレーション、スポークン・ワード、ラップ・ミュージック	シュルレアリスムやコンセプチュアルアートなどのテキストによる美術表現や言葉を使ったパフォーマンスアートと、ポエトリーリーディング/スポークンワードなどの現代詩の世界を比較します。
第11回	ワークショップ2 単元のまとめ・ワークショップ	現代美術とパフォーマンス1、現代美術とパフォーマンス2、身体とパフォーマンス、音とパフォーマンス、言葉とパフォーマンスの講義内容の確認をします。 ワークショップ・パフォーマンス
第12回	アートのある場所 美術館、国際展、アーティスト・イン・レジデンス、アート（アーティスト）・コレクティヴ、オルタナティブスペース	アートの生まれる場所について、美術館・国際展のような公的な場所、そしてアーティスト・イン・レジデンス、アーティスト・コレクティヴやオルタナティブスペースなど。それぞれの場所とそれに関わる人々について学びます。
第13回	批評/キュレーション 批評、モダンアートとコンテンポラリーアート、キュレーション	キュレーターは学術的な専門知識によって美術資料の収集や保管、展覧会の企画や構成、運営などを担当します。また、作品の理解や価値判断に関する美術批評のあり方について学びます。
第14回	ワークショップ3 単元のまとめ・ワークショップ	美術のある場所、批評/キュレーションの授業内容の確認をします。 ワークショップ・スライス・オブ・ライフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Google sitesで配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くあります。可能であれば企画展、常設展などの展覧会などを多く鑑賞してください。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Google sitesを通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】
山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019年
デイヴィッド・コッティントン（著者）、松井 裕美（翻訳）『現代アート入門』名古屋大学出版会、2020
小崎哲哉『現代アートとは何か』河出書房新社、2018年
『改訂版 西洋・日本美術史の基本 美術検定1・2・3級公式テキスト』美術出版社、2014年
『続 西洋・日本美術史の基本』美術出版社、2016年
『新・アートの裏側を知るキーワード』美術出版社、2022年

【成績評価の方法と基準】
成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。
1.　平常点（50%）
2.　課題とレポート（50%）
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
普段触れることの少ない現代芸術に関する専門的な内容の講義やワークショップになりますので、とてもやりがいがあると思います。ワークショップではスケッチによるプランや写真作品など簡単な実践に取り組みますが、受講される皆さんは例年課題について積極的に取り組まれているようです。楽しく解りやすい授業を心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のためにGoogle classroomを使いますが、履修に関する情報については学習支援システムを併用しますので、よく確認しておいてください。

【その他の重要事項】
受講希望者が1000人を超えた場合、抽選を行います。抽選方法については学習支援システムを通じて連絡しますので、よく確認をしておいてください。
実務経験のある教員による授業
平野真弓はフィリピン・マニラ在住のキュレーター・リサーチャーです。フィリピンを中心に東南アジアの展覧会史やキュレーションにまつわる思想や実践方法を研究しています。実践と研究活動で得た知識と経験を毎回の講義に反映させています。

【Outline (in English)】
Course outline
This course is about contemporary art theory and practice.
Today’s contemporary art world is formed by the complex intersection of state-of-the-art (e.g. art, architecture, music, performing arts, images, poetry,) in various fields.
The context of contemporary art will be interpreted using keywords such as multiculturalism, relationships and communication as keywords.
Learning Objectives
The lecture will also deal with art fields related to contemporary art, and by examining and taking a bird’s-eye view of experimental approaches in various art fields, we will deepen our understanding of those ideas.
It seems unfamiliar to everyone, so check the introductory art history and art theory knowledge. In addition, we will hold workshops (learning sensuously and experientially) between lectures to deepen understanding.

Learning activities outside of the classroom
The content delivered on the Google site contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you. There are also many museums and galleries near the university. If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy
Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports. We emphasize the experimentality and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.
1. Initiatives for classes (50%)
2. Issues and reports (50%)
See rubrics for specific assessment guidelines.
Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.

ARSx200GA（地域研究（その他） / Area studies(Others) 200）

世界とつながる地域の歴史と文化

髙柳　俊男

配当年次／単位：2〜4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：選抜

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、2012年度から夏休みに長野県南部の飯田・下伊那地域で実施している「ＳＪ国内研修」（ＳＪ＝Study Japan）に参加する留学生・ボランティア補助員および希望する一般学生を主対象に、その事前学習用として開講されるものである（留学生必修）。
「ＳＪ国内研修」とは、一般学生のＳＡに相当するもので、地方の中山間地域で見聞・交流・発表等の諸活動を経験することで、留学生にとってのＳＡとも言えるこの日本を、東京からの発想とは別に、地方の視点でも考えうる目を養うことを趣旨としている。
したがって、この授業の目標も、飯田・下伊那地域の歴史・社会・文化・民俗・自然などについて、一通りの前提知識を身につけることで、8泊9日程度の「ＳＪ国内研修」を有意義に送れるようにすることにある。国際文化学部の研修であることに鑑み、とりわけこの地域における国際化や異民族との関係、および文化活動に重点を置きながらみていく。

【到達目標】
授業の進展につれ、南信州の中山間地域である飯田・下伊那にも、東京とはまた異なる歴史・文化・自然があり、固有の国際関係があることが理解できるであろう。最終的には、「ＳＪ国内研修」に際して探求すべき自分なりのテーマをみつけ、夏休み中の自己学習を経て、研修本番につなげられるようにすることが目標である。
「ＳＪ国内研修」に参加せず、単なる一授業として受講することも可能だが、そうした受講者にとっては、飯田・下伊那を例に、日本のなかに存在する多様性や多文化を考える視点を得ることが到達目標となる。そこで得られた視点やアプローチは、日本の他地域を考える際にも有効に機能するであろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
教員による講義が中心だが、受講生に随時発問しながら進める。関連する映像の上映も、適宜織り交ぜる。
特定の地域の細かな事実にとことんこだわるが、それは「個別を極めることを通して普遍に至る」こと、すなわちこの授業のタイトルのように、「飯田・下伊那から日本がみえる、世界とつながる」ことを具体的に知るためである。そのためには最低限、理解すべき事項は理解し、重要な固有名詞（地名、人名など）は覚えることが前提となる。
毎回、授業の最後に、感想や疑問・質問などをリアクションペーパーに書いてもらい、それを次回の授業冒頭で活用するなど、双方向的な授業になるよう心がけたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	本授業と「ＳＪ国内研修」の概要を説明する。受講希望者数によっては、選抜を実施することもあるので、初回の授業に必ず出席すること。
第2回	飯田・下伊那の概況①	飯田・下伊那地域にある1市3町10村について、行政区分、地形、気候、交通、物産などの概況をみていく。天竜川の果たした役割や、愛知県東部・静岡県西部との県境を越えたネットワーク（三遠南信）についても考える。
第3回	飯田・下伊那の概況②	前回に続いて、飯田市の成り立ちを考える。1937年に成立した当初の市域に、1950年代以降、周辺の15の自治体が合併していまの飯田市が形成されていることの意味、言い換えれば飯田市の統一性と多様性を具体的に考察する。
第4回	飯田・下伊那の歴史	飯田・下伊那地域が経てきた歴史の概要を、古代から現代まで通史的に学ぶ。中心的に扱う戦後史部分では、飯田市のアイデンティティの根幹にも関わる飯田大火、りんご並木、三六災害について知る。
第5回	飯田線建設史①	現在のＪＲ飯田線、とくに旧三信鉄道の建設史を、アイヌの測量士カネトや朝鮮人労働者に焦点を当ててみていく。飯田駅前に記念碑が建つ伊原五郎兵衛についても知る。
第6回	飯田線建設史②	前回学んだカネトについて、近年、住民自身により飯田線沿線各地で上演されている合唱劇『カネト』の映像を鑑賞しながら、再度考える。
第7回	満州移民の歴史①	1930年代以降、この地域から多数渡って行った満蒙開拓団や満蒙開拓青少年義勇軍について、その史実と背景を学ぶ。
第8回	満州移民の歴史②	前回学んだ満蒙開拓青少年義勇軍について、そのテーマでつくられたアニメ『蒼い記憶』を鑑賞しながら、再度考える。
第9回	満州移民の歴史③	現在、この地域の人々が、満蒙開拓団の歴史やその結果として生まれたいわゆる中国残留孤児・残留婦人、中国帰国者のことを、どう後世に伝えようとしているかを、阿智村に開館した満蒙開拓平和記念館などを例に探る。また、「残留孤児の父」と称される阿智村の長岳寺住職、山本慈昭についても知る。
第10回	飯田・下伊那の多民族共生の現在	外国人が増え、市として外国人集住都市会議に参加している飯田市における外国人の実態や、国際化・多文化共生の取り組みについて考察する。平岡ダム建設における外国人強制労働の歴史を、後世に正しく伝えようと努める天龍村の姿勢についても、あわせて考察する。
第11回	飯田・下伊那の文化①	人形浄瑠璃や歌舞伎など、この地域に残る各種の伝統民俗芸能や、それを背景とする現在の文化イベントについて知る。とりわけ、飯田市内で活動する黒田人形・今田人形をはじめとする伊那谷４座について、映像で確認する。
第12回	飯田・下伊那の文化②	この地域の特色ある文化活動として、通巻1000号超の歴史を誇る郷土雑誌『伊那』の刊行や、活発な公民館活動について知る。あわせて、写真や童画で庶民の生活を記録してきた阿智村の熊谷元一についてもみていく。
第13回	飯田・下伊那の文化③	この地域ゆかりの文化人のうち、法政大学で学んだり教えたりした経験をもつ椋鳩十・西尾実・森田草平の３人について、自校教育の観点も含めて取り上げる。
第14回	まちづくりや自然との共生	早くからグリーンツーリズム、エコツーリズム、都市農村交流などを唱え、実践してきた飯田市の取り組みについて知る。山村留学がこの地域に果たしている役割や、1970年に廃村となった大平宿の保存活用運動についても探る。地域おこし協力隊など、若者による地域活性化の活動にも触れる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回配付するプリントに、「自習課題」を載せる。同じ内容は、ネット上の学習支援システムにも掲載する。これは自習であって、必ずしも提出義務はないが、提出すれば、就職活動などによる欠席を補う参考資料として加味する。可能な限りチャレンジして、学んだことをより深く考察し、定着させることを推奨する（提出期限：ネットへのアップから２週間後）。
従来は授業期間中に、この授業と関連した学部イベントを実施してきたが、コロナ期に中断して今に至っている。今年度は、状況を見ながら実施するかどうか考えたい。
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用せず、学習内容に即したプリントを毎回、Ａ３で表裏１枚程度配付する。各回のプリントはファイルないし合冊にしておいて、実際の研修の場にも持参して活用すること。
かつては留学生の自習用として、しんきん南信州地域研究所『いいだ・南信州 大好き』（2010年）を当方で人数分用意して各人に差し上げていたが、絶版で入手が難しくなっている。資料室に複数冊あるので、そちらで適宜利用してほしい。

【参考書】
　授業の中で適宜指示する。それらの大半は、ＢＴ20階の国際文化学部資料室および書庫に配架された「飯田・下伊那文庫」（書籍2,000冊以上、映像ＤＶＤ約350点所蔵）に収められている。飯田市以外ではこれだけ揃った場所は無いともいわれるこれら関連資料を、ぜひ大いに活用してほしい。

【成績評価の方法と基準】
　毎回提出するリアクションペーパーに反映された授業に取り組む姿勢40％、途中での中間課題20％、学期末のレポート40％を目安とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
　ＳＪ国内研修に参加せず、１つの授業として受ける人には、「一地域のことをなんでこんなに細かく学ぶのか？」という疑問があるかもしれない。ただし、特定の一地域へのアプローチの仕方や、「個別を極めることを通して普遍に至る」という学び方は、他の分野にも幅広く応用が利くであろうと思われる。
　それに関連して、昨年度の授業改善アンケートに、以下のような自由記述があったことを紹介しておきたい。
「留学生向けの授業ではあるが、日本人学生こそ本授業を履修すべきだと、一日本人学生として感じた。自分の住んでいる国に、どんな地域があるのか、どんな歴史があるのか、改めて学ぶべきだと考えさせられたことが何度もあった。また、南信州の地域の歴史や文化を深く知る中で、歴史の教科書やテレビにおける「真実」「事実」とは何か、改めて考えさせられた。
教授自身の実体験も授業の中で多数紹介されるため、全体的に非常に興味深い授業であった。」

【学生が準備すべき機器他】
　上述のように、学習支援システムをもう一つの教室として活用する。新型コロナやインフルエンザの感染状況等により、対面授業が難しい場合はzoomを使用する。

【その他の重要事項】
　「ＳＪ国内研修」に参加する人は、どのような形であれ、この事前学習授業の履修が前提条件になる。研修の参加経費や単位の有無は、参加資格によって異なるので、詳細は「履修の手引き」の該当頁を参照のこと。
　ＳＪの実施時期は9月上～中旬で、出発前最終ミーティングを例年、春学期試験期間終了翌日に実施している。ボランティア補助員や一般参加者も含めた募集は、7月初旬から開始する。

【選抜の有無】
　留学生、およびＳＪ参加への強い意欲を有する一般学生を優先し、教室の収容人員を超えた場合は初回授業で選抜を行なうことがある。

【Outline (in English)】
This course is primarily designed for students who participate in the SJ(Study Japan) program in summer session. Therefore this class aims to gain a basic understanding of history, culture, and ethnic issues of South Nagano, where the SJ program is implemented.
Students who will not participate in the SJ program are also able to take this class. For those students, the goal is to develop an eye for perceiving Japan from multiple perspectives.
Self-study assignments will be given in the handouts distributed in each class. Please try each time if possible to deepen what you have learned.
Final grade will be calculated according to the following process. Reaction papers for each class 40%, mid-semester report 20%, and term-end report 40%.

HUMc200GA

北米文化論（ケベック講座）

廣松　勲

配当年次／単位：1〜4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ア〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、ケベック州政府の寄付講座である。
本授業は、北米のフランス語圏の一つである「カナダのケベック州」をフィールドとして、オムニバス形式で、各分野の専門家や招聘作家・研究者が担当する授業である。言語・文化・歴史・社会・政治といった包括的な側面から、現代のケベック社会を学ぶことによって、一つの地域において複数の価値観（言語、文化、歴史、政治、経済、社会など）が共生する方法を解説・検討することを主たる目的とする。
なお、具体的な授業内容や講演者については、初回授業において改めて通知するため、以下の「授業計画」は予定であることをご理解いただきたい。

【到達目標】
本授業の到達目標は、以下の通りである。
①フランス語圏の一例として、ケベック州の社会文化的状況を概説できる。
②多文化・多言語共生の一例として、ケベック州の社会文化的状況を概説できる。
③一つのフィールドを複数の観点から理解するという方法を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
オムニバス形式の授業によって、できるだけ包括的に「現代のケベック社会」に関する紹介・説明・分析を行う。
具体的な授業の進め方は、以下の通りである。最初と最後の数回の授業（3回程度）では、一人の教科担当者が「導入」や「総括」などを行う。それ以外の授業（11回程度）については、各分野の専門家の先生方などが授業を行うことになる。その内、少なくとも一度は、ケベック州からの招聘研究者による授業内の講演会を実施する（通訳付き）。
なお、毎回授業ではコメントシートを作成・提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	・イントロダクション：フランコフォニーとは何か？	・授業の進め方や最終課題について説明 ・フランス語圏（フランコフォニー）の歴史・社会・言語状況などについて概説
第2回	ケベック州の歴史① ・北米大陸のフランス語圏（フランコフォニー）の広がり ・ケベック州とはどのような地域なのか？	・ケベック州の歴史に注目しつつ、社会状況を概説する
第3回	ケベック州の歴史②	・ケベック州の歴史をより詳しく学ぶ
第4回	ケベック州の地理	・ケベック州の地理を学ぶ
第5回	授業内の講演会	・ケベック州の政治・歴状況を当事者から学ぶ
第6回	ケベック州の言語	・ケベック州の言語状況を包括的に学ぶ
第7回	ケベック州の政治①	・ケベック州の政治状況を具体例に基づいて学ぶ。
第8回	ケベック州の政治②	・ケベック州の政治状況を理論的に学ぶ。
第9回	ケベック州の社会問題①	・ケベック州の社会問題を具体例に基づいて学ぶ（主権獲得を巡る問題など）。
第10回	ケベック州の社会問題②	・ケベック州の社会問題を具体例に基づいて学ぶ（移民や宗教に関わる問題など）。
第11回	ケベック州の文化①	・ケベック州の文化を具体例に基づいて学ぶ（舞台芸術など）。
第12回	ケベック州の文化②	・ケベック州の文化を具体例に基づいて学ぶ（文学・映画など）。
第13回	ケベック州の文化③	・ケベック州の文化を具体例に基づいて学ぶ（音楽・ダンスなど）。
第14回	総括	・本授業の全体のまとめ ・映像資料などを用いて、現代ケベック州の社会を知る。 ・期末レポートの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎回の授業をより深く理解するために、日頃からできるだけ広く・複合的な視点からケベック州（やカナダ）に関する情報を集めてほしい。
・期末レポート執筆のために、配布資料についても熟読してほしい。本授業の準備学習・復習時間は合計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・テキストは指定しない。各授業において資料などを配布する。

【参考書】
・各分野の参考書は、各授業において提示する。
・全体的な導入となる書籍としては、以下がある。
小畑精和・竹中豊編著『ケベックを知るための56章【第2版】』エリアスタディーズ・72巻，明石書店，2023年.

【成績評価の方法と基準】
・平常点と期末レポートに基づき、総合的に評価する。
①平常点（コメントシートなど）：40％
②期末レポート：60％
・期末レポートでは、本授業で扱われたいずれかの専門分野・側面を参照しつつ、自ら選択したテーマについて論じてもらう。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
・14回という少ない回数だが、授業内容について、可能な限り多様になるよう心がける。
・質疑応答の時間を、可能な限り長く設けるようにする。

【その他の重要事項】
・第一回授業において、各授業の担当者・内容などを記載した資料を配布するため、必ず出席してほしいです。
・毎年度秋学期に開講予定の授業ですが、ケベック州政府寄付講座であるため、事情によって「閉講」となる年度もありえます。

【Outline (in English)】
This course introduces the key themes for a deeper understanding of the socio-cultural situation of the province of Québec (Canada). In 14 courses, we will deal with a variety of themes or problematics of the contemporary Québec (politics, social problems, economics, music, cinema, literature, etc). Each course will be given by the specialists of each research domain.
The goals of this course are to understand and explain the socio-cultural situation of Quebec. Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours reading the relevant documents. Your overall grade in the class will be decided based on the following: In-class contributions (discussion, reaction paper, etc): 40%, term-end report: 60%.

ARSa200GA（地域研究（ヨーロッパ）/ Area studies(Europe) 200）

フランス語圏の文化Ⅳ（複言語・複文化社会）

廣松　勲

配当年次／単位：1〜4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：隔年開講　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ア〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界5大陸に広がるフランス語圏（フランコフォニー）社会を「複言語・複文化社会」と捉えた上で、それぞれの社会において複数の言語文化が、どのように共存しているのか、またはどのように軋轢が解消されているのかを論じる。
具体的には、カリブ海域諸島、カナダのケベック州、北アフリカ・マグレブ、サハラ以南アフリカ、フランス語圏ヨーロッパなどにおける言語・社会状況を解説することで、フランス語圏社会の普遍性と差異を提示する。

【到達目標】
(1) フランス語圏社会が複言語・複文化が共存する社会であることを具体的に知ること。
(2) 言及する各社会において、言語・文化の多様性がどのようにして維持されているのかを知ること。
(3) 言及する各社会において、「現地言語・文化」と「フランス語・文化」とが、どのような関係にあるのかを述べられるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
日本語で行われる講義形式の授業である。フランス語の予備知識は特に必要としない。
2〜3コマごとに言及する地域を変更しながら、それぞれの地域特性（歴史・政治・社会・言語状況など）を解説する。紙媒体の配布資料の他に、映画や音楽も参照しながら、具体的に各地域のフランス系文化について説明を行う。
毎回の授業においてコメントシートを執筆・提出してもらい、できるだけ次回以降の授業に反映させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・授業の概要や評価の説明 ・「フランス語圏（フランコフォニー）」とは、いかなる概念なのか？ ・具体的なフランス語圏地域の解説
2	Ⅰ．カリブ海域諸島①	・カリブ海域諸島の歴史、社会および言語状況の説明 【マルチニック島】 ・フランス語とクレオール語の関係
3	Ⅰ．カリブ海域諸島②	【グアドループ島】 ・クレオール語の地位復権運動
4	Ⅰ．カリブ海域諸島③	【クレオール文学運動】 ・クレオール語表現文学の可能性 ・その他の島々とのつながり
5	Ⅱ．カナダ・ケベック州①	・北米大陸の歴史、社会および言語状況の説明 【ケベック】フランス系カナダ人からケベック人へ ・フランスのフランス語とケベックのフランス語の関係
6	Ⅱ．カナダ・ケベック州②	【ケベック】：インターカルチャーとトランスカルチャー ・母語とフランス語の関係
7	Ⅱ．カナダ・ケベック州③	【移動するエクリチュール】 ・その他の北米フランス語圏とのつながり
8	Ⅲ．マグレブ（北アフリカ諸国）①	・マグレブの歴史、社会および言語状況の説明 【アルジェリア】 ・アラビア語、ベルベル語、フランス語の関係
9	Ⅲ．マグレブ（北アフリカ諸国）②	【モロッコ】 ・アラビア語、ベルベル語、フランス語の関係
10	Ⅲ．マグレブ（北アフリカ諸国）③	【チュニジア】 ・アラビア語、ベルベル語、フランス語の関係
11	Ⅳ．サハラ以南のアフリカ①	・サハラ以南のアフリカの歴史、社会および言語状況の説明 【セネガル】 ・アフリカ諸語とフランス語との関係
12	Ⅳ．サハラ以南のアフリカ②	【ルワンダ、コンゴ民主共和国】 ・アフリカ諸語とフランス語との関係
13	Ⅴ．ヨーロッパのフランス語圏①	・ヨーロッパのフランス語圏の歴史、社会および言語状況の説明 【ベルギー】 ・フランス語、フラマン語、ドイツ語の関係
14	Ⅴ．ヨーロッパのフランス語圏② 総括	【スイス】 ・フランス語、ドイツ語、イタリア語、ロマンシュ語の関係 【総括】 全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
期末レポート作成のためでもあるが、日頃から文学・映画・音楽・言語政策など、できるだけ多くフランス語圏の情報を収集すること。
授業で言及・提示する資料の邦訳（可能であれば原典）などにも当たり、できるだけ理解を深めること。
本授業の準備学習・復習時間は合計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・特になし。
・毎回、関連資料を配布する。

【参考書】
授業内容の理解やレポート作成の際に参考となる書籍や図書館の蔵書を、以下に挙げる。希望者には、さらに詳しく参考書などを提示する。
・鳥羽美鈴著,『多様性の中のフランス語：フランコフォニーについて考える』関西学院大学出版会，2012年.
・平野千香子著,『フランス植民地主義の歴史』人文書院，2002年.
・中村隆之著,『カリブ－世界論』人文書院，2013年.
・小畑精和著,『ケベック文学研究』御茶の水書房，2003年.
・明治大学中央図書館所蔵の「ケベック文庫」
・鵜戸聡著,「アラブ・フランコフォニーと越境の文学」『反響する文学』（土屋勝彦編，名古屋市立大学『人間文化研究叢書』創刊号），風媒社，2011年.
・梶茂樹・砂野幸稔編著,『アフリカのことばと社会：多言語状況を生きるということ』三元社，2009年.
・岩本和子著,『周縁の文学：ベルギーのフランス語文学にみるナショナリズムの変遷』松籟社，2007年.
・法政大学多摩図書館所蔵の「スイスロマンド文学コレクション」

【成績評価の方法と基準】
・評価配分は、以下の通り
①平常点（コメントシートなど）：30％
②期末レポート：70％
・評価は、主に平常点と期末レポートによって行う。レポート作成については、各自がいずれかの地域（または国）における資料や作品を一つ選んだ上で、複数の言語や文化がどのような方策によって共存しているのかを論じてもらう。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
配布資料に基づいた説明が緩慢にならないように、できる限り映像・音声資料なども盛り込むことでメリハリをつけるようにする。

【その他の重要事項】
フランス語の知識は前提としません。

【Outline (in English)】
This course aims to enhance understanding of the situation of the French-speaking world (la francophonie) in focusing on the social problems concerned with French language. For this purpose, we will learn from a global perspective about the history and social situation of each countries or regions around the world.
The goals of this course are to understanding and explaining the socio-cultural situation of each French speaking regions.
Before and after each class meeting,students will be expected to spend four hours to read the relevant documents.
Your overall grade in the class will be decided based on th folloing:
in class contributions: 30%, term-end reports: 70%.

POL200GA（政治学 / Politics 200）

国際関係研究Ⅰ

松本　悟

配当年次／単位：1〜4年／2単位
旧科目名：国際関係研究Ⅰ（アクターに着目した理論の捉え方）
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：毎年開講　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業ではアクター（行為の主体）に着目して「国際関係」を学ぶ。「国際関係」を国家の関係のみで語ることは困難であり、特にＮＧＯや企業などの民間アクターの存在は重要である。本授業ではそのために必要な理論を習得するとともに、それを通して国際社会の諸問題を多角的に分析する力を養う。

【到達目標】
（1）授業で扱う非国家アクターが「国際関係」にどのような影響を及ぼしているかを説明できる。
（2）「国際関係」に関わる事件や問題が生じたとき、理論的に現象を説明することができる。
（3）関連する文献の趣旨を正しく読み取ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
■基本方針：対面で実施する。学内業務の関係で、オンデマンドを使用することもある。
■フィードバック：講義への質問は、学習支援システムの掲示板に質疑応答コーナーを設けて、そこでやり取りする。
■授業内討論：毎回グループ討議・発表を行い、教員がフィードバックする。また、数回は演習型の授業を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	国際関係研究の概要及び本授業の狙いと全体像を講義する。
2	理論とは何か	国際問題を考える際に無意識に使っている「理論」を自覚する。
3	リアリズム	具体例を通して国際関係の基本的パラダイムであるリアリズムを理解する。
4	リベラリズム	具体例を通して国際関係の基本的パラダイムであるリベラリズムを理解する。
5	コンストラクティヴィズムとマルキシズム	具体例を通して国際関係の基本的パラダイム（アプローチ）であるコンストラクティヴィズムとマルキシズムを理解する。
6	演習	ここまで学んだ4つのパラダイムを使って、国際社会の具体的な問題を複数の角度から分析する演習を行う。
7	ＮＧＯとは何か	ＮＧＯの定義、歴史、特徴などについて学ぶ。
8	規範起業家としてのＮＧＯ	国際社会におけるＮＧＯの役割として重視されている規範起業家について具体的な事例に基づいて考える。
9	国家補完と脱国家	ＮＧＯは国家を補完しているのか、国家を「脱している」（trans）のか、国際人道支援を通して考える。
10	ガバメンタリティ	国家に操られずにＮＧＯが国家に影響を与えることは可能なのか、具体例を通して考える。
11	民間助成団体	世界中のＮＧＯ活動に資金を提供する民間の助成団体の機能を国際関係学の枠組みで考えてみる。
12	民間企業と国際関係	民間企業が国際社会に及ぼしている影響について具体例を通じて考える。
13	ビジネスと人権	私的企業は何をしてもいいのか、「国連ビジネスと人権に関する指導原則」を例に考える。
14	まとめ（プライベートレジーム）	「非国家アクターが作る国際関係と責任の所在」という視点から授業全体を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
【期末レポートの課題として使う】松本悟・大芝亮編（2013）『NGOから見た世界銀行―市民社会と国際機構のはざま―』ミネルヴァ書房。

【参考書】
毛利聡子（2011）『NGOから見る国際関係：グローバル市民社会への視座』法律文化社。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業内討論への参加度）20%、授業後課題30%、期末レポート50%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
・特になし。

【その他の重要事項】
・長年ＮＧＯとして国際開発の分野に携わってきた教員が、経験に基づくＮＧＯの現状を交えて講義する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course focuses on "actors" in global society, which are not only nation-states but also NGOs and private companies. It enables students to analyze the global issues from various perspectives and to recognize the significance of "actor-oriented" and theoretical approach in international studies.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1) explaining the influences exerted by non-state actors in "international relations".
2) explaining the incidents or problems relevant to "international relations" from theoretical viewpoints.
3) being able to read the relevant literatures critically and analytically.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content or to write a short essay on a given topic.
【Grading Criteria /Policy】
Grading will be decided based on a short essay at each class meeting (50%) and a term-end report (50%).

ARSf200GA（地域研究（東南アジア） / Area studies(Southeast Asia) 200）

国際関係研究 II

松本　悟

配当年次／単位：1〜4年／2単位
旧科目名：国際関係研究 II（メコン流域国の開発と環境（社会と自然））
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：毎年開講　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では東南アジア半島部のメコン地域／メコン河流域国／大メコン圏という「地域」に着目して「国際関係」を学ぶ。「開発」をテーマにし、特にその社会的・環境的側面を多角的に見る視点を養う。

【到達目標】
（1）「地域研究」の視点からメコン河流域の自然環境やそれに依拠する社会について学び、日本とは異なる生活様式や社会への理解を深める。
（2）メコン河流域の環境・社会問題と日本との関係について学ぶ。
（3）演習型（ゼミ形式）の反転学習を通して、国際関係研究としての「地域」を分析するための多角的な視点を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
■基本方針：対面で実施する。学内業務の関係でオンデマンドを使用することもある。
■発表とグループ討議：演習スタイルで授業を運営する。履修者は最低1回は発表を担当する。第3回授業以降は、課題文献を読んできていることを前提にした発表とグループ討議及び教員の補足授業という構成で行う。大学2年生でも理解できる文献の講読、発表、グループ討議といったアカデミックスキルを高めることを目的としている。詳細は第1回授業で説明する。
■発表担当者：2人1組となって担当する。事前にレジュメを準備し共同で発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本授業の狙い、進め方を説明する。グループと発表者を決める。
2	「地域」とは何か（メコン全体）	メコン地域、メコン河流域国、大メコン圏などの用語をもとに、国際文化学部で学ぶ「地域」の射程について考える。
3	越境環境問題（中国、ラオス、タイ）	国を越える環境問題をどう考えるのか、因果関係やレジーム論などを参照軸に議論する。
4	小さな村から見えるもの（ラオス、タイ）	ラオスの小さな村の30年間の歩みから「開発と環境」を捉えるマクロな視点とミクロな視点について議論する。
5	森林「減少」と森林「破壊」（メコン全体）	環境問題が抱える広義の政治性について、ポリティカルエコロジーの視点を参照軸に議論する。
6	影響予測の人文学（タイ、ラオス）	開発の社会・環境影響を調査すればいいという問題解決策について、国際文化や地域研究の視点から議論する。
7	資金から見た人権・環境問題（ミャンマー）	環境破壊や人権侵害につながりやすい開発を進める資金源について議論する。
8	財と資源（カンボジア）	カンボジアのトンレサップ湖の漁業を事例に、財として見た魚について議論する。
9	洪水と水害（カンボジア、ベトナム）	メコンデルタの洪水を事例に、「水が溢れる」という現象について、国際文化の視点から議論する。
10	人身取引（タイ、ミャンマー）	不法滞在者への人権侵害を通じて、法律では解決できない問題を国際文化の視点から議論する。
11	境界（メコン全体）	メコン地域の呼び方は、政治的な背景によって異なる。何かに境界線を引くことの意味と危うさを議論する。
12	重複の機能（メコン全体）	メコン地域を含む国際協力の枠組みは複数存在し、一見すると重複している。そこから重複することの働きについて国際文化の視点から議論する。
13	歴史から考えるメコン開発（メコン全体）	ここまで取り上げた事例を解釈学、系譜学、考古学の視点から振り返り、歴史「から」ではなく歴史「を」学ぶ意義について議論する。
14	開発と責任（メコン全体）	開発が環境破壊や人権侵害に繋がる時、その「責任」を問いたくなるが、責任とは何だろうか。この授業全体を「責任」から問い直し議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表担当にあたっていない場合でも、必ず課題文献は読んできて下さい。比較的短い日本語で書かれた文章です。本授業の準備学習・復習時間は各1-2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
授業の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点20%、発表20%、グループ討議への貢献度20%、期末レポート40%。期末レポートでは、授業で取り上げた概念、理論、事象を繋げて論理的な文章を書くことを求めます。レポートの狙いや書き方は、授業の中で丁寧に説明します。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
履修者の感想は、後日学習支援システムに掲載します。受講前は、課題文献や発表を恐れていた学生もいましたが、実際にやってみると、読みやすい文献で、発表もいい経験になったという声がほとんどです。一方的に話をする講義ではないので、演習（ゼミ）に近い、大学生らしい学びができたという意見も多いです。どんな文献を読むのかは、履修を検討する際に、学習支援システムを通じて共有しますので、あまり心配はいりません。

【学生が準備すべき機器他】
課題文献を入手するために、授業コードを使って必ず学習支援システム（Hoppii）に自己登録して下さい。

【その他の重要事項】
■第1回授業授業後に発表担当者とグループを決めるので、履修を検討している学生は必ず第1回授業に出席して下さい。どうしても出席できない場合は、事前に履修の意思を担当教員にメールで連絡して下さい（smatsumoto[アットマーク]hosei.ac.jp）。
■学部や学年を超えて演習スタイルの授業を行うので、通常の講義形式の授業や、演習（ゼミ）とも異なる学びがあります。
■メコン河流域国で30年以上にわたってNGO活動に従事してきた実務家教員が、その活動経験を事例や余談に組み込みながら授業を進めます。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course focuses on "Mekong region" or "Mekong basin countries" or "Greater Mekong Subregion" of the mainland Southeast Asia and covers "development," in particular its social and environmental aspects in order to learn the multidisciplinary approach.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1) taking reflective views of area studies, in particular implications of society-natural environment nexus in the Mekong region.
2) explaining the relations between the social environmental issues in the Mekong region and Japan.
3) understanding multi-disciplinary approach for analyzing "area" through flipped classroom method.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content or to write a short essay on a given topic.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following: presentation: 10%, group discussion: 20%, in-class contribution: 30%, term-end report : 40%.

SOS200GA（その他の社会科学 / Social science 200）

実践国際協力

松本　悟

配当年次／単位：1〜4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学教育で「実践」から学ぶことには2つの意義があると考える。1つは体系立った学習の応用として、もう1つは新たに学習すべき領域を見つけるためである。この授業では後者を主たる目的とする。テーマは「国際開発協力」を中心的に取り上げる。国際開発協力の実践例を通して、国際社会の理解につながる思いもよらぬ学問分野の大切さを発見し、更なる学習と探究の端緒となるようにする。

【到達目標】
（1）国際開発協力の理解に必要な概念や用語を理解し説明できるようになる。
（2）国際開発協力の実践課題を抽象化し他に応用できるようになる。
（3）実践的な学習におけるグループ討議の意義を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
■基本方針：対面で実施する。学内業務の関係でオンデマンドを使用することもある。
■フィードバック：毎回の発表に対しては授業内にコメントする。また授業への質問は、学習支援システムの掲示板に質疑応答コーナーを設けて、そこでやり取りする。
■授業の方法：具体的な国際開発協力のケース（事例）をもとにグループ討議を行う「ケースメソッド」を準用する。ケース文書は毎回事前課題の宿題として課す。①受講者をグループに分けての討議、②グループ発表を含む全クラス討議、③担当教員によるコメント・補足講義、の3つの要素を組み入れる。なお、本授業のケースメソッドはビジネススクールなどで使われる問題解決の手法としてではなく、視点の抽出方法として活用する。
■授業後課題：毎回の課題文献と授業をもとに短く書く。授業後3日以内に学習支援システムに投稿。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業のねらい、ケースメソッド、各ケースの特徴、グループ分け。履修者人数の確認。
2	国際開発協力概論	国際開発協力がどのような組織によって、いかなる分野で行われているかを概観する。
3	ケース1　保健衛生プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
4	ケース1を受けたグループ発表・討議	ケース1に関するグループ発表、その後全体討議。
5	ケース2　少数民族プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
6	ケース2を受けたグループ発表・討議	ケース2に関するグループ発表、その後全体討議。
7	ケース3　参加型開発プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
8	ケース3を受けたグループ発表・討議	ケース3に関するグループ討議、その後全体討議。
9	ケース4　緊急援助プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
10	ケース4を受けたグループ発表・討議	ケース4に関するグループ発表、その後全体討議。
11	事前事業評価表を読み解く	開発援助事業の事前事業評価をその場で読んで疑問点をあげ、その妥当性をグループで討議する。
12	事前調査報告書を読み解く	開発援助事業の事前調査報告書を事前に読み、そこから導かれる実務的に重要な点をグループで討議する。
13	実際のケースから	担当教員もしくは外部のゲストの実体験をもとに、実践上の課題を議論する。
14	授業内試験	13回の授業をもとにした授業内試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
全員、授業前にケース（事例）文章を必ず「精読」して来なければならない。「精読」とは、わからない用語を自分で調べ、事実関係を理解できるように読むことを指す。あらかじめ何に留意して読むかは教員が指示する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
山口しのぶ・毛利勝彦編（2011）『ケースで学ぶ国際開発』東信堂。

【参考書】
W.エレット（2010）『入門ケース・メソッド学習法』ダイヤモンド社。
その他、授業の中で示す。必要に応じてコピーを配布する。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業後課題20%、事前課題文献に基づいたグループ討議への参加度40%、授業内試験40%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。なお、授業内試験は紙媒体のものは全て持ち込み可。

【学生の意見等からの気づき】
・100分では討議と発表が終わらないという声が多いので、初めのうちは、1つのケースに授業2回分を充てる。
・教員から指定される分析をグループ討議で行い、その結果を発表した上で、全体でも討論をするのには100分間は非常に短いという声が多い。その一方で、短時間で深い議論を行い、一定の結論をグループで出す訓練の場になるという意見も聞かれる。そうした力を大学時代に養いたい学生にはお勧めの授業と言えそうである。

【学生が準備すべき機器他】
授業コードを使って必ず授業支援システムに自己登録すること。課題文献の提示や課題の提出に学習支援システム（Hoppii）を使う。

【その他の重要事項】
■国際開発協力NGOでの実務経験を有する教員が、自らが関わった具体的な開発事例も議論のためのケースとして取り上げる。
■グループ討議を軸とする授業であり、遅刻や欠席はグループ討議を困難にするため、なるべく出席すること。
■グループは第3回授業から事前に固定して作る。グループ替えは2-3回行う。第1回授業に出席できないものの履修を希望する学生は、必ず第2回授業日前日までに履修の意思を担当教員までメールで連絡すること（smatsumoto[アットマーク]hosei.ac.jp）。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course aims to motivate students to find out specific topics or fields which they want to study more to understand international development cooperation. The Case Method is applied for this course.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1) Understanding the key concepts and the technical terms relevant to international development cooperation.
2) Turning abstract the lessons learned from the case method discussion and applying it for other cases.
3) Understanding benefits and usefulness of the group discussion in practical learning.
【Learning activities outside of classroom】
-Students will be expected to have read and analyze the assigned case documents based on the instruction before each class meeting.
-Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.
-Totally, your study time will be at least four hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination: 40%, assignments after a class meeting: 20%, in-class contribution: 40%.

CUA400GA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 400）

言語文化演習

佐々木　直美

サブタイトル：世界遺産に学ぶ
配当年次／単位：3〜4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講　｜　開講セメスター：春学期・秋学期/Spring・Fall
人数制限・選抜・抽選：選抜
備考（履修条件等）：単位数は、春学期 2 単位／秋学期 2 単位である。https://gakububbs.hosei.ac.jp/wp-content/uploads/FIC2026SeminarList.pdf

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
みなさんは旅行先やTVなどで目にする世界遺産の絶景や不思議に感動したり、憧れたりした経験があることでしょう。しかし、多くの世界遺産は環境問題や貧困問題、宗教問題など様々な現代の問題を反映し、直接それらの影響を受けています。このゼミでは、各人の関心に従って世界遺産とそれにまつわる様々な問題を掘り下げて研究します。単に世界遺産に関する知識を増やすことは、このゼミの目的ではありません。真の目的は、世界遺産の意義である「平和」について考え・行動することを学ぶことです。

【到達目標】
①世界遺産の意義を理解し、世界遺産検定2級以上の知識を修得する。。
②世界が抱える諸問題を認識し、それらについて自分の意見を述べたり、グループで議論を展開させる力を養う。
③資料収集と文献・資料の分析を通じて、研究発表や論文執筆を行う。
④世界遺産を通して、持続可能な地球の未来に向けた行動を習慣化するようになる。
⑤グループワークを通じて、他者とともに課題に取り組む協同性を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
　この授業は演習です。課題文献の輪講と討論に加えて状況が許せばフィールドワークへ出ることもあります。
　また、毎年秋学期に開催される国際文化情報学会にむけて、合宿形式のフィールドワークや資料作りなど積極的なゼミへの参加と協力が必須です。
　サブゼミの時間を使って世界遺産検定２級の自習学習や学会発表準備を行うため、サブゼミにも参加することが前提です。
教室で行う対面授業を基本とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション1	昨年度の振り返り。 今年度の研究テーマについて議論する。
2	・世界遺産の基礎（日本） ・	世界遺産検定2級テキストに沿って、基礎知識を学ぶ。 グループに分かれて、取りあげる世界遺産・フィールドワークのテーマや場所について議論する。
3	世界遺産の基礎（ヨーロッパ1）	世界遺産検定2級テキストに沿って、基礎知識を学ぶ。 グループに分かれて、取りあげる世界遺産について議論する。
4	世界遺産の基礎（ヨーロッパ2） 今年度の研究テーマ選定会	世界遺産検定2級テキストに沿って、基礎知識を学ぶ。 グループワークの成果をプレゼンテーションする。
5	世界遺産の基礎（ヨーロッパ３）	世界遺産検定2級テキストに沿って、基礎知識を学ぶ。
6	世界遺産の基礎（アフリカ1） 記憶と遺産	世界遺産検定2級テキストに沿って、基礎知識を学ぶ。 ・課題図書『ナガサキ　核戦争後の人生』1-3章の輪講と討論
7	世界遺産の基礎（アフリカ2） 記憶と遺産	世界遺産検定2級テキストに沿って、基礎知識を学ぶ。 ・課題図書『ナガサキ　核戦争後の人生』4-6章の輪講と討論
8	世界遺産の基礎（アメリカ大陸１） 記憶と遺産	世界遺産検定2級テキストに沿って、基礎知識を学ぶ。 ・課題図書『ナガサキ　核戦争後の人生』7-9章 輪講と討論
9	世界遺産の基礎（アメリカ大陸２） 記憶と遺産	世界遺産検定2級テキストに沿って、基礎知識を学ぶ。 ・課題図書『長崎原爆記』1-3章の輪講と討論
10	世界遺産の基礎（アメリカ大陸3） 記憶と遺産	世界遺産検定2級テキストに沿って、基礎知識を学ぶ。 ・課題図書『長崎原爆記』4-6章の輪講と討論
11	世界遺産の基礎（アジア1） 記憶と遺産	・世界遺産基礎知識の学習 ・課題図書輪講『長崎原爆記』7章-最後の輪講と討論 ・フィールドワークの準備
12	世界遺産の基礎（アジア2） 今年度の研究テーマ	・世界遺産基礎知識の学習 ・今年度の研究テーマに沿った参考文献の輪講　（基礎） ・フィールドワークの準備
13	世界遺産の基礎（アジア3） 今年度の研究テーマ	・世界遺産基礎知識の学習 ・今年度の研究テーマに沿った参考文献の輪講 （基礎） ・フィールドワークの準備
14	まとめ	・課題図書輪講と討論 ・今年度の研究テーマに沿った参考文献の輪講 （発展） ・フィールドワークの準備
1	オリエンテーション	春学期に学んだことの復習と輪講準備、学会発表についての方針と内容の策定。
2	フィールドワーク報告会	フィールドワークの成果を全員で共有しながら討論する。 学会準備
3	グループ・ワーク（１）	学会発表にむけた資料収集。 課題資料の輪講と討論
4	グループ・ワーク（２）	学会発表にむけた資料分析。 課題資料の輪講と討論
5	グループ・ワーク（３）	学会発表にむけたグループ討論。 課題資料の輪講と討論
6	グループ・ワーク（４）	学会発表資料全体での討論。 課題資料の輪講と討論

7	グループ・ワーク（5）	学会発表資料の作成。
8	グループ・ワーク（6）	学会発表資料の全体確認。
9	グループ・ワーク（7）	学会発表リハーサル1 学会発表の最終調整
10	学会発表リハーサル	学会発表リハーサル2
11	文献講読1 世界遺産検定対策	・今年度の研究テーマに沿った参考文献の輪講 アジアの遺産
12	文献講読2 世界遺産検定対策	・今年度の研究テーマに沿った参考文献の輪講 ヨーロッパの遺産
13	文献講読3 世界遺産検定対策	・今年度の研究テーマに沿った参考文献の輪講 アメリカ大陸の遺産
14	世界遺産検定対策 総括	アフリカ大陸の遺産とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・課題テキスト、参考文献を指定された期日までに読み、疑問点や意見をまとめる。
・本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
スーザン・サザード (著), 宇治川 康江 (翻訳)『ナガサキ』みすず書房、2019年。
秋月辰一郎『長崎原爆記―被爆医師の証言 (平和文庫)』 2010年。
NPO法人世界遺産アカデミー『世界遺産検定公式ガイド300＜第5版＞』毎日コミュニケーションズ、2023年。

授業内で受講生たちとともに今年度の研究テーマを決定したのちに、適宜授業内で指示します。

【参考書】
高瀬毅『ナガサキ　消えたもう一つの「原爆ドーム」』文藝春秋、2013年。
木曽功『世界遺産ビジネス』小学館新書、2015年。
佐滝剛弘『＜世界遺産＞の真実：過剰な期待、大いなる誤解』祥伝社新書、2010年。
NPO法人世界遺産アカデミー監修『すべてがわかる世界遺産大事典＜上＞＜中＞＜下＞ 世界遺産検定1級公式テキスト』世界遺産検定事務局、2024年3月刊行。
その他、適宜授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
ゼミへの貢献度（積極的な議論への参加・問題提起）と課題などの平常点（50％）と期末レポート（50%）を総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】
受講生と相談しながら内容を柔軟に対応させます。授業についての希望や提案は、授業期間に遠慮無く教員に伝えてください。

【学生が準備すべき機器他】
　学習支援システムを活用した、資料配付を行いますので、パソコンは必ず必要です。

【その他の重要事項】
希望者は『世界遺産検定』（NPO法人世界遺産アカデミー主催）の２級取得に向けて先輩ゼミ生たちと共に受検対策をサポートします。
春学期・秋学期合わせての履修を強く推奨します。
授業の内容は、受講生と相談しながら柔軟に対応します。変更がある場合はあらかじめ学習支援システムやメールを通じて告知しますので、こまめに連絡をチェックしてください。

【Outline (in English)】
Many World Heritage Sites are influenced directly by reflecting various contemporary problems such as environmental problems, poverty problems, and religious problems etc.　In this seminar, we will study about World heritage Sites and various problems related to them according to each student's interest.
< Course outline>
The aim of this course is to help students to acquire understanding real significance and value of the World Heritage Sites of UNESCO.
< Learning objectives>
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1.Recognize the problems that the world faces, and develop the ability to express one's own opinions and develop discussions about them.
2.Acquire knowledge of World Heritage Site Level 2 or higher.
3.　Through World Heritage Sites, we will become a habit of acting toward sustainable futures.
< Learning activities>
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
< Grading Criteria/Policy>
Grading will be decided based on lab reports (40%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (60%).

CUA400GA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 400）

言語文化演習

佐々木　直美

サブタイトル：世界遺産に学ぶ
配当年次／単位：3〜4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講　｜　開講セメスター：春学期・秋学期/Spring・Fall
人数制限・選抜・抽選：選抜
備考（履修条件等）：単位数は、春学期 2 単位／秋学期 2 単位である。https://gakububbs.hosei.ac.jp/wp-content/uploads/FIC2026SeminarList.pdf

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
みなさんは旅行先やTVなどで目にする世界遺産の絶景や不思議に感動したり、憧れたりした経験があることでしょう。しかし、多くの世界遺産は環境問題や貧困問題、宗教問題など様々な現代の問題を反映し、直接それらの影響を受けています。このゼミでは、各人の関心に従って世界遺産とそれにまつわる様々な問題を掘り下げて研究します。単に世界遺産に関する知識を増やすことは、このゼミの目的ではありません。真の目的は、世界遺産の意義である「平和」について考え・行動することを学ぶことです。

【到達目標】
①世界遺産の意義を理解し、世界遺産検定2級以上の知識を修得する。。
②世界が抱える諸問題を認識し、それらについて自分の意見を述べたり、グループで議論を展開させる力を養う。
③資料収集と文献・資料の分析を通じて、研究発表や論文執筆を行う。
④世界遺産を通して、持続可能な地球の未来に向けた行動を習慣化するようになる。
⑤グループワークを通じて、他者とともに課題に取り組む協同性を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
　この授業は演習です。課題文献の輪講と討論に加えて状況が許せばフィールドワークへ出ることもあります。
　また、毎年秋学期に開催される国際文化情報学会にむけて、合宿形式のフィールドワークや資料作りなど積極的なゼミへの参加と協力が必須です。
　サブゼミの時間を使って世界遺産検定２級の自習学習や学会発表準備を行うため、サブゼミにも参加することが前提です。
教室で行う対面授業を基本とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション1	昨年度の振り返り。 今年度の研究テーマについて議論する。
2	・世界遺産の基礎（日本） ・	世界遺産検定2級テキストに沿って、基礎知識を学ぶ。 グループに分かれて、取りあげる世界遺産・フィールドワークのテーマや場所について議論する。
3	世界遺産の基礎（ヨーロッパ1）	世界遺産検定2級テキストに沿って、基礎知識を学ぶ。 グループに分かれて、取りあげる世界遺産について議論する。
4	世界遺産の基礎（ヨーロッパ2） 今年度の研究テーマ選定会	世界遺産検定2級テキストに沿って、基礎知識を学ぶ。 グループワークの成果をプレゼンテーションする。
5	世界遺産の基礎（ヨーロッパ３）	世界遺産検定2級テキストに沿って、基礎知識を学ぶ。
6	世界遺産の基礎（アフリカ1） 記憶と遺産	世界遺産検定2級テキストに沿って、基礎知識を学ぶ。 ・課題図書『ナガサキ　核戦争後の人生』1-3章の輪講と討論
7	世界遺産の基礎（アフリカ2） 記憶と遺産	世界遺産検定2級テキストに沿って、基礎知識を学ぶ。 ・課題図書『ナガサキ　核戦争後の人生』4-6章の輪講と討論
8	世界遺産の基礎（アメリカ大陸１） 記憶と遺産	世界遺産検定2級テキストに沿って、基礎知識を学ぶ。 ・課題図書『ナガサキ　核戦争後の人生』7-9章 輪講と討論
9	世界遺産の基礎（アメリカ大陸２） 記憶と遺産	世界遺産検定2級テキストに沿って、基礎知識を学ぶ。 ・課題図書『長崎原爆記』1-3章の輪講と討論
10	世界遺産の基礎（アメリカ大陸3） 記憶と遺産	世界遺産検定2級テキストに沿って、基礎知識を学ぶ。 ・課題図書『長崎原爆記』4-6章の輪講と討論
11	世界遺産の基礎（アジア1） 記憶と遺産	・世界遺産基礎知識の学習 ・課題図書輪講『長崎原爆記』7章-最後の輪講と討論 ・フィールドワークの準備
12	世界遺産の基礎（アジア2） 今年度の研究テーマ	・世界遺産基礎知識の学習 ・今年度の研究テーマに沿った参考文献の輪講　（基礎） ・フィールドワークの準備
13	世界遺産の基礎（アジア3） 今年度の研究テーマ	・世界遺産基礎知識の学習 ・今年度の研究テーマに沿った参考文献の輪講 （基礎） ・フィールドワークの準備
14	まとめ	・課題図書輪講と討論 ・今年度の研究テーマに沿った参考文献の輪講 （発展） ・フィールドワークの準備
1	オリエンテーション	春学期に学んだことの復習と輪講準備、学会発表についての方針と内容の策定。
2	フィールドワーク報告会	フィールドワークの成果を全員で共有しながら討論する。 学会準備
3	グループ・ワーク（１）	学会発表にむけた資料収集。 課題資料の輪講と討論
4	グループ・ワーク（２）	学会発表にむけた資料分析。 課題資料の輪講と討論
5	グループ・ワーク（３）	学会発表にむけたグループ討論。 課題資料の輪講と討論
6	グループ・ワーク（４）	学会発表資料全体での討論。 課題資料の輪講と討論

7	グループ・ワーク（5）	学会発表資料の作成。
8	グループ・ワーク（6）	学会発表資料の全体確認。
9	グループ・ワーク（7）	学会発表リハーサル1 学会発表の最終調整
10	学会発表リハーサル	学会発表リハーサル2
11	文献講読1 世界遺産検定対策	・今年度の研究テーマに沿った参考文献の輪講 アジアの遺産
12	文献講読2 世界遺産検定対策	・今年度の研究テーマに沿った参考文献の輪講 ヨーロッパの遺産
13	文献講読3 世界遺産検定対策	・今年度の研究テーマに沿った参考文献の輪講 アメリカ大陸の遺産
14	世界遺産検定対策 総括	アフリカ大陸の遺産とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・課題テキスト、参考文献を指定された期日までに読み、疑問点や意見をまとめる。
・本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
スーザン・サザード (著), 宇治川 康江 (翻訳)『ナガサキ』みすず書房、2019年。
秋月辰一郎『長崎原爆記―被爆医師の証言 (平和文庫)』 2010年。
NPO法人世界遺産アカデミー『世界遺産検定公式ガイド300＜第5版＞』毎日コミュニケーションズ、2023年。

授業内で受講生たちとともに今年度の研究テーマを決定したのちに、適宜授業内で指示します。

【参考書】
高瀬毅『ナガサキ　消えたもう一つの「原爆ドーム」』文藝春秋、2013年。
木曽功『世界遺産ビジネス』小学館新書、2015年。
佐滝剛弘『＜世界遺産＞の真実：過剰な期待、大いなる誤解』祥伝社新書、2010年。
NPO法人世界遺産アカデミー監修『すべてがわかる世界遺産大事典＜上＞＜中＞＜下＞ 世界遺産検定1級公式テキスト』世界遺産検定事務局、2024年3月刊行。
その他、適宜授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
ゼミへの貢献度（積極的な議論への参加・問題提起）と課題などの平常点（50％）と期末レポート（50%）を総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】
受講生と相談しながら内容を柔軟に対応させます。授業についての希望や提案は、授業期間に遠慮無く教員に伝えてください。

【学生が準備すべき機器他】
　学習支援システムを活用した、資料配付を行いますので、パソコンは必ず必要です。

【その他の重要事項】
希望者は『世界遺産検定』（NPO法人世界遺産アカデミー主催）の２級取得に向けて先輩ゼミ生たちと共に受検対策をサポートします。
春学期・秋学期合わせての履修を強く推奨します。
授業の内容は、受講生と相談しながら柔軟に対応します。変更がある場合はあらかじめ学習支援システムやメールを通じて告知しますので、こまめに連絡をチェックしてください。

【Outline (in English)】
Many World Heritage Sites are influenced directly by reflecting various contemporary problems such as environmental problems, poverty problems, and religious problems etc.　In this seminar, we will study about World heritage Sites and various problems related to them according to each student's interest.
< Course outline>
The aim of this course is to help students to acquire understanding real significance and value of the World Heritage Sites of UNESCO.
< Learning objectives>
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1.Recognize the problems that the world faces, and develop the ability to express one's own opinions and develop discussions about them.
2.Acquire knowledge of World Heritage Site Level 2 or higher.
3.　Through World Heritage Sites, we will become a habit of acting toward sustainable futures.
< Learning activities>
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
< Grading Criteria/Policy>
Grading will be decided based on lab reports (40%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (60%).

CUA400GA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 400）

言語文化演習

佐々木　直美

サブタイトル：世界遺産に学ぶ
配当年次／単位：3〜4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講　｜　開講セメスター：春学期・秋学期/Spring・Fall
人数制限・選抜・抽選：選抜
備考（履修条件等）：単位数は、春学期 2 単位／秋学期 2 単位である。https://gakububbs.hosei.ac.jp/wp-content/uploads/FIC2026SeminarList.pdf

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
みなさんは旅行先やTVなどで目にする世界遺産の絶景や不思議に感動したり、憧れたりした経験があることでしょう。しかし、多くの世界遺産は環境問題や貧困問題、宗教問題など様々な現代の問題を反映し、直接それらの影響を受けています。このゼミでは、各人の関心に従って世界遺産とそれにまつわる様々な問題を掘り下げて研究します。単に世界遺産に関する知識を増やすことは、このゼミの目的ではありません。真の目的は、世界遺産の意義である「平和」について考え・行動することを学ぶことです。

【到達目標】
①世界遺産の意義を理解し、世界遺産検定2級以上の知識を修得する。。
②世界が抱える諸問題を認識し、それらについて自分の意見を述べたり、グループで議論を展開させる力を養う。
③資料収集と文献・資料の分析を通じて、研究発表や論文執筆を行う。
④世界遺産を通して、持続可能な地球の未来に向けた行動を習慣化するようになる。
⑤グループワークを通じて、他者とともに課題に取り組む協同性を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
　この授業は演習です。課題文献の輪講と討論に加えて状況が許せばフィールドワークへ出ることもあります。
　また、毎年秋学期に開催される国際文化情報学会にむけて、合宿形式のフィールドワークや資料作りなど積極的なゼミへの参加と協力が必須です。
　サブゼミの時間を使って世界遺産検定２級の自習学習や学会発表準備を行うため、サブゼミにも参加することが前提です。
教室で行う対面授業を基本とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション1	昨年度の振り返り。 今年度の研究テーマについて議論する。
2	・世界遺産の基礎（日本） ・	世界遺産検定2級テキストに沿って、基礎知識を学ぶ。 グループに分かれて、取りあげる世界遺産・フィールドワークのテーマや場所について議論する。
3	世界遺産の基礎（ヨーロッパ1）	世界遺産検定2級テキストに沿って、基礎知識を学ぶ。 グループに分かれて、取りあげる世界遺産について議論する。
4	世界遺産の基礎（ヨーロッパ2） 今年度の研究テーマ選定会	世界遺産検定2級テキストに沿って、基礎知識を学ぶ。 グループワークの成果をプレゼンテーションする。
5	世界遺産の基礎（ヨーロッパ３）	世界遺産検定2級テキストに沿って、基礎知識を学ぶ。
6	世界遺産の基礎（アフリカ1） 記憶と遺産	世界遺産検定2級テキストに沿って、基礎知識を学ぶ。 ・課題図書『ナガサキ　核戦争後の人生』1-3章の輪講と討論
7	世界遺産の基礎（アフリカ2） 記憶と遺産	世界遺産検定2級テキストに沿って、基礎知識を学ぶ。 ・課題図書『ナガサキ　核戦争後の人生』4-6章の輪講と討論
8	世界遺産の基礎（アメリカ大陸１） 記憶と遺産	世界遺産検定2級テキストに沿って、基礎知識を学ぶ。 ・課題図書『ナガサキ　核戦争後の人生』7-9章 輪講と討論
9	世界遺産の基礎（アメリカ大陸２） 記憶と遺産	世界遺産検定2級テキストに沿って、基礎知識を学ぶ。 ・課題図書『長崎原爆記』1-3章の輪講と討論
10	世界遺産の基礎（アメリカ大陸3） 記憶と遺産	世界遺産検定2級テキストに沿って、基礎知識を学ぶ。 ・課題図書『長崎原爆記』4-6章の輪講と討論
11	世界遺産の基礎（アジア1） 記憶と遺産	・世界遺産基礎知識の学習 ・課題図書輪講『長崎原爆記』7章-最後の輪講と討論 ・フィールドワークの準備
12	世界遺産の基礎（アジア2） 今年度の研究テーマ	・世界遺産基礎知識の学習 ・今年度の研究テーマに沿った参考文献の輪講　（基礎） ・フィールドワークの準備
13	世界遺産の基礎（アジア3） 今年度の研究テーマ	・世界遺産基礎知識の学習 ・今年度の研究テーマに沿った参考文献の輪講 （基礎） ・フィールドワークの準備
14	まとめ	・課題図書輪講と討論 ・今年度の研究テーマに沿った参考文献の輪講 （発展） ・フィールドワークの準備
1	オリエンテーション	春学期に学んだことの復習と輪講準備、学会発表についての方針と内容の策定。
2	フィールドワーク報告会	フィールドワークの成果を全員で共有しながら討論する。 学会準備
3	グループ・ワーク（１）	学会発表にむけた資料収集。 課題資料の輪講と討論
4	グループ・ワーク（２）	学会発表にむけた資料分析。 課題資料の輪講と討論
5	グループ・ワーク（３）	学会発表にむけたグループ討論。 課題資料の輪講と討論
6	グループ・ワーク（４）	学会発表資料全体での討論。 課題資料の輪講と討論

7	グループ・ワーク（5）	学会発表資料の作成。
8	グループ・ワーク（6）	学会発表資料の全体確認。
9	グループ・ワーク（7）	学会発表リハーサル1 学会発表の最終調整
10	学会発表リハーサル	学会発表リハーサル2
11	文献講読1 世界遺産検定対策	・今年度の研究テーマに沿った参考文献の輪講 アジアの遺産
12	文献講読2 世界遺産検定対策	・今年度の研究テーマに沿った参考文献の輪講 ヨーロッパの遺産
13	文献講読3 世界遺産検定対策	・今年度の研究テーマに沿った参考文献の輪講 アメリカ大陸の遺産
14	世界遺産検定対策 総括	アフリカ大陸の遺産とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・課題テキスト、参考文献を指定された期日までに読み、疑問点や意見をまとめる。
・本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
スーザン・サザード (著), 宇治川 康江 (翻訳)『ナガサキ』みすず書房、2019年。
秋月辰一郎『長崎原爆記―被爆医師の証言 (平和文庫)』 2010年。
NPO法人世界遺産アカデミー『世界遺産検定公式ガイド300＜第5版＞』毎日コミュニケーションズ、2023年。

授業内で受講生たちとともに今年度の研究テーマを決定したのちに、適宜授業内で指示します。

【参考書】
高瀬毅『ナガサキ　消えたもう一つの「原爆ドーム」』文藝春秋、2013年。
木曽功『世界遺産ビジネス』小学館新書、2015年。
佐滝剛弘『＜世界遺産＞の真実：過剰な期待、大いなる誤解』祥伝社新書、2010年。
NPO法人世界遺産アカデミー監修『すべてがわかる世界遺産大事典＜上＞＜中＞＜下＞ 世界遺産検定1級公式テキスト』世界遺産検定事務局、2024年3月刊行。
その他、適宜授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
ゼミへの貢献度（積極的な議論への参加・問題提起）と課題などの平常点（50％）と期末レポート（50%）を総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】
受講生と相談しながら内容を柔軟に対応させます。授業についての希望や提案は、授業期間に遠慮無く教員に伝えてください。

【学生が準備すべき機器他】
　学習支援システムを活用した、資料配付を行いますので、パソコンは必ず必要です。

【その他の重要事項】
希望者は『世界遺産検定』（NPO法人世界遺産アカデミー主催）の２級取得に向けて先輩ゼミ生たちと共に受検対策をサポートします。
春学期・秋学期合わせての履修を強く推奨します。
授業の内容は、受講生と相談しながら柔軟に対応します。変更がある場合はあらかじめ学習支援システムやメールを通じて告知しますので、こまめに連絡をチェックしてください。

【Outline (in English)】
Many World Heritage Sites are influenced directly by reflecting various contemporary problems such as environmental problems, poverty problems, and religious problems etc.　In this seminar, we will study about World heritage Sites and various problems related to them according to each student's interest.
< Course outline>
The aim of this course is to help students to acquire understanding real significance and value of the World Heritage Sites of UNESCO.
< Learning objectives>
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1.Recognize the problems that the world faces, and develop the ability to express one's own opinions and develop discussions about them.
2.Acquire knowledge of World Heritage Site Level 2 or higher.
3.　Through World Heritage Sites, we will become a habit of acting toward sustainable futures.
< Learning activities>
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
< Grading Criteria/Policy>
Grading will be decided based on lab reports (40%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (60%).

CUA400GA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 400）

言語文化演習

佐々木　直美

サブタイトル：世界遺産に学ぶ
配当年次／単位：3〜4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講　｜　開講セメスター：春学期・秋学期/Spring・Fall
人数制限・選抜・抽選：選抜
備考（履修条件等）：単位数は、春学期 2 単位／秋学期 2 単位である。https://gakububbs.hosei.ac.jp/wp-content/uploads/FIC2026SeminarList.pdf

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
みなさんは旅行先やTVなどで目にする世界遺産の絶景や不思議に感動したり、憧れたりした経験があることでしょう。しかし、多くの世界遺産は環境問題や貧困問題、宗教問題など様々な現代の問題を反映し、直接それらの影響を受けています。このゼミでは、各人の関心に従って世界遺産とそれにまつわる様々な問題を掘り下げて研究します。単に世界遺産に関する知識を増やすことは、このゼミの目的ではありません。真の目的は、世界遺産の意義である「平和」について考え・行動することを学ぶことです。

【到達目標】
①世界遺産の意義を理解し、世界遺産検定2級以上の知識を修得する。。
②世界が抱える諸問題を認識し、それらについて自分の意見を述べたり、グループで議論を展開させる力を養う。
③資料収集と文献・資料の分析を通じて、研究発表や論文執筆を行う。
④世界遺産を通して、持続可能な地球の未来に向けた行動を習慣化するようになる。
⑤グループワークを通じて、他者とともに課題に取り組む協同性を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
　この授業は演習です。課題文献の輪講と討論に加えて状況が許せばフィールドワークへ出ることもあります。
　また、毎年秋学期に開催される国際文化情報学会にむけて、合宿形式のフィールドワークや資料作りなど積極的なゼミへの参加と協力が必須です。
　サブゼミの時間を使って世界遺産検定２級の自習学習や学会発表準備を行うため、サブゼミにも参加することが前提です。
教室で行う対面授業を基本とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション1	昨年度の振り返り。 今年度の研究テーマについて議論する。
2	・世界遺産の基礎（日本） ・	世界遺産検定2級テキストに沿って、基礎知識を学ぶ。 グループに分かれて、取りあげる世界遺産・フィールドワークのテーマや場所について議論する。
3	世界遺産の基礎（ヨーロッパ1）	世界遺産検定2級テキストに沿って、基礎知識を学ぶ。 グループに分かれて、取りあげる世界遺産について議論する。
4	世界遺産の基礎（ヨーロッパ2） 今年度の研究テーマ選定会	世界遺産検定2級テキストに沿って、基礎知識を学ぶ。 グループワークの成果をプレゼンテーションする。
5	世界遺産の基礎（ヨーロッパ３）	世界遺産検定2級テキストに沿って、基礎知識を学ぶ。
6	世界遺産の基礎（アフリカ1） 記憶と遺産	世界遺産検定2級テキストに沿って、基礎知識を学ぶ。 ・課題図書『ナガサキ　核戦争後の人生』1-3章の輪講と討論
7	世界遺産の基礎（アフリカ2） 記憶と遺産	世界遺産検定2級テキストに沿って、基礎知識を学ぶ。 ・課題図書『ナガサキ　核戦争後の人生』4-6章の輪講と討論
8	世界遺産の基礎（アメリカ大陸１） 記憶と遺産	世界遺産検定2級テキストに沿って、基礎知識を学ぶ。 ・課題図書『ナガサキ　核戦争後の人生』7-9章 輪講と討論
9	世界遺産の基礎（アメリカ大陸２） 記憶と遺産	世界遺産検定2級テキストに沿って、基礎知識を学ぶ。 ・課題図書『長崎原爆記』1-3章の輪講と討論
10	世界遺産の基礎（アメリカ大陸3） 記憶と遺産	世界遺産検定2級テキストに沿って、基礎知識を学ぶ。 ・課題図書『長崎原爆記』4-6章の輪講と討論
11	世界遺産の基礎（アジア1） 記憶と遺産	・世界遺産基礎知識の学習 ・課題図書輪講『長崎原爆記』7章-最後の輪講と討論 ・フィールドワークの準備
12	世界遺産の基礎（アジア2） 今年度の研究テーマ	・世界遺産基礎知識の学習 ・今年度の研究テーマに沿った参考文献の輪講　（基礎） ・フィールドワークの準備
13	世界遺産の基礎（アジア3） 今年度の研究テーマ	・世界遺産基礎知識の学習 ・今年度の研究テーマに沿った参考文献の輪講 （基礎） ・フィールドワークの準備
14	まとめ	・課題図書輪講と討論 ・今年度の研究テーマに沿った参考文献の輪講 （発展） ・フィールドワークの準備
1	オリエンテーション	春学期に学んだことの復習と輪講準備、学会発表についての方針と内容の策定。
2	フィールドワーク報告会	フィールドワークの成果を全員で共有しながら討論する。 学会準備
3	グループ・ワーク（１）	学会発表にむけた資料収集。 課題資料の輪講と討論
4	グループ・ワーク（２）	学会発表にむけた資料分析。 課題資料の輪講と討論
5	グループ・ワーク（３）	学会発表にむけたグループ討論。 課題資料の輪講と討論
6	グループ・ワーク（４）	学会発表資料全体での討論。 課題資料の輪講と討論

7	グループ・ワーク（5）	学会発表資料の作成。
8	グループ・ワーク（6）	学会発表資料の全体確認。
9	グループ・ワーク（7）	学会発表リハーサル1 学会発表の最終調整
10	学会発表リハーサル	学会発表リハーサル2
11	文献講読1 世界遺産検定対策	・今年度の研究テーマに沿った参考文献の輪講 アジアの遺産
12	文献講読2 世界遺産検定対策	・今年度の研究テーマに沿った参考文献の輪講 ヨーロッパの遺産
13	文献講読3 世界遺産検定対策	・今年度の研究テーマに沿った参考文献の輪講 アメリカ大陸の遺産
14	世界遺産検定対策 総括	アフリカ大陸の遺産とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・課題テキスト、参考文献を指定された期日までに読み、疑問点や意見をまとめる。
・本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
スーザン・サザード (著), 宇治川 康江 (翻訳)『ナガサキ』みすず書房、2019年。
秋月辰一郎『長崎原爆記―被爆医師の証言 (平和文庫)』 2010年。
NPO法人世界遺産アカデミー『世界遺産検定公式ガイド300＜第5版＞』毎日コミュニケーションズ、2023年。

授業内で受講生たちとともに今年度の研究テーマを決定したのちに、適宜授業内で指示します。

【参考書】
高瀬毅『ナガサキ　消えたもう一つの「原爆ドーム」』文藝春秋、2013年。
木曽功『世界遺産ビジネス』小学館新書、2015年。
佐滝剛弘『＜世界遺産＞の真実：過剰な期待、大いなる誤解』祥伝社新書、2010年。
NPO法人世界遺産アカデミー監修『すべてがわかる世界遺産大事典＜上＞＜中＞＜下＞ 世界遺産検定1級公式テキスト』世界遺産検定事務局、2024年3月刊行。
その他、適宜授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
ゼミへの貢献度（積極的な議論への参加・問題提起）と課題などの平常点（50％）と期末レポート（50%）を総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】
受講生と相談しながら内容を柔軟に対応させます。授業についての希望や提案は、授業期間に遠慮無く教員に伝えてください。

【学生が準備すべき機器他】
　学習支援システムを活用した、資料配付を行いますので、パソコンは必ず必要です。

【その他の重要事項】
希望者は『世界遺産検定』（NPO法人世界遺産アカデミー主催）の２級取得に向けて先輩ゼミ生たちと共に受検対策をサポートします。
春学期・秋学期合わせての履修を強く推奨します。
授業の内容は、受講生と相談しながら柔軟に対応します。変更がある場合はあらかじめ学習支援システムやメールを通じて告知しますので、こまめに連絡をチェックしてください。

【Outline (in English)】
Many World Heritage Sites are influenced directly by reflecting various contemporary problems such as environmental problems, poverty problems, and religious problems etc.　In this seminar, we will study about World heritage Sites and various problems related to them according to each student's interest.
< Course outline>
The aim of this course is to help students to acquire understanding real significance and value of the World Heritage Sites of UNESCO.
< Learning objectives>
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1.Recognize the problems that the world faces, and develop the ability to express one's own opinions and develop discussions about them.
2.Acquire knowledge of World Heritage Site Level 2 or higher.
3.　Through World Heritage Sites, we will become a habit of acting toward sustainable futures.
< Learning activities>
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
< Grading Criteria/Policy>
Grading will be decided based on lab reports (40%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (60%).

LAW200HA（法学 / law 200）

国際法 I

岡松　暁子

配当年次／単位：2〜4年／2単位
開講セメスター：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：火3/Tue.3
備考（履修条件等）：環ｺｱ：グ

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際法は、主として国家間関係を規律する法である。平等な主権国家で成り立っている国際社会は、国家と国家が合意を結ぶことで国際秩序が維持されている。本講義では、この国家間の合意の総論部分（国際法の基礎理論）を扱う。適宜事例を分析することにより、国際紛争においていかなる国際法の解釈問題が争点となっているかを検討し、国際秩序の形成および紛争解決における国際法の役割と意義を考察する。

【到達目標】
国際法の基礎理論を学び、国際秩序の基本的な法的枠組みを把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
国際法の総論（理論）部分についての講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに 国際法の構造	本講義の対象範囲 国際法の概念、近代国際法の特色
第2回	法源	条約、国際慣習法、法の一般原則、補助法源としての判例、学説
第3回	条約法	締結手続、留保、効力、無効、改正と終了
第4回	国際法と国内法の関係	論理的関係、国際法における国内法、国内法における国際法
第5回	国家・国家機関（1）	国家承認、政府承認
第6回	国家・国家機関（2）	国家承継、国家機関
第7回	国家管轄権	国家管轄権の意義、国家管轄権の適用基準、国家管轄権の競合、国家免除
第8回	国際組織法（1）	国際組織の要件・類型・分類、国際組織の歴史的発展
第9回	国際組織法（2）	国際組織の構造、国際組織の意思決定、国際組織の機能、国際組織の法主体性
第10回	国家領域（1）	領域主権、領土保全原則、領域使用の管理責任
第11回	国家領域（2）	領域権原の取得原因、日本の領域紛争
第12回	国家責任法（1）	国家責任の観念、国際違法行為責任の基本構造
第13回	国家責任法（2）	国家責任の発生要件、国家責任の解除、外交保護制度
第14回	試験、まとめと解説	試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
教科書の該当部分を読んでおくこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
岩沢雄司『国際法［第2版］』東京大学出版会、2023年。4,840円。
植木俊哉・中谷和弘編集代表『国際条約集』有斐閣、2026年。

【参考書】
森川幸一他編『国際法判例百選［第3版］』有斐閣、2021年。
繁田泰宏・佐古田彰編集代表、岡松暁子・小林友彦共同編集、鳥谷部壌・平野実晴編集協力『ケースブック国際環境法』東信堂、2020年。
その他、適宜講義の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（100％）
期末試験以外の要素は考慮しない。

【学生の意見等からの気づき】
特にコメントはありません。

【関連の深いコース】
履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】
本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】
This course introduces students to the legal order and rules that govern the international society.
By the end of this course, students may learn the basic international theory and gain better understanding by reading leading cases.
Students are required to study at least 2 hours before or after the class.
The course grade will be based on final paper(100%).

LAW200HA（法学 / law 200）

国際法 II

岡松　暁子

配当年次／単位：2〜4年／2単位
開講セメスター：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：火3/Tue.3
備考（履修条件等）：環ｺｱ：グ

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際法は、主として国家間関係を規律する法である。平等な主権国家で成り立っている国際社会は、国家と国家が合意を結ぶことで国際秩序が維持されている。本講義では、主としてその各論部分を扱う。第一に、国際関係の基本単位としての国家管轄権の発現態様である実体法に焦点を当て、個別分野における国際的な規制枠組を検討する。
第二に、国際法秩序の維持と国際法の履行確保のための方式や制度について考察する。

【到達目標】
国際社会における具体的な事象を法的に分析する素地を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
国際法の各論部分についての講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	本講義の対象
第2回	海洋法（1）	海洋法の歴史的発展、内水、領海
第3回	海洋法（2）	排他的経済水域、公海、大陸棚、深海底
第4回	南極、空域、宇宙	国際化地域、国際航空法、宇宙空間
第5回	個人	国籍、外国人の地位、難民
第6回	国際人権法（１）	人権保障の歴史、条約による人権保障
第7回	国際人権法（２）	国際組織による人権保障、履行確保、人道的介入
第8回	国際刑事法	国際犯罪、国際刑事裁判所
第9回	紛争の平和的解決（1）	国際社会における紛争解決手続きの特徴、平和的解決と強制的解決
第10回	紛争の平和的解決（2）	非裁判的手続、裁判的手続
第11回	国際安全保障、軍縮・軍備管理	武力不行使原則、集団安全保障、自衛権、平和維持活動、核の国際管理、軍縮
第12回	国際人道法（1）	武力紛争法規の適用対象、敵対行為の規制、軍事目標主義
第13回	国際人道法（2）	戦争犠牲者の保護、武力紛争法規の履行確保、軍縮・軍備管理
第14回	試験、まとめと解説	試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
教科書の該当部分を読んでおくこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
岩沢雄司『国際法［第2版］東京大学出版会、2022年。
植木俊哉・中谷和弘編集代表『国際条約集』有斐閣、2026年。

【参考書】
森川幸一他編『国際法判例百選［第3版］』有斐閣、2021年。
繁田泰宏・佐古田彰編集代表、岡松暁子・小林友彦共同編集、鳥谷部壌・平野実晴編集協力『ケースブック国際環境法』東信堂、2020年。
その他、適宜講義の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験100%。
期末試験以外の要素は考慮しない。

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【その他の重要事項】
履修者は国際法Ｉを履修済みであることが望ましいが、それを履修の条件とはしない。

【関連の深いコース】
履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】
本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】
This course introduces students to the specific international legal framework in various fields. Students may learn the legal process of peace making and gain better understanding by reading leading cases.
Students are required to study at least 2 hours before or after the class.
The course grade will be based on final paper (100%).

LAW300HA（法学 / law 300）

環境法 II

永野　秀雄

配当年次／単位：2〜4年／2単位
開講セメスター：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：金2/Fri.2
備考（履修条件等）：環ｺｱ：経, 口

その他属性：〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、われわれが直面する環境問題について、これを解決する法分野のひとつである環境私法を学びます。

【到達目標】
環境問題に現実にかかわる上で必要な知識です。社会人として、この問題に直面したときに、法的な枠組みを用いて考えることができるようにすることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この講義では、まず、環境私法の基礎理論となっている不法行為法を学びます。次に、民事差止訴訟や国家賠償法等について、わかりやすく解説します。また、環境問題を裁判によらずに解決するための紛争処理制度について概観します。その後、大気、水質、騒音、土壌といった具体的な環境汚染に関する民事判例について、その特徴を確認しながら検討していきます。最後に、風評被害訴訟を検証します。
なお、この授業は、対面授業として行われる予定です。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	環境問題と環境私法	環境問題と法の関係、環境法の中の環境私法の役割
第2回	不法行為法（1）	意味、成立要件、種類
第3回	不法行為法（2）	損害、請求権者、損害賠償の調整
第4回	不法行為法（3）	時効、共同不法行為
第5回	複合的大気汚染と共同不法行為	判例法の展開
第6回	民事差止訴訟等	環境問題における民事差止訴訟、消滅時効・除斥期間
第7回	土地工作物責任等	環境問題における土地工作物責任の応用、国家賠償法の適用
第8回	公害紛争処理制度等	公害紛争処理制度、協定による民事的紛争解決
第9回	大気汚染訴訟	大気汚染訴訟に関する判例理論の発展
第10回	水質汚濁・地下水関連訴訟	水質汚濁・地下水関連訴訟の具体例
第11回	騒音訴訟等	騒音訴訟、振動訴訟、悪臭訴訟、日照・通風・風害に関する訴訟の具体例
第12回	眺望権・景観権に関する訴訟	眺望権・景観権の具体例と限界
第13回	土壌汚染訴訟、企業資産における土壌汚染と情報開示	土壌汚染訴訟の具体例、企業資産における土壌汚染と情報開示の問題点
第14回	環境問題に起因する風評被害訴訟及び授業内試験	環境問題に起因する風評被害訴訟における因果関係、損害評価の難しさ及び授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をして下さい。
法律の勉強は積み重ねですので、前回までに配布されたプリントとノートで、 基本的な用語や論理を勉強して下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した印刷物を授業にて配布します。

【参考書】
なし。

【成績評価の方法と基準】
授業の最終回に実施される授業内試験により１００%評価されます。

【学生の意見等からの気づき】
環境法の知識のない学生にも、そのレベルに幅があるので、学生の理解を確認しながら進めていきたいと思います。

【Outline (in English)】
< Course Outline >
This lecture will give you civil liability for environmental damage, which is one of the legal fields for solving this environmental problem facing us.
＜Learning Objectives＞
This class shows you the knowledge necessary to get involved in the reality of environmental problems. The goal is to be able to think in the legal framework when faced with these problems.
< Learning Activities outside of Classroom >
Students will be expected to prepare and review using the prints distributed in each class. Please study basic terms and legal logic with those prints. Your required preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
＜Grading Criteria/Policy＞
The grades of this subject will be evaluated by the in-class examination conducted in the 14th class (100%).

LAW200HA（法学 / law 200）

国際環境法

岡松　暁子

配当年次／単位：2〜4年／2単位
開講セメスター：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：月3/Mon.3
備考（履修条件等）：環ｺｱ：グ

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際環境法は、国際環境問題の特質ゆえに、形成、発展、形態、内容、履行確保において様々な特徴がある。本講義では、個別条約や判例を題材として、国際環境諸条約に見られるそのような特徴を抽出し、検討していく。

【到達目標】
国際環境問題に関する国際法の枠組みを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
国際環境法の理論、判例についての講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	本講義の対象
第2回	国際環境法の対象と接近方法	アプローチ
第3回	国際環境法の形成（1）	国際環境法の生成
第4回	国際環境法の形成（2）	国際環境法の発展
第5回	国際環境法の展開	国際環境法の歴史的展開
第6回	国際環境法の性質（1）	持続可能な発展
第7回	国際環境法の性質（2）	世代間衡平、予防的アプローチ、共通に有しているが差異ある責任、人類共通の関心事
第8回	国際環境法の定立形式	枠組条約と議定書
第9回	国際環境法の制度化	締約国会議、事務局、外部機関
第10回	国際環境法の手続的義務	事前通報・協議制度、報告・審査制度、情報交換、事前の情報に基づく同意、環境影響評価、モニタリング
第11回	国際環境法上の義務の履行確保	不遵守手続
第12回	人権と環境	人権の国際的保障と環境
第13回	武力紛争と環境	国際人道法における環境保護
第14回	試験、まとめと解説	試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
教科書の該当部分を読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
植木俊哉・中谷和弘編集代表『国際条約集』有斐閣、2026年。
繁田泰宏・佐古田彰編集代表、平野実晴共同編集『テキストブック国際環境法』（東信堂、2026年）。
その他、授業内に指示する。

【参考書】
繁田泰宏・佐古田彰・岡松暁子・小林友彦編『ケースブック国際環境法』東信堂、2020年。2,800円。
その他、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（100%）。
期末試験以外の要素は考慮しない。

【学生の意見等からの気づき】
これまでと同様の方法で進める。

【その他の重要事項】
旧科目名称「国際環境法Ⅰ」を修得済の場合、本科目の履修はできない。

【関連の深いコース】
履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】
本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】
This course introduces students to the theory of international environmental law. Students may learn the specific legal framework of international environmental issues and gain better understanding by reading leading cases.
Students are required to study at least 2 hours before or after the class.
The course grade will be based on final paper (100%).

POL300HA（政治学 / Politics 300）

地球環境政治論

横田　匡紀

配当年次／単位：2〜4年／2単位
開講セメスター：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：月2/Mon.2
備考（履修条件等）：環ｺｱ：グ,サ

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の概要
パリ協定、気候変動問題の事例にも示されるように、なぜ地球環境問題をめぐるグローバルな合意形成は困難に直面するのでしょうか？ 地球環境問題への解決やSDGsに向けて国際社会が合意し、持続可能な世界を構築するためには、合意形成のメカニズムを理解することが必要となります。
この講義は地球環境問題をめぐるグローバルな合意形成のメカニズムを対象とし、パリ協定、気候変動問題、SDGs、トランプ政権などの事例をとりあげるとともに、国際関係論、グローバル・ガバナンス論の理論枠組みを理解していくことを目的とする。学生には、地球環境政治をめぐる様々な問題を考え、グローバル市民社会の一員としてSDGｓや持続可能な世界のあり方を考える視座を獲得してもらうことをめざす。

【到達目標】
・パリ協定、気候変動問題、SDGsなどを事例に、地球環境問題をめぐる合意形成のメカニズムを国際関係論の視点から理解できるようになる。
・地球環境問題をめぐる国際機構や環境NGO、企業といった様々なアクターの活動が理解できるようになる。
・SDGsやプラスチック汚染など近年の地球環境ガバナンスの課題を理解できるようになる。
・日本やアメリカの地球環境外交を理解できるようになる。
・ヨーロッパやアジアなど地域レベルごとの多様な環境ガバナンスの現状を理解できるようになる。
・グローバル・ガバナンス、地球環境ガバナンスといった国際関係論の視点を理解できるようになる。
・トランプ政権による地球環境政策への影響を理解できるようになる。
・貿易と環境、環境と安全保障、コロナ禍やウクライナ情勢の影響といった複合的な問題をめぐる合意形成のメカニズムを理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この講義では、国際関係論やグローバル・ガバナンスの視点からこの問題にアプローチし、どのようなアクター（国際機構、ＮＧＯ、企業など）がどのような手段（国際レジームなど）で、どのような問題（気候変動問題やSDGsなど）に取り組み、どのような成果と課題があるのかを確認していく。また講義の各論点とSDGsとの関連についても言及し、SDGsに対する理解を深めることができるように配慮する。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。小課題などに対するフィードバックは授業支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	なぜ地球環境政治論を学ぶのか：人類世、地球の限界、地球環境ガバナンスへの逆風
第2回	地球環境ガバナンスの展開	地球環境政治の歴史的展開：国連人間環境会議からSDGsまで
第3回	気候変動ガバナンス（1）	パリ協定などの気候変動ガバナンスの概要
第4回	気候変動ガバナンス（2）	気候変動ガバナンスの新たな展開：気候正義、気候安全保障、ダイベストメント、温暖化懐疑論
第5回	地球環境ガバナンスの課題（1）：生物多様性と化学物質管理の問題をめぐるグローバル・ガバナンス	名古屋議定書などの生物多様性や水俣条約などの化学物質管理をめぐるグローバル・ガバナンスの概要
第6回	地球環境ガバナンスの課題（２）：SDGs、プラスチック	SDGsやプラスチック汚染など近年の地球環境ガバナンスの課題を学ぶ
第7回	欧州の環境ガバナンス	先進的な環境政策をとる欧州での環境ガバナンスの展開：規範パワー、排出量取引、再生可能エネルギー、REACH、ドラギレポート
第8回	アジアの環境ガバナンス	アジア地域の環境ガバナンスの動向：黄砂、酸性雨、PM2.5、煙霧(Haze)
第9回	地球環境ガバナンスにおけるアメリカ	アメリカの地球環境外交：オバマ政権、トランプ政権、バイデン政権、第2次トランプ政権、エネルギー政策、環境正義、温暖化懐疑論
第10回	トランスナショナルな地球環境ガバナンス（1）	NGOや企業などの非国家アクターの役割：地球環境条約に関わる活動
第11回	トランスナショナルな地球環境ガバナンス（2）	NGOや企業などの非国家アクターの活動の新たな展開：CSR、FSC、MSC、ESG投資など
第12回	地球環境ガバナンスにおける日本の役割	日本の地球環境外交：持続可能な発展、地球サミット、京都議定書、名古屋議定書、水俣条約、グリーントランスフォーメーション
第13回	地球環境政治の見方（1）	リアリズムとリベラリズム
第14回	地球環境政治の見方（2）	コンストラクティヴィズム、グローバル・ガバナンス論、パワートランジション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。講義の各項目について理解できるようしておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
佐渡友哲・信夫隆司・柑本英雄・山本直編『国際関係論（第4版）』弘文堂、2025年

【参考書】
高橋洋『エネルギー転換の国際政治経済学』日本評論社、2021年
宮永健太郎『持続可能な発展の話』岩波書店、2023年
東京大学 気候と社会連携研究機構編『気候変動と社会』東京大学出版会、2024年
服部崇『気候変動規範と国際エネルギーレジーム』文眞堂、2021年
渡邉智明『有害廃棄物に関するグローバル・ガヴァナンスの研究』ミネルヴァ書房、2022年
舛方周一郎『つながりと選択の環境政治学』晃洋書房、2022年
宇治梓紗『環境条約交渉の政治学』有斐閣、2019年
蟹江憲史『SDGs(持続可能な開発目標)』中公新書、2020年
鄭方婷『重複レジームと気候変動交渉』現代図書、2017年
村田晃嗣ほか『国際政治学をつかむ3版』有斐閣、2023年
前田幸男『「人新世」の惑星政治学』青土社、2023年
多湖淳『国際関係論』勁草書房、2024年
大芝亮『国際政治理論』ミネルヴァ書房、2016年

西谷真規子・山田高敬編『新時代のグローバル・ガバナンス論』ミネルヴァ書房、2021年。
山本吉宣『国際レジームとガバナンス』有斐閣、2008年
草野大希ほか編『国際関係論入門』ミネルヴァ書房、2023年
関山健『気候安全保障の論理』日経BP、2023年
小田桐確編『安全保障化の国際政治』有信堂、2023年
藤原帰一編『気候変動は社会を不安定化させるか』日本評論社、2022年
西村智朗『気候変動問題と国際法』信山社、2024年
藤田大智『国家平等の形成と課題』信山社、2023年
畠山武道『アメリカ環境政策の展開と規制改革』信山社、2022年
蓮見雄・高屋定美編『カーボンニュートラルの夢と現実』文眞堂、2025年
庄司真理子ほか編『新グローバル公共政策(改訂第3版)』晃洋書房、2025年
田所昌幸『世界秩序』中央公論社、2025年
赤星聖ほか『国際機構論』法律文化社、2025年
吉沢晃『はじめての国際政治経済学』法律文化社、2025年

【成績評価の方法と基準】
課題類の提出を前提として、期末試験90％、平常点10％で評価する。期末試験についてはレポートテストになる。平常点については、毎回の小課題の提出とその内容について判断する。小課題のフィードバックについては、学生からのリクエストに応じて授業サイト上で行う。
毎回の小課題の提出が不十分だと成績評価の対象となりませんので注意してください。
学習したことを評価するので、学習していないということのないように注意してください。
課題・レポート作成時における生成AIの使用は認めていません。

【学生の意見等からの気づき】
学生のペースに配慮すること。

【その他の重要事項】
講義内容に関わるドキュメンタリービデオを随時用いていきます。
進度により講義内容を変更することがあります。
課題提出と資料配布は学習支援システムを通じて行う。
感染症対策には十分な配慮をします。
半数以上の授業回を対面で実施します。前半を対面、後半以降はオンラインとする予定です。授業回の半数以上での対面受講を求めます。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
For better understandings of sustainable world society, this course aim to provide a wide range of knowledge about global environmental politics from viewpoints of discipline of the International Relations
Course topics.
・History of global environmental governance.
・Global climate governance(The Kyoto Protocol, The Paris Agreements).
・Global biodiversity governance.
・Global chemical governance.
・Global environmental governance of SDGs and Plastic issue
・Environmental governance of the European Union.
・Environmental governance in Asia
・Environmental policy in the U.S.
・Transnational environmental governance (Non-state actors, NGOs, Business and local actors).
・Japan's global environmental diplomacy.
・Theories of global governance (Realism, Liberalism, Constructivism and Global governance)
【到達目標（Learning Objectives）】
・Students will be able to understand the mechanisms of consensus building on global environmental issues from the perspective of international relations, using the Paris Agreement, climate change issues, and SDGs as examples.
・To be able to understand the activities of various actors such as international organizations, environmental NGOs, and corporations in relation to global environmental issues.
・To be able to understand recent global environmental governance issues such as SDGs and plastic pollution.
・Understand the global environmental diplomacy of Japan and the United States
・To be able to understand the current status of various environmental governance systems at the regional level in Europe and Asia.
・To be able to understand the perspectives of international relations theory, such as global governance and global environmental governance.
・Students will be able to understand the impact of the Trump administrations on global environmental policy.
・To be able to understand the mechanism of consensus building on complex issues such as trade and environment, environment and security.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Be sure to prepare and review the materials introduced in each lecture.
Students should be able to understand each item in the lecture. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Assessments will be made on the basis of a final exam (90%) and a normal score (10%). The final exam will be a report test. Ordinary points will be based on the submission of small assignments and their contents. Feedback on small assignments will be provided on the class website upon request from students.

ECN300HA（経済学 / Economics 300）

環境経済論 I

杉野　誠

配当年次／単位：2〜4年／2単位
開講セメスター：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：木2/Thu.2
備考（履修条件等）：環ｺｱ：経

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境経済論を理解するのに必要なミクロ経済学などの事項を学び、具体的な環境政策、特に環境税や排出量取引などの経済的手段の仕組みや課題を志向できる力を涵養することを目標とする。

【到達目標】
経済発展に伴い、環境問題が多様化・深刻化している。この授業では、経済学の枠組みを用いて環境問題を捉え、どの様な政策が必要であるかを理論的に考える。具体的には、「市場の失敗」が発生するメカニズムおよびどの様な対策があるのかを考える。またこの授業では、以下の２つを最終目的とする。①環境問題の「本質」を理解し、様々な環境問題に応用できるようになる。②排出量取引制度を疑似体験し、制度設計に必要な思考力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	環境経済とは何か	環境経済学の位置づけ
第2回	消費者と生産者の理論	ミクロ経済学の基礎的な概念の紹介
第3回	市場均衡と市場の万能性	市場の役割と市場の効率性の理解
第4回	公共財と外部性	市場の失敗と政府の介入根拠の理解
第5回	環境政策の種類	外部不経済への対処方法の理解
第6回	コースの定理	当事者間の直接交渉による解決方法の理解
第7回	排出量取引	排出量取引制度の制度設計とその効果の紹介
第8回	政策手段の比較	環境税と排出量取引を比較検討
第9回	不確実性下の政策選択	不確実性が存在する際の環境政策の効率性
第10回	排出量取引制度の制度設計	世界の排出量制度の比較および国内の議論を紹介
第11回	ゲームで学ぶ環境政策①	コースの定理および排出量取引の制度設計を理解
第12回	ゲームで学ぶ環境政策②	時間的要素（世代間）を入れた場合の排出量取引の制度設計を理解
第13回	地球温暖化問題①	地球温暖化問題に対する各国の取り組みの理解
第14回	地球温暖化問題②	ポスト京都議定書の各国の取り組みの理解

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。事前に、配布資料および関連する文献に目を通しておくこと。また、時間外の課題を提出期限内に行うこと。

【テキスト（教科書）】
特になし。担当教員が作成したレジュメや資料を適宜配布する。

【参考書】
日引聡・有村俊秀（2002）『入門 環境経済学』中公新書
一方井誠治（2018）『コア・テキスト　環境経済学』新世社

【成績評価の方法と基準】
期末試験（60%）に加え、授業後に課す練習問題（30%）を行うほか、授業中の参加の程度・貢献度（10%）を考慮し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
小テスト以外の練習問題を増やし、考え方を確認できるようにします。

【その他の重要事項】
対面形式の授業を予定しているため、オンライン授業での対応は原則行いません。

【Outline (in English)】
【Course Outline】This course introduces key concepts in environmental economic theory and policies to tackle environmental issues to students taking this course.
【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to 1) understand the key theoretical aspect of environmental issues and 2) propose economically efficient environmental policies.
【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class.
【Grading Criteria /Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 60%, homework: 30%, in-class contribution: 10%.

ECN300HA（経済学 / Economics 300）

環境経済論 II

杉野　誠

配当年次／単位：2〜4年／2単位
開講セメスター：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：木2/Thu.2
備考（履修条件等）：環ｺｱ：経

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経済発展に伴い、環境問題が多様化・深刻化している。本授業では、様々な環境問題に焦点をあて、どの様な政策が必要であるか、経済学の視点から考える。また、実際の環境政策を概観・比較を行う。その際、経済学がどのように役立っているのかを明確にしながら、授業を進める。
この授業では、以下の２つを最終目的とする。
①環境問題の「本質」を理解し、様々な環境問題に応用できるようになる。
②環境政策を立案するために必要な思考力を身に付ける。

【到達目標】
経済学の基礎的な知識と環境問題に対する理解を深めることができる。
また、環境問題を解決するために必要な政策の思考力を得ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、イントロ	授業の全体像および環境経済論IIの内容と環境経済論Iの復習
第2回	気候変動問題①	地球温暖化の基礎知識
第3回	気候変動問題②	京都議定書とは何だったのか。
第4回	気候変動問題③	ポスト京都における各国の対策と日本：中期目標を中心に
第5回	気候変動問題④	パリ協定と今後の気候変動対策
第6回	廃棄物の経済学①	ゴミの有料化とは、どの程度の料金に設定するべきか
第7回	廃棄物の経済学②	有料化の方法とそれらの経済的インセンティブ
第8回	廃棄物の経済学③	自治体のゴミの有料化とレジ袋有料化
第9回	廃棄物の経済学④	放射性廃棄物をどのように処理するのか
第10回	都市の環境問題①	コースの定理と日本の公害病
第11回	都市の環境問題②	固定排出源における環境対策
第12回	都市の環境問題③	交通部門に対する環境規制
第13回	都市の環境問題④	道路混雑とロードプライシング
第14回	自主的な取り組み	日本経団連の自主行動計画と自主的取り組みの有効性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。配布資料および関連する文献を読むこと。また、グループディスカッションの内容を事前にリサーチし、準備すること。

【テキスト（教科書）】
日引・有村（2002）『入門　環境経済学』、中公新書.

【参考書】
有村・片山・松本（2017）『環境経済学のフロンティア』、日本評論社.
細田・横山（2007）『環境経済学』、有斐閣アルマ.
一方井（2018）『環境経済学』、新世社.

【成績評価の方法と基準】
期末試験（50%）に加え、グループディスカッション（40%）を行うほか、授業中の参加の程度・貢献度（10%）を考慮し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
受講者同士のディスカッションを増やす要望があり、毎回実施できるように努めます。

【その他の重要事項】
対面形式での授業を予定しています。そのため、オンライン授業での対応を原則いたしません。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Environmental issues are becoming severe as well as diverse as economies grow. This course introduces three major environmental issues (climate change, waste and air pollution) and policies implemented to tackle these issues to students taking this course.
【Learning Objectives】
At the end of the course, students are expected to 1) understand the nature of environmental issues and, 2) propose environmental policies need to tackle these issues.
【Learning activities outside of classroom】
Before each class meeting, students will be expected to have read the handouts and relevant chapter from the references. Your required study time is at least two hours for each class meeting.
【Grading Criteria/Policies】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 70%, assignment/homework 20%, in class contribution: 10%

MAN300HA（経営学 / Management 300）

CSR論 I

長谷川　直哉

配当年次／単位：2〜4年／2単位
開講セメスター：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：月4/Mon.4
備考（履修条件等）：環ｺｱ：経, グ, サ

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は現代社会において企業が直面する社会課題を取り上げます。企業の社会的責任（CSR）やサステナビリティ（SDGs）を巡る国際的な動向を整理し、企業と社会の関係性が時代とともにどのように変遷してきたのかを説明します。授業を通じて学生がサステナビリティ社会における企業の社会的責任を正しく理解する能力を涵養し、将来の職業選択にも役立つ知識を提供します。

【到達目標】
SDGs（持続可能な開発目標）、CSR（企業の社会的責任）、パリ協定（脱炭素）、責任投資原則、ESG投資など、気候変動を巡る世界的な政策動向と日本企業の対応について理解を深めることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
SDGsの登場によってサステナビリティがグローバル社会のキーワードとなった今、社会課題の解決に向けて、企業には幅広い責任を果たしていくことが求められています。本講義では、SDGsやCSRに関する理論やケースを取り上げ、企業経営におけるサステナビリティの意義やビジネスがどのように変わっていくのかを解説します。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 企業の本質とは何か	講義の全体像と進め方 企業と社会の関係の変遷
第2回	グローバル経済の進展とその影響	SDGsとパリ協定の登場によって社会経済システムはどのように変化するか
第3回	SDGs（持続可能な開発目標性）と企業経営	SDGsが求める企業像とは何か 企業と社会の関係はどのように変化していくのか
第4回	カーボンニュートラル（パリ協定）の意義	パリ協定を基軸とする脱炭素革命は経営構造をどのように変えていくのか
第5回	欧州のサステナビリティ戦略①	欧州におけるサステナビリティ戦略の変遷とケーススタディ
第6回	欧州のサステナビリティ戦略②	EUグリーンディールの内容と日本企業への影響
第7回	外部講師による特別講義①	企業のサステナビリティ担当者による講義（詳細が確定次第、学習支援システムに掲示します）
第8回	責任投資原則と企業評価	投資家による非財務情報の評価が投資行動と企業経営に及ぼす影響
第9回	サステナブルマネーの動向	サステナビリティを推進する諸原則（責任投資原則、責任銀行原則、持続可能な保険原則）について
第10回	人権・人的資本経営	企業価値を高める人権政策と人財育成のあり方
第11回	外部講師による特別講義②	企業のサステナビリティ担当者による講義（詳細が確定次第、学習支援システムに掲示します）
第12回	サステナビリティを巡る政策動向	企業経営を取り巻く国内外のサステナビリティ政策の動向
第13回	企業不祥事はなぜ起こるのか	企業不祥事に関するケーススタディ
第14回	社会から選ばれるサステナブルストーリー	ビリーブドリブン消費者の台頭によってブランド戦略はどう変わるか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
国内では1,000社程度の企業がサステナビリティ報告書を発行しています。この授業で習得した知識を活かして、興味のある企業のサステナビリティ報告書を読んでみましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
毎回、レジュメを配布します。

【参考書】
長谷川直哉編著『サステナビリティ・トランスフォーメーションと経営構造改革』文眞堂，2023年
長谷川直哉編著『サステナビリティ白書』日本経営協会，2023年
Naoya.HASEGAWA（2020）“Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG”(English Edition),Palgrave Macmillan
長谷川直哉著『SDGsとパーパスで読み解く責任経営の系譜－時代を超えた企業家の使命』文眞堂，2021年
長谷川直哉編著『企業家活動に学ぶESG経営』文眞堂，2019年
長谷川直哉編著『統合思考とESG投資』文眞堂，2018年
長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文眞堂，2017年

【成績評価の方法と基準】
期末レポート　　：　90％
特別講義レポート：　10％（2社分）
期末レポートは講義内容の理解度と課題に対して自己の見解を論理的に展開しているかを評価します。特別講義レポートは講義内容の理解度を確認します。

【学生の意見等からの気づき】
ケーススタディと企業の実務担当者の講義を織り交ぜて、理論と実務の関係を分かりやすく説明します。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【担当教員の専門領域】
＜専門領域＞
サステナブル経営・企業倫理・ESG投資・ビジネスヒストリー
＜研究テーマ＞
取締役会の実効性分析
企業価値の向上に資する非財務情報の開示

【最近の主要業績】
「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」（2021年9月28日）』2021年
「SDGsと企業責任①〜⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学（2020年3月2日〜12日）』2020年
「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報319』2021年

【実務経験のある教員による授業】
損害保険会社の資産運用部門において、約15 年間投資業務を担当しました。1999 年、ESG 投資の先駆的な取り組みであるSRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業のESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証上場企業の社外取締役・顧問として企業経営に参画しています。
【関連資格】

日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

【Outline (in English)】
In this lecture, we will learn about the social issues that companies face in today's society. the growing interest in SDGs (Sustainable Development Goals) and CSR (Corporate Social Responsibility) is due to the fact that people feel that society is not moving in the right direction.
This class aims to deepen students' understanding of the relationship between society and corporations from the perspective of sustainability. Students will also gain knowledge that will be useful in their future corporate choices.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading will be based on the reports of the two special lectures (10%) and the final report (90%).

MAN300HA（経営学 / Management 300）

CSR論 II

長谷川　直哉

配当年次／単位：2〜4年／2単位
開講セメスター：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：月4/Mon.4
備考（履修条件等）：環ｺｱ：経, グ, サ

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
CSR論Ⅰで習得した知識を基に、SDGs（持続可能な開発目標）やBusiness Ethics（企業倫理）が時代と共にどのように変遷してきたのかを辿ります。持続可能な社会において求められる企業の役割、企業のパーパス（存在意義）や経営思想について理解を深めることめざします。

【到達目標】
SDGsが求める課題は、企業だけでは解決できません。多様な主体とのパートナーシップを通じた課題解決が求められる現代社会では、多面的な物の見方や解決策の策定が欠かせません。企業と社会の関係を巡る国内外の経済思想や企業倫理の変遷を学ぶことで、現代社会が直面している課題の解決に必要な基礎知識の習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本講義では、経営学・経済学・法政策等の視点から欧米諸国と日本のSDGs/CSRおよびBusiness Ethicsに関する基本理論や背景となる思想を解説します。また、具体的事例や実践的課題を取り上げ、現代社会において進行している現象を通じて、企業と社会の相互関係や経営者に求められる倫理観の形成について検討します。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 社会構造の変化と企業が直面する課題	講義の進め方 現代企業が直面する事業環境の変化について
第2回	近代産業の勃興と経済倫理〔1〕「経済活動の自由と自律」	アダム・スミス『道徳感情論』にみる経済と倫理の関係性について
第3回	近代産業の勃興と経済倫理〔2〕「最大多数の最大幸福をどう生み出すか」	J.ベンサム・J.ミル「功利主義思想」とM.ウェーバー「資本主義の精神と倫理」について
第4回	企業社会の変容とCSR・SDGsの登場	ポスト資本主義社会における企業の役割とは何か
第5回	日本社会の企業倫理と責任経営〔1〕	報徳思想を背景とする企業倫理の醸成
第6回	日本社会の企業倫理と責任経営〔2〕	戦後日本における企業責任の生成と展開
第7回	外部講師による特別講義〔1〕	企業のサステナビリティ担当者による講義（詳細が確定次第、学習支援システムに掲示します）
第8回	新自由主義から第三の道へ	新自由主義への反動と第三の道（新しい公共）の生成
第9回	ESG経営の最新動向「環境編」	カーボンニュートラル政策の動向と日本企業の対応
第10回	ESG経営の最新動向「社会編」	企業価値を高める人権・人的資本経営とは何か
第11回	ESG経営の最新動向「ガバナンス編」	経営者による企業統治および情報開示の現状
第12回	外部講師による特別講義〔2〕	企業のサステナビリティ担当者による講義（詳細が確定次第、学習支援システムに掲示します）
第13回	企業不祥事の実態	企業不祥事の発生メカニズムと対策
第14回	ネイチャポジティブ経営	自然資本と生物多様性を尊重した経営のあり方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関心のある企業のホームページや文献で創業の理念や創業から現代に至るビジネスモデルの変遷を調べてください。企業がどのような価値観を背景にSDGsに取り組んでいるか考えてみましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
毎回、レジュメを配布します。

【参考書】
長谷川直哉編著『サステナビリティ・トランスフォーメーションと経営構造改革』文眞堂，2023年
長谷川直哉編著『サステナビリティ白書』日本経営協会，2023年
Naoya.HASEGAWA（2020）“Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG”(English Edition),Palgrave Macmillan
長谷川直哉著『SDGsとパーパスで読み解く責任経営の系譜－時代を超えた企業家の使命』文眞堂，2021年
長谷川直哉編著『企業家活動に学ぶESG経営』文眞堂，2019年
長谷川直哉編著『統合思考とESG投資』文眞堂，2018年
長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文眞堂，2017年
長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステイナブル経営史』文眞堂，2016年

【成績評価の方法と基準】
期末レポート　　：90％
特別講義レポート：10％（2社分）
期末レポートは講義内容の理解度と課題に対して自己の見解を論理的に展開しているかを評価します。特別講義レポートは講義内容の理解度を確認します。

【学生の意見等からの気づき】
ケーススタディを織り交ぜて、分かりやすい講義を行います。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【担当教員の専門領域】
＜専門領域＞
サステナブル経営・企業倫理・ESG投資・ビジネスヒストリー
＜研究テーマ＞
取締役会の実効性分析
企業価値の向上に資する非財務情報の開示

【最近の主要業績】
「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」（2021年9月28日）』2021年
「SDGsと企業責任①〜⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学（2020年3月2日〜12日）』2020年
「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報319』2021年

【実務経験のある教員による授業】
損害保険会社の資産運用部門において、約15 年間投資業務を担当しました。1999 年、ESG 投資の先駆的な取り組みであるSRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業のESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証上場企業の社外取締役・顧問として企業経営に参画しています。
【関連資格】
日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

【Outline (in English)】
In this lecture, we will examine the aims of sustainability policy and changes in business strategy. We will consider what the role of corporations in a sustainable society is and what elements are necessary to sustainably increase corporate value.
This class aims to deepen students' understanding of SDGs and carbon neutrality in corporate management. Students will be able to gain a deeper knowledge of the future of Japanese companies.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading will be based on the reports of the two special lectures (10%) and the final report (90%).

SOC300HA（社会学 / Sociology 300）

環境社会論 I

藤田　研二郎

配当年次／単位：2〜4年／2単位
開講セメスター：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：火2/Tue.2
備考（履修条件等）：環ｺｱ：ロ

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、日本の環境問題・環境政策の歴史を概観しながら、環境社会学の理論を紹介する。環境社会学では、「地域住民や市民がどう環境問題の解決にかかわるか」ということが、重要な論点の一つとなってきた。この論点に着目しつつ、本授業では、環境社会学の理論からみた環境問題の特徴と、解決のために必要な行動について学ぶ。

【到達目標】
日本の環境問題・環境政策の歴史を説明できるようになる。環境社会学の理論にもとづき、環境問題の特徴を指摘できるようになる。解決のために必要な行動を提案できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
各回の授業は、日本の環境問題・環境政策の歴史を、産業公害期（〜1970年代）、都市・生活型公害期（1970年代〜1980年代）、地球環境問題期（1990年代〜）に区分したうえで、関連する環境社会学の理論を事例とともに紹介していく。授業の終わりには、課題を含むリアクションペーパーを提出してもらう。
課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。授業形態の詳細は学習支援システムで連絡する。
2026年度春学期は、Zoomでのリアルタイム配信によるオンライン授業を予定している。大学で受講する場合は、薩埵ホールなどのオンライン受講スペースを利用すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本授業の概要を示し、環境問題の定義とタイプ、環境社会学のアプローチ、住民・市民のかかわりについて学ぶ。
第2回	産業公害期①	戦後から1970年代までの産業公害について、問題の特徴と対策の展開を学ぶ。
第3回	産業公害期②	水俣病問題を事例に、被害・加害構造論について学ぶ。
第4回	産業公害期③	新幹線公害問題を事例に、受益圏・受苦圏論について学ぶ。
第5回	都市・生活型公害期①	1970年代から80年代までの都市・生活型公害について、問題の特徴と対策の展開を学ぶ。
第6回	都市・生活型公害期②	自動車排気ガス規制と技術革新を事例に、生産の踏み車論とエコロジー的近代化論について学ぶ。
第7回	都市・生活型公害期③	自然資源管理を事例に、コモンズの悲劇、社会的ジレンマについて学ぶ。
第8回	都市・生活型公害期④	森は海の恋人運動を事例に、集合行為、環境運動について学ぶ。
第9回	地球環境問題期①	1990年代以降の地球環境問題について、問題の特徴と対策の展開を学ぶ。
第10回	地球環境問題期②	市民風車の取組みを事例に、環境NGO・NPOの役割と課題を学ぶ。
第11回	地球環境問題期③	外来種問題を事例に、環境問題の構築主義について学ぶ。
第12回	地球環境問題期④	長良川河口堰問題を事例に、河川政策の展開について学ぶ。
第13回	地球環境問題期⑤	河川法改正を事例に、住民参加の意義、ローカルな知の役割について学ぶ。
第14回	地球環境問題期⑥／まとめ	自然再生事業を事例に、順応的ガバナンスについて学ぶ。 環境問題解決への住民・市民のかかわりという観点から、本授業をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習としては、環境問題・環境政策のニュースに関心をもって、日常的に情報収集を行うこと。また復習として、配布されたレジュメにもとづき前回の内容を整理し、各自の関心に応じて参考文献を読むこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定せず、毎回PowerPointと配布するレジュメにもとづき授業する。

【参考書】
各回の参考文献は、授業のなかで紹介する。なお、環境社会学の入門的なテキストとして、例えば以下のものがある。
鳥越皓之・帯谷博明編，2017,『よくわかる環境社会学　第2版』ミネルヴァ書房.

【成績評価の方法と基準】
平常点（30%）＋定期試験（70%）、を想定。
平常点は授業への参加度、リアクションペーパー、課題の提出によって評価する。なお、試験は学期末の定期試験期間中に対面での実施を予定している。

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパーの質問・コメントや提出した課題について、フィードバックを求める声が多かったので、積極的にフィードバックしていきます。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために、学習支援システムを利用。

【その他の重要事項】
春学期「環境社会論Ⅰ」「環境社会論Ⅲ」、秋学期「環境社会論Ⅱ」の授業内容は相互に関連しており、それぞれ歴史・理論編、現代編、活動編という位置づけである。合わせて履修することでより理解が深まるよう計画しているが、個別に履修しても問題はない。

【関連の深いコース】
履修の手引き「専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【Outline (in English)】
(Course Outline)
This class will introduce the theories of environmental sociology, reviewing the history of environmental problems and policies in Japan. This class will focus on how residents and citizens are engaged in the process of environmental problems, which is one of the most important topics in environmental sociology. Students will learn the characteristics of environmental problems and actions for solving them based on the theories of environmental sociology.
(Learning Objectives)
Students should be able to do the following:
- Explain the history of environmental problems and policies in Japan.

- Point out the characteristics of environmental problems based on the theories of environmental sociology.
- Propose actions for solving environmental problems.
(Learning Activities Outside of Classroom)
Students should pay attention to daily news about environmental problems and policies and collect information. Students should review the previous class based on the handouts and read references. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
(Grading Criteria/Policy)
Regular Work (30%) + Final Examination (70%).
Regular work will be submitting reaction papers and assignments.

SOC300HA（社会学 / Sociology 300）

環境社会論 II

藤田　研二郎

配当年次／単位：2〜4年／2単位
開講セメスター：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：火2/Tue.2
備考（履修条件等）：環ｺｱ：ロ

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会の環境問題解決では、政府や企業ばかりでない第3の領域「サードセクター」として、環境NGO・NPOやボランティアの役割が注目されている。本授業では、このサードセクターに着目し、社会運動、協同組合、NPOに関する理論や環境問題解決における役割を説明する。それらを通じて、私たち地域住民・市民の立場から環境問題解決にかかわる方法を学ぶ。

【到達目標】
現代社会の環境問題解決におけるサードセクター、環境運動、協同組合、NGO・NPO、ボランティアの役割を説明できるようになる。地域住民・市民の立場から、環境問題解決にかかわる方法を提案できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
各回の授業は、サードセクターの議論を環境運動、協同組合、NGO・NPOに大別したうえで、関連する環境問題の事例とともに紹介していく。授業の終わりには、課題を含むリアクションペーパーを提出してもらう。
課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。授業形態の詳細は学習支援システムで連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本授業の概要を示し、サードセクターの主体と環境問題とのかかわりについて学ぶ。
第2回	環境問題の歴史	サードセクターの主体のかかわりという観点から、戦後から現代までの環境問題・環境政策の歴史を学ぶ。
第3回	環境運動①	社会運動論の前提となる古典的理論、集合行為論、フリーライダー問題について学ぶ。
第4回	環境運動②	住民投票運動を事例に、資源動員論、フレーム分析について学ぶ。
第5回	環境運動③	政治的機会構造論と、小樽運河保存運動を事例に歴史的環境保全について学ぶ。
第6回	協同組合①	協同組合の概要と、生活協同組合（生協）の歴史について学ぶ。
第7回	協同組合②	農業協同組合（農協）の概要と歴史、産直と新規就農支援について学ぶ。
第8回	NGO・NPO①	NGO・NPOの概要と、市場の失敗、政府の失敗について学ぶ。
第9回	NGO・NPO②	NGO・NPOの法人格と、新自由主義の流れについて学ぶ。
第10回	NGO・NPO③	ボランティア、寄付の理論と実態、フーコーの権力論について学ぶ。
第11回	NGO・NPO④	行政の下請け化と、環境NGO・NPOの制度化、日本の環境NGO・NPOの課題を学ぶ。
第12回	NGO・NPO⑤	NGO・NPOのアドボカシーについて、政府への財政的依存との関係と国際会議における活動を学ぶ。
第13回	NGO・NPO⑥	生物多様性条約COP10を事例に、環境NGO・NPOのアドボカシーの課題について学ぶ。
第14回	NGO・NPO⑦／まとめ	環境NPOへの参加を事例に、ソーシャル・キャピタル概念と効果について学ぶ。 環境問題解決におけるサードセクターの役割と課題という観点から、本授業をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習としては、環境問題・環境政策のニュースに関心をもって、日常的に情報収集を行うこと。また復習として、配布されたレジュメにもとづき前回の内容を整理し、各自の関心に応じて参考文献を読むこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定せず、毎回PowerPointと配布するレジュメにもとづき授業する。

【参考書】
各回の参考文献は、授業のなかで紹介する。なお、環境社会学、NPO論の入門的なテキストとして、例えば以下のものがある。
鳥越皓之・帯谷博明編，2017,『よくわかる環境社会学　第2版』ミネルヴァ書房.
坂本治也編，2017,『市民社会論』法律文化社.

【成績評価の方法と基準】
平常点（30%）＋定期試験（70%）、を想定。
平常点は授業への参加度、リアクションペーパー、課題の提出によって評価する。なお、試験は学期末の定期試験期間中に対面での実施を予定している。

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパーの質問・コメントや提出した課題について、フィードバックを求める声が多かったので、積極的にフィードバックしていきます。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために、学習支援システムを利用。

【その他の重要事項】
春学期「環境社会論Ⅰ」「環境社会論Ⅲ」、秋学期「環境社会論Ⅱ」の授業内容は相互に関連しており、それぞれ歴史・理論編、現代編、活動編という位置づけである。合わせて履修することでより理解が深まるよう計画しているが、個別に履修しても問題はない。

【関連の深いコース】
履修の手引き「専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【Outline (in English)】
(Course Outline)
The third sector, including environmental NGOs and volunteers, which is neither the government nor the business sector is essential to solve environmental problems in contemporary society. This class will focus on the third sector and explain the theories of social movements, cooperatives, and non-profit organizations and their role in solving environmental problems. Students will learn how to be engaged in the process of environmental problems from the standpoint of residents and citizens.
(Learning Objectives)
Students should be able to do the following:

- Explain the role of the third sector, including environmental NGOs and volunteers in solving environmental problems in contemporary society.
- Propose how to be engaged in the process of environmental problems from the standpoint of residents and citizens.
(Learning Activities Outside of Classroom)
Students should pay attention to daily news about environmental problems and policies and collect information. Students should review the previous class based on the handouts and read references. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
(Grading Criteria/Policy)
Regular Work (30%) + Final Examination (70%).
Regular work will be class participation and submitting reaction papers and assignments.

SSS300HA（社会・安全システム科学 / Social/Safety system science 300）

災害政策論

川副　早央里

配当年次／単位：2〜4年／2単位
開講セメスター：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：金2/Fri.2
備考（履修条件等）：環ｺｱ：ロ

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
災害はどの地域においても、誰にでも起こりえることです。大規模な災害が起こると、地域社会が大きな打撃を受け、急激な地域変容が生じます。そこで暮らしていた人びとは、生 命、仕事、財産、家族や友人関係、自然環境などさまざまなものを失う経験をします。災害は平常時の社会のあり方や構造を露わにします。災害時に発生するこうした諸問題を理解するときには、災害前から社会に潜んでいた問題に着目する視点が求められます。

本講義では、地域社会やそこで暮らす人々の視点から災害と地域復興を捉え、いくつかのテーマと実際の事例から、災害政策が形成されてきた背景やプロセス、残された課題について検討し、私たちが生きる社会について改めて考えたいと思います。東日本大震災のほか、一部海外の事例も取り上げます。

【到達目標】
(1) 災害復興のリアリティに触れ、災害時の社会状況についての想像力を養う。
(2)「災害」「復興」の概念を理解し、災害時に生じる諸課題の背後にある社会構造を学ぶ。
(3) 災害時の政策が形成された背景、経緯、残された課題を理解する。
(4) 災害を日常の延長にあるものとして捉え、災害という切り口から日常生活や地域社会の在り方を見直す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式を基本としますが、できるだけ多くのグループディスカッションを行いたいと考えています。また、さまざまなドキュメント資料や映像資料を活用して、できるだけ被災地域および被災者の置かれた実状に触れ、災害と復興について考えたいと思います。毎回の授業後にリアクションペーパーを提出してもらいます。次の授業の冒頭にその内容を振り返り、問題意識を共有し補足説明も行いながら、災害に関する理解を深めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の目的や進め方を確認する。
第2回	災害とは何か	災害とは何かについて、理論的枠組みや概念を解説する。
第3回	避難（1）：緊急避難	災害発生から避難に至る過程と課題を学ぶ。
第4回	避難（2）：広域的長期的避難	長く広域に避難した被災者の生活実態と課題を学ぶ。
第5回	地域コミュニティの変容（1）：分断と喪失	災害後のコミュニティの分断や喪失の実態を学ぶ。
第6回	地域コミュニティの変容（2）：再編と創造	災害後のコミュニティの再編や創造の実際を学ぶ。
第7回	被災地・被災者支援（1）：支援の実際	被災地および被災者の復興における支援の実際と課題を学ぶ。
第8回	被災地・被災者支援（2）：多様な支援	多様な支援の事例を紹介し、被災地・被災者復興に求められる支援について検討する。
第9回	災害とジェンダー・多様性（1）：災害時のジェンダー課題	災害時のジェンダー課題への対応の実際と課題を学ぶ。
第10回	災害とジェンダー・多様性（2）：災害時の多様性配慮	災害時に求められる多様性への配慮について学び、議論する。
第11回	復興とは何か（1）：	復興とは何かについて、理論的枠組みや概念を解説する。
第12回	復興とは何か（2）：	復興の事例を紹介し、実際の復興状況と課題を検討する。
第13回	授業内試験	授業内試験を行う
第14回	試験の講評と補論	試験に関する講評と授業全体の振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・適宜授業のなかで関連する参考文献や資料を紹介するので、事前に学習してから受講すること（60分程度）。
・授業中に配布するレジュメと自身のメモ・ノートをもとに復習し、リアクションペーパーの提出により学習内容や自分の考えを整理するとともに、理解できていな部分を確認すること（40分程度）。
・各回の授業に関する課題として、授業内で扱った知識や概念を応用させた課題に取り組み、授業内容の理解を深めること（90分程度）

【テキスト（教科書）】
授業で使用する資料は、授業前にWebClassに掲載する。
予習・復習については、配布資料を使って学習するほか、授業内で紹介する参考書や各種情報を参照すること。

【参考書】
大矢根淳ほか（2007）『災害社会学入門（シリーズ災害と社会）』弘文堂.
その他は授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・平常点（リアクションペーパーおよび授業への参加度）：60％
・授業内期末試験：40％
＊期末試験未受験の場合には成績評価の対象とはなりません。

【学生の意見等からの気づき】
本授業では、履修生の理解度を確認しながら授業を進めていく。具体的には、学生同士のディスカッションやリアクションペーパーの提出を通じて、意見を共有するほか、質問への回答や補足説明を行う。

【学生が準備すべき機器他】
授業で使用するPDF資料は、事前にWebclass上に掲載します。紙資料は配布しないので、必要に応じてPCやタブレットを持参して受講してください。

【Outline (in English)】
Disasters can strike anywhere and affect anyone. When a large-scale disaster occurs, local communities suffer significant damage and undergo rapid transformation. People living there experience the loss of life, livelihoods, property, family and friends, and the natural environment. Disasters lay bare the nature and structure of society during normal times. Understanding the problems that emerge during disasters requires a perspective that focuses on issues latent within society before the disaster struck.
This lecture will examine disasters and regional recovery from the perspective of local communities and their residents. Through several themes and real-world case studies, we will explore the background and processes behind the formation of disaster policies, the challenges that remain, and rethink the society in which we live. In addition to the Great East Japan Earthquake, we will also cover some international examples.

PHL300HA（哲学 / Philosophy 300）

環境倫理学 II

吉永　明弘

配当年次／単位：2〜4年／2単位
開講セメスター：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：金4/Fri.4
備考（履修条件等）：環ｺｱ：文

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「都市の環境倫理」について学ぶ。その中で、哲学的空間論、身体論、人間主義地理学、風土論、都市論などを紹介する。さらに、アメニティマップ作り実践を通じて、各人が自分にとって良好な環境とはいかなるものかについての認識を深めることを目標とする。

【到達目標】
「良い環境とは何か」について自分なりの答えが見つけられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義、質疑応答、レポートへの応答。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	環境問題と哲学・倫理学	環境問題に対する哲学・倫理学のアプローチについて説明する
2	哲学的空間論	ユクスキュルの環境論、市川浩の身体論、ボルノウの空間論を紹介する
3	人間主義地理学	トゥアンとレルフの「場所」についての理論を紹介する
4	風土論:和辻哲郎	和辻哲郎の風土論を紹介する
5	風土論：ベルク	オギュスタン・ベルクの風土論を紹介する
6	風土論的環境倫理の構想	岸由二と桑子敏雄の議論を紹介する
7	都市論：ジェイコブズ	ジェイコブズの都市論について紹介する
8	清渓川復元と美の条例	ソウル市の清渓川復元事業と真鶴町の美の条例について紹介する
9	アメニティマップについて	過去のアメニティマップを紹介しながら、作り方を説明する
10	環境と観光:白川郷と妻籠	観光が地域環境にもたらす影響について論じる
11	環境と観光：湯布院の地域づくり	湯布院のドキュメンタリーを見て議論する
12	アメニティマップの発表（1）	各自が作成したアメニティマップを発表し議論する
13	アメニティマップの発表（2）	各自が作成したアメニティマップを発表し議論する
14	アメニティマップの発表（3）全体の講評	アメニティマップについて講評する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書をよく読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
吉永明弘『都市の環境倫理　増補改訂版』勁草書房、2025年

【参考書】
吉永明弘『ブックガイド環境倫理』勁草書房、2017年
吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018年
吉永明弘・寺本剛編『環境倫理学』昭和堂、2020年（第11章〜第14章）
吉永明弘『はじめて学ぶ環境倫理』ちくまプリマー新書、2021年

【成績評価の方法と基準】
課題レポート（40％）とマップ作成（60％)。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションの時間を設けることにしました。

【Outline (in English)】
This course deals with urban environmental ethics. At the end of the course, students are expected to understand human environment. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following, amenity map:50%, term-end examination:50%.

ENV300HA（環境保全学 / Environmental conservation 300）

環境科学Ⅰ

佐々木　大輔

配当年次／単位：2〜4年／2単位
開講セメスター：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：木5/Thu.5
備考（履修条件等）：環コア：サ

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ア〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境科学は人と自然の相互作用を把握し、その関係を持続的に維持・発展させるための方法論を体系化した文理融合型の学問分野である。本授業・環境科学Ⅱを通して、環境問題の実態について正しく理解するとともに、その解決に向けた対処法について考える力を養うことを目指す。なお、Ⅰ・Ⅱのいずれかの授業のみを履修しても構わない。
環境科学Ⅰでは主に地球規模での問題について、環境科学Ⅱでは主に地域規模での問題について学ぶ。

【到達目標】
本授業では、主に地球規模での環境問題の実態について正しく理解することを目標としている。
具体的には、（1）気候変動、（2）生物多様性、（3）化学物質汚染について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
スライドを用いて授業を行う。
資料は前日までにアップロードするので、各自事前にダウンロードする。
毎回の授業後に簡単な小テストを行い、翌週の授業のはじめにそのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の全体像と進め方について
第2回	気候変動（1）	気候変動の歴史、IPCCの将来予測
第3回	気候変動（2）	エネルギー資源
第4回	気候変動（3）	再生可能エネルギー
第5回	気候変動（4）	緩和策
第6回	気候変動（5）	適応策
第7回	気候変動（6）	国際環境政策の変遷、国連気候変動枠組条約の仕組み
第8回	気候変動（7）	日本国内における取り組み（気候変動適応法など）
第9回	気候変動（8）	気候変動と防災・減災
第10回	生物多様性（1）	生物多様性の意義、現状と課題
第11回	生物多様性（2）	国内外の取り組み（生物多様性条約・生物多様性基本法など）
第12回	化学物質汚染（1）	化学物質汚染の現状と課題
第13回	化学物質汚染（2）	国内外の取り組み（水俣条約・POPs条約など）
第14回	まとめ	授業のまとめ、期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。
担当教員が作成したレジュメや資料を適宜配布する。

【参考書】
藤倉良・藤倉まなみ　『文系のための環境科学入門［第3版］』　有斐閣コンパクト

【成績評価の方法と基準】
授業後の小テスト（30%）及び授業内に実施する期末試験（70%）の結果を基に成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
高校卒業程度の理科の知識を前提として授業を行う。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【Outline (in English)】
[Course outline] This lecture focuses on environmental issues on a global scale.
[Learning objectives] The goal is to foster an accurate understanding of the realities of environmental issues and cultivate the ability to consider approaches for their resolution.
[Learning activities outside of classroom] Students are required to spend two hours preparing for and reviewing each class.
[Grading criteria/policy] Students will be assessed based on the results of quizzes administered after each class session (30%) and a final exam conducted during class time (70%).

ENV300HA（環境保全学 / Environmental conservation 300）

環境科学 II

佐々木　大輔

配当年次／単位：2〜4年／2単位
開講セメスター：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：土1/.Sat.1
備考（履修条件等）：環コア：サ

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ア〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境科学は人と自然の相互作用を把握し、その関係を持続的に維持・発展させるための方法論を体系化した文理融合型の学問分野である。環境科学Ⅰ・本授業を通して、環境問題の実態について正しく理解するとともに、その解決に向けた対処法について考える力を養うことを目指す。なお、Ⅰ・Ⅱのいずれかの授業のみを履修しても構わない。
環境科学Ⅰでは主に地球規模での問題について、環境科学Ⅱでは主に地域規模での問題について学ぶ。

【到達目標】
本授業では、主に地域規模での環境問題の実態について正しく理解することを目標としている。
具体的には、（1）大気環境汚染、（2）水環境汚染、（3）土壌・地下水汚染、（4）廃棄物処理について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
スライドを用いて授業を行う。
資料は前日までにアップロードするので、各自事前にダウンロードする。
毎回の授業後に簡単な小テストを行い、翌週の授業のはじめにそのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の全体像と進め方について
第2回	大気環境汚染（1）	大気環境汚染の歴史と現状
第3回	大気環境汚染（2）	大気環境汚染のメカニズム、硫黄酸化物（SOx）、窒素酸化物（NOx）、微小粒子状物質（PM2.5）
第4回	大気環境汚染（3）	大気環境汚染への対策
第5回	水環境汚染（1）	水環境汚染の歴史と現状
第6回	水環境汚染（2）	水環境汚染のメカニズム、富栄養化、BOD、COD
第7回	水環境汚染（3）	水環境汚染への対策
第8回	土壌・地下水汚染（1）	土壌・地下水汚染の歴史と現状
第9回	土壌・地下水汚染（2）	土壌・地下水汚染のメカニズム、土壌環境基準
第10回	土壌・地下水汚染（3）	土壌・地下水汚染への対策
第11回	廃棄物処理（1）	廃棄物処理の歴史と現状
第12回	廃棄物処理（2）	日本における廃棄物の定義・区分
第13回	廃棄物処理（3）	廃棄物対策
第14回	まとめ	授業のまとめ、期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。
担当教員が作成したレジュメや資料を適宜配布する。

【参考書】
藤倉良・藤倉まなみ　『文系のための環境科学入門［第3版］』　有斐閣コンパクト

【成績評価の方法と基準】
授業後の小テスト（30%）及び授業内に実施する期末試験（70%）の結果を基に成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
高校卒業程度の理科の知識を前提として授業を行う。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【Outline (in English)】
[Course outline] This lecture focuses on environmental issues on a regional scale.
[Learning objectives] The goal is to foster an accurate understanding of the realities of environmental issues and cultivate the ability to consider approaches for their resolution.
[Learning activities outside of classroom] Students are required to spend two hours preparing for and reviewing each class.
[Grading criteria/policy] Students will be assessed based on the results of quizzes administered after each class session (30%) and a final exam conducted during class time (70%).

GEO200HA（地理学 / Geography 200）

自然災害論

杉戸　信彦

配当年次／単位：1〜4年／2単位
開講セメスター：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：月2/Mon.2
その他属性：〈優〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
災害をもたらす可能性のある自然現象は繰り返して発生しており、将来も発生すると考えられる。防災力の高い持続可能な地域社会の構築に向け、多角的なアプローチが求められる。「何が」「どこで」「いつ」起こり得てその地がどうなるのか。人間社会は「その時」にどのように備えるか。自然災害のリスクとその低減に向けた取り組みを見つめなおす。

【到達目標】
自然災害リスクを決定づける要因を説明できる。
災害リスクを低減させる取り組みについて自然と社会の両面から具体的に記述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
前半は主に自然界のもたらすハザードを扱い、後半はそれを踏まえて人間社会の取り組みについて検討する。講義形式。図表等の資料も活用する。
課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	自然災害と防災	自然災害とは、自然災害リスク、防災とは
第2回	土地条件評価	地形、表層地盤、活断層
第3回	地震発生予測	地震とは、地震の起こる場所、地震発生繰り返しモデル、長期評価
第4回	地震災害の諸相（1）	地殻変動、地震動、液状化
第5回	地震災害の諸相（2）	地震火災、津波、津波火災
第6回	火山災害の諸相	活火山の分布、火山噴火とは、火砕流、山体崩壊、溶岩流、噴石、火山灰
第7回	気象災害の諸相	降水量とその季節性・地域性、豪雨と積乱雲、台風、高潮、大雪
第8回	土砂災害の諸相	斜面崩壊（表層崩壊・深層崩壊）、地すべり、土石流
第9回	土地利用と社会基盤（1）	災害危険区域、津波災害警戒区域、防潮堤、かさ上げ、高台移転、流域治水
第10回	土地利用と社会基盤（2）	耐震基準、活断層と土地利用
第11回	防災気象情報	災害種と予測可能性、伝達手段、特別警報、気象警報・注意報、緊急地震速報、津波警報・注意報、噴火警報・注意報
第12回	避難	避難情報、避難場所、避難所、警戒レベル
第13回	災害の歴史・災害経験の継承	記録と記憶、災害史、碑、災害遺構、活断層の保存
第14回	ハザードマップと防災教育	ハザードマップ、災害図上訓練（DIG）、津波と避難、学校、地域

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習を行う。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指定なし

【参考書】
授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】
平常点（30%）・期末試験（70%）

【学生の意見等からの気づき】
知識と基礎力に加え、応用力や思考力をより涵養すべく、詳しく具体的な説明を心がける。

【Outline (in English)】
Natural phenomena that cause disasters have occurred repeatedly, and will also occur in the future. We have to improve our approaches in all aspects for building resilient and sustainable society. We examine sciences of natural disasters caused by earthquakes, tsunamis, volcanic eruption, heavy rain, and slope failures, and then discuss land use, social infrastructures, use of disaster information, evacuation, hazard map, and education, for reducing natural-disaster risk. Students should be able to do the followings by the end of the course: (1) to explain what determine the risk of natural disasters, and (2) to explain efforts to mitigate natural-disaster risk from the perspective of the natural environment and human society. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on short reports (30%) and a final exam (70%).

ENV300HA（環境保全学 / Environmental conservation 300）

環境管理論 II

大野　香代

配当年次／単位：1〜4年／2単位
開講セメスター：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：金3/Fri.3
備考（履修条件等）：環コア：経,サ

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境管理論Ⅱでは、企業の生産活動により排出される大気汚染物質を抑制、
管理するための関連法令や技術について学びます。国際的に脱炭素社会への変換が進む中、企業のESG（環境、社会、ガバナンス）への取組が益々重要視されてきています。企業は大気、水質、土壌の汚染防止、騒音振動防止、廃棄物管理等の公害防止に加え、二酸化炭素等の温暖化物質の排出削減に向け、様々な取組を行う必要に迫られています。
　本講義では、大気汚染問題の原因や課題について、地球温暖化問題からPM2.5汚染まで幅広い内容を学びます。大気関連の法律体系や行政施策及び、硫黄酸化物やばいじん等の発生源やその処理技術、測定方法についての科学的な事柄等、企業における環境管理の基礎的知識を学びます。
公害防止管理者国家資格（大気）の取得を目指す学生にとっても基礎となる知識を取得することができます。

【到達目標】
近年の国内外の大気汚染問題について、その原因、対策、課題について理解する。環境基本法、大気汚染防止法等の大気関連の規制及び国の政策について知る。大気汚染物を発生する各種生産活動、大気汚染物物質の処理方法及び測定方法につて理解する。企業における環境管理の活動について自ら調べ、各産業における課題と対策について考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
毎週、シラバスに記載されているテーマに関する資料を配布し、講義を行う。2回程度課題を出すので、数名のグループでディスカッションを行い、レポートにまとめ、授業内で発表する。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムで知らせる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	大気汚染の歴史と公害防止対策	日本の公害問題の歴史ついて学ぶ。企業の公害防止組織について学ぶ。
第2回	近年の大気環境問題（その１）	気候変動とエネルギー問題、環境関連の国際的な取組について学ぶ。
第3回	近年の大気環境問題（その２）	国内の大気の状況について、環境基準の達成率やPM2.5及び光化学オキシダント生成、水銀排出等の問題について学ぶ。
第4回	大気保全のための各種法律	大気に関する各種法律の概要（環境基準、排出基準等）を学ぶ。また、近年の日本の大気環境状況について学ぶ。
第5回	大気汚染の発生源及び発生メカニズム	大気汚染物質を発生する産業活動、大気汚染物質の種類と発生メカニズム。
第6回	アクティブラーニング 課題１	各業種における大気環境保全のための活動を調査し、その特徴をまとめる。SDGｓの17のゴールとの関連についても考察する。
第7回	燃焼管理技術	カーボンユートラル達成のための新技術について触れながら、日本のエネルギー事情について学ぶ。また、燃料の種類や効率的な燃焼管理及び熱回収等の省エネ技術について学ぶ。
第8回	硫黄酸化物の処理技術	排ガス中の硫黄酸化物の排出低減及び処理技術について学ぶ。
第9回	窒素酸化物の処理技術	排ガス中の窒素酸化物及びその他の有害物質の排出低減及び処理技術について学ぶ。
第10回	集じん技術	排ガス中のばいじんや粉じんの除去技術について学ぶ。
第11回	アクティブラーニング 課題２	企業の環境管理に関連する課題を出すので、それについて調査し、考察する。
第12回	大気のモニタリング技術と排ガス測定技術	大気の常時監視モニタリングの方法及び排ガスの測定方法について学ぶ。
第13回	排ガスの大気拡散	大気汚染物質の大気拡散について学ぶ。工場近隣への大気汚染物質の影響を知るための拡散モデルについて学ぶ。
第14回	期末テスト	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習は事前に配布された資料を読み、分からない用語等は事前に調べ勉強する。復習は講義で勉強した内容を講義資料を中心に復習し、分からなかった部分については、インターネットや関連文献を調査し、理解するようにする。さらに、興味のもったテーマについて、自分なりに調べ、より深く理解するように努める。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
新・公害防止の技術と法規　（大気編）の講義に関連するところを読んで学習する。授業の準備学習・復習時間は各2時間とする。

【参考書】
新・公害防止の技術と法規　（大気編）　発行所　（一社）産業環境管理協会

【成績評価の方法と基準】
レポート2回の評価　各２０(%)×２　期末テスト６０（%）

【学生の意見等からの気づき】
化学式や数式が出てくると、難しく感じるとの意見が多いので、排ガス処理技術等の説明では、なるべく数式を使用せず、図を多用して視覚的、直観的に原理が理解できるよう、工夫することとする。

【学生が準備すべき機器他】
授業内で配布した資料

【その他の重要事項】
担当教員はアジア諸国への公害防止管理のための技術及び法制度支援を10年以上行っている。また、水質や大気質の計測、環境マネジメント、環境ファイナンス、気候変動緩和・適応に関する国際標準規格（ISO）の国際エキスパートとして、規格策定を行っている。これらの実務経験を活かし、本講義では大気汚染に係る国内外の環境問題の最新動向を講義に織り交ぜることで、将来、企業において自ら考え、環境に配慮した経済活動が行えるような人材を育成する。

【関連の深いコース】
サステイナブル経済・経営コース、環境サイエンスコース

【Outline (in English)】
Course outline：

Environmental Management II, students learn about the relevant laws and regulations and technologies to manage the air pollutants emitted by corporate production activities.The transformation to a decarbonized society is accelerating. In this situation, ESG (Environmental, Social and Governance) initiatives of corporation are becoming more and more important. In addition to conventional pollution prevention measures such as air, water, and soil pollution control, noise and vibration control, and waste management, companies are now faced with the need to take various measures to reduce emissions of carbon dioxide and other global warming substances.

In this lecture, we will learn about the causes and issues of air pollution problems, ranging from global warming to PM2.5 pollution. In addition, students learn about the legal system and administrative measures related to air quality, as well as the sources of sulfur oxides and soot and dust, and scientific matters related to their treatment technologies and measurement methods.

Students aiming to obtain the national qualification for pollution Control manager (Air) can acquire basic knowledge.

Learning Objectives：

-To understand the causes, countermeasures, and issues regarding recent air pollution problems in Japan and abroad.

-To understand the Basic Environment Law, Air Pollution Control Law, and other air-related regulations and national policies.

-To understand the various production activities that generate air pollutants, and the treatment and measurement methods of air pollutants.

-To investigate the environmental management activities of companies and to think about the issues and measures in each industry.

Learning activities outside of classroom：

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy：

Each Report ： 20(%) × 2 times

Term-end examination: 60 (%)

SEE300HA（科学教育・（教育工学） / Science education/ Educational technology 300）

環境教育論

野田　恵

配当年次／単位：1〜4年／2単位
開講セメスター：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：金2/Fri.2
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このコースでは、環境教育とESD(持続可能な開発のための教育）について学び、持続可能な社会の実現において教育が果たす役割を理解することを目的とします。また、環境教育の具体的実践例や歴史について学びながら、持続可能な社会のために何が必要なのか、自分自身の考えを深めていきましょう。
今年度は特に「自然とかかわる環境教育（自然体験）」がテーマです。

【到達目標】
環境教育の目的やねらい、歴史的経緯、環境教育で扱われるテーマや主要な概念、教育方法について理解し、説明ができる。環境教育の現状や課題、可能性などについて複合的な視点をもち、自分なりの考えを持てるようになる。
また、環境問題および環境教育・ESDを「自分とは無関係な知識」ではなく、自らの立場・経験・価値観と結びつけて捉え、批判的かつ建設的に評価できる力を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
環境教育の理論的基礎やさまざまな環境教育実践について学ぶ。授業形態は、講義のほか参加型（グループワークなど）を行う。詳細は、授業支援システムで連絡する。
リアクションペーパーや提出された課題に対しては、代表的なものをいくつか授業内で取り上げコメントすることでフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義のねらい・進め方についての説明と導入
第2回	環境教育の基礎（講義）	環境教育についての基礎（定義・歴史・特徴および実践事例）
第3回	環境教育の変遷〜知識教授から参加体験型へ	環境教育は、なぜ知識教授だけでなく参加体験型の方法をとるのか？
第4回	環境教育の実践例―自然体験学習	自然とかかわりや自然を守る環境教育の事例を学ぶ
第5回	持続可能な開発のための教育（ESD）	持続可能な開発のための教育について解説 最近の環境教育の特徴を紹介
第6回	環境教育を「評価する視点」	良い環境教育とは何か、環境教育を評価するとはどういうことか考える
第7回	中間課題準備：環境教育施設を調べよう	環境教育施設を調べ、訪問し、発表の準備を行います
第8回	中間課題発表	第7回までに調べた環境教育施設について発表（プレゼン）を行う
第9回	環境教育を深める・１〜持続可能な開発と環境正義	環境教育への理解を発展させるキー概念を学ぶ
第10回	ゲストスピーク「地域で取り組む環境教育の事例」	地域に根差した環境教育の意義や可能性を学ぶ
第11回	ソーシャルアクションワークショップ	環境問題を解決するアクション（行動）について考える
第12回	環境教育を深める〜子どもの権利の視点から	子どもの権利の視点から、環境教育をとらえなおす
第13回	環境教育を深める〜自然学校の事例から	教育と地域の持続可能性について実践事例を通じて考える
第14回	まとめ・論述試験	これまでの学びを総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。参考文献や配布する資料などを読み課題に取り組む。
環境教育施設を訪問したり、環境教育プログラムに実際に参加して、授業時間外にも積極的に学びを深めることが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず授業内で資料を適宜配布・紹介する

【参考書】
『環境教育』日本環境教育学会編、教育出版
『環境教育学－社会的公正と存在の豊かさを求めて－』井上有一・今村光彦編
『持続可能性の教育－新たなビジョンへ－』佐藤学ほか編著、教育出版
『奇跡のむらの物語』、辻英之著、農文協
『知る・わかる・伝えるSDGs I』、阿部治・野田恵編著、学文社
『知る・わかる・伝えるSDGs II』阿部治、二ノ宮リムさち編著、学文社
『子ども白書2024』子どもを守る会編、かもがわ出版

【成績評価の方法と基準】
詳細はガイダンスおよび授業内で指示します。
・平常点：授業参加度、学習状況、授業内小テスト（5％×10回＝50％）
※授業内で、毎回（第6，7，8，14回は除く）コメントペーパー又は小課題を出します
・中間課題：環境教育施設を訪問しレポート、授業内（第8回）で発表する（35％）
※課題の内容と発表方法は、授業内で詳しくお知らせします

・最終論述テスト：第14回に、授業内で論述試験を行います。（15％）
※持ち込み可、スマホPC使用不可
授業のねらいが「自分なりの考えを持つこと」なので、生成AIの使用防止のため
対面授業内で論述試験に取り組む

【学生の意見等からの気づき】
グループワークが好評だったので、引き続き取り入れる。課題が多かった、文字制限が厳しかったという意見があったので改善する。

【学生が準備すべき機器他】
初回から授業支援システムにアクセスできるように準備しておいてください。
資料やお知らせは、WebClass経由で配布します。授業時間中にアクセスできるようにパソコンやスマホ・タブレットなども機器を準備してください。

【その他の重要事項】
受講生の要望や理解度をふまえて、授業計画や内容は変更することがありますので予めご了承ください。成績評価や課題について説明しますので、受講を希望する方は、第1回目の授業に出席するようにしてください。

【Outline (in English)】
【Course outline】 This course deals with the Environmental Education, and Education for Sustainable Development(ESD). you will learn about environmental education and ESD, understand the role of education for a sustainable society, and further deepen our own thoughts.

【Learning Objectives】　At the end of the course, students are expected to explain the role and examples of Environmental Education and ESD.
【Learning activities outside of classroom Before/after】each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Policies】 Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (35%), term-end examination (15%), and in-class contribution with comment sheet.

EDU200MA（教育学 / Education 200）
成人学習のデザイン（生涯学習支援論Ⅱ）

久井　英輔

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水1/Wed.1　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会教育における実践的な学習プログラムの作成手法や作成の際に必要な視点について解説し、それらの知識を活用して、地域社会の背景を踏まえた学習プログラム案作成のグループワークを行う。
（授業の目的・意義）
グループワークによる学習プログラム案の作成というプロセスを通じて、社会教育職員あるいは社会教育における学習支援者に求められる実践知（理論知を現実の状況に応じて適切に活用する能力）を体得する。

【到達目標】
社会教育における様々な学習支援技法を活用した学習プログラムの作成手法を理解する。また、これらの知識を生かして、地域社会の背景を踏まえた学習プログラム案を作成する基本的な実践力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
最初の数回は、学習プログラム作成の基本的手法を学んだうえで、既存の学習プログラム（公民館などの社会教育施設が実際に実施した講座）を学生が検討し、学習プログラムに対する批評眼を養う。
これらを踏まえて、具体的な自治体／地域を想定して、グループワークで学習プログラム案（対象地域の特性の把握、実際の自治体社会教育計画の把握、学習プログラムの目的・概要と展開案、参加者対象アンケート案、広報案）を作成する。
作成した学習プログラム案については、教員、ゲストコメンテーター（社会教育施設職員）からだけでなく、学生相互にコメントし、個々人でより改善を進めたものを最終レポートとして提出する。グループワークでの成果に対する教員からのフィードバックは、授業内でのディスカッションを通して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス：社会教育における学習プログラムとは	社会教育における学習プログラムの特色について概観する
第2回	学習プログラム作成の現場から（ゲストスピーカー講義）	ゲストスピーカー（社会教育施設職員）から学習プログラム作成、実施、評価の実際について、情報提供していただく。
第3回	学習プログラム作成の基本的な手法①	社会教育の学習プログラム案作成の基本的な視点、および標準的な手順について解説する。
第4回	学習プログラム作成の基本的な手法②	地域社会の特性・課題把握、自治体社会教育計画との関連性、学習成果活用との関連性、広報の手法、調査データ活用、評価手法、など学習プログラムの企画・実施・評価に必要な構成要素について詳細に解説する。
第5回	学習プログラムの実例検討①	社会教育施設等における既存の学習プログラムを各受講者が選定しその詳細を調査する。
第6回	学習プログラムの実例検討②	社会教育施設等における既存の学習プログラムについて、各受講者が選定したプログラムの意義について発表し、質疑応答を行う。
第7回	学習プログラムの実例検討③	社会教育施設等における既存の学習プログラムについて、各受講者が選定したプログラムの改善すべき点について発表し、質疑応答を行う。
第8回	地域課題の把握	任意の地域（市町村など）を各受講者が選定し、その地域の課題、教育・学習・文化環境や、社会教育に関わる政策環境について個人レポートの発表を通じて把握する。
第9回	学習プログラム案の作成①	任意の地域を対象とした個人レポートの成果を基に、グループに分かれて一つの地域を選定し、地域社会の課題について、またその課題を背景とした学習プログラムの目的・概要を作成する。
第10回	学習プログラム案の作成②	グループ毎に、学習プログラム各回実施内容の詳細、学習成果活用の方向性、広報手法等に関する案を作成する。
第11回	学習プログラム案の作成③	グループ毎に、学習プログラムの受講者アンケート案、評価方法に関する案を作成する。
第12回	学習プログラム案の発表①	グループ毎に完成した学習プログラム案を発表する。
第13回	学習プログラム案の発表②	グループ毎の学習プログラム案について、学生間の質疑応答や社会教育施設職員（ゲストコメンテーター）を通じてその意義と課題を論じる。
第14回	学習プログラム案の振り返り	グループ毎に学習プログラム案の作成プロセスを振り返り、改善すべきポイントを明確化する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・個人ワーク、グループワークともに、授業時間外での準備時間が十分に必要となるので、留意すること。
・各回の授業後、参考書や授業内で提示した参考文献の関連箇所を読むこと。
・本授業の準備学習・復習時間は合わせて各回4時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
髙井正・中村香編『生涯学習支援のデザイン』玉川大学出版部、2019年
国立教育政策研究所社会教育実践研究センター（清國祐二編集代表）『生涯学習支援論』ぎょうせい、2020年

【成績評価の方法と基準】
各回のコメントシート　30％
グループワークへの貢献度　20％
個人発表・グループ発表　25％
全体でのディスカッションへの貢献度　15％
学習プログラムの改善案（最終の個人レポート）　10％

【学生の意見等からの気づき】
受講者数によってグループワーク、発表、質疑応答にかける時間が大きく変化する授業である。例年受講者数がかなり変動するので、スケジュール、タイムテーブルについては、学生数に応じてある程度柔軟に対応できるよう心がけたい。また、後半のグループワークについて学生からの要望をうけて、グループワーク開始の際の工夫、またグループワーク実施回数増を予定している。

【学生が準備すべき機器他】
ノートPC（グループワーク等で使用）

【その他の重要事項】
本科目は、社会教育主事講習等規程第11条に規定された「生涯学習支援論」に該当します。社会教育主事任用資格取得、社会教育士（養成課程）の称号取得のための必修科目です。

【Outline (in English)】
(Course Outline)
The aims of this course are to provide students with knowledge on practical methods for planning learning programs in social education, and to supports group work of students for planning learning programs by utilizing basic knowledge.
(Learning Objectives)
The goals of this course are to help students to acquire “practical knowledge” (the ability of utilizing theoretical knowledge according to situation) for staffs or learning supporters of social education, by experiencing the process of planning learning programs.
(Learning Activities Outside of Classroom)
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
(Grading Criteria /Policy)
Final grade will be calculated according to the following process:
Submission of comment sheets: 30%
Contribution to group work: 20%
Individual presentation and group presentation: 25%
Contribution to discussion in class: 15%
Term-end report: 10％

EDU200MA（教育学 / Education 200）

生涯学習支援論Ⅰ

松橋　義樹

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木1/Thu.1　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・授業の概要
　生涯学習支援に関する事項として、学習支援に関する教育理論、効果的な学習支援方法、参加型学習の実際とファシリテーション技法に関する講義および演習を行う。
・授業の意義・目的
　社会教育主事に求められる資質・能力のうち、学習者の多様な特性に応じた学習支援に関する知識及び技能の習得を図る。

【到達目標】
　学習支援に関する教育理論については、発達課題と学習課題、学習者及び学習内容の捉え方、多様な学習の形態・方法について理解する。効果的な学習支援方法については、コーディネートおよびカウンセリングの技法、情報提供と学習相談の方法、多様なメディアの活用方法を習得する。参加型学習の実際とファシリテーション技法については、主に学習者・学習内容別の参加型学習の進め方を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
　毎回、予習課題と復習課題を出題し、授業の冒頭で予習・復習課題への解答に対する教員からのコメントを行う。その後、各回のテーマに即した講義および演習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	生涯学習支援の多様性	生涯学習支援は学習者・学習目的・学習内容・学習方法などのいずれの側面においても多様であることを、実践例をもとに解説する。
第2回	生涯発達論の意義と展開	生涯学習支援における生涯発達論の意義とともに、社会の変化に伴う生涯発達論の展開について解説する。
第3回	学習者としての青少年理解	学習としての青少年の特徴について、青少年を対象とした各種調査結果をもとに解説する。
第4回	学習者としての成人理解	学習としての成人の特徴について、アンドラゴジーをはじめとする成人学習論をもとに解説する。
第5回	学習者としての高齢者理解	学習としての高齢者の特徴について、ジェロゴジーをはじめとする各種理論をもとに解説する。
第6回	学習情報提供・学習相談の実際	社会教育施設等で行われている学習情報提供・学習相談の現状と課題および具体的手法について、実践例をもとに解説する。
第7回	社会教育におけるメディア活用の実際	社会教育活動の中でのメディア活用の現状と課題および具体的手法について、実践例をもとに解説する。
第8回	社会教育におけるコーディネート・カウンセリングの実際	社会教育活動の中で行われているコーディネート・カウンセリングの現状と課題および具体的手法について、実践例をもとに解説する。
第9回	特別な配慮を必要とする学習者支援の基本的な考え方	特別な配慮を必要とする学習者を支援する上での基本的な考え方について、社会的包摂や合理的配慮の概念をもとに解説する。
第10回	参加型学習の意義と展開	社会教育活動における参加型学習の意義とともに、社会の変化に伴う参加型学習の展開について解説する。
第11回	青少年教育における参加型学習とファシリテーションの実際	青少年教育における参加型学習とファシリテーションの進め方について、実践例をもとにグループワークを行う。
第12回	成人教育・高齢者教育における参加型学習とファシリテーションの実際	成人教育および高齢者教育における参加型学習とファシリテーションの進め方について、実践例をもとにグループワークを行う。
第13回	特別な配慮を必要とする学習者支援における参加型学習とファシリテーションの実際	特別な配慮を必要とする学習者支援における参加型学習とファシリテーションの進め方について、実践例をもとにグループワークを行う。
第14回	これからの生涯学習支援のあり方	本科目の授業の総括として、これからの生涯学習支援のあり方について講義およびグループワークを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　予習課題および次回の授業資料の講読に毎週1時間、復習課題に毎週1時間取り組むこと。加えて、中間レポートの執筆に10時間、期末レポートの執筆に20時間取り組むこと。

【テキスト（教科書）】
　使用しない。使用する資料は毎回、電子データで配布する。

【参考書】
・清國祐二・国立教育政策研究所社会教育実践研究センター編『生涯学習支援論ハンドブック』ぎょうせい、2020年
・小池茂子・本庄陽子・大木真徳編『生涯学習支援の基礎』学文社、2022年

【成績評価の方法と基準】
・予習課題および復習課題への取組状況　20%
・中間レポート　30%
・期末レポート　50%

【学生の意見等からの気づき】
　個人単位での演習物に対するフィードバックを必ずしも十分に行えていなかったと考えられることから、対面とオンラインを併用したよりきめ細やかなフィードバックを行いたい。

【学生が準備すべき機器他】
　特になし。（各自がパソコンを持参する前提）

【その他の重要事項】
　本科目は、社会教育主事講習等規程第11条に規定された「生涯学習支援論」に該当する。社会教育主事基礎資格取得、社会教育士（養成課程）の称号取得のための必修科目である。

【Outline (in English)】
(Outline)
This course provides students with basic knowledge and skills on educational theories related to learning support, effective methods of learning support, practical participatory learning, and facilitation techniques.
(Learning Objectives)

The goal of this course is to acquire knowledge and skills related to learning support tailored to the diverse characteristics of learners.
(Learning activities outside of classroom)
Spend 2 hours each week on pre-class assignments and reading materials for the next lesson, and 1 hour each week on review assignments. Additionally, dedicate 15 hours to writing the final report.
(Grading Criteria/Policy)
・Engagement in pre-class and review assignments:30%
・Participation in group work:30%
・Final report:40%

BSP200MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

メディアリテラシー実習Ⅰ

坂本　旬

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水4/Wed.4　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
メディアリテラシーの基本概念と映像言語の基本を学ぶ。受講生はメディアリテラシーの基本原理を理解し、それを用いて短い映像作品を制作することによって、メディアリテラシーの基礎を実践的に身につける。

【到達目標】
・受講生はメディアリテラシーの概念を理解し、メディアリテラシーの概念を説明できる。
・メディアリテラシーにおける映像言語の基礎知識を理解する。
・基本的な映像制作能力を身につけ、メディアリテラシーの概念を意識した短い映像を制作することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
メディアリテラシーの歴史を学び、基礎概念を学びながら映像制作の基本的な技法を習得する。前半はテレビ番組や映画などの映像を用いて、映像言語とメディアリテラシーの基本的知識を習得する。後半はデジタル・ストーリーテリングや公共広告などの短い映像制作実習を行う。
・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
・良いリアクションペーパーは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。
・課題等の提出・フィードバックは授業支援システムを通じて行う予定。
・オフィス・アワーで、課題（試験やレポート等）に対して講評する。
・最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。
この授業は、基本は対面とし、必要に応じて、オンラインで実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要および必要機器の説明（Zoomによるオンライン授業）
第2回	メディアリテラシーの基本	メディアリテラシーの基礎概念を学ぶ
第3回	メディアリテラシーの原理	メディアリテラシーの基本原理を学ぶ
第4回	メディアリテラシーの歴史	メディアリテラシーの歴史を学ぶ
第5回	メディアの読み解きを学ぶ	メディアのジャンルと分析の方法を学ぶ
第6回	デジタル・ストーリーテリングの基礎	デジタル・ストーリーテリングの理論と技法を学ぶ
第7回	デジタル・ストーリーテリングの作り方	デジタル・ストーリーテリングの制作方法を学ぶ
第8回	デジタル・ストーリーテリング作品の発表	課題のデジタル・ストーリーテリング作品の発表を行う
第9回	現代社会のメディア	広告やPV、ニュースなど身の回りにあるさまざまなメディア・メッセージを学ぶ
第10回	広告メディアとメディアメッセージ	広告映像の中にあるメディア・メッセージの読み解き方を学ぶ
第11回	広告メディアと表現技法	広告映像の表現技法を学ぶ
第12回	公共広告の制作方法	公共広告の作り方を学ぶ
第13回	映像編集の方法	映像編集の基本的な方法を学ぶ
第14回	公共広告の構想	公共広告の絵コンテの発表会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外では、授業期間中提示された課題の制作を行う。なお、本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
坂本旬『メディアリテラシーを学ぶ』大月書店、2022年

【参考書】
坂本旬『メディア情報教育学』法政出版局、2014年
坂本・山脇編著『メディアリテラシー　吟味思考を育む』時事通信社、2021年
寺崎里水・坂本旬『地域と世界をつなぐSDGsの教育学』法政大学出版局、2021年

【成績評価の方法と基準】
小テスト30％、提出物50％、平常点20％
授業評価基準（ルーブリック）
・基本
積極的に授業に参加し、発言する
静止画・動画による映像作品を制作する
締め切りに間に合うように作品を提出する
振り返りレポートを書いて提出する
・発展
メディアリテラシーの5つのキークエスチョンを理解している
映像の表現技法を説明することができる
絵コンテを作ることができる
映像編集の方法を理解し、パソコンで編集ができる
・応用
映像の企画・取材・制作が一人でできる
他者に適切なアドバイスや支援ができる
授業以外のさまざまな社会活動に学んだことを活用できる

【学生の意見等からの気づき】
メディアリテラシーの基本を理解することが良い作品制作につながることが理解できた。

【学生が準備すべき機器他】
映像編集可能なWindowsまたはMacノートブックPCを用意すること。
編集ソフトとして無料版ダビンチ・リゾルブ(DavinciResolve)を推奨する。
https://www.blackmagicdesign.com/jp/products/davinciresolve/
カメラとして使用できるスマートフォンやデジタルカメラを用意すること。

【その他の重要事項】
本授業では動画の提出に法政大学のBOXを使用する。使用方法は以下のリンクを参照すること。
https://netsys.hosei.ac.jp/protected/manual/distance/manual-box.html

【他の授業との関連】
「メディアリテラシー実習Ⅰ」は映像制作の基本を学び、「メディアリテラシー実習Ⅱ」はドキュメンタリー映像制作を行う。ⅠとⅡは連続して履修すること。また、3年次以上では「キャリアデザイン学総合演習」を履修することが望ましい。

【キャリアデザイン学部より】
本科目を履修するには3月下旬の体験型選択必修科目ガイダンスに出席し、選抜に合格する必要があります。必ず掲示で詳細を確認してください。

【Outline (in English)】
To study the core concepts of media literacy
To explore how the media construct their messages
To learn how to make a Public Service Announcement
The goal of the course is for students to understand the concept of media literacy and the language of video, to acquire video production skills, and to be able to produce short videos. Students will produce videos outside of class time. Evaluation will be based on 30% quizzes, 50% submissions, and 20% study attitude.
Students need to work outside of the classroom to create their work. The amount of time varies depending on the student,but Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

BSP200MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

メディアリテラシー実習 II

坂本　旬

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水4/Wed.4　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
受講生は、メディアリテラシーの基礎概念に関する学習を土台に、ドキュメンタリーの技法と分析手法を学び、ショート・ドキュメンタリーを制作する。

【到達目標】
・メディアリテラシーの観点からドキュメンタリーの歴史と理論を学ぶ
・メディアリテラシーの概念を用いてドキュメンタリーを分析する
・取材による実践的なドキュメンタリー映像の制作および評価を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
本授業は、「メディアリテラシー実習Ⅰ」の学習を土台に、短いドキュメンタリー映像制作を行い、基本的な映像制作の方法を学ぶ。なお、本授業は春学期に「メディアリテラシー実習Ⅰ」を履修し、メディアリテラシーの基本概念を学習した学生のみが履修できる。「メディアリテラシー実習Ⅱ」のみの受講は認めないので、注意すること。
・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
・良いリアクションペーパーは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。
・課題等の提出・フィードバックは授業支援システムを通じて行う予定。
・オフィス・アワーで、課題（試験やレポート等）に対して講評する。
・最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。
この授業は、基本は対面とし、必要に応じてオンラインとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・公共広告作品上映会	メディアリテラシー実習Ⅰの受講生が作った公共広告映像作品の上映を行う
第2回	メディアリテラシーとドキュメンタリーの基礎	ドキュメンタリー映像の基礎理論を学ぶ
第3回	メディアリテラシーとドキュメンタリーの歴史	ドキュメンタリー映像の歴史を学ぶ
第4回	メディアリテラシーとドキュメンタリーの構造	ドキュメンタリーのシーンやカットの構造を学ぶ
第5回	カメラ・マイクの使い方	施設の使い方とカメラとマイクの基本的な使い方を学ぶ。
第6回	ビデオ撮影実践法	ビデオ撮影の実際のノウハウを実践的に学ぶ。
第7回	構成・絵コンテの作成	実際に企画書や絵コンテを制作し、映像の構成を組み立てる。
第8回	企画の発表	受講生ひとりずつによる企画の発表。
第9回	編集の仕方(1)キャプチャーの仕方	パソコンに撮影した動画を取り込む方法を学ぶ。
第10回	編集の仕方(2)編集の基本	動画編集の基本を学ぶ。
第11回	編集の仕方(3)音響とテロップ	動画に音声・音楽やテロップを入れる方法を学ぶ。
第12回	編集の仕方(4)仕上げ	編集の仕上げの方法を学ぶ。
第13回	編集作業の点検	それぞれの編集作業の点検を行う。
第14回	発表会	制作映像の発表会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ロケハンや取材、撮影、編集はすべて各人が課外時間に行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
坂本旬『メディアリテラシーを学ぶ』大月書店、2022年

【参考書】
坂本旬『メディア情報教育学』法政出版局、2014年
坂本・山脇編著『メディアリテラシー　吟味思考を育む』時事通信社、2021年
寺崎里水・坂本旬『地域と世界をつなぐSDGsの教育学』法政大学出版局、2021年

【成績評価の方法と基準】
小テスト30％、提出物50％、平常点20％
授業評価基準（ルーブリック）
・基本
積極的に授業に参加し、発言する
静止画・動画による映像作品を制作する
締め切りに間に合うように作品を提出する
振り返りレポートを書いて提出する
・発展
メディア・リテラシーの5つのキークエスチョンを理解している
映像の表現技法を説明することができる
絵コンテを作ることができる
映像編集の方法を理解し、パソコンで編集ができる
・応用
映像の企画・取材・制作が一人でできる
他者に適切なアドバイスや支援ができる
授業以外のさまざまな社会活動に学んだことを活用できる

【学生の意見等からの気づき】
セルフドキュメンタリーが多くなっているが、ドキュメンタリーの最初の一歩として肯定的に捉えている。

【学生が準備すべき機器他】
映像編集可能なWindowsまたはMacノートブックPCを用意すること。
編集ソフトとして無料版ダビンチ・リゾルブ(DavinciResolve)を推奨する。
https://www.blackmagicdesign.com/jp/products/davinciresolve/
カメラとして使用できるスマートフォンやデジタルカメラを用意すること。
本授業では動画の提出に法政大学のBOXを使用する。使用方法は以下のリンクを参照すること。
https://netsys.hosei.ac.jp/protected/manual/distance/manual-box.html

【その他の重要事項】
「メディアリテラシー実習Ⅰ」で身につけたスキルをもとに、ひとり一つの作品の制作を行う。共同制作は認めないので注意。実践的な学習のため、無断欠席は禁止する。授業時間外の学習活動が多いため、アルバイトやサークル活動が忙しい学生は注意すること。また、春学期の「メディアリテラシー実習Ⅰ」を履修していない学生は原則として履修できない。

【キャリアデザイン学部より】
本科目を履修するには3月下旬の体験型選択必修科目ガイダンスに出席し、抽選に合格する必要があります。必ず掲示で詳細を確認してください。

【履修条件】
本科目は「メディアリテラシー実習Ⅰ」を習得（S〜C-）した場合のみ履修可能です。

【Outline (in English)】
To explore how the core concepts of media literacy are adapted to the documentary
To study how to make and evaluate the documentary
The goal of the course is for students to understand the history and concepts of documentary video and to be able to produce short documentary videos. Students will produce videos outside of class time. Evaluation will be based on 30% quizzes, 50% submissions, and 20% study attitude.
Students need to work outside of the classroom to create their work. The amount of time varies depending on the student, but Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

環境と資源

中嶋　吉弘

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地球で大繁栄している人類が今後も生存するには資源、エネルギー、環境保全などに対するルールが必要になって来ている。なぜ循環型社会の構築が必要なのか地球の成り立ち、太陽光を唯一のエネルギー源とした自然環境を説明しながら理解を深めたい。

【到達目標】
地球環境は閉鎖系で原則として元素の増減は無く、物質も出入りしない事の理解を得る。限り有る資源の活用にはルールが必要でフェアーでなければならない。太陽光を原点とした自然エネルギーの有効利用は環境保全や永続性の観点からも必須である事を確認します。研究開発がどのように我々の生活に結びつくのか？　環境化学（科学）に興味を持てる様にしたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
環境問題や資源枯渇の問題が注目されているが、これらの問題が必ずしも一般の人々に正しく理解されているとは言えないのが現実である。この講義では環境問題やエネルギー、資源等の問題について、理科系の学部学生として最低限知っておく事が望ましい知識を伝えるとともに、これらの社会的な問題に対して問題意識を持つきっかけとなる様な機会を作る事をねらいとします。課題などに対しては学習支援システムなどを用いてフィードバックする。春学期の授業は，原則として対面での講義を行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	担当講師の自己紹介と本講義の概要、これまでの研究内容と成果の紹介などを話ながら、今後の授業方針を告知します。
第2回	地球科学の基礎	我々人類は地球上で誕生し、進化を経て地球環境の恩恵と受ける一方で、様々な問題を引き起こしています。第２回では原始地球の誕生から生物の進化、人類の誕生に至る現在の地球を取り巻く環境を、『大気』・『水域』・『土壌』の観点から講義します。
第3回	生態系と物質循環	第２回に引き続き、第３回では地球環境の現状について、『生態系』と『物質循環』の観点を加えて、生物と物質の交換を講義します。
第4回	環境保護と環境基準	科学技術の発展は人類の生活を豊かにする一方で、多くの環境および資源に関する問題を生み出しています。第４回では環境問題の歴史を振り返りながら、人類と環境汚染・環境保護・健康影響について講義します。
第5回	温室効果気体と気候変動	現在最も解決すべき環境問題として、温室効果気体の増加とそれに伴う気候変動が挙げられます。第５回では温室効果気体に関します基本的な科学的知見と気候変動に関します状況について講義します。
第6回	オゾン層破壊とオゾンホール	オゾン層破壊は国際的な枠組みが定められた大気環境学のモデルケースです。第６回ではオゾン層破壊のメカニズムとオゾンホールの発生過程、国際的な枠組みである『モントリオール議定書』とオゾン層の現状について講義します。
第7回	大気汚染と生態系への影響	『光化学オキシダント』や『PM2.5問題』、『酸性雨』などの大気汚染は我々が最も身近に接してきた環境問題です。第７回ではこれら大気汚染問題の基礎と現状、生態系への影響（第３－４回と一部重複）を講義します。
第8回	マイクロプラスチック汚染とPOP	最近マイクロプラスチック汚染が最近の環境問題として警鐘を鳴らし、これを受けてプラスチックの削減運動が進められています。第８回では『マイクロプラスチック』とは何か、なぜ発生しますのか、何が問題なのか、そしてマイクロプラスチック削減運動の現状を講義します。
第9回	資源の有効利用	人類は地球上の様々な資源を活用することで発展を遂げ、一方で環境問題を引き起こしています。第９回では人類の歴史を振り返りながら、人類が活用している、または今後活用が期待されている様々な資源について講義します。
第10回	化石燃料の今昔と新規燃料	２１世紀においても人類は多くの石油や石炭を使用し、さらに『シェールガス』や『メタンハイドレート』などの新規の化石燃料の利用を模索しています。第１０回では従来の石油石炭に加え、シェールガスやメタンハイドレートなどの化石燃料の基礎と問題点、そして近年盛んに利用されているバイオ燃料、木質バイオマス発電や水素の利用について講義します。
第11回	非化石燃料によるエネルギー獲得の現状	オイルショック以来、わが国ではエネルギー資源に関する議論が現在も続けられています。また世界に目を向けると、温室効果気体の増加に伴う脱炭素社会の行動が要求されています。第１１回では太陽光や風力、地熱などの発電および、燃料電池、原子力発電の仕組みと問題点を考えていきます。

第12回	ゴミ問題とリサイクル	『ゴミ問題』は特に大都市における最も身近な環境問題であり、その解決としてのゴミの『リサイクル』が大きな課題になっています。第１２回ではゴミ処理とリサイクルに関する基礎と現状について講義します。
第13回	バイオマスの有用性	マイクロプラスチック問題の解決策の一つとして、『紙製品』の有効利用が模索されています。また化石燃料使用による温室効果気体の増加に対する解決策の一つとして、木質資源によるバイオ燃料獲得が議論されています。本講義では環境と資源の問題の解決策として有望視されている紙や木材などの『バイオマス』や、微生物の有効利用について講義する。
第14回	『環境と資源』まとめ	第２～１３回にかけて、環境と資源に関する現状と問題点および解決策について講義してきた。第１４回では総仕上げとして、人類をとりまく環境および資源に関する諸問題について振り返り、現状で議論されている解決策についてその有用性と今後起きる可能性がある問題点などを議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
特に興味あるテーマに関しては授業の参考になるレベルまで学習し、授業時間内または終了後に質問する事。さらに、授業終了後自由に担当教員に議論を持ちかけるようにして下さい。

【テキスト（教科書）】
特にありません。

【参考書】
『環境化学（科学）』や『地球科学（化学）』に関する教科書であれば参考になります。

【成績評価の方法と基準】
3回のレポート課題（75%）に平常点（25%）を考慮して評価します。なお3回のレポートは全て提出が必須であり、１回でも未提出の場合は不可となりますのでご注意ください。

【学生の意見等からの気づき】
多くの学部／学科の学生が参加する講義です。多人数の時は教員の声が聞きにくい、黒板の字が見えにくい等有りますが積極的に前方で講義を受ける事をお勧めします。最新のニュースや物理および化学に関する基礎知識などで（一見すると）本題から外れる事が有りますが、可能な限り簡潔にまとめるようにします。

【Outline (in English)】
[Outline]
This course will introduce basic knowledge of the changes in the natural environment. It will also introduce natural resources that are on the earth which humans use.
[Course outline]
In order for human beings, who are prosperous on the earth, to continue to survive, rules regarding resources, energy, environmental conservation, etc. are becoming necessary. I would like to deepen my understanding while explaining the origin of the earth and the natural environment where sunlight is the only energy source, why it is necessary to build a sound material-cycle society.
[Learning Objectives]
It is understood that the global environment is a closed system, and in principle, there is no increase or decrease in elements, and substances do not enter or leave. Utilization of limited resources requires rules and must be fair. We confirm that effective use of natural energy with sunlight as the origin is essential from the viewpoint of environmental conservation and permanence. How does R &D lead to our lives? I want to be interested in environmental chemistry (science).
[Learning activities outside of classroom]
4 hours is the standard for studying outside class hours such as preparation and review of this class. For topics of particular interest, study to a level that will be helpful for the class, and ask questions during or after class hours. In addition, feel free to approach the instructor in charge after the class.
[Grading Criteria /Policy]
Evaluate 3 report assignments (75%) with normal points (25%) in mind.
Please note that all three reports must be submitted, and if even one report has not been submitted, it will not be possible.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

環境と資源

中嶋　吉弘

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地球で大繁栄している人類が今後も生存するには資源、エネルギー、環境保全などに対するルールが必要になって来ている。なぜ循環型社会の構築が必要なのか地球の成り立ち、太陽光を唯一のエネルギー源とした自然環境を説明しながら理解を深めたい。

【到達目標】
地球環境は閉鎖系で原則として元素の増減は無く、物質も出入りしない事の理解を得る。限り有る資源の活用にはルールが必要でフェアーでなければならない。太陽光を原点とした自然エネルギーの有効利用は環境保全や永続性の観点からも必須である事を確認します。研究開発がどのように我々の生活に結びつくのか？　環境化学（科学）に興味を持てる様にしたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
環境問題や資源枯渇の問題が注目されているが、これらの問題が必ずしも一般の人々に正しく理解されているとは言えないのが現実である。この講義では環境問題やエネルギー、資源等の問題について、理科系の学部学生として最低限知っておく事が望ましい知識を伝えるとともに、これらの社会的な問題に対して問題意識を持つきっかけとなる様な機会を作る事をねらいとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	担当講師の自己紹介と本講義の概要、これまでの研究内容と成果の紹介などを話ながら、今後の授業方針を告知します。
第2回	地球科学の基礎	我々人類は地球上で誕生し、進化を経て地球環境の恩恵と受ける一方で、様々な問題を引き起こしています。第２回では原始地球の誕生から生物の進化、人類の誕生に至る現在の地球を取り巻く環境を、『大気』・『水域』・『土壌』の観点から講義します。
第3回	生態系と物質循環	第２回に引き続き、第３回では地球環境の現状について、『生態系』と『物質循環』の観点を加えて、生物と物質の交換を講義します。
第4回	環境保護と環境基準	科学技術の発展は人類の生活を豊かにする一方で、多くの環境および資源に関する問題を生み出しています。第４回では環境問題の歴史を振り返りながら、人類と環境汚染・環境保護・健康影響について講義します。
第5回	温室効果気体と気候変動	現在最も解決すべき環境問題として、温室効果気体の増加とそれに伴う気候変動が挙げられます。第５回では温室効果気体に関します基本的な科学的知見と気候変動に関します状況について講義します。
第6回	オゾン層破壊とオゾンホール	オゾン層破壊は国際的な枠組みが定められた大気環境学のモデルケースです。第６回ではオゾン層破壊のメカニズムとオゾンホールの発生過程、国際的な枠組みである『モントリオール議定書』とオゾン層の現状について講義します。
第7回	大気汚染と生態系への影響	『光化学オキシダント』や『PM2.5問題』、『酸性雨』などの大気汚染は我々が最も身近に接してきた環境問題です。第７回ではこれら大気汚染問題の基礎と現状、生態系への影響（第３－４回と一部重複）を講義します。
第8回	マイクロプラスチック汚染とPOP	最近マイクロプラスチック汚染が最近の環境問題として警鐘を鳴らし、これを受けてプラスチックの削減運動が進められています。第８回では『マイクロプラスチック』とは何か、なぜ発生しますのか、何が問題なのか、そしてマイクロプラスチック削減運動の現状を講義します。
第9回	資源の有効利用	人類は地球上の様々な資源を活用することで発展を遂げ、一方で環境問題を引き起こしています。第９回では人類の歴史を振り返りながら、人類が活用している、または今後活用が期待されている様々な資源について講義します。
第10回	化石燃料の今昔と新規燃料	２１世紀においても人類は多くの石油や石炭を使用し、さらに『シェールガス』や『メタンハイドレート』などの新規の化石燃料の利用を模索しています。第１０回では従来の石油石炭に加え、シェールガスやメタンハイドレートなどの化石燃料の基礎と問題点、そして近年盛んに利用されているバイオ燃料、木質バイオマス発電や水素の利用について講義します。
第11回	非化石燃料によるエネルギー獲得の現状	オイルショック以来、わが国ではエネルギー資源に関する議論が現在も続けられています。また世界に目を向けると、温室効果気体の増加に伴う脱炭素社会の行動が要求されています。第１１回では太陽光や風力、地熱などの発電および、燃料電池、原子力発電の仕組みと問題点を考えていきます。

第12回	ゴミ問題とリサイクル	『ゴミ問題』は特に大都市における最も身近な環境問題であり、その解決としてのゴミの『リサイクル』が大きな課題になっています。第１２回ではゴミ処理とリサイクルに関する基礎と現状について講義します。
第13回	バイオマスの有用性	マイクロプラスチック問題の解決策の一つとして、『紙製品』の有効利用が模索されています。また化石燃料使用による温室効果気体の増加に対する解決策の一つとして、木質資源によるバイオ燃料獲得が議論されています。本講義では環境と資源の問題の解決策として有望視されている紙や木材などの『バイオマス』や、微生物の有効利用について講義する。
第14回	『環境と資源』まとめ	第２～１３回にかけて、環境と資源に関する現状と問題点および解決策について講義してきた。第１４回では総仕上げとして、人類をとりまく環境および資源に関する諸問題について振り返り、現状で議論されている解決策についてその有用性と今後起きる可能性がある問題点などを議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
特に興味あるテーマに関しては授業の参考になるレベルまで学習し、授業時間内または終了後に質問する事。さらに、授業終了後自由に担当教員に議論を持ちかけるようにして下さい。

【テキスト（教科書）】
特にありません。

【参考書】
『環境化学（科学）』や『地球科学（化学）』に関する教科書であれば参考になります。

【成績評価の方法と基準】
3回のレポート課題（75%）に平常点（25%）を考慮して評価します。なお3回のレポートは全て提出が必須であり、１回でも未提出の場合は不可となりますのでご注意ください。

【学生の意見等からの気づき】
多くの学部／学科の学生が参加する講義です。多人数の時は教員の声が聞きにくい、黒板の字が見えにくい等有りますが積極的に前方で講義を受ける事をお勧めします。最新のニュースや物理および化学に関する基礎知識などで（一見すると）本題から外れる事が有りますが、可能な限り簡潔にまとめるようにします。

【Outline (in English)】
[Outline]
This course will introduce basic knowledge of the changes in the natural environment. It will also introduce natural resources that are on the earth which humans use.
[Course outline]
In order for human beings, who are prosperous on the earth, to continue to survive, rules regarding resources, energy, environmental conservation, etc. are becoming necessary. I would like to deepen my understanding while explaining the origin of the earth and the natural environment where sunlight is the only energy source, why it is necessary to build a sound material-cycle society.
[Learning Objectives]
It is understood that the global environment is a closed system, and in principle, there is no increase or decrease in elements, and substances do not enter or leave. Utilization of limited resources requires rules and must be fair. We confirm that effective use of natural energy with sunlight as the origin is essential from the viewpoint of environmental conservation and permanence. How does R &D lead to our lives? I want to be interested in environmental chemistry (science).
[Learning activities outside of classroom]
4 hours is the standard for studying outside class hours such as preparation and review of this class. For topics of particular interest, study to a level that will be helpful for the class, and ask questions during or after class hours. In addition, feel free to approach the instructor in charge after the class.
[Grading Criteria /Policy]
Evaluate 3 report assignments (75%) with normal points (25%) in mind.
Please note that all three reports must be submitted, and if even one report has not been submitted, it will not be possible.

SES100XB（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 100）

環境・エネルギー入門

山脇　栄道

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地球環境問題への関心が高まる中、今後の大学生活や卒業後の社会生活の中で環境・エネルギーの問題を避けて通ることはできない。様々な課題や考え方の違いがある中で、それらの問題の本質を正しく理解し、より良い判断が自らできるような視点を身につけていく。

【到達目標】
１．環境・エネルギーが私たちの生活や社会活動と密接に関わるものだという認識を得る。
２．環境・エネルギーの問題に関して世の中で使われるキーワードを正しく理解する。
３．大学で習得する理工学の知識は、これらの問題の正しい理解と解決に繋がり、今後社会に出て、どんな仕事についても役立つのだという認識を得る。
４．広い視野で環境・エネルギーの課題解決の得失を理解し、バランスの取れた考え方を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　授業は、事前に学習支援システムを通じて配布する資料を使った講義形式で実施する。環境・エネルギーに関する状況は、時代とともに少しずつ変わってくるので、WEBからも入手可能で信頼できる最新の情報を整理して提示する。
　環境・エネルギーの問題には、いろいろな考え方や両立の難しい課題もあるので、一方的な講義だけでなく、質疑や議論をする場を設けて、各自の考え方や視点などの違いに気づき、理解を深める。
　各授業後には簡単な小レポートを提出し、講義の理解度や進め方の良否を確認して、改善してゆく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	概論オリエンテーション	授業の進め方、内容等を紹介。環境・エネルギーに対する現在の理解度の一端を自覚する。
2	カーボンニュートラル	カーボンニュートラルというキーワードを理解しながら、環境とエネルギー入門の全体像を概観する。
3	地球環境問題	地球環境問題の全体像を概観する。今後の授業で個別に取り上げない問題については、ここで少し詳しく紹介する。
4	地球温暖化とは	地球温暖化はどのように起こり、どう進んでいこうとしているのかをIPCCの報告書に基づき正しく理解する。
5	気候変動の緩和と適応	気候変動の原因となる温室効果ガスの排出削減対策や、気候変動の影響による被害の回避・軽減対策（適応）について理解する。
6	温室効果ガスの排出削減対策	CO2等温室効果ガスの削減に向けて、どのような取り組みが行われているか理解する。
7	エネエネルギーの需要と供給	エネルギー白書などをベースに、エネルギーの需要と供給の状況と今後の見通しを理解する。
8	再生可能エネルギー	CO2削減のカギとなる再生可能エネルギーについて理解する。
9	グリーンイノベーション	水素エネルギーや電動化などCO2削減に向けたイノベーションの取り組みについて理解する。
10	原子力発電	様々な考え方のある原子力発電について正しい理解を深める。
11	公害問題	日本の公害の歴史と世界の状況を理解する。
12	化学物質	新たに生み出される化学物質のリスクを理解する。
13	廃棄物とリサイクル	廃棄物の処理の状況やリサイクルの取り組みを理解する。
14	資源問題とまとめ	世界の資源の動向として、特に希少金属資源の状況とその対応について理解する。本授業全体を振り返り、補足説明など行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
授業で興味をもったことや、不明確な点について、引用文献などを通じて理解を深める。環境関係のニュースに耳を傾け、自らも身近な環境に役立つ行為を実践する。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず、授業前に学習支援システムに講義資料をアップロードする。紙での配布はしない。

【参考書】
環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書（環境省）
http://www.env.go.jp/policy/hakusyo/
エネルギー白書（経済産業省）
https://www.enecho.meti.go.jp/about/whitepaper/

【成績評価の方法と基準】
評価方法：　毎回小レポート提出（２０％）と全体のまとめレポート（７０％）および授業参画度（１０％）により評価する。
評価基準：　本科目において設定した達成目標を６０%以上達成している学生を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
資料の量が多すぎる、進行が速すぎるとの意見があった一方で、授業の途中での理解度確認や討論の時間をとることが好評であった。資料構成を見直し、より丁寧に理解を深める時間を確保していく。

【学生が準備すべき機器他】
資料の配布やレポート提出は全て学習支援システムを通じて行う。また、授業中に学習支援システムを使ってアンケートを実施するので、パソコン等を持参のこと。

【その他の重要事項】
講師の都合により、オンラインで授業を行う可能性がある。その際は事前に連絡する。

【Outline (in English)】
【Course outline】 The aim of this lecture is to obtain the standpoint to consider and discuss the issues of the environment, energy, and resources to create the sustainable society.

【Learning Objectives】The goals of this course are recognition of the environment and energy issues in our lives and social activities, correct understanding related keywords, motivation of acquiring knowledge of science and engineering at the university and obtain a well-balanced way of thinking.
【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end-report: 70%, Short reports : 20%, in class contribution: 10%

MEC300XB（機械工学 / Mechanical engineering 300）

製品開発工学

吉田　一朗

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

製品開発は，多様な組織が密接に協調しながら，製品を企画し指定された期間内に要求される品質の製品を生産するまでの複雑で組織的な活動です。本講義は，機械工学科の各科目の知識を基礎に，企業や研究機関における製品開発や研究活動のプロセスを学びます。加えて，「データサイエンス」や「品質管理」に必須となる「統計学」について，その基礎を学びます。

また，社会での実践経験（実戦経験）の豊富な方々を招き，開発事例や経験を講義して頂きます。これらを通し，開発企画や仕様決定，製品アーキテクチャ，製品プロトタイピング，製品開発管理などの基礎手法を学んでください。また，産業界の事例により製品開発や研究活動の流れを具体的に把握していきます。

以上の内容を通し，自発的に学ぶ意識や問題を発見できる意識を自ら養い，製品開発，研究活動や問題設定を具体的に進められる基本的な能力をつけて下さい。（この能力や意識は，３年後期の PBL や４年の卒業研究，博士前期課程（修士課程），博士後期課程（博士課程）での研究活動に役立ちます）

上記のような素養が身につけられれば，機械工学の王道系企業に限らず，ＩＴ企業やＡＩ企業，電機メーカ，医療機器メーカ，食品業界，建設業界などの企業への就職を目指しても魅力的な人材として高い評価を受けることに繋がります。

授業担当者は，本講義を通して企業人の視点を学び・感じ取ってもらい，履修学生のみんなが今後のキャリア・進路や就職活動に役立ててもらいたいと思っています。

【到達目標】

履修学生は，複雑な実務活動である製品開発の基本的考え方を学び，事例を通じて現代の製品開発の様相を理解する。機械工学の他の関連科目の役割りや重要性を理解し，製品開発や研究の流れを理解することが到達目標です。

以上の理解によって，自ら進んで自発的に学ぶ意識や自ら問題を発見できる意識を養い，製品開発や研究活動，課題設定を具体的に進められる基本的な能力を養うことも履修学生の到達目標になります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

製品開発工学に関連する機械工学の科目は多い。また，必要な基礎知識を復習しながら，製品開発工学に必要となる手法を学んでもらいたい。授業計画では大きく分けて，製品開発工学の概要，企業の製品開発で必ず必要となる特許，最新の製品開発事例，研究や製品開発での実験・検証おいて重要な計測学の基礎，研究・製品開発において多用される手法などについて学ぶ。理解度を上げるため，理解の状況や進捗に合わせて授業計画の順序などを柔軟に変更する。また，ほぼ毎回レポート課題を課す。適時，課題の解説などや質疑応答などを通じてフィードバックを行なう。

本授業では，新井 武氏，上久保 尚氏（武蔵エンジニアリング㈱ マーケティング戦略部 係長，統括課長），海老裕介氏（伊藤・海老国際特許事務所 代表弁理士），梶原優介氏（東京大学 教授），栗谷龍彦（DMG 森精機㈱ 執行役員），後藤智徳氏（㈱ミツトヨ 執行役員，Ph.D.），田中秀岳氏（上智大学 教授），圓谷寛夫氏（現 精密工学会 事務局長/元 ㈱ニコン ゼネラルマネージャ），中原みき氏（㈱トライエス 取締役），中谷尊一氏（シチズンマシナリー㈱ 現 シニアアドバイザー/元 開発企画部 部長），西村公男氏（日産自動車㈱パワートレイン生産技術本部パワートレイン技術企画部 エキスパートリーダー），橋本信幸氏（現 日本女子大学/元 シチズン時計㈱研究開発センター上席研究員，Ph.D.），藤井章弘氏（現 ㈱エビデント（旧オリンパス㈱イノベーション推進部フェロー），Ph.D.），藤嶋 誠氏（DMG 森精機㈱ 取締役副社長，博士（工学）），宗像令夫氏（㈱ＰＱＭ総合研究所 代表取締役社長/元 リコー），山本和久氏（マツダ株式会社 元 人事室/現 商品戦略本部），湯島 彰（㈱東芝/元 東芝デザインセンター長）（五十音順）ら，研究・開発経験の豊かな方々をお招きし，企業・大学での開発現場における実践的な事例を学ぶ。

以上の方々と授業担当者の講義を通し，研究開発に加え人々の役に立つことや社会貢献の精神・考えを学び，将来の就職活動や自己実現にも役立ててもらいたいと考える。

新型コロナウイルス等の感染症の状況や政府からの非常事態宣言および東京都からの緊急事態措置等が発出される状況となった場合は，春学期中，必要に応じてオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業内容や計画の変更，成績評価の方法などの変更等については，学習支援システムでその都度提示する。また，本授業の開始日も必要に応じて学習支援システム：Hoppii等から通知する。本シラバスに記載の全事項は新型コロナ禍前や非常事態宣言時以外を想定して作成されているため，オンライン式，対面式を含め具体的な授業の進め方などは，学習支援システム：Hoppii等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	製品開発プロセス，研究，開発について	製品開発とそのプロセスの全貌，研究・開発について講義する。
2	特許入門（１）	弁理士の方を招いて特許の基礎から出願の仕方，特許につながるアイディアの出し方まで講義いただく。
3	特許入門（２）	担当教員の 2016年 3月迄の企業経験や企業での特許実績を踏まえた特許の基礎や事例，コツについて講義する。

4	企業における製品開発事例（１）	大手自動車メーカの方を招いて，企業における製品開発の事例や製品開発における大事なポイントや求められる人材について講義いただく。 大学における学び方や姿勢は，高校までとは全く異なること，また，就職活動を有利にするためにも，学生時代に意識改革をしておくことが良いことなどを講義いただく。 また，所属される企業の求める人材などについても紹介いただく。
5	企業における製品開発事例（２）	大手光学機器メーカの方を招いて，企業における製品開発の事例や製品開発における姿勢について講義いただく。 また，所属される企業の求める人材などについても紹介いただく。
6	企業における製品開発事例（３）	大手光学機器メーカの方を招いて，企業における製品開発の事例について講義いただく。また，企業における製品開発や設計業務において，大学の講義内容がいかに重要であるかを講義いただく。 また，所属される企業の求める人材などについても紹介いただく。
7	企業における製品開発事例（４）	大手計測機器メーカの方を招いて，企業における製品開発の事例や製品開発における姿勢について講義いただく。 また，所属される企業の求める人材などについても紹介いただく。
8	企業における製品開発事例（５）	担当教員の 2016年 3月迄の約 8年間の企業における研究・製品開発経験を交えた製品開発の考え方や製品開発事例，大学との共同研究などについて講義する。
9	大学における研究・開発の事例（１）	東京大学 生産技術研究所の教員の方を招いて，大学における研究・開発の事例や企業との共同研究などについて講義いただく。
10	大学における研究・開発の事例（２）	他大学の教員の方を招いて，大学における研究・開発の事例や企業との共同研究などについて講義いただく。
11	統計学の基礎（１）	製品開発には計測が必要不可欠であるが，測定データは必ず統計学の演算を行う。統計の計算を誤れば，間違った分析をしてしまい，製品開発も研究も暗礁に乗り上げる。それほど統計学とその計算は重要である。加えて，統計学は「データサイエンス」や「ＡＩ」を学ぶ際に必須の知識であるため非常に重要である。 統計学の基礎中の基礎から，表，グラフによるデータ処理，度数分布表やヒストグラムの作成方法，企業の現場で使用する統計学などについて講義する。 ３回の講義で統計学の概要がつかめるように，毎回のレポート課題とその答え合わせを実施する。
12	統計学の基礎（２）	製品開発には計測が必要不可欠であるが，測定データは必ず統計学の演算を行う。統計の計算を誤れば，間違った分析をしてしまい，製品開発も研究も暗礁に乗り上げる。それほど統計学とその計算は重要である。加えて，統計学は「データサイエンス」や「ＡＩ」を学ぶ際に必須の知識であるため非常に重要である。 統計学の基礎として，ヒストグラムの分析の仕方，累積度数分布の作成方法，数値による統計処理の種類・計算方法などについて講義する。 ３回の講義で統計学の概要がつかめるように，毎回のレポート課題とその答え合わせを実施する。
13	統計学の基礎（３）	製品開発には計測が必要不可欠であるが，測定データは必ず統計学の演算を行う。統計の計算を誤れば，間違った分析をしてしまい，製品開発も研究も暗礁に乗り上げる。それほど統計学とその計算は重要である。加えて，統計学は「データサイエンス」や「ＡＩ」を学ぶ際に必須の知識であるため非常に重要である。 統計学の基礎として，数値による統計処理の種類・計算方法などについて講義する。 ３回の講義で統計学の概要がつかめるように，毎回のレポート課題とその答え合わせを実施する。
14	計測学の基礎	製品開発には計測が必要不可欠である。その絶対不可欠な計測について講義する。 計測における考え方や必要性，事例，測定機の種類などを講義する。 計測分野は，機械工学系出身の者にとって，もっともノーベル賞に近い分野の一つであるほど重要である。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、3時間を標準とする】

１．身近にある機械を観察し，その本質的機能は何か，なぜそのような構造になっているのか，もっと良い構造は考えられないか，などを考え，問題意識を持って授業に臨むことが期待されます。

２．大学は，社会に出て就職する前の最後の準備期間（学習期間）です。社会に飛び立つと，学生時代のような手厚い教育を受ける機会は激減します。そのため，ぜひ社会に出るまでに，自力で学習できる技術と能力，精神，考えを身に付けられると良いと考えます。この能力は一生ものであり，社会に出た後，どの分野に進んだとしても必ず役に立ちます。

３．機械工学に関する基礎的な科目および設計工学について，よく復習し身につけておくことが重要です。製品開発のための実用的な設計手法は多いが，授業で学んだだけでは真の理解には至りません。自ら課題を設定し，自発的に学ぶ学習態度が望まれます。

【テキスト（教科書）】

教科書については，初回のガイダンスで説明します。

１．必要に応じて授業資料を配布する。

２．トリーズ (TRIZ)の発明原理 40あらゆる問題解決に使える [科学的]思考支援ツール，高木芳徳，ディスカヴァー・トゥエンティワン社（2014年），2,640円（税込）.

【参考書】

１.『101デザインメソッド―革新的な製品・サービスを生む「アイデアの道具箱」』，ヴィジェイ・クーマー，Vijay Kumar，渡部典子（翻訳），英治出版（2015年），2,750円（税込）.

【成績評価の方法と基準】

成績評価は，授業中の課題：80％，期末試験：20% の配分とします（ただし，期末試験を実施しない場合は，課題・レポート：100％となる。期末試験を実施しない場合は，実施の２週間前までにアナウンスする）。

講義中に設定される課題についてのレポート提出状況，レポートの内容および期末試験の結果を総合して成績評価します。

評価基準は，６０%以上が合格になります。

【学生の意見等からの気づき】

① 授業を聞くだけでなく，自ら具体的な製品開発の課題を想定し，授業で学ぶ考え方や手法を積極的に実践し深く理解していくことが望まれます。

② 大学の授業は高校までの授業と異なり，授業の内容を勉強するだけでなく，教師がいなくても自分で学ぶことのできる能力：勉強の仕方を身につける場です。この能力を身に付けて，養えている学生は，卒業研究を含む３・４年生科目で能力を発揮し，更に，企業に勤めてからも活躍しています。

③ 授業の理解を支援する資料を授業支援システムにアップロードすることで学びの自由度を向上させ，授業内容の理解を深めることを可能としています。

【学生が準備すべき機器他】

１．必要に応じて貸与ノートPCや関数電卓が必要。

２．レポート・課題の提出用紙は，Ａ４もしくはＡ３のみを受け付ける。提出用紙サイズは，授業中に指示するので厳守。

【その他の重要事項】

本授業は,「実務経験のある教員による授業」である。授業担当者の吉田は，精密機器メーカで約８年間，実際に販売する製品の開発および最先端の超精密機器の研究開発の実務経験がある。また，特許・知財管理業務の実務経験，および，研究開発者として特許出願経験や登録特許も保有する。

加えて，企業人として大学・研究機関への共同研究の依頼・契約締結の経験，および，逆に大学人として企業・研究機関への共同研究の依頼・受託・契約締結の業務経験を有する。

フィールドワークについては，課題を課す。具体的には，学生本人が興味のある製品や商品，サービスについて市場で流通しているものと比較して考察・発案する課題を課す。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The product development is a complex and organizational activity, and various organizations should cooperate closely to plan products and produce products of required quality within a specified period. In order to understand such product development, in this lecture, students understand the whole product development process based on the knowledges of each lecture of Mechanical Engineering Department.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to understand the processes and concepts of product development.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

The total score score of 60 or more out of 100 is considered acceptable.

MEC400XB（機械工学 / Mechanical engineering 400）

エネルギー変換工学

飯島　晃良

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
種々のエネルギー形態とエネルギー形態間のエネルギー変換の基礎技術を講義する。
更に変換の高効率化、多様性、有効利用、環境調和に関して、現在および将来のエネルギー変換技術を概説する。

【到達目標】
種々のエネルギー形態とエネルギー形態間のエネルギー変換の基礎を学習し、エネルギー変換技術を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義中心の授業を実施する。必要に応じて例題、演習問題を解き、理解を深める。適宜トピックスを取り上げて紹介する。
課題についてのフィードバックは、主に学習支援システムを用いて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義概要	講義の概要、目標、講義日程など
2	エネルギー問題とエネルギー変換	エネルギー事情、エネルギー問題、エネルギーの種類と変換
3	熱力学の基本則	熱力学第一法則、第二法則など
4	熱機関１	熱機関の概要、種類・型式など
5	熱機関２	ガソリンエンジン、ディーゼルエンジンなど
6	熱機関３	ガスタービンなど
7	熱機関４	ジェットエンジンなど
8	熱機関５	蒸気タービン、複合機関など
9	冷凍空調	ヒートポンプと冷凍サイクル
10	再生可能エネルギー	太陽光・風・地熱エネルギー・水力など
11	直接変換１	熱電変換など
12	直接変換２	水素エネルギー・燃料電池など
13	エネルギー有効利用	高密度エネルギ輸送・貯蔵技術、省エネルギ・排熱回収技術など
14	全体まとめ	授業全体の総活・レポート課題など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
熱力学と伝熱工学を必要に応じて復習する

【テキスト（教科書）】
無し

【参考書】
新版　エネルギー変換　斉藤他　東京大学出版会　2006年3月
必要に応じて、講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
出席率70%以上の受講者に対して、期末レポート評価(70%)を主に、課題(30%)を勘案の上、評価する。
評価基準：　本科目において設定した到達目標を60%以上達成している学生を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
無し

【Outline (in English)】
(Course outline)
This course provides an introduction to basic concepts of various energies and the energy conversion technologies from one of energy to other energy. additionally, this course provides energy conversion technologies relate to the realization of high conversion efficiency, effective utilization, and environmental harmony.
(Learning objectives)
The aim of this course is to achieve a comprehensive understanding of the fundamental concepts of energy and energy conversion technology.
(Learning activities outside of classroom)
Students will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time will be more than four hours for a class.
(Grading criteria/Policies)
Your final grade will be decided according to the following process:
・The ratio of class attendance over 70％（over 10/14) will be decided the final grade.
・Exercises in lecture 30%, and term-end report 70%.
To pass, students must earn at least 60 points out of 100.

ELC200XD（電気電子工学 / Electrical and electronic engineering 200）

基礎アナログ電子回路

安田　彰

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
電子回路に用いられる能動素子の機能，動作，特性およびその解析法を理解する．また，基本的な電子回路の構成方法およびその解析方法，設計法，実験法，シミュレーション法を習得する．

【到達目標】
トランジスタを１つ用いたアナログ電子（増幅器）の設計が行えるようになる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
トランジスタの動作原理から1つのトランジスタを用いた基本回路を講義する．次に，2つのトランジスタを用いた各種回路を解説する．授業では，spieceなどの回路シミュレータを用いた回路設計や実際のトランジスタを用いた実験を通して理解を深める．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	受動素子	抵抗，キャパシタ，インダクタ，電源，制御電源
第2回	電子管および半導体	電子管，共有結合と半導体，不純物半導体，ｐｎ接合とダイオード，ダイオード特性と等価回路
第3回	トランジスタの基本特性１	ｎｐｎ接合とｐｎｐ接合，トランジスタの動作と静特性，電流増幅率（α，β）
第4回	トランジスタの基本特性２	FET，MOS　FETno動作と静特性
第5回	トランジスタの小信号等価回路	トランジスタの小信号等価回路の導出
第6回	トランジスタを用いた基本回路1	回路の諸特性，バイアス回路，エミッタ接地回路
第7回	トランジスタを用いた基本回路2	ベース接地回路，コレクタ接地回路
第8回	トランジスタを用いた基本回路の実験	エミッタ接地回路の動作実験
第9回	トランジスタを用いた基本回路３	２つのトランジスタを使った基本回路と特性
第10回	Spiceによるシミュレーション	基本回路のSpiceによるシミュレーション
第11回	差動増幅回路1	トランジスタ差動増幅回路の構成，大信号特性，小信号等価回路
第12回	差動増幅回路2	差動利得，同相利得および同相成分抑圧比とその改善法
第13回	カレントミラー回路	カレントミラー回路の構成と特性
第14回	能動負荷を用いた増幅器	能動負荷を用いた増幅器の構成と特性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
講義で行う予定の内容について教科書をあらかじめ読んで講義に臨むこと．授業では，ブレッドボードを用いた実験や，spiceを用いたシミュレーションを行う．講義後は，これらブレッドボードやspiceを用いて電子回路の理解を深める．

【テキスト（教科書）】
藤井信生「アナログ電子回路」オーム社

【参考書】
　原田耕介，二宮　保，中野忠夫　共著「基礎電子回路」コロナ社

【成績評価の方法と基準】
小テスト(20%)，レポート（40％）試験(40%)

【学生の意見等からの気づき】
電子回路の動作のイメージが持てるような説明を行います．

【その他の重要事項】
「電気回路」の知識を前提に行う

【Outline (in English)】
Understand the function, operation, characteristics and analysis methods of active devices used in electronic circuits. In addition, This course introduces a basic electronic circuit and its analysis method, experiment method, simulation method.

ELC200XD（電気電子工学 / Electrical and electronic engineering 200）

応用アナログ電子回路

安田　彰

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
電子回路の周波数特性の解析方法を理解する．またフィードバック回路の機能，動作，特性およびその解析法を習得する．また，演算増幅器，発振回路等の応用回路を理解する．

【到達目標】
周波数特性を含めた，トランジスタ回路の解析方法を身につける．また，カレントミラー，差動増幅器といった基本回路の設計が出来るようになる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
トランジスタなどの能動素子を用いた電子回路の周波数特性の解析法について学ぶ．次にフィードバック回路の原理を学ぶ．また，応用回路として，発振回路，変復調回路，フィルタ等について学ぶ．また，spieceなどの回路シミュレータを用いた回路設計や実際のトランジスタを用いた実験を通して理解を深める．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	増幅器の周波数特性1	周波数特性の表現法，低域および高域遮断周波数，トランジスタ増幅器の周波数特性
第2回	増幅器の周波数特性2	ミラー効果，利得帯域幅
第3回	増幅器の周波数特性3	トランジスタ増幅器の周波数特性改善法
第4回	フィードバック回路1	フィードバック回路の構成法と特徴
第5回	フィードバック回路2	フィードバック回路の周波数特性および位相補償回路
第6回	出力回路	出力回路の構成（A級，B級，AB級）と特性
第7回	演算増幅回路1	演算増幅回路の基本構成，帰還増幅器の入出力抵抗，無帰還利得，帰還利得
第8回	演算増幅回路2	演算増幅器を用いた反転増幅器，非反転増幅器，加算器，差動増幅器，積分器，微分器
第9回	雑音1	雑音とその性質，熱雑音，トランジスタの雑音
第10回	雑音2	雑音指数，増幅器の雑音特性
第11回	発振回路	発振回路の分類と発振条件（振幅条件，周波数条件），LC発振器の構成，RC発振器の構成
第12回	変復調回路1	振幅変調回路（ベース，コレクタ変調回路，平衡変調回路）
第13回	変復調回路2	振幅復調回路（2乗検波，包絡線検波）
第14回	フィルタ回路	フィルタ基本回路

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
講義で行う予定の内容について教科書をあらかじめ読んで講義に臨むこと．授業では，ブレッドボードを用いた実験や，spiceを用いたシミュレーションを行う．講義後は，ブレッドボードやspiceを用いて電子回路の理解を深める．

【テキスト（教科書）】
藤井信生「アナログ電子回路」オーム社

【参考書】
原田耕介，二宮　保，中野忠夫　共著「基礎電子回路」コロナ社

【成績評価の方法と基準】
小テスト(20%)・レポート（40%)・試験（40%）

【学生の意見等からの気づき】
授業には，PCにスライドをダウンロードするか，スライドを印刷することを薦めます．必要なメモは，スライドの上に書き込んで下さい．

【学生が準備すべき機器他】
ノートPC
LTspice

【Outline (in English)】
This course deals with how to analyze the frequency characteristics of electronic circuits. This course introduces the function, operation, characteristics and analysis method of the feedback circuit. This course also introduces application circuits such as operational amplifiers and oscillation circuits.

ELC300XD（電気電子工学 / Electrical and electronic engineering 300）

アナログ回路デザイン

安田　彰

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
CMOSを用いたアナログ集積回路の設計の基礎を身につけ，機能回路ブロックの設計を行う．

【到達目標】
CMOSアナログ回路の基本的な設計を行えるようになる．また，解析的およびシミュレータを用いたその特性の評価能力を身につける．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
CMOSアナログ基本回路から機能回路ブロックまで，動作原理等について講義を行う．また，各回路ごとに，LTspiceなどの回路シミュレータを用いて授業中に回路設計を実際に各自行い理解を深める．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	アナログ集積回路の予備知識	アナログ回路設計者の心構え，シリコン基板，MOS素子の構造，MOS型集積回路の製造工程
第2回	MOSFETの動作	MOSFETの動作原理，MOS素子の小信号等価回路
第3回	MOS増幅回路の基礎	基本増幅回路（ソース接地回路，ゲート接地回路，ドレイン接地回路），カスコード増幅回路
第4回	増幅回路の周波数特性	フィルタ特性，周波数特性を決める要素，増幅器の周波数特性
第5回	アナログ回路のノイズ	ノイズを伝える3要素，ノイズに強いアナログ回路設計
第6回	差動増幅回路	差動増幅回路，差動電圧利得，同相電圧利得，バイアス回路
第7回	コンパレータ回路	サンプル＆ホールド回路，増幅器とラッチ回路の過渡応答特性，高速コンパレータ回路，オフセットキャンセル法，出力バッファ
第8回	素子マッチングとレイアウト	MOSFET特性のばらつき，ばらつきの影響を低減する方法
第9回	フィードバック回路	帰還回路の概念，機関回路の効用，帰還増幅器
第10回	OPアンプ1	OPアンプとは，OPアンプの要素回路，差動入力段，2段構成のOPアンプ設計法
第11回	OPアンプ2	入力段の許容入力電圧範囲の拡大法，出力バッファ回路
第12回	フィルタ	フィルタの歴史，フィルタの伝達関数，フィルタの周波数特性，フィルタの実現法，連続時間フィルタ，スイッチトキャパシタフィルタ
第13回	アナログ－デジタル変換器	A-D変換器の原理，並列型ADC，パイプラインADC，ΔΣADC
第14回	アナログ回路デザイン演習	OPアンプ回路の設計実習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
各回で解説した基本回路の動作をspiceシミュレータにより確認し，実際に設計を行うこと．

【テキスト（教科書）】
谷口研二「CMOSアナログ回路入門」CQ出版社

【参考書】
Dehzad Razavi, “Design of Analog CMOS Integrated Circuits,” McGRAW-Hill

【成績評価の方法と基準】
授業内演習（６０%）および設計レポート（４０%）

【学生の意見等からの気づき】
授業では，講義と演習を行います．演習では，実際に設計を行いますので，その際に疑問点などにお答えします．質問を歓迎します．

【学生が準備すべき機器他】
演習ではPCを使用します．

【その他の重要事項】
「電気回路，　電子回路」の知識を前提に行う．

【Outline (in English)】
This course introduces the basics of a CMOS analog integrated circuit design. The students who take this course design and verify functional circuit blocks with a simulator.

ELC300XD（電気電子工学 / Electrical and electronic engineering 300）

パワーエレクトロニクス

早乙女　英夫

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
直流電力の電圧変換、直流電力から交流電力への変換および交流電力から直流電力への変換を行うパワーエレクトロニクス技術の概要を理解する。

【到達目標】
DC-DCコンバータ，インバータおよび整流器の基本動作が理解できることを本授業の到達目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
パワーエレクトロニクス技術の実用例を紹介し，その基礎となる電力用半導体デバイス，電力回路，電子回路，電力変換および制御などの要素技術について，例題や演習を交えて解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義概要	パワエレ製品の紹介，本講義で解説する内容の概要説明
2	電力の復習(1)	単相回路における瞬時電力や複素電力についての復習
3	電力の復習(2)	三相回路における電力，３相２相変換
4	DC/DCコンバータ(1)	チョッパー回路の基本動作
5	DC/DCコンバータ(2)	バイポーラトランジスタやFETのスイッチング特性
6	DC/DCコンバータ(3)	接合型ダイオードの逆回復特性，バックコンバータ
7	DC/DCコンバータ(4)	フォワードコンバータ，ブーストコンバータ
8	DC/DCコンバータ(5)	バックブーストコンバータ，フライバックコンバータ
9	インバータ(1)	３相インバータの動作原理
10	インバータ(2)	出力電圧のフーリエ解析
11	インバータ(3)	PWMインバータ
12	整流器(1)	ダイオード整流器
13	整流器(2)	サイリスタ整流器
14	整流器(3)	直流送電，PWMコンバータ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
復習を行い，疑問があれば，次の授業で必ず質問すること。

【テキスト（教科書）】
講義に出席し，講義ノートを取ることでテキストとしている。講義中の質問は常時受け付けている。

【参考書】
電気回路，電磁気などの教科書。電機メーカーの技術報告資料など。

【成績評価の方法と基準】
期末試験(100点満点)にて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
教員の熱意があり，工夫された授業であるとのコメントが毎年あり，現状を続けていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
講義は全てプロジェクターを用いたパワーポイントで行う。

【その他の重要事項】
教員が解説中の私語は厳格に禁止している。ただし，自由な雰囲気のディスカッションの時間を設けている。

【Outline (in English)】
Basic technologies of power electronics, such as DC-DC, DC-AC and AC-DC power conversions are delivered in this lecture. The students will understand these technologies and their related circuit theories through the lecture. The grade is decided by only the term-end examination.

ELC300XD（電気電子工学 / Electrical and electronic engineering 300）

ディジタル回路デザイン

安田　彰

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ハードウェア記述言語(verilog)を用いた論理回路設計を身につける．

【到達目標】
授業終了時には，ディジタル機能ブロックの設計が出来るようになる．また基本的なCPUの設計が出来ることを目指す．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
デジタル基本回路について復習し，これらのハードウェア記述言語による記述方法を講義する．また，これらについて授業時間内にPCを用いてシミュレータにより，その記述方法，特性について検証する．また，より高度な回路の設計方法について学ぶ．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ディジタル集積回路設計とは	ディジタル回路集積回路設計の概要
第2回	論理検証とシミュレーション	ディジタル回路の検証，ディジタルシミュレータ，Spiceシミュレータ
第3回	論理合成	論理合成とツール
第4回	HDL記述の基礎（1）	代入文，代入文，演算子，条件式
第5回	HDL記述の基礎（2）	always文，case文，ループ文，フリップフロップ
第6回	HDL記述の基礎（3）	ブロッキング代入文，ノンブロッキング代入文，関数，タスク
第7回	HDL記述の基礎（4）	ゲートレベル・モデリング，パラメータ化された設計
第8回	モデリング例（1）	順序回路（同期・非同期フリップフロップ）
第9回	モデリング例（2）	カウンタ，シフトレジスタ
第10回	モデリング例（3）	メモリ，レジスタ
第11回	モデリング例（4）	有限ステートマシン
第12回	モデリング例（5）	ALU，カウンタ，デコーダ，マルチプレクサ
第13回	設計演習（1）	信号処理回路の設計演習
第14回	設計演習（2）	FPGAによる実装

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
Verilogシミュレータを用いて，解説された論理回路の設計を行うこと．

【テキスト（教科書）】
ディビッド・マネー・ハリス，サラ・L・ハリス著，天野英晴他訳「ディジタル回路設計とコンピュータアーキテクチャ」翔泳社

【参考書】
小林優 著「入門VerilogHDL記述」CQ出版

【成績評価の方法と基準】
授業内演習レポート（６０％）およびレポート（４０％）

【学生の意見等からの気づき】
授業では，Verilog言語を用いた設計実習を行う．その際，CADソフトの使用方法の練習も行う．
皆さんのオリジナリティを出せるような演習を行います．

【学生が準備すべき機器他】
ノートPC

【その他の重要事項】
本講義では，PCを用いた演習を行う。

【Outline (in English)】
This course introduces a logic circuit design using a hardware description language (Verilog).

SSS300XF（社会・安全システム科学 / Social/Safety system science 300）

保全性工学

田村　信幸

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
保全に関連した話題は非常に多岐に渡る．本講義では特に保全活動を行う場面で必要な保全性設計と評価のための考え方と方法論，及び保全計画構築のための数理的手法を学ぶ．

【到達目標】
保全方式を分類し，与えられた状況の下で適切な方式を選択できる．保全性の設計や評価を行うための基本的な考え方や方法論を理解している．さらに，保全計画構築のための数理的手法の基礎理論を理解し，簡単な問題へ適用することができる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う．また，学生を指名してこちらで提示した質問に回答して貰う等，可能な限り講義時間内に発言する機会を設ける．また，講義内容の理解を深めるため，適宜演習を行う．演習や課題の提出とそれに対するフィードバックは学習支援システムを使用する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	準備	品質管理，信頼性，保全性，及び安全性の概念と関係性を学ぶ．
第2回	保全性設計の基礎	保全の重要性，LCCの定義，保全方式の分類について学ぶ．
第3回	保全性設計支援手法	RCMの考え方とLCCの計算について学ぶ．
第4回	保全性評価手法1	FTAと計算法を学ぶ．
第5回	保全性評価手法2	FMEAとFTA，デザインレビューの基礎を学ぶ．
第6回	保全性評価のための統計モデル1	重回帰モデルの概要を学ぶ．
第7回	保全性評価のための統計モデル2	ロジスティック回帰モデルの基礎を学ぶ．
第8回	信頼性試験1	計数規準型抜き取り検査の構造を学ぶ．
第9回	信頼性試験2	計数規準型抜き取り検査の設計を学ぶ．
第10回	故障物理（構造信頼性）	故障モデルと加速試験を学ぶ．機械・構造物の破損の確率論的評価について学ぶ．
第11回	確率過程の基礎1	ポアソン過程と非斉次ポアソン過程を学ぶ．
第12回	確率過程の基礎2	再生過程と再生報酬過程の基礎を学ぶ．
第13回	時間計画保全1	年齢取り替え方策とブロック取り替え方策を学ぶ．
第14回	時間計画保全2	小修理を考慮したブロック取り替えについて学ぶ．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
毎週講義内容を復習する．また，必要に応じて1年次の確率統計と2年次の数理統計学の内容を勉強した方が良い．

【テキスト（教科書）】
特に使用しない．学習支援システムを利用して資料を配布する．

【参考書】
藤本良一，堀籠教夫：保全性技術，日科技連，2010年．
内容が多岐に渡るので，その他は必要に応じて指示する．

【成績評価の方法と基準】
レポート(60%)と講義内に行う演習(40%)で評価する．

【学生の意見等からの気づき】
特になし．

【学生が準備すべき機器他】
貸与ノートパソコン

【その他の重要事項】
取り上げる内容や順番は多少変更することがある．
併せて信頼性工学と応用確率論を受講するとより一層理解が深まる．また，3年次に進級後はデータ分析，多変量解析，及びTQMを受講することを勧める．

【Outline (in English)】
In this course, students learn several ideas and methodologies for assessment and design of maintainability, and mathematical methods for maintenance planning based on statistics and probability theory.
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1) to assess maintenance problems based on necessary information
2) to select an appropriate method for analysis of maintenance problems
3) to derive maintenance plan by using mathematical models
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. And if necessary, reviews on basic probability theory and mathematical statistics learned at 1st and 2nd grade are also needed. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading will be decided based on short reports (60%) and in-class contribution (40%).

APC100YC（複合化学 / Applied chemistry 100）

グリーンケミストリ

渡邊　雄二郎

開講時期：春学期授業/Spring
備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
グリーンケミストリとは“環境にやさしいものづくりを目指す化学“である。現在の経済発展による豊かさを追求する社会経済システムには限界があり、今後は持続可能な循環型社会経済システムへ変革していく必要がある。資源・エネルギーは可能な限り循環させ、環境負荷をできる限り小さくすることが望まれている。ものづくりにおいては、優れた材料特性を持つとともに、低環境負荷な設計や合成プロセス、廃棄物の再資源化などが求められている。本授業ではグリーンケミストリの12箇条の概念を具体的な例を挙げて解説するとともに、過去と現在の環境問題、省エネを含めた定量的な取り扱い、廃水の再生法、廃棄物の再資源化方法、個々の環境物質の測定法、及びエコマテリアルについて解説する。

【到達目標】
この授業では、グリーンケミストリの概念を理解するとともに、これまでの環境汚染や公害問題の歴史、汚染化学物質の性質について学ぶ。さらに省エネルギー、省資源を含め再生可能なシステム、メカニズムを理解することで、身近な具体的な環境問題について化学的知見に基づき応用可能な能力を身に付けることを目標としている。
以下に達成目標を記す。
１．グリーンケミストリの概念について例を挙げて説明できる。
２．これまでの環境汚染および公害の歴史を説明できる。
３．環境の現状と対策について説明できる。
４．環境汚染物質の種類やそれらの特性および省エネを含めた定量的な取り扱いができる。
５．廃水の再生法、廃棄物の再資源化方法について説明できる。
６．個々の環境物質の測定法を説明できる。
７．エコマテリアルについて例を挙げて説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
主にパワーポイント資料を用いた講義を行い、5回以上のアクティブラーニング（演習または発表）を実施する。アクティブラーニングで実施した演習問題を含む聴講ノートを提出してもらう。小テストは2回実施し、レポートも2回課す。定期試験を行う。なお、予習・復習の内容については、配布資料や授業で指示する。予習・復習を行うことを前提に授業を進めるので、予習・復習に十分な時間を費やすこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	本講義の全体的な説明、グリーンケミストリとは	本講義の全体的な説明とグリーンケミストリの概念（12箇条）について説明する。
2	環境問題の歴史	これまでの環境問題および公害の歴史について４大公害病を中心に説明する。
3	環境保全に関する法律	環境基準について説明する（アクティブラーニング（演習））。
4	環境における化学物質の挙動（１）	大気圏における化学物質の挙動について説明する。
5	環境における化学物質の挙動（２）	土壌圏、水圏における化学物質の挙動について説明する。（アクティブラーニング（演習））
6	環境の現状と対策について（１）	大気環境の現状と対策について説明する。
7	環境の現状と対策について（２）	水環境と土壌環境の現状と対策について説明する。（アクティブラーニング（演習））
8	廃棄物の再資源化	都市資源としての廃乾電池などやバイオマスについて、それらの再資源化について説明する。
9	環境汚染物質の測定法－大気、水質、土壌中の汚染物質の測定法	主な環境測定法について説明する（アクティブラーニング（演習））。
10	グリーンケミストリの12箇条について例を挙げて解説（１）－1～6条	グリーンケミストリの12箇条の中の1～6条に関係するものについて例を挙げて解説する。（アクティブラーニング(発表)）
11	グリーンケミストリの12箇条について例を挙げて解説（２）－7～12条	グリーンケミストリの12箇条の中の7～12条に関係するものについて例を挙げて解説する。（アクティブラーニング（発表））
12	環境とエネルギー－省エネも含めた定量的な取り扱い	原子力エネルギー、新エネルギー（太陽光、太陽熱、風力、バイオマス、地熱）、燃料電池について説明する。
13	エコマテリアル－環境負荷の少ない機能性材料について	エコマテリアルについて、光分解性、生分解性プラスチック、多孔質材料について説明する。（アクティブラーニング（演習））。
14	まとめ	本講義全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】環境を化学の視点から捉えることから、化学の基礎を十分理解しておく必要がある。そのためには、基礎となる高校の化学の習得および大学１年での化学を並行して学習しておく必要がある。

【テキスト（教科書）】
資料を配布する。

【参考書】
J. E. Andrews et al.“An Introduction to Environmental Chemistry”Blackwell Pub., “環境化学概論”田中稔ら、丸善, “環境と化学 グリーンケミストリー入門“ 荻野和子ら、東京化学同人, “陸水環境化学”藤永薫ら、共立出版, “環境白書“ 環境省編.

【成績評価の方法と基準】
演習問題を含む聴講ノートの提出（１０%）、小テスト（２０%）、レポート（２０%）、期末テスト（５０%）で評価

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
Green chemistry is the study of chemical products and processes that reduce or eliminate the generation of substances hazardous to humans, animals, plants, and the environment. This course covers basic fundamentals of green chemistry, through the 12 design principles of green chemistry, and explores relevant examples of their practical use in commercial applications.
The goals of this course are to
(1) be able to explain the 12 design principles of green chemistry,
(2) be able to explain relevant examples of their practical use in commercial applications.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end examination: 50%, Quiz: 20%, Short reports : 20%, in class contribution: 10%.

BOA100YD（境界農学 / Boundary agriculture 100）

環境と人間

植田　央

開講時期：春学期授業/Spring
備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会で問題となっている環境がもたらすヒト生体への影響について学ぶ。現在、人類をとりまく生活環境、社会環境の変化が著しい。そこで、様々な環境の変化のうち特に運動・身体活動の観点から考察し、生体への影響をマクロ・ミクロ的視点から学習する。

【到達目標】
様々な環境やその変化がヒト生体に及ぼす影響について理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本講義では、生体に関する基礎的な内容を解説する一方で、環境と人間との関係の具体例を概説する。最新時事の話題を取り上げる場合があるため、講義内容の一部変更があり得る。但し、新型コロナウィルスの感染状況によってオンライン・オンデマンド型授業となる場合は、詳細について「学習支援システム」にて周知する。また、授業中に出された質問等に対するフィードバックは、次回授業の冒頭に解説することで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに、講義の概要	環境と人間との関連性を概観する
2	環境が人間に及ぼす影響1	休養・睡眠
3	環境が人間に及ぼす影響2	食生活と運動習慣による肥満と痩せへの影響
4	環境が人間に及ぼす影響3	現代の生活環境と身体活動の変化
5	運動・身体活動と環境1	筋の構造と機能
6	運動・身体活動と環境2	運動と骨格筋の適応
7	運動・身体活動と環境3	運動時におけるエネルギー供給機構
8	運動・身体活動と環境4	運動と呼吸調節
9	運動・身体活動と環境5	運動と循環調節
10	環境が人間に及ぼす影響4	生活環境と骨粗鬆症・サルコペニア
11	環境が人間に及ぼす影響5	運動がもたらす疾患への効果1
12	環境が人間に及ぼす影響6	運動がもたらす疾患への効果2
13	環境が人間に及ぼす影響7	低酸素環境と運動
14	環境が人間に及ぼす影響8	暑熱環境と運動

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】講義内容に関連する参考書などを読み、関連事項の概要の把握に努める。また、講義中に紹介される参考図書は、関心の深い図書を選択して、内容の理解に努める。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。必要に応じて学習支援システム、または授業中に資料を配付する。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
1) 平常点および授業後に実施されるクイズなど: 60%
2) 学期末レポート: 40%
オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。具体的には、授業開始日に学習支援システム上に提示します。

【学生の意見等からの気づき】
資料調査やプレゼンなど自主的な学習を重視する。

【学生が準備すべき機器他】
プレゼン授業時には貸与パソコンを持参すること。

【Outline (in English)】
Course outline: This course introduce the relationship between human body and environmental condition to students taking this course.
Learning Objectives: The end of the course, students should be able to explain physical response to different environmental situations.
Learning activities outside of classroom:Before each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based in class contribution (50%), and the quality of the students' term end examination (50%).

AGC300YA（農芸化学 / Agricultural chemistry 300）

食品科学

三浦　豊

開講時期：春学期授業/Spring
備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学
生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
我々が生きていくうえで不可欠である食品について、化学的・生物学的側面から学習することで、生命にとって食品とは如何なるものであるかを理解する。また講義で得られた知識をもとに学生諸君の食生活を見直し、健康な生活を送るための指針とすることを目標とする。さらに食品を取り巻く法的、社会的、産業的な動向についても理解を深めることを目標とする。

【到達目標】
日常摂取している食品がどのような成分から構成されており、我々の健康維持とどのように関わっているか、という点に関して理解し、考える機会を持てるようになることが目標である。具体的には、我々は何のために食品を摂取するのか、食品はどのような成分から構成されているのか、食品成分はどのような化学的性質を有しているのか、食品成分が生体にどのような影響を及ぼすのか、を理解し、食品と生体とのかかわりを総合的に理解することも目標とする。また最終的には講義で学習した内容を日々の食生活に生かしていけるようになってもらいたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義の前半では食品に含まれる成分について、その分類、化学構造、生物機能を順次学習する。食品中には栄養素と非栄養素が含まれているため、5大栄養素と非栄養素について順次解説を行う。中間テストを挟み、講義後半では、食品と健康との関わりについて学習する。具体的には食品と病気（メタボリックシンドローム、糖尿病、癌）との関連を学習する。講義は配布するプリントに基づき実施する。
課題等の提出やそのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。さらに最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説を行い、最終試験に向けた学習の指針も解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要を解説し、食品と生命の関わりについてオーバービューすると同時に最新のトピックスを紹介する。
第2回	食品成分の化学１	食品成分中の糖質について化学的な側面と生物機能を講義する。
第3回	食品成分の化学２	食品成分中のアミノ酸、ペプチド、タンパク質について化学的な側面と生物機能を講義する。
第4回	食品成分の化学３	食品成分中の脂質について化学的な側面と生物機能を講義する。
第5回	食品成分の化学４	食品成分中のミネラルと水溶性ビタミンについて化学的な側面と生物機能を講義する。
第6回	食品成分の化学５	食品成分中の脂溶性ビタミンと非栄養素について化学的な側面と生物機能を講義する。
第7回	食品成分の生物学１	食品成分の消化・吸収について講義する。
第8回	食品成分の生物学２	食品成分の代謝とその調節機構について講義する。
第9回	中間テスト	前半の講義内容に関して中間テストを行う。
第10回	食情報について	食品と健康の関係を食品が含有する食情報という観点から講義する。
第11回	食品とメタボリックシンドローム	メタボリックシンドロームと食品の関わりについて講義する。
第12回	食品と糖尿病	糖尿病と食品の関わりについて講義する。
第13回	食品と癌	癌と食品の関わりを講義する。
第14回	これからの食品科学	個人の体質に合った食習慣や食品を利用した先制医療など食品科学の将来を論じる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】特に予習を行う必要はないが、講義で学習したことの復習を行い、質問等があれば、翌週の講義時に聞くこと。また食品という日常生活に関連するものを対象とする講義であるため、毎日の食生活に学習した内容をフィードバックすることを常に意識してもらいたい。

【テキスト（教科書）】
講義はパワーポイントを用いて行うが、講義資料は学習支援システムを介して配布する。

【参考書】
「食品の科学」上野川修一、田之倉優編、東京化学同人
「健康栄養学」－健康科学としての栄養生理化学ー　小田裕昭、加藤久典、関泰一郎編、共立出版

【成績評価の方法と基準】
平常点（１０%）、中間テスト（３０%）、期末テスト（６０%）とする。中間テスト、期末テストともに講義内容の理解度を判定する。

【学生の意見等からの気づき】
講義内容が多岐にわたり、情報量が多くなる傾向があるため、大事な個所には時間を十分に掛けるなど、講義のメリハリをよりはっきりとつけるように努めたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
目標にも記載しましたが、食品は毎日摂取する身近なものであると同時に皆の生命を支える根幹です。講義内容をよく理解し、自らの食生活を見直すきっかけとなることを期待します。

【Outline (in English)】
Food is well known to be important for our life. In this lecture, the chemical and biological properties of foods are lectured. From this lecture, students will be able to get some knowledge for living better and healthy. The legal, social and industrial aspects of food development and food industry will be also lectured.
For this lecture, a work outside of class is not needed particularly, but the content of the lecture may be familiar for you and your daily life. So, the knowledge you will get in the lecture may be anticipated to be applicable for your healthy life.
For grading, your attitude in the class (10%), midterm test (30%), and final test (60%) will be evaluated. Both the midterm test and the final test will assess the level of understanding of the lecture content.

APC200YC（複合化学 / Applied chemistry 200）

応用環境化学

渡邊　雄二郎

開講時期：秋学期授業/Fall
備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境問題で、汚染物質（化学物質）が環境中に放出された場合の汚染物質の挙動、正確な分析法や処理法について学ぶ。また汚染状況を事前に推定するために必要な汚染物質の定量的な取り扱いと、問題解決のためのモデルの立て方について学ぶ。

【到達目標】
環境中での汚染物質の挙動を理解できる。
汚染物質の正確な分析法と処理法を理解できる。
汚染物質の定量的な取り扱いができる。
環境問題解決のためのモデルの立て方とその解析法を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
主にパワーポイント資料を用いた講義を行い、毎時間アクティブラーニング（演習または発表）を実施する。小テストは2回実施し、レポートも2回課す。定期試験を行う。なお、予習・復習の内容については、配布資料や授業で指示する。予習・復習を行うことを前提に授業を進めるので、予習・復習に十分な時間を費やすこと。授業中におこなう演習について、学習支援システム等を利用してフィードバックすると共に教員が学生に問いかけをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	序論	授業の概要、進め方について説明する。
2回	汚染物質の水環境中での挙動	汚染物質の水環境中での挙動を反応式等を用いて説明する。
3回	汚染物質の大気環境中での挙動	汚染物質の大気環境中での挙動を反応式等を用いて説明する。
4回	汚染物質の土壌環境中での挙動	汚染物質の土壌環境中での挙動を反応式等を用いて説明する。（アクティブラーニング（演習））
5回	大気、水、土壌のサンプリング	大気、水、土壌のサンプリング手法について説明する。（アクティブラーニング（演習））
6回	水質分析①	BOD、COD、DO等の水質分析法について化学式を用いて説明する。
7回	水質分析②、大気分析、土壌分析	湖沼等の富栄養化の主因である窒素、リンの水質分析法、大気、土壌の分析法について化学式を用いて説明する。（アクティブラーニング（演習））
8回	水質汚染物質の基本的処理法①	凝集沈殿、ろ過、イオン交換について説明する。
9回	水質汚染物質の基本的処理法②	吸着、触媒、酸化還元、抽出について説明する。（アクティブラーニング（演習：エクセルを用いた吸着等温式の作成））
10回	水質汚染物質の基本的処理法③	電解、蒸発、晶析、脱水（汚泥処理）について説明する。
11回	水質データの処理法	ヘキサダイアグラム等水質データの処理方法について学ぶ。（演習：エクセルを用いたヘキサダイアグラムの作成）
12回	排水モデル	都市や工場から排出された汚染物質の処理効率と河川・湖の汚染状況を解析する。
13回	地球環境モデル	地球を大気、水、生物、土壌相を含む地球環境モデルを想定し、それら環境中での汚染物質の濃度を、各種条件下で解析する。（アクティブラーニング（演習））
14回	まとめ	本授業を振り返りまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】化学反応速度、吸着、物質移動係数などの化学的基礎を学習しておく必要がある。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に使用しない。資料がある場合、適宜配布する。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
講義記録（１０%）、レポート（２０%）、小テスト（２０%）、定期試験（５０%）。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
Environmental chemistry is the study of chemical and biochemical phenomena that occur in natural places. Applied environmental chemistry is the study of how chemistry is applied to measuring, estimating and predicting chemical phenomena in air, soil, and water environments. This course covers basic applied environmental chemistry, through the study of, behaviors of pollutants, quantitative analytical methods of pollutants and environment evaluation models.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end examination: 50%, Quiz: 20%, Short reports : 20%, in class contribution: 10%.

PPE200YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 200）

植物病学概論

濱本　宏

開講時期：秋学期授業/Fall
備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では主として微生物による植物病について、病原性のメカニズムや伝染様式、さらに、それら病原に対して植物の持つ病害抵抗性の機構等を学ぶ。

【到達目標】
ウイルス、細菌、菌類など植物病原微生物の分類とその特徴、それらが引き起こす病徴について基礎的な知識を得る。また、それら微生物がどのように植物に病気を起こすのか、それに対して植物はどのように抵抗性を示すのかを理解する。さらに、これらの知見を病害の診断や防除にどのように活かすのか考える能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
パワーポイントを用いて解説することを基本とする。トピック的に原著論文を紹介したり、TEDやYouTubeなどのビデオをみることで、理解を深めたり最新の知見を得たりする。授業中に教員から質問することで理解度の把握に努め、授業進行に役立てる。授業内の最後に行う「課題」のフィードバックは翌週授業の冒頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	植物病と微生物	植物病を引き起こす微生物と、基本的な用語について
第2回	ウイルス・ウイロイド病（1）	ウイルス・ウイロイドの分類と進化
第3回	ウイルス・ウイロイド病（2）	ウイルス・ウイロイド病の性状・病徴と伝染様式
第4回	細菌・ファイトプラズマ病（1）	植物病原細菌・ファイトプラズマの分類とその性状
第5回	細菌・ファイトプラズマ病（2）	植物細菌病・ファイトプラズマ病の病徴と伝染様式
第6回	菌類病（1）	植物病原菌類の分類・命名とその性状
第7回	菌類病（2）	植物菌類病の病徴と伝染様式
第8回	線虫病と生理病	植物寄生線虫の分類、性状と病徴、植物生理病の種類と病徴
第9回	中間まとめ	植物病を引き起こす病因について振り返り、質疑応答
第10回	植物感染生理（1）：病原性	病原微生物の植物侵入の機構と病原性発現の機構
第11回	植物感染生理（2）：抵抗性	病原微生物に対する宿主の抵抗性の種類とそれらの機構
第12回	植物感染生理（3）：バイオテクノロジー	従来の育種技術とAI育種、遺伝子組み換え技術
第13回	植物病の診断と防除	植物病の診断、防除の技術、総合的病害虫管理（IPM）
第14回	植物病学の最新トピックと総合まとめ	植物病学に関する最新のトピックの紹介・授業をふりかえり総合まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業で強調する専門用語や病名について、他の授業・実習内容の復習や自習によって知識を深めてほしい。

【テキスト（教科書）】
植物医科学（難波成任 監修），養賢堂，2022

【参考書】
植物病理学 第2版（眞山滋志、土佐幸雄 編）, 文永堂出版, 2020.
植物病理学 第2版（大木理 著）, 東京科学同人, 2019.
Plant Pathology, 5th edition (G.N. Agrios), Elsevier, 2005.
Essential Plant Pathology (G.L. Schumann, C.J. D'Arcy), APS Press, 2010

【成績評価の方法と基準】
期末試験：80%、平常点20%を目安として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特に、配布プリントを見やすくすることと、学習支援システムへのタイミング良いアップを心がける。クイズ形式のアンケートなどをできるだけ取り入れ、授業の進行に役立てる。

【その他の重要事項】
化学業界に勤務経験のある教員が、特に農薬の開発や使用に関して具体的な説明を加える。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this course, we mainly learn the mechanisms of pathogenicity, the mode of transmission, and the mechanisms of disease resistance of plants against pathogenic diseases of microorganisms.
【Learning Objectives】
The goal of this course is to obtain basic knowledge of the plant pathogens, how they cause plant disease and how the plants resist to the attack of the pathogens.
【Learning activities outside of classroom】
In this course, to know the scientific terms are important and review the meanings of the terms that you didn't know.
【Grading Criteria /Policy】
Final evaluation will be decided according to; term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

PPE100YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 100）

植物分子細胞生物学

鍵和田　聡

開講時期：秋学期授業/Fall
備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
植物は光合成を行って二酸化炭素を固定するなど、動物など他の生物とは異なった生理機能をもって生活している。こうした植物の持つ様々な生理機能について、細胞レベル・分子レベルでのメカニズムを理解することによって、植物の健全な育成を行うための基礎的な考え方を習得する。現在、植物の生理的変化や、形態形成のメカニズム、さらには植物の環境応答のしくみを明らかにするための研究が進んでおり、本講義でもこれらの最先端の知見を紹介する。これらの内容は植物の生理的障害の分子機構、あるいは病原体に対する植物の防御応答のメカニズムなど、幅広い分野を理解するための基礎となる。

【到達目標】
植物を構成する細胞の役割や機能、また植物の代謝や環境応答などの生理について、基本的な分子レベル・細胞レベルから理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業計画に従い講義を行う。適宜ノートをとり、毎回振り返って復習し、深く理解したい点は適宜参考書を調べること。また内容について理解が進んでいるか、数回行う確認テストで検討すること。レポート課題、および講義を理解する上で前提となる内容の補習問題を行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて、あるいは講義内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	植物の構造（1）	植物組織の特徴
第2回	植物の構造（2）	植物の細胞
第3回	植物の代謝経路（1）	光合成と物質移行
第4回	植物の代謝経路（2）	糖、脂質
第5回	植物の代謝経路（3）	窒素、リン酸の代謝と共生微生物
第6回	二次代謝産物（1）	テルペノイド、フェノール性物質の代謝経路と機能
第7回	二次代謝産物（2）	アルカロイド、およびその他の物質の代謝経路と機能
第8回	遺伝子発現	核酸、タンパク質と遺伝子発現調節機構
第9回	シグナル伝達の分子機構	植物のシグナル伝達系、およびその制御の分子機構
第10回	植物の発生と成長	植物の一生と初期発生、細胞分裂と成長
第11回	形態形成の遺伝子	花器等の形態形成に関わる遺伝子と発現制御
第12回	植物ホルモン	植物ホルモンの化学構造と生理作用
第13回	非生物ストレス	環境ストレスに対する応答機構
第14回	生物ストレス	抵抗性、過敏感反応

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
毎回ノートを復習し、深く理解したい点は適宜参考書を調べる。内容について理解が進んでいるか数回行う確認テストで振り返ること。レポート課題（1題）、および講義を理解する上で前提となる内容の補習問題（1題）を行う。

【テキスト（教科書）】
学習支援システムにて参考資料を配布する。

【参考書】
「植物生理学ー分子から個体へー」幸田ら、三共出版
「植物生理学概論」桜井ら、培風館
その他、適宜内容に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
確認テストを含む平常点（約15%）、レポート課題と補習問題（約15%）、期末試験（約70%）の結果を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
基礎的な点から丁寧に説明する。

【その他の重要事項】
オフィスアワーは履修の手引きを参照。

【Outline (in English)】
Plants have physiological functions different from animals, such as carbon dioxide assimilation by photosynthesis. By understanding the mechanisms at the cellular level and molecular level of various physiological functions of plants, students learn the fundamental idea for growing healthy plants. The contents of this class form the basis for understanding physiological phenomenon of plants such as the molecular mechanism of physiological disorders of plants and the defense response of plants against pathogens. The standard study time for this class is four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on Term-end examination (70%), reports (15%) and in-class contribution (15%).

PPE100YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 100）

栽培植物学

佐野　俊夫

開講時期：春学期授業/Spring
備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)
その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では、私たちの食料となる作物（穀物、野菜、果実）にはどのような種類があるのかを学び、それぞれの作物がもつ成育特性を理解する。さらに、これらの作物が世界および日本国内でどのように栽培されているのかを知り、栽培における課題とその解決方法について学習する。

【到達目標】
食料・資源として利用されている栽培植物の栽培特性および食料・資源としての価値を理解する。そしてそれらの作物栽培にはどのような配慮が必要であり、どのような問題があり、今後どのような変化が予想されるかについて理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義形式の授業形態ですが、穴埋め式テキストを配布し、ヒントを出しながらみなさんに穴埋め部分を回答してもらっています。
また、毎授業で課題を出します。その授業のポイントの復習に充てているので、課題解答を学習支援システム課題欄に提出してください。翌週の授業時に課題の解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	栽培植物学とは	栽培植物学とはどのような学問か、主要栽培植物を紹介する
第2回	イネの来た道	日本で栽培されるイネの起源、世界のイネ、コメの性質、これからの稲作について説明する
第3回	コムギ、オオムギの栽培と利用	コムギ、オオムギの日本、世界での栽培、利用、性質を説明する
第4回	マメ科植物の栽培と利用	日本と世界のマメ科植物栽培、およびその加工利用方法について説明する
第5回	トウモロコシの栽培と利用	世界のトウモロコシ栽培、日本での利用、これからの栽培について説明する
第6回	いも類の栽培と利用	主にジャガイモ、サツマイモの栽培と利用について説明する
第7回	油料作物、嗜好料作物の栽培と利用	植物油に加工される油料作物、および、嗜好料作物として主にチャ、コーヒーについて説明する
第8回	世界で栽培されている野菜類	世界で栽培されている野菜類ついて説明する
第9回	アブラナ科野菜の栽培と利用	主要なアブラナ科野菜であるダイコン、キャベツ、カラシナの栽培と利用について説明する
第10回	ナス科野菜の栽培と利用	主要なナス科野菜である、トマト、ナス、ピーマンの栽培と利用について説明する
第11回	果実栽培と利用（1）	主要な果実である、リンゴ、かんきつ類、ブドウの栽培と利用について説明する
第12回	果実栽培と利用（2）	果樹の生育、果実の成熟と老化、その保存方法について説明する
第13回	花きの栽培と利用（1）	花きの園芸的分類、および主要な花きである、キク、カーネーションについて説明する
第14回	花きの栽培と利用（2）	球根類、花木類、ランの栽培と利用について説明する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業毎に行われる課題内容はその回の重要事項であり、課題を中心に授業内容を復習することが望ましい。また、家の周りや通学途中で見かける畑地、果樹園等には本講義で紹介する作物が栽培されていると思われ、休日や大学への行き帰り等に観察するとよい。

【テキスト（教科書）】
講義時に資料を配布する。定められた教科書は使用しない。

【参考書】
・「作物学概論」第2版　朝倉書店
・「図説園芸学」第2版　朝倉書店

【成績評価の方法と基準】
期末試験72%、毎回の講義時に課す課題28%、で評価する

【学生の意見等からの気づき】
穴埋め式のテキストを用いて授業中に学生に回答させること、毎回の課題解答を翌週に解説することは授業内容の理解が深まる、と好評であったため、今年度も継続する予定である。

【学生が準備すべき機器他】
講義資料をPDFで配布するので、パソコンやスマホを持参して講義中に資料を参照してください。また、穴埋め部分の解答を記載するために、配布資料のコピーやノート等があると便利です。

【Outline (in English)】
In this course, we explore the major types of crops that serve as our food sources, including cereals, vegetables, and fruits, and examine the growth characteristics of each. We also study how these crops are cultivated around the world and within Japan, identifying key challenges in crop production.
Your study time will be more than four hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination: 72%、Assignments given during each lecture: 28%

PPE200YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 200）

診断技術論

大井田　寛、濱本　宏、廣岡　裕吏、酒井　啓充

開講時期：春学期授業/Spring
備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
植物病（微生物病、害虫による被害、生理障害等）が発生したとき、あるいは発生前に予防手段を取る際に欠かせないのが植物病の正確な診断である。診断法には症状の目視のみならず、様々な方法が開発されてきており、実際の診断は迅速性、確実性などの必要に応じていくつかの方法を組み合わせて診断することになる。それら様々な診断法と診断の流れを理解するとともに、植物病の診断法の今後について考察する。

【到達目標】
植物医科学の基礎としての植物病の病原（菌類、細菌、ウイルス、昆虫、ダニ、線虫など）の観察・同定法を修得する。あわせて、樹木医補、自然再生士補等の資格取得の基礎となる能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP3

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
圃場診断、問診のあらましを学び、次いで、症状により原因の目安を付け、微生物病、害虫や線虫およびその被害の診断ポイントなど基本的な方法や手順を修得する。さらに、電子顕微鏡観察、化学的診断、血清学的診断や遺伝子診断など、より詳細な診断技術を学習する。また、伝統的診断技術と先端的診断技術の融合や今後の診断連携等を論議する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」や授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	植物医科学における診断の重要性と診断の流れ
第2回	診断の手順	問診、病原微生物の検査法
第3回	微生物病の診断	病気ごとの診断・コッホの原則
第4回	害虫の診断(1)	診断と同定、害虫診断法
第5回	害虫の診断(2)	画像による害虫診断法、診断・同定依頼法
第6回	主要害虫、植物ダニの診断	形態、分類、生態
第7回	植物被害等からの診断	害虫による植物被害等の特徴
第8回	線虫概論	分類・形態・生態等、検診技術（土壌・植物体の調査法）
第9回	主要な植物寄生性線虫(1)	主要線虫の形態、生態、作物被害等の特徴
第10回	主要な植物寄生性線虫(2)	主要線虫の形態、生態、作物被害等の特徴
第11回	顕微鏡の仕組みと観察	光学顕微鏡と電子顕微鏡による観察・診断
第12回	血清学的診断法	ELISA法など
第13回	遺伝子診断法	PCR法など
第14回	診断システムの概要	診断のシステム化、ネットワーク化、遠隔診断システム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】講義のポイントをまとめておくこと。課題に関して自己学習を行うこと。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて資料を配布する。

【参考書】
植物医科学(第2版)（養賢堂）、植物医科学実験マニュアル（大誠社)等、必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点(約20%)、課題や試験(約80%)により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
植物医科学の基礎となる診断技術に特化した科目であり、詳細な技術を把握できるとの回答が多くある。今後は具体例などをさらに充実させたい。

【学生が準備すべき機器他】
主にパワーポイント画面を用いて講義を進める。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire knowledge for the diagnostic methods of the plant diseases. The goals are to receive the knowledge of the various diagnoses. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following,
Term-end examination and short reports: 80%, in class contribution: 20%

PPE300YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 300）

雑草学

佐野　俊夫、村岡　哲郎

開講時期：秋学期授業/Fall
備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)
その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
雑草とは、作物の生育を妨げたり、景観を損ねたりする植物の総称である。本講義では、まずどのような植物が雑草と呼ばれ、どのような成育特性によって作物より優位に立ち、生育を阻害するのかを学ぶ。さらに、これらの雑草を防除するための方法として、機械的手法、化学的手法、生態学的手法について理解を深める。

【到達目標】
雑草学では雑草の生育特性を植物生態学的に理解し、そしてその特性を理解したうえで、雑草防除方法を生化学、分子生物学的に理解する。また、除草剤を使う際の安全性への配慮、環境への影響に対して配慮すべきことを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
雑草生育と除草剤作用機構の生理生態学的部分を佐野が、雑草防除の現状、具体的な防除例を村岡が説明します。
講義形式の授業形態ですが、穴埋め式テキストを配布し、ヒントを出しながらみなさんに穴埋め部分を回答してもらっています。
また、毎授業で課題を設定し、その授業のポイントの復習に充てているので、課題回答を学習支援システム課題欄に提出してください。翌週の授業時に課題の解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	雑草とはなんだろう	雑草とはどのような植物なのか、また、雑草学とはどのような学問であるかを概説する
第2回	身近な雑草の生き方	身近に存在する雑草がどのような生存戦略をとっているのかを説明する
第3回	水田雑草の生理生態学	水田に生える雑草の特徴を植物生理生態学面から説明する
第4回	畑地雑草の生理生態学	畑地に生える雑草の特徴を植物生理生態学面から説明する
第5回	除草剤作用の生理学	一般的に用いられる除草剤の作用機構を説明する
第6回	形質転換と除草剤耐性作物	除草剤耐性作物の作出方法とその原理について説明する
第7回	雑草防除と有機農業	一般的な雑草防除法と除草剤を使わない有機農業法の違いを説明する
第8回	雑草防除の歴史	かつては人力で行われていた雑草防除の変遷を説明する
第9回	雑草になる植物（1）畑地	農地により雑草の種類は異なり、畑地での例を紹介する
第10回	雑草になる植物（2）水田	水田の雑草は他とは異なる特徴を有するのでその概要を説明する
第11回	雑草の防除手法	現在行われている雑草の除去の具体的方法を説明する
第12回	雑草の化学的防除法（1）	農薬として最初に使われた2,4-Dと、除草剤の変遷を説明する
第13回	雑草の化学的防除法（2）	前回の続きであるが、特に環境への配慮について触れる。
第14回	雑草の総合的防除法	環境に配慮した、生態的防除法とその工夫を説明する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業毎に行われる小テストの内容はその回の重要事項であり、小テスト問題を中心に授業内容を復習することが望ましい。また、家の周りや通学途中には本講義で紹介する雑草と呼ばれる植物が多く生育していると思われ、休日や大学への行き帰り等に観察するとよい。

【テキスト（教科書）】
特に用いない。毎回講義資料を配布する。

【参考書】
松中昭一、きらわれものの草の話、岩波ジュニア新書
山口裕文、雑草学入門、講談社
浅井元朗、植調　雑草図鑑、全国農村教育協会

【成績評価の方法と基準】
期末試験72%、毎回の講義時に課す課題28%、で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
穴埋め式のテキストを用いて授業中に学生に回答させること、毎回の小テスト結果を翌週に講評することは授業内容の理解が深まる、と好評であったため、今年度も継続する予定である。

【学生が準備すべき機器他】
講義資料をPDFで配布するので、パソコンやスマホを持参して講義中に資料を参照してください。また、穴埋め部分の解答を記載するために、配布資料のコピーやノート等があると便利です。

【Outline (in English)】
Weeds are a general term for plants that hinder crop growth or spoil the landscape. In this course, we first examine what kinds of plants are referred to as weeds and which growth characteristics allow them to interfere with crop development. We then study methods for controlling these weeds, focusing on mechanical, chemical, and ecological approaches.
Your study time will be more than four hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination: 72 %、Assignments given during each lecture: 28%

PPE200YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 200）

植物医科ビジネス論

宮内　陽介、川名　祥史、小倉　里江子

開講時期：秋学期授業/Fall
備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、植物医科学に関連するビジネス概況の理解を目標とする。講義テーマは、主に農業、園芸、食品、環境に関するものとし、実際のビジネスの現場で活躍する人材を講師として呼び、今後の発展を議論する。

【到達目標】
植物医科学に関連するビジネス分野を知り、それぞれの事業分野の要諦を知る。講義終了時にはレポートをまとめ、学生ひとりひとりが将来の自分のキャリアについて考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
植物は食料生産のみならず、公園など屋外公共空間の景観形成や事業所ビル内外の装飾、あるいは家庭における園芸など現代社会のあらゆる場面で利用されている。その際、植物が健康に生育していることが必要であり、植物が利用されるあらゆるビジネスで植物医科学が必要とされる。植物医学が活用できる業界の具体的な動向や今後の戦略などを民間からの講師を交えて論じる。また、新たなビジネスの創造についても論議する。なお、課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	植物医科学に関連するビジネス全般を解説し、講師が行っている事業についても紹介する。
第2回	種苗ビジネス	種苗系ビジネスの概要を紹介し、キーとなる技術を解説する。
第3回	農業ビジネス	近年増加する農業法人による生産活動の概略を解説し、その中で植物医科学が果たす役割について学ぶ。
第4回	肥料ビジネス	健全な土壌を維持するために必要な技術を学び、実際のビジネス現場についても解説する。
第5回	農薬ビジネス	農薬ビジネスの実際を解説し、農薬に関連する法規についても理解する。
第6回	アグリベンチャービジネス	アグリ系のベンチャーの取り組みについて学ぶ。
第7回	まとめ	これまでの学んだ内容を踏まえて10年後の農業についてグループディスカッションと発表を行う。
第8回	食品ビジネス	食品産業において原料としての植物の重要性を学び、ビジネスとして成立させるために重要なポイントを解説する。
第9回	農業機器ビジネス	農業におけるIoT、ICTを活用について解説する。
第10回	機能性食品ビジネス	植物由来の機能性食品ビジネスについて解説する。
第11回	植物工場ビジネス	植物工場の仕組みおよび活用について解説する。
第12回	バイテクビジネス	農業における遺伝子組み換え技術とその活用について解説する。
第13回	農業計測ビジネス	農業現場へのドローンやセンシングを活用した取り組みについて学ぶ。
第14回	まとめ	これまでの講義を通じて学んだ内容を踏まえて未来の農業についてグループディスカッションと発表を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】特に予習は必要としないが、日頃から新聞やインターネット等で植物に関連するビジネスについての情報に触れておくことを推奨する。

【テキスト（教科書）】
なし。適宜、資料を配布する。

【参考書】
適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点、質疑およびレポートにより総合的に評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】
講義内での質問の時間を設ける。

【学生が準備すべき機器他】
全ての回でPCが必要である。また，カメラをオンにできる通信環境を整えて参加すること。

【その他の重要事項】
本講義の教員は全員植物医科ビジネスの実務経験を有する。実際のビジネスの現場について紹介するとともに、将来について受講者とディスカッションする。

【Outline (in English)】
In this lecture, we aim to understand business overview related to plant medicine science. Lecture themes mainly relate to agriculture, horticulture, food and environment, and we will talk about the company who conducts plant related business. Grading will be comprehensively decided based on the reports and in-class contribution (100%).

PPE200YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 200）

植物医科学応用実験　Ⅰ

津田　新哉、濱本　宏、鍵和田　聡、佐野　俊夫、大島　研郎、大井田　寛、池田　健太郎、鶴岡　康夫、廣岡　裕吏、鈴木　聡、武井　円、小林　慶範

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
植物医師としての臨床的な病気の予防・治療に関する知識と技術を修得することを目的とする。

【到達目標】
植物の医師としての臨床的な病気の予防・治療に関する知識と技術を修得し、技術士補、樹木医補、自然再生士補等の資格取得に対応する技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP3

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
病原体を自然界での伝染様式を念頭において植物に接種する。接種した植物は、環境制御による発病抑制、農薬の使用の利用などの予防・治療技術を施す。病徴の発生を詳細に観察することで、これら予防・治療技術の効果と特徴を学ぶ。また、残留農薬の簡易検定技術を修得する。課題のフィードバックは、Hoppii または次の講義にて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 土壌伝染性病害の発症と防除 (1)	土壌伝染する病原菌の接種方法を修得し、発症状況を経過観察する
第2回	空気伝染性病害の発症と防除 (1)	空気伝染する病原菌の接種方法を修得し、発症状況を経過観察する
第3回	土壌伝染性病害の発症と防除 (2)	土壌伝染する病原菌の接種方法を修得し、発症状況を経過観察する
第4回	空気伝染性病害の発症と防除 (2)	空気伝染する病原菌の接種方法を修得し、発症状況を経過観察する
第5回	微生物資材による病害防除	病原菌に対する微生物農薬の効果を検証する
第6回	病原菌類の薬剤耐性検定	薬剤耐性の検定法を修得する
第7回	害虫の薬剤感受性検定	薬剤感受性の検定法を修得する
第8回	天敵・微生物資材による害虫防除	害虫に対する生物農薬の効果を検証する
第9回	細菌性病害の発症と防除(1)	植物病原細菌について接種方法を修得し、防除法について学ぶ
第10回	細菌性病害の発症と防除(2)	土壌伝染する植物病原細菌の、熱処理等による防除の効果を観察する
第11回	ウイルス病の再現と観察 (1)	媒介昆虫を用いたウイルスの接種方法を修得し、発現する症状の違いを観察する
第12回	ウイルス病の再現と観察 (2)	ウイルス感染阻害剤を使用し、その効果とメカニズムを調べる
第13回	イムノアッセイ法による残留分析 (1)	イムノアッセイによる残留分析法を修得し、農薬の適正使用を学ぶ
第14回	イムノアッセイ法による残留分析 (2)	同上

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】継続的な実験や経過観察、実験用植物の育成や管理、器具の洗いや片付けなどは実験時間以外にも自主的に実施する。課題に関してレポートにまとめる。

【テキスト（教科書）】
植物医科学実験マニュアル（大誠社）、実験マニュアル等の資料を配布する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
各回に課題を示し、レポートを提出する。成績評価はレポートに基づいて行い、実験課題の目的や内容の理解度を80％、実験態度（対面実験時）等の平常点を20％として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本科目は学生の満足度が極めて高い。今後とも、技術士補、樹木医補、自然再生士補等の資格取得も考慮して、植物医科学の基礎技術の修得をめざす。

【Outline (in English)】
In this experiment, we will acquire knowledge and practical techniques on plant diseases (fungal disease, bacterial disease and residual pesticide). The standard study time for this class is 2 hours, including preparation and review. Students are required to consult the relevant sections of the textbook Manual of Experiments in Clinical Plant Science. Proper sterilization, cleaning, and storage of all equipment after use are mandatory. Students are expected to conduct observations outside of scheduled class hours as necessary to complete their assignments and to maintain accurate and well-organized experimental notes and reports. Each student must submit a written report on their work. Assessment will be based primarily on the student's understanding of the objectives and content of the experiments (80%), with additional consideration given to experimental methodology and attitude toward laboratory work (20%) to provide a comprehensive evaluation.

PPE200YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 200）

植物医科学応用実験　ＩＩ

津田　新哉、濱本　宏、鍵和田　聡、佐野　俊夫、大島　研郎、大井田　寛、池田　健太郎、齋藤　範彦、廣岡　裕吏、武井　円、小林　慶範

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
植物病原体の同定に必要な遺伝子診断技術、電子顕微鏡観察技術、血清学的診断技術およびその関連技術を習得する。

【到達目標】
遺伝子診断、電子顕微鏡観察、血清学的診断の各同定・診断技術について、その原理を理解しつつ一連の作業内容を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP3

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
分離菌類からのゲノム抽出、PCRによる遺伝子増幅、塩基配列の決定等を通じた病原の遺伝子診 断法を実際に行って学ぶ。電子顕微鏡の試料作成法、TEMによるウイルス観察法、SEMによる菌類、昆虫の観察法を習得する。また、罹病植物について、病原体の特異的抗体を用いたELISA等の血清学的検出・診断法を習得する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	遺伝子診断技術（１）	培養菌類からのDNA抽出
第2回	遺伝子診断技術（２）	PCRによる遺伝子増幅
第3回	遺伝子診断技術（３）	電気泳動
第4回	遺伝子診断技術（４）	シーケンス反応
第5回	遺伝子診断技術（５）	核酸の精製、塩基配列の決定
第6回	遺伝子診断技術（６）	データベースを用いた相同性検索
第7回	電子顕微鏡（１）	TEM, SEMの原理と基本操作
第8回	電子顕微鏡（２）	DN法によるウイルス粒子の観察
第9回	電子顕微鏡（３）	SEMによる菌類の観察
第10回	電子顕微鏡（４）	SEMによる昆虫の観察
第11回	血清診断技術（１）	スライド凝集反応、RIPA法(イムノクロマト法)
第12回	血清診断技術（２）	ゲル内拡散法
第13回	血清診断技術（３）	ELISA法、DIBA法
第14回	まとめ	課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、2時間を標準とする】教科書「植物医科学実験マニュアル」の当該部分を学習しておく。器具の滅菌、洗浄や片付けを行う。課題に関して必要に応じて授業時間以外にも観察等を行い、実験ノート、レポートにまとめる。

【テキスト（教科書）】
増補改訂版 植物医科学実験マニュアル(大誠社)
また、研究に必要な文献、実験マニュアル等の資料は教員の指導を得ながらも自主的に収集・整理 して活用する。

【参考書】
適宜、参考図書を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
各回に課題を示し、レポート提出する。レポートにより実験課題の目的や内容を理解しているかを判断（80％）し、実験態度などの平常点（20％）を含めて総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
課題を通じて原理などを理解させるようにする。
TAが丁寧に指導できる体制とする。

【学生が準備すべき機器他】
遺伝子診断実習では、実験ノートを使用し、これを提出、評価対象とする。第１回の実習時に必ずB5の綴じたノート（ルーズリーフ不可）を持参すること。遺伝子診断技術（６）ではデータベースを用いた相同性検索を行うので、ノートPCを持参すること。一部の実験では、実験結果を授業支援システムを通じて配布するので利用できるようにしておくこと。

【その他の重要事項】
樹木医補資格関係専門科目

【Outline (in English)】
Participants will acquire knowledge of genetic diagnostic methods, electron microscopic observation techniques, serological diagnostic approaches, and other related technologies essential for the identification and diagnosis of plant pathogens. In addition, students will gain hands-on experience through practical training in experimental procedures. The expected total study time for this course is approximately two hours, including preparation and review. Students are required to consult the relevant sections of the textbook Manual of Experiments in Clinical Plant Science. Proper sterilization, cleaning, and storage of all equipment after use are mandatory. Students are expected to conduct observations outside of scheduled class hours as necessary to complete their assignments and to maintain accurate and well-organized experimental notes and reports. Each student must submit a written report on their work. Assessment will be based primarily on the student's understanding of the objectives and content of the experiments (80%), with additional consideration given to experimental methodology and attitude toward laboratory work (20%) to provide a comprehensive evaluation.

PPE200YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 200）

植物細菌学

大島　研郎

開講時期：春学期授業/Spring
備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)
その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
植物を病気から守るためには、病原体が植物に感染するメカニズムを分子レベルで明らかにすることが重要である。本講義では、微生物の中でも特に細菌に焦点を当て、細菌が植物に感染するために進化させてきた巧みな寄生戦略を理解することを目的とする。

【到達目標】
植物に病気を引き起こす細菌や、植物と共生する細菌について、形態、分類、病徴、宿主範囲、検出診断法、防除法など、基本的な知識を身につける。また、細菌が植物に感染するために用いる分子装置や、植物が細菌から身を守るために進化させてきた免疫システムを学習することで、細菌と植物が繰りひろげる攻防を分子レベルで理解することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・対面授業とZoomを併用したハイフレックス形式で講義を行う（URLなど詳細については学習支援システム・植物細菌学のページを確認してください）。
・各回の終わりに穴埋め問題などの課題を提示し、学習支援システムを通して回答してもらう。
・授業の初めに前回の課題の答えを解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	講義全体のガイダンス、細菌とはどのような生物か？
第2回	細菌の培養と代謝	細菌の培養法と、おもな代謝経路
第3回	細菌の分子生物学	細菌のDNA複製、転写・翻訳など遺伝子発現の特徴
第4回	細菌の分類、系統	細菌の分類法、細菌の分子進化学
第5回	植物細菌１	野菜を溶かす微生物：ペクトバクテリウム属細菌
第6回	植物細菌２	タンパク質を注射して植物に感染する微生物：シュードモナス属細菌
第7回	植物細菌３	道管を詰まらせて植物を病気にする微生物：ラルストニア属細菌
第8回	共生細菌	植物と共生して生きる微生物：リゾビウム属細菌
第9回	難培養性の植物細菌１	花を葉に変える微生物：ファイトプラズマ属細菌
第10回	難培養性の植物細菌２	昆虫によって媒介される微生物：グリーニング病細菌
第11回	植物細菌の同定・診断	植物細菌の同定法、免疫学的診断法、遺伝子診断法
第12回	植物細菌病の予防技術	植物を病気から守るためのさまざまな予防技術
第13回	植物の防御システム	植物免疫：植物はどうやって病気から自らの身を守るのか？
第14回	細菌と植物の分子攻防	植物と病原細菌のはてしなき軍拡競争

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする。
・課題を解くことで授業内容を復習する。

【テキスト（教科書）】
毎回、資料を配布する。

【参考書】
植物医科学 第2版（養賢堂）
植物医科学の世界（大誠社）
植物医科学実験マニュアル（大誠社）
植物病理学　第２版（文永堂出版）
植物たちの戦争 病原体との5億年サバイバルレース（講談社 ブルーバックス）

【成績評価の方法と基準】
期末試験(50%)、課題(36%)、平常点(14%)により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
講義資料を穴埋め式にするなど、効率的に学習できるように工夫している。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the bacteriology associated to plant pathogenic bacteria. This course deals with the principles of culture method, classification, pathogenicity, diagnosis, and pest control. This course also enhances an understanding of the plant-microbe interaction at molecular level. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be decided based on short examinations after each class meeting (36%), term-end examination (50%), and in-class contribution (14%).

BOA300YD（境界農学 / Boundary agriculture 300）

環境昆虫学

望月　文昭

開講時期：春学期授業/Spring
備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
昆虫は、原生自然から農地、都市環境などさまざまな環境に生息している。このように多様な環境で進化した昆虫がどのような形態的・生態的特徴をもち、どのような生活を送っているかその概要を学ぶ。多様な環境で進化した昆虫の形態や生態を知ることで、私たち人間の生活にとっても健全な環境や生態系が不可欠であること、そして、昆虫もそのような環境を構成する重要な要素であることを理解する。

【到達目標】
さまざまな環境に生息する昆虫の種類や目（もく）レベルのおおまかな分類群を識別できるようになり、身近な昆虫にも親しみを持つようになる。また昆虫の特徴的な行動や生活史を知ることで生態系の中の昆虫の位置づけを理解し、人間にとって最も重要な環境について考える切っ掛けを得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は要点をまとめた資料を配布した上でパワーポイントを使って進めます。また数回の授業ごとに小テストを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	自己紹介、授業計画、学生の昆虫に対するイメージの確認
第2回	昆虫の系統分類	昆虫の系統進化と各分類群の特徴について（安田耕司先生）
第3回	身近な環境に生息する昆虫	庭や街路樹、家屋内など身近な環境にみられる昆虫や人間の生活に深く関わる昆虫について
第4回	農作物の害虫	作物や野菜、果樹等の主要害虫の種類と生態について
第5回	外来昆虫	海外から日本に侵入した昆虫や侵入が警戒される昆虫の種類と生態について
第6回	昆虫の発育・生理	発育速度や休眠など、昆虫の基本的な発育生理について
第7回	環境が昆虫の生態に及ぼす影響	特に昆虫の多型現象や相変異について
第8回	昆虫にみられる擬態	昆虫にみられる様々な擬態とその進化について
第9回	昆虫における遺伝と進化	昆虫にみられる進化や適応の遺伝的基礎について
第10回	地球温暖化と昆虫	地球温暖化が昆虫の分布や生態に及ぼす影響について
第11回	昆虫による生態系サービス	近年劣化が懸念されている生態系サービス（花粉媒介）について
第12回	外来生物が生態系に及ぼす影響	侵入昆虫をはじめとする外来生物が生態系に及ぼす影響について（安田耕司先生）
第13回	農業生態系に生息する昆虫	農業生態系の特徴とそこに適応した昆虫の生態について
第14回	講義内容の補足と期末試験	講義内容についての補足説明、および講義内容の理解度を確認するための試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】庭や街路樹、屋内など身近にいる昆虫に興味を持ち、それらの名前を図鑑やインターネット等を用いて調べる経験をもつ。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
1．応用昆虫学の基礎、後藤哲雄・上遠野冨士夫、農山漁村文化協会、2019
2．外来種ハンドブック、日本生態学会編、地人書館、2002
3．地球温暖化と昆虫、桐谷圭治・湯川淳一編、全国農村教育協会、2010
4．「ただの虫」を無視しない農業、桐谷圭治、築地書館、2004

【成績評価の方法と基準】
期末試験（60％）、小テスト（20％）、平常点（20％）
ただし今後、状況が変わった場合は変更の可能性があります。

【学生の意見等からの気づき】
講義内容を基本的なところで誤解している例も見受けられたことから、簡単そうな内容でも丁寧に説明するよう心がける。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
Insects inhabit a variety of environments, from natural habitats to agricultural land and urban areas. Students will learn about the morphological and ecological traits that insects have evolved in diverse environments and how they survive and thrive in these environments. By learning about the characteristics of insects, students will understand that healthy environments and ecosystems are essential both for insects and for human life, and that insects are an important component of such ecosystems. Final grade will be calculated as follows: Mid-term examination(20%), term-end examination(60%), in-class contribution(20%).

PPE300YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 300）

植物感染生理学

鍵和田　聡

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
植物と病原体は様々な相互作用を行っており、病原体の感染戦略と植物の抵抗性の攻防の結果として植物病害が引き起こされる。その発生メカニズムを分子レベルで理解するとともに、植物の防御機構を利用した防除法についても学ぶ。

【到達目標】
植物の抵抗性と植物を加害する病原体の感染生理を分子レベルから理解する。これを通じて植物と病原体の攻防についての理解を深め、防除のための基礎的な知識とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業計画に従って講義を行う。まず植物と微生物の関係について概説し、植物の抵抗性について述べる。次いで種々の病原体の感染戦略とそれに対する植物の防御応答について解説する。また、これを踏まえた上で防除戦略についてもいくつかの事例を紹介して考察する。内容について理解が進んでいるか数回行う確認テストで振り返ること。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて、あるいは授業内にて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	植物感染生理学とは
第2回	植物と病原体	抵抗性と罹病性
第3回	植物の静的抵抗性	物理的、化学的抵抗性
第4回	植物の動的抵抗性（1）	抵抗性遺伝子、過敏感細胞死
第5回	植物の動的抵抗性（2）	抗菌性物質
第6回	菌類病の感染生理（1）	細胞壁分解酵素
第7回	菌類病の感染生理（2）	宿主特異的毒素
第8回	細菌病の感染生理（1）	侵入、認識、増殖
第9回	細菌病の感染生理（2）	発病因子、病原性遺伝子
第10回	ウイルス病の感染生理（1）	侵入、複製
第11回	ウイルス病の感染生理（2）	移行、ジーンサイレンシング
第12回	線虫病と害虫	適応、三者系、抵抗性
第13回	防除戦略（1）	プラントアクチベーター、生物防除
第14回	防除戦略（2）	分子育種

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
毎回資料・ノートを復習し、深く理解したい点は適宜参考書を調べる。内容について理解が進んでいるか数回行う確認テストを活用して振り返ること。

【テキスト（教科書）】
授業支援システムにて参考資料を配布する。

【参考書】
「分子レベルからみた植物の耐病性」島本ら、秀潤社
「植物病理学」眞山ら、文永堂
その他、適宜内容に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
確認テストを含む平常点（約20%）、期末試験（約80%）により総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】
基礎的な点から丁寧に説明する。

【学生が準備すべき機器他】
資料の配布、確認テストは授業支援システムにて行うため、パソコンを持参すること。

【その他の重要事項】
オフィスアワーは履修の手引きを参照。

【Outline (in English)】
Plants and their pathogens are interacting in various ways, causing plant diseases as a result of battle between infection strategies of pathogens and plant resistance. Students understand their mechanisms at the molecular level and learn about the disease control method using the defense mechanism of plants. By understanding the resistance of plants and the infection physiology of pathogens at the molecular level, students deepen the basic knowledge to prevent the plant diseases. The standard study time for this class is four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on Term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

PPE300YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 300）

植物生理病学

佐野　俊夫、亀和田　國彦

開講時期：春学期授業/Spring
備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
植物病には、菌類などの伝染性病原体による病気だけでなく、土壌・大気・水分などの不適切な生育環境によって生じる生理障害（生理病）も含まれる。本講義では、これらの具体例と、それを引き起こす環境要因について学ぶ。また、植物生理病の診断方法とその対処法に関する知識を身につける。

【到達目標】
各肥料要素の過不足による植物生理障害症状およびそれらの生理障害症状を引き起こす環境要因を理解する。また、各肥料要素が植物にどのように取り込まれ、利用されるかを学ぶことで、各要素の過不足がそれぞれの生理障害を引き起こすしくみを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
植物栄養学および肥料学の内容を基盤として、土壌中の無機栄養素の過不足が生理障害を引き起こすしくみと、それらの栄養素が植物体内でどのように利用されるかについては主に佐野が解説する。一方、土壌汚染・水質汚染・大気汚染といった環境要因が生理障害をもたらすしくみについては、主に亀和田が解説する。
講義形式の授業形態ですが、穴埋め式テキストを配布し、ヒントを出しながらみなさんに穴埋め部分を回答してもらっています。
また、授業終わりに課題を課し、その授業のポイントの復習に充てているので、課題回答を学習支援システム課題欄に提出してください。翌週の授業時に課題の解説をします。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」や授業内でおこないます.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	生体を構成する元素	必須元素と必須微量元素
第2回	生体膜の性質	膜輸送タンパク質の構造と機能
第3回	土壌無機栄養素（1）	窒素の吸収と代謝
第4回	土壌無機栄養素（2）	リンの吸収と代謝
第5回	土壌無機栄養素（3）	カリウムの吸収と利用
第6回	土壌無機栄養素（4）	カルシウムの吸収と利用
第7回	土壌無機栄養素（5）	マグネシウムの吸収と利用
第8回	植物生理障害を引き起こす環境要因（1）	土壌汚染と生理障害
第9回	植物生理障害を引き起こす環境要因（2）	水質汚染と生理障害
第10回	植物生理障害を引き起こす環境要因（3）	大気汚染と生理障害
第11回	土壌無機栄養素（6）	イオウ、鉄の吸収と利用
第12回	土壌無機栄養素（7）	微量元素の欠乏・過剰と生理障害
第13回	土壌無機栄養素（8）	ホウ素、ケイ素の利用とアクアポリン
第14回	土壌無機栄養素（9）	アルミニウムと塩ストレス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
授業毎に行われる小テストの内容はその回の重要事項であり、小テスト問題を中心に授業内容を復習することが望ましい。また、家の周りや通学途中で見かける畑等の作物には本講義で紹介する生理障害が生じている可能性があり、休日や大学への行き帰り等に観察するとよい。

【テキスト（教科書）】
講義時に資料を配布する。定められた教科書は使用しない。

【参考書】
原色　野菜の要素欠乏・過剰症　渡邉和彦　農文協
植物生理学　第2版　三村徹郎　化学同人

【成績評価の方法と基準】
期末試験72%、毎回の講義時に課す課題28%、で評価する

【学生の意見等からの気づき】
穴埋め式のテキストを用いて授業中に学生に回答させること、毎回の課題解答を翌週に講評することは授業内容の理解が深まる、と好評であったため、今年度も継続する予定である。

【学生が準備すべき機器他】
講義資料をPDFで配布するので、パソコンやスマホを持参して講義中に資料を参照してください。また、穴埋め部分の解答を記載するために、配布資料のコピーやノート等があると便利です。

【Outline (in English)】
In addition to infectious diseases caused by pathogenic organisms such as fungi, plants also suffer from physiological disorders that result from unsuitable growing conditions, including soil quality, atmospheric factors, water availability. This course examines specific examples of such disorders and the environmental factors that trigger them. Students will also learn methods for diagnosing physiological disorders in plants and strategies for managing and preventing them.
Your study time will be more than four hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination: 72 %、Assignments given during each class: 28%.

PPE300YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 300）

植物医科学専門実験　Ⅰ

津田　新哉、中山　喜一、濱本　宏、鍵和田　聡、佐野　俊夫、大島　研郎、大井田　寛、池田　健太郎、齋藤　範彦、廣岡　裕吏、武井　円、小林　慶範

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
2年次までの実験・講義によって習得した技術や知識を総合利用して植物病虫害の実践的診断、治療技術を鍛錬し養成する。また、植物ウイルスを含む植物病原微生物や植物に害を与える微小昆虫を材料に、遺伝子組換え実験を含めたDNA操作技術の基礎を修得する。

【到達目標】
分子生物学的手法を含む植物病診断技術を理解するとともに、実際の診断に応用する能力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP3

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
「植物病虫害の診断」では、実際に発生している農作物・樹木類の病虫害についてその被害症状を自ら観察し、病原微生物の分離・同定、微小昆虫の同定・分類を行う。さらに、分離した微生物について接種実験による病徴再現を行い、微小昆虫の同定には分子生物学的な手法も用いる。「DNA基礎実験」では、植物病原微生物・微小昆虫を実験材料に分子生物学の基礎的な実験技術について学習する。これらの実験は平行して進行する。また、授業内に前回の課題演習について解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	植物病虫害の診断（1）	ガイダンス
第2回	植物病虫害の診断（2）	農作物・樹木類の病虫害を観察・診断する
第3回	植物病虫害の診断（3）	農作物の病虫害を診断し、病原微生物、微小昆虫を分離し同定する
第4回	植物病虫害の診断（4）	樹木類の病虫害を診断し、病原微生物、微小昆虫を分離し同定する
第5回	植物病虫害の診断（5）	分離・同定した病原微生物の接種試験を行う
第6回	植物病虫害の診断（6）	接種試験の結果を評価する
第7回	植物病虫害の診断（7）	実験結果のまとめと考察を行う
第8回	DNA基礎実験法（1）	罹病植物・植物病害微生物・微小昆虫からの核酸抽出
第9回	DNA基礎実験法（2）	PCR法・PCR産物の精製
第10回	DNA基礎実験法（3）	制限酵素処理・ベクターへのクローニング
第11回	DNA基礎実験法（4）	形質転換
第12回	DNA基礎実験法（5）	プラスミド抽出
第13回	DNA基礎実験法（6）	塩基配列の決定・系統樹の作成
第14回	DNA基礎実験法（7）	実験まとめと考察

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、2時間を標準とする】
事前に植物医科学実験マニュアルの該当章を読み、実習作業イメージを把握しておく。また、配布したテキストを学習しておく。継続的な実験や経過観察、実験用植物の育成や管理、器具の洗いや片付けなどは実験時間以外にも自主的に実施する。課題に関してレポートにまとめる。また、前年までに行った実験・実習の内容（特に植物病の診断に関係する内容）を復習すること。

【テキスト（教科書）】
・植物医科学実験マニュアル（大誠社）
・実習の内容に応じて、適宜、参考資料を配布する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
診断実験・DNA基礎実験ともに実験ノートに目的・手法・結果・考察を記録し、提出してもらう。ただし、微小昆虫に関する実験についてはレポート提出とする。また、DNA基礎実験では課題演習を適宜行い、実験課題の目的や内容を理解しているかをチェックする。実験ノート・課題演習・レポートの提出物（88%）に加えて、平常点や実験態度（12%）を含めて総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】
手順の説明にビデオを活用する。実験手順への理解を深めるため、操作の待ち時間の有効活用を図る。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire an understanding and skills of the DNA cloning techniques associated to plant pathogens. This course also deals with the diagnosis of mite by both morphological analysis and sequencing analysis. In addition, it also enhances the development of diagnosis skill in plant diseases. Before/after each experiment, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Students are required to submit a notebook and a report on their work, which will be used to judge whether the student understands the purpose and content of the experiment (88%). Normal points such as experimental attitude (12%) will be also considered for final grade.

PPE300YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 300）

植物医科学専門実験　ＩＩ

津田　新哉、中山　喜一、濱本　宏、鍵和田　聡、佐野　俊夫、大島　研郎、大井田　寛、池田　健太郎、齋藤　範彦、廣岡　裕吏、武井　円、小林　慶範

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
前半は「タンパク質基礎実験法」として、分子生物学の基礎的な実験技術のうち、タンパク質を取り扱う基礎技術について習得する。後半は「植物医科学演習」として、研究テーマに関係して調査、考察し、文章および口頭での発表技術を訓練することを目的とする。

【到達目標】
植物病の研究に用いられるタンパク質解析法を理解し、さらに、植物医科学にかかわる広範な技術を理解し知識を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP3

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
前半の「タンパク質基礎実験法」ではタンパク質の抽出、電気泳動、ウエスタンブロット法による目的タンパク質の検出などを行う。また、後半の「植物医科学演習」では、研究室に分かれ研究テーマに関連する論文、資料について調べ、まとめて発表し、総合的に討議する「ゼミ演習」を行う。フィードバックについては、前半では毎回提出させる課題について翌週解説を行うことで、後半ではゼミ担当教員が授業内での質疑応答によって、行うこととする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	タンパク質基礎実験法（1）	ガイダンス
第2回	タンパク質基礎実験法（2）	サンプル調製・試薬作成
第3回	タンパク質基礎実験法（3）	電気泳動・CBB染色
第4回	タンパク質基礎実験法（4）	電気泳動・ウエスタンブロッティング（転写）
第5回	タンパク質基礎実験法（5）	ウエスタンブロッティング（検出）
第6回	タンパク質基礎実験法（6）	タンパク質基礎実験法のまとめ
第7回	植物医科学演習（1）	植物医科学に関連する論文、資料について調べる（1）
第8回	植物医科学演習（2）	調べた論文、資料について報告・発表する（1）
第9回	植物医科学演習（3）	植物医科学に関連する論文、資料について調べる（2）
第10回	植物医科学演習（4）	調べた論文、資料について報告・発表する（2）
第11回	植物医科学演習（5）	植物医科学に関連する論文、資料について調べる（3）
第12回	植物医科学演習（6）	調べた論文、資料について報告・発表する（3）
第13回	植物医科学演習（7）	植物医科学に関連する論文、資料について調べる（4）
第14回	植物医科学演習（8）・総合まとめ	調べた論文、資料について報告・発表する（4）・総合まとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、2時間を標準とする】配布したテキストを学習しておく。継続的な実験や経過観察、実験用植物の育成や管理、器具の洗いや片付けなどは実験時間以外にも自主的に実施する。課題に関してレポートにまとめる。

【テキスト（教科書）】
実験テーマごとに資料を配布する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
実験レポート評価および演習評価：70%、平常点：30%、を基本とし、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
手順の説明にビデオを活用する。操作の待ち時間に実験の理解を深めるための課題を与えるなど、実験の本質への理解を深めるために時間の有効活用を図る。

【学生が準備すべき機器他】
担当教員より適宜指示する。

【その他の重要事項】
国や地方の試験場等で植物保護の実務に取り組んだ教員、あるいは民間企業で研究開発の実務を経験する教員が、実験の具体的な操作のサポートや実験事故防止に努める。

【Outline (in English)】
【Course outline and Learning Objectives】
Students will obtain the basic skills of the protein handling, such as protein quantification, SDS-PAGE and Western blotting/Immunodetection. In the latter half, students are trained to study reference literature relating to clinical plant science.
【Learning activities outside of classroom】
Read the text of the course / experiment before and after each experiment.
【Grading Criteria /Policy】
Final evaluation will be decided basically according to the reports (70%) and in-class contribution (30%).

PPE100YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 100）

植物管理技術論

安達　俊輔、桂　圭佑、若林　侑

開講時期：春学期授業/Spring
備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人類の長い歴史の中で選び抜かれてきた作物は、我々が生きていくために必要な食料や工業原料を提供しています。本授業では、そのような各種作物の基本的な特徴や栽培手法を平易に解説します。学生のみなさんには、普段何気なく利用している作物を正しく理解し、農業という基幹産業に対する想像力を関心を持っていただくことを期待します。

【到達目標】
食用、飼料、工業目的で栽培される各種作物の起源、特徴、栽培技術、利用や関連する課題について学び、自ら説明できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義形式により授業を進める。質問があれば毎回の授業後に所定のリリアクションペーパーに書き込む。成績評価は、すべて学期末テストにより行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび総論	授業構成の説明および作物の種類、作物の栽培化
2	イネ(1)	イネの起源、世界の生産状況、栽培方法
3	イネ(2)	イネの発達段階と形態
4	イネ(3)	イネ栽培をめぐる日本における課題
5	イネ(4)	イネの収量を増大させるための最新研究
6	豆類	ダイズをはじめとする豆類の種類、生理、形態と栽培
7	麦類	コムギ、オオムギやその他麦類の種類、生理、形態と栽培
8	飼料作物	青刈飼料作物と牧草の種類、調製の方法
9	雑穀類	トウモロコシをはじめとする雑穀類の生理、形態と栽培
10	工芸作物(1)	油料作物、糖料作物の種類、生理、形態と栽培
11	芋類	ジャガイモ、サツマイモなど芋類の種類、生理、形態と栽培
12	工芸作物(2)	嗜好料作物、繊維料作物の種類、生理、形態と栽培
13	世界の作物	世界の過酷な環境で栽培される作物を紹介
14	授業のまとめならびに試験	筆記試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業と関連する知識の習得に努めること。

【テキスト（教科書）】
講義ごとに資料を配布する。

【参考書】
農学基礎シリーズ　作物学の基礎I 食用作物, 農文協
農学基礎シリーズ　作物学の基礎II 資源作物、飼料作物, 農文協

【成績評価の方法と基準】
学期末テスト 100％として評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業ごとにコメント・質問をオンラインで受け付ける。

【Outline (in English)】
Crops, which have been selected over the long history of mankind, provide food and industrial raw materials to us. In this lecture, the basic characteristics and cultivation methods of various such crops will be explained. We hope that students will gain a deeper understanding of the crops, and develop an imaginative interest in agriculture.

AGC100YD（農芸化学 / Agricultural chemistry 100）

植物栄養学

亀和田　國彦

開講時期：春学期授業/Spring
備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学
生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人類を含めて動物は，エネルギーの獲得およびその他の栄養素の多くを食料として植物に依存しています．植物が必要とする栄養素「植物栄養」は，植物の健全な生育を確保するため，最も基本的な環境要因です．
植物の必須元素として17元素が知られ，炭素，水素および酸素以外の14元素は根を介して土壌から吸収されます．本科目では，それら元素の植物体内での機能や根による吸収過程について学びます．その上で，植物栄養面から植物生育を評価し，またはコントロールするため，植物生育と植物栄養との関わりと管理手法を学びます．

【到達目標】
植物が生育するために必要な17種の必須元素の機能を光合成や体内代謝の植物生理的現象と関連づけて学び，理解します．また，植物根による養水分吸収機作と各種養分の土壌中での動態を学び，植物生育のコントロールのための，養水分管理の考え方や方法を理解します．
栄養成分の欠乏や過剰による植物生育の障害は植物病と同程度に重要です．それら障害の発生を土壌中での各養分の挙動に関連づけて理解し，植物医科学分野に必要な知識を習得します．
さらに，植物を中心とした地域生態系での物質循環を学び，植物の生育と環境保全の両面を維持するための地力保全のあり方を考えます．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
パワーポイントと板書による基本的な講義．
対面授業とオンデマンド授業を組み合わせる．
学習支援システムにより，資料を提供する．
対面授業ではリアクションペーパー，オンデマンドでは授業レポートの提出を求める．
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	植物と植物栄養	植物栄養学の発展 植物の構造の概観 無機栄養概観
第2回	植物による水の吸収	植物根の構造 根による水分吸収と体内での輸送 水と植物細胞 植物の水収支 土壌-植物-大気連続体
第3回	植物による養分吸収と物質輸送	根と土壌 根圏 受動的および能動的輸送 養分の膜を介したイオン輸送 篩部転流 ソースからシンクへの輸送様式 光合成産物の分配
第4回	窒素とイオウ	土壌および環境中の窒素 窒素の生理機能 硝酸とアンモニウムイオンの同化 タンパク質の分解と合成 共生窒素固定 硫酸イオンの吸収と同化 イオウの生理機能 窒素の過剰と欠乏 イオウの過剰と欠乏
第5回	リン	土壌中のリン リンの吸収と輸送 リンの同化と生理機能 体内代謝と移行 ミコリザ リンの過剰と欠乏
第6回	カリウムとナトリウム	カリウムの吸収と生理機能 カリウムの過剰と欠乏 ナトリウムの吸収と生理機能
第7回	カルシウムとマグネシウム	カルシウムの吸収と生理機能 カルシウムの過剰と欠乏 マグネシウムの吸収と生理機能 マグネシウムの過剰と欠乏
第8回	微量元素1	鉄の吸収と移行 鉄の生理機能 ホウ素の吸収と移行 ホウ素の生理機能 マンガン モリブデン
第9回	微量元素2	ニッケル 亜鉛 銅および塩素の吸収と生理的機能 微量元素の過剰と欠乏
第10回	有用元素	ケイ素の吸収と移行 ケイ素の生理機能 ケイ素集積 酸性土壌とアルミニウム毒性 植物のアルミニウム耐性
第11回	土壌溶液と養液栽培	土壌溶液イオン組成 溶液栽培のイオン組成 栄養診断 土壌診断
第12回	肥料	化学肥料の種類と性質 有機質肥料 肥料取締法
第13回	施肥	植物による養分吸収速度 施肥法
第14回	物質循環と環境	地域環境 農業環境 地球環境における植物栄養を中心とした物質循環(炭素，窒素，リン，カリウム) 塩類集積や重金属汚染に対する植物の反応

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】講義ノートや参考書をもとに，講義内容を復習．

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
植物栄養学　第2版　間藤・馬・藤原編，文永堂出版，2011
新植物栄養・肥料学　米山・長谷川・関本・牧野・間藤・河合著，朝倉書店，2012
植物生理学・発生学　リンカーン・テイツ，エドゥアルド・ザイガー,イアン.M・モーラー,ガス・マーフィー編集，講談社，2017

【成績評価の方法と基準】
期末試験60%，リアクションペーパーおよび授業レポートによる平常点40％による総合評価とする．

【学生の意見等からの気づき】
毎回提出の小レポートで質問や提案を受け，できる限り次回の授業までに回答し，次の授業に反映する．

【その他の重要事項】
秋学期開講の土壌科学を併せて受講するとより，理解が深まる

【Outline (in English)】
[Course Outline]
Animals and humans depend on plants for energy and other essential nutrients. The "plant food" they require is the most basic environmental factor for healthy growth.
There are 17 essential elements for plant nutrition. Fourteen of these elements, other than carbon, hydrogen, and oxygen, are absorbed by the roots from the soil.
In this course, you will learn about the functions of the 17 essential elements necessary for plant growth and their relation to physiological processes such as photosynthesis and metabolism. You will also learn the mechanisms of nutrient uptake by plant roots, the dynamics of nutrients in the soil, and the concepts and methods of nutrient water management to control plant growth.
[Learning Objectives]

Plant growth disorders due to nutrient deficiencies or excesses are as important as plant diseases. You will understand the occurrence of these disorders in relation to the behavior of each nutrient in the soil and acquire the necessary knowledge for the field of botanical science.
You will also study the nutrient cycle in regional ecosystems with a focus on plants, and consider ideal ways to manage soil to maintain plant growth and environmental health.
[Out-of-class learning activities]
Review the lecture content using the lecture notes and reference books. Four hours is the standard for out-of-class learning, including preparation and review for this course.
[Grading Criteria/Policy]
Grading will be based on a comprehensive method, with 60% based on the final exam and 40% based on the normal score, including the reaction paper submitted each time.

PRI100YD（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

生物学実験統計分析演習

松下　秀介

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実証研究を遂行する上で最低限必要となる統計学的な考え方、データの集め方、処理方法等について，理論と実証の両面から講述する．

【到達目標】
統計学の基礎知識（研究を遂行する上での統計学的な考え方，データの集め方，処理方法等）を習得し，その知識をデータ解析環境Rを用いた実証分析に応用できるようにする．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
講義と貸与ノートPCを用いた演習を組み合わせた授業形式とする．毎回の授業の最後に当日の授業についての小テストを実施し，毎回の理解度を確認する．つまり，理解度を勘案しながら授業を進める予定のため，必ずしもシラバス通りに進まないことがあることに留意してほしい．
講義は，基本的にリアルタイムでのオンライン開講とする．一部，対面でも講義も予定している．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション：統計学とは	授業内容を紹介し，成績評価の方法等を説明する
2	度数分布	データの分類と標本の抽出について
3	分布の特性を表す代表値	異常値の存在とその取り扱いについて
4	確率の考え方	理論的確率と統計的確率
5	確率分布と期待値	確率密度関数の定義
6	主要な確率分布(1)	重要概念の紹介：二項分布とポアソン分布 他
7	主要な確率分布(2)	重要概念の紹介：正規分布の考え方と標準化の概念
8	確率分布に関する諸概念の復習	前半の講義を振り返り，重要ポイントを再論する
9	標本分布(1)	標本平均と大数の法則
10	標本分布(2)	正規分布とｔ分布
11	統計的推定	標本標準偏差の理解とその応用
12	統計的検定(1)	仮説検定の基本的な考え方
13	統計的検定(2)	２種類の過誤
14	回帰分析の基礎	最小二乗法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
授業の内容については，学習支援システム上で公開します．毎回の講義の前に，その内容を確認しておくことが望ましい．

【テキスト（教科書）】
随時，資料を配布する
教科書が必要な学生には，栗原 伸一『入門統計学（第２版）－検定から多変量解析・実験計画法・ベイズ統計学まで－』オーム社：2021年刊を勧める

【参考書】
山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎『Rによるやさしい統計学』オーム社：2008年刊（統計学の入門書としても最適）
Andrew P. 他著・富永大介訳『Rをはじめよう生命科学のためのRStudio入門』羊土社：2019年刊（少し高度なRの入門書）

【成績評価の方法と基準】
各回のレポート（20％）と期末試験の成績（80％）により評価する．ただし，出席率６割以上の学生を評価の対象とする．

【学生の意見等からの気づき】
学生からの要望により，毎時間の最後に課している小レポートについて，翌週の講義冒頭にそれらの解説を行っている．具体的には，一部の学生の提出内容を紹介し，正答・誤答の判定とその理由を紹介するなどの時間を設けている．学生からは，毎回（前回）の講義内容の理解の深化に役立っているという感想を得ている．

【学生が準備すべき機器他】
主に後半の講義において，教員の指示により，貸与ノートPCの持参を求める

【その他の重要事項】
進捗の程度によって，EBPM（Evidence Based Policy Making）の考え方，因果推論の分析手法についても，紹介する．

【Outline (in English)】
★Course outline
This course introduces the fundamental theory of statistics for bioscience and related fields. Lectures, hands-on practice, and exercises using "The R Statistical Computing Environment" on laptop computers are integrated as core educational approaches in this class.
★Learning Objectives
By the end of this course, students are expected to be able to:
1. Understand the theoretical basis of statistical tests used to determine whether a real difference exists between the means of two different groups.
2. Apply these statistical tests using the R Statistical Computing Environment.
★Learning activities outside of classroom
Between classes, students are expected to work on assignments and challenges given by the instructor at the end of each class session.
★Grading Criteria /Policy
Students are required to attend more than "60%" of all classes. Final grades will be evaluated based on the following components:
Term-end examination: 80%, Short reports : 20%,

PPE200YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 200）

ホーティカルチャー論

津田　新哉、鈴木　栄、彦坂　晶子、堀内　尚美

開講時期：春学期授業/Spring
備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)
その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
園芸作物である果樹、野菜、花きは、人々に健康や豊かな生活をもたらすものとして、古くから栽培・利用されてきた。これら園芸作物の生産と消費にとって重要な局面、特に育種・栽培・流通に関する研究と技術開発を行うのがホーティカルチャーサイエンス（園芸学）である。本授業では、園芸作物に特徴的な成長と発育の仕組みと、それに基づく栽培管理技術、さらに、収穫物の品質に関係する重要形質とその制御技術について、基礎的な知識を学ぶ。

【到達目標】
果樹、野菜、花きは、幅広い種から構成されており、品目ごとに様々な成長と発育の特性を持つ。そのため、栽培体系、育種技術も非常に多岐にわたっている。しかし、その背景には共通のいくつかの要素があり、それらの組み合わせで技術体系が成り立っていることを理解できるように努める。この理解により、園芸作物が示す多種多様な現象に対して応用できる基礎的な知識と考え方の習得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本授業は、パワーポイントによるスライド映写と配布資料等を用いて、講義を行う。また、適度にグループディスカッション等も交え知識の醸成を図る。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ホーティカルチャーの定義と野菜の分類	ホーティカルチャーおよび農業に関する基本的な定義と、利用部位による野菜の分類、成長ステージ別の特徴などを解説する。
2	品種開発から流通までのプロセスと要素技術	野菜の品種開発から流通に関する現状と、各要素技術などを解説する。
3	野菜生産１（施設栽培および養液栽培）	野菜の生産方法に関して、露地と施設の比較から、それらの目的と環境制御の特徴を解説する。
4	野菜生産２（植物工場）	究極の施設園芸である植物工場の特徴を解説し、野菜生産の現状と最新の研究開発のトピックを紹介する。
5	果樹栽培と生理特性1	果樹の種類や主産地などについて触れた後、果樹の年間の生育サイクルおよび休眠、開花、結実の生理特性について解説する。
6	果樹栽培と生理特性2	果実の肥大や成熟の生理特性や、果樹の光合成および同化産物の分配について解説する。
7	果樹生産と環境	気象条件や土壌条件が果樹生産に及ぼす影響について解説する。また、高品質な果実を生産するための栽培管理法について触れる。
8	果樹の育種	果樹における各樹種の原産地や育種の歴史について触れると共に、育種方法や繁殖方法について解説する。
9	花き園芸学序論	花きにはどのような種類があり、どのような歴史を経て発展してきたかについて解説する。
10	花きの生育と開花	花き類に特徴的な成長と発育の仕組みと、それに基づく，実際の品目の栽培体系について解説する。
11	花きの品質と観賞性1	花きの品質を構成する3大要素である形、色、香りがどのような仕組みで発現し、観賞性にどのように貢献するのかについて解説する。
12	花きの品質と観賞性2	前回の授業に引き続き、花きの品質の基礎について各品目ごとに解説する。
13	花きの品質と観賞性3	前回の授業に引き続き、花きの品質の基礎に加え，花き生産の将来についても解説する。
14	まとめ	これまでの授業内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業内容を適宜復習するとともに、興味を惹かれる内容に関しては、関連する文献を調べるなど積極的に理解を深める。もしも状況が許せば、果樹、野菜、花きのうち、どれかひとつでもよいので自分で栽培してみる。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて資料を配布する。教科書は使用しない。

【参考書】
作物の生育と環境 （西尾道徳 著）農山漁村文化協会
施設園芸学 植物環境工学入門（後藤英司／編）朝倉書店
農学基礎シリーズ　果樹園芸学の基礎 (伴野 潔, 山田 寿, 平 智編著), 農文協, 2013
農学基礎シリーズ　野菜園芸学の基礎　（篠原温編著），　農文協，2014
農学基礎シリーズ　花卉園芸学の基礎　（腰岡政二編著），　農文協，2014
このほか、より深く知りたい内容がある場合には、文献を紹介するので、お問い合わせください。

【成績評価の方法と基準】
定期テスト（各分野30点、計90点）と平常点10点の合計により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本授業で扱う園芸植物は、果樹、野菜、花きの非常に広い範囲にわたりますが、限られた授業時間の中で、これらの植物の生産の基礎が理解できるように努めたいと思います。

【その他の重要事項】
「授業計画」の開講順は変動することがある

【Outline (in English)】
Horticultural crops, i.e. fruit trees, vegetables and flowers, have been cultivated and used for a long time as they bring healthy and rich lives to people. Horticultural science is the research and technology development concerning important aspects of production and consumption of horticultural crops, especially breeding, cultivation, and distribution. The aim of this course is to help students acquire fundamental understandings about the mechanism of growth and development of horticultural crops, cultivation management technology, and control of important traits related to harvest quality. The standard preparation and study time for this class is 4 hours each. In addition to reviewing the contents of the class as necessary, students are expected to actively research related literature to deepen their understanding of the content of interest. If the situation permits, try to grow one of the fruit trees, vegetables, or flowering plants by yourself. Evaluation will be based on a total of 25 points for attendance and a regular test (25 points for each field, 75 points in total).

BOA200YD（境界農学 / Boundary agriculture 200）

植物医科インフォマティクス演習

大島　研郎

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・植物医科学の分野でも、ゲノムや遺伝子組換えなどの知識・技術が必要である。また実験データを分析する機会も多いため、インフォマティクス（データサイエンス）を身に着けておくことが重要である。
・本授業では植物や微生物を題材にして、DNAの切り貼り、遺伝子組換えの方法などを学び、2年生の応用実験や3年生の専門実験で役立つスキルを身に着けることを目的とする。

【到達目標】
DNAシークエンスや遺伝子組換えの手法を理解するとともに、表計算ソフトや画像解析の基礎を学ぶ。また、ゲノムデータベースを閲覧する方法や遺伝子の塩基配列を取得する方法など、ゲノム情報を活用するためのスキルを身につける。さらに、DNAの切り貼りや系統樹の作成法などを演習形式で学習することで、実験・実習や卒業研究で役立つ技術の習得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
・対面授業とZoomを併用した「ハイフレックス形式」で講義を行う。
・講義資料の解説と、パソコンを使った演習によって授業を進める。
・各回の終わりに課題を提示し、学習支援システムを通して解答してもらう。
・授業内に前回の課題について解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業全体のガイダンス
第2回	植物病のデータを解析しよう	Excelを使って、実験データを解析する手法を学ぶ
第3回	実験データを比較解析しよう	Excelを使って有意差を検定する
第4回	植物病の画像データを解析しよう	画像解析ソフトを使って植物の病徴を解析する
第5回	ゲノムデータを見てみよう	植物やヒトのゲノムデータベースを閲覧する
第6回	DNAの配列を読んでみよう	塩基配列を決定する「DNAシークエンス」の手法を学ぶ
第7回	遺伝子の機能を予測しよう	相同性検索を使って遺伝子の機能を調べる
第8回	ゲノムを解読するには？	ゲノムDNAの中から遺伝子を探す方法を学ぶ
第9回	生物の進化を解析しよう	系統樹の描いて、生物の進化を解析する
第10回	遺伝子組換え技術を学ぼう	PCRや制限酵素の使い方など、遺伝子組換えの手法を学ぶ
第11回	DNAを切り貼りする方法を学ぼう	DNAを切り貼りする方法など、遺伝子組換え技術の基礎を学ぶ
第12回	遺伝子組換え植物について学ぼう	どうやって遺伝子組換え植物を作るのか？
第13回	ゲノムを解析して生命を理解しよう	生物の生存戦略を最先端の手法によって解析する
第14回	総括	講義内容の復習・確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする。
・授業内で提示された課題を解き、学習支援システムを使って解答を提出する。

【テキスト（教科書）】
毎回、資料を配布する。

【参考書】
植物医科学 第2版（養賢堂）
植物医科学実験マニュアル（大誠社）
植物たちの戦争 病原体との5億年サバイバルレース（講談社 ブルーバックス）

【成績評価の方法と基準】
期末試験(50%)、各回の課題(36%)、平常点(14%)により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
パソコンを活用した演習を取り入れるとともに、講義資料を穴埋め式にするなど、効率的に学習できるように工夫している。

【学生が準備すべき機器他】
必要なソフトウェアについては、初回の授業内で説明する。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the bioinformatics associated to plants and plant pathogenic bacteria. This course deals with the principles of statistics, DNA sequencing, and DNA cloning. This course also enhances the development of students' skill in dealing with genomic data. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be decided based on short reports after each class meeting (36%), a term-end examination (50%), and in-class contribution (14%).

PPE200YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 200）

実践植物遺伝学

坂井　真、黒羽　剛

開講時期：春学期授業/Spring
備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学
生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
イネやコムギなどの作物は人類の農耕の始まりの過程で栽培化され、長い年月をかけて改良されてきました。農業生産の生産性を高め、安定化させるための基盤、あるいは食生活に豊かさをもたらす存在として各種作物の優良な品種は欠かせません。近代以降、遺伝学の発達とともに品種改良の手法は体系化され、また最近ではバイオテクノロジーの発達で品種改良の手法も大きな進歩を遂げています。一方で、気候変動や環境の変化により世界的に農業を取り巻く状況も大きく変化し、そうした事態に対応した新たな品種改良とその手法が求められています。

本講義では、農業技術を支える品種を改良する手法や事例、品種改良の社会への貢献について基礎的な知識と方法を学びます。前半（１～７回）は、作物の栽培化の過程や品種改良の発達史を含めた植物育種学の基礎を学びます。後半（８～１４回）ではバイオテクノロジーの基本的な技術である、遺伝子解析手法や遺伝子組換え、ゲノム編集の基本的な手法とそれらを活用した品種改良の新しい手法について学びます。

【到達目標】
イネ、コムギ等の農作物の品種改良の基礎となる遺伝学の基礎的な理論、品種改良の実際の手法とその発達史について知る。
品種改良の目的、品種改良の素材となる遺伝資源の重要性、育成された品種の活用や農業への貢献の実例について理解する。
育種・遺伝の基礎となる遺伝子やゲノムの概念と構造、およびその解析法についてその発達史、基本原理、最近開発された手法について理解する。
DNAマーカー、遺伝子組換え、ゲノム編集など新しい育種技術の基礎的な理論や手法、事例について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
対面授業またはオンライン授業を予定しており、授業では主に資料を配布または画面共有してそれに基づいて進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	育種(品種改良）とは	品種改良＝育種の歴史、農作物の品種改良の意義、遺伝学の基礎、生物の遺伝子型と表現型について学習する。
第2回	育種における遺伝資源	遺伝資源の重要性と農作物の栽培化、組織的な品種改良が始まる前の作物の歴史について学習する。
第3回	育種組織と育種目標	公公的機関(国・地方自治体）の組織的な品種改良の歴史と、そこで実施されてきた品種改良について学習する。農作物に求められる特性（収量性、耐病性、ストレス耐性、品質成分）の改良について学習する。
第4回	育種の基本的な操作・手法	品種改良の基本的な手法としての、人工交配、突然変異、遺伝子組換え等の遺伝変異作出方法について学習する。
第5回	圃場での選抜手法	品種改良の基本的な手法としての選抜手法のうち、圃場（水田や畑）で行う生産力検定試験、特性検定試験、地域適応性試験、現地試験について、試験の意味や必要性、試験を行う環境の重要性について学習する。
第6回	室内での選抜手法	品種改良の基本的な手法としての選抜手法のうち、実験室や解析施設で行う種子成分の分析、品質分析、加工試験、食味試験やDNAマーカーによる選抜の意味や必要性について学習する。
第7回	品種登録と品種の普及	品種を普及させ夜に広めてゆくための、品種登録の意義や制度、種苗の増殖、生産者や加工業者への普及、流通制度等について学習するとともに、前半のまとめを行い、品種改良の社会的意義について考える。
第8回	ＤＮＡ、遺伝子、染色体、ゲノムの構造	育種・遺伝の基礎となる遺伝子やゲノムの概念と構造について学習する。
第9回	作物の遺伝子解析手法	ＤＮＡシーケンシング、ハイブリダイゼーション、ＰＣＲなど、分子生物学的解析法の歴史と原理について学習する。
第10回	ＤＮＡマーカー	連鎖解析に用いるＤＮＡマーカーの歴史と原理、応用例について学習する。
第11回	遺伝子の機能解析	「突然変異型の遺伝解析から原因遺伝子を同定する手法（フォワードジェネティクス）」と「対象遺伝子の変異体を探索・作成し、その機能を同定する手法（リバースジェネティクス）」について学習する。また、研究対象となる遺伝子の機能解析手法についても紹介する。
第12回	遺伝子組換え作物およびゲノム編集技術	遺伝子組換え作物の作成手法について学習する。また、より新しいアプローチとして注目されているゲノム編集技術について学習する。
第13回	ゲノム解析の新技術	マイクロアレイや次世代シーケンサーを用いた新しいゲノム解析技術について学習する。
第14回	ゲノム研究における新知見	サイレンシング、クロマチン修飾等のエピジェネティクス、ＲＮＡやタンパク質の安定性制御など、ゲノム科学における新知見について学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
授業と関連する知識の習得に努める。

【テキスト（教科書）】
講義ごとに資料を配布する。

【参考書】
特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】
平常点（５０％）と期末試験（５０％）により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
引き続き、授業支援システムも活用しつつ、学生の理解を促進したい。また、ポイントを把握できるように、専門用語をていねいに解説するとともに、板書の明確さやマイク音量、平易な言葉遣い等にも配慮する。

【その他の重要事項】
小テストを行い、重要なポイントの確認に役立てる。また講義内容に関する質問・感想・要望を随時受け付ける。

【Outline (in English)】
Excellent varieties of crops are essential for increasing and stabilizing agricultural production and for providing food diversity.In this class, we aim to study basic knowledge and methods in breeding (#1 - #7)and molecular genetics(#8 - #14) for crop improvement. Students will be expected to study the relevant knowledge of this class. Grading will be decided based on term-end examination (50%) and short reports (50%).

COT200XG（計算基盤 / Computing technologies 200）

創生科学基礎演習III

金沢　誠

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
プログラミング言語Haskellを通して，関数プログラミングの考え方と，プログラミング全般に関する次のような基礎的事項を学ぶ。
・再帰的な関数の定義
・帰納的なデータ型の定義
・抽象的データ型
・アルゴリズムの効率

【到達目標】
・Haskellを使っていろいろな問題を解くプログラムを書くことができる。
・QuickCheckを用いてプログラムの自動テストを行うことができる。
・高階関数などのプログラムの抽象化の手法を使うことができる。
・プログラムの効率の良さを比較することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行う。演習では，学生に対して個別に指導する。課題の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。頻繁に授業内で小テストを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	型，簡単な計算	Haskellにおける型，数式，関数の定義
2	リストと内包表記	リスト，リストに対する関数，文字列，タプル，リスト内表表記，列挙式
3	プログラムのテスト	テストによるバグの検出，性質に基づくテスト，QuickCheckを用いた自動テスト
4	リストと再帰	関数の再帰的定義，リストと再帰，リスト内包表記による定義と再帰的定義，再帰的定義の効率化
5	さらに再帰について	リストの整列，いろいろな再帰関数
6	高階関数	無限リストと遅延評価，再帰的定義に共通なパターン，map, zipWith, filter, 部分適用
7	さらに高階関数について	foldr, ラムダ式，関数合成，カリー化とアンカリー化
8	代数的データ型	列挙型，代数的データ型，タプル，リスト，Maybe型，Either型
9	式木	多項式のデータ型，再帰的に定義された関数
10	式木（つづき）	命題論理式，命題論理式の評価，充足可能性の判定
11	充足可能性の判定	論理積標準形，節形式，DPLLアルゴリズム，DPLLアルゴリズムの実装，数独への応用
12	構文解析	型クラスRead，多項式の構文解析
13	べき級数	べき級数の表現，母関数
14	総合演習	式木，構文解析，べき級数に関する応用問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
テキストの該当箇所をあらかじめ読んでおく。
授業内で示された課題を完成させる。

【テキスト（教科書）】
オンラインの講義資料を用意する。

【参考書】
Donald Sannella, Michael Fourman, Haoran Peng, and Philip Wadler. 2022. Introduction to Computation: Haskell, Logic and Automata. Springer.
https://doi.org/10.1007/978-3-030-76908-6（法政大学のネットワークからダウンロード可能）
https://www.intro-to-computation.com （著者によるこの本のサイト）
Graham Hutton 著，山本和彦 訳．2019. プログラミングHaskell第2版．ラムダノート．
https://www.lambdanote.com/products/haskell

【成績評価の方法と基準】
授業内の小テスト（30%），期末試験（70%）による．

【学生の意見等からの気づき】
小テストを頻繁に行い，学生の理解を確かめながら進める．

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコン．

【その他の重要事項】
プログラミングの経験は必要としない。HaskellはJavaやPythonのような手続き型言語とは大きく異なるが，プログラミング初心者にも修得可能である。
プログラミング能力を習得することがこの授業の目標である。課題を解く際にChatGPTなどのツールを使ったり，他人の課題を丸写しする（あるいは丸写しさせる）ことは剽窃行為である。

【Outline (in English)】
(Course outline)
The course introduces the students to functional programming as well as to various fundamental notions in programming and software development in general.
(Learning objectives)
The goal is to be able to do the following:
- to write programs in Haskell to solve various combinatorial problems
- to test your program automatically using QuickCheck
- to use techniques of abstraction like higher-order functions
- to compare efficiencies of different programs for solving the same task
(Learning activities outside of classroom)
Students are expected to read the relevant part of the textbook prior to each class meeting, and to work on the assigned homework.
(Grading Criteria)
The grade will be based on the in-class tests (30%) and the final exam (70%).

MEC200XG（機械工学 / Mechanical engineering 200）

物理学基礎Ⅴ（熱統計力学Ⅰ）

梶田　雅稔

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
マクロな熱力学とミクロな統計力学の入門部分について学ぶ。
熱現象から出発し、仕事、熱機関、熱力学法則、エントロピーに達する熱力学の考え方を学習した上で、気体運動論から集団分布を扱う統計力学の基本を学習する。また、歴史的な発展、変遷についても理解する。

【到達目標】
熱力学と統計力学の基本的入門部分を理解する。またそこに至る歴史的考察を知識として持つ。特に観測される熱平衡状態がエントロピー最大、つまり確率最大であることを理解してほしい

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義を主として授業を進める。基本的な概念・法則の理解を重視して適宜レポート課題を課す。レポート評価は基本概念を理解を重視する。最終回に最終試験を行うが、その時は筆記用具以外の持ち込みは禁止することを念頭においてほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	熱・統計力学と確率論	熱力学第一、第二法則とそれに関わる確率論を開設する
2	分子の2領域の分布比	容器内の2領域内の分子数分布を確率論から紹介する
3	エネルギー分布と統計力学的温度の定義	接触する2領域の確率最大のエネルギー分布とそこから導かれる温度の定義
4	温度を決めたときのエネルギー分布	統計力学的温度の定義に基づくエネルギー分布を示す
5	平均エネルギー	統計力学から導かれる平均運動エネルギー、位置エネルギー
6	熱力学入門	気体の状態方程式を紹介したうえで与える熱エネルギーと期待が外部に対して行う仕事。気体の比熱についても議論する
7	断熱変化	断熱膨張、圧縮を行った時の温度変化
8	カルノーサイクル（理想）	典型的な動力機関として絵のカルノーサイクルを紹介、熱陸学的エントロピーの紹介
9	カルノーサイクル（現実）	理想的なカルノーサイクルではエントロピーは不変であるが現実は増大することを示す
10	熱平衡状態	総エントロピー最大で示される熱平衡状態と自由エネルギーの関係を示す
11	独立事象が成り立たない場合のエネルギー分布	原子分子の波束が広がって重なりが生じたときの現象を紹介する。その場合は、それまでの統計力学が成り立たない
12	黒体輻射	量子論のさきがけとなったプランクの黒体輻射を紹介する
13	エントロピーについての考察	レーザー光を用いた原子制御を紹介、その場合エントロピー増大の法則が破れていないか考察
14	まとめと評価	まとめと最終試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
前回の復習をしてから授業に臨むことが重要である。

【テキスト（教科書）】
power point資料を配布する

【参考書】
Fundamentals of Analysis in Physics 法政図書館にあり
第6章が本授業に関連する部分である

【成績評価の方法と基準】
授業期間中に数回のレポート90%、最終試験10 %で評価する。
レポート成績が良い人は試験免除する
ただし、基本概念の理解が不完全と思われるレポート、他人のレポートと酷似したレポートは口頭試問を行ったうえで評価することがある
最終試験では筆記用具以外持ち込み禁止する
基礎事項が理解てきていない人は不可の評価にすることを認識してほしい

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
授業中にレポート問題を解く時間を与えることもあるのでPCの持ち込みを推奨する

【その他の重要事項】
最低限の理解ができていない人は不可にするのでその旨認識してほしい

【Outline (in English)】
This course deals with the very beginning of thermodynamics and statistical mechanics. The topics covered by this course include the thermal phenomena, the formalism of thermodynamics, the statistical mechanics from behaviors of micro gas particles, etc. The goals of this course are to understand the basics of thermodynamics and statistical mechanics, and to learn how these scientific fields have been developed. Students will be expected to review the previous lecture before each class meeting. Grading will be decided based on in-class contribution (including in-class practice: 90 %).and term end examination 10 %. For students with high score of in-class contribution, credit will be given without term end examination.

PLN300XG（地球惑星科学 / Earth and planetary science 300）

地球科学基礎 II （リモートセンシング）

佐藤　修一

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地球科学を構成する領域のなかから，リモートセンシングを用いた地球・宇宙観測の基礎を学ぶ．観測装置からデータ解析までの一連のシステム構成の概要と併せて，特に観測装置としてのセンサと観測対象についての理解を深める．

【到達目標】
衛星を用いた宇宙からのリモートセンシングをテーマとする．大きな柱はセンシングとデータ解析であるが，ここではセンシングに力点を置き，その礎の一つとして宇宙・地球科学の基礎を学ぶ．宇宙における科学の方法を概観するとともに，いくつかのミッションについて紹介する．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業形態の基本は講義とする．授業内で課題を出し，授業内でワークショップ的に作業も行う．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
第2回	リモートセンシングの基礎（1）	リモートセンシングとは
第3回	リモートセンシングの基礎（2）	大気への応用
第4回	リモートセンシングの基礎（3）	陸域への応用
第5回	リモートセンシングの基礎（4）	水域への応用
第6回	リモートセンシング・ミッション（1）	放射と反射
第7回	リモートセンシング・ミッション（2）	プラットフォーム
第8回	リモートセンシング・ミッション（3）	センサ：電波
第9回	リモートセンシング・ミッション（4）	センサ：光学
第10回	リモートセンシング・ミッション（5）	軌道設計の基礎
第11回	衛星のための軌道設計（1）	オイラー法
第12回	衛星のための軌道設計（2）	ルンゲクッタ法
第13回	衛星のための軌道設計（3）	軌道設計の最適化
第14回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・学習時間は，各4時間を標準とする．授業内で示される課題（レポート、演習問題）に対応する．

【テキスト（教科書）】
特に指定しない．

【参考書】
特に指定しない．

【成績評価の方法と基準】
平常点とレポート等（50%）および期末試験（50%）から総合的に評価する．

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートおよび日常的な意見や要望・実際の授業の状況などを踏まえ，授業の進度・内容に適宜フィードバックする．

【Outline (in English)】
This class introduces the fundamentals of space science. This course focuses on remote sensing from space using satellites and the fundamentals of space science that form the cornerstone of such remote sensing. The methods of science in space will be reviewed and several missions will be introduced in detail. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Evaluation will be based on the overall evaluation of the student's performance, including regular marks, reports, etc. (50%), and a final examination (50%).

MAN300XG（経営学 / Management 300）

イノベーションと企業経営

呉　暁林

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　経済のサービス化、国際化、デジタル化、DX（デジタルトランスフォーメーション）とAIなど経済活動のありかたと経済環境が大きく変化しています。企業の成長・経済の成長の起爆剤としてイノベーションが期待されています。本授業は生産と消費の媒介としての流通販売に焦点を当て、企業経営、マーケティング、企業業績の評価など経営学、マーケティングの基礎知識を学び、イノベーション（創造の促進と破壊の打撃を軽減する方策）の視点から具体的な企業事例（主に製造小売企業、製造業などに大きな影響を持つ流通企業）を取り上げて分析していきます。

【到達目標】
履修者が個人の課題発表の際に企業の経営活動を生産・流通・販売・消費の過程において把握でき、企業の経営戦略、マーケティング、企業の経営活動を初歩的に分析でき、関心のある業界や企業について新しい発見ができることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　本講義では，基礎知識と基本概念、事例、理論などの視点から，企業経営活動とマーケティングの関係、流通システムの構成と変化、イノベーションと企業業績評価（決算書の読み方など）について学習していきます。
教員による講義と事例分析で構成されます。事例について受講者が映像資料を視聴し、整理分析を行う演習、全員討論、個別学習発表などの形で展開します。
　提出された課題のうちいくつかを次回の授業で取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 企業経営とマーケティング	授業の紹介、企業の経営改革事例から学習ポイントを考える。
2	ユニクロとしまむらの経営業績を比較する（1）	企業の決算書 財務・会計の役割を理解する。
3	ユニクロとしまむらの経営業績を比較する（2）	財務諸表の読み方を学ぶ。
4	『楽天の野望』からIT時代のサービス・流通企業と経営戦略を考える	経営者の役割、企業経営、経営理念と経営戦略の基本概念と実践活動について考え、学ぶ。
5	企業の経営行動をどう把握するか、分析するにはどんな知識が必要かについて考える	DX銘柄2020ー”デジタル時代を先導する企業”トラスコ中山株式会社などの事例を取りあげる。
6	小松製作所、日立製作などの事例から市場戦略を考える	マーケティングの定義、マーケティングの考え方の時代的変遷、マーケティングコンセプト、マーケティングと製品市場戦略
7	商社の事例から流通の流れ・担い手の役割・販売管理を考える	大塚商会・三井物産などを取り上げて・消費財と生産財、小売りと卸売、・販売経路、販売管理を理解する。
8	ヤマト運輸・SBSの事例から物流の役割と進化を考える	物流企業の事例から宅配便と物流革命、ロジスティックスのバージョンアップなど物流システムの進化を学ぶ。
9	小売製造業（SPA）と事例（ユニクロ）からマーケティング環境の分析を学ぶ	経営戦略・事業領域・競争戦略・マーケティング戦略の分析概念と枠組み競争分析、マーケティングリサーチ、消費者市場と消費者行動、標的市場の選定
10	ユニクロの”妹分”のジーユーの事例からマーケティングプログラムを学ぶ	製品戦略とブランド戦略、価格戦略、チャネル戦略
11	イノベーションとアパレルEC （ゾゾタウン・メルカリ）	店舗ビジネスに依存したビジネスモデルとアパレル業界のECへの取り組を比較し、インターネット販売と効率性を学ぶ。
12	セブンイレブンの事例から小売業の業態ライフサイクルを考える	小売業の分類、業種、業態、流通のグローバル化などの視点から流通システムの変化を考察する。
13	期末学習発表	企業経営の基本的概念と網羅的な概念としてイノベーションの視点に基づく調査と事例分析
14	期末学習発表	企業経営の基本的概念と網羅的な概念としてイノベーションの視点に基づく調査と事例分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
参考書リスト①②③④から一冊選んで読んでください。Zoomクラウトにアップしてある映像を視聴してください。

【テキスト（教科書）】
特に指定していませんが、配布するプリントの通読、映像資料の視聴などを強く薦め,適時宿題を課します。
また、企業経営と業績を把握するために、会計の基本、決算書の見方などを解説する本を一冊ぐらい読むことを勧めます。岩谷誠治[2017）『会計の基本』（日本実業出版社）、川口宏之（2021）『決算書を読む技術』（かんき出版）、田中道昭監修（2021）『比べる決算書図鑑』（宝島社）などが挙げられます。また、清水洋（2024）『イノベーションの科学』（中公新書）をぜひ読んでほしい。

【参考書】
小倉行雄・斉藤毅憲（2012）『新訂経営学入門』放送大学教材
清水洋（2024）『イノベーションの科学』中公新書
経営学検定試験協議会（監修）経営能力開発センター（編）『経営学検定試験公式テキスト③マーケティング』中央経済社
照井伸彦・佐藤忠彦（2013）『現代マーケティング・リサーチ』有斐閣
石井淳蔵・廣田章光編著（2009）『１からのマーケティング』（第三版）、共に中央経済社
渡辺達朗・原頼利・遠藤明子・田村晃二著(2008)『流通論をつかむ』有斐閣
矢作 敏行 著『現代流通―理論とケースで学ぶ 』有斐閣
石井淳蔵著(2010)『マーケティングを学ぶ』ちくま新書
佐藤郁哉(1992)『フィールドワーク』新曜社
佐藤善信監修(2015)『ケースで学ぶケーススタディ』同文舘出版
田村正紀(2014)『セブンイレブンの足跡 持続成長メカニズムを探る』千倉書房

田村正紀(2006)『リサーチ・デザイン 経営知識創造の基本技術』白桃書房
Yin, R. K.(2011)『新装版ケーススタディの方法（第2版）』千倉書房（近藤公彦訳）
コトラー，フィリップ/ケラー，ケビン・レーン【著恩藏 直人【監修】/月谷 真紀【訳】（2008）『コトラー＆ケラーのマーケティング・マネジメント　第１２版』
柳原書店

【成績評価の方法と基準】
授業の宿題レポート40％、学習発表40%、期末分析レポート20％

【学生の意見等からの気づき】
受講者が自ら自分の関心を持つ業種と企業を見つけて取り組んでいくことは重要です。指示した学習資料（PDF、映像資料など）を必ず読み、視聴しましょう。また理解を深めるためには内容の要約をしておいてください。
受講者の理解度に合わせて改善していきますので、随時、質問と意見を受け付けます。

【学生が準備すべき機器他】
事例映像のメモを取ってレポートを授業終了後に提出してもらうので、ノートパソコンを必ず持参すること。

【その他の重要事項】
授業中の私語、スマートフォンのゲーム遊びは禁止

【Outline (in English)】
This course provides fundamental knowledge of corporate systems and corporate management, exploring how innovation, as a catalyst for corporate and economic growth, has influenced manufacturing and retail companies, as well as the manufacturing industry. Understanding will be deepened through case study analysis.
The goal is for students to make new discoveries about industries and companies of their interest by applying the knowledge and perspectives gained in class.
Students are required to read the designated textbooks and reference materials outside of lecture hours.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
We will evaluate based on reports and individual presentations (80%) and the final report (20%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

日本経済論Ａ

小黒　一正

開講時期：春学期授業/Spring　　単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本は今、少子高齢化やグローバル化の進展で様々な課題を抱えている。日本経済の今後の動向を理解するには、その内容を分析・考察するための「ツール」が必要であり、とくに「マクロ経済学」「公共経済学」の知識が必要不可欠となってくる。そこで、本講義では、財政政策・金融政策との関係を含めて「マクロ経済学」の基礎的な内容を学びつつ、日本経済を巡る課題をマクロ経済学の視点から見ていく。

【到達目標】
日本経済論を学ぶことで、日本経済を巡る課題に対して経済学的なロジックに従って考え、評価する姿勢を身につけることを目指す。日本経済の今後の動向を考えるうえで必要な諸理論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
現在のところ、基本的には教科書に沿って講義を進めることを予定している。教科書以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。
【留意事項】
なお、課題の提出等（フィードバックを含む）も「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
第2回	日本経済を理解するためのマクロ経済学(1)	マクロ経済学の基礎（マクロ経済の循環・GDP・名目と実質）
第3回	日本経済を理解するためのマクロ経済学(2)	古典派モデル(1)　基本モデル
第4回	日本経済を理解するためのマクロ経済学(3)	古典派モデル(2)　拡張モデル（恒常所得仮説、開放経済モデル）
第5回	日本経済を理解するためのマクロ経済学(4)	古典派モデル(3)　貨幣数量説、失業と労働市場
第6回	日本経済を理解するためのマクロ経済学(5)	ケインズ・モデル(1)　所得支出モデル
第7回	日本経済を理解するためのマクロ経済学(6)	ケインズ・モデル(2)　IS-LMモデルと財政金融政策の効果
第8回	日本経済を理解するためのマクロ経済学(7)	ケインズ・モデル(3)　IS-MPモデル、開放経済モデル
第9回	日本経済を理解するためのマクロ経済学(8)	消費関数・投資関数の理論
第10回	日本経済を理解するためのマクロ経済学(9)	財政赤字（ドーマーの命題・リカードの等価定理）
第11回	日本経済を理解するためのマクロ経済学(10)	経済成長論
第12回	現在の日本が抱える課題(1)	デフレ脱却、金融政策の効果と限界
第13回	現在の日本が抱える課題(2)	財政政策の効果と限界、成長戦略
第14回	期末試験と総括	試験等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備・復習時間は、各4時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】
浅子和美・篠原総一『入門・日本経済 第4版』有斐閣
麻生良文『マクロ経済学入門』ミネルヴァ書房
配布資料

【参考書】
マンキュー『マンキュー経済学II　マクロ編』東洋経済新報社
マンキュー『マクロ経済学I・II』東洋経済新報社
内閣府『経済財政白書』（経済企画庁『経済白書』）
小黒一正『日本経済の再構築』日本経済新聞出版社
山重慎二・加藤久和・小黒一正『人口動態と政策: 経済学的アプローチへの招待』日本評論社
その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
基本的に期末試験100%での評価を予定するが、場合によってはレポート課題100%で対応する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
初回授業に必ず出席すること。

【Outline (in English)】
The Japanese economy is now facing multiple challenges due to the declining birthrate and aging population and the progress of globalization.　In order to identify and understand the future trends of the Japanese economy, we need a tool for analyzing and assessing the trends, including the knowledge of macroeconomics and public economics.　Therefore, in this course, while learning the basics of macroeconomics, we will consider the issues surrounding the Japanese economy from a macroeconomics perspective.　Students are expected to spend approximately four hours each on preparation and review. At present, the evaluation for students would be based on the score of the final exam (100%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

日本経済論Ａ

青野　幸平

開講時期：春学期授業/Spring　　単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では，第２次世界大戦後以降の「日本経済」の変遷についてデータを用いた客観的な視点・マクロ経済学やミクロ経済学に基づく経済学的な視点を通じて理解した上で，日本経済の現状を理解することが目的である。そのために，国民経済計算や資金循環統計などの経済統計に関する知識，ミクロ経済学・マクロ経済学についての知識を利用・応用することが必要になる。日本経済を理解する上で重要な指標や統計については授業内でも説明する。ミクロ経済学やマクロ経済学に関連する知識についても講義に関連する範囲で確認していく予定であるが，基礎的な知識を事前に学習していることが望ましい。

【到達目標】
「データ」に基づく客観的な視点とマクロ経済学・ミクロ経済学に基づく経済学的な視点から日本経済の現状について理解できることが到達目標である。具体的には，「日本経済新聞」に掲載される日本経済に関連する記事について，背景の知識も含めて理解出来るようになる事が目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本講義は，原則として対面で実施する。授業は板書・電子板書とスライドを利用した対面講義を基本として授業を進める。事前に配布を予定しているレジュメにある空欄を授業中に穴埋めする形式で進めていく。質問等があれば授業の前後に対応する。電子板書に記載した内容については授業終了後に公開する。毎回の授業後に「確認テスト」を実施する予定なので，その場合は次回の授業の開始時間までに回答すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・日本経済の全体像（１）	講義内容・授業の進め方・評価の方法などの説明したうえで，日本経済の現在地を様々な統計で確認する。
2	日本経済の全体像（２）	日本経済の現在地を様々な統計で確認する。
3	戦後における経済成長（１）	高度経済成長とその要因を考察する。
4	戦後における経済成長（２）	バブルの発生と崩壊について理解する。
5	戦後における経済成長（３）	アベノミクスについて理解する。
6	日本における景気循環	日本における景気循環とその要因を理解する。
7	物価の変動と日本経済	インフレとデフレとその背景を理解する。
8	日本の産業構造と日本型企業（１）	日本における産業構造とその変遷を理解する。
9	日本の産業構造と日本型企業（２）	日本型企業・メインバンク制度について理解する。
10	雇用の変動と日本型労働（１）	雇用と景気変動の関係を理解する。
11	雇用の変動と日本型労働（２）	日本型雇用慣行について理解する。
12	為替レートと日本経済（１）	為替レートに関連した理論を理解する。
13	為替レートと日本経済（２）	為替レートの変動と日本経済の関係を理解する。
14	まとめ	第1回から13回までの講義に関するまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で扱う各種統計指標の公表や関連するニュースを新聞記事などで確認することが重要である。事前学習として事前に配布するレジュメを確認することが求められる。復習として授業で扱ったデータについて，政府統計の総合窓口（e-Stata）などを利用して自身で確認することが求められる。本講義の事前学習と復習は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しないが，最初にあげている参考書をベースに授業は進めていく。また，レジュメは事前に配布する予定である。詳細は初回の授業で説明する。

【参考書】
・『最新日本経済入門第７版』（小峰隆夫・村田啓子著，日本評論社）
・『新入門・日本経済』（浅子和美・飯塚信夫・篠原総一(編集)，有斐閣）
・『日本経済論』（伊藤隆敏・星岳雄著，東洋経済新報社）
など。
その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
定期試験（70%）と毎回の確認テスト（30%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
現代経済学基礎、同応用、ミクロ経済学、マクロ経済学などの履修を平行して進めること。

【Outline (in English)】
【Course Outline】
This course aims to understand the current state of the Japanese economy by first comprehending its post-World War II evolution through an objective, data-driven perspective and an economic viewpoint grounded in macroeconomics and microeconomics. To achieve this, students will need to utilize and apply knowledge of economic statistics, such as national accounts and financial circulation statistics, as well as microeconomics and macroeconomics. Key indicators and statistics crucial for understanding the Japanese economy will be explained during class. While knowledge related to microeconomics and macroeconomics will be reviewed within the scope of the lectures, it is desirable that students have already acquired foundational knowledge beforehand.
【Learning Objectives】
The learning objectives of this course are to understand the current state of the Japanese economy from an objective perspective based on “data” and from an economic perspective grounded in macroeconomics and microeconomics.
【Learning Activities Outside of Classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria/Policies】
Grades will be based on final exams (70%) and regular quizzes (30%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

日本経済論Ｂ

小黒　一正

開講時期：秋学期授業/Fall　　単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本は今、少子高齢化やグローバル化の進展で様々な課題を抱えている。日本経済の今後の動向を理解するには、その内容を分析・考察するための「ツール」が必要であり、とくに「マクロ経済学」「公共経済学」の知識が必要不可欠となってくる。そこで、本講義では、財政や租税の諸理論を含む「公共経済学」の基礎的な内容を学びつつ、日本経済を巡る課題を公共経済学の視点から見ていく。

【到達目標】
日本経済論を学ぶことで、日本経済を巡る課題に対して経済学的なロジックに従って考え、評価する姿勢を身につけることを目指す。日本経済の今後の動向を考えるうえで必要な諸理論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
現在のところ、基本的には教科書に沿って講義を進めることを予定している。教科書以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。
【留意事項】
なお、課題の提出等（フィードバックを含む）も「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
第2回	日本経済を理解するための公共経済学(1)	市場の失敗と政府の役割
第3回	日本経済を理解するための公共経済学(2)	財政、国債市場
第4回	日本経済を理解するための公共経済学(3)	公共財
第5回	日本経済を理解するための公共経済学(4)	外部性、共有地の悲劇、外部性の解決方法
第6回	日本経済を理解するための公共経済学(5)	社会保障の全体像、年金・医療・介護
第7回	日本経済を理解するための公共経済学(6)	情報の非対称性、逆選択、所得分配
第8回	日本経済を理解するための公共経済学(7)	租税の理論、物品税の帰着
第9回	日本経済を理解するための公共経済学(8)	労働所得税の効果、利子所得税の効果
第10回	日本経済を理解するための公共経済学(9)	課税が資本蓄積に及ぼす効果、減税の効果
第11回	日本経済を理解するための公共経済学(10)	公債の負担
第12回	現在の日本が抱える課題(1)	少子高齢化、社会保障、賦課方式と積立方式
第13回	現在の日本が抱える課題(2)	財政赤字、世代間格差
第14回	期末試験と総括	試験等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備・復習時間は、各4時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】
浅子和美・篠原総一『入門・日本経済 第4版』有斐閣
林正義・小川光・別所俊一郎『公共経済学』有斐閣
麻生良文・小黒一正・鈴木将覚『財政学15講』新世社
配布資料

【参考書】
スティグリッツ『公共経済学 上』東洋経済
スティグリッツ『公共経済学 下』東洋経済
内閣府『経済財政白書』（経済企画庁『経済白書』）
小黒一正『日本経済の再構築』日本経済新聞出版社
山重慎二・加藤久和・小黒一正『人口動態と政策: 経済学的アプローチへの招待』日本評論社
その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
基本的に期末試験100%での評価を予定するが、場合によってはレポート課題100%で対応する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
初回授業に必ず出席すること。

【Outline (in English)】
The Japanese economy is now facing multiple challenges due to the declining birthrate and aging population and the progress of globalization. In order to identify and understand the future trends of the Japanese economy, we need a tool for analyzing and assessing the trends, including the knowledge of macroeconomics and public economics. Therefore, in this course, while learning the basics of public economics, including various theories of public finance and tax, we will consider the issues surrounding the Japanese economy from the perspective of public economics. Students are expected to spend approximately four hours each on preparation and review. At present, the evaluation for students would be based on the score of the final exam (100%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

日本経済論Ｂ

青野　幸平

開講時期：秋学期授業/Fall　　単位：２単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では，現在の日本経済が抱えている問題である財政（政策）に関連した課題，金融政策に関連した課題，格差に関連した課題，社会保障・労働に関連した課題などについて，データを用いた客観的な視点・マクロ経済学やミクロ経済学に基づく経済学的な視点を通じて理解することが目的である。そのために，国民経済計算や資金循環統計などの経済統計に関する知識，ミクロ経済学・マクロ経済学についての知識を利用・応用することが必要になる。日本経済を理解する上で重要な指標や統計については授業内でも説明する。ミクロ経済学やマクロ経済学に関連する知識についても講義に関連する範囲で確認していく予定であるが，基礎的な知識を事前に学習していることが望ましい。

【到達目標】
「データ」に基づく客観的な視点とマクロ経済学・ミクロ経済学に基づく経済学的な視点から日本経済の課題について理解できることが到達目標である。また，それぞれの課題について経済学的な視点から自身の考えを説明できるようになることも到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本講義は，原則として対面で実施する。授業は板書・電子板書とスライドを利用した対面講義を基本として授業を進める。事前に配布を予定しているレジュメにある空欄を授業中に穴埋めする形式で進めていく。質問等があれば授業の前後に対応する。電子板書に記載した内容については授業終了後に公開する。毎回の授業後に「確認テスト」を実施する予定なので，その場合は次回の授業の開始時間までに回答すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義内容・授業の進め方・評価の方法などの説明する。
2	日本経済における課題の整理	様々な統計指標によって日本経済の課題を確認する。
3	財政政策と日本経済（１）	経済学における政府・財政政策の役割を確認する。
4	財政政策と日本経済（２）	日本における財政政策を確認する。
5	財政政策と日本経済（３）	財政赤字と財政健全化に関する議論を確認する。
6	金融政策と日本経済（１）	経済学における金融・金融政策の役割を確認する
7	金融政策と日本経済（２）	日本における伝統的金融政策を確認する。
8	金融政策と日本経済（３）	日本における非伝統的金融政策を確認する。
9	金融システムと日本経済	日本における金融システムを確認する
10	格差と日本経済（１）	格差の考え方と日本における格差を確認する。
11	格差と日本経済（２）	格差を解決する方向性を確認する。
12	グローバル化と日本経済	外国人労働者と近年のグローバル化について確認する。
13	デジタル化と日本経済	DX革命やAIと日本経済の関係を確認する。
14	まとめ	第１回から第１３回までの授業内容をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で扱う各種統計指標の公表や関連するニュースを新聞記事などで確認することが重要である。事前学習として事前に配布する予定のレジュメを確認することなどが求められる。復習として授業で扱ったデータについて，政府統計の総合窓口（e-Stata）などを利用して自身で確認することが求められる。本講義の事前学習と復習は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しないが，最初にあげている参考書をベースに授業は進めていく。また，レジュメは事前に配布する予定である。詳細は初回の授業で説明する。

【参考書】
・『最新日本経済入門第７版』（小峰隆夫・村田啓子著，日本評論社）
・『新入門・日本経済』（浅子和美・飯塚信夫・篠原総一(編集)，有斐閣）
・『日本経済論』（伊藤隆敏・星岳雄著，東洋経済新報社）
など。
その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
定期試験（70%）と毎回の確認テスト（30%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】
【Course Outline】
This course aims to understand the challenges facing the current Japanese economy — such as issues related to fiscal policy, monetary policy, inequality, and social security/labor — through an objective perspective using data and an economic perspective grounded in macroeconomics and microeconomics. To achieve this, knowledge of economic statistics (such as national accounts and funds flow statistics) and microeconomics/macroeconomics will be necessary to utilize and apply. Key indicators and statistics crucial for understanding the Japanese economy will be explained during class. Knowledge related to microeconomics and macroeconomics will also be reviewed within the scope of the lectures, though prior study of foundational concepts is recommended.
【Learning Objectives】
The learning objectives of this course are to understand the current state of the Japanese economy from an objective perspective based on “data” and from an economic perspective grounded in macroeconomics and microeconomics.
【Learning Activities Outside of Classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria/Policies】
Grades will be based on final exams (70%) and regular quizzes (30%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

財政学Ａ

小林　克也

開講時期：春学期授業/Spring　　単位：2単位

クラス指定あり【2年ABCDEFGHIJKLMX組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本では、少子高齢化にともなう社会保障費の増大によって膨らんでしまった政府債務残高や低成長に対して有効な経済政策のあり方などの問題が重なり、政府は難しい意思決定を迫られています。この講義ではこれらの現状について考えるために、以下のふたつの内容を中心に学びます。前半では政府の市場へ介入がどのようなときに必要なのかについて学びます。後半では日本の財政制度と財政データを見ることで、政府が直面している問題を理解します。この授業はもう1つの財政学のクラス（廣川先生担当）と同じ内容を扱います。

【到達目標】
経済における政府の役割について、どのような考え方があるのかを理解するとともに、わが国の財政を取り巻く問題を理解します。その上で、政府の役割と日本の財政がどうあるべきかを自分自身で経済学の観点から考えられるようになるための論理的思考力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この授業は、すべて対面で実施します。授業の質問や意見は、授業内やその前後に直接してください。学習支援システムも利用します。なお、対面で期末試験を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	財政学はどのような内容か
2	市場の役割(1)	価格メカニズムの働き
3	市場の役割(2)	消費者余剰、生産者余剰、市場均衡
4	市場の役割(3)	厚生経済学の第1基本定理、パレート効率
5	財政の3つの機能(1)	資源配分機能（外部性、公共財）
6	財政の3つの機能(2)	所得再分配機能（生活保護、累進所得税）、ジニ係数
7	財政の3つの機能(3)	経済安定化機能（裁量的政策とビルトイン・スタビライザー）
8	政府の大きさ(1)	経済規模に占める政府の大きさ、一般政府歳出
9	政府の大きさ(2) 財政と予算(1)	国民負担率 一般会計、特別会計、政府関係機関の各予算
10	財政と予算(2)	一般会計歳入(租税と公債)
11	財政と予算(3)	一般会計歳出(社会保障関係費、国債費、地方交付税交付金等)、プライマリーバランス
12	財政投融資	財政投融資の仕組み、財政投融資改革と規模の推移
13	予算のしくみと編成(1)	予算制度、予算原則、予算の形式とその見方
14	予算のしくみと編成(2)	予算編成と審議、執行、決算のプロセス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
経済学の基本的な考え方を使うので、1年次必修の経済学の授業を理解しているとこの授業も理解しやすいです。理解に不安のある場合は、授業で扱う概念について自分で1年次の講義ノート等を復習して下さい。日経新聞なども使いながら日本の財政の現状を扱うので、日頃、新聞に目を通すことを推奨します。これらと本授業の準備学習・復習時間で、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
履修者が授業に関連する内容を自習する際に、以下の文献が役立ちます。
制度やデータの把握：『図説日本の財政（最新年度版）』財経詳報社。
財政学を通しで学ぶ：江成穣・倉知真太郎・佐藤一光・藤原遙『Why not ?! 財政学 超入門からホットイシューまで』有斐閣，2025年。畑農鋭矢、林正義、吉田浩(2024)『財政学をつかむ第3版』有斐閣。
授業で扱うトピックを個別に学ぶ：林宏昭、玉岡雅之、桑原美香、石田和之(2021)『入門財政学第3版』中央経済社。

【成績評価の方法と基準】
期末試験100%で評価をします。もう1つの財政学のクラス（廣川先生担当）と同一問題・同一時間に対面で実施します。

【学生の意見等からの気づき】
みなさんの理解度を把握しながら、わかりやすい講義を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを利用しますので、PCとインターネット環境が必要です。

【その他の重要事項】
学習支援システムも利用します。授業についての変更や追加の情報は授業内でお話ししますが、学習支援システムも確認して下さい。この授業はもう1つの財政学のクラス（廣川先生担当）と同じ内容を扱います（話し方など異なる部分はあります）。また、対面で筆記の期末試験を実施します。

【Outline (in English)】
Course outline:
At present, the government of Japan must manage the several issues of a huge government debt due to the huge social security costs caused by the aging and low birth-rate and the economic policy against the low economic growth rate. In this course, students understand these issues that the government of Japan is facing and learn how to consider them from the viewpoint of economics.
Learning objective:
The goal of this course is to understand the roles of the central government in the national economy and the issues which our government faces. Students should be able to consider these roles and issues of Japanese government finance logically and normatively.
Learning activities outside of classroom:
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand course contents and basic concepts of economics.
Grading criteria/policies:
Final grade will be determined by term-end exam 100%.

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

財政学Ａ

廣川　みどり

開講時期：春学期授業/Spring　　単位：２単位

クラス指定あり【2年NOPQRSTUVWYZ組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本では、少子高齢化にともなう社会保障費による政府債務残高や低成長への経済政策のあり方などの問題が重なり、政府は難しい意思決定を迫られています。この講義ではこれらの現状について考えるために、以下のふたつの内容を中心に学びます。前半では政府の市場への介入がどのようなときに必要なのかについて、そして、後半では日本の財政制度とデータを見ることで、政府が直面している問題を把握し、どのように考えるべきかの材料を提供します。この授業はもう1つの財政学のクラス（小林先生担当）と同じ内容を扱います。

【到達目標】
経済における政府の役割について、どのような考え方があるのかを理解するとともに、わが国の財政を取り巻く問題を理解します。その上で、政府の役割と日本の財政がどうあるべきかを自分自身で経済学の観点から考えられるようになるための論理的思考力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この授業は、すべて対面で実施します。授業の質問や意見は、授業内やその前後に直接行ってください。また、学習支援システムも利用します。なお、対面で期末試験を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	財政学とはどういう学問か
第2回	市場の役割(1)	価格メカニズムの働き
第3回	市場の役割(2)	消費者余剰、生産者余剰、市場均衡
第4回	市場の役割(3)	厚生経済学の第1基本定理、パレート効率
第5回	財政の3つの機能(1)	資源配分機能（外部性、公共財）
第6回	財政の3つの機能(2)	所得再分配機能（生活保護、累進所得税）、ジニ係数
第7回	財政の3つの機能(3)	経済安定化機能（裁量的政策とビルトイン・スタビライザー）
第8回	政府の大きさ(1)	経済規模に占める政府の大きさ、一般政府歳出
第9回	政府の大きさ(2) 財政と予算(1)	国民負担率 一般会計、特別会計、政府関係機関の各予算
第10回	財政と予算(2)	一般会計歳入（租税と公債）
第11回	財政と予算(3)	一般会計歳出（社会保障関係費、国債費、地方交付税交付金等）、プライマリーバランス
第12回	財政投融資	財政投融資の仕組み、財政投融資改革と規模の推移
第13回	予算のしくみと編成(1)	予算制度、予算原則、予算の形式とその見方
第14回	予算のしくみと編成(2)	予算編成と審議、執行、決算のプロセス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
経済学の基本的な考え方を用いるため、1年次必修の経済学の授業を理解していると、この授業も理解しやすくなります。理解に不安がある場合は、授業で扱う概念について自分で1年次の講義ノート等を復習して下さい。また、日経新聞なども参考に日本の財政の現状を扱うので、日頃、新聞に目を通すことを推奨します。これらと本授業の準備学習・復習時間で、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
履修者が授業に関連する内容を自習する際に、以下の文献が役立ちます。
・財政学を通しで学ぶ：畑農鋭矢、林正義、吉田浩『財政学をつかむ、第3版』有斐閣。
・素朴な疑問から現在の話題を考える：江成穣・倉知真太郎・佐藤一光・藤原遙(2025)『Why not ?! 財政学 超入門からホットイシューまで』有斐閣。
・税を中心に学ぶ：林宏昭、玉岡雅之、桑原美香、石田和之(2021)『入門財政学第3版』中央経済社。
・制度・データの把握：『図説日本の財政（最新年度版）』財経詳報社。（最新年度版）

【成績評価の方法と基準】
期末試験100%で評価します。もう1つの財政学のクラス（小林先生担当）と同一問題・同一時間に対面で実施します。

【学生の意見等からの気づき】
みなさんの理解度を把握しながら、わかりやすい講義を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを利用しますので、接続・ブラウザ環境が必要です。

【その他の重要事項】
学習支援システムにより、情報共有・教材配布します。履修生は必ず登録すること。授業についての変更や追加の情報は授業内でお話ししますが、学習支援システムも確認して下さい。この授業はもう1つの財政学のクラス（小林先生担当）と同じ内容を扱います（話し方など異なる部分はあります）。また、対面で筆記の期末試験を実施します。

【Outline (in English)】
Course outline:
Currently, the Japanese government must deal with a variety of issues, including huge social security costs due to a declining birthrate and aging population, and huge government debt caused by economic policies to address low growth. In this class, students will understand these issues facing the Japanese government and learn how to think about them from an economics perspective.
Learning objective:
The goal of this course is to understand the roles of the central government in the national economy and the issues which our government faces. Students should be able to consider these roles and issues of Japanese government finance logically and normatively.
Learning activities outside of classroom:
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand course contents and basic concepts of economics.
Grading criteria/policies:
Final grade will be determined by term-end exam 100%.

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

財政学Ｂ

小林　克也

開講時期：秋学期授業/Fall　　単位：2単位

クラス指定あり【2年ABCDEFGHIJKLMX組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
財政学Aの内容（財政学の考え方や日本の財政の制度と現状）を前提として、ミクロ経済学とマクロ経済学の理論に基づいて、さまざまな財政上の政策を学びます。具体的には、課税や公債発行が家計に与える影響、政府支出の増大がマクロ経済に短期的に及ぼす効果を学びます。春学期に予定した内容で扱えなかったものがある場合は、秋学期の最初で扱います。この授業はもう1つの財政学のクラス（廣川先生担当）と同じ内容を扱います。

【到達目標】
私たちの生活に密接な税から、国全体のマクロ経済政策まで、実際に政府が実施する様々な政策について、具体的にどのようなものがあるのかについて知るとともに、これらの経済上の効果を経済学の理論を用いて理解します。その上で、これらの政策は私たちの生活にどのような影響をあたえるのかについて、自分で考えられるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この授業は、すべて対面で実施します。授業の質問や意見は、授業内やその前後に直接してください。学習支援システムも利用します。なお、対面で期末試験を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期のふりかえり	財政学A のふりかえり。
	国と地方との関係(1)	地方財政の役割と規模、地方自治体の財源、国から地方自治体への移転
2	国と地方との関係(2)	国から地方自治体への移転のつづき。
	租税の転嫁と帰着(1)	税の転嫁と帰着、直接税と間接税。
3	租税の転嫁と帰着(2)	課税の効果、間接税による影響。
4	租税の転嫁と帰着(3)	税の帰着、課税の余剰分析。
5	所得税、一般消費税、個別消費税の比較(1)	所得税と一般消費税の課税の効果。
6	所得税、一般消費税、個別消費税の比較(2)	所得税、一般消費税、個別消費税：3つの税の比較。
	消費税のしくみと制度(1)	日本の消費税の概略、付加価値税。
7	消費税のしくみと制度(2)	日本の消費税の歴史。消費税に関わる制度。
8	有効需要の原理と国民所得決定の理論(1)	有効需要の原理、消費関数。
9	有効需要の原理と国民所得決定の理論(2)	政府支出増大と乗数効果。
10	有効需要の原理と国民所得決定の理論(3)	比例所得税、均衡予算における政府支出増大の効果。
11	IS-LM 分析(1)	財市場の均衡と投資関数。政府支出増大によるISのシフト。
12	IS-LM 分析(2)	貨幣市場における貨幣需要と貨幣供給、その均衡。貨幣供給増大によるLMのシフト。
13	IS-LM 分析(3)	ISとLMの交点。財政政策・金融政策の効果。
14	公債の負担	リカードの等価定理とバローの中立性命題。MMTの考え方。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
経済学の基本的な考え方を使うので、1年次必修の経済学の授業を理解しているとこの授業も理解しやすいです。理解に不安のある場合は、授業で扱う概念について自分で1年次の講義ノート等を復習して下さい。日経新聞なども使いながら日本の財政の現状を扱うので、日頃、新聞に目を通すことを推奨します。これらと本授業の準備学習・復習時間で、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
履修者が授業に関連する内容を自習する際に、以下の文献が役立ちます。
制度やデータの把握：『図説日本の財政（最新年度版）』財経詳報社。
財政学を通しで学ぶ：江成穣・倉知真太郎・佐藤一光・藤原遙『Why not ?! 財政学 超入門からホットイシューまで』有斐閣, 2025年。畑農鋭矢、林正義、吉田浩(2024)『財政学をつかむ第3版』有斐閣。
授業で扱うトピックを個別に学ぶ：林宏昭、玉岡雅之、桑原美香、石田和之(2021)『入門財政学第3版』中央経済社。

【成績評価の方法と基準】
期末試験100%で評価をします。もう1つの財政学のクラス（廣川先生担当）と同一問題・同一時間に対面で実施します。

【学生の意見等からの気づき】
みなさんの理解度を把握しながら、わかりやすい講義を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを利用しますので、PCとインターネット環境が必要です。

【その他の重要事項】
学習支援システムも利用します。授業についての変更や追加の情報は授業内でお話ししますが、学習支援システムも確認して下さい。この授業はもう1つの財政学のクラス（廣川先生担当）と同じ内容を扱います（話し方など異なる部分はあります）。また、対面で筆記の期末試験を実施します。

【Outline (in English)】
Course outline:
Students learn the roles of public policies on the basis of "Public Finance A," microeconomics, and macroeconomics. In particular, students understand the economic impact of taxation, government bonds, and an increase in government expenditure.
Learning objective:
The goal of this course is to understand various polices implemented by the central government such as taxes in our life and macroeconomic policies. Students should be able to consider effects of these policies.
Learning activities outside of classroom:
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand course contents and basic concepts of economics.
Grading criteria/policies:
Final grade will be determined by term-end exam 100%.

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
財政学Ｂ
廣川　みどり
開講時期：秋学期授業/Fall　　単位：２単位
クラス指定あり【2年NOPQRSTUVWYZ組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
財政学Aの内容（財政学の考え方や日本の財政の制度と現状）の理解を前提として、ミクロ経済学とマクロ経済学の理論に基づいて、さまざまな財政上の政策を学びます。具体的には、課税や公債発行が家計に与える影響、政府支出の増大がマクロ経済に短期的に及ぼす効果を学びます。春学期に予定した内容で扱えなかったものがある場合は、秋学期の最初で扱います。この授業はもう1つの財政学のクラス（小林先生担当）と同じ内容を扱います。

【到達目標】
私たちの生活に密接な税から、国全体のマクロ経済政策まで、実際に政府が実施する様々な政
策について、具体的にどのようなものがあるのかについて知るとともに、これらの経済上の効
果を経済学の理論を用いて理解します。その上で、これらの政策は私たちの生活にどのような影響をあたえるのかについて、自分で考えられるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この授業は、すべて対面で実施します。授業の質問や意見は、授業内やその前後に直接行ってください。また、学習支援システムも利用します。なお、対面で期末試験を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期のふりかえり	財政学A のふりかえり
	国と地方との関係(1)	地方財政の役割と規模、地方自治体の財源、国から地方自治体への移転
2	国と地方との関係(2)	国から地方自治体への移転のつづき
	租税の転嫁と帰着(1)	税の転嫁と帰着、直接税と間接税
3	租税の転嫁と帰着(2)	課税の効果、間接税による影響
4	租税の転嫁と帰着(3)	税の帰着、課税の余剰分析
5	所得税・一般消費税・個別消費税の比較(1)	所得税と一般消費税の課税の効果
6	所得税・一般消費税・個別消費税の比較(2)	所得税、一般消費税、個別消費税：3つの税の比較
	消費税のしくみと制度(1)	日本の消費税の概略、付加価値税
7	消費税のしくみと制度(2)	日本の消費税の歴史、消費税に関わる制度
8	有効需要の原理と国民所得決定の理論(1)	有効需要の原理、消費関数
9	有効需要の原理と国民所得決定の理論(2)	政府支出増大と乗数効果
10	有効需要の原理と国民所得決定の理論(3)	比例所得税、均衡予算における政府支出増大の効果
11	IS-LM 分析(1)	財市場の均衡と投資関数 政府支出増大によるISのシフト
12	IS-LM 分析(2)	貨幣市場における貨幣需要と貨幣供給、およびその均衡 貨幣供給増大によるLMのシフト
13	IS-LM 分析(3)	ISとLMの交点 財政政策・金融政策の効果
14	公債の負担	リカードの等価定理とバローの中立性命題 MMTの考え方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
経済学の基本的な考え方を用いるため、1年次必修の経済学の授業を理解していると、この授業も理解しやすくなります。理解に不安がある場合は、授業で扱う概念について自分で1年次の講義ノート等を復習して下さい。また、日経新聞なども参考に日本の財政の現状を扱うので、日頃、新聞に目を通すことを推奨します。これらと本授業の準備学習・復習時間で、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
履修者が授業に関連する内容を自習する際に、以下の文献が役立ちます。
・財政学を通しで学ぶ：畑農鋭矢、林正義、吉田浩『財政学をつかむ、第3版』有斐閣。
・素朴な疑問から現在の話題を考える：江成穣・倉知真太郎・佐藤一光・藤原遙(2025)『Why not ?! 財政学 超入門からホットイシューまで』有斐閣。
・税を中心に学ぶ：林宏昭、玉岡雅之、桑原美香、石田和之(2021)『入門財政学第3版』中央経済社。
・制度・データの把握：『図説日本の財政（最新年度版）』財経詳報社。（最新年度版）

【成績評価の方法と基準】
期末試験100%で評価します。もう1つの財政学のクラス（小林先生担当）と同一問題・同一時間に対面で実施します。

【学生の意見等からの気づき】
みなさんの理解度を把握しながら、わかりやすい講義を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを利用しますので、接続・ブラウザ環境が必要です。

【その他の重要事項】
学習支援システムにより、情報共有・教材配布します。履修生は必ず登録すること。授業についての変更や追加の情報は授業内でお話ししますが、学習支援システムも確認して下さい。この授業はもう1つの財政学のクラス（小林先生担当）と同じ内容を扱います（話し方など異なる部分はあります）。また、対面で筆記の期末試験を実施します。

【Outline (in English)】
Course outline:
Students learn the roles of public policies on the basis of "Public Finance A," microeconomics, and macroeconomics. In particular, students understand the economic impact of taxation, government bonds, and an increase in government expenditure.
Learning objective:
The goal of this course is to understand various polices implemented by the central government such as taxes in our life and macroeconomic policies. Students should be able to consider effects of these policies.
Learning activities outside of classroom:
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand course contents and basic concepts of economics.
Grading criteria/policies:
Final grade will be determined by term-end exam 100%.

MAN200CA（経営学 / Management 200）

コーポレートガバナンス論Ａ

胥　鵬

開講時期：春学期授業/Spring　　単位：２単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年、SDGsをテーマに高校の授業で学ぶことは増えている。企業の持続的な長期成長にも、収益だけではなく、SDGs、すなわち、ESG（環境・社会・ガバンス）を考慮することは欠かせないものである。コーポレート・ガバナンス論Aのテーマは、株主総会、議決権行使、スチュワードシップ・コード、機関投資家の議決権行使の個別開示、モノ言う株主(アクティビスト)などと株価との関連について学び、データから資本市場の役割を理解する。

【到達目標】
2025年の中居正広氏問題で、フジテレビの親会社フジHDの大株主の海外ファンドが全経営陣の交代を要求した事例からわかるように、株式会社は株主によって所有され、株主は株主総会で議決権を行使することなどで経営の重要事項に自らの意見を反映させる。コーポレート・ガバナンス論Aの学習目標は、株主総会と議決権行使との関連で、機関投資家などの大株主の議決権行使の個別開示などのスチュワードシップ・コード制度を学び、データから議決権行使と資本市場によるコーポレート・ガバナンスを理解することである。
学生諸君が各自にダウンロードしたデータや資料に基づく活発な議論を行い、学生諸君が提示した具体例を取り上げつつ、学生参加による学生のための授業を進める。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】
原則として対面授業を実施する。学生諸君が各自にダウンロードしたデータや資料に基づく活発な議論を行い、学生諸君が提示した具体例を取り上げつつ、学生参加による学生のための授業を進める。
インターネットやオンラインデータベースなどをを通じて、コーポレート・ガバナンスにかかわる株主総会制度や敵対的買収についてデータ資料を収集し、グループで議論し、課題解決型学習を行う、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コーポレート・ガバナンスvsコーポレート・ファイナンス	財務情報と非財務情報の違いから、コーポレート・ガバナンスの基礎概念・用語を解説する
第2回	株式投資のリターンとリスク	EXCELの数値例で株式投資のリターンとリスクについて学ぶ
第3回	すべての玉子を同じかごに入れるな：株式投資の要はリスク分散	2銘柄の株式投資の数値例でリスクといリターンとの関連を理解する
第4回	株式相場のことは相場に聞け	情報リリースなどが株価に対する効果の分析ツールを学ぶ
第5回	短期株価と長期株価	数日の日次株価変動と数年の株価変動の違いについて学ぶ
第6回	コンプライアンス違反と株価急落	事例で非財務リスクと株価について勉強する
第7回	経営と所有の分離：株主総会と株主の議決権行使	ビジュアル資料とデータを用いてわかりやすく説明する
第8回	株主総会の要：取締役選任	機関投資家の議決権行使方針との関連で取締役選任について説明する
第9回	アクティビストと株価	株式を一定数保有するアクティビストとも呼ばれる物言う株主の経営陣に対する経営戦略・株主利益還元・ガバナンス改善などの積極的な提言が企業価値向上につながるかどうかを考察する
第10回	敵対的買収対策と株価	事例とデータを交えながら説明する
第11回	ウォールストリート・ルール	保有株式を売却して反対意思を表明するメカニズムを解説する
第12回	MBOとは	株式を市場から取得することで非上場の意味を理解する
第13回	株式持合	企業同士が株式を保有し合う日本特有な所有構造と議決権行使によるガバナンスの限界について説明する
第14回	課題	今までのことをどれくらい理解したかを確かめるために、練習課題の際にステップバイステップで積み重ねたものをまとめて提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
データダウンロードやエクセルによるデータ加工は、必ず自分の手で行う。各自に収集した定時株主総会臨時報告書、機関投資家の議決権行使の個別開示等の資料やデータに基づいてグループ課題を試みるために、準備学習・復習・宿題などの授業時間外学習は各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストを特に使わないが、アップロードした講義ノートを学生がダウンロードする。

【参考書】
宮島英昭［2007］(編著)『日本のM&A』、東洋経済新報社
宮島英昭編［2011］『日本の企業統治：システムの進化と危機後の再設計』、東洋経済新報社
『日本のコーポレートファイナンス－サーベイデータによる分析』花枝英樹, 芹田敏夫, 胥鵬, 佐々木隆文, 鈴木健嗣, 佐々木寿記 白桃書房 2020年

【成績評価の方法と基準】
練習課題(30%)、中間課題(30%)と学期課題(40%)で総合的に評価する。練習課題の際に、中間課題と学期課題の作成についてステップバイステップで丁寧に解説する。

【学生の意見等からの気づき】
早口ですが、できるだけゆっくり講義したいです。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコン持参

【その他の重要事項】
米国のビジネススクールにまさるとも劣らぬ講義を諸君に届ける。

【担当教員の専門分野等】
ＭＢＯ、株式持合、役員報酬、中小企業金融、コミットメント・ライン、銀行ガバナンスと銀行リスク、会社法の経済分析
『日本のコーポレートファイナンス－サーベイデータによる分析』花枝英樹, 芹田敏夫, 胥鵬, 佐々木隆文, 鈴木健嗣, 佐々木寿記 (6,7章) 白桃書房 2020年
Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index,Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng　International Review of Finance 2020年
Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline (in English)】
【Outline (in English)】

The theme of Corporate Governance Theory A is to learn voting rights, the general shareholders' meeting, the roles of the Japan Stewardship Code, and the market for control. The goals of this course are to understand how corporate governance systems mitigate the conflicts between shareholders and management. Before/after each class meeting, students will be expected to collect the relevant materials. Your required study time is about four hours for each class meeting. Comprehensive assessment will be based on practice assignments (30%), midterm assignments (30%), and term assignments (40%). During the practice assignments, detailed step-by-step instructions will be provided on how to create midterm and term assignments.

MAN200CA（経営学 / Management 200）

コーポレートガバナンス論Ｂ

胥　鵬

開講時期：秋学期授業/Fall　　単位：２単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年、SDGsをテーマに高校の授業で学ぶことは増えている。企業の持続的な長期成長にも、収益だけではなく、SDGs、すなわち、ESG（環境・社会・ガバンス）を考慮することは欠かせないものである。コーポレート・ガバナンス論Bのテーマは、監査役会設置会社、監査等委員会設置会社と指名委員会等設置会社の選択制、取締役会、社外取締役、役員報酬、ストック・オプション、コーポレート・ガバナンスコードである。

【到達目標】
世間で上場企業の社長は偉いと思われているが、実際には社長などのトップ経営者は、株主総会の議決で選任される。社長やCEOは、会社法上の代表取締役や代表執行役である。株主の最も重要な権限は、取締役を選任することである。また、経営者全体の報酬も株主総会の議決で決議されることが多い。この授業の学習目標は、取締役選任や取締役報酬との関連で、監査役会設置会社、監査等委員会設置会社と指名委員会等設置会社の選択制、取締役会、社外取締役、役員報酬、ストック・オプション、日本版コーポレート・ガバナンス・コード及びESGなどを理解することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】
インターネットや豊富なデータベースを利用して、監査役会設置会社、監査等委員会設置会社と指名委員会等設置会社の選択制、取締役会、社外取締役、役員報酬、ストック・オプションと日本版コーポレート・ガバナンス・コードについてわかりやすく説明する。
原則として対面授業を実施する。学生諸君が各自にダウンロードしたデータや資料に基づく活発な議論を行い、学生諸君が提示した具体例を取り上げつつ、学生参加による学生のための授業を進める。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	取締役の義務	取締役は会社のしもべ
第2回	取締役会	規模、構成と独立性
第3回	会社の組織形態：監査役設置会社、監査等委員会設置会社、指名委員会等設置会社	監査役は目付役
第4回	監査役会設置会社	なぜ監査役は閑散役と揶揄される
第5回	監査等委員会設置会社	監査役会設置会社と指名委員会等設置会社の中間的性格を帯びた第三の会社形態
第6回	監査役の中立性と長期株価	月次株式投資収益で監査役の中立性と長期株価との関連を考察する
第7回	監査等委員会設置会社への移行と株価	月次株式投資収益で監査等委員会設置会社への移行と長期株価との関連を考察する
第8回	監査等委員の中立性と株価	月次株式投資収益で監査等委員の中立性と長期株価との関連を考察する
第9回	ESG投資とは	環境・社会・ガバナンスと会社のサステナビリティ
第10回	ESG投資の手法	ネガティブ・リストなどのESG投資の手法について解説する
第11回	コンプライアンス違反と株価	コンプライアンス違反会社の長期株価を考察する
第12回	1億円以上役員報酬の開示	1億円（ミリオン）プレイヤーは誰かを探してその是非を考える
第13回	高額役員報酬と株価	高額役員報酬と長期株価との関連について考察を行う
第14回	学期課題	今までの勉強の理解を確かめるために、練習課題の成果をまとめて提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
データダウンロードやエクセルによるデータ加工は、必ず自分の手で行う。各自に収集した定時株主総会臨時報告書、機関投資家の議決権行使の個別開示等の資料やデータに基づいてグループ課題を試みるために、準備学習・復習・宿題などの授業時間外学習は各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは使わないが、アップロードした講義ノートはネットから各自でダウンロードする。

【参考書】
宮島英昭［2007］(編著)『日本のM&A 』、東洋経済新報社
宮島英昭編［2011］『日本の企業統治：システムの進化と危機後の再設計』、東洋経済新報社
『日本のコーポレートファイナンス－サーベイデータによる分析』花枝英樹, 芹田敏夫, 胥鵬, 佐々木隆文, 鈴木健嗣, 佐々木寿記 白桃書房 2020年
参考資料はネットから各自にダウンロードする。

【成績評価の方法と基準】
練習課題(30%)、中間課題(30%)と学期課題(40%)で総合的に評価する。練習課題の際に、中間課題と学期課題の作成方法についてステップバイステップで丁寧に解説する。

【学生の意見等からの気づき】
早口ですが、できるだけゆっくり講義したいです。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコン持参

【その他の重要事項】
米国のビジネススクールにまさるとも劣らぬ講義を諸君に届ける。

【担当教員の専門分野等】
ＭＢＯ、株式持合、役員報酬、中小企業金融、コミットメント・ライン、銀行ガバナンスと銀行リスク、会社法の経済分析、来日観光客の決定要因等々
『日本のコーポレートファイナンス－サーベイデータによる分析』花枝英樹, 芹田敏夫, 胥鵬, 佐々木隆文, 鈴木健嗣, 佐々木寿記 (6,7章) 白桃書房 2020年
Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index,Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng　International Review of Finance 2020年
Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline (in English)】
The theme of Corporate Governance Theory B is to learn the board of directors and the roles of the Japan Corporate Governance Code. The goals of this course are to understand how the board of directors works to mitigate the conflicts between shareholders and management. Before each class meeting, students will be expected to collect the relevant materials. Your required study time is about four hours for each class meeting. Comprehensive assessment will be based on practice assignments (30%), midterm assignments (30%), and term assignments (40%). During the practice assignments, detailed step-by-step instructions will be provided on how to create midterm and term assignments.

CUA200CA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 200）

経済人類学Ａ

友松　夕香

開講時期：春学期授業/Spring　　単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
わたしたちは日々働き、モノを消費し、他者に与え、分かち合いながら生きています。しかし、こうした日常の営みは、「市場」や「お金」だけで説明できるでしょうか。経済人類学は、数字やモデルによってではなく、社会関係や信仰、感情が織りなす生活世界として経済を分析する学問です。本授業では、文化人類学の理論と視点を用いながら、大学生が関心を寄せる身近なテーマを取り上げ、経済がどのように人びとを結びつけたり、軋轢を生み出しているのかを、ミクロなレベルから考察します。グローバル化やデジタル化の文脈で経済的なやりとりが生み出す関係性や不平等を読み解くことで、経済を「人間の営み」として捉え直し、実体経済を理解することを目指します。

【到達目標】
・経済人類学の基本的な理論・概念（市場、互酬性、贈与、再分配、交換、商品化など）を理解できるようになる
・経済的な社会現象を、人類学的視点から分析できるようになる
・経済を文化的・社会的関係のなかで捉え直し、既存の経済観を批判的に検討できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義とディスカッション形式。授業では基本的に資料配布をいたしません。自分でノートを取ってください。授業の最後では、みなさんが自分で授業内容を整理し考察する短いエッセイを作成します。授業中にエッセイへのフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	経済とはなにか	文化と社会から経済を読み解く
第2回	お金で買えるもの	市場と社会の関係の現代的変容
第3回	文化の盗用	芸術の商品化と創造性をめぐる軋轢
第4回	差異の経済	文化の商品化とステレオタイプ化
第5回	グローバル性産業	セックスワーカーの主体性と法的介入をめぐる課題
第6回	ブルシットジョブ	仕事の価値を問い直す
第7回	専門分化社会	なぜ世界金融危機は起きたのか
第8回	信仰と経済	イスラーム銀行の倫理と論理
第9回	職場の多様性	人間の有用性、権利、包摂をめぐる課題
第10回	経済の3形態	市場・再分配・互酬性
第11回	贈与論	3つの義務と社会関係
第12回	情の経済	非物質的価値が生み出す人間の経済と関係性
第13回	物々交換	デジタル時代の経済の原型
第14回	まとめ	授業内容の整理と振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で作成するエッセイが時間内に終わらない場合や作業時間が足りない場合、宿題になります。準備・復習時間は合わせて1回あたり4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
なし。授業に集中し、ノートを取り、エッセイを記述して復習すれば、知識と思考法が身に付きます。

【参考書】
授業内で、参考になる書籍をご紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】
授業内容を整理・考察するエッセイ15点（100%）。毎回の授業後、ならびに学期末に各500～600字で指定した項目を記述。授業の理解度と考察の質で評価します。500字に満たないエッセイについては未提出とみなします。4回の未提出で自動的にB-以下になります。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
手書きで素早くノートを取れない場合は、パソコンやスマホの使用を推奨します。授業の最後では、ワードファイルにエッセイを書き、提出していただきます。パソコン等の使用する機器を十分充電し、Wi-Fiに接続しておいてください。許可した場合を除き、スライドの写真撮影はご遠慮ください。

【Outline (in English)】
We live our daily lives by working, buying, giving, and sharing. But can these activities be explained only in terms of “markets” and “money”? Economic anthropology approaches the economy not through numbers and models, but as a lived world shaped by social relationships, beliefs, and emotions. This course introduces anthropological perspectives on everyday economic practices, examining how they connect people while also producing divisions and inequalities in an era of globalization and digitalization. Grades will be based on fourteen one-paragraph essays written in or after class (100%). Students are expected to engage in 4 hours of review per week.

CUA200CA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 200）

経済人類学Ｂ

友松　夕香

開講時期：秋学期授業/Fall　　単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経済の多様性は、数式や効率性・合理性といった近代経済学の枠組みだけでは十分に捉えきれません。経済人類学Bでは、狩猟採集、農耕、漁労など世界の多様な生業だけではなく、ローカル・グローバルな市場取引、格差、知的交流、さらにジェンダーと再生産労働、AIをめぐるポスト産業社会をテーマに取り上げます。生産、消費、交換、分配がどのような社会関係を生み出しているのかを分析することで、「生きられた実践」として人間の経済を理解する視点を身につけることが、本授業の目的です。

【到達目標】
・統計では捉えられない人びとの間の経済的なやり取りの過程、構造、意味を分析できるようになる。
・ミクロレベルでの観察、解釈と意味づけから理論を導き出す方法を習得する。
・世界の経済の多様性を読み解くうえで、フィールドワークの有効性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義とディスカッション形式。授業では基本的に資料配布をいたしません。自分でノートを取ってください。授業の最後では、みなさんが自分で授業内容を整理し考察する短いエッセイを作成します。授業中にエッセイへのフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	経済人類学とはなにか	経済の多様性と接続・変容
第2回	食物分配	なぜ人は食べ物を分け合うのか
第3回	財と自由	豊かさとはなにか
第4回	脱国家	支配をめぐる空間論
第5回	道徳規範と反乱	モラルエコノミー論と弁証法
第6回	人間がつくる市場	駆け引きと騙し合いの取引交渉
第7回	グローバル格差①	貿易をめぐる経済の不均衡
第8回	グローバル格差②	消費と倫理的ジレンマ
第9回	グローバル格差③	格差の感情と日常の抵抗
第10回	グローバル格差④	「物は要らない」
第11回	グローバル格差⑤	異文化の知的交流はなにを生むか
第12回	再生産労働	ジェンダーをめぐる力学と制度
第13回	ポスト産業社会	知識・サービス・AIをめぐる価値と権力
第14回	まとめ	授業内容の整理と振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で作成するエッセイが時間内に終わらない場合や作業時間が足りない場合、宿題になります。準備・復習時間は合わせて1回あたり4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
なし。授業に集中し、ノートを取り、エッセイを記述して復習すれば、知識と思考法が身に付きます。

【参考書】
授業内で、参考になる書籍をご紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】
授業内容を整理・考察するエッセイ14点（100%）。毎回の授業後、ならびに学期末に各500〜600字で指定した項目を記述。授業の理解度と考察の質で評価します。500字に満たないエッセイについては未提出とみなします。4回の未提出で自動的にB-以下になります。

【学生の意見等からの気づき】
とくになし

【学生が準備すべき機器他】
手書きで素早くノートを取れない場合は、パソコンやスマホの使用を推奨します。授業の最後では、ワードファイルにエッセイを書き、提出していただきます。パソコン等の使用する機器を十分充電し、Wi-Fiに接続しておいてください。許可した場合を除き、スライドの写真撮影はご遠慮ください。

【Outline (in English)】
Economic practices cannot be fully captured by the frameworks of modern economics that emphasize mathematical models and efficiency alone. Economic Anthropology B examines a wide range of themes, from food distribution, market negotiation, and moral economy to global inequalities related to trade and consumption. The course also explores emotions and forms of resistance produced by inequality, gender and reproductive labor, economic transformations driven by intellectual exchange, and post-industrial societies in which knowledge, services, and AI play central roles. The aim of this course is to cultivate a perspective for understanding the economy as “lived practice” embedded in social and cultural contexts. Grades will be based on fourteen one-paragraph essays written in or after class (100%). Students are expected to engage in 4 hours of review per week.

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

環境経済論 A

松波　淳也

開講時期：春学期授業/Spring　　単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境経済学の基礎理論・概念を習得する。

【到達目標】
環境経済学はその体系化への努力が始まって以来，地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て，各方面への深化を遂げている。本講義は，標準的な環境経済学の基本概念，手法を習得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
環境経済学にとって最重要であり，かつ，環境経済学の幅広い分野に応用の効く3つの概念（外部性，環境の経済評価，持続可能な発展）に絞って講義する。その際，特に，社会システムと環境の関係についての基本的考え方，および，経済学的方法，政策的志向をもとらえていきたい。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	環境経済学とは？	環境経済学の誕生。環境か経済か？　本講の立場と進め方。
第02回	環境問題の政策的整理	人類史と環境。近代化と環境問題。環境問題と総合政策。
第03回	外部性①	外部性の概念。外部性のモデル分析。産業公害モデル。
第04回	外部性②	課税政策。
第05回	外部性③	ピグー税政策とボーモル=オーツ税政策
第06回	外部性④	たばこモデル～コースの定理
第07回	外部性⑤	外部性のモデル分析再考
第08回	環境の経済評価①	環境を価格付けする意義。非市場財の価格付け。環境経済評価手法。
第09回	環境の経済評価②	需要曲線アプローチ　CVM。
第10回	環境の経済評価③	需要曲線アプローチ　TCM，HPM。非需要曲線アプローチ　RCM。
第11回	環境の経済評価④	環境価値の概念。CVMに関する論争。
第12回	持続可能な発展①	持続可能な発展SDとは？　環境経済学におけるSD。
第13回	持続可能な発展②	デイリーの問題提起。経世済民思想としてのSD。
第14回	持続可能な発展③	SDの視点からの経済政策目標。環境マクロ経済学。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
経済学の基礎を身に付けていることが望ましい（ミクロ経済学，マクロ経済学等，経済学の基礎学習）。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房,2007年

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
期末レポート　100％

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire basic theories and concepts of environmental economics.　By the end of course, students should be able to understand environmental economics.　Before/after each class meeting, students will be expected to spent 4 hours to understand the course content.　Final grade will be calculated according to the following process: Term-end report(100%)

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

環境経済論 A

松波　淳也

開講時期：春学期授業/Spring　　単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境経済学の基礎理論・概念を習得する。

【到達目標】
環境経済学はその体系化への努力が始まって以来，地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て，各方面への深化を遂げている。本講義は，標準的な環境経済学の基本概念，手法を習得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
環境経済学にとって最重要であり，かつ，環境経済学の幅広い分野に応用の効く3つの概念（外部性，環境の経済評価，持続可能な発展）に絞って講義する。その際，特に，社会システムと環境の関係についての基本的考え方，および，経済学的方法，政策的志向をもとらえていきたい。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第01回	環境経済学とは？	環境経済学の誕生。環境か経済か？　本講の立場と進め方。
第02回	環境問題の政策的整理	人類史と環境。近代化と環境問題。環境問題と総合政策。
第03回	外部性①	外部性の概念。外部性のモデル分析。産業公害モデル。
第04回	外部性②	課税政策。
第05回	外部性③	ピグー税政策とボーモル=オーツ税政策
第06回	外部性④	たばこモデル～コースの定理
第07回	外部性⑤	外部性のモデル分析再考
第08回	環境の経済評価①	環境を価格付けする意義。非市場財の価格付け。環境経済評価手法。
第09回	環境の経済評価②	需要曲線アプローチ　CVM。
第10回	環境の経済評価③	需要曲線アプローチ　TCM, HPM。非需要曲線アプローチ　RCM。
第11回	環境の経済評価④	環境価値の概念。CVMに関する論争。
第12回	持続可能な発展①	持続可能な発展SDとは？　環境経済学におけるSD。
第13回	持続可能な発展②	デイリーの問題提起。経世済民思想としてのSD。
第14回	持続可能な発展③	SDの視点からの経済政策目標。環境マクロ経済学。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
経済学の基礎を身に付けていることが望ましい（ミクロ経済学，マクロ経済学等，経済学の基礎学習）。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房,2007年

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
期末レポート　100％

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire basic theories and concepts of environmental economics.　By the end of course, students should be able to understand environmental economics.　Before/after each class meeting, students will be expected to spent 4 hours to understand the course content.　Final grade will be calculated according to the following process: Term-end report(100%)

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

環境経済論Ｂ

松波　淳也

開講時期：秋学期授業/Fall　　単位：２単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
廃棄物・リサイクルの経済学を習得する。

【到達目標】
環境経済学はその体系化への努力が始まって以来，地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て，各方面への深化を遂げている。本講義では，最近理論的発展の著しい「ごみ・リサイクルの経済学」を取り上げ，標準的な環境経済学の基礎概念，手法の理解をより深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
現代の廃棄物問題の本質および「廃棄物経済学」の基礎概念を身につけてもらうことを目標として講義する。現実の廃棄物管理政策の状況の理解も図りたい。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ごみ問題とリサイクルⅠ- 現代的課題と理論的概観-	「ごみ問題」の構造分類.「ごみ」の定義.経済学における「ごみ」の扱い
第2回	ごみ問題とリサイクルⅡ- 経済学的定式化に向けて-	廃棄物経済学の主要アプローチ.廃棄物経済学の整備に向けて.最近のトピック
第3回	ごみ問題とリサイクルⅢ- 廃棄物リサイクルの経済モデル-	廃棄物経済学の誕生.廃棄物リサイクルの線形生産モデル
第4回	廃棄物管理政策Ⅰ- 循環型社会の法体系-	循環型社会形成推進基本法等.個別リサイクル法.３Ｒの優先順位.２つの基本理念
第5回	廃棄物管理政策Ⅱ- 代表的な経済手法-	家庭ごみの有料化.埋立税・産業廃棄物税，有害物質への税・課徴金.特定製品への税・課徴金.デポジット・リファンド制度
第6回	廃棄物管理政策Ⅲ- 自治体の清掃行政-	３Ｒ＋適正処理の優先順位に即した政策展開.短期的政策，中長期的政策の位置づけ.地域特性に即したきめ細かい政策.環境政策の3手法
第7回	動脈産業と静脈産業Ⅰ- 経済学の暗黒面-	動脈経済と静脈経済.経済成長と動脈部門・静脈部門.静脈経済と潜在技術
第8回	動脈産業と静脈産業Ⅱ- ゼロエミッションと循環型社会-	ゼロエミッション思想.逆工場の考え方.「循環型社会」の考え方
第9回	動脈産業と静脈産業Ⅲ- システム，規制の効果-	市場リサイクルの条件.動脈と静脈の相互関係.規制と公共関与.企業のイニシャティブ
第10回	費用支払いと費用負担Ⅰ- PPPと汚染者負担原則-	汚染者支払い原則PPP.汚染者負担原則.ピグー税と負担の帰着
第11回	費用支払いと費用負担Ⅱ- PPPとEPR-	廃棄物管理費用の支払いと負担.EPRの物理的責任と金銭的責任
第12回	不法投棄と不適切処理	廃棄物管理と外部不経済.不法投棄と不適切処理の経済的動機
第13回	個別リサイクル法とEPR Ⅰ- 法体系と個別リサイクル法-	法体系と個別リサイクル法：再論.容器包装リサイクル法
第14回	個別リサイクル法とEPR Ⅱ- E-Wasteのリサイクル-	家電リサイクル法.PCリサイクル・システム.携帯電話リサイクル・システム.小型家電リサイクル法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
環境経済論Aを既習であることが望ましい（環境経済学の基礎理論・概念）。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
細田衛士：『グッズとバッズの経済学　第2版』東洋経済新報社

【参考書】
時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房

【成績評価の方法と基準】
期末レポート：100％

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire basic theories and concepts of the economics of waste and recycling. By the end of course, students should be able to understand the economics of waste and recycling. Before/after each class meeting, students will be expected to spent 4 hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Term-end report(100%)

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

環境経済論Ｂ

松波　淳也

開講時期：秋学期授業/Fall　　単位：２単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
廃棄物・リサイクルの経済学を習得する。

【到達目標】
環境経済学はその体系化への努力が始まって以来，地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て，各方面への深化を遂げている。本講義では，最近理論的発展の著しい「ごみ・リサイクルの経済学」を取り上げ，標準的な環境経済学の基礎概念，手法の理解をより深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
現代の廃棄物問題の本質および「廃棄物経済学」の基礎概念を身につけてもらうことを目標として講義する。現実の廃棄物管理政策の状況の理解も図りたい。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ごみ問題とリサイクルⅠ- 現代的課題と理論的概観-	「ごみ問題」の構造分類.「ごみ」の定義.経済学における「ごみ」の扱い
第2回	ごみ問題とリサイクルⅡ- 経済学的定式化に向けて-	廃棄物経済学の主要アプローチ.廃棄物経済学の整備に向けて.最近のトピック
第3回	ごみ問題とリサイクルⅢ- 廃棄物リサイクルの経済モデル-	廃棄物経済学の誕生.廃棄物リサイクルの線形生産モデル
第4回	廃棄物管理政策Ⅰ- 循環型社会の法体系-	循環型社会形成推進基本法等.個別リサイクル法.３Ｒの優先順位.２つの基本理念
第5回	廃棄物管理政策Ⅱ- 代表的な経済手法-	家庭ごみの有料化.埋立税・産業廃棄物税，有害物質への税・課徴金.特定製品への税・課徴金.デポジット・リファンド制度
第6回	廃棄物管理政策Ⅲ- 自治体の清掃行政-	３Ｒ＋適正処理の優先順位に即した政策展開.短期的政策，中長期的政策の位置づけ.地域特性に即したきめ細かい政策.環境政策の3手法
第7回	動脈産業と静脈産業Ⅰ- 経済学の暗黒面-	動脈経済と静脈経済.経済成長と動脈部門・静脈部門.静脈経済と潜在技術
第8回	動脈産業と静脈産業Ⅱ- ゼロエミッションと循環型社会-	ゼロエミッション思想.逆工場の考え方.「循環型社会」の考え方
第9回	動脈産業と静脈産業Ⅲ- システム，規制の効果-	市場リサイクルの条件.動脈と静脈の相互関係.規制と公共関与.企業のイニシャティブ
第10回	費用支払いと費用負担Ⅰ- PPPと汚染者負担原則-	汚染者支払い原則PPP.汚染者負担原則.ピグー税と負担の帰着
第11回	費用支払いと費用負担Ⅱ- PPPとEPR-	廃棄物管理費用の支払いと負担.EPRの物理的責任と金銭的責任
第12回	不法投棄と不適切処理	廃棄物管理と外部不経済.不法投棄と不適切処理の経済的動機
第13回	個別リサイクル法とEPR Ⅰ- 法体系と個別リサイクル法-	法体系と個別リサイクル法：再論.容器包装リサイクル法
第14回	個別リサイクル法とEPR Ⅱ- E-Wasteのリサイクル-	家電リサイクル法.PCリサイクル・システム.携帯電話リサイクル・システム.小型家電リサイクル法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
環境経済論Aを既習であることが望ましい（環境経済学の基礎理論・概念）。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
細田衛士：『グッズとバッズの経済学　第2版』東洋経済新報社

【参考書】
時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房

【成績評価の方法と基準】
期末レポート：100％

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire basic theories and concepts of the economics of waste and recycling. By the end of course, students should be able to understand the economics of waste and recycling. Before/after each class meeting, students will be expected to spent 4 hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Term-end report(100%)

ECN200CD（経済学 / Economics 200）

経済地理Ａ

近藤　章夫

開講時期：春学期授業/Spring　　単位：2単位

※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、世界の国・地域、アジアと日本、日本国内の都市と地方などの地理的スケールを範囲とし、経済地理学的な思考方法や分析枠組を用いて、人口構造と経済成長、産業の立地論、経済の空間構造（都市経済）、国土政策と地域経済、の諸問題について多角的に論じる。

【到達目標】
日本を中心とした世界の国・地域における経済活動の地理的側面について共通したメカニズムと実態を経済学的に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本講義はオンデマンド形式の動画配信をベースに進める。
経済地理学とは、多様な人間活動が立地をつうじて相互に補完することで生じる、経済の諸事象の空間的配置を説明し、都市、地域、国際間の空間経済システムのダイナミックな変遷を分析する分野である。授業では経済地理学の基礎理論やモデルをベースにして国内外の社会経済動向や研究事例を用いながら解説していく。講義に資する資料を適宜提示し、地図・統計を用いながら理解を深める。課題等の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要とスケジュール、学習のポイント
第２回オンデマンド (以下、OD)①	人口と地域格差①	人口構造と人口転換
第3回OD②	人口と地域格差②	人口動態と人口問題
第4回	人口と地域格差③	人口と経済成長
第5回OD③	産業の立地①	立地論の基礎
第6回OD④	産業の立地②	工業立地論と事例
第7回	産業の立地③	組織論的立地論と事例
第8回OD⑤	経済の空間構造①	都市化と都市構造
第9回OD⑥	経済の空間構造②	都市発展と都市システム
第10回	経済の空間構造③	都市の理論・モデルと実際
第 11 回 OD⑦	国土政策と地域経済①	日本の地域構造と地域間格差
第 12 回 OD⑧	国土政策と地域経済②	国土政策と地域政策の系譜と現状
第 13 回 OD⑨	都市・地域開発と政策	都市・地域問題の現状と新たな政策
第14回	まとめ・総括	経済活動と地理的スケールの重層性について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。特に、講義後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しない。適宜、文献と資料を提示する。

【参考書】
河野稠果（2000）『世界の人口（第2版）』東京大学出版会
デイヴィッド・N・ワイル（2010）『経済成長（第2版）』ピアソン桐原
松原宏編著（2002）『立地論入門』古今書院
山田浩之・徳岡一幸編（2018）『地域経済学入門（第3版）』有斐閣
竹内淳彦・小田宏信編著（2014）『日本経済地理読本（第9版）』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】
中間・期末レポート（40%）、各回の小テスト等の課題（60%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

【その他の重要事項】
本講義は全ての講義をオンラインで実施し、一部の授業回はオンデマンドシステムによる動画配信で実施する。
詳細は、第1回授業の際に説明する。学期中は学習支援システムを用いて、課題の提示等を行うので、定期的に確認すること。なお、履修者の関心や授業の進捗状況によって、授業計画を一部変更することがある。

【Outline (in English)】
Course outline and objectives:
From the perspective of economic geography, this lecture will cover various issues such as economic growth and population, urban and regional economies, industrial location theory, spatial structure of the economy, national land planning, and regional policy.
Learning activities outside of classroom：
Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policy:
Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report and term-end report(40%), and each-class requirements(60%).

ECN200CD（経済学 / Economics 200）

経済地理Ｂ

近藤　章夫

開講時期：秋学期授業/Fall　　単位：2単位

※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、生産性と創造性に関わる経済活動の集積に注目し、産業集積や都市集積の盛衰メカニズムに関する具体的かつ実践的な思考力を身につけることを目的として、経済学における集積論の到達点とその含意を論じる。

【到達目標】
日本を中心とした世界の都市・産業地域における経済活動の集積事象について共通したメカニズムを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本講義はオンデマンド形式の動画配信をベースに進める。
経済地理学とは、多様な人間活動が立地をつうじて相互に補完することで生じる、経済の諸事象の空間的配置を説明し、都市、地域、国際間の空間経済システムのダイナミックな変遷を分析する分野である。授業では経済地理学の一分野である集積論を扱い、古典的な集積論から新しい産業集積論までの系譜を理解するとともに、国内外の事例にもとづいて講義に資する資料を適宜提示し、地図・統計を用いながら理解を深める。課題等の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要と学習のポイント
第 2 回オンデマンド (以下、OD)①	集積論の系譜①	A.Weber と A.Marshall の集積論
第3回OD②	集積論の系譜②	外部経済と集積の経済
第4回	集積論の系譜③	現代経済における集積の意義
第5回OD③	現代の集積論①	新しい集積論の潮流、サードイタリー
第6回OD④	現代の集積論②	クラスター論とネットワーク論
第7回	現代の集積論③	空間経済学と集積
第8回OD⑤	日本の都市・産業集積①	産地と企業城下町
第9回OD⑥	日本の都市・産業集積②	都市集積とネットワーク型集積
第10回	産業集積のダイナミズム	産業のグローカル化
第 11 回 OD⑦	自動車産業の集積①	系列、近接性、JIT生産システム
第 12 回 OD⑧	自動車産業の集積②	日本的生産システムの海外展開
第 13 回 OD⑨	ハイテク産業の集積	シリコンバレーモデルと産学連携
第14回	講義の小括・まとめ	経済学における集積論の現在

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。特に、講義後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しない。適宜、文献と資料を提示する。

【参考書】
石倉洋子ほか編著（2003）『日本の産業クラスター戦略』有斐閣
川端基夫（2013）『立地ウォーズ（改訂版）』新評論
アナリー・サクセニアン（2009）『現代の二都物語』日経BP社
藤田昌久・ジャック・F・ティス（2017）『集積の経済学』東洋経済新報社
山本健兒（2005）『産業集積の経済地理学』法政大学出版局

【成績評価の方法と基準】
中間・期末レポート（40%）、各回の小テスト等の課題（60%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

【その他の重要事項】
本講義は全ての講義をオンラインで実施し、一部の授業回はオンデマンドシステムによる動画配信で実施する。
詳細は、第1回授業の際に説明する。学期中は学習支援システムを用いて、課題の提示等を行うので、定期的に確認すること。なお、履修者の関心や授業の進捗状況によって、授業計画を一部変更することがある。

【Outline (in English)】
Course outline and objectives:
The purpose of this lecture is to explain the achievements and meaning of agglomeration theories in economics, focusing on the geographical economic activities related to productivity and creativity, and to develop concrete and practical thinking skills regarding the rise and fall mechanisms of industrial and urban agglomerations.
Learning activities outside of classroom ：
Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policy:
Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report and term-end report(40%), and each-class requirements(60%).

SES200CA（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 200）

環境科学Ａ

岡部　雅史

開講時期：春学期授業/Spring　　単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義は，環境とはなにか？　私達と環境とのかかわりを受講生諸君が科学的視点から理解できるようになることを目的としています。

【到達目標】
主として私たちの身の周りの様々な現象の環境学的理解ができるようになることを目標にしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義は初回のガイダンスからスタートします。
講義概要としては，1－環境を構成する要因，2－環境の変動，3－テクノロジーの進歩と環境に対する影響，4－環境ビジネス（エコ・ビジネス）の展開と，その将来。以上の4つのサブテーマから構成され，前半では環境の概念の理解，後半では環境調査・保全・改変などの環境ビジネス（エコ・ビジネス）の最先端の紹介をもとに進行いたします。環境問題に興味のある方，環境ビジネスに興味のある方などの積極的参加を希望します。
履修希望者は必ず初回の講義ガイダンスに出席すること。
試験に対するフィードバックは授業支援システムにて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	科目テーマ・授業の進め方・テキスト・評価方法の解説
2	水と環境1	地球科学と水資源の総量・水資源の特徴
3	水と環境2	上水道と下水道
4	水と環境3	浄水処理と汚水処理・BOD・COD
5	空気と環境	清浄な空気組成・有毒ガス・室内空気汚染・PM2.5
6	健康と空気環境	一酸化炭素中毒・酸欠事故・シックハウス・シックスクール
7	生活と騒音	振動・騒音性難聴・ディスコ難聴
8	光線・放射線と環境	紫外線や放射線と発ガン・やけど
9	恒常性	ホメオスタシスの概念と職業病
10	公害と疾病	水俣病・イタイイタイ病・四日市喘息
11	体内環境	対外環境に対する生物の環境応答
12	生活環境と健康	ライフスタイルと種々のストレス・生活習慣病
13	環境・エコビジネス1	環境調査・コンサルタント・環境修復ビジネス
14	環境・エコビジネス2	ESCO事業・ISOビジネス・環境報告・環境会計

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日々の新聞・ニュース等　報道にて紹介される環境技術関連ニュース等に注意しておく事。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
支援システムにてテーマに沿った資料・映像ファイルを配布する。

【参考書】
参考図書は授業内にて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
講義期間内に小試験（10点）を複数回行い、さらに期末に試験（100点）を行う。両試験とも講義に出席し受験した場合にのみ得点を認める。 総合計点の60%以上得点した学生に単位を認める。総合計点が評価基準配分100％となる。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
hosei-wifiに接続できるノートパソコンまたはタブレット端末必須。
スマホは不可。

【その他の重要事項】
毎週講義時刻に支援システムにて　その週の教材を配信します。
小テストは講義時間中に配信し、講義時間中に答えを回収します。

シラバスの内容は今後の状況次第で変化することもありますので注意してください。

【Outline (in English)】
Course outline:
This lecture features the theme of pushing forward understanding based on a current scientific finding about environmental science.
Learning objectives:
The goals of this course are to obtain correct knowledges on modern environmental science.
Learning activities outside of classroom:
Should be keep knowledges on environmental science by regularly reading major newspapers (ca.4hrs./week).
Grading criteria:
There will be an exam at the end of the term (maximum score of 100 points) and a short exam (maximum score of 10 points) will be given multiple times in class. Credits will be granted to students who score 60% or more of the total score. The total score will be 100% of the evaluation criteria allocation.

SES200CA（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 200）

環境科学Ｂ

岡部　雅史

開講時期：秋学期授業/Fall　　単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義は，人間の活動がどのようにして自然環境と関わってきたのか？ そのメカニズムと，現在の環境汚染の現状，さらには環境に負荷をかけないシステムの紹介まで踏み込んだ内容を展開します。生物と環境とのかかわりを生態科学的視点からも理解できるようになることを目的としています。

【到達目標】
主として地球環境問題の理解ができるようになる事を目標にしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義全体としては、1－自然環境を構成する因子、2－環境汚染の変遷、3－現在の環境汚染、4－環境負荷低減テクノロジーの展開と，その将来等　以上の4つのサブテーマから構成され，前半では今までの環境汚染（公害）の概念の理解，後半では地球規模にまで進んだ環境汚染・生態破壊のメカニズムを説明し，環境負荷低減のための技術の解説をおこないます。環境問題に興味のある方，環境ビジネスに興味のある方などの積極的参加を希望します。履修希望者は必ず初回の講義ガイダンスに出席すること。
試験に対するフィードバックは授業支援システムにて行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス：	科目テーマ・授業の進め方・テキスト・評価方法の解説
第2回	環境に対する概念の変遷：	自然浄化・環境汚染・環境負荷・環境影響範囲
第3回	地球環境問題：	特徴・公害問題との違い・加害と被害
第4回	海洋汚染：	エコトキシコロジー・プラスチックペレット汚染・防止策
第5回	地球温暖化：	原因物質と発生メカニズム・影響と被害の現状・防止策
第6回	酸性雨：	原因物質と発生メカニズム・影響と被害の現状・防止策
第7回	砂漠化と都市気候：	発生メカニズム・ヒートアイランド現象・防止策
第8回	有害物質の越境移動：	一般・産業・医療廃棄物・ダイオキシン・土壌汚染
第9回	生物多様性の減少：	生物種の経済的価値と遺伝子資源・防止策
第10回	オゾン層の破壊：	原因物質と発生メカニズム・影響と被害の現状・防止策
第11回	環境・エコビジネスA：	ESCO事業1（概念・経済規模）
第12回	環境・エコビジネスB：	ESCO事業2（適用実例）
第13回	環境・エコビジネスC：	エコファンド・土地関連ビジネス
第14回	海外の環境ビジネス：	米国のグリーンニューディール政策およびドイツの環境関連ビジネスの紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日々の新聞・ニュース等　報道にて紹介される環境技術関連ニュース等に注意しておく事。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業支援システムにてテーマに沿った資料を配布する。

【参考書】
参考図書は授業内にて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
講義期間内に小試験（10点）を複数回行い、さらに期末に試験（100点）を行う。両試験とも講義に出席し受験した場合にのみ得点を認める。 総合計点の60%以上得点した学生に単位を認める。総合計点が評価基準配分100％となる。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
hosei-wifiに接続できるノートパソコンまたはタブレット端末必須。
スマホは不可。

【その他の重要事項】
毎週講義時刻に支援システムにて　その週の教材を配信します。
小テストは講義時間中に配信し、講義時間中に答えを回収します。

シラバスの内容は今後の状況次第で変化することもありますので注意してください。

【Outline (in English)】
Course outline:
This lecture features the theme of pushing forward understanding based on a current scientific finding about environmental science.
Learning objectives:
The goals of this course are to obtain correct knowledges on modern environmental science.
Learning activities outside of classroom:
Should be keep knowledges on environmental science by regularly reading major newspapers (ca.4hrs./week).
Grading criteria:
There will be an exam at the end of the term (maximum score of 100 points) and a short exam (maximum score of 10 points) will be given multiple times in class. Credits will be granted to students who score 60% or more of the total score. The total score will be 100% of the evaluation criteria allocation.

ECN300CA（経済学 / Economics 300）

環境政策論Ａ

西澤　栄一郎

開講時期：春学期授業/Spring　　単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業では、環境政策を主に経済学的視点から理論的に考察する。なぜ環境政策が必要なのか、どのような政策が効率的か、という問いを中心に据える。

【到達目標】
①環境問題の経済学的な分析手法を身につける。
②環境政策のさまざまな手法について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　毎回、学習支援システムに資料をアップロードする。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。
　なお、経済学入門と現代経済学基礎を履修済みであることを想定して授業を進める。また、経済政策論Aまたは公共経済論A・Bを履修済みであるか、同時に履修することを強く希望する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ガイダンス＆環境問題を考える
第2回	日本の環境問題の歴史	江戸時代から20世紀末まで
第3回	地球温暖化問題	気候変動枠組条約、パリ協定
第4回	地球温暖化対策①	エネルギー政策、カーボンプライシング
第5回	地球温暖化対策②	省エネ対策、再生可能エネルギー
第6回	環境問題の経済分析①	余剰分析、厚生経済学の基本定理
第7回	環境問題の経済分析②	市場の失敗、公共財、外部性
第8回	環境政策の目標	費用便益分析、費用効果分析、リスク便益分析
第9回	環境政策の手段	政策手段の分類、経済的手法
第10回	環境税	ピグー税、汚染者負担原則
第11回	排出取引	税との比較、EUの制度
第12回	補助金・デポジット	長期効率性、税と補助金の組合せ
第13回	環境経済統合勘定	環境指標、SEEA、NAMEA
第14回	国際的取り組み	リオ・サミット、持続可能な発展

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　参考書と各回で示す参考文献を読む。配布資料を見直す。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
　テキストは指定しない。資料を配布する。

【参考書】
　栗山・馬奈木(2024)『環境経済学をつかむ 第5版』有斐閣
　一方井誠治(2018)『コア・テキスト環境経済学』新世社
　その他の参考文献は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
　期末試験(70%)と各回の課題(30％)で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
　課題は各自で取り組むこと。授業の理解が深まるような課題を出すように心がけたい。

【Outline (in English)】
This course outlines environmental policies from the viewpoint of economic theory.
The goals of this course are to graphically comprehend the economic mechanism of environmental conservation measures.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading will be decided based on the final examination (70%) and the assignments (30%) from each class.

ECN300CA（経済学 / Economics 300）

環境政策論Ｂ

西澤　栄一郎

開講時期：秋学期授業/Fall　　単位：２単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業では、環境政策論Ａにつづき、主に法学または政治学の視点から、環境に関する政策・制度の実態について学ぶ。

【到達目標】
①日本の環境政策の実態について理解する。
②環境政策の形成過程を理解する。
③環境政策の今後のあり方について議論ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　毎回、学習支援システムに資料をアップロードする。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。
　環境政策論Ａを履修済みであることが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	環境政策の諸原則	6つの原則
第2回	日本の環境政策の枠組	基本法、基本計画、環境影響評価
第3回	大気保全政策	大気汚染防止法、アスベスト問題
第4回	水質保全政策	水質汚濁防止法、閉鎖性水域
第5回	土壌汚染対策	土壌汚染対策法
第6回	有害化学物質対策	化学物質審査法、PRTR
第7回	生物多様性	生態系サービス
第8回	生物多様性の保全	種の保存法、鳥獣保護管理法、外来生物法
第9回	自然保護地域の保全	自然公園法、自然環境保全法、自然再生推進法
第10回	廃棄物対策	循環型社会形成推進基本法
第11回	環境政策の政策過程①	温暖化対策の政策過程の各段階
第12回	環境政策の政策過程②	政策ネットワーク
第13回	企業と環境問題①	環境マネジメント
第14回	企業と環境問題②	サステナブルファイナンス、ESG投資

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　参考書と各回で示す参考文献を読む。課題に取り組む。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
　テキストは指定しない。資料を配付する。

【参考書】
　竹本和彦編(2020)『環境政策論講義』東京大学出版会
　西尾哲茂(2025)『わか～る 環境法 第3版』信山社
　神山智美(2024)『自然環境法を学ぶ 第2版』文眞堂
　その他の参考文献は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
　期末試験(70%)と各回の課題(30％)で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
　課題は各自で取り組むこと。授業の理解が深まるような課題を出すように心がけたい。

【Outline (in English)】
This course overviews current environmental law, politics, and policy in Japan.
At the end of the course, students are expected to understand environmental policies and their policy process in Japan and to discuss the future direction of environmental policies.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading will be decided based on the final examination (70%) and the assignments (30%) from each class.

ECN300CA（経済学 / Economics 300）

経済政策論Ａ

小原　拓也

開講時期：春学期授業/Spring　　単位：２単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
完全競争市場という理想的な取引環境においては、資源配分の効率性と公平性が実現される。しかし、現実的には市場で解決できない問題（市場の失敗）が存在するため、政府の市場への介入が必要となる。本講義では、様々な市場の失敗に対して政府はどのように政策介入すべきなのか考察する。また、関連する現実の経済問題を紹介することで理解を深める。

【到達目標】
本講義では、歳出（政府の支出）の観点における経済政策の内容を習得することで、政府がどのような目的で現実の経済問題に対処しているのか経済学的に理解できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本講義では、自作のパワーポイント資料（PDFファイル）を用意し，授業の前日までに学習支援システム(WebClass)にアップロードするので，各自で印刷ないしはPCを持参して講義に出席すること。また毎回ではないが、講義内容を復習するための確認問題を講義資料に掲載する。フィードバック（解答解説等）は講義内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	経済政策の目的
2	市場と政府(1)	政府の活動、余剰分析
3	市場と政府(2)	完全競争市場とパレート効率性
4	市場と政府(3)	公平性(機会の平等と結果の平等)
5	公共財理論(1)	公共財の定義と分類
6	公共財理論(2)	公共財の最適供給
7	外部性(1)	外部性の定義、金銭的外部性と技術的外部性、外部性における余剰分析
8	外部性(2)	外部性の公的解決と私的解決
9	独占	供給独占、独占における余剰分析
10	自然独占	費用逓減産業、自然独占における余剰分析、価格規制とインセンティブ規制
11	社会保障制度(1)	社会保障制度の概観、年金制度
12	社会保障制度(2)	医療制度、介護制度、生活保護制度、子育て支援策
13	講義総括	春学期の学習内容を総括する
14	試験と解説	春学期の学習内容について期末試験および解説を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の準備としては、ミクロ経済学AB(2年次配当)の復習を行うこと。
1回の授業につき、準備・復習それぞれ約2時間程度の学習が望ましい。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しない。自作のパワーポイント資料を学習支援システムにて配布する。

【参考書】
① 麻生良文・小黒一正・鈴木将覚著『財政学15講』新世社、2018年
② 佐藤主光『公共経済学15講』新世社、2017年
③ 寺井公子、肥前洋一『私たちと公共経済』有斐閣、2015年
④ 土居丈朗『入門公共経済学　第2版』日本評論社、2018年

【成績評価の方法と基準】
評価は、教室内で実施する試験（100%）によって行う。試験では、経済政策論Ａで扱うテーマに関する基本的な計算問題または記述問題を出題し、授業内容の理解度を測る。

【学生の意見等からの気づき】
授業内アンケートでは、「政府の経済活動に関する理論とその現実への応用を学ぶことで、経済ニュースをより理解できるようになった」といった感想が寄せられている。これらの意見を踏まえ、今後は講義内容の一層の深化と改善を進めていく予定である。

【Outline (in English)】
Course Outline

In the ideal trading environment of a perfectly competitive market, efficiency and fairness in resource allocation are achieved. In reality, however, there are problems that cannot be solved by the market (market failures) and require government intervention in the market. In this lecture, we will examine how the government should intervene in response to market failures. It will also deepen understanding by introducing related real-world economic problems.
In this course, the objective is to develop an understanding of economic policy from the perspective of government expenditure, enabling students to grasp, from an economic viewpoint, the purposes for which the government addresses real-world economic issues.
For lecture preparation, it is important to review Microeconomics AB (allocated for the second year).
For each class, approximately two hours of preparation and two hours of review are recommended.
Evaluation will be conducted through an in-class examination (100%). The exam will include fundamental calculation problems or written questions related to the topics covered in Economic Policy A to assess students' understanding of the course content.

ECN300CA（経済学 / Economics 300）

経済政策論Ｂ

濱秋　純哉

開講時期：秋学期授業/Fall　　単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政府や中央銀行は，財政政策や金融政策などのマクロ経済政策を行っているが，どのような目的で，さらには，どのような根拠に基づいて政策を実行しているのだろうか。このような疑問に対して，マクロ経済学のIS-LMモデルを用いて考察する。また，GDP，物価指数，失業率といった経済政策立案の際に参照される各種マクロ経済統計の作成方法とその計測上の課題，及び近年の雇用問題についても検討する。

【到達目標】
この講義では，受講者各人が経済学の考え方に基づいて，現実の経済政策を評価する力を身に付けることを目標とする。具体的には，各種マクロ経済統計の作成方法と統計の読み方を理解すること，及び財政政策と金融政策が経済に与える影響などについて主体的に考察できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
直観的な理解が進むように図表を使った説明を交えながら，スライドを用いた講義形式で経済政策に関するトピックを解説する。期末試験に対するフィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	マクロ経済と私たちの生活
2	経済政策のためのマクロ経済統計1	GDPの概念と作成方法
3	経済政策のためのマクロ経済統計2	物価指数の概念と作成方法
4	経済政策のためのマクロ経済統計3	失業率の概念と作成方法
5	労働政策1	失業の原因
6	労働政策2	失業への政策的対処
7	労働政策3	賃金の硬直性と失業
8	財政・金融政策1：IS-LMモデルの構築1	ケインジアンの交差図，乗数効果
9	財政・金融政策2：IS-LMモデルの構築2	IS曲線の導出
10	財政・金融政策3：IS-LMモデルの構築3	貨幣量の測定とコントロール
11	財政・金融政策4：IS-LMモデルの構築4	LM曲線の導出
12	財政・金融政策5：IS-LMモデルの応用1	財政政策の効果とクラウディング・アウト
13	財政・金融政策6：IS-LMモデルの応用2	金融政策の効果と流動性のわな
14	まとめと期末試験	まとめと期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の準備学習・復習を行うこと。準備学習・復習時間は，各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
濱秋純哉，2025年，『経済政策』新世社

【参考書】
1. N・グレゴリー・マンキュー，2024年，『マクロ経済学Ⅰ（第5版）』東洋経済新報社
2. ダロン・アセモグル, デヴィッド・レイブソン, ジョン・リスト，2019年，『ALLマクロ経済学』東洋経済新報社
3. 福田慎一・照山博司，2023年，『マクロ経済学・入門（第6版）』有斐閣

【成績評価の方法と基準】
期末試験（100%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の授業で学生が受け身の学習にならないように，授業中に簡単な質問に答えてもらうことがある。また，経済学の抽象的な概念の説明の際には，必ず具体例とセットで説明することで理解を促す。

【その他の重要事項】
本講義を履修するにあたり，経済政策論Aを履修済みのことが望ましい（ただし，需要曲線・供給曲線，余剰や弾力性の概念，及び余剰分析の方法などを学習済みなら，必ずしも履修済みの必要はない）。

【Outline (in English)】
Course Outline
Governments and central banks conduct macroeconomic policies such as fiscal policy and monetary policy, but for what purpose and on what basis do they implement such policies? This course considers these questions from a macroeconomic perspective using IS-LM model. The course also examines how various macroeconomic statistics such as GDP statistics, price indexes (consumer price indexes and GDP deflators), and unemployment rates are compiled as well as related measurement issues, and moreover, investigates employment issues in recent years.

Learning Objectives
At the end of the course, students are expected to acquire the ability to evaluate economic policies based on economics.

Learning Activities Outside of Classroom
Before and after each class meeting, students are expected to spend two hours each on preparation and review.

Grading Policy
The final grade will be determined as follows:
Term-end examination: 100%

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

マクロ経済学Ａ

宮﨑　憲治

開講時期：春学期授業/Spring　　単位：2単位

クラス指定あり【2年ABPQRSTUVWXYZ組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
一国の経済がどのように成長し、変動するかを理解するために、この授業はマクロ経済学の基礎知識を講義する

【到達目標】
・今日の日本経済における問題が何か理解すること。
・日常的なマクロ経済学の問題を考察できるようになること。
・簡単な公務員試験問題が解けるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
テキストにしたがって, 講義をする. パワーポイントを使用し、講義形式の授業を行う。（パワーポイントのスライドは授業支援システムよりダウンロード可）リアクションペーパーのコメントや質問を授業の最初にフィードバックを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業で学ぶことを紹介
2	マクロ経済学とは（1）	マクロ経済学の登場人物
3	マクロ経済学とは（2）	市場均衡
4	マクロ経済を観察する（1）	国内総生産
5	マクロ経済を観察する（2）	名目と実質
6	マクロ経済を観察する（3）	消費者物価指数
7	マクロ経済を観察する（4）	労働に関する統計
8	マクロ経済学を支える金融市場（1）	金融市場の実際
9	マクロ経済学を支える金融市場（2）	金利（利子率）
10	貨幣の機能と中央銀行の役割（1）	貨幣の機能
11	貨幣の機能と中央銀行の役割（2）	中央銀行の役割
12	財政の仕組みと機能（1）	財政の仕組み
13	財政の仕組みと機能（2）	税制と国債
14	まとめ	授業で学んだことを総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前準備としてテキストを事前に読むことが求められている. 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「マクロ経済学 第4版」平口良司・稲葉大、有斐閣、2026年

【参考書】
「マクロ経済学・入門 第6版」福田慎一・照山博司、有斐閣、2023年
「マクロ経済学への招待 (ライブラリ経済学への招待 3) 」郡司 大志、新世社、2024年

【成績評価の方法と基準】
平常点 (10%)・リアクションペーパー (30%)・試験 (60%)

【学生の意見等からの気づき】
ゆっくり講義するよう心掛け、問題を解かせる時間を増やしたい。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを使用し講義資料をダウンロードすること。

【その他の重要事項】
秋学期の「マクロ経済学Ｂ」を履修する場合、春学期に「マクロ経済学Ａ」を履修済みであることが望ましい。

【Outline (in English)】
(Course outline)
To understand how a country's economy grows and fluctuates, t his class lectures on basic knowledge of macroeconomics.
(Learning Objectives)
When you take this course, you can explain introductory macroeconomics and consider our society from an independent perspective.
(Learning activities outside of the classroom)
Students are expected to read the textbook in advance as preparation. There will be a report assignment. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
(Grading Criteria /Policy)
Usual performance score (10%), homework (30%), exam or report (60%)

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

マクロ経済学Ｂ

宮﨑　憲治

開講時期：秋学期授業/Fall　　単位：２単位

クラス指定あり【2年ABPQRSTUVWXYZ組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
一国の経済がどのように成長し、変動するかを理解するために、この授業はマクロ経済学の基本モデルを講義する

【到達目標】
・今日の日本経済における問題が何か理解すること。
・日常的なマクロ経済学の問題を考察できるようになること。
・簡単な公務員試験問題が解けるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
テキストにしたがって, 講義をする. パワーポイントを使用し、講義形式の授業を行う。（パワーポイントのスライドは授業支援システムよりダウンロード可）リアクションペーパーのコメントや質問を授業の最初にフィードバックを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業で学ぶことを紹介
2	GDPと金利の決まり方（1）	45度分析
3	GDPと金利の決まり方（2）	ISLMモデル
4	総需要・総供給分析（1）	物価とGDPの同時決定
5	総需要・総供給分析（2）	経済政策の限界
6	インフレとデフレ（1）	実質金利と名目金利
7	インフレとデフレ（2）	インフレと失業
8	国際収支・為替レートとマクロ経済（1）	海外との取引を測る
9	国際収支・為替レートとマクロ経済（2）	金利平価
10	経済が成長するメカニズム（1）	ソローモデル
11	経済が成長するメカニズム（2）	経済成長の要因分解
12	資産価格の決まり方（1）	資産価格の決まり方
13	資産価格の決まり方（2）	資産価格バブル
14	まとめ	授業で学んだことを総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前準備としてテキストを事前に読むことが求められている. 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「マクロ経済学 第4版」平口良司・稲葉大、有斐閣、2026年

【参考書】
「マクロ経済学・入門 第6版」福田慎一・照山博司、有斐閣、2023年
「マクロ経済学への招待 (ライブラリ経済学への招待 3) 」郡司 大志、新世社、2024年

【成績評価の方法と基準】
平常点 (10%)・リアクションペーパー (30%)・試験 (60%)

【学生の意見等からの気づき】
ゆっくり講義するよう心掛け、問題を解かせる時間を増やしたい。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを使用し講義資料をダウンロードすること。

【その他の重要事項】
秋学期の「マクロ経済学Ｂ」を履修する場合、春学期に「マクロ経済学Ａ」を履修済みであることが望ましい。

【Outline (in English)】
（Course outline）
To understand how a country’s economy grows and fluctuates, this class lectures on basic macroeconomic　models.
（Learning Objectives）
When you take this course, you can explain introductory macroeconomics and consider our society from an independent perspective.
（Learning activities outside of the classroom）
Students are expected to read the textbook in advance as preparation. There will be a report assignment. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
(Grading Criteria /Policy）
Usual performance score (10%), homework (30%), exam or report (60%)

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

マクロ経済学Ａ

八木橋　毅司

開講時期：春学期授業/Spring　　単位：２単位

クラス指定あり【2年CDEFGHIJKLMNO組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では経済学の入門講座で学んだ知見を足がかりに、中級向けのマクロ経済学の理論を学習します。また、マクロ経済データの基礎知識を身につけ、最近の新聞記事などで取り上げられた経済関連のトピックスを理論、データの両面から分析する視点を身につけます。

【到達目標】
・身近な問題を経済学的視点で捉えることができる
・短期と長期における経済問題の性質の違いについてグラフを用いて説明できる
・マクロ経済モデルを使った金融・財政政策効果についての分析ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義は基本的にパワーポイントの講義資料を学習支援システムからダウンロードし、課題を定期的に提出する形式で行います。
各回の講義ではトピック毎の鍵となる専門知識を習得することに集中し、直後の復習では教科書の精読を通じ講義で学んだ知識の体系化を図ります。さらには適宜、宿題、小テスト、およびクラス内課題を通じ理解度のチェックを行います。それらについてのフィードバックは主に学習支援システム内のWebClassを通じて行われます。講義内容等に関する質問は随時メール・オフィスアワーにて幅広く受け付けます。定期オフィスアワーのスケジュールは第１回の講義前後にアナウンスします。
また授業形態につきましては対面・オンライン（各7回）の組み合わせとし、各講義回の形態については学習支援システムを通じてその都度事前に通知します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業のガイダンス	オリエンテーション
第2回	科学としてのマクロ経済学、マクロ経済学のデータ	マクロ経済学概説、国内総生産、消費者物価指数、失業率
第3回	科学としてのマクロ経済学、マクロ経済学のデータ	トピック講義
第4回	国民所得	生産・所得・分配
第5回	国民所得	トピック講義
第6回	国民所得、開放経済	支出、財市場の均衡、金融市場の均衡、開放経済（小国）モデル
第7回	国民所得、開放経済	トピック講義
第8回	開放経済、貨幣システム	為替レート：名目対実質・為替レートの決定要因、銀行の役割・マネーサプライ
第9回	小テスト	小テスト
第10回	開放経済、貨幣システム	トピック講義
第11回	インフレ、労働市場	貨幣数量説、インフレと利子率、貨幣需要、失業率の長期均衡、労働市場と賃金決定メカニズム
第12回	景気変動	総需要、総供給、総需要・総供給モデルを使った短期と長期の分析
第13回	インフレ、労働市場、景気変動	トピック講義
第14回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義の学習時間は、１回につき４時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】
G.マンキュー（著）『マクロ経済学１：入門編』東洋経済新報社、2024年、4000円+税

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
期末試験45％、小テスト25％、宿題25%、練習問題5%

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコン、タブレット、スマホのいずれかを常時持参してください。

【その他の重要事項】
『授業支援システム』で連絡したことは，全ての受講者に伝わったものとして取り扱いますので、頻繁にチェックする習慣を早いうちに身につけてください。

【担当教員の専門分野等】
詳しくは下記ウェブサイトをご覧ください
https://sites.google.com/site/takeshiyagihashi/

【主要業績】
"Intertemporal Elasticity of Substitution with Leisure Margin" (with Juan Du), Dec.　2023, Review of Economics of the Household, 21, 1473-1504.
"How Do the Trans-Pacific Economies Affect the US? An Industrial Sector Approach" (with David Selover), Oct. 2017, The World Economy , 40(10), 2097-2124.
“Goods-Time Elasticity of Substitution in Health Production” (with Juan Du), Oct.　2017, Health Economics, 26(11), 1474-1478.
“Health Care Inflation and Its Implication for Monetary Policy” (with Juan Du), Mar.　2015, Economic Inquiry, 53(3), 1556-1579.
“Are DSGE Approximating Models Invariant to Shifts in Policy?” (with Timothy Cogley) Jan.　2010, The B.E. Journal of Macroeconomics, 10(1) (Contribution), Article 27, 1-31.

【Outline (in English)】
This course is designed to introduce the intermediate level macroeconomic theory. These theories provide results that, at times, contrast to the results you were exposed to in day-to-day decisions.　We mainly use basic diagrams as the tool for generating predictions about aggregate prices, market interest rates, and exchange rates. Methods on how to interpret data on national income and other relevant macroeconomic variables are also studied.
【Learning Activities Outside of Classroom】
Four hours per class
【Grading Criteria/Policy】
Final Exam: 45%, Quiz: 25%、Homeworks: 25%、Problem Sets: 5%

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

マクロ経済学Ｂ

八木橋　毅司

開講時期：秋学期授業/Fall　　単位：２単位

クラス指定あり【2年CDEFGHIJKLMNO組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では経済学の入門講座で学んだ知見を足がかりに、中級向けのマクロ経済学の理論を学習します。また、マクロ経済データの基礎知識を身につけ、最近の新聞記事などで取り上げられた経済関連のトピックスを理論、データの両面から分析する視点を身につけます。

【到達目標】
・身近な問題を経済学的視点で捉えることができる
・短期と長期における経済問題の性質の違いについてグラフを用いて説明できる
・マクロ経済モデルを使った金融・財政政策効果についての分析ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義は基本的にパワーポイントの講義資料を学習支援システムからダウンロードし、課題を定期的に提出する形式で行います。
各回の講義ではトピック毎の鍵となる専門知識を習得することに集中し、直後の復習では教科書の精読を通じ講義で学んだ知識の体系化を図ります。さらには適宜、宿題、小テスト、およびクラス内課題を通じ理解度のチェックを行います。それらについてのフィードバックは主に学習支援システム内のWebClassを通じて行われます。講義内容等に関する質問は随時メール・オフィスアワーにて幅広く受け付けます。定期オフィスアワーのスケジュールは第１回の講義前後にアナウンスします。
また授業形態につきましては対面・オンライン（各7回）の組み合わせとし、各講義回の形態については学習支援システムを通じてその都度事前に通知します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業のガイダンス	オリエンテーション
第2回	総需要１	財市場とIS曲線、貨幣市場とLM曲線、均衡
第3回	総需要１	トピック講義
第4回	総需要２	財政・金融政策、総需要・総供給モデルの短長期分析
第5回	総需要２	トピック講義
第6回	総供給およびインフレーションと失業の短期的トレードオフ	総供給曲線、フィリップス曲線と自然失業率
第7回	総供給およびインフレーションと失業の短期的トレードオフ	トピック講義
第8回	経済変動の動学モデル	モデ゛ルの要素および解、動学モデ゛ルを使った政策分析
第9回	小テスト	小テスト
第10回	経済変動の動学モデル	トピック講義
第11回	経済変動の動学モデル、経済成長	動学モデ゛ルを使った政策分析（続き）、資本の蓄積、定常均衡、貯蓄、資本の黄金律水準
第12回	経済成長	人口成長・経済ショック・技術進歩、実証分析・政策
第13回	経済変動の動学モデル、経済成長	トピック講義
第14回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義の学習時間は、１回につき４時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】
G.マンキュー（著）『マクロ経済学１：入門編』東洋経済新報社、2024年、4000円+税
G.マンキュー（著）『マクロ経済学Ⅱ：応用編』東洋経済新報社、2024年、3800円+税

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
期末試験45％、小テスト25％、宿題25%、練習問題5%

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコン、タブレット、スマホのいずれかを常時持参してください。

【その他の重要事項】
『授業支援システム』で連絡したことは，全ての受講者に伝わったものとして取り扱いますので、頻繁にチェックする習慣を早いうちに身につけてください。

【担当教員の専門分野等】
詳しくは下記ウェブサイトをご覧ください
https://sites.google.com/site/takeshiyagihashi/

【主要業績】
"Intertemporal Elasticity of Substitution with Leisure Margin" (with Juan Du), Dec. 2023, Review of Economics of the Household, 21, 1473-1504.
"How Do the Trans-Pacific Economies Affect the US? An Industrial Sector Approach" (with David Selover), Oct. 2017, The World Economy , 40(10), 2097-2124.
“Goods-Time Elasticity of Substitution in Health Production” (with Juan Du), Oct. 2017, Health Economics, 26(11), 1474-1478.
“Health Care Inflation and Its Implication for Monetary Policy” (with Juan Du), Mar. 2015, Economic Inquiry, 53(3), 1556-1579.
“Are DSGE Approximating Models Invariant to Shifts in Policy?” (with Timothy Cogley) Jan. 2010, The B.E. Journal of Macroeconomics, 10(1) (Contribution), Article 27, 1-31.

【Outline (in English)】
This course is designed to introduce the intermediate level macroeconomic theory. These theories provide results that, at times, contrast to the results you were exposed to in day-to-day decisions. We mainly use basic diagrams as the tool for generating predictions about aggregate prices, market interest rates, and exchange rates. Methods on how to interpret data on national income and other relevant macroeconomic variables are also studied.
【Learning Activities Outside of Classroom】
Four hours per class
【Grading Criteria/Policy】
Final Exam: 45%, Quiz: 25%、Homeworks: 25%、Problem Sets: 5%

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

財政学Ａ(市ヶ谷開講)

島澤　諭

開講時期：春学期授業/Spring　　単位：2単位

初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本は現在、①少子化、高齢化の進展への対応、②財政再建への対応、③金融システムの安定化、といった多くの課題を抱えている。本講義では、政府や金融機関の経済活動に関する実態及び基礎的理論について踏まえた後、現実の日本財政や金融についてデータを参照しながら学習する。

【到達目標】
市場主義経済における政府の役割について、どのような考え方があるのかを理解する。また、日本の財政や金融を取り巻く問題を把握する。その上で、政府の役割と日本の財政がどうあるべきかまた今後どうあるべきかについて、自分なりの意見を持てるようになるための論理的思考力、分析能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
現在のところ、基本的には講義資料に沿って講義を進めることを予定している。参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 財政学の歴史	ガイダンス 財政学の歴史
第2回	外部性（1）	外部性の本質
第3回	外部性（2）	ピグー税・補助金
第4回	外部性（3）	コースの定理
第5回	公共財（1）	公共財、準公共財
第6回	公共財（2）	公共財の最適供給
第7回	公共選択（1）	リンダールメカニズム、ただ乗り
第8回	公共選択（2）	アローの不可能性定理、直接民主制
第9回	公共選択（3）	間接民主制、ログローリング
第10回	税の帰着（1）	租税原則
第11回	税の帰着（2）	税の帰着
第12回	最適課税（1）	超過負担
第13回	最適課税（2）	最適物品税
第14回	最適課税（3）	最適所得税

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備・復習時間は、各4時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
受講者が授業を補完するために勉強する場合は、以下の文献が参考となる。
（1）井堀利宏『財政学（第４版）』新世社
（2）畑農鋭矢、林正義、吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣
（3）釣雅雄、宮崎智視『グラフィック財政学』新世社
（4）小黒一正等『財政学15講』新世社
（5）林宜嗣等『財政学（第４版）』新世社
（6）Gruber Public Finance and Public Policy Worth Publishers Inc.

【成績評価の方法と基準】
平常点（40％）、期末試験（60％）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
官庁エコノミスト（経済企画庁（現内閣府））として様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

【Outline (in English)】
Japan is currently facing a number of challenges, including (1) coping with the declining birthrate and aging population, (2) dealing with fiscal reconstruction, and (3) stabilizing the financial system. In this lecture, we will study the actual situation and basic theories on economic activities of the government and financial institutions, and then refer to data on the actual Japanese fiscal and financial situation.
To understand the concept of the role of government in a market-based economy. Also, understand the issues surrounding Japan's public finances and finance. Students will then acquire the logical thinking and analytical skills to be able to form their own opinions on the role of the government and how Japan's finances should be and will be in the future.
At present, we plan to basically follow the lecture materials. If there is any reference literature, it will be indicated each time. In addition, the following topics will be covered in each session, but the speed of the class will be changed as necessary, taking into account the level of knowledge and understanding of the students.
Preparation and review time is estimated to be 4 hours each.
The plan is to evaluate the students on the basis of their in-class assignments (40%) and a final exam (60%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

財政学Ｂ (市ヶ谷開講)

島澤　諭

開講時期：秋学期授業/Fall　　単位：2単位

初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本は現在、①少子化、高齢化の進展への対応、②財政再建への対応、③金融システムの安定化、といった多くの課題を抱えている。本講義では、政府や金融機関の経済活動に関する実態及び基礎的理論について踏まえた後、現実の日本財政や金融についてデータを参照しながら学習する。

【到達目標】
日本財政や金融、社会保障制度・財源の現状と課題を理解し、経済学の視点から財政・社会保障制度、金融政策の効果について考察するための基礎知識の習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
現在のところ、基本的には講義資料に沿って講義を進めることを予定している。参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 財政学の歴史	ガイダンス 財政学の歴史
第2回	日本の財政の歴史	日本の財政史
第3回	予算制度	財政と法律、予算制度
第4回	政府の大きさ	経済活動と政府、財政の役割、大きな政府と小さな政府
第5回	財政金融政策の効果（1）	景気循環、GDPギャップ
第6回	財政金融政策の効果（2）	国民所得の決定、乗数、ビルトインスタビライザー
第7回	財政金融政策の効果（3）	IS-LM分析、財政・金融政策の効果
第8回	所得再分配	ベンサム、ロールズ、ジニ係数
第9回	国債の負担（1）	国債の種類、新正統派
第10回	国債の負担（2）	新古典派
第11回	国債の負担（3）	リカード＝バローの等価定理
第12回	財政の持続可能性（1）	日本の財政再建の歴史
第13回	財政の持続可能性（2）	ドーマーの条件、ドーマーの命題
第14回	財政の持続可能性（3）	ポンジスキーム、プライマリーバランス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備・復習時間は、各4時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
受講者が授業を補完するために勉強する場合は、以下の文献が参考となる。
（1）井堀利宏『財政学（第４版）』新世社
（2）畑農鋭矢、林正義、吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣
（3）釣雅雄、宮崎智視『グラフィック財政学』新世社
（4）小黒一正等『財政学15講』新世社
（5）小塩隆士『社会保障の経済学（第４版）』日本評論
（6）島澤諭『シルバー民主主義の政治経済学』日本経済新聞出版社

【成績評価の方法と基準】
平常点（40％）、期末試験（60％）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
経済企画庁（現内閣府）の官庁エコノミストとして様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

【Outline (in English)】
Japan is currently facing a number of challenges, including (1) coping with the declining birthrate and aging population, (2) dealing with fiscal reconstruction, and (3) stabilizing the financial system. In this lecture, we will study the actual situation and basic theories on economic activities of the government and financial institutions, and then refer to data on the actual Japanese fiscal and financial situation.
The goal of this course is to acquire basic knowledge to understand the current status and issues of Japanese public finances, finance, and social security systems and financial resources, and to examine the effects of fiscal and social security systems and monetary policies from an economics perspective.
At present, it is planned to basically follow the lecture materials. If there is any reference literature, it will be indicated each time. In addition, the following topics will be covered in each session, but the speed of the class will be changed as necessary, taking into account the level of knowledge and understanding of the students.
Preparation and review time is estimated to be 4 hours each.
The plan is to evaluate the students on the basis of their in-class assignments (40%) and a final exam (60%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

経済政策論Ａ(市ヶ谷開講)

森脇　大輔

開講時期：春学期授業/Spring　　単位：２単位

初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈優〉〈Ｓ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、メカニズムデザインや行動経済学、因果推論といった近年経済政策への応用が進んでいる経済学の手法について基礎理論と応用例を学びます。また、得られた知識を活用するための政策立案の実践的スキルについても触れます。

【到達目標】
この講義では，受講者各人が，現実の経済政策を評価する力を身に付けることを目標とする。具体的には，メカニズムデザインや行動経済学、因果推論の考え方に基づき，外部性の問題や望ましい公共サービスの供給について主体的に考察できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
直感的な理解が進むように図表を使った説明を交えながら，講義形式で経済政策に関するトピックを解説する。授業の途中や授業後に復習問題を解く時間を設け，受講者が自分の頭で考える機会も作る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	経済政策とは何か
2	ミクロ経済学の基本１	効用関数 パレート効率性 エッジワースボックス
3	ミクロ経済学の基本２	社会厚生関数
4	外部性	社会的限界便益/費用 コースの定理
5	メカニズムデザインの基礎	マッチングアルゴリズム
6	メカニズムデザインの理論	メカニズムの性質
7	メカニズムデザインの応用	研修医マッチングやその他の事例
8	メカニズムデザインの実践	制度改正の事例
9	行動経済学の基礎	ナッジ
10	行動経済学の理論	時間的不整合性 限定合理性
11	行動経済学の応用	学校選択制などにおける事例
12	因果推論の基礎	因果と相関 反実仮想
13	因果推論の手法	ランダム化比較実験
14	試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義スライドを復習すること、また講義中に示した参考書・関連資料を読むこと（所要：１時間ずつ）。また、講義において出題した復習問題を解くこと（所要：2時間）。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
AIと経済学でもっとよくなる保育政策(2025)森脇大輔（編著）
経済政策（2025）濱秋純哉
マッチング理論とマーケットデザイン(2024)小島 武仁 (著), 河田 陽向 (著)
分析者のための行動経済学入門 プロスペクト理論からナッジまで、人間行動を深く網羅的に解明する(2024) 黒川博文
Pythonで学ぶ効果検証入門(2024)伊藤寛武、安井翔太、金子雄祐

【成績評価の方法と基準】
期末試験（100%）によって評価する。
期末試験は各講義において示した基礎的な公共政策や経済学の知識（50%）と計算問題（50%）による。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の授業で学生が受け身の学習にならないように，授業中に簡単な質問に答えてもらったり，授業内容に即した復習問題を課したりする。また，経済学の抽象的な概念の説明の際には，必ず具体例とセットで説明することで理解を促す。

【その他の重要事項】
講師は中央省庁やテック企業における実務経験を有しており、実践的観点からの講義を行う。

【Outline (in English)】
This course covers the fundamental theories and practical applications of economic methods that have seen increasing use in policy design, such as mechanism design, behavioral economics, and causal inference. Furthermore, it introduces practical skills for policy-making to effectively utilize the knowledge gained.

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

経済政策論Ｂ(市ヶ谷開講)

濱秋　純哉

開講時期：秋学期授業/Fall　　単位：2単位

初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政府や中央銀行は，財政政策や金融政策などのマクロ経済政策を行っているが，どのような目的で，さらには，どのような根拠に基づいて政策を実行しているのだろうか。このような疑問に対して，マクロ経済学のIS-LMモデルを用いて考察する。また，GDP，物価指数，失業率といった経済政策立案の際に参照される各種マクロ経済統計の作成方法とその計測上の課題，及び近年の雇用問題についても検討する。

【到達目標】
この講義では，受講者各人が経済学の考え方に基づいて，現実の経済政策を評価する力を身に付けることを目標とする。具体的には，各種マクロ経済統計の作成方法と統計の読み方を理解すること，及び財政政策と金融政策が経済に与える影響などについて主体的に考察できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
直観的な理解が進むように図表を使った説明を交えながら，スライドを用いた講義形式で経済政策に関するトピックを解説する。期末試験に対するフィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	マクロ経済と私たちの生活
2	経済政策のためのマクロ経済統計1	GDPの概念と作成方法
3	経済政策のためのマクロ経済統計2	物価指数の概念と作成方法
4	経済政策のためのマクロ経済統計3	失業率の概念と作成方法
5	労働政策1	失業の原因
6	労働政策2	失業への政策的対処
7	労働政策3	賃金の硬直性と失業
8	財政・金融政策1：IS-LMモデルの構築1	ケインジアンの交差図，乗数効果
9	財政・金融政策2：IS-LMモデルの構築2	IS曲線の導出
10	財政・金融政策3：IS-LMモデルの構築3	貨幣量の測定とコントロール
11	財政・金融政策4：IS-LMモデルの構築4	LM曲線の導出
12	財政・金融政策5：IS-LMモデルの応用1	財政政策の効果とクラウディング・アウト
13	財政・金融政策6：IS-LMモデルの応用2	金融政策の効果と流動性のわな
14	まとめと期末試験	まとめと期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の準備学習・復習を行うこと。準備学習・復習時間は，各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
濱秋純哉，2025年，『経済政策』新世社

【参考書】
1. N・グレゴリー・マンキュー，2024年，『マクロ経済学 I（第5版）』東洋経済新報社
2. ダロン・アセモグル, デヴィッド・レイブソン, ジョン・リスト，2019年，『ALLマクロ経済学』東洋経済新報社
3. 福田慎一・照山博司，2023年，『マクロ経済学・入門（第6版）』有斐閣

【成績評価の方法と基準】
期末試験（100%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の授業で学生が受け身の学習にならないように，授業中に簡単な質問に答えてもらうことがある。また，経済学の抽象的な概念の説明の際には，必ず具体例とセットで説明することで理解を促す。

【その他の重要事項】
本講義を履修するにあたり，経済政策I（あるいは経済政策論A）を履修済みのことが望ましい（ただし，需要曲線・供給曲線，余剰や弾力性の概念，及び余剰分析の方法などを学習済みなら，必ずしも履修済みの必要はない）。

【Outline (in English)】
Course Outline
Governments and central banks conduct macroeconomic policies such as fiscal policy and monetary policy, but for what purpose and on what basis do they implement such policies? This course considers these questions from a macroeconomic perspective using IS-LM model. The course also examines how various macroeconomic statistics such as GDP statistics, price indexes (consumer price indexes and GDP deflators), and unemployment rates are compiled as well as related measurement issues, and moreover, investigates employment issues in recent years.

Learning Objectives
At the end of the course, students are expected to acquire the ability to evaluate economic policies based on economics.

Learning Activities Outside of Classroom
Before and after each class meeting, students are expected to spend two hours each on preparation and review.

Grading Policy
The final grade will be determined as follows:
Term-end examination: 100%

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

Principles of Economics A

ＪＥＳＳ　ＤＩＡＭＯＮＤ

開講時期：春学期授業/Spring　　単位：2単位

その他属性：〈グ〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語で書かれた教科書を使い、経済学の応用的な概念を理解する。本講義では、教科書である Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson の ミクロ経済学とマクロ経済学の基本をカバーする理論Chapter5、Chapter6、Chapter8、Chapter9を取り上げます。講義は英語で行われる。
In this class we use an English textbook to study core ideas in microeconomics and macroeconomics. In particular, we cover chapters 5, 6, 8 and 9 of Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson.

【到達目標】
ミクロ経済学に関する基本的な知識を身につける。
The goal of this course is to introduce students to the foundations of microeconomics. In particular, we cover consumer theory, producer theory, trade and externalities.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」「DP7」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
スライドと板書を用いた講義形式の授業を行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。
The class is conducted in a lecture format using slides that can be downloaded. Regular homework assignments will be followed by feedback on students' performance.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Orientation	Class introduction and explanation.
2	Consumers and Incentives	The Buyer's Problem
3	Consumers and Incentives	The Demand Curve and Consumer Surplus
4	Consumers and Incentives	Demand Elasticities
5	Sellers and Incentives	The Seller's Problem
6	Sellers and Incentives	The Supply Curve and Producer Surplus
7	Sellers and Incentives	From The Short Run To The Long Run
8	Trade	The Production Possibilities Curve And The Basis for Trade
9	Trade	Trade Between Prefectures and Countries
10	Trade	Arguments Against Free Trade
11	Externalities and Public Goods	Externalities
12	Externalities and Public Goods	Private Solutions to Externalities
13	Externalities and Public Goods	Government Solutions to Externalities and Public Goods
14	Review and Final Exam	Review the class material and take the final exam.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題が定期的に与えられます。他に、毎週の授業と教科書の復習が必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
Homework assignment will be assigned regularly. Students are required to review the work covered in lecture and read the corresponding section of the textbook in addition to completing homework assignments. Preparation time of 2 hours, review time of 2 hours for a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】
Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson.

【参考書】
特になし。
None.

【成績評価の方法と基準】
宿題：30%
期末試験：70%
宿題はその週の授業の内容に基づいています。期末試験は、授業の内容を全てカバーします。
Homework: 30%
Final Exam: 70%
Homework assignments are based on that week's lecture. The final exam will covered the entire semester's material.

【学生の意見等からの気づき】
特になし。
None.

ECN100CA（経済学 / Economics 100）

Principles of Economics A

ＪＥＳＳ　ＤＩＡＭＯＮＤ

開講時期：春学期授業/Spring　｜　単位数：2単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses　｜　キャンパス：多摩 / Tama
毎年・隔年：　｜　科目主催学部：Economics
備考（履修条件等）：※Category【Enrollment 2025〜】 I . Introduction to Economics

その他属性：〈グ〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語で書かれた教科書を使い、経済学の応用的な概念を理解する。本講義では、教科書である Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson の ミクロ経済学とマクロ経済学の基本をカバーする理論Chapter5、Chapter6、Chapter8、Chapter9を取り上げます。講義は英語で行われる。
In this class we use an English textbook to study core ideas in microeconomics and macroeconomics. In particular, we cover chapters 5, 6, 8 and 9 of Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson.

【到達目標】
ミクロ経済学に関する基本的な知識を身につける。
The goal of this course is to introduce students to the foundations of microeconomics.In particular, we cover consumer theory, producer theory, trade and externalities.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
スライドと板書を用いた講義形式の授業を行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。
The class is conducted in a lecture format using slides that can be downloaded. Regular homework assignments will be followed by feedback on students' performance.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Orientation	Class introduction and explanation.
2	Consumers and Incentives	The Buyer's Problem
3	Consumers and Incentives	The Demand Curve and Consumer Surplus
4	Consumers and Incentives	Demand Elasticities
5	Sellers and Incentives	The Seller's Problem
6	Sellers and Incentives	The Supply Curve and Producer Surplus
7	Sellers and Incentives	From The Short Run To The Long Run
8	Trade	The Production Possibilities Curve And The Basis for Trade
9	Trade	Trade Between Prefectures and Countries
10	Trade	Arguments Against Free Trade
11	Externalities and Public Goods	Externalities
12	Externalities and Public Goods	Private Solutions to Externalities
13	Externalities and Public Goods	Government Solutions to Externalities and Public Goods
14	Review and Final Exam	Review the class material and take the final exam.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題が定期的に与えられます。他に、毎週の授業と教科書の復習が必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
Homework assignment will be assigned regularly. Students are required to review the work covered in lecture and read the corresponding section of the textbook in addition to completing homework assignments. Preparation time of 2 hours, review time of 2 hours for a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】
Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson.

【参考書】
特になし。
None.

【成績評価の方法と基準】
宿題：30%
期末試験：70%
宿題はその週の授業の内容に基づいています。期末試験は、授業の内容を全てカバーします。
Homework: 30%
Final Exam: 70%
Homework assignments are based on that week's lecture. The final exam will covered the entire semester's material.

【学生の意見等からの気づき】
特になし。
None.

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

Principles of Economics B

ＪＥＳＳ　ＤＩＡＭＯＮＤ

開講時期：秋学期授業/Fall　　単位：2単位

その他属性：〈グ〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語で書かれた教科書を使い、経済学の応用的な概念を理解する。本講義では、教科書である Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson の マクロ経済学の基本をカバーする Chapter23、Chapter24、Chapter25、Chapter26を取り上げます。講義を英語で行われる。
In this class we use an English textbook to continue our study of core ideas in macroeconomics. In particular, we cover chapters 23, 24, 25, and 26 of Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson.

【到達目標】
マクロ経済学に関する基本的な知識を身につける。
The goal of this course is to study the foundations of macroeconomics. In particular, we cover the labor market, credit markets, the monetary system and business cycle theory.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」「DP7」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
スライドと板書を用いた講義形式の授業を行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。
The class is conducted in a lecture format using slides that can be downloaded. Regular homework assignments will be followed by feedback on students' performance.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Orientation	Class introduction and explanation.
2	Employment and Unemployment	Measuring Employment and Unemployment
3	Employment and Unemployment	Measuring Employment and Unemployment
4	Employment and Unemployment	Wage Rigidity and Structural Unemployment
5	Employment and Unemployment	Cyclical Unemployment and the Natural Rate of Unemployment
6	Credit Markets	What Is the Credit Market?
7	Credit Markets	Banks and Financial Intermediation
8	Credit Markets	Banks and Financial Intermediation
9	The Monetary System	Money and Inflation
10	The Monetary System	The Central Bank
11	The Monetary System	The Central Bank
12	Short-Run Fluctuations	Economic Fluctuations and Business Cycles
13	Short-Run Fluctuations	Economic Fluctuations and Business Cycles
14	Review and Final Exam	Review the class material and take the final exam.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題が定期的に与えられます。他に、毎週の授業と教科書の復習が必 要です。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
Homework assignment will be assigned regularly. Students are required to review the work covered in lecture and read the corresponding section of the textbook in addition to completing homework assignments. Preparation time of 2 hours, review time of 2 hours for a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】
Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson.

【参考書】
特になし。
None.

【成績評価の方法と基準】
宿題:30%
期末試験:70%
宿題はその週の授業の内容に基づいています。期末試験は、授業の内容を全てカバーします。
Homework: 30%
Final Exam: 70%
Homework assignments are based on that week's lecture. The final exam will covered the entire semester's material.

【学生の意見等からの気づき】
特になし。
None.

ECN100CA（経済学 / Economics 100）

Principles of Economics B

ＪＥＳＳ　ＤＩＡＭＯＮＤ

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　単位数：2単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses　｜　キャンパス：多摩 / Tama
毎年・隔年：　｜　科目主催学部：Economics
備考（履修条件等）：※Category【Enrollment 2025〜】 I . Introduction to Economics

その他属性：〈グ〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語で書かれた教科書を使い、経済学の応用的な概念を理解する。本講義では、教科書である Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson の マクロ経済学の基本をカバーする Chapter23、Chapter24、Chapter25、Chapter26を取り上げます。講義を英語で行われる。
In this class we use an English textbook to continue our study of core ideas in macroeconomics. In particular, we cover chapters 23, 24, 25 and 26 of Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson.

【到達目標】
マクロ経済学に関する基本的な知識を身につける。
The goal of this course is to study the foundations of macroeconomics. In particular, we cover the labor market, credit markets, the monetary system and business cycle theory.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
スライドと板書を用いた講義形式の授業を行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。
The class is conducted in a lecture format using slides that can be downloaded. Regular homework assignments will be followed by feedback on students' performance.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Orientation	Class introduction and explanation.
2	Employment and Unemployment	Measuring Employment and Unemployment
3	Employment and Unemployment	Measuring Employment and Unemployment
4	Employment and Unemployment	Wage Rigidity and Structural Unemployment
5	Employment and Unemployment	Cyclical Unemployment and the Natural Rate of Unemployment
6	Credit Markets	What Is the Credit Market?
7	Credit Markets	Banks and Financial Intermediation
8	Credit Markets	Banks and Financial Intermediation
9	The Monetary System	Money and Inflation
10	The Monetary System	The Central Bank
11	The Monetary System	The Central Bank
12	Short-Run Fluctuations	Economic Fluctuations and Business Cycles
13	Short-Run Fluctuations	Economic Fluctuations and Business Cycles
14	Review and Final Exam	Review the class material and take the final exam.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題が定期的に与えられます。他に、毎週の授業と教科書の復習が必 要です。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
Homework assignment will be assigned regularly. Students are required to review the work covered in lecture and read the corresponding section of the textbook in addition to completing homework assignments. Preparation time of 2 hours, review time of 2 hours for a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】
Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson.

【参考書】
特になし。
None.

【成績評価の方法と基準】
宿題:30%
期末試験:70%
宿題はその週の授業の内容に基づいています。期末試験は、授業の内容を全てカバーします。
Homework: 30%
Final Exam: 70%
Homework assignments are based on that week's lecture. The final exam will covered the entire semester's material.

【学生の意見等からの気づき】
特になし。
None.

BAB200EA（基礎生物学 / Basic biology 200）

環境生態学

鞠子　茂

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　単位数：2単位
曜日・時限：水5/Wed.5

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生態学をベースとして環境と生物の関わり，生態系サービス，環境問題について講義し，人間社会と自然環境の調和について考究する。

【到達目標】
多種多様な環境問題の理解と解決に資する環境リテラシーを習得し、人類存続を可能とする規範やライフスタイルを大胆に発想する能力を獲得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP3に関連。　DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
対面授業を実施し，毎回配布資料をWebClassで事前配布。毎回，授業への参加，理解度を確認するためのレポートを課し，次の授業でフィードバック。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスとクマの出没問題から生態学を知る	授業の進め方を説明し，生態学とはどんな学問かを具体的に概説する
第2回	環境という言葉はなぜ生まれたのか	主体環境系の概念を解説し，環境要因の分類と性質について学ぶ
第3回	環境が生物の多様性をもたらすしくみ	環境の空間変動が生物と生態系の多様性をつくり出すしくみを解説する
第4回	数十年後の多摩キャンパスは冬でも緑の森となる	生態系が時間とともに変化するパターンとメカニズムについて解説する
第5回	雑草は本当は弱い存在だが戦略をもって生きている	生物の環境適応戦略について具体例を挙げて説明する
第6回	生態系から受け取る恩恵の経済価値は？	生態系サービスの基本と経済価値について学ぶ
第7回	人間の欲と無知が生む生態系からのしっぺ返し	生態系サービスの持続的享受の条件を考える
第8回	公害から学ぶべきこと	公害の原点である水俣病を例にして科学リテラシーの必要性について考える
第9回	外来生物は本当に悪者なのか	外来種問題の本質を追究し，その是非論について考究する
第10回	地球環境問題におけるウソとホント	地球環境問題の是非論について最新のデータをもとに論述する
第11回	地球温暖化が生物および生態系に与える影響	地球温暖化が生物と生態系に与える影響について最新の成果を紹介する
第12回	ヒトの論理と人間の論理	ヒト社会と人間社会の違いから現代社会を考える
第13回	人類の存続のためにすべきこと・試験範囲	環境生態学の視点から人類存続のためになすべきことを論じたあとに，試験範囲を説明する
第14回	試験・まとめと解説	授業全体のまとめをした後，試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
「生態学は環境問題を解決できるか? 」巌佐庸・伊勢武史著，（2020）

【成績評価の方法と基準】
〔配分〕期末試験（70 %），平常点（30 %）

【学生の意見等からの気づき】
分かりやすい配布資料の作成

【Outline (in English)】
In this course, students will learn the basics of environmental ecology, and should be able to acquire environmental-science literacy. Students will be expected to spend four hours for preparation and review. Grading policy: final exam (60%) and short-reports (40%).

SOS100EB（その他の社会科学 / Social science 100）

社会政策科学入門Ｂ

北浦　康嗣

開講時期：春学期授業/Spring　｜　単位数：2単位
曜日・時限：火1/Tue.1

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義の目的は，社会政策科学科の学生にとって必要になる経済学の視点を身につけることです。経済学の基礎理論は，主にミクロ経済学とマクロ経済学によって構成されます。本講義では，ミクロ経済学やマクロ経済学を将来的に履修する上で必要となる経済学の基礎や，これらの科目ではカバーできない分野に関して解説します。

【到達目標】
（1）身近な問題を取り扱う際に経済学的な考え方ができる。
（2）部分均衡の枠組みで経済学の基礎的な概念・理論についてグラフを活用して学ぶ。
（3）需要と供給，資源配分について理解を深める。
（4）「計算問題が苦手だ」という学生に対しても経済学が理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP5に関連。　DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
トレードオフや機会費用といった経済学的な発想にはじまり，価格の果たす役割に注目しながら，需要と供給や市場均衡，資源配分について理解を深めます。確認テストを返却する場合には解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス，効率性	経済学について議論します。
2	需要の理論（1）	支払意思額について図解します。
3	需要の理論（2）	消費者余剰について図解します。
4	供給の理論（1）	供給の理論を学んだ後，生産者余剰を図解します。
5	供給の理論（2）	生産者余剰の演習をします。
6	市場の理論（1）	社会的余剰を導出します。
7	市場の理論（2）	政府の介入について議論します。
8	市場の理論（3）	効率性・公平性について議論します。
9	中間試験	需要の理論，供給の理論および市場の理論について確認を行います。
10	市場の失敗（1）	市場の失敗について説明します。
11	市場の失敗（2）	市場の失敗について図解します。
12	外部性（1）	外部性について図解します。
13	外部性（2）	外部性について計算します。
14	外部性（3）	外部性の内部化について議論します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
とくに指定しません。

【参考書】
とくに指定しません。

【成績評価の方法と基準】
2回の試験（中間試験50％，期末試験50％，両方受験すること。）で評価します。試験でのノート・参考書などの持ち込みは一切不可です。

【学生の意見等からの気づき】
「板書中心の授業はありがたいです。」という意見を尊重して，今年度も板書中心の授業を行います。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to acquire an economics perspective. The basic theory of economics is mainly composed of “microeconomics” and “macroeconomics”. In this course, we will explain the basics of economics required for future studies of “microeconomics” and “macroeconomics”, and the areas that cannot be covered by these subjects.

SOS100EB（その他の社会科学 / Social science 100）

社会政策科学入門D

天本　哲史

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　単位数：2単位
曜日・時限：木2/Thu.2
その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は社会政策科学科の学生にとって必要となる法学の基礎を学ぶとともに、法と政策との関係も学びます。前半には法学の基礎を学び、後半では法と政策の関係を学びます。

【到達目標】
・法学の基礎的な知識を身につける。
・法学の特徴について説明できる。
・法学の知識を基礎にして、社会政策を検討できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP5に関連。　DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この授業は講義形式で実施します。学生にはリアクションペーパーを提出してもらい、次の授業でその内容に対するコメントをします。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の目的・法とは何か	この授業の意義と授業進行を解説する。法の社会規範としての特質や法の目的等を学びます。
第2回	法の発展	近代法の発展や日本法への継受等を学びます。
第3回	法と裁判	裁判制度の意義や裁判の流れ等を学びます。
第4回	法源	裁判の基準となる法とは何かを学びます。
第5回	法の適用と解釈	法的三段論法や訴訟手続等を学びます。法の解釈と方法を学びます。
第6回	国家と法	国民主権、三権分立等を学びます。
第7回	統治と法①　三権分立、立法権と国会	立法権とそれを担う国会等を学びます。
第8回	統治と法②　行政権と内閣	行政権とそれを担う内閣等を学びます。
第9回	統治と法③　司法権と裁判所	司法権とそれを担う裁判所等を学びます。
第10回	人権と法①　人権と限界	人権とは何か、人権の享有主体、人権の限界等を学びます。
第11回	人権と法②　人権の種類	幸福追求権、法の下の平等、自由権、社会権等を学びます。
第12回	社会政策①　社会保障と法	社会法の意義、社会保障法の体系等を学びます。
第13回	社会政策②　労働と法	労働法の体系等を学びます。
第14回	社会政策③　環境と法	環境法の体系等を学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。

【参考書】
授業内で適宜紹介しますが、差し当たり末川博編『法学入門』（有斐閣、第6版補訂版、2014）を挙げます。

【成績評価の方法と基準】
レポート（86％)、平常点（14％）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
講義内容が難しいという意見がありましたので、解説を多くすることにより平易な内容にするようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
連絡、授業資料や課題提出等はHoppiiで行いますので、PC、タブレット、スマートフォン等の情報端末を準備してください。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
The aim of this lecturer is to learn the basics of law, as well as the relationship between law and policy.
【到達目標（Learning Objectives）】
・Students acquire basic knowledge of law.
・Students can explain the characteristics of law.
・Students can consider social policy based on their knowledge of law.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Your overall grade in the class will be decided based on the following Reports : 86%, Usual performance score : 14%

ECN200EB, ECN200ED（経済学 / Economics 200 , 経済学 / Economics 200）

ミクロ経済学

北浦　康嗣

開講時期：春学期授業/Spring　｜　単位数：2単位
曜日・時限：月3/Mon.3

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
（1）ミクロ経済学の基礎的な概念・理論についてグラフを活用して学ぶ。
（2）一般均衡分析の枠組みで需要と供給，資源配分について理解を深める。
（3）「計算問題が苦手だ」という学生に対しても経済学が理解できる。

【到達目標】
（1）身近な問題を取り扱う際にミクロ経済学的な考え方ができる。
（2）ミクロ経済学の重要な基礎用語を正しく説明できる。
（3）数値計算によって効用最大化問題が解ける。
（4）一般均衡の枠組みで効率性・公平性について議論できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP5・DP6・DP11に関連。　DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
トレードオフや機会費用といった経済学的な発想にはじまり，価格の果たす役割に注目しながら，需要と供給や市場均衡，資源配分について理解を深めます。
授業の初めに,前回の授業での疑問・質問からいくつか取り上げ,全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス，部分均衡と一般均衡の違い	経済学の発想法を紹介します。（機会費用、比較優位など。）
2	経済学で必要な数学の復習	効用最大化問題を解くために必要な数学の復習を行います。
3	家計の行動（1）	効用最大化問題について解説します。
4	家計の行動（2）	予算制約式について図解します。
5	家計の行動（3）	効用について図解します。
6	家計の行動（4）	無差別曲線について図解します。
7	家計の行動（5）	最適消費点について図解します。
8	所得効果	所得効果について図解します。
9	価格効果	価格効果について図解します。
10	効率性と公平性	一般均衡理論の基づいて効率性と公平性に関する議論をします。
11	厚生経済学の定理	効率性・公平性について議論します。
12	純粋交換経済（1）	純粋交換経済について説明します。
13	純粋交換経済（2）	純粋交換経済について図解します。
14	純粋交換経済（3）	純粋交換経済で，厚生経済学の定理を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
とくに指定しません。

【参考書】
とくに指定しません。

【成績評価の方法と基準】
2回の試験（中間試験50％　期末試験50％、両方受験すること。）で評価します。試験でのノート、参考書などの持ち込みは一切不可です。試験に関しては，Hoppii上でお知らせします。必ず，毎回，Hoppiiを確認するように心がけてください。

【学生の意見等からの気づき】
「板書中心の授業はありがたいです。」という意見を尊重して，今年度も板書中心の授業を行います。

【Outline (in English)】
The objective of the course is to provide the students with the basic understanding and tools of microeconomics. Students who complete this course will be able to understand:
(1) the basic concepts of scarcity and opportunity cost;
(2) the forces of demand and supply and how they interact to determine an equilibrium price;
(3) the theory of consumer behavior.
This course is evaluated by only two exams: a midterm exam (50%) and a final exam (50%).

ECN200EB, ECN200ED（経済学 / Economics 200 , 経済学 / Economics 200）

マクロ経済学

北浦　康嗣

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　単位数：2単位
曜日・時限：月3/Mon.3

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業の目的は，マクロ経済学的な問題について概観することです。とくに，国民所得の決定や雇用（失業）について学びます。また，財政政策や金融政策など政府の役割についても議論します。

【到達目標】
（1）日常の経済問題について経済学的な発想ができる。
（2）簡単な数値計算によって均衡国民所得や政府支出増大の効果などが導出できる。
（3）45度線分析を用いて財政政策の有効性を議論できる。
（4）IS-LM分析を用いて，財政政策と金融政策の効果を議論できる。
（5）AD-AS分析を用いて，失業、インフレ・デフレについて説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP5・DP6・DP11に関連。　DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
前半では，とくに国民所得の概念を中心として財市場の分析を行います。財政政策の有効性について議論します。後半，財市場と貨幣市場を同時に分析して財政政策と金融政策の効果を確認します。さらに労働市場に注目して総需要曲線や総供給曲線を用いた分析を行います。
授業の初めに,前回の授業での疑問・質問からいくつか取り上げ,全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス，ミクロ経済学とマクロ経済学の違い	経済学の発想法を紹介します。
2	GDP	GDPについて解説します。
3	三面等価の原則	三面等価の原則について解説します。
4	消費の決定	財市場における需要の構成項目として大事な消費について解説します。
5	投資の決定	財市場における需要の構成項目として大事な投資について解説します。
6	財市場の分析－IS曲線の導出	財市場の需要と供給を等しくさせる国民所得と利子率の関係を示すIS曲線を導出します。
7	貨幣市場	貨幣市場の需要と供給を取り上げ，利子率の決定を解説します。
8	貨幣市場の分析－LM曲線の導出	貨幣市場の需要と供給を等しくさせる国民所得と利子率の関係を示すLM曲線を導出します。
9	IS-LM分析	IS曲線とLM曲線を用いて，均衡国民所得と均衡利子率を導出します。
10	IS-LM分析と財政・金融政策（1）	財政政策の効果についてIS-LM曲線を用いて図解します。
11	IS-LM分析と財政・金融政策（2）	金融政策の効果についてIS-LM曲線を用いて図解します。
12	労働市場	労働市場の均衡について古典派とケインズ派を解説します。
13	物価水準の決定－総需要と総供給（1）	総需要曲線と呼ばれるAD曲線を定義した後，導出します。
14	物価水準の決定－総需要と総供給（2）	総供給曲線と呼ばれるAS曲線を定義した後，導出します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
とくに指定しません。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
2回の試験（中間試験50％　期末試験50％、両方受験すること。）で評価します。試験でのノート、参考書などの持ち込みは一切不可です。試験に関しては，Hoppii上でお知らせします。必ず，毎回，Hoppiiを確認するように心がけてください。

【学生の意見等からの気づき】
「板書中心の授業はありがたいです。」という意見を尊重して，今年度も板書中心の授業を行います。

【Outline (in English)】
The objective of the course is to provide the students with the overview of macroeconomic issues: the determination of output, employment, unemployment, interest rates. Students who complete this course will be able to understand:
(1) how the aggregate levels of production, employment, income and prices are determined in a market driven global economy;
(2) the role of fiscal and monetary policy.
This course is evaluated by only two exams: a midterm exam (50%) and a final exam (50%).

ECN200EB（経済学 / Economics 200）

地域産業論 I

加藤　寛之

開講時期：春学期授業/Spring　｜　単位数：2単位
曜日・時限：月4/Mon.4
その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
様々な地域産業の具体例を紹介しつつ、地域産業を考える上で必要な眼（概念・理論）を習得し、受講者各自が地域産業の活性化に関われるようになることをテーマとする。

【到達目標】
農業や製造業、サプライヤーシステムなど、現代の地域産業で生じている国内での現状と課題を認識し、一方で国境を越えて地域産業をとらえる視点を身につけることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP3・DP6・DP7に関連。　DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
毎回授業前日までに、授業支援システムに教材と簡単な課題をアップします。課題は授業支援システム上で提出し、締切を設けます。締切は授業日です。
最初の数回は授業のやり方に慣れるまでの移行期間とし、課題提出に遅延を認めます。締切後でも授業支援システムに提出できるように設定しておきます。
期末試験は実施せず、課題とレポートで評価します。
フィードバックは課題ごとにコメントします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ランチェスター戦略・グルディス・討議	能力・資源で勝るもの勝つ方法・グルディス・討議
第2回	産業の立地	チューネンの農業立地論、ウェーバー・アロンゾの工業立地モデル
第3回	ものづくりは設計情報の転写	プロセス分析
第4回	ランチェスター戦略2	様々な事例
第5回	映画スーパーの女	スーパー立て直しの実話
第6回	1.企業と市場との関係2.原価企画3.環境コストマネジメント4.ライフサイクル・コスティング5.ベンチマーキング	1.企業と市場との関係2.原価企画3.環境コストマネジメント4.ライフサイクル・コスティング5.ベンチマーキング
第7回	1.価格決定2.ABC/ABM 3.品質とコストの関係	1.価格決定2.ABC/ABM 3.品質とコストの関係
第8回	日本の農業の問題点 製造業化する農業・グルディス・討議	ベルグアース・グルディス・討議
第9回	第三セクターアウガの失敗	第三セクターアウガの失敗
第10回	稼ぐまち	稼ぐまちになるには
第11回	縮小ニッポンの衝撃 夕張市	縮小ニッポンの衝撃 鈴木直道元夕張市長
第12回	島根県の人口流出	関係人口
第13回	撤退戦の殿（しんがり）1．3割自治と地方交付税と国庫支出金（補助金）2．財政再生団体となった夕張市が借金を返済できる仕組み3．夕張市のように自主財源3割にも満たぬ自治体は実は数多い4．福井県の事例5．山口県の事例6．ソフトな予算制約7．学んでおいた方が望ましいいくつかの概念8．ポンチ絵で因果関係を整理してみよう	撤退戦の殿（しんがり）1．3割自治と地方交付税と国庫支出金（補助金）2．財政再生団体となった夕張市が借金を返済できる仕組み3．夕張市のように自主財源3割にも満たぬ自治体は実は数多い4．福井県の事例5．山口県の事例6．ソフトな予算制約7．学んでおいた方が望ましいいくつかの概念8．ポンチ絵で因果関係を整理してみよう
第14回	国境を越えるクラスター同士の連携・グルディス・討議	東アジアのハードディスクドライブ産業・グルディス・討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず、プリントを配布します。

【参考書】
村上 英樹 (著), 高橋 望 (著), 加藤 一誠 (著), 榊原 胖夫 (著)『航空の経済学』ミネルヴァ書房
伊藤 正昭 (著)『新地域産業論―産業の地域化を求めて』学文社
中村剛治郎編(2008)『基本ケースで学ぶ地域経済学』有斐閣.

【成績評価の方法と基準】
1. 授業時間内に行われる毎回のミニテストの点数の累計点55％。
2. 授業時間内に行われる毎回のディスカッションでの発言の点数の累計点15％。
3. 授業後に課される課題の点数の累計点10％。
4. 期末試験期間に行われる期末試験の点数20％。

事前に予習動画を視聴してくることを前提に、毎回の授業でミニテストを行います。ミニテスト後に解説を行い、解説を踏まえた上でディスカッションを行います。毎回簡単な課題が課され、期末試験も実施します。

【学生の意見等からの気づき】
事例と理論の関わりを理解できるよう，講義を進めます。毎回課題を課しますが、復習になる（期末試験対策になる）という意見が多いです。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて，PCによるプレゼンテーション形式の講義を行います.

【その他の重要事項】
授業開始は学年暦通りです。最初は授業の進め方に試行錯誤が続きますが、どうかお付き合いください。
授業前日までに毎回の教材と簡単な課題を授業支援システム上にアップロードします。課題には提出締切を設けます。最初の数回は試行錯誤が続きますので、提出遅延をしても提出できるように設定しておきます。

【Outline (in English)】
The theme of this course is to introduce specific examples of various regional industries and to enable each participant to acquire the eyes (concepts and theories) necessary to think about regional industries and to become involved in the revitalization of regional industries.

SES100EB（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 100）

サステイナビリティ論Ａ

髙橋　洋

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　単位数：2単位
曜日・時限：水3/Wed.3

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業の目的は、「サステイナビリティ：持続可能性」に関係する社会問題を総覧することにある。社会政策科学科のサステイナビリティコースの入門的な選択必修科目として、コースの基盤となる知識を習得する。サステイナビリティの基礎概念について学んだ上で、環境問題を中心にサステイナビリティに関わる具体的事例を検討する。

【到達目標】
１：サステイナビリティの基礎概念や背景を理解する。
２：環境問題を中心にサステイナビリティに関わる社会問題の具体的事例を考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP3・DP6・DP7に関連。　DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　授業はパワーポイントを使った講義を中心に進める。パワーポイントのPDFスライドを、授業の２日前までにWebClass上に掲載するので、一読の上、印刷するなどして授業に持参すること。その上にノートを記すことをお勧めする。
　講師は授業中に様々な質問をする。多くの質問は講義スライドに明記してあるので、事前に考えてくること。受講生は積極的に発言することが求められ、こちらから指名することもある。授業で扱う様々な課題に関心を持ち、自主的に調べることも重要である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の紹介	シラバスの説明：授業の内容、進め方、評価方法
第2回	サステイナビリティとは何か？	サステイナビリティの定義、考え方
第3回	サステイナビリティの概念	サステイナビリティの専門的・発展的概念
第4回	自然環境のサステイナビリティ	環境問題の構図と分類、公共財と負の外部性
第5回	四大公害病と環境庁の設置	水俣病、自治体の公害防止条例、環境庁の設置
第6回	気候変動問題と気候変動枠組条約	気候変動問題の構図と要因、緩和と適応、気候変動枠組条約とパリ協定
第7回	脱炭素と再生可能エネルギー	カーボン・ニュートラル、再生可能エネルギー
第8回	グループ討論	気候変動問題に関するグループ討論
第9回	経済活動のサステイナビリティ	環境経営、ESG投資
第10回	社会生活のサステイナビリティ	社会保障、財政、教育
第11回	調査発表Ⅰ	（発表8分＋討論10分）×5名
第12回	調査発表Ⅱ	（発表8分＋討論10分）×5名
第13回	サステイナビリティの展望	今後の課題と展望
第14回	授業の総括	授業のまとめ、期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
毎回参照する教科書は特にない。講義用スライドは、学習支援システム上に毎週授業2日前に掲載する。

【参考書】
・大塚直他『18歳からはじめる環境法 第２版』(法律文化社、2018年)
・白井信雄『持続可能な社会のための環境論・環境政策論』（大学教育出版、2020年）
・デイリー、H.『持続可能な発展の経済学』（みすず書房、2005年）
・森晶寿他『環境政策論』(ミネルヴァ書房、2014年)

【成績評価の方法と基準】
以下の4つの要素から100点満点で評価する。
１：授業貢献点＝15点（授業での発言、質問等）
２：授業内アンケート＝10点
３：リアクションペーパー＝8点×1回以上（調査発表は18点満点）
４：期末試験＝67点

【学生の意見等からの気づき】
24年度までの授業において、学習支援システム上に受講生に意見を記入してもらう発言方法について、他の学生の多様な意見を聞ける、得点が付与されるため発言意欲がわくなど、評価が高かった一方で、一度の記入者が多い結果、得点の対象とならないことがあることへの不満が寄せられていた。25年度には、授業支援アシスタントの協力を得ることで得点対象を広げることができた。これを26年度も継続する。

【学生が準備すべき機器他】
WebClassに事前にアクセスし、各回の授業の告知を閲覧し、関連資料をダウンロードする。WebClassの機能を授業中に使うため、スマートフォン等でアクセスできるようにする。

【その他の重要事項】
　担当教員は、内閣官房での2年半の実務経験がある他、内閣府、経済産業省、外務省、農林水産省、大阪府・市などの審議会の委員として、気候変動政策・再生可能エネルギー政策の形成に関与してきた。本講義の中では、それら政策実務の知見を適宜紹介していく。

【Outline (in English)】
This is a lecture course about the notion of sustainability. You will be able to understand the basic notion and background of sustainability, and discuss concrete cases of environmental problems based on such a notion. You will be graded by such criteria as class-participation, a reaction paper, and the final exam. Your study time will be about two hours for each class.

SES200EB（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 200）

環境政策論Ⅰ

髙橋　洋

開講時期：春学期授業/Spring　｜　単位数：2単位
曜日・時限：水4/Wed.4

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業の目的は、環境問題の構図を理解し、それへの公的対処行動である環境政策を学ぶことにある。現代において環境問題は、景観など身近な問題から地球規模の気候変動問題まで多様であるが、政府による環境政策は一般に十分と言えない場合が多い。学際的な観点から、そのような政策課題にアプローチし、環境政策のあり方を考えていく。
環境政策論Ⅰで理論を中心に学び、環境政策論Ⅱでは個別の環境問題を検討するため、Ⅰの後にⅡを履修することを強くお勧めする。

【到達目標】
１：環境問題の構図や背景を理解する
２：環境問題に対する公共政策の基礎概念を習得する
３：環境問題への具体的な対処策を考察し、提案する能力を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP3・DP6・DP7に関連。　DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業はパワーポイントを使った講義を中心に進める。パワーポイントのPDFスライドを、授業の２日前までにWebClass上に掲載するので、一読の上、印刷するなどして授業に持参すること。その上にノートを記すことをお勧めする。
講師は授業中に様々な質問をする。いくつかの質問は講義スライドに明記してあるので、事前に予習してくること。受講生は質問への回答をWebClassのチャット欄に記入することが求められ、それをその場で紹介することで議論や理解を深める。第12回授業では、環境問題をテーマにしたグループ討論を行う。また、リアクションペーパーにはコメントを付けて返信する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の紹介	シラバスの説明、自由討論
第2回	環境問題の定義と分類	環境と環境問題の定義、環境問題の分類
第3回	環境問題の具体例と歴史的変遷	産業公害型環境問題、都市生活型環境問題、地球環境問題
第4回	「市場の失敗」から考える環境問題	公共財・コモンプール財・自由財、負の外部性と外部費用
第5回	持続可能性と環境正義	エコロジーの概念、定常経済論、持続可能性の概念、環境正義の概念
第6回	公共政策の基礎概念	公共政策の定義、公共政策論の基礎概念、政策分析論と政策過程論
第7回	環境政策の原則	未然防止原則と予防原則、汚染者負担原則と拡大生産者責任原則
第8回	環境政策の手法	規制的手法と経済的手法、合意的手法、情報的手法
第9回	環境政策の主体	環境省、経済産業省、環境NGO、地方自治体
第10回	環境法の体系と環境訴訟	環境基本法、環境権、国際環境法、環境訴訟
第11回	国際経済における環境問題	多国籍企業と汚染逃避仮説、公害輸出、自由貿易と環境保護
第12回	グループ討論	特定のテーマについてグループ単位で討論
第13回	環境政策の展望	21世紀の環境問題と環境政策
第14回	授業の総括	授業のまとめ、授業内期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
毎回参照する教科書は特にない。講義用スライドは、学習支援システム上に毎週授業2日前に掲載する。

【参考書】
・大塚直他『18歳からはじめる環境法 第２版』(法律文化社、2018年)
・環境経済・政策学会編『環境経済・政策学の基礎知識』（有斐閣、2006年）
・環境省編『環境・循環型社会・生物多様性白書』各年版
・倉阪秀史『環境政策論 第3版』(信山社、2015年)
・デイリー、H.『持続可能な発展の経済学』（みすず書房、2005年）
・松下和夫『環境政策学のすすめ』（丸善出版、2007年）
・森晶寿他『環境政策論』(ミネルヴァ書房、2014年)

【成績評価の方法と基準】
以下の4つの要素から100点満点で評価する。
１：授業貢献点＝20点（授業での発言、質問等）
２：授業内アンケート＝10点
３：リアクションペーパー＝8点
４：期末試験＝62点（自筆ノートのみ持ち込み可）

【学生の意見等からの気づき】
授業内で発言機会が多く、それに授業貢献点という誘因が与えられていること、リアクションペーパーがコメント付きの返信がなされることなどの評価が高く、これらは継続したい。

【学生が準備すべき機器他】
WebClassに事前にアクセスし、各回の授業の告知を閲覧し、資料をダウンロードする。WebClassのチャットやアンケートの機能を授業中に使うため、パソコンやスマートフォン等でアクセスできるようにする。

【その他の重要事項】
担当教員は、内閣官房での2年半の実務経験がある他、内閣府、経済産業省、外務省、農林水産省、大阪府・市などの審議会の委員として、気候変動政策・再生可能エネルギー政策の形成に関与してきた。本講義の中では、それら政策実務の知見を適宜紹介していく。

【Outline (in English)】
This course teaches basic knowledges and ways of thinking of environmental problems and environmental policies to solve them. You will be able to understand mechanism and background of environmental problems, master concepts of environmental policies, and propose concrete solutions. You will be graded by such criteria as class participation, a reaction paper, and the final exam. Your study time will be about two hours for each class.

SES200EB（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 200）

環境政策論 II

髙橋　洋

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　単位数：2単位
曜日・時限：水4/Wed.4

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業の目的は、環境政策論Ⅰを踏まえ、様々な環境問題の事例を取り上げ、それへの政策的対処策を考察することにある。高度経済成長時代の公害問題、廃棄物問題、気候変動問題などを取り上げ、それぞれの環境問題の構図を理解するとともに、その政策過程を踏まえ、対処策を実践的に議論していく。
環境政策論Ⅰで理論を中心に学び、それを前提に環境政策論Ⅱでは個別の環境問題を検討するため、Ⅱを履修する前にⅠを履修することを強く勧める。

【到達目標】
１：代表的な環境問題の事例について、理論を踏まえつつ実践的に理解する
２：気候変動問題などに対して、具体的な対処策を提案する能力を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP3・DP6・DP7に関連。　DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業はパワーポイントを使った講義を中心に進める。パワーポイントのPDFスライドを、授業の２日前までにWebClass上に掲載するので、一読の上、印刷するなどして授業に持参すること。その上にノートを記すことをお勧めする。
教員は授業中に様々な質問をする。多くの質問は講義スライドに明記してあるので、事前に予習してくること。受講生は質問への回答をWebClassのチャット欄に記入することが求められ、それをその場で紹介することで議論や理解を深める。第12回授業では、エネルギー・気候変動をテーマにしたグループ討論を行う。また、リアクションペーパーにはコメントを付けて返信する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の紹介	シラバスの説明：授業の内容、進め方、評価方法
第2回	公害問題としての水俣病	公害の定義、水俣病の被害、水俣病訴訟
第3回	公害問題の構図と環境基準	環境基準、水質汚濁防止法、大気汚染防止法、経済調和条項
第4回	環境庁設置の政治過程	省際紛争と総合調整、革新自治体と公害防止条例、公害国会
第5回	自然環境保護と生物多様性	自然公園制度、自然の権利、生物多様性条約
第6回	廃棄物問題と循環型社会	産業廃棄物と一般廃棄物、循環型社会と3R、産廃処理事業と豊島事件
第7回	都市における環境問題	都市計画、都市緑化、交通環境政策、省エネルギー
第8回	気候変動問題と気候変動枠組み条約	気候変動の被害、温室効果ガスと化石燃料、パリ協定、気候変動訴訟
第9回	エネルギー転換と脱炭素	カーボンプライシング、グリーン成長、デカップリング、脱炭素宣言
第10回	原子力発電と東京電力福島第一原発事故	国策民営と立地交付金、放射能汚染と避難、事故責任と損害賠償
第11回	再生可能エネルギーと地域社会	再エネと地域経済、メガソーラーの景観破壊問題、営農型太陽光発電
第12回	グループ討論	エネルギー・気候変動問題に関するテーマを取り上げ、グループ別に討論
第13回	環境政策の展望	グループ討論のまとめ、21世紀の環境問題
第14回	授業の総括	授業のまとめ、授業内期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
毎回参照する教科書は特にない。講義用スライドは学習支援システム上に毎週授業2日前に掲載する。

【参考書】
・大沼あゆみ・岸本充生『汚染とリスクを制御する』(岩波書店、2015年)
・亀山康子『新・地球環境政策』（昭和堂、2010年）
・環境省編『環境白書』各年版
・倉阪秀史『環境政策論 第3版』(信山社、2015年)
・高橋洋『エネルギー政策論』（岩波書店、2017年）
・新澤秀則・高村ゆかり『気候変動政策のダイナミズム』（岩波書店、2015年）
・政野淳子『四大公害病』（中公新書、2013年）
・森晶寿他『環境政策論』(ミネルヴァ書房、2014年)
・鷲田豊明・笹尾俊明編『循環型社会をつくる』（岩波書店、2015年）

【成績評価の方法と基準】
以下の4つの要素から100点満点で評価する。
１：授業貢献点＝24点（授業での発言、質問等）
２：授業内アンケート＝10点
３：リアクションペーパー＝8点（A4・1枚程度）
４：期末試験＝58点（自筆ノートのみ持ち込み可）

【学生の意見等からの気づき】
授業内で発言機会が多く、それに授業貢献点という誘因が与えられていること、リアクションペーパーがコメント付きの返信がなされることなどの評価が高く、これらは継続したい。24年度は授業の最後に時間が足りなくなりがちな点を改善したい。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムに事前にアクセスし、各回の授業の告知を閲覧し、資料をダウンロードする。

【その他の重要事項】
担当教員は、内閣官房での2年半の実務経験がある他、内閣府、経産省、外務省、農林水産省、大阪府・市などの審議会の委員として、気候変動政策・再生可能エネルギー政策の形成に関与してきた。本講義の中では、それら政策実務の知見を適宜紹介していく。

【Outline (in English)】
This course discusses cases of environmental problems and related policies based on Environmental Policy 1. You will be able to understand mechanism and background of various cases of environmental problems, such as environmental pollutions and climate change, and propose concrete solutions to them practically. You will be graded by such criteria as class participation, a reaction paper, and the final exam. Your study time will be about two hours for each class.

SOC100EB（社会学 / Sociology 100）

グローバル市民社会論Ａ

岡野内　正

開講時期：春学期授業/Spring　｜　単位数：２単位
曜日・時限：水4/Wed.4

その他属性：〈実〉〈Ｓ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
男女ペアの近代家族に基づく国民経済の自立と国民国家の独立に基づいた諸国家（ネイション）の連合体が、近代化を達成して人類を幸せに導くというのが、20世紀の人類の夢であった。その夢はかなわず、21世紀の人類の大多数は、テロリストを次々に生み出す人格形成の危機、女性への構造的暴力、激しい民族対立、地球規模の環境破壊で苦しんでいる。この人類社会の危機を乗り越える新しい夢として、グローバル市民社会という考え方が提唱されてきた。この授業の目的は、この考え方の概略をつかむことだ。

【到達目標】
人類社会を常に男女ペアの近代家族に基づく国民国家の枠組みから捉えようとするやり方を、近代家族イデオロギーに基づく方法論的ナショナリズム、という。一人当たりの生産物の量が絶えず増加することで人類社会が幸福になれるという考え方を、近代化論という。20世紀に支配的だったこの二つの考え方の意義と限界を明確につかむこと。そのうえで、グローバル市民社会論の意義と限界について議論できるようになることが、この授業の目標だ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP3・DP6・DP7 に関連。
　DP についてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-202003251814O7/

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　グローバル市民社会ついての担当教員の新著を精読しつつ、今日の学問状況を批判的に検討する。受講生は全員が、毎回の授業前までに、「授業ノート」を作成してくること。「授業ノート」は、テキストの該当箇所を読んで、①わかったこと、②わからなかったこと、③調べてみたこと、④自分なりに考えてみたこと、あるいはみんなで話し合ってみたいこと、を書いてください。さらに、授業後には、⑤授業中の分科会の議論の論点、講師の説明、それについて授業後に自分で考えたこと、を書いてください。授業前半では少人数分科会で全員が各自の授業日誌を共有しながら議論し、後半では、少人数分科会の報告係になった人が分科会の状況を報告し、講師を含む全員で議論することで、どうしてもわからない問題を解決し、調べてきたことを共有し、さらにより深い問いをもてるようにする。
フィードバックは、授業時間中および前後での質問時間で、そして、オフィスアワーやメールでの直接連絡を通じて密接に行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	近代家族イデオロギー、方法論的ナショナリズム、近代化論、グローバル市民社会論の概略。授業の進め方についての説明。
2	グローバル化とプレカリアート	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論
3	プレカリアートが増える理由	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論
4	プレカリアートになるのは誰か	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論
5	移民論	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論
6	労働、仕事、時間圧縮	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論
7	プレカリアート増加の政治的帰結	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論
8	ガイ・スタンディングが提起する政策的展望	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論
9	グローバル市民社会とベーシック・インカム（序論）	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論。
10	ベーシックインカムのナミビア実験の概要と結果	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論。
11	ナミビア実験後の展望と現状	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論。
12	ブラジルとインドでのベーシックインカム実験について	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論。
13	アラスカとイランについて	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論。
14	ウクライナ、ガザ、…での戦争とグローバル市民社会	分科会と全体討論による、受講生と教員を交えた議論。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ガイ・スタンディング著、岡野内正監訳『プレカリアート』法律文化社、2016年、3000円＋税。
岡野内正他著訳『グローバル・ベーシック・インカム入門』明石書店、2016年、2000円＋税。

【参考書】
岡野内正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』法律文化社、2021年、3300円+税。
岡野内正研究室のサイト（https://takunseminar.ws.hosei.ac.jp/wp/）にある諸論文。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業参加を前提に、授業ノートの5項目について、20%ずつ100%で評価します。何らかの事情で参加できなかった場合は、⑤の項目でその理由とともに、さらに別の資料を用いて調査し、わかったこと、考えたことを書いてください。具体的な問題について、事実に基づいて批判的に考える力を身につけるのが授業のねらいなので、考察のもとになる資料の書誌情報がなかったり、項目だけが書かれていて具体的な内容のある文章になっていない場合は、評価の対象にならないので注意してください。

【学生の意見等からの気づき】
一回限りの試験ではなく、毎回の授業の積み重ねを評価してほしいという要望に応えて、「授業ノート」での評価を導入してみました。

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」に該当。国際開発・人権NGOでの長年の活動経験と観察を踏まえて、授業での討論を展開します。

【Outline (in English)】
A kind of seminar class on the issues of Global Civil Society. Participants are required to read the textbook on the issues.　Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the main issues on the subjects from the sociological perspective.
[Learning Objectives] At the end of the course, students are expected to think about academic issues critically and enjoy discussing on them.
[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
[Grading Criteria /Policies] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Before-class reports in HOPPI: 40%、After-class reports in HOPPI: 30%、in class contribution: 30%.

SOC100EB（社会学 / Sociology 100）

グローバル市民社会論Ｂ

中筋　直哉

開講時期：春学期授業/Spring　｜　単位数：2単位
曜日・時限：木1/Thu.1

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマ「グローバルでも市民社会でもなく：20世紀の地域社会学再読」
今、21世紀に喧伝されたグローバル化も市民社会も揺らいでいる、輝きを失っている。それには理由があり、まじめに反省しないと、グローバル化も市民社会もただ私たちを苦しめるだけだろう。この講義では20世紀後半の国民国家の枠組みの中で形成された、日本の地域社会学の基本問題を批判的に読み直すことを通して、現代の私たちの社会の未来を考える手がかりを探る。

【到達目標】
・日本の地域社会とくに政策的側面を、社会学を使って考える基本を学ぶ。
・日本の地域社会の将来を、社会学を使って考える手がかりをつかむ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP3・DP6・DP7に関連。　DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
対面で実施。学習支援システムで講義資料を事前配布する。質疑応答は対面時間内と学習支援システムを使って行う。課題については授業中に、期末試験については試験後に、学習支援システムを使って受講者全体に対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目的と構成の説明
第2回	基礎知識1	21世紀のグローバル市民社会の幻影の終焉
第3回	基礎知識2	20世紀の日本の都市社会学・地域社会学の概略
第4回	町内会1	この国の美しい伝統、ではない
第5回	町内会2	コミュニティ・ソリューション、ではない
第6回	住民運動1	社会運動の下位類型の1つ、ではない
第7回	住民運動2	意識高い系が住民運動、ではない
第8回	グループディスカッション	グローバル市民社会の何が問題か、何が虚偽なのか？
第9回	重化学工業都市の地域社会構造1	工業の歴史社会学的意味
第10回	重化学工業都市の地域社会構造2	地域社会の構造分析の没落
第11回	女性の地域社会活動1	生活という言葉の盛衰
第12回	女性の地域社会活動2	女性の少数者性と多数者性
第13回	結論1	反グローバル化？ 閉じた国民社会の復活？
第14回	結論2	地域社会を／から開くとは政策としてどうすることなのか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内容の予習復習の上「今日の課題」に取り組んで学習支援システムに提出することが必要。また授業の中盤にA4×1 枚程度のリポートを課す。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定しない。

【参考書】
森岡清志編『新・地域の社会学』(有斐閣)。講義内容を深く理解する上で有用。

【成績評価の方法と基準】
リポートの出来が35％ (提出しないとD)、論述式の期末試験が55％。「今日の課題」の総合評価が10％。期末試験では、フランスへの理解を踏まえたわが国の地域社会に関する自分の考えを論理的に表明できることがAの条件。

【学生の意見等からの気づき】
事例の紹介を画像などを用いて具体的に行う。ただしスライドショー形式の資料は使わない。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムへのアクセスが必須。受動的に聴講するだけでなく「自分のノート」を作ることが重要。

【その他の重要事項】
社会学科「都市と地域の社会学」ⅠⅡと重なる部分がある。合わせて受講するとより専門性が深まるのでぜひ勧めたい。

【Outline (in English)】
(Course outline)
Theme: "Neither Globalization nor Civil Society: Reexaming 20th-Century LocalCommunity Studies." In this course, we will critically reexamine the fundamental problems of Japanese local community studies in the 20th century, and find hints to consider the future of our contemporary society.
(Learning Objectives)
Find hints to consider the future of Japanese local communities using sociology.
(Learning activities outside of classroom)Working on homework for each session and writing a report midst the course.
(Grading Criteria /Policy)Homework:10%,Report:35%, Final exam:55%.

SOC200EB, SOC200EC（社会学 / Sociology 200 , 社会学 / Sociology 200）

グローバル社会のローカリティ

中筋　直哉

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　単位数：2単位
曜日・時限：水3/Wed.3

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマ「おフランスの地域社会と国家」：「お」をつけたのは、私を含め日本人が長く彼の国に抱いてきた羨望や嫉妬を相対化するためである。彼の国の地域社会と国家はどのような社会構造をもつのか。そこから私たちは何を学べるのか。2年間の在外研究の知見を論じるので、遠い国の他人事と思わずに、比較社会学的に学んでほしい。

【到達目標】
・フランスの地域社会と国家の関係を、歴史的かつ具体的な視野から理解する。
・彼の国への理解を踏まえて現代日本の地域社会と国家の関係を批判的に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち, DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。　DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
対面で実施。学習支援システムで講義資料を事前配布する。質疑応答は対面時間内と学習支援システムを使って行う。課題については授業中に、期末試験については試験後に、学習支援システムを使って受講者全体に対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目的と構成の説明
第2回	ストラスブールという都市1	交通と戦争が育んだ文化と産業
第3回	ストラスブールという都市2	EU首都の構想と現実
第4回	アルザス地方の歴史的展開1	農村社会の終焉と再生
第5回	アルザス地方の歴史的展開2	産業化と交通網
第6回	アルザス地方の現在	EU統合以後の持続と変容
第7回	シェンゲン協定以前と以後	地続きの国境のリアリティ
第8回	グループディスカッション	日本人にとっての「おフランス」を考える
第9回	トピック講義	近くて遠い首都パリ
第10回	フランスの地域制度と国家1	領域性と均質性への固執
第11回	フランスの地域制度と国家2	制度による合理的支配の神話と現実
第12回	EUのなかのフランスと地域社会1	EUからの関係と距離
第13回	EUのなかのフランスと地域社会2	EUへの関係と距離
第14回	結論	彼の国を鏡としてわが国とわが国の地域社会を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内容の予習復習の上「今日の課題」に取り組んで学習支援システムに提出することが必要。また授業の中盤にA4×1 枚程度のリポートを課す。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定しない。

【参考書】
講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
リポートの出来が35％ (提出しないとD)、論述式の期末試験が55％。「今日の課題」の総合評価が10％。期末試験では、フランスへの理解を踏まえたわが国の地域社会に関する自分の考えを論理的に表明できることがAの条件。

【学生の意見等からの気づき】
事例の紹介を画像などを用いて具体的に行う。ただしスライドショー形式の資料は使わない。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムへのアクセスが必須。受動的に聴講するだけでなく「自分のノート」を作ることが重要。

【その他の重要事項】
コースの展開科目なので入門科目以上の知識が必要。

【Outline (in English)】
【Outline (in English)】
(Course outline)In this course, we will understand the state and local cocieties of France for comparing our state and local societies by sociological perspective.
(Learning Objectives)Present sociological understanding of the state and local societies compared France and Japan.
(Learning activities outside of classroom)Working on homework for each session and writing a report midst the course.
(Grading Criteria /Policy)Homework:10%,Report:35%,Final exam:55%.

SOC200EB, SOC200EC（社会学 / Sociology 200 , 社会学 / Sociology 200）

国際協力論

岡野内　正

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　単位数：2単位
曜日・時限：水4/Wed.4

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際協力とは、南北問題の解決をめざす諸国家と諸国民のさまざまな活動のことだ。南北問題とは、貧しい南の国々と豊かな北の国々との間での、貧富の格差から起こるさまざまの問題のことだ。しかし、20世紀後半以降の国際協力は、南北問題を解決できていない。この失敗の原因を探究するうえで、欠かせない論点の概略をつかむ。

【到達目標】
①国際協力に関する学術書の内容を的確に理解する力をつける。②さらに批判的に読解する力をつける。③学術的討論の流れをつかむ力をつける。④学術的討論を批判的に評価する力をつける。⑤国際協力について問いをたて、質問し、答えを聞き、さらに自分なりの問いを発展させる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち, DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。　DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
国際協力についての担当教員の新著を精読しつつ、今日の学問状況を批判的に検討する。受講生は全員が、毎回の授業前までに、「授業ノート」を作成してくること。「授業ノート」は、テキストの該当箇所を読んで、①わかったこと、②わからなかったこと、③調べてみたこと、④自分なりに考えてみたこと、あるいはみんなで話し合ってみたいこと、を書いてください。さらに、授業後には、⑤授業中の分科会の議論の論点、講師の説明、それについて授業後に自分で考えたこと、を書いてください。授業前半では少人数分科会で全員が各自の授業日誌を共有しながら議論し、後半では、少人数分科会の報告係になった人が分科会の状況を報告し、講師を含む全員で議論することで、どうしてもわからない問題を解決し、調べてきたことを共有し、さらにより深い問いをもてるようにする。
フィードバックは、授業時間中および前後での質問時間で、そして、オフィスアワーやメールでの直接連絡を通じて密接に行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	国際協力をめぐる学問状況	授業説明と受講生による自由討論。
2	批判開発論とグローバル・ベーシック・インカム構想	受講生の報告と教員を交えた議論
3	開発援助から民衆中心開発戦略への転換―コーテン	受講生の報告と教員を交えた議論
4	開発援助への再挑戦―サックス	受講生の報告と教員を交えた議論
5	脱開発の世界秩序再編―ザックス	受講生の報告と教員を交えた議論
6	グローバル企業支配の告発―ジョージ	受講生の報告と教員を交えた議論
7	グローバル帝国転覆の論理―ネグリ	受講生の報告と教員を交えた議論
8	グローバル資本主義学派のグローバル企業権力論	受講生の報告と教員を交えた議論
9	国連SDGsの論理	受講生の報告と教員を交えた議論
10	コロナ・パンデミックと宇宙開発	受講生報告と教員を交えた議論
11	グローバル・ベーシック・インカム構想	受講生報告と教員を交えた議論
12	歴史的不正義に関する正義回復論	受講生報告と教員を交えた議論
13	グローバル企業資本の植民地的起源	受講生報告と教員を交えた議論。授業日誌の提出。
14	真の国際協力とは何か？	受講生報告と教員を交えた議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
岡野内正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』法律文化社、2021年、3300円+税。

【参考書】
阪本公美子・岡野内正・山中達也編著『日本の国際協力　中東・アフリカ編』ミネルヴァ書房、2021年、4000円+税。
ガイ・スタンディング著、岡野内正監訳『プレカリアート』法律文化社、2016年、3000円＋税。
岡野内正著訳『グローバル・ベーシック・インカム入門』明石書店、2016年、2000円＋税。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業参加を前提に、授業ノートの5項目について、20%ずつ100%で評価します。何らかの事情で参加できなかった場合は、⑤の項目でその理由とともに、さらに別の資料を用いて調査し、わかったこと、考えたことを書いてください。具体的な問題について、事実に基づいて批判的に考える力を身につけるのが授業のねらいなので、考察のもとになる資料の書誌情報がなかったり、項目だけが書かれていて具体的な内容のある文章になっていない場合は、評価の対象にならないので注意してください。

【学生の意見等からの気づき】
一回限りの試験ではなく、毎回の授業の積み重ねを評価してほしいという要望に応えて、「授業ノート」での評価を導入してみました。

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」に該当。教室討論の中で、国際開発・人権NGO活動への長年の参加経験と観察を踏まえた議論を展開します。

【Outline (in English)】
A kind of seminar class on the issues of International Cooperation. Participants are required to read the textbook on the issues. Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the main issues on the subjects from the sociological perspective.
[Learning Objectives] At the end of the course, students are expected to think about academic issues critically and enjoy discussing on them.
[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
[Grading Criteria /Policies] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Before-class reports in HOPPI: 40%、After-class reports in HOPPI: 30%、in class contribution: 30%.

SOC100EC（社会学 / Sociology 100）

社会学への招待

徳安　彰

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　単位数：2単位
曜日・時限：火2/Tue.2

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会学とはいかなる学問領域かということを探求しながら、専門学習に向けて自らの問題関心を醸成することを目的とする。

【到達目標】
社会学という学問領域の特徴・特性を学び、専門学習および2年次からはじまる専門演習の選択（ゼミ選び）のための手がかりをつかむ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP8に関連。　DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
毎回オムニバス形式で、社会学を専門とする講師陣が、それぞれの専門分野をベースに、いま一番おもしろいと感じている研究テーマや研究方法等について講義する。社会学という学問は、何を対象とするかというより、対象に対して向ける視線や姿勢、切り口にこそその特質がある。各講師の講義を聴くことで、社会学の多様性と同時に、そこに一貫して流れるこの学問のもつ特質・特徴について考えていく。
なお、毎回授業の最後にリアクションペーパーを提出してもらう。リアクションペーパーについては、各回の担当教員がそれぞれの方針・方法に基づきフィードバックを行う（その有無も含む）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本科目の概要説明（徳安彰）
2	島という空間：移住者と地域住民のパースペクティブ	講師：樋口明彦
3	態度の社会学	講師：池田裕
4	社会問題へのアプローチ：知的障害から	講師：三井さよ
5	社会心理学のまなざし	講師：土倉英志
6	記憶と語りの社会学	講師：鈴木智之
7	「ただしさ」を社会学してみる	講師：斎藤友里子
8	社会学は「役に立つ」のか：問題解決過程に身を置いてみる	講師：茅野恒秀
9	国際社会学への招待	講師：鄭康烈
10	国籍について	講師：佐藤成基
11	〈歴史〉から問う社会学	講師：鈴木智道
12	社会システムをはみ出す人間	講師：徳安彰
13	「社会学する」ということ	まとめとふりかえり（徳安彰）
14	授業内試験	各教員からの出題による試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自、授業で紹介のあった文献等を読み、授業内容についての理解を深め、発展させる。
本授業の復習時間は4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
舩橋晴俊（2012）『社会学をいかに学ぶか』（現代社会学ライブラリー2）弘文堂。
長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志（2019）『新版 社会学』有斐閣。
玉野和志編（2016）『ブリッジブック社会学〔第2版〕』信山社。

【成績評価の方法と基準】
試験（70%）とリアクションペーパーの提出を含む平常点（30%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【Outline (in English)】
This course introduces the nature of sociology to students taking this course. At the end of this course, students will be expected to be able to think sociologically. Students will be expected to have the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on term-end examination (70%) and short essays for each lecture (30%).

SOC300EC（社会学 / Sociology 300）

歴史社会学 I

鈴木　智道

開講時期：春学期授業/Spring　｜　単位数：2単位
曜日・時限：月2/Mon.2

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「歴史を通して考える」という全体を貫く主題のもと、いくつかのより身近なテーマを素材にしながら、日本社会の歴史的経験を、とりわけ明治以降に照準しつつ（必要に応じてその外側に広がる地理的空間をも視野に入れつつ）読み解いていくことで、われわれの今日の生活世界や社会生活のあり方を、その起源にまで遡って再認識していく。同時に、そうした作業を通して、より大きくは“「近代」とは何か”という問題を相対的な視野のなかで捉え直していく。

【到達目標】
・社会学的な歴史研究の射程を理解しながら、そこから立ち上がる「歴史」からの問いに対して、一人ひとりが対峙できる地点に至る。
・あわせて、歴史的な視点が、〈いま・ここ〉を見据え、考える手段としてどのような可能性をもっているかということについて、掘り下げた視点から考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP8に関連。　DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
原則的に講義形式で授業を進めていく。
各トピック終了ごとに課題を提示し、レポートの形でその回答を求める（2本）。レポートについては、求めに応じてオフィスアワーで講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	総論・概要説明
2	〈文明化〉する社会①	〈伝統〉から〈文明〉へ
3	〈文明化〉する社会②	社会秩序としての〈近代〉
4	〈文明化〉する社会③	社会秩序を支える「身体」
5	〈都市〉に暮らす①	近代都市の離陸と空間編制
6	〈都市〉に暮らす②	理想的な都市のあり方を求めて
7	〈都市〉に暮らす③	都市郊外の開発と都市型ライフスタイル
8	〈職〉に就く①	メリトクラシー社会としての近代社会
9	〈職〉に就く②	学校と職業の不幸な関係
10	〈職〉に就く③	「身分」から「職業」へ
11	〈家族〉をつくる①	〈家族〉の歴史性
12	〈家族〉をつくる②	「家庭」的な〈家族〉の誕生
13	〈家族〉をつくる③	家族意識のゆくえ
14	エピローグ	「歴史」からの問い

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
授業中に適宜紹介していく。

【成績評価の方法と基準】
課題レポート（20％×2回）＋学期末試験（60％）により評価する。なお、2本の課題レポートの提出は、学期末試験の受験のための必須条件である。

【学生の意見等からの気づき】
快適な教室環境を作り出すよう気を配る。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to rethink some topics on Japanese experiences of the period after the Meiji Restoration from the sociological perspective. Students are expected to be able to think about history as a tool for investigating the present-day society.
Your study time will be more than four hours for a class.
Grading will be decided based on two report (20%×2) and term-end examination (60%).

SOC300EC（社会学 / Sociology 300）

社会調査実習

堅田　香緒里

開講時期：年間授業/Yearly　｜　単位数：4単位
曜日・時限：木2/Thu.2
備考（履修条件等）：社会調査実習ガイダンスと社会調査実習初回授業出席が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、東京都下において生活困窮状態にある人や、そのような人を支援する人・団体へのインタビュー調査や参与観察を通じ、調査の企画から報告書の作成まで、社会調査の全過程について体験を通じて実践的に学習していく。

【到達目標】
・社会調査の一連のプロセスを学び、自ら調査を計画し、実施できるようになること
・生活困窮態にある人の生活実態と排除の諸相への理解を深めること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP2・DP3・DP4・DP9・DP10に関連。　DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
授業は大きくわけると、調査の(1)準備段階、(2)実施段階、(3)分析段階から構成される。(1)では調査を円滑に実施するための予備的作業、(2)ではアポイントメントや調査票の作成、調査の実施、(3)では得られたデータをもとにした考察、報告書の作成などを行う。
※課題については、適宜授業時間内にフィードバックを行う。
※この授業は，担当教員が今年度開講する「調査研究法B」と同時に履修することが必要です。なお、受講者が一定人数を超える場合は選考をおこなうことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要説明
2	生活困窮者をめぐる諸問題について	生活困窮者をめぐる諸問題についての説明
3	先行研究から学ぶ（1）	調査方法論についての文献の講読を通して、調査の方法を理解する。
4	先行研究から学ぶ（2）	調査方法論についての文献の講読を通して、調査の方法を理解する。
5	先行研究から学ぶ（3）	生活困窮者を対象とした調査を基にした文献の講読を通して、問題の所在を理解する。
6	先行研究から学ぶ（4）	生活困窮者を対象とした調査を基にした文献の講読を通して、問題の所在を理解する。
7	先行研究の整理	先行研究のデータ・ベースを作成する
8	先行研究の批判的検討	先行研究の批判的検討を通し、問題の所在を明らかにする。
9	予備調査（1）	生活困窮者を対象とした既存の調査等で用いられた調査票を活用し、模擬的なインタビューを実施する。
10	予備調査（2）	フィールドにおける参与観察を行う、フィールドノーツの作成
11	予備調査（3）	フィールドにおける参与観察を行う、フィールドノーツの作成
12	調査票の作成（1）	生活困窮者を対象とした既存の調査等で用いられた調査票を反省的に活用しつつ、オリジナルの調査票の作成を試みる
13	調査票の作成（2）	生活困窮者を対象とした既存の調査等で用いられた調査票を反省的に活用しつつ、オリジナルの調査票の作成を試みる
14	調査計画の立案	調査項目・調査方法の確認／調査対象の選定／役割分断とスケジュールの確認
15	イントロダクション（秋学期）	授業の概要説明
16	調査計画の確認	生活困窮の実態／調査方法
17	調査の準備作業	対人調査に関する倫理審査、生活困窮者へのインタビューに伴う困難
18	本調査の実施（1）	半構造化インタビューの実施、参与観察
19	本調査の実施（2）	半構造化インタビューの実施、参与観察
20	本調査の実施（3）	半構造化インタビューの実施、参与観察
21	本調査の実施（4）	半構造化インタビューの実施、参与観察
22	調査データの整理（1）	テープ起こし、得られたデータの整理、データのコード化
23	調査データの整理（2）	テープ起こし、得られたデータの整理、データのコード化
24	データの分析作業（1）	データの分析作業を行う
25	データの分析作業（2）	データの分析作業を行う
26	分析結果の論文化（1）	データ分析の結果を基に、各自のテーマを確定する
27	分析結果の論文化（2）	調査結果・分析を踏まえ、報告書原稿を執筆
28	分析結果の論文化（3）	調査結果・分析を踏まえ、報告書原稿を執筆

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じてそのつど指示する。

【参考書】
必要に応じてそのつど指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（調査実習のすべての段階における主体的参加度や、共同作業への貢献など）30%、インタビュー記録などの調査データの作成30%、報告書論文40%によって総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
この科目は受講許可科目です。春に実施する社会調査実習ガイダンスに必ず出席し、担当教員の指示を受けること。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to learn how to plan and implement fieldwork. Students also learn how to design structured questionnaires and visit some sites in Tachikawa and Shinjuku for fieldwork to collect information from the target persons. After the fieldwork, students make a fieldwork report and present the research outcomes.

SOC300EC（社会学 / Sociology 300）

社会調査実習

樋口　明彦

開講時期：年間授業/Yearly　｜　単位数：4単位
曜日・時限：月3/Mon.3
備考（履修条件等）：社会調査実習ガイダンスと社会調査実習初回授業出席が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。
その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
少子高齢化の進展は、地方のあり方を問い直すことになった。「消滅可能性都市」など危機感を示す言説が登場する一方、「移住生活」「二拠点生活」「関係人口」など地方と都市を結びつける新たなライフスタイルの可能性も注目されるようになってきた。本実習では、積極的な移住支援に取り組んでいる瀬戸内の離島でフィールドワークを行い、地方移住の実情を社会学的に分析する。具体的には、移住支援機関や実際に移住した人へのインタビューを行い、その魅力を探る予定である。

【到達目標】
①移住支援の現状を調査し、その政策効果を評価するスキルを獲得する。
②研究論文を執筆して、見解を論理的に述べるスキルを獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP2・DP3・DP4・DP9・DP10に関連。　DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
本実習では、実際のフィールドワークを通じて、調査企画・実査・データ分析・報告書作成という一連の作業を行う。具体的な作業として、移住支援機関や実際に移住した人へのインタビューを行う。4～6月には、調査地に関する下調べ、先行研究の検討、論文で取り上げる各自の研究テーマの設定を行う。7月には、質問票の作成を行う。夏季休暇中の9月に、瀬戸内の離島でフィールドワークを実施する。10月には、調査結果に基づき、各自の分析を進める。11～12月には、研究論文の執筆を行う。1月に、研究報告書を完成させる。
※この授業は、担当教員が今年度開講する「調査研究法B」と同時に履修することが必要です。なお、受講者が一定人数を超える場合は選考をおこなうことがあります。
※課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	調査の概要説明
2	対象地域の下調べ①	統計資料
3	対象地域の下調べ②	移住支援の取り組み
4	先行研究の検討①	論文探索および講読
5	先行研究の検討②	論文探索および講読
6	先行研究の検討③	論文探索および講読
7	先行研究の検討④	論文探索および講読
8	先行研究の検討⑤	論文探索および講読
9	研究テーマの設定	各自の担当の確認
10	質問票の作成①	テーマの明確化
11	質問票の作成②	質問項目の検討
12	質問票の作成③	プリテスト
13	質問票の作成④	質問項目の完成
14	質問票の作成⑤	最終確認
15	調査の反省会	ふりかえり
16	論文の書き方	レクチャー
17	調査結果の報告会①	各自の研究テーマを検討
18	調査結果の報告会②	各自の研究テーマを検討
19	調査結果の報告会③	各自の研究テーマを検討
20	調査結果の報告会④	各自の研究テーマを検討
21	分析結果の合評会①	ディスカッション
22	分析結果の合評会②	ディスカッション
23	分析結果の合評会③	ディスカッション
24	分析結果の合評会④	ディスカッション
25	個別面談①	論文の推敲
26	個別面談②	論文の推敲
27	個別面談③	論文の推敲
28	おわりに	報告書の最終確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜指示する。

【参考書】
適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
①報告書論文（60％）
②平常点（40％）

【学生の意見等からの気づき】
調査スケジュールを見直した。

【学生が準備すべき機器他】
円滑な資料収集および論文執筆のため、ノートパソコンの持参が望ましい。

【その他の重要事項】
この科目は受講許可科目です。3月下旬に実施する社会調査実習ガイダンスに必ず出席して担当教員の指示を受けて下さい。さらに、本実習は1年間で集中的に報告書を作成するため、原則毎回出席を基本とします。

【Outline (in English)】
The objectives of this class are as follows:
- to acquire the skills to examine the current state of migration support and evaluate its policy effectiveness.
- to acquire the skills to write a research paper and logically state one's views.

SOC300EC（社会学 / Sociology 300）

社会調査実習

三井　さよ

開講時期：年間授業/Yearly　｜　単位数：4単位
曜日・時限：火2/Tue.2
備考（履修条件等）：社会調査実習ガイダンスと社会調査実習初回授業出席が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、地域における市民活動団体への調査研究の仕方について、その基礎的な事柄を学ばせるものです。授業の目的は、実際の調査の流れに沿って、必要となる作業過程を体験することです。具体的なテーマは、多摩地域における市民活動の分析を通して、そこで問われていた問題とは何かを明らかにすることとします。

【到達目標】
調査の事前準備や調査対象の確定、依頼、参与観察法や聞き取り調査をはじめとした調査の実施、質的データの収集、それらデータの分析、報告書の作成まで経験し、社会調査の全プロセスを把握することで、現実から一定のテーマを引き出す力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP2・DP3・DP4・DP9・DP10に関連。　DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
この授業は，担当教員が今年度開講する「調査研究法A」または「調査研究法B」と同時に履修することが必要です。なお、受講者が一定人数を超える場合は選考をおこなうことがあります。
夏休み期間を利用し、集中的に、調査対象となる団体への聞き取り調査および参与観察を行います。秋学期以降に、調査から得られた資料や聞き取りからデータベースをつくり、各自の論文の骨組みをつくります。9月上旬の頃に時間的余裕を作っておいてください。提出物はコメントを付けて返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	多摩地域について	対象地域の理解
2	調査を設計するとは	過去の調査事例から
3	調査の手法と課題	過去の調査事例から
4	調査テーマの決定	調査テーマに関する討論
5	仮説の構築	調査仮説の決定
6	調査対象の決定	各自の関心に基づく
7	先行研究の学習①	各自の関心に基づく
8	先行研究の学習②	各自の関心に基づく
9	先行研究の学習③	各自の関心に基づく
10	関連する制度の学習①	介護保険制度
11	関連する制度の学習②	障害者自立支援法
12	プレ調査の実施	関連する団体へのインタビュー調査を全員で実施
13	プレ調査の振り返り	実際のインタビューについて振り返る
14	質問票の作成・アポ取り	各自の関心に基づいて質問票を作成、実際にアポイントメントを取る
15	調査結果の整理①	資料の整理／最初の感想
16	調査結果の整理②	文字おこし
17	調査結果の整理③	文字おこし
18	調査結果の整理④	文字おこし
19	論文の素案①	各自の印象を出す
20	論文の素案②	なぜ重要か、解説をつける
21	データの整理ふたたび	不足の確認
22	論文の構成①	各自の構成案を出す
23	論文の構成②	各自の構成案を出す
24	論文の構成③	各自の構成案を出す
25	追加データの検討	追加可能か確認する
26	報告書の執筆①	各自の執筆
27	報告書の執筆②	討論を踏まえて書き直し
28	報告書の確認	全体を確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
三井さよ・三谷はるよ・西川知亨・工藤保則編2023『はじめての社会調査』世界思想社
岸政彦・石岡丈昇・丸山里美2016『質的社会調査の方法：他者の合理性の理解社会学』有斐閣
金子淳2017『ニュータウンの社会史』青弓社

【成績評価の方法と基準】
平常点(50%)、報告書の執筆(50%)

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【その他の重要事項】
この科目は受講許可科目です。4月初旬に実施する社会調査実習ガイダンスに必ず出席して担当教員の指示を受けて下さい。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students experience the process of social research. The students will go out from the classroom and investigate how the civil activities in Tama District have grown and what they have confronted. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end report: 50%、in class contribution: 50%.

SOC300EB, SOC300EC, SOC300ED（社会学 / Sociology 300 , 社会学 / Sociology 300 , 社会学 / Sociology 300）

社会調査実習

池田　裕

開講時期：年間授業/Yearly　｜　単位数：4単位
曜日・時限：水2/Wed.2
備考（履修条件等）：社会調査実習ガイダンスと社会調査実習初回授業出席が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。
その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業の目的は、実際に量的調査を行うことによって、調査の企画から報告書の作成までの社会調査の全過程を知ることである。計量社会学の論文を書くには、量的調査のデータを用いた分析を行い、仮説を検証する方法を身につける必要がある。この授業は、法政大学の学生生活に関する調査を行い、量的データの統計的分析の実習を行うことによって、社会調査に基づく研究プロジェクトを独力でやり遂げられるようになることを目指す。

【到達目標】
この授業の目標は、学生が調査の企画から報告書の作成までの社会調査の全過程を説明できるようになることである。調査票の作成・配布・回収とデータの入力・点検・分析の方法を知り、計量社会学の論文を書く能力を身につけることが、この授業のテーマである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP2・DP3・DP4・DP9・DP10に関連。　DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
授業形態は実習である。授業内での発表の機会が多く、すべての発表に関して、授業でフィードバックを行う。学生は自分の仮説を検証するのに必要な質問を作成し、授業で発表したうえで、共通の調査票を用いて、実際に量的調査を行う。加えて、個人の研究プロジェクトに取り組み、授業で発表したうえで、期末論文を作成する。
この授業は、担当教員が今年度開講する「調査研究法A」と同時に履修することが必要です。なお、受講者が一定人数を超える場合は選考をおこなうことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	調査の企画（1）	スケジュール
2	調査の企画（2）	研究課題の設定
3	仮説構成（1）	先行研究の検討
4	仮説構成（2）	因果関係の検討
5	調査項目の設定（1）	前回調査の引用
6	調査項目の設定（2）	既存調査の引用
7	質問文の作成（1）	前回調査の利点
8	質問文の作成（2）	既存調査の利点
9	調査票の作成（1）	前回調査の欠点
10	調査票の作成（2）	既存調査の欠点
11	対象者の選定（1）	無作為抽出の可能性
12	対象者の選定（2）	割当抽出の可能性
13	サンプリング（1）	母集団比率
14	サンプリング（2）	計画標本サイズ
15	調査の実施（1）	調査票の配布
16	調査の実施（2）	調査票の回収
17	エディティング（1）	データ入力
18	エディティング（2）	データ入力
19	データクリーニング（1）	データ点検
20	データクリーニング（2）	データ点検
21	集計（1）	度数分布
22	集計（2）	記述統計量
23	分析（1）	相関行列
24	分析（2）	集団別の平均値
25	仮説検証（1）	線形回帰
26	仮説検証（2）	ロジスティック回帰
27	報告書の作成（1）	方法と結果
28	報告書の作成（2）	目的と結論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
永吉希久子、2016、『行動科学の統計学――社会調査のデータ分析』共立出版。

【成績評価の方法と基準】
この授業の成績は100%期末論文に基づいて決定される。

【学生の意見等からの気づき】
学生の提出物のすべてに関して、授業でフィードバックを行うようにしている。しかし、ほとんどの授業ですべての学生に課題を与えるので、フィードバックに必要な時間が長い。結果として、学生と教員の相互作用の頻度が高い一方で、学生の口頭発表の機会が少なかった。短時間でも、学生の口頭発表の機会を増やす必要がある。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコン

【その他の重要事項】
この科目は受講許可科目です。3月下旬に実施する社会調査実習ガイダンスに必ず出席して担当教員の指示を受けて下さい。

【Outline (in English)】
(Course outline)
The purpose of this course is to learn the entire process of social research, from planning the survey to writing the report, by actually conducting a quantitative survey. To write a paper in quantitative sociology, students must acquire methods for analyzing quantitative survey data and testing hypotheses. This course aims to enable students to independently complete a research project based on social surveys by conducting a survey on student life at Hosei University and practicing statistical analysis of quantitative data.
(Learning Objectives)
The goal of this course is for students to be able to explain the entire process of social research, from planning the survey to writing the report. The theme of this course is to learn how to create, distribute, and collect questionnaires, as well as how to enter, check, and analyze data, and to acquire the ability to write papers in quantitative sociology.
(Learning activities outside of classroom)
Before and after each class, students are expected to spend two hours understanding the course content.
(Grading Criteria/Policy)
Grades for this course are 100% based on the final paper.

SOC300EC（社会学 / Sociology 300）

調査研究法Ｂ

樋口　明彦

開講時期：春学期授業/Spring　｜　単位数：2単位
曜日・時限：月4/Mon.4
備考（履修条件等）：社会調査実習ガイダンスと社会調査実習初回授業出席が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業の目的は、質的データの収集と分析方法を概説することである。インタビューや参与観察といった手法を取り上げ、質的調査の方法論、その可能性と限界について体系的に講義する。

【到達目標】
①質的調査の意義と分析手法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP2・DP3・DP4・DP9・DP10に関連。　DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義および日本語文献講読
※この授業は、担当教員が今年度開講する「社会調査実習」と同時に履修することが必要です。なお、受講者が一定人数を超える場合は選考をおこなうことがあります。
※課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	「調査研究法B」と社会調査実習の関係
2	テキスト購読	第1章
3	テキスト購読	第2章
4	テキスト購読	第3章
5	テキスト購読	第4章
6	テキスト購読	第5章
7	テキスト購読	第6章
8	テキスト購読	第7章
9	テキスト購読	第8章
10	テキスト購読	第9章
11	テキスト購読	第10章
12	質的調査の実際①	フィールドへの接近方法
13	質的調査の実際②	調査結果の公開
14	質的調査の実際③	調査における倫理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
佐藤郁哉，2008，『質的データ分析法』新曜社.
＊ただし、開講後の指示があるまで、テキストは購入しないこと。

【参考書】
適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
①平常点（100％）

【学生の意見等からの気づき】
変更なし

【学生が準備すべき機器他】
円滑な資料収集および論文執筆のため、ノートパソコンの持参が望ましい。

【その他の重要事項】
この科目は受講許可科目です。指定された「社会調査実習」の初回授業への出席が必要です。3月下旬に実施する社会調査実習ガイダンスに必ず出席して担当教員の指示を受けて下さい。さらに、実習は1年間で集中的に報告書を作成するため、原則毎回出席を基本とします。

【Outline (in English)】
The purpose of the lecture is to provide an overview of qualitative data collection and analysis methods.　We will systematically lecture on qualitative research methodology, focusing on methods such as interviews and participant observation.

SOC300EC（社会学 / Sociology 300）

調査研究法Ｂ

堅田　香緒里

開講時期：春学期授業/Spring　｜　単位数：2単位
曜日・時限：木1/Thu.1
備考（履修条件等）：社会調査実習ガイダンスと社会調査実習初回授業出席が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会調査における質的データの収集手法とその分析方法

【到達目標】
社会調査の意義と目的を学ぶと共に、質的調査の実施に必要な知識や方法論を習得し、自ら調査を実施できる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP2・DP3・DP4・DP9・DP10に関連。　DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
質的調査の方法に関する入門的著作、質的調査の成果として評価されている国内外の古典的著作等をテキストとして講義を進める。定期的に小レポートの提出を求める。
※状況に応じて、変更になる可能性あり。
※課題については、適宜授業時間内にフィードバックを行う。
※この授業は，担当教員が今年度開講する「社会調査実習」と同時に履修することが必要です。なお、受講者が一定人数を超える場合は選考をおこなうことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回目	講義の目的と構成	講義の目的と授業の進め方の説明
2回目	社会調査とは何か	社会調査の意義と目的
3回目	質的調査の全体像	質的調査に必要とされる一連の作業課題
4回目	質的調査の手法(1)	課題の設定と調査方法
5回目	質的調査の手法(2)	フィールドの選定とフィールドへの入り方
6回目	質的調査の手法（3）	参与観察とフィールドノーツ
7回目	質的調査の手法（4）	構造化／半構造化インタビューの手法
8回目	質的調査の手法（5）	視覚データの収集方法と分析
9回目	質的調査の手法（6）	記録とコーディング
10回目	質的調査の手法（7）	ドキュメントの活用と分析
11回目	事例研究(1)：参与観察	ポール・ウィリス『ハマータウンの野郎ども』／丸山里美『女性ホームレスとして生きる』
12回目	事例研究(2)：インタビュー調査	テス・リッジ『子どもの貧困と社会的排除』／岩田正美『戦後社会福祉の展開と大都市最底辺』
13回目	質的調査の困難と倫理	質的調査の諸課題と調査者の倫理・責任
14回目	論文の執筆	質的調査に基づく報告書・論文執筆の作法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
佐藤郁哉（2008）『質的データ分析法―原理・方法・実践』新曜社

【参考書】
岸政彦・石岡丈昇・丸山里美（2016）『質的社会調査の方法―他者の合理性の理解社会学』有斐閣

【成績評価の方法と基準】
平常点（主体的参加度や共同作業への貢献など）30%、提出物（小レポート・論文課題等)70%によって総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし。

【その他の重要事項】
この科目は受講許可科目です。指定された社会調査実習初回授業への出席が必要です。春に実施する社会調査実習ガイダンスに必ず出席し、担当教員の指示を受けて下さい。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to learn how to plan fieldwork and design structured questionnaires.
Students also learn how to analyze the collected data and present the research outcomes.

SOC300EC（社会学 / Sociology 300）

調査研究法Ｂ

三井　さよ

開講時期：春学期授業/Spring　｜　単位数：2単位
曜日・時限：火1/Tue.1
備考（履修条件等）：社会調査実習ガイダンスと社会調査実習初回授業出席が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義の目的は、質的データの収集と分析に基づいて調査報告論文を執筆完成させるために必要な、基礎的な方法の習得です。基本的な考え方をグラウンデッド・セオリーに学びつつ、具体的な調査手法としては参与観察と聞き取り調査を中心に解説し、分析方法とそこから理論的テーマを立ち上げる方法について解説します。

【到達目標】
質的データの収集と分析の基礎的な方法について理解し、実際に自分で実施するだけの基礎的な力を身につけること。同時に、調査倫理についても理解し、身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP2・DP3・DP4・DP9・DP10に関連。　DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
量的調査と対比しつつ、質的調査と総称される手法にどのようなものがあるのかを解説し、具体的にデータ収集および分析の際に課題となることについて、学生と討論しつつ理解させます。
この授業は，担当教員が今年度開講する「社会調査実習」と同時に履修することが必要です。なお、受講者が一定人数を超える場合は選考をおこなうことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	質的調査研究の意義と特色	仮説検証型と仮説提起型
第2回	フィールドワークの流れと手法について	既存の調査研究の紹介から
第3回	問題設定と調査計画の立て方	問いを立てるとはどのようなことか／調査倫理とは
第4回	質的調査の手法(1)	文献で知識のデータベースをつくる
第5回	質的調査の手法(2)	調査依頼の方法、フィールドへの入り方
第6回	質的調査の手法(3)	参与観察法
第7回	質的調査の手法(4)	インタビューの種類と特色
第8回	質的調査の手法(5)	場を観察するということ
第9回	質的データの分析(1)	調査に基づくデータベースをつくる
第10回	質的データの分析(2)	コーディング／KJ法／発見するということ
第11回	質的データの分析(3)	比較と関連付け
第12回	質的データの分析(4)	理論的テーマを立ち上げる
第13回	質的データの分析(5)	妥当性とは何か／調査倫理ふたたび
第14回	論文の作成に向けて	具体的な論文の書き方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
盛山和夫（2004）『社会調査法入門』有斐閣
小田博志（2023）『改訂版　エスノグラフィー入門：〈現場〉を質的研究する』春秋社
三井さよ・三谷はるか・西川知亨・工藤保則編（2023）『はじめての社会調査』世界思想社

【参考書】
授業中に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
課題（50%), 平常点（50%)

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【その他の重要事項】
この科目は受講許可科目です。指定された社会調査実習初回授業への出席が必要です。4月初旬に実施する社会調査実習ガイダンスに必ず出席して担当教員の指示を受けて下さい。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to study based on social research. Students will be expected to try to make a plan of social research based on their interests. Final grade will be calculated according to the following process: Term-and reports 50%, in class contribution 50%.

SOC200EB, SOC200EC（社会学 / Sociology 200 , 社会学 / Sociology 200）

環境社会学 I

茅野　恒秀

開講時期：春学期授業/Spring　｜　単位数：2単位
曜日・時限：月2/Mon.2

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境問題という、一見すると自然科学的な問題に潜む社会的共同性の危機と回復をテーマとする環境社会学の問題構成と学問領域としての展開を概説する。授業に通底するテーマは【環境社会学の歴史（レガシー）と方法：事例と理論の往復から読み解く】である。

【到達目標】
社会学の理論と方法に基づき、環境問題を分析することが可能であることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち, DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。　DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義とディスカッションを組み合わせて進める。講義では、環境社会学が培ってきた知見を具体の環境問題に即して紹介することで、環境問題をリアルな、歴史と地続きの問題として立体的に把握できるよう努める。受講生には読書ノート、資料映像視聴ノートの蓄積を求め、それらを講義ノートに加えてディスカッションの素材として活用することで、学習の定着と対話の深まりを経験してもらう。
この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	環境問題の社会史	環境が問題化する社会過程についての基本的認識を得る
第2回	近代化と公害	近代化に伴う公害・労災・職業病の歴史的経過を理解する
第3回	水俣病問題(1)	水俣病の経過について映像資料や文書資料を通じて把握する
第4回	水俣病問題(2)	水俣病問題における加害・被害過程の実態を把握する
第5回	水俣病問題(3)	水俣病問題の加害・被害を構造論の視点から理解する
第6回	地域開発と環境問題(1)	戦後日本の地域開発に伴う環境問題について、映像資料や文書資料を通じて把握する
第7回	地域開発と環境問題(2)	地域開発に伴う環境問題の主体・要因連関を受益圏・受苦圏論の視点から理解する
第8回	地域開発と環境問題(3)	地域開発に伴う環境問題の問題構成を生活環境主義の視点から理解する
第9回	環境問題とライフスタイル(1)	環境問題と人々のライフスタイルの関連を水問題の検討を通じて把握する
第10回	環境問題とライフスタイル(2)	環境問題と人々のライフスタイルの関連を廃棄物問題の検討を通じて把握する
第11回	環境政策と環境運動(1)	環境問題解決過程における環境運動の成立と展開について把握する
第12回	環境政策と環境運動(2)	環境問題解決過程における環境政策の成立と展開について把握する
第13回	環境政策と環境運動(3)	環境問題解決過程を環境制御システム論の視点から理解する
第14回	環境ガバナンス	多主体協働によって環境問題の解決を図ろうとする環境ガバナンスの考え方と課題について理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業で参考書や文献、参考URLを示し、予習しておくべき内容を指示する。各回の授業終了後には、使用した教材の一部が学習支援システムを通じて閲覧可能であるので、事後学習に活用されたい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
考察の対象は多岐にわたるため特に指定しない。

【参考書】
『シリーズ環境社会学講座』全6巻（2023～2025、新泉社）。①『なぜ公害は続くのか―潜在・散在・長期化する被害』（ISBN 978-4-7877-2301-7）、②『地域社会はエネルギーとどう向き合ってきたのか』（ISBN 978-4-7877-2302-4）、③『福島原発事故は人びとに何をもたらしたのか―不可視化される被害、再生産される加害構造』（ISBN 978-4-7877-2303-1）、④『答えのない人と自然のあいだ―「自然保護」以後の環境社会学』（ISBN 978-4-7877-2404-5）、⑤『持続可能な社会への転換はなぜ難しいのか』（ISBN 978-4-7877-2405-2）、⑥『複雑な問題をどう解決すればよいのか―環境社会学の実践』（ISBN 978-4-7877-2406-9）
以上の他、授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
第2回～第13回授業で課す課題（60%）と期末試験（40%）が評価対象となる。前者では授業内容の理解を、後者では環境問題を規定する社会構造とその変動を解明する視点の理解を通じて、環境社会学の基本的視座を獲得し、適切に説明することができるようになったかを評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline (in English)】
The course outlines the problematic framework and academic development of environmental sociology, which addresses the crisis and restoration of social communality underlying environmental issues — problems that appear, at first glance, to be natural science-based. The underlying theme of the course is "The History (Legacy) and Methods of Environmental Sociology: Interpreting Through the Back-and-Forth Between Case Studies and Theory.
The goals of this course are to understand that it is possible to analyze environmental issues based on sociological theory and methodology.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 40%、Short reports: 60%.

SOC300EB, SOC300EC（社会学 / Sociology 300 , 社会学 / Sociology 300）

環境社会学 II

茅野　恒秀

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　単位数：2単位
曜日・時限：月2/Mon.2

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境問題という、一見すると自然科学的な問題に潜む社会的共同性の危機と回復をテーマとする環境社会学の問題構成と学問領域としての展開を概説する。授業に通底するテーマは【複雑化する環境問題の社会学：理論と実践の往復から読み解く】である。

【到達目標】
社会学の理論と方法に基づき、環境問題を分析することが可能であることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち, DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。　DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義とディスカッションを組み合わせて進める。講義では、環境社会学が培ってきた知見を具体の環境問題に即して紹介することで、環境問題をリアルな、歴史と地続きの問題として立体的に把握できるよう努める。受講生には読書ノート、資料映像視聴ノートの蓄積を求め、それらを講義ノートに加えてディスカッションの素材として活用することで、学習の定着と対話の深まりを経験してもらう。
この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	なぜ環境保全はうまくいかないのか	Wicked Problem、SustainabilityTransitionなど本授業を貫く視点を確認する
第2回	社会的ジレンマとしての環境問題	社会的ジレンマとして環境問題を捉える視座を理解する
第3回	環境負荷の外部転嫁	社会的ジレンマ論や受益圏・受苦圏論の応用問題としての環境負荷の外部転嫁論の視点を確認する
第4回	福島原発事故問題(1)	2011年3月に発生した東京電力福島第一原発事故の経過について映像資料や文書資料を通じて把握する
第5回	福島原発事故問題(2)	被害構造論の視座から福島原発事故に関する研究成果を確認する
第6回	福島原発事故問題(3)	生活環境主義の視座から福島原発事故に関する研究成果を確認する
第7回	福島原発事故問題(4)	生活環境を複層的に捉え、被害の総体を把握する研究成果を確認する
第8回	気候危機の社会学(1)	地球環境問題としての気候変動とその危機に関する問題構成を理解する
第9回	気候危機の社会学(2)	地域環境問題としての気候変動とその危機に関する問題構成を理解する
第10回	エネルギー転換はどうすればうまくいくのか(1)	社会的受容性を鍵概念にエネルギー転換の過程を理解する
第11回	エネルギー転換はどうすればうまくいくのか(2)	コミュニティ的受容性を鍵概念にエネルギー転換の過程を理解する
第12回	環境政策と環境運動(2)	地域デザインの視点による環境問題解決過程について、映像資料や文書資料を通じて把握する
第13回	環境政策と環境運動(3)	地域デザインの視点による環境問題解決過程について、社会的受容の鍵としての「物語」に着目して理解する
第14回	環境問題解決過程と社会デザイン	「結果としての環境保全」を鍵概念に環境問題解決過程を構想する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業で参考書や文献、参考URLを示し、予習しておくべき内容を指示する。各回の授業終了後には、使用した教材の一部が学習支援システムを通じて閲覧可能であるので、事後学習に活用されたい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
考察の対象は多岐にわたるため特に指定しない。

【参考書】
『シリーズ環境社会学講座』全6巻（2023～2025、新泉社）。①『なぜ公害は続くのか―潜在・散在・長期化する被害』（ISBN 978-4-7877-2301-7）、②『地域社会はエネルギーとどう向き合ってきたのか』（ISBN 978-4-7877-2302-4）、③『福島原発事故は人びとに何をもたらしたのか―不可視化される被害、再生産される加害構造』（ISBN 978-4-7877-2303-1）、④『答えのない人と自然のあいだ―「自然保護」以後の環境社会学』（ISBN 978-4-7877-2404-5）、⑤『持続可能な社会への転換はなぜ難しいのか』（ISBN 978-4-7877-2405-2）、⑥『複雑な問題をどう解決すればよいのか―環境社会学の実践』（ISBN 978-4-7877-2406-9）
以上の他、授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
第2回～第13回授業で課す課題（60%）と期末試験（40%）が評価対象となる。前者では授業内容の理解を、後者では環境問題を規定する社会構造とその変動を解明する視点の理解を通じて、環境社会学の基本的視座を獲得し、適切に説明することができるようになったかを評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline (in English)】
The course outlines the problematic framework and academic development of environmental sociology, which addresses the crisis and restoration of social communality underlying environmental issues — problems that appear, at first glance, to be natural science-based. The underlying theme of the course is “The Sociology of Increasingly Complex Environmental Issues: Interpreting Them Through the Back-and-Forth Between Theory and Practice.”
The goals of this course are to understand that it is possible to analyze environmental issues based on sociological theory and methodology.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 40%、Short reports: 60%.

SOC200EC（社会学 / Sociology 200）

都市と地域の社会学 I

茅野　恒秀

開講時期：春学期授業/Spring　｜　単位数：2単位
曜日・時限：水2/Wed.2

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市と地域を対象として、そこに現れるさまざまな社会現象や社会問題のしくみを、社会構造や集団・組織、人びとの意識や行為・関係の有り様に着目して社会学的に把握する。授業に通底するテーマは【変動する都市と地域：時間と空間のダイナミズムから読み解く】である。

【到達目標】
都市と地域をめぐる歴史的な変動過程を素材に、現在直面する社会課題が、都市と地域の社会変動と時間的・空間的にどのように関連しあっているのかを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP3・DP8・DP10に関連。　DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義とディスカッションを組み合わせて進める。講義では、都市・地域・環境・災害などの領域社会学が培ってきた知見を社会的現実に即して紹介することで、眼前の社会問題を現在形としてのみ捉えるのではなく、その来歴や解決の構想を含め、立体的に把握できるよう努める。受講生には読書ノート、資料映像視聴ノートの蓄積を求め、それらを講義ノートに加えてディスカッションの素材として活用することで、学習の定着と対話の深まりを経験してもらう。
この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	都市と地域の現在	グローバルシティから限界集落まで、都市と地域のさまざまな現在地を俯瞰的、概説的に捉える。
第2回	地域社会の成り立ち	地域社会を人びとの空間的共存として捉える基本的視座を得る。
第3回	地域社会の編成と再編：構造的視点	都市と地域を主題とする社会変動を、構造論的視座から捉える。自然村や社会地区などによる基礎的認識から平成の市町村合併までを通史的に把握する。
第4回	地域社会の編成と再編：関係的視点	都市と地域を主題とする社会変動を、関係論的視座から捉える。現在の私たちの人間関係に残る古くからの社会慣習やメカニズムの影響を考察する。
第5回	移動と世代からみる都市と地域の変容	戦後日本社会の変動を、時代に生きる人びとのライフコースと都市と地域の関わりの中で捉える。
第6回	都市と地域における親密性、共同性、公共性の持続と変容	都市・地域の社会変動を親密性、共同性、公共性の持続と変容という観点から整理する。
第7回	資料映像視聴とディスカッション	授業前半で得た視点を用いて、ある地域とそこに生きる人びとの現実を解釈する。
第8回	限界集落と消滅可能性都市	平成初期に提唱された「限界集落」概念の誕生と展開を確認し、人口減少社会の下での都市と地域が直面する課題を捉える。
第9回	広域システムとしての地域	他出子の生活サポートや遠隔地域間連携など、地域社会の自己完結性を相対化する視点を得る。
第10回	田園回帰論の検討	都市－農村連携やCCRCなどを含む近年の田園回帰論の動向について検討する。
第11回	事例研究：災害と都市・地域(1)	災害に関する社会学的研究の基本的視点を得るとともに、災害に直面した地域の実態を把握する。
第12回	事例研究：災害と都市・地域(2)	災害復興政策と地域コミュニティの復興に向けた諸課題を検討する。
第13回	事例研究：災害と都市・地域(3)	「災間」を鍵概念に、地域社会における防災・減災の諸課題を検討する。
第14回	変動する都市と地域	現代社会の社会構造と社会関係を都市と地域を舞台に俯瞰し、都市と地域のガバナンスのあり方について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
考察の対象は多岐にわたるため特に指定しない。

【参考書】
都市と地域の社会学を理解する上では近現代史のリテラシーは欠かすことができない。
安岡健一,2025,『戦後史1945-2025：敗戦からコロナ後まで』中公新書.
を参考書とする。この他、授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
第2回～第13回授業で課す課題（60%）と期末試験（40%）が評価対象となる。前者では授業内容の理解を、後者では都市・地域に生起する社会現象や問題を規定する社会構造とその変動を解明する視点の理解を通じて、現代社会のさまざまな現象や問題を読み解くための基本的視座を獲得し、適切に説明することができるようになったかを評価する。

【学生の意見等からの気づき】
2025年度授業改善アンケートの結果に関しては、特になし。

【Outline (in English)】
The course will focus on cities and regions, and sociologically examine the mechanisms of various social phenomena and problems that appear there, focusing on social structures, groups and organizations, and people's awareness, actions, and relationships. The underlying theme of the course is "Cities and Regions in Flux: Reading from the Dynamism of Time and Space. The goals of this course are to understand how the social problems we face today are temporally and spatially related to social changes in the city and region. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 40%、Short reports: 60%.

SOC200EC（社会学 / Sociology 200）

都市と地域の社会学 II

茅野　恒秀

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　単位数：2単位
曜日・時限：水2/Wed.2

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市と地域を対象として、そこに現れるさまざまな社会現象や社会問題のしくみを、社会構造や集団・組織、人びとの意識や行為・関係の有り様に着目して社会学的に把握する。授業に通底するテーマは【相剋する都市と地域：リスク社会をめぐるイシューから読み解く】である。

【到達目標】
都市と地域をめぐる現代社会の諸問題を素材に、リスクや資源の偏在という問題状況が、都市と地域、そして国家やグローバル社会の権力構造とどのように関連しあっているのかを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP3・DP8・DP10に関連。　DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義とディスカッションを組み合わせて進める。講義では、都市・地域・環境・災害などの領域社会学が培ってきた知見を社会的現実に即して紹介することで、眼前の社会問題を現在形としてのみ捉えるのではなく、その来歴や解決の構想を含め、立体的に把握できるよう努める。受講生には読書ノート、資料映像視聴ノートの蓄積を求め、それらを講義ノートに加えてディスカッションの素材として活用することで、学習の定着と対話の深まりを経験してもらう。
この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	社会問題の噴出点としての都市と地域	現代社会の諸問題を規定する構造的要因に都市と地域のありようがあることを把握する。
第2回	都市化と農村化	都市と農村が近代化を契機に分化した経過とそのメカニズムを歴史社会学的に検討する。
第3回	地域資源管理の前近代と近代	生業や生活と密接に関わる地域資源管理の来歴と近代化への応答過程を検討することを通じて、共的なものが公私へと切り分けられるメカニズムを把握する。
第4回	事例研究：変転する「中央」と「辺境」(1)	特定の地域（長野県諏訪地方を予定）における近現代の経験を事例に、生活環境と社会組織の変動に注目して、現在私たちが経験している地域社会の地政学的な編成が自明のものではないことを考察する。
第5回	事例研究：変転する「中央」と「辺境」(2)	特定の地域（長野県諏訪地方を予定）における近現代の経験を事例に、生活環境と社会組織の変動に注目して、現在進行形の社会問題との要因連関を考察する。
第6回	地域間格差	大都市圏から地方に至る現代地域社会の編成の帰結を地域間格差の視点から読み解き、人びとの社会経済的地位を規定する諸要因への影響を考察する。
第7回	地域開発の構想と現実	日本における地域開発政策を検証した社会学の研究成果を渉猟することを通じて、地域開発のあり方について検証する。
第8回	リスクをめぐる都市と地域	リスク社会論に立脚して、現代の都市と地域に生じている様々なリスクとその偏在について考察する。
第9回	事例研究：エネルギーと都市・地域(1)	特定の地域（青森県下北半島を予定）における近現代の経験を事例に、地域間格差の是正を意図した地域開発の帰結を、エネルギー政策と関連づけて考察する。
第10回	事例研究：エネルギーと都市・地域(2)	特定の地域（青森県下北半島を予定）における近現代の経験を事例に、リスクの偏在と富の分配に関する問題状況と地域社会の応答について考察する。
第11回	事例研究：エネルギーと都市・地域(3)	エネルギー転換という問題状況に即して、現在と未来の都市と地域について考察する。
第12回	地域資源管理の現代的課題	かつて生業や生活と密接に関わってきた地域資源管理が直面するアンダーユースという新たな問題状況を検討することを通じて、人口減少社会における社会問題の解決過程について考察する。
第13回	都市・地域のアクションリサーチ	都市と地域の社会学を実践する上で欠かせないフィールドワーク型の社会調査法について、特に都市・地域に暮らす人びととの共同的実践の可能性について検討する。
第14回	相剋する都市と地域	現代社会において顕在化している社会問題を都市と地域を舞台に俯瞰し、あるべき都市と地域の相互関係について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
考察の対象は多岐にわたるため特に指定しない。

【参考書】
都市と地域の社会学を理解する上では近現代史のリテラシーは欠かすことができない。
安岡健一,2025,『戦後史1945-2025：敗戦からコロナ後まで』中公新書.
を参考書とする。この他、授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
第2回～第13回授業で課す課題（60%）と期末試験（40%）が評価対象となる。前者では授業内容の理解を、後者では都市・地域に生起する社会現象や問題を規定する社会構造とその変動を解明する視点の理解を通じて、現代社会のさまざまな現象や問題を読み解くための基本的視座を獲得し、適切に説明することができるようになったかを評価する。

【学生の意見等からの気づき】
2025年度授業改善アンケートの結果に関しては、特になし。

【Outline (in English)】
The course will focus on cities and regions, and sociologically examine the mechanisms of various social phenomena and problems that appear there, focusing on social structures, groups and organizations, and people's awareness, actions, and relationships. The underlying theme of the course is "Conflicting Cities and Regions: Reading from Issues Concerning Risk Society. The goals of this course are to understand how the problematic situation of risk and resource maldistribution relates to the power structures of cities and regions, as well as the state and global society. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 40%、Short reports: 60%.

POL200EB, POL200EC（政治学 / Politics 200 , 政治学 / Politics 200）

国際関係論 I

二村　まどか

開講時期：春学期授業/Spring　｜　単位数：2単位
曜日・時限：金2/Fri.2

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現在の国際情勢を考察するために必要な概念と分析枠組みについて学ぶ。国際問題を理解する上で重要な3つの理論をとりあげ、それらの基本的な主張を、各理論が生まれ発展する背景となった国際的な文脈に即して考察する。また国際組織、国際法、脱国家的主体にも焦点を当て、国際社会におけるそれぞれの役割と限界を3つの理論を通して考える。

【到達目標】
各理論の分析枠組みを通して、現代の国際情勢と問題を理論的、実証的、規範的に考察し、それぞれの理論が持つ利点と限界を認識・理解できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち, DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。　DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
前半で主要な国際関係学の理論を扱い、後半でそれらの理論を使いながら、国際社会における国際組織、国際法、脱国家的主体の役割を考える。また現在新たに浮上しているグローバリゼーションに伴う問題への視点を模索する。リアクションペーパーは講義の冒頭に提出し、教員がフィードバックを講義内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の予定、進め方、国際関係論の学び方について ＊成績評価について説明します、
2	「国際関係論」とは何か	国際情勢を見るためのさまざまな視点
3	国際関係における理想主義	第一次世界大戦と国際関係学の始まり
4	リベラリズムとリアリズム	第二次世界大戦とリアリズムの台頭
5	冷戦時代の国際関係①：ネオリアリズム	安全保障のジレンマ、「国家はなぜ協調できないのか」
6	冷戦時代の国際関係②：ネオリベラリズム	国際制度の構築、「国家はどのようなときに協調できるのか」
7	冷戦の終わりと国際関係における変化	冷戦の終わりは国際関係に何をもたらしたのか
8	コンストラクティヴィズムと国際規範	国際関係における、理念、文化、社会的側面の重要性
9	国際関係における法の役割	国際法の特徴と機能
10	国際連合	アナーキーな国際システムにおける国連の可能性と限界
11	脱国家的主体	脱国家的主体とは何か、国際関係においてどういう存在か
12	国際関係における人権問題	人権と国家主権の関係
13	国際政治からグローバル政治へ	グローバルな問題と国家の役割
14	まとめ	国際関係の現状について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自で、指定されたテキストを読むことが求められる。加えて、毎講義の冒頭に書くリアクションペーパーの題材のため、毎週国際ニュースをチェックしてくること。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ジョセフ・S. ナイ ジュニア 、デイヴィッド・A. ウェルチ 『国際紛争– 理論と歴史［第 10 版］』（原書房、2017）

【参考書】
授業中に随時紹介。

【成績評価の方法と基準】
平常点（毎講義におけるリアクションペーパー）：30％
期末テスト：70％
＊第1回目の授業で詳しく説明しますので、必ず出席してください。

【学生の意見等からの気づき】
参考資料はできるだけアクセスしやすいものを選びたいと思います。

【Outline (in English)】
In this course, we learn the concepts and theories of international relations to understand ongoing global issues. The course especially focuses on Realism, Liberalism and Constractivism. It also examines the role and function of international law, international organizations, and non-state actors.

SOC100ED（社会学 / Sociology 100）

メディア社会入門Ⅰ

大森　翔子

開講時期：春学期授業/Spring　｜　単位数：2単位
曜日・時限：木1/Thu.1

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
私たちの生活と密接にかかわる「メディア」について、現実社会との結びつきを理解するための基礎概念、基礎理論を学ぶ。加えて、各回で取り上げるトピックに関する最新の知見を学ぶ。

【到達目標】
①メディアと社会の結びつきについて、基礎的な概念・理論を理解し、様々な角度から説明・考察できるようになる。
②メディアと社会に関連する最新の研究について、その位置づけや結果を説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP11に関連。　DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
スライドを用いた講義形式によります。スライドには記載せず、調査・実験例などを紹介することがあります。また、毎回の授業時間内には、学習支援システムを利用して、講義内容に関する質問に回答してもらい、リアクションペーパーとして提出してもらいます。翌週授業の冒頭でリアクションペーパーの質問について解説を行います。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義で扱う「メディア社会」の射程
第2回	メディアの登場と社会(1)	マスメディア登場以前の情報伝達
第3回	メディアの登場と社会(2)	新聞の登場、発達
第4回	メディアの多様化と社会(1)	ラジオ放送、テレビ放送の開始、発達
第5回	メディアの多様化と社会(2)	ケーブルテレビの発達・テレビニュースの「娯楽化」
第6回	インターネットメディアの登場と社会(1)	インターネット技術とメディアの融合
第7回	インターネットメディアの登場と社会(2)	伝統メディアのインターネット進出
第8回	SNSメディアの登場と社会	SNSメディアの登場が社会に与えた影響を考える
第9回	地域とメディア	地域でのメディア活用を中心に学ぶ
第10回	行政サービスとメディア	行政サービスにおけるメディア活用と問題について考える
第11回	副産物的学習とメディア	メディア利用による副産物的学習と現在のメディア環境について考える
第12回	社会的リアリティとメディア(1)	「社会的リアリティ」の共有について考える
第13回	社会的リアリティとメディア(2)	社会的分断とメディア
第14回	期末試験	学期末試験を行い、理解内容を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のものは使用しません。授業では教員作成の資料を配布、またトピックごとの参考文献を授業中に紹介します。

【参考書】
井川充雄・木村忠正 編（2022）『入門メディア社会学』ミネルヴァ書房.
辻泉・南田勝也・土橋臣吾 編（2018）『メディア社会論』有斐閣.
津田正太郎（2016）『メディアは社会を変えるのか―メディア社会論入門』世界思想社.
池田謙一（2013）「社会のイメージの心理学―ぼくらのリアリティはどう形成されるか」サイエンス社.

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパーの内容にもとづく平常点(20%)、期末試験(80%)の合計をもって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
授業冒頭に実施するリアクションペーパーの内容紹介が好評のため、今年度も行います。

【学生が準備すべき機器他】
毎回の授業では学習支援システムを通じてスライドを配布するので、ダウンロードをし、授業中に紙・電子媒体でアクセスできるようにしてください。また、毎回の授業でLMSシステムを通じてリアクションペーパーを提出することが求められるので、提出可能な電子機器を準備してください。

【Outline (in English)】
In this course, students learn the basic concepts and theories of "media," which are closely related to our daily lives, in order to understand their connection to the real world. In addition, students will learn the latest findings on the topics to be covered in each session.
By the end of the course, students should be able to do the followings:
-A. Understand the basic concepts and theories of the connection between media and society, and be able to explain and discuss them from various perspectives.
-B. Explain the position and results of current research related to media and society.
Except for the first class, students are required to review the contents of the previous class by reading the distributed slides and notes taken by the students themselves. When instructed, students should read the literature in advance. The standard preparation and review time for this class is 2.5 hours each. Your overall grade in the class will be decided based on the content of the reaction paper(20%) and final exam(80%).

MAN200EB, MAN200ED（経営学 / Management 200 , 経営学 / Management 200）

消費者行動論

諸上　茂光

開講時期：春学期授業/Spring　｜　単位数：2単位
曜日・時限：水2/Wed.2

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現在のマーケティング戦略において，消費者がどのように商品・サービス，或はブランドなどの情報に接し，それらの情報を利用して最終的な購買行動を起こすのかを把握することは効果的な戦略の構築のためにも重要なことである．
本講義では実際のマーケティング戦略の実例に触れながら消費者の認知や情報収集・態度形成・意思決定過程といった消費者行動のメカニズム，さらに，それらの処理に影響を与える外部環境要因について，社会心理学・認知心理学・経営学など学際的な視点に基づいて体系的に学習する．

【到達目標】
消費者がある製品・サービスに出会ってから実際の購買行動に至るまでの消費者の認知的・心理的特性について理解した上で，常に変化する市場や消費者動向に対応した効果的な消費者コミュニケーション戦略及びマーケティング戦略のあり方について考察・提案できるようになることを目標とする．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP3・DP6・DP7・DP11に関連。　DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義形式で進める．授業内においてテーマに応じて随時ディスカッションを行ったり，リアクションペーパーの提出を求める．提出されたリアクションペーパーからいくつか良いものを取り上げ，全体に対してフィードバックを行う．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	ガイダンス	授業概要
2.	消費者行動とマーケティング	マーケティング戦略における消費者心理・消費者行動の位置付け
3.	消費者の購買意思決定過程	情報入力から始まる各種意思決定モデルの紹介
4.	消費者の欲求と動機づけ	購買の動機について理解し，その調査方法について概観する
5.	消費者の知覚特性	心理学的な観点も取り入れ，消費者の知覚特性を理解
6.	消費者の情報探索と評価	消費者による商品・サービスに関する情報の探索と評価について
7.	消費者の記憶特性	広告等を通して与えられるブランド・商品情報に対する注意と記憶について
8.	消費者の態度形成と変容	消費者の評価と態度形成の過程およびその変容の仕組み
9.	消費者の関与	関与の概念の理解と，消費行動への影響について
10.	消費者行動の状況要因	状況依存的に変化する消費者の意思決定について事例を基に理解 ＜ゲスト講師登壇予定＞
11.	消費者の個人特性	消費者の統計学的・心理学的なセグメント分けと心理過程への影響
12.	マーケティング調査	消費者調査および市場調査の実際について
13.	対人関係と消費者行動	対人関係が消費者の情報探索行動や意思決定にもたらす影響について
14.	消費者の購買後行動	購買後行動と，ブランドロイヤリティの形成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定しない．

【参考書】
『新・消費者理解のための心理学』（杉本徹雄編著，福村出版）

【成績評価の方法と基準】
小レポート類(30%)と期末試験（70％）による総合評価.

【学生の意見等からの気づき】
グループ討議を多く（なるべく授業の冒頭で）取り入れることとした（対面授業時）.

【その他の重要事項】
ゲスト講師の登壇回については講師との話し合いにより前後する可能性があります.

【Outline (in English)】
The aim of this course is to obtain the basic concepts and principles of consumer psychology.
Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content Experiment/Practice.
Your overall grade in the class will be decided based on the followings: Term-end examination: 70%, Short reports : 30%.

COT200ED（計算基盤 / Computing technologies 200）

消費者行動モデリング

諸上　茂光

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　単位数：2単位
曜日・時限：水2/Wed.2
備考（履修条件等）：受講にはプログラミング入門の修得が必要。受講許可が必要。学科優先科目。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年のIOT技術の急速な進歩やビッグデータが積極的な活用は、今後マーケティング戦略の構築方法にも大きな変革をもたらすことが予想される．従来よりもオンタイムに様々な消費行動に関係するデータが技術的に得られることは、一方でそのデータをどのように扱って次のマーケティング戦略構築に利用するべきかを学ぶ必要が出てきたことも意味する．本演習では、実際のマーケティングデータを用い，統計的な手法によって様々な「消費者の行動」をどのようにモデル化し，シミュレーションを行えばよいのかを習得する．

【到達目標】
身近な消費者行動を観察し，そこから観測すべき変数を決定し，モデル化を行い，数値シミュレーションを行う一連の過程を行えるようになること，および，そのシミュレーション結果から新しい提案ができるようになることを目標とする．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP11に関連。　DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
第10回までの授業は，各回前半の講義部分と後半の演習部分に分かれており，消費者の分析に必要な量的調査の基本的な技法を習得する．
その上で第11回以降はグループに分かれ，グループワークによって実際のマーケティングを題材に消費者行動の分析モデルを作成する．各提出課題や，グループワークの途中成果については随時授業の中でフィードバックを行う．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	ガイダンス	実習内容の説明
2.	統計的基礎の復習	相関分析を行いながら統計的な基礎を確認
3.	単回帰分析とモデル化（1）	単回帰分析による消費者行動の予測モデルの構築
4.	単回帰分析とモデル化（2）	単回帰分析による消費者行動の分析
5.	重回帰分析とモデル化（1）	重回帰分析による消費者行動の予測モデルの構築
6.	重回帰分析とモデル化（2）	重回帰分析による消費者行動の分析
7.	数量化Ｉ類を用いた分析とモデル化（1）	数量化Ｉ類を用いたカテゴリーデータの利用について
8.	数量化Ｉ類を用いた分析とモデル化（2）	カテゴリーデータも利用した消費者行動の予測モデルの構築
9.	コンジョイント分析とモデル化（1）	コンジョイント分析の説明とコンジョイントカードの作成
10.	コンジョイント分析とモデル化（2）	コンジョイント分析の実施と消費者行動モデルの構築
11.	最終課題制作（1）	モデル化する消費者行動の探索（グループワーク）
12.	最終課題制作（2）	調査の作成（グループワーク）
13.	最終課題制作（3）	分析とモデル化（グループワーク）
14.	成果発表	発見した事実の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない．
必要に応じて適宜プリント配布を行う．

【参考書】
授業内で随時紹介する．

【成績評価の方法と基準】
授業内課題（60％）と最終課題（40％）による総合評価．

【学生の意見等からの気づき】
多様なバックボーンを持った学生が主体的に参加できるようにグループワークを取り入れている．

【学生が準備すべき機器他】
授業は情報実習室で行います．

【Outline (in English)】
This course deals with the consumer behavior models. It also enhances the development of students' skill in data analysis and simulating.
By the end of the course, students should be able to do the followings:
- Simulate and analyze consumer behavior models.
- Propose marketing strategy based on result of analysis.
Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content Experiment/Practice.
Your overall grade in the class will be decided based on the followings:
Term-end examination: 40%, Short reports : 60%.

MAN300ED（経営学 / Management 300）

マーケティング実践

諸上　茂光

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　単位数：2単位
曜日・時限：水4/Wed.4
備考（履修条件等）：受講にはプログラミング入門の修得が必要。受講許可が必要。学科優先科目。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
競争力のある商品開発や，訴求力のある広告活動を行うためには，消費者心理に関する理論的な基礎と，妥当性の高いアンケート調査やその分析の遂行に基づいたマーケティング戦略の立案が重要である．そのため，本授業では，実際のマーケティング課題を題材に，同一モジュールですでに履修した「消費者行動論」における消費者の心理の理解と「消費者行動モデリング」で習得した消費者の分析技法を駆使し，実践的なマーケティング戦略の構築を行う．

【到達目標】
消費者心理の理論と分析技法に基づいた，マーケティング戦略の企画と発表を行えるようになること．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち, DP1・DP2・DP3・DP4・DP12に関連。DP についてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
実際の商品開発やブランディング等の課題を題材に，消費者心理や行動に関する理論や各種データ，シミュレーション手法などを使用し，グループワークによりマーケティング戦略を構築し，発表を行う．中間報告や最終報告に対し，講評を行う．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	ガイダンス	実習内容の説明，グルーピング等
2.	マーケティング戦略の立案１	市場分析・ポジショニング分析
3.	マーケティング戦略の立案２	ニーズの把握
4.	課題のキックオフ	取り組む課題と制約条件の確認，質疑応答（キックオフミーティング）
5.	課題の分解	課題の客観的な分析
6.	戦略の構築活動１	課題の分析（現状分析）
7.	戦略の構築活動２	ゴールの設定
8.	調査1	ヒアリング調査・アンケート調査の実施
9.	調査2	調査結果の分析
10.	中間報告会	各グループ活動の中間報告と質疑応答
11.	課題解決活動1	中間報告での質疑応答を受けた戦略の再検討
12.	課題解決活動2	データの分析と効果考察
13.	課題解決活動3	提案資料の作成
14.	最終発表	構築した課題解決の戦略について発表を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない．
必要に応じて適宜プリント配布を行う．

【参考書】
授業内で随時紹介する．

【成績評価の方法と基準】
実践活動における平常点（50％）と最終発表（50％）による総合評価．

【学生の意見等からの気づき】
多様なバックボーンを持った学生が主体的に参加できるようにグループワークを取り入れている．

【Outline (in English)】
The aim of this course is to develop the students' skill in making marketing strategies.
Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content Experiment/Practice.
Your overall grade in the class will be decided based on the followings:
Term-end presentation:40%,In class contribution: 60%

FRI200ED（情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200）

メディアテクノロジーと社会

橋爪　絢子

開講時期：春学期授業/Spring　｜　単位数：2単位
曜日・時限：水3/Wed.3

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　メディアテクノロジーの発展と、それに伴う社会における課題について考えます。また、それらの諸課題を解決するための設計の基礎として、ユーザ中心設計の基本概念と考え方について学びます。

【到達目標】
(1) ユーザ中心設計の基本概念と設計プロセスにおける各活動の理解
(2) メディアテクノロジーの発展に伴う社会における諸課題の理解

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP11に関連。　DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　以下のテーマについて、主に講義形式で授業を行いますが、内容の理解を深めるために、適宜グループワーク等を入れたり、ゲストを招聘したりします。
　前回までに提出されたリアクションペーパーや課題などの内容、および得られたコメントから、授業のはじめにいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。
　なお、授業計画は授業の展開によって、若干変更する場合があります。状況に応じて、オンラインで実施する回が入る場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	ユーザとインタフェース1	ユーザの多様性
3	ユーザとインタフェース2	インタフェースにおけるインタラクション
4	生活の中のメディアテクノロジー	コンピュータの浸透と生活の変化
5	アンユーザブルなコンピュータ	ユーザビリティの概念の誕生
6	設計プロセス1	設計プロセスの基本
7	設計プロセス2	ユーザ中心設計の活動の進め方
8	インタフェースデザイン1	デザインと設計、デザインアプローチの基本
9	インタフェースデザイン2	人間工学、人間の身体・生理的特性を考慮したデザイン
10	インタフェースデザイン3	認知工学、人間の認知的特性を考慮したデザイン
11	テクノロジーとの共生1	記憶の支援、情報へのアクセス
12	テクノロジーとの共生2	人間の社会的側面を支援するテクノロジー
13	テクノロジーとの共生3	ソーシャルネットワークの構造とネット炎上
14	テクノロジーとの共生4	VRとAR、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
　橋爪絢子・黒須正明著（2022）「現場の声から考える人間中心設計」共立出版（ISBN：978-4-320-07200-8）

【参考書】
　黒須正明・橋爪絢子著(2021)「HCDライブラリー第5巻：人間中心設計におけるユーザー調査」近代科学社（ISBN：978-4-7649-0635-8）

【成績評価の方法と基準】
　平常点100%。
　授業への参加の姿勢や貢献、提出物の提出状況と内容等で判断します。

【学生の意見等からの気づき】
　特にありません。

【Outline (in English)】
We will consider the development of media technology and the resulting issues in society. We will also learn basic concepts and ideas of the User Centered Design (UCD) as a basis for the design so that we can solve related issues.
The final grade will be based on the final exam (50%) and the usual performance score (50%). The usual performance score includes contribution to the class, reaction papers, and small reports.

FRI200ED（情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200）

メディアテクノロジーと社会分析

橋爪　絢子

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　単位数：2単位
曜日・時限：水3/Wed.3

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　メディアテクノロジーのユーザに着目しながら、ユーザ中心設計の設計プロセスで用いられる手法について学び、それらの技法を習得します。

【到達目標】
(1) ユーザ中心設計の各活動で用いる手法の理解
(2) メディアテクノロジーのユーザを理解するためのスキルの習得

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP11に関連。　DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　授業は、講義と実践のための個人ワークもしくはグループワークで行います。分析に関する理解を深めるために、見学やゲストによる講義を行うことがあります。
　前回までに提出されたリアクションペーパーや課題などの内容、および得られたコメントから、授業のはじめにいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。
　なお、授業計画は授業の展開によって、若干変更する場合があります。状況に応じて、オンラインで実施する回が入る場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	ユーザ調査の流れ	ユーザ中心設計におけるユーザ調査、調査の準備
3	ユーザ調査で用いる手法1	UXグラフを用いたUX評価
4	ユーザ調査で用いる手法2	経験想起法の分析
5	ユーザ調査で用いる手法3	ダイアリー法の記録
6	ユーザ調査で用いる手法4	ユーザの特性やユーザの利用状況をより理解するための工夫
7	ユーザ調査の実施1	実施時の注意点の学習
8	ユーザ調査の実施2	RQの作成
9	ユーザ調査の実施3	調査の実施、音声の録音
10	ユーザ調査の実施4	書き起こしデータの作成、提出
11	結果の分析1	KJ法による分析
12	結果の分析2	SCATによる分析
13	結果の分析3	要求事項の明確化、ペルソナとシナリオの作成
14	分析のまとめ	分析の講評、その後の設計プロセス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
　黒須正明・橋爪絢子著(2021)「HCDライブラリー第5巻：人間中心設計におけるユーザー調査」近代科学社（ISBN：978-4-7649-0635-8）

【参考書】
　橋爪絢子・黒須正明著（2022）「現場の声から考える人間中心設計」共立出版（ISBN：978-4-320-07200-8）

【成績評価の方法と基準】
　平常点100%。
　授業への参加の姿勢や貢献、提出物の提出状況と内容等で判断します。

【学生の意見等からの気づき】
　特にありません。

【学生が準備すべき機器他】
　パソコンとOffice系ソフトウェア(Word、Excel、PowerPoint)、学習支援システム、電子メール、Google Classroomなどを使用します。

【その他の重要事項】
　本授業は、春学期の「メディアテクノロジーと社会」の受講を前提としています。また、前の回での課題をその後の回での課題で使用するため、全ての回への出席と課題の提出が求められます。

【Outline (in English)】
We will learn methods used in the User Centered Design (UCD), and acquire these skills by taking into account of the user of media technology.
In order to understand the content of the class, students are expected to spend a total of four hours before and after each class.
The final grade will be evaluated based on the usual performance score (100%), including the attitude of participation in the class, the contribution to the group, and the content of the submission.

SOC200EB, SOC200ED（社会学 / Sociology 200 , 社会学 / Sociology 200）

ソーシャルメディア論

藤代　裕之

開講時期：春学期授業/Spring　｜　単位数：2単位
曜日・時限：水2/Wed.2

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
誰もが発信できるソーシャルメディアの登場は、社会に大きな変化をもたらしています。この授業では、ソーシャルメディアに関連する歴史、技術、法という基本概念を踏まえ、ニュースや広告などに関する課題を学びながら、ソーシャルメディアが社会にもたらす可能性と課題を考えることを目的としています。

【到達目標】
ソーシャルメディアが社会にもたらす可能性と課題を考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP5・DP11 に関連。　DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は教科書の予習・復習を前提に進めます。提出された課題に対するフィードバックを行うことで、授業の理解を深めます。現在進行形で起きるメディアと社会の問題を扱うため、ゲストの招聘、時事問題への対応などで、授業計画を変更することがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業概要の説明
第2回	歴史を知る	ソーシャルメディアの歴史
第3回	歴史を知る	ソーシャルメディアの技術
第4回	歴史を知る	ソーシャルメディアの法
第5回	現在を知る	ソーシャルメディアとニュース
第6回	現在を知る	ソーシャルメディアと広告
第7回	現在を知る	ソーシャルメディアと政治
第8回	現在を知る	ソーシャルメディアとキャンペーン
第9回	現在を知る	ソーシャルメディアと都市
第10回	現在を知る	ソーシャルメディアとコンテンツ
第11回	現在を知る	ソーシャルメディアとモノ
第12回	未来を考える	ソーシャルメディアと社会課題解決（地域）
第13回	未来を考える	ソーシャルメディアと社会課題解決（共同規制）
第14回	未来を考える	ソーシャルメディアと社会課題解決（システム）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
藤代裕之編（2019年）『ソーシャルメディア論・改訂版：つながりを再設計する』青弓社

【参考書】
授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験40%、平常点60%。平常点は、授業中の発言や質問、リアクションペーパーの内容で判断します。

【学生の意見等からの気づき】
予習・復習に対する授業内フィードバックが好評なので継続します。

【その他の重要事項】
受講希望者は必ずガイダンスに出席して、授業の方針を確認してください。

【Outline (in English)】
This course will introduce the fundamental concepts, history, law, and technology of social media.
The goals of this course are to understanding social media.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 40%、in class contribution: 60%

SOC200ED（社会学 / Sociology 200）

ソーシャルメディア分析

藤代　裕之

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　単位数：2単位
曜日・時限：水2/Wed.2

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
誰もが発信できるソーシャルメディアの登場は、社会に大きな変化をもたらしています。中でもソーシャルリスニングと呼ばれる生活者の口コミ投稿の分析は、メディアに関わる企業だけでなく、メーカーやサービス業のマーケティング活動においても必要不可欠となっています。本授業は、ソーシャルリスニングにより生活者のインサイトを洞察する手法を学ぶことで、ジャーナリズムやマーケティングなどに生かすことができる能力を身につけることを目的としています。

【到達目標】
ソーシャルリスニングにより生活者のインサイトを洞察できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP11に関連。　DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は予習・復習を前提に進めます。講義形式とグループワークを組み合わせて行います。提出された課題に対するフィードバックを行うことで、授業の理解を深めます。企業見学の実施やゲストによる講義が行われることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業概要と目的
第2回	概論	ソーシャルメディアと消費行動
第3回	概論	社会記号の力
第4回	概論	ソーシャルメディアとキャンペーン
第5回	概論	炎上の構造
第6回	概論	ステルスマーケティング
第7回	概論	ソーシャルリスニング
第8回	分析	量的観察手法
第9回	分析	質的観察手法
第10回	分析	データの収集
第11回	分析	データの分析
第12回	分析	関連情報の検討
第13回	分析	インサイトの洞察
第14回	まとめ	分析結果の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
嶋浩一郎・松井剛（2017）『欲望する「ことば」社会記号とマーケティング』集英社新書

【参考書】
嶋浩一郎（2024）『「あたりまえ」のつくり方 —— ビジネスパーソンのための新しいPRの教科書』NewsPicksパブリッシング
博報堂生活総合研究所（2021年）『デジノグラフィ インサイト発見のためのビッグデータ分析』宣伝会議

【成績評価の方法と基準】
期末レポート40%、平常点60%。平常点は、提出課題の内容、グループワークやディスカッションへの貢献で判断します。

【学生の意見等からの気づき】
予習・復習に対する授業内フィードバックが好評なので継続します。

【学生が準備すべき機器他】
データの収集分析やプレゼンテーションにパソコン、ソフトを使用します。

【その他の重要事項】
本授業は「ソーシャルメディア論」の受講を前提としています。受講希望者は必ずガイダンスに出席して授業方針を確認してください。連続性を持った構成となっているため、原則としてすべての回に出席する必要があります。

【Outline (in English)】
In this course, students will learn methods about social media data analysis.
The goals of this course are to understanding social media data analysis.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end reports: 40%、in class contribution: 60%

LANe200EA（英語 / English language education 200）

Content-Based English B Ⅰ（Global Issues）

二村　まどか

開講時期：春学期授業/Spring　｜　単位数：2単位
曜日・時限：月3/Mon.3
備考（履修条件等）：Lower Intermediate～Advanced,参考TOEICスコア300～。受講許可が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際問題を幅広く扱う英国の新聞雑誌『The Economist』の記事と学術論文を読みながら、難易度の高い英文に触れると同時に、国際関係の時事問題（平和、人権、開発など）ついての理解を深める。

【到達目標】
論説記事や学術論文の英語に慣れ、要点を理解しながらメリハリをつけて読むことができるようになることを目指す。講読した文献の簡単な要約を【英文で】作れるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP4 に関連。
DP についてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
3～4本の論説記事と1本の学術論文を読み終えることを目指す。重要・難解な個所は逐語訳を行うが、通常は各文・パラグラフの要点をつかみながら、読み進める。また記事の内容の背景についても説明を行う。提出された課題のフィードバックも授業中に行う。授業計画は授業の展開によって若干の変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方、予習の仕方、課題（英文要約）について ＊成績評価について説明します。
2	The Economistの記事①	テキストの和訳と内容把握
3	The Economistの記事①	テキストの和訳と内容把握
4	The Economistの記事①	テキストの和訳と内容把握
5	The Economistの記事②	テキストの和訳と内容把握
6	The Economistの記事②	テキストの和訳と内容把握
7	国際関係に関する学術論文	テキストの和訳と内容把握
8	国際関係に関する学術論文	テキストの和訳と内容把握
9	国際関係に関する学術論文	テキストの和訳と内容把握
10	国際関係に関する学術論文	テキストの和訳と内容把握
11	The Economistの記事③	テキストの和訳と内容把握
12	The Economistの記事③	テキストの和訳と内容把握
13	The Economistの記事④	テキストの和訳と内容把握
14	The Economistの記事④	テキストの和訳と内容把握

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前に必ず予習を行い、わからない単語を調べ、テキストの大意をつかんでくること（逐語訳をしてくる必要はない）。各文献を読み終えた後、【英文要約】（300-400 words）を提出すること。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
英国の新聞雑誌『The Economist』の論説記事と学術雑誌 『Ethics & International Affairs』の論文を用いる。テキストは授業で配布する。

【参考書】
授業中に適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業内の応答：テキストの和訳、リアクション・ペーパーのコメント、ディスカッションへの参加など）40 %
課題の提出（各記事の英文要約）60 %
＊初回の授業で詳しく説明しますので、必ず出席してください。

【学生の意見等からの気づき】
扱う文章も内容も簡単ではありませんが、毎回学生の達成感は高いようです。難しい英語・内容をどれだけみんなで解きほぐしていけるかを模索しています。

【Outline (in English)】
This course uses articles from The Economist and academic journals to enhance English reading skills as well as knowledge on global issues. Students are required to go through the materials before the class and grasp the content and check the vocabulary. After reading each material, students are asked to submit a short summary in English. Students are assessed buy submitted summaries and their class participation. The course is for those with intermediate and advanced English level.

LANe300EA（英語 / English language education 300）

Content-Based English B II（Global Issues）

二村　まどか

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　単位数：2単位
曜日・時限：月3/Mon.3
備考（履修条件等）：Lower Intermediate〜Advanced,参考TOEICスコア300〜。受講許可が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際問題を幅広く扱う英国の新聞雑誌『The Economist』の記事と学術論文を読みながら、難易度の高い英文に触れると同時に、国際関係の時事問題（平和、人権、開発など）ついての理解を深める。

【到達目標】
論説記事や学術論文の英語に慣れ、要点を理解しながらメリハリをつけて読むことができるようになることを目指す。講読した文献の簡単な要約を【英文で】作れるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP4に関連。　DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
3〜4本の論説記事と1本の学術論文を読み終えることを目指す。重要・難解な個所は逐語訳を行うが、通常は各文・パラグラフの要点をつかみながら、読み進める。また記事の内容の背景についても説明を行う。提出された課題のフィードバックも授業中に行う。授業計画は授業の展開によって若干の変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方、予習の仕方、課題（英文要約）について ＊成績評価について説明します。
2	The Economistの記事①	テキストの和訳と内容把握
3	The Economistの記事①	テキストの和訳と内容把握
4	The Economistの記事①	テキストの和訳と内容把握
5	The Economistの記事②	テキストの和訳と内容把握
6	The Economistの記事②	テキストの和訳と内容把握
7	国際関係に関する学術論文	テキストの和訳と内容把握
8	国際関係に関する学術論文	テキストの和訳と内容把握
9	国際関係に関する学術論文	テキストの和訳と内容把握
10	国際関係に関する学術論文	テキストの和訳と内容把握
11	The Economistの記事③	テキストの和訳と内容把握
12	The Economistの記事③	テキストの和訳と内容把握
13	The Economistの記事④	テキストの和訳と内容把握
14	The Economistの記事④	テキストの和訳と内容把握

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前に必ず予習を行い、わからない単語を調べ、テキストの大意をつかんでくること（逐語訳をしてくる必要はない）。各文献を読み終えた後、【英文要約】（300-400 words）を提出すること。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
英国の新聞雑誌『The Economist』の論説記事と学術雑誌『Ethics & International Affairs』の論文を用いる。テキストは授業で配布する。

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業内の応答：テキストの和訳、リアクション・ペーパーのコメント、ディスカッションへの参加など）40 %
課題の提出（各記事の英文要約）：60 %
＊初回の授業で詳しく説明しますので、必ず出席してください。

【学生の意見等からの気づき】
扱う文章も内容も簡単ではありませんが、毎回学生の達成感は高いようです。難しい英語・内容をどれだけみんなで解きほぐしていけるかを模索しています。

【Outline (in English)】
This course uses articles from The Economist and academic journals to enhance English reading skills as well as knowledge on global issues. Students are required to go through the materials before the class and grasp the content and check the vocabulary. After reading each material, students are asked to submit a short summary in English. Students are assessed buy submitted summaries and their class participation. The course is for those with intermediate and advanced English level.

BLS100JA（生物科学 / Biological science 100）

生命の科学 II

鞠子　茂

配当年次／単位数：1〜4年次／2単位
備考（履修条件等）：社会学部主催科目。社会学部科目名称【環境生態学】

その他属性：〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生態学をベースとして環境と生物の関わり，生態系サービス，環境問題について講義し，人間社会と自然環境の調和について考究する。

【到達目標】
多種多様な環境問題の理解と解決に資する環境リテラシーを習得し、人類存続を可能とする規範やライフスタイルを大胆に発想する能力を獲得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
対面授業を実施し，毎回配布資料をWebClassで事前配布。毎回，授業への参加，理解度を確認するためのレポートを課し，次の授業でフィードバック。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスとクマの出没問題から生態学を知る	授業の進め方を説明し，生態学とはどんな学問かを具体的に概説する
第2回	環境という言葉はなぜ生まれたのか	主体環境系の概念を解説し，環境要因の分類と性質について学ぶ
第3回	環境が生物の多様性をもたらすしくみ	環境の空間変動が生物と生態系の多様性をつくり出すしくみを解説する
第4回	数十年後の多摩キャンパスは冬でも緑の森となる	生態系が時間とともに変化するパターンとメカニズムについて解説する
第5回	雑草は本当は弱い存在だが戦略をもって生きている	生物の環境適応戦略について具体例を挙げて説明する
第6回	生態系から受け取る恩恵の経済価値は？	生態系サービスの基本と経済価値について学ぶ
第7回	人間の欲と無知が生む生態系からのしっぺ返し	生態系サービスの持続的享受の条件を考える
第8回	公害から学ぶべきこと	公害の原点である水俣病を例にして科学リテラシーの必要性について考える
第9回	外来生物は本当に悪者なのか	外来種問題の本質を追究し，その是非論について考究する
第10回	地球環境問題におけるウソとホント	地球環境問題の是非論について最新のデータをもとに論述する
第11回	地球温暖化が生物および生態系に与える影響	地球温暖化が生物と生態系に与える影響について最新の成果を紹介する
第12回	ヒトの論理と人間の論理	ヒト社会と人間社会の違いから現代社会を考える
第13回	人類の存続のためにすべきこと・試験範囲	環境生態学の視点から人類存続のためになすべきことを論じたあとに，試験範囲を説明する
第14回	試験・まとめと解説	授業全体のまとめをした後，試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
「生態学は環境問題を解決できるか? 」巌佐庸・伊勢武史著，(2020)

【成績評価の方法と基準】
〔配分〕期末試験（70 %），平常点（30 %）

【学生の意見等からの気づき】
分かりやすい配布資料の作成

【Outline (in English)】
In this course, students will learn the basics of environmental ecology, and should be able to acquire environmental-science literacy. Students will be expected to spend four hours for preparation and review. Grading policy: final exam (60%) and short-reports (40%).

MAT100JA（数学 / Mathematics 100）

基礎数学 II

中田　行彦

配当年次／単位数：1〜4年次／2単位
備考（履修条件等）：社会学部主催科目。
その他属性：〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然界の現象や，生活の中の現象の仕組みは，様々な「数学」のもとに成り立っているものが多い．この講義では，高校数学で学んだ基礎的な内容の中から数列と微分に関して，その基礎から経済・経営学に関する具体的な問題への応用を学ぶ．

【到達目標】
数列に関しては高校で学んだ等差数列・等比数列さらに無限級数を復習し「金利」のシステムへの応用を学ぶ．次に，変化する量を調べる際に多用される「微分」を応用して，経済活動の変化の様子を調べることを学ぶ事を目的とする，ここで学んだ基礎的な内容を，専門学習に役立ててほしい．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
Zoomによる講義では，具体的な問題を考えながら，その仕組みの基礎を学ぶ．黒板で説明することをしっかりノートに記録し，授業後に自己学習にて身につけて欲しい．この科目は、一つ一つの積み重ねの学問であるので，前回までの復習を前提として授業を進める．授業内で行うテストに関しては、採点した結果を返却し、授業内では問題の解説を行うので、間違えている部分は各自確認し、必ず復習すること．授業内でグループディスカッションを行う．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび数列の基本	講義の進め方および成績評価についての説明と、等差数列と等比数列について学ぶ。
2	利息のお話	単利と複利の話.
3	積み立て預金の話し	数列の和の存在性と積立預金への応用を学ぶ.
4	物やお金は，時とともに価値が変わる？	現在価値と将来価値の概念を導入する。
5	借金の仕組み	現在価値と将来価値の概念と．借金の仕組みを学ぶ.
6	数列の極限と無限級数	数列の極限値について，その概念と極限値の求め方を学ぶ.
7	関数の極限	関数の極限値を学ぶ
8	極限値と微分	極限値の概念と，関数の微分可能性について学ぶ.
9	導関数	簡単な関数について，その微分と導関数の導出方法を学ぶ.
10	導関数の幾何学的意味	導関数と関数の増減の関係を学ぶ.
11	微分の応用（１）	一般の多項式関数について関数の増減表・グラフの概形を学ぶ.
12	微分の応用（２）	経済に表れるいくつかの関数と利潤関数について学ぶ.
13	微分の応用（３）	いくつかの条件の下で，利潤最大化を考える.
14	まとめ	前回までの講義内容のまとめと総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「きちんとわかる経済経営数学入門（数列微分編）」鈴木麻美・内藤敏機著，牧野書店.（現在廃刊になっているために、生協が授業内で使用する部分のみを印刷し販売する）

【参考書】
1.「例題で学ぶ入門・経済数学〈上〉」 エドワード・T. ドウリング (原著), 大住 栄治 (著), 川島 康男 (著), シーエーピー出版.
2.「金利利息のしくみがわかる本」」小向 宏美 (著), 古橋 隆之 (監修), 総合法令出版.

【成績評価の方法と基準】
授業中課題(50%)と期末試験(50%)により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
数列・微分はほとんどの学生が高校で学んだ経験があるようであるが，この講義のような具体的な問題との関連性を考えることは，初めて学生が多い．また、高校では極限や微分の原理をきちんとは学んでいない様子。この講義の中ではこうした数学の原理・定義をしっかりと学ぶことを大切にしているために、既に高校で数列・微分・積分を学習しているの学生も、新たな気持ちでしっかりと数学を学び、さらに数学をより身近な学問として捉えてくれることを期待している。

【Outline (in English)】
Many phenomena in nature and many mechanisms in life are constructed on various "mathematics". Therefore, in this lecture, especially we learn sequence and differential calculus, furthermore we lean some examples in economic problems and business problems.
The purpose of this lecture is to lean a system of interest rate making use of sequences and to lean an economic activity making use of differentiation of functions. Each student must prepare and revise completely.

ARSk100JB,ARSk200JC（地域研究（地域間比較） / Area studies(Interregional comparison) 100 , 地域研究（地域間比較） / Area studies(Interregional comparison) 200）

地域問題入門

野田　岳仁

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、地域社会が抱えるさまざまな社会的な課題に対して、現場に暮らす人びとの立場からの解決を模索することを目的とする。地域づくり、観光、地域福祉、災害、環境問題をテーマにしたケーススタディを扱うなかで、人びとの創造性や地域社会の志向性を捉えながら、問題解決につながる政策論を構想していく。

【到達目標】
地域社会が抱える諸課題に対して、現場の人たちが考える問題の本質とはどのようなものであるのかを見極める力を養うこと。そのうえで、現場に暮らす人びとが納得し、満足できるような政策論を構想する力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本講義は知識を覚えることよりも、地域問題を理解する際の”考え方”を身につけることに重点をおいた実践的な講義である。受講生には、理想論や常識的な考え方にとらわれることなく、現場の人びとの立場に立って問題の本質を見極めることを求める。DVDなどの視覚資料を積極的に活用する。授業の展開によって若干の変更がありうる。授業計画に変更がある場合は学習支援システムにて適時提示する。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地域問題を捉える視座	現場に暮らす人びとの立場から
第2回	地域社会を理解する視点①	むらの暮らしと生活文化
第3回	地域社会を理解する視点②	むらの共同性と社会関係
第4回	地域社会が担ってきた教育と福祉	社会的親と平凡教育
第5回	地域問題としての環境汚染	水はなぜ汚れるのか？
第6回	水辺空間管理と地域づくり	コモンズと弱者生活権
第7回	地域社会の合意形成はいかにして可能か？	住民参加と地域づくり
第8回	コミュニティづくりはなぜうまくいかないのか？	地域コミュニティとNPO・NGO
第9回	自然災害と災害文化	なぜ人びとは雪崩が予測できると語るのか？
第10回	原発災害とコミュニティ	被災者にとっての”被害”とは？
第11回	魅力ある景観形成と地域づくり	町並み保全と地域づくり
第12回	環境と観光はどのように両立されるのか？	ローカル・ルールを守る観光まちづくり
第13回	地域問題の理論と実践	生活環境主義の立場から
第14回	講義のまとめと試験	本講義の知見と有効性の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の振り返りは不可欠となる。毎回配布するレジュメには参考文献を記載しておくので必要に応じて参照すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
毎回資料を配布する。

【参考書】
配布資料に参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
講義内のコメントやリアクションペーパー（10%）と期末試験（90%）の総合評価。到達目標が達成されているかを確認する。

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパー等を通じて学生からのコメントを適宜授業内容に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを積極的に活用する。

【その他の重要事項】
担当教員は環境保全活動や地域づくり活動などの地域問題の現場における実務経験を有しており、その経験に基づいてより有効性のある政策論を議論していく。

【Outline (in English)】
【Course outline】 The purpose of this course is to help students master the basic concepts of environmental sociology and sociology of local community.【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to describe major methods and theories of environmental sociology and sociology of local community, discuss the role of local community policy and apply the treatment of local community problems.【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.　【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on reaction papers(10%) and term-end examination（90%).

ARSx100JB（地域研究（その他）/ Area studies(Others) 100）

コミュニティマネジメント入門

水野　雅男、図司　直也、佐野　竜平、土肥　将敦、野田　岳仁、杉浦　ちなみ

配当年次／単位数：1〜4年次／2単位
備考（履修条件等）：2021年度以降入学者のみ受講可能。

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
コミュニティマネジメント（まちづくり）とは何か、その原則や方策、あるいは農山村、都市、地域、コミュニティの捉え方について、市民活動やソーシャルビジネスの実践事例を通じて理解する。

【到達目標】
日本国内や海外のコミュニティマネジメント（まちづくり）、地域再生の取り組みとその実態を把握し、それらが内包する意味と現代的意義について幅広く理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
教員6名がオムニバス形式で講義を担当する。実践事例やケーススタディでは、関連スライドやＤＶＤ等を活用して紹介する。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス（図司）	「自分ごと」から地域を感じる
第2回	「地域／まち」をつくるとは？（図司）	地域づくりを実践する現場に触れる
第3回	若者は「地域」で何ができるのか？（図司）	地域づくりに動き出した仲間の姿に触れる
第4回	なぜ人びとは地域の自然を守るのか？（野田）	地元の人びとの生活の立場から考える
第5回	ツーリズムによる地域再生（野田）	大衆的な観光地を目指さない観光まちづくり
第6回	コミュニティと企業（土肥）	地域固有の企業とステイクホルダー
第7回	コミュニティとソーシャルビジネス（土肥）	ソーシャル・ビジネスの可能性と課題
第8回	学びがつくる地域（杉浦）	学校外での学びの空間
第9回	地域で文化を学び伝える（杉浦）	暮らしの中にある豊かさ
第10回	グローバル社会のまちづくり（佐野）	日本内外の視野からみるまちづくり
第11回	グローバルなまちづくり人材になるために（佐野）	共生社会に生きる視点と具体例
第12回	アート＆クラフトとまちづくり（水野）	アート＆クラフトによる地域資源の発掘
第13回	地域資源の保全活用によるまちづくり（水野）	歴史的建造物の保全活用の意義と実践事例
第14回	震災復旧と復興まちづくり（水野）	ボランティアキャンプと復興まちづくり実践事例

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞、雑誌、書籍等によるまちづくり関連報道、論文等に関心を持つ。旅行等の機会、出身市町村、居住地等、身近な地域について調べる。講義で示した実例等について、より詳しく調べ自らの関心を深める。本授業の予習・復習時間は各2時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、授業中に資料を配布する。

【参考書】
授業中に随時示す。

【成績評価の方法と基準】
平常点（リアクションペーパーのコメント）100％で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
前年度の授業改善アンケート結果を反映して改善する。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて、学習支援システムを利用して教材を掲載する。

【その他の重要事項】
授業を担当する6名の教員がそれぞれ地域プランニング、ソーシャルビジネス、まちづくり活動などのフィールドワークに基づいてコミュニティマネジメント（まちづくり）の考え方を具体的に紹介する。

【Outline (in English)】
< Course outline>
The aim of this course is to help students acquire what community management is, its principles and measures, or how to understand agricultural and mountain villages, cities, regions, and communities through practical examples of civic activities and social business.
< Learning Objectives>
By the end of the course, students should be able to do the followings:
Understand the community management in Japan and overseas, the efforts for regional revitalization and their actual conditions, and broadly understand the meaning and modern significance of them.
< Learning activities outside of classroom>
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
< Grading Criteria /Policy>
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports: 100%

SOW100JB,SOW200JC（社会福祉学 / Social Welfare 100 , 社会福祉学 / Social Welfare 200）

社会問題論

大澤　優真

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、現代日本における社会問題の現状とその背景、ならびに社会問題に関する制度・政策および活動について学び、理解を深める。そのうえで、これらが抱える課題と今後の展望について考察する。その際、とりわけ「貧困」に着目し、検討を行う。

【到達目標】
・それぞれの社会問題の概要を説明できる。
・様々な社会問題は相互に関連していることを説明できる。
・社会問題の解決に向けた制度・政策や活動を考えられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・授業は、パワーポイントや映像資料を中心に進める。
・各授業の冒頭に前回授業の復習を行う。
・各授業の終わりにリアクションペーパーを配布し、次回授業の冒頭にフィードバックをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本授業の目的・進め方・概要
第2回	現代日本における社会問題①	生活保護から考える
第3回	現代日本における社会問題②	格差・母子世帯
第4回	現代日本における社会問題③	単身高齢女性
第5回	現代日本における社会問題④	労働・賃金
第6回	現代日本における社会問題⑤	住居・ホームレス（1） ―路上生活者の現状―
第7回	現代日本における社会問題⑥	住居・ホームレス（2） ―「ホームレス」であるということ―
第8回	現代日本における社会問題⑦	住居・ホームレス（3） ―支援と課題―
第9回	現代日本における社会問題⑧	貸付・奨学金
第10回	現代日本における社会問題⑨	障害者・性的マイノリティ
第11回	現代日本における社会問題⑩	移民・難民（1） ―困窮する移民・難民の現状―
第12回	現代日本における社会問題⑫	移民・難民（2） ―制度・統計の現状―
第13回	貧困とは	歴史・概念・定義
第14回	総括	社会問題の全体像 まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料を活用して復習をすることで、理解を深めてほしい。また、日頃から社会問題に興味をもち調べることを期待する。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
必要に応じて、適時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・平常点（リアクションペーパー） 40%
・レポート課題 60%

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】
【Course Outline】
This course aims to deepen students'understanding of the current state and background of social issues in contemporary Japan, as well as the institutions, policies, and activities addressing these issues. Building on this understanding, the course examines the challenges these responses face and considers future perspectives. In particular, the course focuses on poverty as a key theme for analysis and discussion.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students will be able to:
・Explain the basic features and characteristics of individual social issues.
・Explain how various social issues are interconnected.
・Consider and propose institutions, policies, and activities aimed at addressing social problems.
【Learning Activities Outside of the Classroom】
Students are expected to review course materials distributed in class in order to deepen their understanding. They are also encouraged to maintain an ongoing interest in social issues and to investigate them independently. The standard amount of time for preparation and review for this course is two hours each.
【Grading Criteria / Policy】
・Class participation (reaction papers): 40%
・Written assignment (report): 60%

ENG200JB（その他の工学 / Engineering 200）

社会的包摂論

水野　雅男

配当年次／単位数：1〜4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
バリアフリーあるいは社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）を多様な観点から把握することで、すべての人びとが健康で文化的な生活をおくる地域社会のあり方について理解を深める。特に、その実現に向けた各セクター（行政・民間・市民）の役割分担と連携について注目する。

【到達目標】
バリアフリーやユニバーサルデザイン、ソーシャル・インクルージョンが出現してきた社会的背景ならびにそれらの概念の違いを理解できるようにする。さらに、国内外の政策の変遷を辿り、市民セクターの地域づくり現場での関わり方や今後の在り方を理解し、自ら行動する意識付けを行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
毎回のテーマに関するデータを参考書から引用紹介する。
国内外の近年の動向を理解しやすいように、参考となる映像資料を紹介する。
講義の感想や質問、意見を毎回リアクションペーパーで提出、翌週に素晴らしいコメントを抽出し紹介することで、受講生相互の理解の違いと多様性を共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	社会的包摂の概念の紹介
第2回	バリアフリー政策① 国内	バリアフリー、国内の政策の変遷
第3回	バリアフリー政策② 米国	日米のバリアフリー政策の相違
第4回	移動とUD①	国内の交通施設や公共交通機関
第5回	移動とUD②	欧州の交通政策とトラム
第6回	包摂的なまちづくり①	海外の交通計画・土地利用計画における社会的包摂
第7回	包摂的なまちづくり②	住まいにおける社会的包摂
第8回	障害者の能力①	エイブルアート
第9回	障害者の能力②	めだかの育成プログラムによる障害者の就労支援事業
第10回	障害者のシゴト①	障害者の実態と障害者差別解消法
第11回	障害者のシゴト②	我が国のホームレス政策とNPO活動
第12回	ホームレス支援①	国内外のホームレス政策の相違
第13回	ホームレス支援②	NPOによるホームレス支援アプローチ
第14回	試験・まとめと解説	レポートの授業内提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回翌週のテーマを提示するので、授業の前に授業内容に関連する書籍、文献や資料のレビューを充分に行った上で、明確な問題意識を持って参加すること。
学習支援システムに当日の教材を掲載するので、充分に復習すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、適宜資料として紹介する。

【参考書】
「ユニバーサル・デザインの仕組みをつくる」川内美彦、学芸出版社、2007年
「インクルーシブデザイン　社会の課題を解決する参加型デザイン」ジュリア・カセム他編、学芸出版社、2014年
「人間都市クリチバ」服部圭郎、学芸出版社、2004年
「ストラスブールのまちづくり」ヴァンソン藤井由実、学芸出版社、2011年
「フライブルクのまちづくり」村上敦、学芸出版社、2007年
「英国発グラウンドワーク」渡辺豊博・松下重雄、春風社、2010年

【成績評価の方法と基準】
①平常点　70%　②レポート　30%　　①と②を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
前年度の授業改善アンケートは現在集計中、結果を活用していく。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに30年間関わった中で、バリアフリータウン計画を策定した経験に基づき、プランニングの視点を授業に導入する。

【Outline (in English)】
< Course outline >
The aim of this course is to help students acquire understanding of the community in which all people live a healthy and cultural life.
< Learning Objectives >
By the end of the course, students should be able to do the followings:
Understand the social background of barrier-free, universal design, and the emergence of social inclusion, as well as the differences in their concepts.
< Learning activities outside of classroom >
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
< Grading Criteria /Policy >
① Normal score 70% ② Report 30% Comprehensive evaluation of ① and ②.

ENG200JB（その他の工学 / Engineering 200）

地域計画論

杉浦　ちなみ

配当年次／単位数：1〜4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
私たちが生きている地域とはどのようなものでしょうか。また私たちは普段、その足元の地域を想像し、創造する機会をどのくらい得ているでしょう。地域計画というと、国や自治体が策定する難しいものというイメージをもつ方も多いかもしれません。でも本当にそうでしょうか。そもそもなぜ地域に計画が必要なのでしょうか。そこから講義をはじめていきます。地域を計画するとはどういうことか。誰が、どのように計画するのか。本授業では、これらの問いを地域に暮らす私たち自身を含む生活者を出発点に考え、学んでいきます。なお、本授業では、地域計画の中でも地域の教育・文化を中心に論じるものとします。

【到達目標】
地域・社会の抱える課題と地域計画の関わりについて、基本的な視点をもつことができる。また、私たち一人ひとりが生活者として、それぞれ暮らす地域をよくしていくことにどう関わっていくか、という当事者意識をもつ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
主に講義形式で進める。回によって、リアクションペーパーの提出を求めることもある。それらのフィードバックは授業時間中に行い、授業内容に活かしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	生活の中の「計画」
第2回	私たちはどのような地域に生きているのか	地域をめぐる状況を俯瞰する
第3回	「計画」は何を生み出すのか	計画と地域との結びつきを考える
第4回	人びとは地域にどう向き合ってきたのか (1)地域の拠点を求めて	地域の拠点としての公民館
第5回	人びとは地域にどう向き合ってきたのか (2)家庭・地域の計画化	「村の古さ」をめぐって
第6回	人びとは地域にどう向き合ってきたのか (3)生活を起点とした平和	平和学習の広がり
第7回	人びとは地域にどう向き合ってきたのか (4)子ども	子どもと地域
第8回	人びとは地域にどう向き合ってきたのか (5)青年・成人	足りないものはみんなでつくる
第9回	人びとは地域にどう向き合ってきたのか (6)環境	暮らしのウェルビーイングを求めて
第10回	人びとは地域にどう向き合ってきたのか (7)子育て	子育ての共同
第11回	住民の学びがつくる地域	住民による学びと地域づくりの関わりについて考える
第12回	地域計画をつくり支える仕事	自治体職員、民間、市民団体など
第13回	地域計画をつくり支える仕事の実際	地域における実践
第14回	まとめと期末試験	講義全体の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で扱うテーマについて、自身や身近な地域に即して検討してみましょう。授業後には内容を振り返り、自ら応用的に情報を収集することを期待しています。また、課題が示された際にはそれに取り組んでください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めません。

【参考書】
授業時に適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー30％、期末試験70%

【学生の意見等からの気づき】
学生からの意見や要望を可能な範囲で授業に活かしていく。

【その他の重要事項】
上述の計画は若干変更する場合がある。

【Outline (in English)】
【Course outline】What does it mean to plan a community? Who plans and how? In this course, we will consider these questions through an overview of the history of regional planning, especially as it relates to education and culture.
【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to have a basic perspective on how regional planners can be involved in regional issues. In addition, students will also gain a new perspective on how each of us, as a citizen, can be involved in improving the community in which we live.
【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
short report (30%), term-end examination (70%)

MAN200JB（経営学 / Management 200）

コミュニティビジネス論

土肥　将敦

配当年次／単位数：1〜4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域における経済的・社会的問題の解決を求めて、革新的なアイデアを持つ社会的企業者が地域の資源を生かして活動する事業体＝コミュニティ・ビジネスが求められている。政府・行政の活動、大企業の活動からは漏れ落ちるような地域の多様で個別的なニーズや価値に柔軟に応えようとするコミュニティ・ビジネスは、コミュニティの再生という目的と事業活動をつなげていく社会的企業者たちによって担われるものであり、ソーシャル・ビジネスの一部分とみなすことができる。本講義では、こうしたコミュニティ・ビジネスやソーシャル・ビジネスの意義や経営課題を、国内外の事例やゲストスピーカーとの対話を通して明らかにする。

【到達目標】
①コミュニティ・ビジネスとソーシャル・ビジネスの定義や要件を理解する。
②コミュニティ・ビジネスとソーシャル・ビジネスの意義や経営課題について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業形態は対面授業による講義形式である。毎回講義内でのディスカッションやミニレポートの提出を求める。 各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。リアクションペーパーやミニレポート等における優れたコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義概要、テキストの紹介、成績評価方法について。
第2回	コミュニティ・ビジネス/ソーシャル・ビジネスとは何か①	「コミュニティ・ビジネス」とは何かを理解する。
第3回	コミュニティ・ビジネス/ソーシャル・ビジネスとは何か②	「ソーシャル・ビジネス」とは何かを理解する。
第4回	事業型NPOによる取り組み①	NPOの3つのパターン（事前型・監視批判型・事業型）について理解する。
第5回	事業型NPOによる取り組み②	国内外の事業型NPOの広がりについて理解する。
第6回	事業型NPOによる取り組み③	病児保育事業の事例を通して理解する。
第7回	事業型NPOによる取り組み④	貧困問題と健康問題を解決する事業活動事例を通して理解する。
第8回	事業型NPOによる取り組み⑤	海外の事業型NPOの事例を通じて理解する。
第9回	株式会社による取り組み①	社会志向型企業の意義や特徴について理解する。
第10回	株式会社による取り組み②	社会志向型企業の具体的な事例を通して理解する。
第11回	株式会社による取り組み③	大企業とコミュニティの関係を理解する。
第12回	株式会社による取り組み④	大企業の社会貢献活動やソーシャル・ビジネスの理論を理解する。
第13回	株式会社による取り組み⑤	大企業の具体的な社会貢献活動やソーシャル・ビジネスを通して理解する。
第14回	講義全体のまとめ	これまでの講義を通して得られた知見を整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃から新聞・雑誌・書籍などを通じて、コミュニティ・ビジネスやソーシャル・ビジネスに関するニュースに積極的に触れることが必要である。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
土肥将敦（2022）『社会的企業者ーCSIの推進プロセスにおける正統性』千倉書房
谷本寛治編（2015）『ソーシャル・ビジネス・ケース：少子高齢化時代のソーシャル・イノベーション』中央経済社

【参考書】
講義中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
講義内でのミニレポートとプレゼンテーション 70％、期末レポート 30％。
具体的な講義方法と基準等は、授業開始日までに学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
なるべく多くのゲストスピーカーをお招きし、彼らとの対話を通してダイナミックな講義を目指す。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to develop students' business skills and knowledge in problem solving, community business, social business and for-profit/non-profit organizations. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.Your study time will be more than four hours for a class. Finally, Your overall grade in the class will be decided based on the following; Short reports and presentations(70%), term-end report(30%).

ARSx200JB（地域研究（その他）/ Area studies(Others) 200）

ローカルイノベーション論

野田　岳仁、水野　雅男、図司　直也、土肥　将敦

配当年次／単位数：1〜4年次／2単位
備考（履修条件等）：2021年度以降入学者のみ受講可能。

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ローカルイノベーションが立ち現れる社会的な背景や新たな社会変革を創出する仕組みとはどのようなものであるのかを各地の実践事例を通じて理解することを目的とする。

【到達目標】
ローカルイノベーションの基本的な考え方をマスターし、自らがローカルイノベーションを創出するプレイヤーになるための知識や技能について理解を深めることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
教員４名（水野・図司・土肥・野田）が具体的な事例を取り上げ、オムニバス形式で講義を担当する。１地域を２回の講義で構成し、１回目では、地域の概要やイノベーターについて担当教員がレクチャーを行う。２回目は、当該地域からゲストスピーカーを招いてのレクチャー、担当教員、受講生を交えてディスカッションを行う。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／イントロダクション（水野・図司・土肥・野田）	ローカルイノベーションとは何か
第2回	景観まちづくりにおけるローカルイノベーション①（野田）	景観まちづくりについての概要と社会的背景についてのレクチャー
第3回	景観まちづくりにおけるローカルイノベーション②（土肥・野田）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第4回	地域ツーリズムにおけるローカルイノベーション①（野田）	地域ツーリズムについての概要と社会的背景についてのレクチャー
第5回	地域ツーリズムにおけるローカルイノベーション②（土肥・野田）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第6回	半島先端におけるローカルイノベーション①（水野）	世界農業遺産の環境保全活用についての概要と社会的背景についてのレクチャー
第7回	半島先端におけるローカルイノベーション②（水野・土肥）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第8回	多様なライフスタイルでローカルイノベーション①（水野）	ライフスタイル研究と移住推進の市民事業についてのレクチャー
第9回	多様なライフスタイルでローカルイノベーション②（水野・土肥）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第10回	若者と地域をつなぐローカルイノベーション①（図司）	地域に向かう若者の動向と社会的背景についてのレクチャー
第11回	若者と地域をつなぐローカルイノベーション②（図司・土肥）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第12回	農山村再生に向けたローカルイノベーション①（図司）	農山村における地域づくりの概要と社会的背景についてのレクチャー
第13回	農山村再生に向けたローカルイノベーション②（図司・土肥）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第14回	総括（水野・図司・土肥・野田）	６事例からの学びと提言

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関心のある分野や領域でどのようなローカルイノベーションが創出されているのか事前に調べておく。講義で取り上げた地域やゲストスピーカーの活動については、メディアの記事、論文、書籍等を通じて、より詳しく探求すること。本講義の予習・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて講義内で資料を配布する。

【参考書】
講義内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（リアクションペーパーへのコメント）100%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
前年度授業改善アンケートの結果を反映させるとともに、リアクションペーパー等を通じて学生の意見や要望には積極的に応えていく。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布や課題提出等に学習支援システムを積極的に活用する。

【その他の重要事項】
講義を担当する４名の教員は、それぞれ地域プランニング、まちづくり活動等の豊富なフィールド経験を有している。それらの経験に基づいてローカルイノベーションの考え方を示していく。

【Outline (in English)】
【Course outline】The purpose of this course is to master the basic concept of local innovation through various case studies. 【Learning Objectives】The goal of this course is to understand the knowledge and skills needed to become a player in creating local innovation. 【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on reaction papers(100%).

SOW200JB,SOW100JA（社会福祉学 / Social Welfare 200 , 社会福祉学 / Social Welfare 100）

アジア地域開発論（2020年度以前入学者）

佐野　竜平

配当年次／単位数：2〜4年次／2単位
備考（履修条件等）：2020年度以前入学者と2021年度以降入学者で『福祉コミュニティ学科生の単位算入先の科目』および『配当年次』が異なるため、注意すること。

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
東南アジアを中心にアジアの現代福祉に関する最新事情を日本と対比しつつ理解する。

【到達目標】
東南アジアを中心としたアジアの最新事情を政治、経済、社会・文化の視点から学ぶとともに、現代福祉に関連した基礎情報・傾向を網羅的に把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
東南アジアを中心にアジアの最新事情をインプットとアウトプットを繰り返しつつ触れていく。対面を基本に、一部オンラインを組み合わせて実施する。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システム(Web Class)等でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	各講義の概要、ポイントを紹介
第2回	アジアの全体像	アジア全体を俯瞰的に紹介
第3回	中国の最新事情	中国の今を学ぶ
第4回	韓国・台湾の最新事情	韓国・台湾の今を学ぶ
第5回	インドの最新事情	インドの今を学ぶ
第6回	タイ・ラオスの最新事情	タイ・ラオスの今を学ぶ
第7回	アジアの実際を学ぶ①	アジアと日本を結んで実況中継①
第8回	カンボジア・ミャンマーの最新事情	カンボジア・ミャンマーの今を学ぶ
第9回	インドネシア・マレーシアの最新事情	インドネシア・マレーシアの今を学ぶ
第10回	フィリピン・ベトナムの最新事情	フィリピン・ベトナムの今を学ぶ
第11回	アジアの実際を学ぶ②	アジアと日本を結んで実況中継②
第12回	ブルネイ・シンガポールの最新事情	ブルネイ・シンガポールの今を学ぶ
第13回	課題発表	課題発表と質疑応答
第14回	講義の振り返り	各講義のレビュー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回講義で配布した資料等の復習。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし。

【参考書】
必要に応じて資料等を適宜配布。

【成績評価の方法と基準】
学習支援システム(Web Class)によるリアクションペーパーの提出（平常点）：50％
課題提出：50%（課題ファイル40%、発表10%）

【学生の意見等からの気づき】
講義内容・計画に関する学生からの積極的な提案をできるかぎり反映。

【学生が準備すべき機器他】
講義準備・履修のための機器（パソコン、スマートフォン等含む）。

【その他の重要事項】
上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野 / Expertise】
障害者権利条約、障害インクルーシブな国際協力・開発、循環型経済、広報・PR、東南アジア・その他アジア、人馬のウェルビーイング

【Outline (in English)】
【Course Outline】 This course focuses on best practices and significant trends in community development within Asia, with a particular emphasis on Southeast Asia. The lectures will incorporate insights from the instructor's extensive professional experience with international organizations and projects, as well as ongoing domestic and international activities. Please note that the above plan is subject to minor changes.
【Learning Objectives】 By the end of the course, students are expected to acquire a foundational knowledge of Asian regional development within the framework of social policy and administration.
【Learning Activities Outside of Classroom】 Students are expected to spend two hours on preparatory study and review for each session to ensure a thorough understanding of the course material.
【Grading Criteria/Policy】 The final grade will be determined as follows:
Reaction papers via WebClass (Participation): 50%
Assignments: 50% (Assignment files: 40%, Presentation: 10%)

SOW200JB,SOW100JA（社会福祉学 / Social Welfare 200 , 社会福祉学 / Social Welfare 100）

アジア地域開発論（2021年度以降入学者）

佐野　竜平

配当年次／単位数：福コミ：1〜4・臨心：2〜4年次／2単位
備考（履修条件等）：2020年度以前入学者と2021年度以降入学者で『福祉コミュニティ学科生の単位算入先の科目』および『配当年次』が異なるため、注意すること。

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
東南アジアを中心にアジアの現代福祉に関する最新事情を日本と対比しつつ理解する。

【到達目標】
東南アジアを中心としたアジアの最新事情を政治、経済、社会・文化の視点から学ぶとともに、現代福祉に関連した基礎情報・傾向を網羅的に把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
東南アジアを中心にアジアの最新事情をインプットとアウトプットを繰り返しつつ触れていく。対面を基本に、一部オンラインを組み合わせて実施する。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システム(Web Class)等でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	各講義の概要、ポイントを紹介
第2回	アジアの全体像	アジア全体を俯瞰的に紹介
第3回	中国の最新事情	中国の今を学ぶ
第4回	韓国・台湾の最新事情	韓国・台湾の今を学ぶ
第5回	インドの最新事情	インドの今を学ぶ
第6回	タイ・ラオスの最新事情	タイ・ラオスの今を学ぶ
第7回	アジアの実際を学ぶ①	アジアと日本を結んで実況中継①
第8回	カンボジア・ミャンマーの最新事情	カンボジア・ミャンマーの今を学ぶ
第9回	インドネシア・マレーシアの最新事情	インドネシア・マレーシアの今を学ぶ
第10回	フィリピン・ベトナムの最新事情	フィリピン・ベトナムの今を学ぶ
第11回	アジアの実際を学ぶ②	アジアと日本を結んで実況中継②
第12回	ブルネイ・シンガポールの最新事情	ブルネイ・シンガポールの今を学ぶ
第13回	課題発表	課題発表と質疑応答
第14回	講義の振り返り	各講義のレビュー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回講義で配布した資料等の復習。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし。

【参考書】
必要に応じて資料等を適宜配布。

【成績評価の方法と基準】
学習支援システム(Web Class)によるリアクションペーパーの提出（平常点）：50％
課題提出：50%（課題ファイル40%、発表10%）

【学生の意見等からの気づき】
講義内容・計画に関する学生からの積極的な提案をできるかぎり反映。

【学生が準備すべき機器他】
講義準備・履修のための機器（パソコン、スマートフォン等含む）。

【その他の重要事項】
上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野 / Expertise】
障害者権利条約、障害インクルーシブな国際協力・開発、循環型経済、広報・PR、東南アジア・その他アジア、人馬のウェルビーイング

【Outline (in English)】
【Course Outline】 This course focuses on best practices and significant trends in community development within Asia, with a particular emphasis on Southeast Asia. The lectures will incorporate insights from the instructor's extensive professional experience with international organizations and projects, as well as ongoing domestic and international activities. Please note that the above plan is subject to minor changes.
【Learning Objectives】 By the end of the course, students are expected to acquire a foundational knowledge of Asian regional development within the framework of social policy and administration.
【Learning Activities Outside of Classroom】 Students are expected to spend two hours on preparatory study and review for each session to ensure a thorough understanding of the course material.
【Grading Criteria/Policy】 The final grade will be determined as follows:
Reaction papers via WebClass (Participation): 50%
Assignments: 50% (Assignment files: 40%, Presentation: 10%)

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

医療政策論

小磯　明

配当年次／単位数：2〜4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業での意見交換を通じて、学生が医療政策の重要性を認識する。

【到達目標】
医療政策とは何か、を学生が理解するとともに、日常生活の中で、医療政策・制度がどのような役割を果たしているか、を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は対面で実施する。学生の授業への積極的参加を促すために、毎回の授業終了後にリアクションペーパーを提出してもらう。リアクションペーパーでの質問・意見については、翌週の授業の冒頭で答えるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義のねらい、授業の進め方など
2	医療政策の定義と周辺学問	「医療政策とは何か」ということと周辺領域の学問について検討する
3	医療提供体制	現在の医療提供体制について設立主体や他国との違いを検討する
4	医療保険のしくみ	日本の医療保険制度のしくみについて理解するとともに他国との違いを検討する
5	診療報酬制度	日本の診療報酬制度について理解するとともに他国との違いを検討する
6	医療費の動向	日本の医療費について理解するとともに他国と比較検討する
7	医療の質	医療の質とは何かについて理解するとともに質向上の取り組みを検討する
8	保険者の役割	日本の保険者の役割について理解するとともに他国との違いを検討する
9	高齢者医療制度	高齢者医療制度の歴史と現在の仕組みを理解する
10	医療費の患者負担	医療費における患者負担について理解するとともに他国との違いを検討する
11	医療改革	日本の医療改革について理解する
12	医療の患者満足	医療の患者満足について理解する
13	国民皆保険制度	国民皆保険制度について理解するとともに、他国との違いを検討する
14	地域包括ケアシステム	地域包括ケアシステムについて理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
医療や社会保障に関する新聞報道等に注目してほしい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しない。毎回、教材資料を配布する。

【参考書】
小磯明『医療機能分化と連携』御茶の水書房,2013年.
小磯明『高齢者医療と介護看護』御茶の水書房,2016年.
小磯明『イギリスの認知症国家戦略』同時代社,2017年.
小磯明『フランスの医療福祉改革』日本評論社,2019年.
小磯明『イギリスの医療制度改革』同時代社,2019年.
小磯明『製薬企業のイノベーションと経営戦略』日本評論社,2025年.

【成績評価の方法と基準】
授業平常点60％、レポート提出40％。レポートは1回とし、内容を総合的に判断する。履修者は必ず、レポートを提出すること。毎回の授業は対面授業のため、出席を重視することに注意のこと。

【学生の意見等からの気づき】
諸外国の医療制度や事例を紹介するとともに、日本の医療保険制度についての理解を深める。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイントを使用する。

【その他の重要事項】
受講生の関心に応じて、授業計画が若干変更される可能性がある。

【Outline (in English)】
Recognize the importance of health policy through exchange of ideas in class.The aim of this course is to help students acquire knowledge of medical policy.
At the end of the course, students are expected to knowledge of medical system and policy.
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Your required study time is a least four hour for each class meeting.
Your overall grade in the class will be decided based on the following Short reports: 40%, in class contribution: 60%.

ENG300JB（その他の工学 / Engineering 300）

都市住宅政策論

水野　雅男

配当年次／単位数：2〜4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生活に深く関わり、地域景観や社会福祉の面でも重要な住宅について、住宅政策がどのように取り組まれてきたのか、国内外の比較ならびに市民活動事例を通じて学ぶ。

【到達目標】
都市住宅政策が社会背景の中でどのように変遷してきたのか、国内外ではどのように異なるのかを認識できるようにする。さらに、都市の歴史資産として木造住宅が残存する金沢と京都において、その歴史的な木造住宅を保全活用する市民活動を学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
毎回のテーマに関するデータを参考書から引用紹介する。
国内外の近年の動向を理解しやすいように、参考となる映像資料を紹介する。
講義の感想や質問、意見を毎回リアクションペーパーで提出、翌週に素晴らしいコメントを抽出し紹介することで、受講生相互の理解の違いと多様性を共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の枠組みとスケジュール、住宅政策の問題提起
第2回	我が国の住宅政策①	住宅所有の政策推進と社会変化
第3回	我が国の住宅政策②	社会的変容と若年層の住宅条件
第4回	我が国の住宅政策③	持ち家社会のグローバル化
第5回	我が国の住宅政策④	住宅セーフティネット
第6回	我が国の住宅政策⑤	シェアする生活
第7回	歴史的住宅の保全活用①	金澤町家の保全活用
第8回	歴史的住宅の保全活用②	金澤町家の現状と課題
第9回	歴史的住宅の保全活用③	木造建物のコンバージョン活用
第10回	歴史的住宅の保全活用④	京町家の実態と再生方策
第11回	海外の住宅政策①	アメリカの住宅政策とNPO
第12回	海外の住宅政策②	英国ドイツ・スウェーデンの住宅政策とまちづくり事業体
第13回	被災地の住宅政策	在来工法と大工職人の継承
第14回	試験・まとめと解説	授業内レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の前に授業内容に関連する書籍、文献や資料のレビューを充分に行った上で、明確な問題意識を持って参加すること。
学習支援システムに前週の教材を掲載しているので、充分に復習すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、適宜資料として紹介する。

【参考書】
「住宅政策のどこが問題か」平山洋介、光文社新書、2009年
「居住の貧困」本間義人、岩波新書、2009年
「空き家問題」牧野知弘、祥伝社、2014年
「欧米の住宅政策―イギリス・ドイツ・フランス・アメリカ」小玉徹他、ミネルヴァ書房、1999年
「町家再生の論理」宗田好史、学芸出版社、2009年
「生活景」社団法人日本建築学会編、学芸出版社、2009年
「これからの日本のために「シェア」の話をしよう」三浦展、NHK出版、2011年

【成績評価の方法と基準】
①平常点　70%　②レポート　30%　①と②を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
前年度の授業改善アンケート結果を反映する。

【学生が準備すべき機器他】
授業の教材（パワーポイントデータ）は、授業終了後に学習支援システムに掲載する。

【その他の重要事項】
まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに30年間関わった中で、NPO法人金澤町家研究会、NPO法人輪島土蔵文化研究会などの市民活動を企画運営してきた経験に基づき、フィールドレベルからの住宅政策の課題について授業で言及する。

【Outline (in English)】
< Course outline>
The aim of this course is to help students acquire how housing policies have been tackled through domestic and international comparisons and examples of civic activities.
< Learning Objectives>
By the end of the course, students should be able to do the followings:
Recognizing how urban housing policies have changed in the social background and how they differ at home and abroad.
< Learning activities outside of classroom>
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
< Grading Criteria /Policy>
① Normal score 70% ② Report 30% Evaluate ① and ② comprehensively.

CUM300JB（文化財科学・博物館学 / Cultural assets study and museology 300）

地域文化政策論

杉浦　ちなみ

配当年次／単位数：2〜4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域の文化をつくり、支える制度と人はどのようなものか。その歴史と現状について、日本を中心としたいくつかの地域に即して学んでいく。さらには地域の文化活動をどう支援するかについて、現代的課題と可能性についても考える。

【到達目標】
地域文化を支える教育・文化政策の歴史と現状についての基本的な理解を得る。また、地域文化の継承や創造に直接・間接的に関わることの意味、具体的な職業などについても学ぶことで、日々の生活の中で文化を身近に感じ、自分自身もその作り手として意識し行動できるような関心を育む。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義形式によるが、適宜ディスカッションを交えながら進める。可能であれば、ゲストスピーカーによる講義も設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業のガイダンス、私たちの身の回りにある文化に目を向ける
第2回	地域文化を支える政策(1)	学校教育
第3回	地域文化を支える政策(2)	社会教育・生涯学習
第4回	地域文化を支える政策(3)	文化行政(文化財保護を含む)
第5回	地域文化を支える施設(1)	学校
第6回	地域文化を支える施設(2)	公民館・図書館・博物館・公共ホール
第7回	地域文化を支える人	担い手を育む仕事
第8回	各地の地域文化実践(1)	地域文化はどのようにつくられるか
第9回	各地の地域文化実践(2)	地域文化の創造を支援する
第10回	各地の地域文化実践(3)	担い手としての成長
第11回	学ばれる地域文化(1)	文化伝承
第12回	学ばれる地域文化(2)	災害の記憶
第13回	地域文化の再創造	地域文化をめぐる課題と再創造への試み
第14回	まとめと期末試験	講義全体の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
地域文化に関連する報道や博物館展示等に関心を持ち、身近な事例や展示などに積極的に触れたり、足を運ぶことで授業の予習・復習に取り組んでほしい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
山﨑功・新藤浩伸・田所祐史・飯塚哲子編『地域文化の再創造ー暮らしのなかの表現空間』水曜社、2024
佐藤一子『地域文化が若者を育てるー民俗・芸能・食文化のまちづくり』農山漁村文化協会、2016
ほか適宜示す。

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー、小レポートを含む平常点30％、期末試験70%

【学生の意見等からの気づき】
学生からの意見や要望を可能な範囲で授業に活かしていく。

【その他の重要事項】
上述の計画は若干変更する場合がある。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course discusses the history and current state of Japan's policies related to regional culture. It also addresses contemporary challenges and prospects in supporting local cultural activities.
【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to gain a basic understanding of the history and current status of educational and cultural policies that support local culture.
【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to be interested in news reports and museum exhibitions related to local culture, and to actively visit there. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following:
short report (30%), term-end examination (70%)

ENV300JB（環境保全学 / Environmental conservation 300）

環境政策論

藤澤　浩子

配当年次／単位数：2〜4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地球規模で発生しているさまざまな環境問題の解決のために必要とされる環境政策の形成と実施には、市民の主体的な関与と自発的な実践活動が不可欠です。身近な環境を知り、そこで生じている問題について学ぶことは、そうした取り組みの基礎として極めて重要です。この授業では、環境および環境政策に関する基礎的な内容や取組み事例、初歩的な体験を通して理解を深め、身近な環境を愛し環境問題の解決に自ら取組む市民を育成することを目的とします。

【到達目標】
学習や発表、実践体験が、受講者自身の気づきや継続的な取組みの契機となることを目標とします。受講生には、身のまわりの環境にふれ、そこから何かを感じとり自ら動く姿勢、自分で調べ正しい情報を判断する力、それを他者に伝える力、仲間の発表に耳を傾け共有する力を、身につけ高めていこうとする姿勢を求めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
環境政策はＰＤＣＡサイクルの各段階で市民による関与が重要であり、そのためには市民レベルでの学習・実践活動が不可欠です。そこで本講座は、市民による環境学習を柱に、環境政策及び環境教育の理念・歴史的経緯・基礎知識・方法論等、基本的事項について解説していく予定です。課題等の提出・フィードバックは、講義時または「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション１ 講義の進め方等の確認とミニフィールドワーク（FW）	ガイダンス及び環境学習経験の確認、キャンパス周辺を歩き、身近な自然的・歴史的環境にふれる。宿題：FW後、フィールドノートを作成提出する。
第2回	オリエンテーション２ 身近な環境に関するイメージの共有	フィールドノート及び「人間をとりまく環境のイメージ」を共有する
第3回	SDGsについて	SDGs関連情報（国際的取組み経過・現状、日本の環境政策における位置づけ等）の解説及び関心共有ワーク
第4回	環境・環境政策の理念	環境とは、環境政策とはどのようなものか、環境問題への取組みの歴史的経緯等を踏まえて解説する
第5回	環境に関する基礎知識	地球規模の環境問題とその対策を知る上で必要な、地球に関する基礎知識と問題となっている諸テーマについて概説する
第6回	環境問題を知る１	温暖化、エネルギー問題
第7回	環境問題を知る２	生物多様性、地球環境問題
第8回	環境問題を知る３	循環型社会、地域環境問題
第9回	環境問題を知る４	化学物質、震災関連の問題等
第10回	環境政策の原則・手法	環境政策の原則・手法、環境学習、環境アセスメント等に関する概説
第11回	各主体の役割・活動１	各主体の役割、参加・協働の手法、国際機関・政府セクターの取組み、企業の取組み
第12回	各主体の役割・活動２	市民（個人、NPO等）の取組み、身近な環境に関する市民の取組み事例（DVD視聴等）
第13回	身近な環境保全の取組み実践体験　全体ワーク１	かるた制作（読み札づくり）
第14回	身近な環境保全の取組み実践体験　全体ワーク２	かるた制作（絵札づくり）と試用（場合によっては、読書レポート発表会）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
現在までに受けた環境教育や関心をもった環境問題等を整理しておく。
関心のあるテーマとその背景について、新聞や書籍、インターネット等から情報を得る。多摩キャンパス周辺の環境に目を向ける。関心のあるテーマやフィールドでの行事や活動に、積極的に参加してみる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
東京商工会議所（2025）『環境社会検定試験eco検定公式テキスト改訂10版』。
その他、必要に応じ講義時にプリントを配布します。

【参考書】
倉阪秀史(2014)『環境政策論（第3版）』信山社、竹本和彦編（2020）『環境政策論講義：SDGs達成に向けて』東京大学出版会、日本環境教育学会編(2013)『環境教育辞典』教育出版、藤澤浩子著（2011）『自然保護分野の市民活動の研究』芙蓉書房出版、他、講義時に必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
1.出欠確認：毎回リアクションペーパーをとります。
2.試験方法：随時行う小テストと読書レポート
3.採点基準：リアクションペーパー及び小テスト、かるた制作への参加等で把握する平常点70％、提出課題（フィールドノート、読書レポート）30％とします。

【学生の意見等からの気づき】
過去12年間、受講生との話し合いをもとにキャンパス周辺でのフィールドワークとグループやクラス単位でのワークショップを行ってきました。全回オンライン形式となった2020年度以外、全体ワークで、かるた制作を行い大変好評でした。長年通学しているキャンパスの周辺をあらためて見つめ、受講者間で共有する機会をもつことは、地に足のついた取り組みにつながるため、対面でのアクティブラーニングが可能な状況であれば、受講者数に応じた形式で実施する予定です。

【学生が準備すべき機器他】
課題提出及び資料配布等のために学習支援システムを活用する予定です。

【その他の重要事項】
受講者数および授業の展開により若干の変更があり得ます。
質問等については、リアクションペーパーで受け付ける他、必要に応じ、授業終了後に教室で、または電子メールで受け付けます。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course introduces basic knowledge of the environment/ environmental problem and policy to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire the knowledge necessary for solving familiar environmental problems. Please refer to the schedule for detailed information.
【Leaning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
-understand the importance of each citizen's efforts.
-understand the significance of actually touching and feeling the environment around us.

-get the right information, make wise decision, and tell others, listen and share with others.
-willing to do good activities for the familiar/global environment.
【Learning activities outside of classroom】
1.Find out about environmental issues of your interest.
2.Try participating in environmental activities, if possible.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria/Policy】
・Normal point 70% : Preparations, reaction papers, approaches, contribution to group work
・Report (Field-note, Mid-term, Final) 30%

POL300JB（政治学 / Politics 300）

政策評価論

倉根　明徳

配当年次／単位数：2〜4年次／2単位
備考（履修条件等）：2026年度の授業実施日は、9月14日・15日・16日。

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政策評価の理論だけではなく、政策立案や評価プロセスの実例を学ぶことで、行政経営や政策の意義について理解することを目的とする。

【到達目標】
日本に政策評価が導入された背景や政策評価の理論と手法、政策立案のプロセスを把握した上で、政策評価が政策のマネジメントサイクルの中で果たす役割について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本講義は3日間の集中講義となります。政策評価と政策立案の理論を学んだ上で、ワークシート等を使った演習を行いながら理解を深めます。最終日には各自またはグループで政策の立案と評価指標の設定をしていただき、発表とディスカッションを行います。
また、授業の初めに、前日の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。
各回のテーマに応じて適宜資料を提供しながら講義を進めますが、可能な限り具体的な事例を紹介しながら、短期間で理解できる内容にします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	全体概要、講義の進め方について
2	政策評価の概要	政策評価導入の背景や評価の類型等について
3	政策評価の手法①	事業評価方式、実績評価方式、総合評価方式の概要と評価手順について
4	政策評価の手法②	実際に行われている政策評価について（ケーススタディ）
5	政策立案の手法①	目標設定から政策立案の流れについて
6	政策立案の手法②	2018年度以降、主流になりつつあるEBPM（エビデンスに基づく政策立案）について
7	政策立案の手法③	海外との比較について（NZの震災復興計画等を事例に）
8	政策立案と評価の実例①	政策・評価の実例紹介（健康福祉政策）
9	政策立案と評価の実例②	政策・評価の実例紹介（まちづくり政策）
10	政策立案と評価の実例③	政策・評価の実例紹介（官民連携政策）
11	政策立案と評価の実践①（演習）	各自（またはグループ）で政策の立案と評価指標設定を実施
12	政策立案と評価の実践②	第11回で作成した施策の発表及びディスカッション
13	政策立案と評価の実践③	第11回で作成した施策の発表及びディスカッション
14	講義のまとめ	全体の振り返りと修得内容の共有

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。関心のあるテーマに関わる施策について国や地方自治体のHPなどを調べてみてください。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて講義の際に紹介します。

【参考書】
必要に応じて講義の際に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点50%、演習及びディスカッション50％で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
例年「理論＋具体例＋ミニ演習で理解が深まった」「講師や学生同士でのディスカッションが良かった」と意見をいただいているため、令和8年度も引き続き同様のスタイルで講義を進めます。また、最終日の施策発表には若手市役所職員も参加し、一緒にディスカッションに加わってもらう予定です。

【その他の重要事項】
約20年間、県や国で実務を経験し、令和7年に市役所に転職。主にまちづくり分野に関わる政策立案や評価を数多く担当してきました。学生が利用する公共施設（公園や図書館など）がどのような背景でつくられ、評価され、運営されているかなど、具体的な事例を参考にしながら、政策評価や政策のマネジメントを学びます。特に行政職員を目指している学生の受講を奨励します。

【Outline (in English)】
This course introduces students to policy evaluation, policy making, and public management. The objective of this course is the role of policy evaluation. Students are expected to spend four hours before/after each class meeting to understand the course content.
Your overall grade in the course will be based on the following Class participation: 50%, Exercises and Discussions: 50%

ECN300JB（経済学 / Economics 300）

地域経済論

図司　直也

配当年次／単位数：2〜4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、積極的に地域づくりを進める上で不可欠な視点である「地域経済」に焦点を当て、地域資源をもとにした産業基盤（とりわけ農山村地域の主要産業である第１次産業）への理解を深め、グローバル化に直面する中での地場産業の変化と課題、また対応する試みを学ぶ。

【到達目標】
講義を通して、まず、グローバル化に直面する地域経済の状況、また今日に至る地域経済の展開過程とそこで生じた諸問題についての基礎を理解できる。その上で、地域資源をもとにした産業形成として第１次産業である農林業を中心に、関連するテーマを通して、経済活動と地域との関係を捉えることができる。日本の地域経済や地場産業における歴史的背景を踏まえ、グローバル経済と密接な現状を理解し、地域を核とした経済循環のあり方を考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義形式で進め、リアクションペーパーを通じて、受講生の捉え方を全体でも共有するとともに、質疑にも応えていく。なお、講義は以下の内容で進める予定であるが、進度やゲスト講師によって変更もあり得る。リアクションペーパー等のフィードバックは授業内で行い、さらなる議論に活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	地域問題を考える糸口としての地域経済を理解する。
第2回	地域経済の形成過程（戦後）	地域経済の下地がどのように積み上がってきたのか、歴史的経緯(戦後)を理解する。
第3回	地域経済の形成過程（高度経済成長期）	地域経済の下地がどのように積み上がってきたのか、歴史的経緯(高度成長期)を理解する。
第4回	地域経済の形成過程（低成長期）	地域経済の下地がどのように積み上がってきたのか、歴史的経緯(低成長期)を理解する。
第5回	地域経済の形成過程（ﾊﾞﾌﾞﾙ期期以降）	地域経済の下地がどのように積み上がってきたのか、歴史的経緯(ﾊﾞﾌﾞﾙ期以降)を理解する。
第6回	農業・農村の現場から	第１次産業である農業と地域との関係を学ぶ。
第7回	林業・山村の現場から	第１次産業である林業と地域との関係を学ぶ。
第8回	経済のグローバル化と地域インパクト	1980年代以降の地域経済が直面するｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ化の背景を学ぶ。
第9回	産業構造の転換と地域経済構造	1980年代以降の地域経済が直面する産業構造転換の背景を学ぶ。
第10回	地域再生の理論と農山漁村	地域間格差が生じる背景について学ぶ。
第11回	内発的発展の道筋を考える	農山漁村地域の自立に向けたプロセスを学ぶ。
第12回	コミュニティ政策の潮流	コミィニティ政策の展開を学ぶ。
第13回	コミュニティと地域経済の再生	地域資源管理の担い手形成を考える。
第14回	まとめ	授業全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習には、各２時間程度を確保してもらいたい。日頃から、地域に内在する様々な問題に関心を寄せ、その課題を乗り越える取り組みや知恵に着目しておく。講義後に、授業内容について復習し、改めてテーマについて考えることが望ましい。

【テキスト（教科書）】
講義内において配布・紹介する資料を用いる。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点40%，期末レポート60%

【学生の意見等からの気づき】
VTRなども交えて、時代や地域性の観点からも地域経済の実態が視覚的にも理解できるよう工夫を重ねていく。

【Outline (in English)】
【Course outline】In this lecture, we will focus on the local economy, deepen our understanding of the industrial base that utilizes local resources, and learn about changes in local industries and new attempts in the face of globalization.
【Learning Objectives】Understand the current situation closely related to the global economy, based on the historical background of Japan's regional economy and local industry, and understand the ideal economic cycle centered on the region.
【Learning activities outside of classroom】Two hours will be secured for each preparation and review of this class. It is desirable to take an interest in various regional issues on a daily basis and review the lesson contents after the lecture.
【Grading Criteria /Policy】60% of reaction papers every time, 40% of year-end reports.

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

国際協力論

佐野　竜平

配当年次／単位数：2〜4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代福祉に関連したインクルーシブな国際協力・開発の理論および実践の基礎を学ぶ。

【到達目標】
学生が将来何らかの形で国際社会に関わることを前提に、現代福祉とインクルーシブ開発に関する基礎知識とスキルを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
現代福祉と国際協力について、インプットとアウトプットを繰り返しつつ触れていく。対面を基本に、一部オンラインを組み合わせて実施する。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システム(Web Class)等でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	各講義の概要、ポイントを紹介
第2回	SDGsと現代福祉①	SDGsと国際社会に関する学び①
第3回	SDGsと現代福祉②	SDGsと国際社会に関する学び②
第4回	SDGsと現代福祉③	SDGsと国際社会に関する学び③
第5回	国際機関と国際協力	国連による現代福祉に関する学び
第6回	日本政府と国際協力①	日本政府による国際協力に関する学び①
第7回	国際協力の現場から①	海外の現場から実際を学ぶ①
第8回	日本政府と国際協力②	日本政府による国際協力に関する学び②
第9回	NGO/民間企業と国際協力①	NGO/民間企業による現代福祉に関する実践①
第10回	NGO/民間企業と国際協力②	NGO/民間企業による現代福祉に関する実践②
第11回	NGO/民間企業と国際協力③	NGO/民間企業による現代福祉に関する実践③
第12回	国際協力の現場から②	海外の現場から実際を学ぶ②
第13回	課題発表	課題発表と質疑応答
第14回	講義の振り返り	各講義のレビュー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回講義で配布した資料等の復習。本講義の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし。

【参考書】
外務省　開発協力白書。必要に応じて資料等を適宜配布。

【成績評価の方法と基準】
学習支援システム(Web Class)によるリアクションペーパーの提出（平常点）：50％
課題提出：50%（課題ファイル40%、発表10%）

【学生の意見等からの気づき】
講義内容・計画に関する学生からの積極的な提案をできるかぎり反映。

【学生が準備すべき機器他】
講義準備・履修のための機器（パソコン、スマートフォン等含む）

【その他の重要事項】
上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野 / Expertise】
障害者権利条約、障害インクルーシブな国際協力・開発、循環型経済、広報・PR、東南アジア・その他アジア、人馬のウェルビーイング

【Outline (in English)】
【Course Outline】This course introduces fundamental theories, best practices, and significant findings in international cooperation and development within the developing world, with a specific focus on inclusive development.
【Learning Objectives】 By the end of the course, students are expected to acquire a foundational understanding of international cooperation within the framework of social policy and administration.
【Learning Activities Outside of Classroom】 Students are expected to dedicate two hours to preparatory study and two hours to review for each session (four hours total) to ensure a thorough understanding of the course material.
【Grading Criteria/Policy】 The final grade will be determined based on the following:
Reaction papers: 50%
Reports and presentations: 50%

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

Community Based Inclusive Development

佐野　竜平

配当年次／単位数：2〜4年次／2単位

その他属性：〈グ〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course explores the intersection between inclusive development and well-being studies.

【到達目標】
This course is specifically designed to equip students with a set of practical and actionable competencies. Beyond theoretical understanding, students will develop hands-on skills that are directly applicable to the complex challenges within the context of community based inclusive development.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
This course is conducted entirely online via live Zoom sessions. All announcements, course materials, assignments, and feedback will be managed through the Learning Management System (Web Class). Furthermore, guest speakers will be featured to facilitate dynamic and practical discussions.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
No.1	Introduction	Overview the planned sessions
No.2	Diversity and Well-being(1)	Concept of inclusive development and different culture (1)
No.3	Diversity and Well-being(2)	Concept of inclusive development and different culture (2)
No.4	Inclusive communication(1)	Initiatives on sign languages in a community(1)
No.5	Inclusive communication(2)	Initiatives on sign languages in a community(2)
No.6	Inclusive communication(3)	Initiatives on sign languages in a community(3)
No.7	Inclusive communication(4)	Initiatives on sign languages in a community(4)
No.8	Human rights issues and community(1)	Challenges in inclusive community settings (1)
No.9	Human rights issues and community(2)	Challenges in inclusive community settings (2)
No.10	Human rights issues and community(3)	Challenges in inclusive community settings (3)
No.11	Going into the unknown(1)	Exploring the world by learning uniqueness(1)
No.12	Going into the unknown(2)	Exploring the world by learning uniqueness(2)
No.13	Going into the unknown(3)	Exploring the world by learning uniqueness(3)
No.14	Review	Reviewing the past lectures and feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to review the materials distributed in each lecture. The standard time required for preparation and review in this course is approximately 2 hours each per session.

【テキスト（教科書）】
Provided as needed based on the content

【参考書】
Sustainable Development Goals https://sdgs.un.org/
World Health Orgzniation https://www.who.int/health-topics/disability

【成績評価の方法と基準】
In-class participation:40%, Reaction paper through Web Class:60%

【学生の意見等からの気づき】
To the greatest extent possible, student suggestions regarding lecture content and planning will be incorporated.

【学生が準備すべき機器他】
Hardware and software for online class (PC, Zoom, etc)

【その他の重要事項】
The above plan is subject to minor changes. The lectures will incorporate insights from the professor's extensive professional experience with international organizations and projects, as well as ongoing domestic and international activities.

【担当教員の専門分野 / Expertise】
Disability-Inclusive and Sustainable Development, International Cooperation, Regional Development in Asia (Southeast Asia and other Asia)

【Outline (in English)】
This course explores the intersection between inclusive development and well-being studies.

MAN300JB（経営学 / Management 300）

地域経営論

遠藤　聖子

配当年次／単位数：2〜4年次／2単位
備考（履修条件等）：SSI生は授業コード「N6151」を選択すること。
その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
少子高齢化、人口減少に直面した我が国では、地域でその社会的課題に対し様々な手法で解決に取り組んでいます。本講義では、この取り組みを「地域経営＝地域のまちづくり」と捉え、誰が、何を、どのようにマネジメントして、持続可能な地域づくり・まちづくりを行なっているか事例を中心に学びます。そして、地域で起きている課題を自分ごととして考え、地域のあり方、まちづくりにおける市民・行政・企業・大学などの役割と協働のあり方について考察します。

【到達目標】
次の事項について基本的な理解を得るとともに、テーマごとの課題とその対応方針についても問題意識を高めることを到達目標とします。
・地域経営に関する基本的な枠組み、法制度及び諸制度、考え方
・地域経営に関する国と地方の関係、地方分権と自治
・地域経営に関する市民(住民)、事業者、行政等の連携・協力・分担の考え方
・地域経営の手法

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は原則、「講義」と「講義テーマに応じた全体、またはグループ討議等」により進めます。受講生が、地域経営、地域づくり、まちづくりについて具体的なイメージを持って思考できるよう事例紹介を中心に進めます。各回講義のに対するリアクションペーパーで示された問いやつぶやきを講義の中で紹介し、双方向のやりとりをしながら受講者全体の理解が深まるよう進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 地域経営とは	・講義ガイダンス ・「地域経営」の全体像とまちづくり ・視点の整理 ・各回講義の要点解説
第2回	地方分権と地方自治、その系譜	・講義ガイダンス（再） ・「地方分権」「地方自治」の系譜 ・今日的課題
第3回	地域経営における行政の役割とは	・行政が取り組む事例の紹介
第4回	住民参加とまちづくり①	・まちづくり、地域経営における法律と条例の役割 ・まちづくり条例の系譜 ・まちづくりを担う組織
第5回	住民参加とまちづくり②	・まちづくりセンター ・まちづくりにおける紛争とその歴史 ・住民参加の意義 ・地域経営における合意形成の方法とあり方の考察
第6回	官民産学連携のまちづくり	各地の ・エリアマネジメント ・アーバンデザインセンター等、果たす役割と取り組み
第7回	地域のストックを活かすまちづくり①	・風景づくり ・歴史、文化を活かす ・リノベーション　等、 まちづくりの取り組みと課題
第8回	地域のストックを活かすまちづくり②	・公共施設、公共空間の更新と魅力化 ・空き家、空き地の活用　等、 各地の取り組みと課題
第9回	商業地・中心市街地のまちづくり①	・商業地、中心市街地の現状と課題 ・まちなか再生の動き　等、 各地の取り組みと課題
第10回	商業地・中心市街地のまちづくり②	・まちづくり会社（TMO） ・まちなか観光（DMO） 等、まちづくりを担う組織の役割と取り組み、課題
第11回	郊外住宅地のまちづくり	・戸建て住宅地の管理 ・ニュータウン、郊外住宅地の取り組み ・団地、マンション管理組合と自治会 等、まちづくりを担う組織の役割と取り組み、課題
第12回	災害とまちづくり	・大規模災害、大規模震災にみる地域、まちづくりの課題と取り組みの系譜 ・これからの課題
第13回	福祉・スポーツとまちづくり	・各地で取り組まれる福祉やスポーツをキーワードにしたまちづくりの現在 ・レポート課題の解説
第14回	講義の総括	・受講生の感想 ・講義の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・少子高齢化、人口減少社会における地域経営、地域づくり、まちづくりに関する広範な書籍、新聞記事等の通読を薦めます。本講義の復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。毎回、パワーポイント資料を事前にアップします。

【参考書】
講義において適宜紹介しますが、次の書籍を参考図書として薦めます。
・「平成都市計画史ー転換期の30年間が残したもの・受け継ぐもの」饗庭 伸 著（共栄書房/2021年）
・「アーバンデザイン講座」前田 英寿 等　著（彰国社/2018年）

【成績評価の方法と基準】
①講義または、その後の全体またはグループ討議等の内容を踏まえたリアクションペーパーの提出40％
②レポートの提出60％（レポート課題は6月前半に提示）

【学生の意見等からの気づき】
まちづくりの実務者がその経験を踏まえて、具体的な事例を授業で紹介している点が本講義の特徴です。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
特にありません。

【Outline (in English)】
【Course outline】

Faced with a declining birthrate, an aging population, and a shrinking population, Japan's local communities are using a variety of methods to address social issues. In this lecture, this approach will be considered as "regional management = regional community development. You will learn who, what, and how sustainable regional and community development is carried out, focusing on case studies. The course will also consider local issues as if they were their own, and examine the roles of citizens, government, business, and universities in community development and how they should work together. In Japan, facing declining birthrates, an aging population, and a shrinking population, local communities are working to solve social issues using a variety of methods. In this lecture, we will consider these efforts as "regional management =regional community development. We will learn who, what, and how sustainable regional and community development is carried out, focusing on case studies. We will also consider issues that arise in the community as if they were our own, and discuss how the community should be, and the roles and collaboration of citizens, government, businesses, and universities in community development.

【Learning Objectives】

The objective of the course is to provide participants with a basic understanding of the following issues, and to raise their awareness of the issues and policies related to each theme.

・Basic framework, legal system, and various systems and ideas related to regional management

・ Relationship between the national and local governments, decentralization, and self-governance related to regional management

・ Collaboration, cooperation, and sharing of responsibilities among citizens (residents), businesses, and governments related to regional management

・ Methods of regional management

【Learning activities outside of classroom】

Students will be required to read a wide range of books and articles related to urban and regional planning and regional management in a society with a declining population, low birthrate and aging society. In this class, we will review a wide range of articles on urban and regional development and regional management in a declining population and an aging society. The standard review time for this class is two hours each.

【Grading Criteria/Policy】

(1) Reaction paper based on the lecture and subsequent plenary discussions, mini-workshops, etc.: 50%

(2) Report: 50% (report assignment will be presented in the first half of June)

MAN300JB（経営学 / Management 300）

ソーシャルイノベーション論

土肥　将敦

配当年次／単位数：2〜4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地球環境、貧困、少子高齢化、障害者雇用といった社会的課題の解決に向けてビジネスとしてそれらに取り組む動きが2000年代以降世界的に広まってきた。こうした事業体はソーシャル・エンタプライズもしくはソーシャル・ビジネスと呼ばれる。また近年では、従業員や地域社会、環境へ配慮した事業活動を行なっている企業に与えられる国際的なB Corp認証も増加してきている。本講義では、こうした事業やビジネスモデルがなぜ必要とされるのか、誰がどのように生み出したのか、そしてそれはどこが革新的でどのようなインパクトがもたらされるのかについて、国内外の事例をもとに検討する（なお、過去数年は、数多くの社会的企業者やB Corp認証企業の実務家にゲスト講師としてお越しいただいている）。また講義後半では、企業の社会的責任（CSR）についても概観し、CSRの枠組みの中で大企業が取り組むさまざまなソーシャル・ビジネスの意義についても考えていく。

【到達目標】
本講義では、以下の3点を履修者の到達目標とする。
①グローバル/ローカルなソーシャル・ビジネスの動向を理解すること、②社会的企業者によるソーシャル・イノベーションの創出と普及のプロセスを理解すること。③B Corpなど社会志向型企業の意義や経営課題を理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
社会的課題にビジネスとして取り組むソーシャル・ビジネスは、さまざまな事業形態やスタイルで、市場や社会から資源を動員し、新しい仕組みを構築し、新たな社会サービスを提供している。本講義では、まずこうした多様な事業分野、事業スタイルの存在を理解し、一般的なビジネスとの相違点等を明らかにしていく。その上で、事業化してきた社会的企業者にも注目し、彼らの存在意義やその機能などについても考えていく。今年度はB Corp認証を取得している国内外のゲストスピーカーも招聘する予定である。リアクションペーパーやミニレポート等における優れたコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義概要、成績評価、テキスト等について。履修希望者は必ず出席のこと。
第2回	ソーシャル・ビジネスとは何か①	社会福祉領域のソーシャル・ビジネスを通して、3つの要件、活動する事業領域を理解する。
第3回	ソーシャル・ビジネスとは何か②	社会福祉領域のソーシャル・ビジネスを通して、多様な組織形態を理解する。
第4回	ソーシャル・ビジネスとは何か③	海外の事例を通して、多様な組織形態と事業スタイルの違いを理解する。
第5回	ソーシャル・イノベーションを理解する①	国際協力領域のソーシャル・エンタープライズを通して、ソーシャル・イノベーションを理解する。
第6回	ソーシャル・イノベーションを理解する②	海外の事例を通して、ソーシャル・イノベーションを理解する。
第7回	ソーシャル・イノベーションを理解する③	ソーシャル・イノベーションの創出について理解する。
第8回	ソーシャル・イノベーションを理解する④	ソーシャル・イノベーションの普及について理解する。
第9回	ソーシャル・イノベーションを理解する⑤	ソーシャル・イノベーションの創出と普及の課題
第10回	大企業におけるCSR①	企業と社会の関係を理解する。
第11回	大企業におけるCSR②	古典的モデルと近年の考え方を理解する。
第12回	B Corporationについて理解する①	各種事例を通してB Corpについて理解する（A事例）。
第13回	B Corporationについて理解する②	各種事例を通してB Corpについて理解する（B事例）。
第14回	B Corporationについて理解する③	各種事例を通してB Corpについて理解する（C事例）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義中に指示するテキスト・資料や関連するウェブサイトに目を通し、講義中のディスカッションや掲示板へのコメント記入に備えて欲しい。本授業の準備学習・復習時間は合計4時間を標準とします。特に、毎回の講義後に掲示板などへのコメントの書き込みが必須となり、これが成績評価の基準となる予定ですので注意してください。

【テキスト（教科書）】
講義中に指示します。

【参考書】
土肥将敦（2022）「社会的企業者ーCSIの推進プロセスにおける正統性」千倉書房
Marquis, C（2020）Better Business, Yale University Press（土肥将敦監訳・保科京子訳（2022）『ビジネスの新形態 B Corp入門』ニュートンプレス）
谷本・大室・大平・土肥・古村著（2013）『ソーシャル・イノベーションの創出と普及』NTT出版

【成績評価の方法と基準】
毎回の講義へのコメント課題（60％）及び講義中におけるアプリケーションを活用したフィードバック（40％）を総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
本講義はオンラインで展開し、履修者とのコミュニケーションを大切にし、講義がより良いものとなるように努める。市ヶ谷キャンパスや小金井キャンパスからの受講生は、キャンパスごとに時間割が異なっているため、各学部が定めるルールや時間割を必ず確認した上で履修するようにしてほしい。

【Outline (in English)】
This course goes far beyond the innovation theory and academic aspect of developing social businesses or social responsible business.The goal of this course is to understand the concept of SOCIAL INNOVATION, and the various aspects of Corporate Social Responsibilities in the MNC.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.Your study time will be more than four hours for a class. Finally, Your overall grade in the class will be decided based on the following; Short reports and presentations(60%), in class contribution(40%).

MAN300JB（経営学 / Management 300）

ソーシャルマネジメント論

樋口　邦史

配当年次／単位数：2〜4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業および企業が行う事業と社会の関わりを考える。企業と社会の関わりは、多様な形が可能である。企業の社会への関わり方、関わる対象、内容、組織形態の多様さを理解する。また、なぜ企業の社会的側面を考えることが大切なのかを考え、理解する。

【到達目標】
本講義の受講生は、企業が社会的課題を捉えて、解決するまでのプロセスと論理を理解する。また、このプロセスと論理を学ぶことを通じて、企業と社会の関係性を、社会学或いは経営学的観点から考えられるようになる。さらに、企業の社会への影響を理解できるようになる。以上のことを本講義のゴールとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
企業と社会の関係は、多様かつ多面的な側面を内包している。そのため、学際的かつ実践的に講義を行う。例えば、企業や社会の仕組みを理解するために、前半は経営学や社会学の観点を取り入れて講義をすすめる。また、企業活動とその社会への影響を考察するために、実践例としてのケーススタディやゲストによるセッションを取り入れる。後半はProject Based Learingを採用し、選定地域の産業振興や地域創生を議論を中心に、グループ単位でのプロジェクト型の演習を実施する。また、事前課題がある場合は、その取り組み内容に対する議論をグループ討議を中心に講義をすすめる。予習を求めるが、講義の展開によって若干の変更があり得る。事前課題には講師が学生個別にフィードバックをし、講義での論点などの指摘や記述方法への指導を行う。各回の講義資料や講義計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入と概要	講義の進め方について 講義で取り扱う内容の概要を紹介
2	CSR経営におけるSDGsの主流化	企業CSR経営を起点としたソーシャルマネジメントとSDGsの位置づけについて議論
3	ソーシャルマネジメントに必要なコミュニケーション技術①	企業組織におけるコミュニケーションとその活性化について議論
4	ソーシャルマネジメントに必要なコミュニケーション技術②	企業組織において「相手」に届くコミュニケーションとプレゼンテーションを実践
5	企業におけるプロジェクト活動	プロジェクト型マネジメントを知る
6	行政とコミュニティ組織	行政組織の特色とコミュニティの役割を知る
7	今年度の地域活性化プロジェクト先の選定とグルーピング	学生に身近な地域の選定とプロジェクトの進め方に関する議論
8	事例研究①官民連携	特定地域の官民連携事例について議論
9	事例研究②企業組織の光と陰	企業の不正（不正開示不正会計）はなぜ起きてしまうのかについて議論
10	演習①	ローカルなフィールドでのプロジェクトの進め方を議論
11	演習②	同フィールドでのマネジメントを進める
12	演習③	特定地域での活性化企画の立案
13	演習④	特定地域での活性化計画の設計
14	最終発表、まとめと展望	Final Presentation 講義のまとめ、最終レポート提出について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義では、全5回の事前課題レポート（A4 1枚以内）の提出を求める。講義で紹介する事例のほかに、日頃からニュース等の情報および自身の日常生活を、企業と社会の関係性から観察し、企業の社会的行動の事例として考える癖を身につけること。なお、毎回幾つかの課題レポートを取り上げ、講義の冒頭で全員で議論する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
樋口邦史編著「Z世代のキャリアデザイン」水曜社；まち創り叢書（2026年3月20日頃発刊）

【参考書】
講義の中で随時紹介する

【成績評価の方法と基準】
課題レポート10点×5回、最終レポート50点で評価し、グループワークでの貢献度によって加点する（最高10点）

【学生の意見等からの気づき】
これまでの講義参加者からの要望に基づき、学生にとって身近な地域を選んだ演習を実施します。今年度も、2年生から4年生まで「学部横断型」の多様な参加者によるコミュニケーションとグループワークを中心に「実践型」の講義を実施します。経済学部、社会学部からの参加者も期待しています。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
【Course outline】In this course,the students will think about relationship for Enterprise and Society by some discussion or dialog. Because it's a available for diversification between Enterprise and Society. We will communicate the variety of relationship, the domain, contents and organization among us. And we will be able to identify why the Enterprise have to consider about the social dimension.
【Learning Objectives】The goals of this course are to undustand logic and process of Social Management. Indeed, at the end of the course, students are expected to identfy social responsiblity of te company organization and the meaning of the mainstream for SDGs.
【Learning activities outside of classroom】Before the every session, students will be expected to have read the relevnat case study on web site or news paper. And some text will be intoroduced in the session for refarence of group discussion.
【Grading Criteria /Policy】Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (50%), term-end report (50%), and additional point by in-class contribution and leader-ship on work shop.

MAN300JB（経営学 / Management 300）

ソーシャルファイナンス論

徳永　洋子

配当年次／単位数：2〜4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
少子高齢化、経済格差、震災からの復興といった社会の課題を民間の力で解決していく、NPO法人、公益法人、社会福祉法人などのソーシャルセクターが注目されています。しかし、こうした団体の多くが活動資金の調達に苦労しています。一般に金融（ファイナンス）とは、資金余剰者から資金不足者へ資金を融通することを意味します。本講では、ソーシャルファイナンスを「社会的価値を生むための金融」と捉えて、日本のソーシャルセクターを支える資金の概要とその調達手法を学びます。

【到達目標】
非営利団体の活動資金の調達について具体的なノウハウを体得します。加えて、身近な寄付やクラウドファンディングへの理解を深めることで社会貢献意欲が高まることも期待されます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
スライドを用いた講義形式。スライドは学習支援システムを通じて配布。理解度や関心の把握には毎授業提出してもらうリアクションペーパーを活用し、各授業の初めにフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	プロローグ	本講の概要、目的
第2回	非営利団体の資金源	各種資金源とその特徴
第3回	日本の寄付文化の歴史	奈良時代から現代の事例
第4回	日本の寄付市場	各種調査結果から考察
第5回	ドナージャーニー	寄付者の心理と行動
第6回	ドナーピラミッド	団体の寄付者の構造的把握
第7回	心理学と寄付集め	寄付者心理を事例から考察
第8回	遺贈寄付	その定義と実態
第9回	クラウドファンディング	その概要と成功の秘訣
第10回	会員拡大	新規会員拡大と継続率向上
第11回	企業からの支援獲得	支援のステップアップ戦略
第12回	助成金	助成金の獲得方法と活用
第13回	事業収益	非営利団体らしい事業収益の上げ方
第14回	エピローグ	まとめとテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
宿題はありませんが、授業に関連するニュースや話題については、さらに調べたり、自分の意見を持つように努めてください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
「改訂新版　非営利団体の資金調達ハンドブック」　徳永洋子著　時事通信社
https://www.amazon.co.jp/dp/4788718820/

【成績評価の方法と基準】
平常点（20％）、期末テスト（80％）※期末テストはマークシート形式。資料持ち込み可。

【学生の意見等からの気づき】
卒業後に、すべての学部生が社会福祉法人などのソーシャルセクターに就職するとは限らないことから、本講座の共感を軸とした資金調達の学びを、一般企業に就職した際にも役立てられるようにします。

【Outline (in English)】
1) Course Outline
In today's Japanese society, there are many problems, such as the aging population and declining birthrate, economic disparity, post-earthquake restoration, domestic violence, and lack of public nursery school places. Everyone feels that these problems cannot be solved by the work of national and local government organizations alone. Hoping that they can therefore be solved by efforts in the private sector, the work of social sector organizations, such as social welfare corporations, NPOs, and public-service corporations has been gaining attention. However, most of these organizations have difficulty raising the funds required in order to tackle these issues. In general, "financing" refers to the funding of those who lack required funds by those with surplus funds. In this course, we will see how "charitable funding" can be raised from a diverse range of groups in order to support social sector work in Japan.
2) Learning Objectives
The goals of this course is to know how to fundraise.
3) Learning activities outside of class room
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content by checking relevant contents from newspapers, TV news, online materials, etc.
4) Grading Criteria/Policy
Your overall grade in the class will be decided based on the following.Term-end examination: 80% In class contribution: 20%

MAN300JB（経営学 / Management 300）

NPO論

渡真利　紘一

配当年次／単位数：2〜4年次／2単位
備考（履修条件等）：SSI生は授業コード「N6155」を選択すること。
その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「NPO/非営利組織」は単に行政サービスを補完する組織ではなく、新しい未知なる価値を生み出し、市民社会を創造する主体であることを理解し、その実践のための方法を学びます。併せて、NPOの成立した歴史的背景やその社会的役割をはじめ、運営上の課題や他の主体（ボランティア、行政、民間企業(CSR)、助成財団など）との関係から、今後の社会のあり方を考えていきます。

【到達目標】
・NPOの社会的意義を理解し、実践の方法について具体的にイメージすることができる
・自らの関心分野のNPO活動の考案や授業のなかで気になったテーマに関する研究を通じ、社会との主体的な関わり方を学ぶ
NPOを論じる過程で、受講者自らが、自分らしく在ること／他者に対して寛容であること／仲間を持つこと／社会と本音で向き合うこと等の重要性を認識する機会につながればと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業の前半は、NPOに関する基本的な内容（歴史的背景や社会的意義、運営方法や他の社会資源との関係等）について、映像資料や参考書等を交えて紹介します。後半は、NPO活動実践者から実践を聞き、体験的に実践を把握できる機会をつくります。授業形態は講義を主とします。受講者各々が授業を通じて感じたことや考えたことを言葉にし、共有するなかでの学びも大切にします。
各回の授業計画の変更が生じる場合があります。変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション /NPOのイメージ	NPOのイメージや昨今の社会情勢を共有し、本講義の目的や目標、進め方を受講生と決定する。
第2回	NPOの活動分野と関心分野	映像資料等を活用しながら、NPOの活動分野について知るとともに各々の関心分野について話し合う。
第3回	NPOの歴史的背景	非営利な活動の歴史的背景やNPO法設立経緯等から、NPOの文脈を辿る。
第4回	NPOの社会的意義	行政や企業等との比較を通じ、NPOの社会的意義について考察する。
第5回	NPOの組織運営	NPO組織の立ち上げや運営方法について基本的な内容を理解する。
第6回	NPOと他の主体との関係	他の主体（ボランティア、行政、民間企業(CSR)、助成財団など）との関係について把握する。
第7回	中間課題の共有	中間課題で調べたり考えたことを共有し、お互いの観点から学ぶ。
第8回	実践から考えるシリーズ「資金を調達する」	クラウドファンディングや会費による基金創設、助成金申請など、NPOの多様な財源確保策を取り上げ、各手段の特徴や資金調達の際に配慮すべきことについて考察する。
第9回	実践から考えるシリーズ「協力関係をつくる」	協力関係をつくる理論や具体例を取り上げ、協力関係をつくる方法について考察する。
第10回	NPOの活動事例紹介	NPO活動に携わる者（ゲスト）から、NPOの具体的な実践事例を学ぶ。
第11回	NPOの活動事例紹介	NPO活動に携わる者（ゲスト）から、NPOの具体的な実践事例を学ぶ。
第12回	期末課題に向けた準備1	グループ又は個人で期末課題の準備を行う。
第13回	期末課題に向けた準備2	グループ又は個人で期末課題の準備を行う。
第14回	最終講義「これからの市民社会とわたしたち」	授業の振り返りやまとめを行うとともに、これからの社会を生きる私たちにとって大切な観点とは何か、検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の振り返りの時間を大切にしてください。
また、授業で気になったキーワードや考え方について本やネット、ニュースや映画等から更なる情報をインプットしたり、学んだ内容を周囲に話す等、言葉によるアウトプットを心がけ、自らの「観」を養っていくことを期待します。
授業で紹介したNPOの主催するイベント等へ参加したり、NPO活動へボランティアや取材等を通じて主体的に関わることを推奨します。本授業の準備・復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介します。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
（1）平常点（出席・リアクション）50点、（2）中間課題（NPO活動計画書）10点、（3）期末課題（準備の過程、レポート）40点。
平常点については、授業ごとに授業中の発言又はリアクションペーパーによって評価・採点します。
なお、成績評価の観点の例は以下のとおりです。
・NPOを論じることで社会の捉え方がどのくらい多様になったか
・受講者自らの関心分野の活動や研究テーマにどのくらい主体的に理解を深める関わりができたか
・クラスメイトが関心分野への理解を深めることにどのくらい協力して取り組めたか
（注）授業を欠席する場合は事前に連絡してください。
（注）実習や就職活動、部活動や健康上の理由などで授業への出席があまりできない人は、出来るだけ早く教員に知らせてください。

【学生の意見等からの気づき】
・受講者同士がお互いの観点を尊重して学びを深める環境をつくります。
・授業内容の理解の手助けとなる書籍や映像、記事等を紹介します。
・NPO活動の企画立案を具体的に検討する内容や実践からNPO活動を考察する内容の充実を図ります。

【学生が準備すべき機器他】
講義資料の閲覧や調べ物をする際に使用するため、パソコン又はスマートフォンを持参してください。

【その他の重要事項】
授業計画の内容は、社会情勢や授業の展開によって、変更があり得ることを申し添えます。

【Outline (in English)】
NPO/Non Profit Organization is not just organizations to cover government services, but it provides new values and creates civil societies proactively.
Throughout the class, we understand methods of cooperation with NPOs and the future of our society learning historical background of its establishment, its social roles, operational challenges and relations of other social resources such as volunteers, public administrations, CSRs and grant making foundations.
The goals of this course are to “To understand Social significance of Non Profit Organization”.
By the end of the course, students should be able to do the followings:
- Being yourself.
- Being tolerant of others.
- Facing society in earnest.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 40%、Short reports : 10%、in class contribution: 50%

MAN300JB（経営学 / Management 300）

協同組合論

西井　賢悟

配当年次／単位数：2〜4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、協同組合が人々のくらしの中で果たしてきた役割、そして現在果たしている役割を学ぶ。特に、その役割を社会・経済的な動きと関連付けながら見ていくことにより、さまざまな企業形態の経営組織が存在する中での、協同組合の存在意義を学ぶ。また、農協や生協などの実際の取り組みから、実社会をよりよりものにしていく方策を学ぶ。

【到達目標】
・協同組合の経営組織としての特徴を説明できる
・協同組合の展開過程を社会・経済的背景を踏まえて説明できる
・農協と生協が地域社会に果たしている役割を説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業形態は講義形式とするが、適宜質疑の時間を設けることにより、受講生が主体的に講義に関われるようにする。また、講義後のリアクションペーパーの作成を通じて、講義内容を自らの知識や実際の生活と結びつけながら考察することを求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	協同組合とは	協同組合の多様なタイプ、協同組合と株式会社の違いなど、協同組合の概要を把握する
第2回	世界の協同組合－誕生の歴史と協同組合原則－	イギリス産業革命と協同組合の誕生、協同組合原則の制定・改定など、世界的な協同組合の原理・原則と動向を学ぶ
第3回	日本の協同組合の歴史①	二宮尊徳の思想・実践、産業組合法の制定など、戦前の日本の協同組合の歴史を学ぶ
第4回	日本の協同組合の歴史②	戦時中の協同組合の再編、戦後の多様な組合の設立・発展など、戦時・戦後の日本の協同組合の歴史を学ぶ
第5回	日本の農協①	総合事業の構成と内容、連合会と中央会の機能など、農協・ＪＡグループの概要を把握する
第6回	日本の農協②	正・准組合員の相違、組合運営の仕組みなど、農協の特徴を協同組合らしさの観点から学ぶ
第7回	日本の農協③	自己改革の実践、農業振興の応援団づくりなど、近年のＪＡにおける改革の動向を学ぶ
第8回	日本の農協④	農協の実務者をゲストスピーカーとして招き、農協が地域農業や地域社会に果たしている役割の実際を学ぶ
第9回	日本の生協①	生協の多様なタイプ、購買生協の事業構成と内容、供給事業の仕組みなど、生協の概要を把握する
第10回	日本の生協②	組合員組織と組合員活動の概況、組合運営の仕組みなど、生協の特徴を協同組合らしさの観点から学ぶ
第11回	日本の生協③	生協の実務者をゲストスピーカーとして招き、生協が個々の家庭や地域社会に果たしている役割の実際を学ぶ
第12回	新たな協同の動向	労働者協同組合法の制定、協同組合間連携の拡大など、日本における新たな協同の動向を把握する
第13回	期末試験	小論文中心の試験を通じて、これまで学んだことの到達状況を確認する
第14回	まとめ	これまで学んだことをもとに、協同組合の進むべき途や、協同の実社会での可能性を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。
・毎回、復習として講義内容を考察してリアクションペーパーを作成する。
・毎回、事前に提供する資料や視聴資材を用いて準備学習する。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない

【参考書】
参考書は指定しない

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー（70％）、期末試験（30％）。
リアクションペーパーは、毎回の講義内容を自らの知識や実際の生活と結びつけながら考察できているかを評価する。
期末試験は、小論文中心の構成とし、本講義の到達目標に対する到達状況を評価する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回、講義の開始時にその回のポイント、終了時にポイントを踏まえたまとめを行う。

【その他の重要事項】
本講義では農協・生協の実務者をゲストスピーカーとして招く予定としている。農業振興、食品流通、地域づくり、環境問題への対応や、そこで働く職員などをリアルに学ぶことができるようにする。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this lecture, students will learn the roles that cooperatives have played in people's lives and the roles they are playing today. In particular, students will learn about the significance of the existence of cooperatives in the presence of various types of management organizations, and how to improve the real world.
【Learning Objectives】
・Be able to explain the characteristics of cooperatives as management organizations
・Be able to explain the development process of cooperatives based on the social and economic background
・Be able to explain the role that agricultural cooperatives and consumer cooperatives play in the local community.
【Learning activities outside of classroom】
・The standard time for preparation and review of this class is 2 hours each.
・Every time, as a review, consider the contents of the lecture and create a reaction paper.
・Prepare for each lesson using materials and audio-visual materials provided in advance.
【Grading Criteria /Policy】
・Reaction paper (70%), final exam (30%).

・Reaction papers are evaluated based on whether students are able to consider the content of each lecture while connecting it with their own knowledge and actual life.
・The final exam will be composed mainly of short essays and will be evaluated on the achievement status of the goals of this course.

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

災害支援論

青木　信夫、正谷　絵美

配当年次／単位数：2〜4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
災害が発生した後に余儀なくされる避難生活や生活再建などへの支援の在り方また、災害発生後の支援を効果的に行うために必要な事前の備えなどについて総合的に学び実践するための知識や技術を習得して、年々繰り返され巨大化する自然災害の被災者に必要な支援とは何か、支援のあるべき姿を探求していく。

【到達目標】
被災者に必要とされる支援や支援の方法について知り、実践的な支援のあり方について理解を深める。
・我が国における災害支援の体制を知り、日常生活でどのような備えが必要であるか考える。
・一方的な支援だけでなくお互いに支援し合えるコミュニティの形成と共助を通して人々が地域を支えて行くことの大切さを知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義のほかに、グループ討議や図上演習を実施することで学生自身が考え、災害をイメージして支援のあり方について気づかせる。また、被災者と交わる支援のあり方として、体験型の授業を取り入れる。レポート等の提出、フィードバックはメールあるいは「学習支援システム」を通じて行い、最終授業では13回までの各講義内容のまとめやレポート等の講評、解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	①授業のオリエンテーション ②ワークショップ	・授業の概要や目的及び進め方、理解すべき点や評価方法等について知る。 ・災害支援のあり方について、グループ討議を行い被災者が本当に必要とする支援のあり方について知る。
2	体験学習 ・震動体験（起震車） ・煙避難体験（煙体験ハウス） ・初期消火（訓練用消火器）	・東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）の実際の地震観測データを基に３次元で再現された震動を体験する。 ・人体に無害な煙を充満させたテント内に入り、火災時における煙の怖さと避難方法などを体験する。 ・初期消火の必要性を学び、消火器の操作手順を体験する。
3	防災講話 ・地域防災（自助、共助、公助）	・地域防災を、「自助」「共助」「公助」の視点から考え、平常時及び発災時の行動について考える。
4	ロープワーク ・結びの基本 ・水難救助と引上げ救助	・日常生活では勿論のこと、災害発生時には人命救助や避難生活にも役立つロープの結び方の基本を体験する。
5	災害の種類と災害心理	・地震、津波、水害、火災など各災害の原因、特徴、対策と共に逃げ遅れの原因となる災害心理について学ぶ。
6	図上演習DIG	・災害発生後に行う、「避難行動要支援者」への支援のあり方と事前に必要な体制づくりについて考える。
7	心肺蘇生法 ・胸骨圧迫／AED操作 応急手当 ・止血法・災害時の手当	・救命の重要性を理解する。 ・心肺蘇生に必要な胸骨圧迫とAED操作を体験し、実施手順を知る。 ・災害時の傷病者に対して身の回りにあるものを利用して一時的に施す手当の方法を知る。
8	災害ボランティアセンター実施訓練	・災害ボランティアセンターの仕組みを理解し、運営に必要な技術を実施訓練により習得する。
9	避難計画、避難行動	・避難計画や避難行動のあり方について知り、避難に必要な支援とはなにかを考える。
10	避難所HUG	・避難所の開設、運営を模擬的に体験することにより、避難所で起こる様々な問題にどう対応するかまた、避難所で生活する被災者への支援をどのようにするかについて考える。
11	国の支援対策	・災害が発生した時に自衛隊、海上保安庁がどのように行動するのか、その仕組みと実体験について学ぶ。
12	国の支援構造	・災害時、有事の際、国がどのように行動し、どのように支援するかその構造を学ぶ。
13	クロスロード	・災害発生後に行う支援のあり方について出された質問にYESまたはNOで答え、自分ならどのように対応するかを考える。
14	①授業のまとめ ②春学期定期試験	・各授業の要点をまとめ、レポート等の講評、質疑応答、ディスカッションを通して災害支援を掘り下げる。 ・本授業を終えた後の理解度を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
災害支援に関する学問は、「災害支援学」などのように決められた枠組みの中だけに存在するのではなく、日常生活の中にこそ多くのヒントが潜在していることから、自身が日常生活を送る中で防災や減災とどう取り組んで行くべきか考えることが大切であり、人と交わることで多くの気づきを得ることができるので積極的に情報を得て人と共有するようにする。
本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。
授業時に参考となる資料を配布する。

【参考書】
授業内で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
春学期定期試験50%、平常点40%、レポート10%
演習や体験型授業を行うので継続的な出席を求める。単位取得の前提条件となる出席回数については、オリエンテーション時（初回授業）に明示する。

【学生の意見等からの気づき】
授業では、講師陣の防災啓発活動の現場や被災地での活動体験を基に、学生が災害の当事者として支援のあり方を自ら考え理解できるような内容に心がける。

【Outline (in English)】
[Course outline] Knowledge of how to provide comprehensive support for evacuation and rebuilding of life after a disaster occurs, as well as the necessary preparation for effective support after a disaster occurs. They will acquire skills and explore what kind of support is needed for victims of natural disasters that are repeated and huge every year.
[Learning Objectives] Learn about the support and support methods needed by disaster victims and deepen their understanding of practical support.
—Learn about the disaster support system in Japan and think about what kind of preparations are necessary in daily life.
—Learn the importance of people supporting the community not only through one-sided support but also through the formation and mutual assistance of communities that can support each other.
[Learning activities outside of classroom] The study of disaster relief does not exist only within a fixed framework such as "disaster support studies", but because many hints are latent in daily life, oneself has a lot of hints in daily life. It is important to think about how to tackle disaster prevention and mitigation while sending a message, and since you can get a lot of awareness by interacting with people, actively obtain information and share it with people. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria /Policy] Fall semester regular exam 50%, normal score 40%, report 10%
Since we will hold exercises and hands-on lessons, we request continuous attendance. The number of attendances, which is a prerequisite for earning credits, will be clearly stated at the time of orientation (first class).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

人権活動論

寺中　誠

配当年次／単位数：2〜4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【授業概要】
人権は、実社会の問題の解決のための手段として使ってこそ、意味のある概念です。多くの社会事象の中から「人権問題」として対象化された問題の解決手法を学びます。
【授業の目的・意義】
人権問題の構造や主なテーマを把握するための方法の習得を目的とし、人権活動を担う団体や組織のマネジメントの基礎についても考えます。

【到達目標】
・法や権利を理解するための基礎知識を身につけ、国内的・国際的人権なシステムがどのように機能しているかを理解する。
・上記で得た法や権利の知識を日常生活の上で使えるようになる。
・実際に人権に関わる活動の現場で役立つ基礎知識と技術を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は主として講義形式で行い、必要に応じてディスカッション形式も取り入れます。関係する資料等を紹介し、外部の経験者の声なども紹介しながら、理論的な仕組みを勉強します。毎回リアクションペーパーを提出してもらいます。
学生は、各自受講用のノートを準備し、毎回ノートに講義内容を記録します。このノートを充実させることにより、自分自身の人権活動論を習得するようにします。
課題に対しては、授業内やHoppii等を活用してフィードバックを行う予定にしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	人権論基礎 I 人権における権利義務関係論	権利義務関係論で基本的人権概念を再考する。
第2回	人権論基礎 II 人権を構成する要素	社会資本（ソーシャルキャピタル）としての人権と依存
第3回	人権論基礎 III 福祉と人権	多義的な平等概念とポジティブアクション：配分の平等と結果の平等
第4回	人権基礎論 IV 権利の優先順位	絶対的自由と調整可能な権利：自由権と社会権、そして人権の不可分性・相互依存性
第5回	人権基礎論 V 権利制約の原理	調整可能な権利の具体的な調整における手順：比例原則、LRA等
第6回	依存と人権 I 依存症の構造	依存症という概念の理解とその実態
第7回	依存と人権II ハームリダクション	依存症におけるハームリダクション政策：公衆衛生か刑罰か？
第8回	性産業と人権 I 性産業論	性産業政策の歴史と近年のハームリダクション政策
第9回	性産業と人権 II 「慰安婦」問題の構造	性産業論と植民地主義（戦争責任）の狭間で
第10回	移民問題 I 移民排斥という構造的暴力	移民をめぐる意識や「テロ」不安、「体感治安」。
第11回	移民問題 II 「在日」問題と「ヘイト」	植民地支配に伴う「在日」問題と「ヘイト犯罪」の状況。
第12回	移民問題 III 移住労働者問題が表すグローバルな変化	移民を政策的に受け入れたり、締め出したりした政策のブレについて。
第13回	企業と人権 I ビジネスと人権	国連指導原則の誕生と企業の社会的責任（CSR）の流れ
第14回	企業と人権 II 企業や非国家主体の統制のための制度	ソフトローの重要性と国内人権機関、差別禁止法制の必要性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ノートに、授業等で知りえた参考情報や文献の内容を記録します。その内容を見直し、次回授業では必要な点を確認します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に定めませんが、山崎・川島・菅原「国際人権法の考え方」（法律文化社）を参照することが多いと思います。

【参考書】
申惠ボン「友だちを助けるための国際人権法入門」（影書房）、阿部浩己「国際法を物語る」三分冊（朝陽会）ほか
http://www.teramako.jp/housei.html 上で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
「知る」「理解する」「日常的に使える」「活動できる」という各段階をどの程度習得したかを確認する。
期末レポートないし試験の評価（60％）
リアクションペーパーの内容も含めた平常点評価（40％）

【学生の意見等からの気づき】
「理念的」「抽象的」と捉えるという先入観を壊し、日常の具体的な事例に即したところから、実際の問題解決に役立てるための発想を養うことに注力したい。

【Outline (in English)】
[Outline]
Human Rights are to solve problems within the real life and in the community. The class shall explore ways to find out how to design 'social problems' adaptable to human rights.
[Learning Objectives]
Obtaining methods to understand themes and mechanisms of human rights problems as "social problems", while getting some thoughts of organising and managing human rights movements.
[Learning activities outside of classroom]
Each students are required to spend three to four hours before and after the class meetings. They are also invited to make questions regarding contents.
[Grading Criteria]
60% are considered for ordinal attendance attitude and performances provided during the class (including response sheets). 40% are counted from term-end essays/reports.

ASS300JB（社会経済農学 / Agricultural science in society and economy 300）

農山村とコミュニティ

図司　直也

配当年次／単位数：2〜4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、農山村の地域構造の原型ともいえる「家と集落（むら）の関係」を理解し、農山村地域が今日に至るまで直面してきた社会的諸問題を考えながら、その解決手段として試みられてきた地域づくりの展開を探っていく。

【到達目標】
講義を通して、まず、農村の家と集落（むら）との関係を通して、農山村地域構造の原型を理解できる。その上で、農と食の変化や、環境・開発、農村女性や高齢者などの担い手、都市と農山村との関係性、「小さな自治」の試みなど多様な切り口から、農山村地域が直面する問題の背景と、そこで展開する新たな取り組みを知る。授業で学んだ内容を、食をはじめとする日常生活との繋がりから意識したり、ゼミ活動や実習等の農山村地域における現場での実践に活かすことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義形式で進め、リアクションペーパー等のフィードバックは、授業内で行い全体で共有するとともに、質問にも応えていく。なお、講義は以下の内容で進める予定であるが、進度やゲスト講師によって変更もあり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	村落空間とむらの構造	農山村の地域構造の原型とその変化を学ぶ。
第2回	むらの変化―過疎化	農山村の地域構造変化である過疎化を学ぶ。
第3回	むらの変化―都市化・混住化	農山村の地域構造変化である都市化・混住化を学ぶ。
第4回	変わりつつある農村の家・家族・世帯	農山村の家族・世帯の変化を学ぶ。
第5回	農村自治とむらづくり	農山村の自治の仕組みを学ぶ。
第6回	「農」の変化と地域	「農業」から農山村地域での取り組みを捉える。
第7回	「食」の変化と地域	「食」から農山村地域での取り組みを捉える。
第8回	農の担い手―農村女性や高齢者	農村女性や高齢者など多様な主体による農の取り組み
第9回	開発と環境―景観形成・コモンズ	景観形成・コモンズに関する取り組み
第10回	消費される農村と地域づくり	ｸﾞﾘｰﾝﾂｰﾘｽﾞﾑの展開と課題
第11回	都市農村交流から協働へ	外部人材の役割と活用
第12回	新しいコミュニティづくりの試み―地域運営組織	地域運営組織の役割と立ち上げプロセス
第13回	新しいコミュニティづくりの試み―「小さな経済」	「小さな経済」を生み出す実践
第14回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習には、各２時間程度を確保してもらいたい。日頃から、地域に内在する様々な問題に関心を寄せ、その課題を乗り越える取り組みや知恵に着目しておく。講義後には、授業内容について復習し、改めてテーマについて考えることが望ましい。

【テキスト（教科書）】
講義内において配布・紹介する資料を用いる。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点40%，期末レポート60%

【学生の意見等からの気づき】
VTRなども交えて農山村の地域社会の様子が視覚的にも理解できるよう工夫を重ねていく。

【Outline (in English)】
【Course outline】In this lecture, we will understand the prototype of the regional structure of agricultural and mountain villages, think about regional issues, and explore the development of regional development.
【Learning Objectives】You can be aware of what you have learned in class from the connection with daily life such as food, and you can apply it to practice in the field in agricultural and mountain village areas.
【Learning activities outside of classroom】Two hours will be secured for each preparation and review of this class. It is advisable to take an interest in various issues in the area on a daily basis and review the lesson content after the lecture.
【Grading Criteria /Policy】60% of reaction papers every time, 40% of year-end reports.

CMF300JB（その他の複合領域 / Complex systems(Others) 300）

コミュニティアート

吉野　裕之

配当年次／単位数：2〜4年次／2単位
備考（履修条件等）：SSI生は授業コード「N6162」を選択すること。

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
多くの事例を通して、アートは単に芸術作品のことではなく、まち＝コミュニティを豊かに耕す日常的な実践であることを理解し、その実践のための方法を学ぶとともに、これからのまちづくりのあり方を考えていく。

【到達目標】
まち＝コミュニティは最も身近な社会であり、私たちの生活の現場であることの意味を理解し、コミュニティアートとは住民がそれぞれの立場でまち＝コミュニティの価値を高めていく行為であるという視点から、こうした実践の分析や評価、企画を行うことができるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この授業でいうアートとは、いわゆる美術だけでなく、文芸、音楽、演劇など、さらに暮らしに根づいた生活文化をも含めたもの／ことを指し、こうしたアートをまちづくりにおいてどのように活用するかについて学ぶ。前半では「まちづくりとは何か」「アートとは何か」について、後半では「まちづくりにおけるよりよいアートの活用のしかた」について学ぶ。
方法としては、講義形式が中心にはなるが、ワークシートを活用した思考のトレーニングなども取り入れていく。また、リアクションペーパーなどにおける優れたコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義内容全般の説明。
第2回	ＮＰＯ・市民主体のまちづくりの意義	ＮＰＯ・市民主体のまちづくりの意味や意義についての説明。（授業の展開によって、若干の変更があり得る。以下同）
第3回	ＮＰＯ・市民主体のまちづくりの事例（１）	ＮＰＯ・市民活動によるまちづくりの事例（先進地域のまちづくりの歴史）の紹介と解説。
第4回	ＮＰＯ・市民主体のまちづくりの事例（２）	ＮＰＯ・市民活動によるまちづくりの事例（学生が主体となった活動の事例）の紹介と解説。
第5回	ＮＰＯ・市民主体のまちづくりの事例（３）	ＮＰＯ・市民活動によるまちづくりの事例（中高齢者が主体となった活動の事例）の紹介と解説。
第6回	生活の現場としてのまちをめぐる考察	実体験に基づくまちをめぐる考察とＮＰＯ・市民主体のまちづくりの意味の考察。
第7回	アートの意味	アートの意味（意味の歴史的変遷や芸術家のことばなど）の説明。
第8回	都市空間・まちなかのアートの変遷、コミュニティアートの要件と機能	都市空間・まちなかのアート（パブリックアートやコミュニティアートなど）の変遷の説明、コミュニティアートの要件と機能の説明。
第9回	コミュニティアートの事例（１）	コミュニティアートの事例（基本的な考え方を理解するための事例）の紹介と解説。
第10回	コミュニティアートの事例（２）	コミュニティアートの事例（大都市／拠点型）の紹介と解説。
第11回	コミュニティアートの事例（３）	コミュニティアートの事例（大都市／まちなか展開型）の紹介と解説。
第12回	コミュニティアートの事例（４）	コミュニティアートの事例（地方都市／地域密着型）の紹介と解説。
第13回	コミュニティアートの事例（５）	コミュニティアートの事例（地方都市／地域交流型）の紹介と解説。
第14回	これからのまちづくりとアート	これからのまちづくりとアートの関係のあり方についての考察。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、必ず授業の復習をすること。また、授業に関連する新聞記事や文献などに関心をもつとともに、日々の生活のさまざまなもの／ことを、授業との関連で捉え直していくように心掛けること。さらには、まちづくりやアートに関わるイベントなどには積極的に参加することが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は1回につき4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。（必要に応じて適宜配布する。）

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（リアクションペーパーなど）：30点　期末レポート：70点
平常点におけるリアクションペーパーなどでは、1回〜数回の授業の内容の理解度について確認する。
期末レポートでは、コミュニティアートの意味の理解度やその分析・評価などの習得度について確認する。

【学生の意見等からの気づき】
これまでと同様だが、応用力、思考力がついた、新しい発見があったなどの感想をもつ学生が多い。自分が大きく変化できたということだろう。今年度も引き続きこうした授業を展開していきたい。

【Outline (in English)】
(Course outline)
We will understand that art is a powerful way to revitalize the community, learn methods for practicing it, and think about the way of community design in the future.
(Learning Objectives)
By the end of the course, students will be able to do the followings:
- Analysis and evaluation of cases about community art
- Planning of community art
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
- Reviewing the class meeting
- Reading literature related to the class meeting
- Participating in events related to community design and art
(Grading Criteria /Policy)
Final grade will be calculated according to the following process.
Short reports : 30%、Term-end report : 70%

CMF300JB（その他の複合領域 / Complex systems(Others) 300）

コミュニティスポーツ

深野　聡

配当年次／単位数：2〜4年次／2単位
備考（履修条件等）：抽選科目。2026年度の授業実施日は、9月15日・16日・17日。

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人類の長年のパートナーである「馬」について、その歴史やコミュニティスポーツとしての役割を含む多岐にわたる今日の活用事例について実馬を用いた体験活動を組み入れながら実践的に学ぶ。
加えて本学多摩キャンパスにおける「馬」資源を用いて、この地域において目指すべき「人馬のウェルビーイング」の形は何かを共に考え、その実現を目指す。

【到達目標】
・人と馬の歴史、コミュニティスポーツとしての役割を含む国内外の馬の多様な利活用を理解できる。
・馬の性格と特徴を理解できる。
・馬とのふれあいにより、その感触、大きさ、体温などを実感する。
・馬を用いた活動における基礎知識と注意事項を理解し、安全に馬にさわれるようになる。
・高齢者、障がい者を対象とするホースセラピーや教育における馬活用の事例を学ぶ。
・馬のいる場所が人の暮らしと地域にどのように繋がるべきか、人馬のウェルビーイングを検討できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・フィールドワーク時の安全性確保のため、受講希望者数が制限を超えた場合は事前アンケートでの記載事項に基づく選抜を行います。
・講義にて小レポート（リアクションペーパー）の提出を各回求め、授業内やHoppii等を活用してフィードバックを行う予定です。
・教室では講義形式が中心、城山地区（馬場）では実馬を用いたフィールドワークを実施します。
・全講義終了後にレポートの提出を求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス：「馬に会う、その前に」	本授業の概要と目的、到達目標を確認し、フィールドワーク実施時の注意事項を理解する。
2	フィールドワーク：「馬と仲良くなろう」Ⅰ	見る、近づく、さわるの実施。活動を通じて馬の身体を観察し、大きさ、体温、性質を理解する。
3	人と馬の関係学①	人と馬の歴史や馬の進化について理解する。
4	人と馬の関係学②	馬の性格や生態、品種や特徴について理解する。
5	人と馬の関係学③	国内外における馬事産業およびスポーツとしての馬術を含む馬事文化の概要を理解する。
6	フィールドワーク：「馬と仲良くなろう」Ⅱ	厩舎における日常の馬の世話を体験し、その内容と各種馬具の使い方等を理解する。
7	フィールドワーク：「馬と仲良くなろう」Ⅲ	ブラッシングを体験し、その際に必要となる注意事項を理解する。
8	人と馬の関係学④	コミュニティスポーツとしての活用を含む馬の多様な利活用の事例を理解する。
9	人と馬の関係学⑤	高齢者や障がい者を対象としたホースセラピーの活動事例を紹介し、その内容について理解する。
10	人と馬の関係学⑥	馬を用いた活動実施時の課題を学び、その解決には何が必要かを考える。
11	フィールドワーク：「馬と仲良くなろう」Ⅳ	馬と一緒に歩く体験をする。馬の表情や動作からその心理の感じ取り方を学ぶ。
12	人馬のウェルビーイングを考える①	競走馬の一生と引退競走馬の活用策について、ホースセラピーでの可能性を含め国内事例を紹介し理解する。
13	人馬のウェルビーイングを考える②	法政大学が考える人馬のウェルビーイングを紹介し、今後の可能性を説明する。
14	総括	本授業を振り返り、受講者相互のディスカッションを通じて、自らが参加できる人馬のウェルビーイングの形は何か考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講前にHoppiiにて案内される教材を元に準備学習を行うこと。
配布資料やノートを復習して小レポート（リアクションペーパー）を各回作成すること。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『人馬のウェルビーイング』　編者：高見京太・佐野竜平　発行：㈱クリエイツかもがわ　2,200円
『フレンドリーホース』　編集：（公社）全国乗馬倶楽部振興協会　880円
※フレンドリーホースの購入方法は、後日学習支援システムを通じ案内します。
※必要に応じて、その他の資料は配布します。

【参考書】
ウェブメディア『いきもののわ』ホースセラピー〜馬とのふれあいが人にもたらすもの〜　緑書房
https://midori-ikimono.com/2026/01/06/horsetherapy/
『ホースセラピーサポートブック』　発行元：うまJAM
https://www.umajam.com/pages/35/
『絵でわかる馬の本』 WAVE出版
https://www.wave-publishers.co.jp/books/9784872906677/

【成績評価の方法と基準】
①講義の平常点およびリアクションペーパー：４５％（５点×９回）
②フィールドワークの平常点と取り組み姿勢：４０％（８点×５回）
③最終レポート：１５％（１５点×１回）

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパーや講義内における学生の関心事項に応じ、授業計画にて予定以外の馬事関連テーマに対しても学習できるよう柔軟に対応します。

【学生が準備すべき機器他】
フィールドワーク時は帽子と動きやすい服装を着用し、水分補給に必要な飲料を必ず持参してください。
【注意事項】半ズボン、スカート、サンダル着用での参加は不可。

【その他の重要事項】
・本科目は、オータムセッション期間内の次の３日間による集中講義です。
　①９月１５日（火）、②９月１６日（水）、③９月１７日（木）
・各日とも午前は城山地区（馬場）、午後は現代福祉学部棟にて学習を実施し、移動は青バスを利用予定です。

・初回ガイダンスは、城山地区（馬場）にて実施します。ガイダンス終了後はそのままフィールドワークとなりますので事前連絡に注意してください。
・馬アレルギーまたはその可能性がある学生は、必要な対策を講じた上で授業参加してください。

【Outline (in English)】
Lecture outline.
This lecture treats the horse as a partner of Humans, learning about its history, characteristics and diverse uses. Time will be set aside for interaction with horses to deepen understanding. Consider the wellbeing of people and horses in the region.
Learning objectives
By the end of the course, students will be able to:
-A. Understand the history of people and horses and examples of diverse uses of horses in different regions.
-B.Understand the character and characteristics of horses.
-C.Know the temperature of horses and handle them safely.
-D.Be able to consider the links between horses and local communities.
Learning activities outside the classroom
Before and after each class meeting, students are expected to spend two hours each learning to understand the course content.
Students should have completed the prescribed assignments at the end of each lesson.
Grading criteria
The overall class grade will be determined according to the following criteria.
Reports in lectures: 45% (5 points x 9 times)
Fieldwork: 40% (8 points x 5 times)
Final report: 15% (15 points x 1 time)

CUM300JB（文化財科学・博物館学 / Cultural assets study and museology 300）

地域遺産マネジメント論

須田　英一

配当年次／単位数：2〜4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　地域の歴史や文化の中から生成されてきた地域遺産（歴史的町並み、歴史的建造物、民俗芸能、史跡など）を活かした地域づくりが、日本各地で取り組まれています。そこには地域住民をはじめNPOなどが担い手として活躍しています。授業では、さまざまな地域遺産に関する基礎的な知識や、地域遺産を活かし、Well-being（健康で幸福なくらし）を地域の中に実現していくための方法について幅広く解説します。近年の文化政策の展開も視野に入れながら、文化財の保存と活用についての知識と、実務に展開可能な適応力を身に着ける講義を展開します。

【到達目標】
さまざま地域遺産に関する基礎的な知識をはじめ、地域遺産の活用と地域のネットワークづくりに向けた能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
地域遺産の多くを占める文化財の保護の歴史をふりかえり、地域遺産のマネジメントに関わる人々の仕事や役割、地域遺産に関わるボランティア活動や地域遺産の活用例を映像や画像などにより紹介します。なお、授業の展開によって、授業テーマに若干の変更があり得ます。講義形式の授業形態です。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業のガイダンス、評価の方法、関連映像
第2回	地域遺産とは、地域遺産マネジメントとは	地域遺産、地域遺産マネジメント
第3回	地域遺産の生成と保護の現状	地域の歴史と地域遺産の生成、文化財の保存・管理と活用
第4回	文化財保護の歴史	明治期の文化財保護、大正期・昭和戦前期の文化財保護
第5回	今日の文化財の保護制度	文化財保護法、文化財保護法の改正と文化財の拡大
第6回	地域遺産保護と専門家(1)	文化財担当専門職員、学芸員の仕事と役割
第7回	地域遺産保護と専門家(2)	文化財保護修理技術者の仕事と役割、さまざまな地域遺産
第8回	世界遺産条約	世界遺産の成り立ちとしくみ
第9回	地域遺産とボランティア活動	博物館ボランティア、文化遺産ボランティア
第10回	地域遺産の再生と活用(1)	地域遺産としての建造物の修復と活用
第11回	地域遺産の再生と活用(2)	地域遺産としての史跡の修景と活用
第12回	地域遺産の再生と活用(3)	地域遺産としての名勝・天然記念物・食文化
第13回	地域遺産の再生と活用（4）	地域遺産としての伝統的建造物群
第14回	まとめ	地域遺産と地域づくりまとめ、課題レポートのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　自分の住む地域にはどのような地域遺産があり、それらは私達の生活とどのような関わりがあるのでしょうか。きっとすごい身近に何かしらの地域遺産があるはずですし、どこかに眠っているかもしれません。見つけてみて下さい。また、博物館や美術館の展覧会にも是非行ってみましょう。
　本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に選定しません。資料を毎授業時に配布します。

【参考書】
馬場憲一『地域文化政策の新視点－文化遺産保護から伝統文化の継承へ－』（雄山閣、3000円）、川村恒明監修・著『文化財政策概論－文化遺産保護の新たな展開に向けて－』（東海大学出版会、3500円）。その他については、必要に応じて講義の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
①成績評価方法
・平常点：毎回リアクションペーパーの提出を求めます。
・試験方法：期末に課題レポート提出。
・評価方法：平常点（リアクションペーパー）40%、課題レポート60％により総合的に評価します。課題レポート提出は単位の修得に不可欠とします。
②評価基準
・平常点：授業態度、学習への意欲、リアクションペーパーの内容によって評価します。
・レポート：課題に適切に答え、現地を訪れるなど積極的に取り組んだものであるかどうかを評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】
質疑応答を積極的に行い、双方向での授業運営を図ります。

【その他の重要事項】
地方自治体での文化財調査・実務経験、大学文化財調査機関での調査・研究経験を活かして、実際の経験にも重きを置きながら授業を展開したいと思います。地方自治体勤務を希望している学生においては、自治体の仕事の進め方などを理解するうえで、参考になると考えます。

【Outline (in English)】
This lecture explain broadly about the basic knowledge on various regional heritage and the way to make use of community heritage and to realize Well-being Society in the area.The goals of this course are to acquire the ability to utilize regional heritage and build regional networks.Students will try to find a community heritage　that is related to our lives in their area.　Students should also visit museums and museum exhibitions.　Your study time will be more than four hours for class. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report,　term-end report（70%）,and in-class contoribution（30％）.

TRS300JB（観光学 / Tourism Studies 300）

地域ツーリズム

野田　岳仁

配当年次／単位数：2〜4年次／2単位
備考（履修条件等）：SSI生は授業コード「N6165」を選択すること。

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、地域ツーリズムの論理とその仕組みを理解することを通じて、地域社会における持続的な観光のあり方を模索することを目的としている。地域ツーリズムとは、観光の本質にある“大衆性”を相対化し、地域課題の解決や現場に暮らす人びとの幸せ（ウェルビーイング）の実現を目指す新しい観光実践である。それゆえ本講義では、地域ツーリズムの典型として、”水辺空間の観光化”、”伝統文化の観光化”、”生活空間の観光化”の３つのテーマのケーススタディを扱う。地域ツーリズムという新しい観光実践を理解するうえで大切なことは、現場に暮らす人びとの立場に立って、問題の本質を理解し、その解決に応えようとする視点を持つことである。従来の大衆的な観光とは異なる特徴を持つからこそ、地域ツーリズムを理解する新しい方法論を構想していく必要があるからである。本講義では、現場の人びとの立場からの持続可能な観光のあり方を探究していく。

【到達目標】
大衆的な観光との差異に注目しながら、地域ツーリズムの基本的な考え方を理解し、地域ツーリズムを捉える視点を養うこと。そのうえで、現場の人びとが抱える課題に対して、本講義の知見を活かして有効性のある政策論を構想する力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本講義では”いくら儲かるか”、”いかに集客を伸ばせるのか”といった大衆的な観光のイメージを相対化して、現場の人びとの立場から観光という現象を捉え直していく。DVDなどの視覚資料を積極的に活用する。授業の展開によって若干の変更がありうる。授業計画に変更がある場合は学習支援システムにて適時提示する。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地域ツーリズムとは？	地域づくりの手段としての「観光」論
第2回	地域ツーリズムをとらえる視点	人びとの「生活」を捉える方法から
第3回	大衆的な観光地は本当に稼げるのか？	マスツーリズムの功罪
第4回	観光地化を目指さない美しいむらづくり	競争から共創の観光まちづくり
第5回	地域ツーリズムにおける成功とは？	水辺空間の観光化①
第6回	生活保全としての地域ツーリズム	水辺空間の観光化②
第7回	地域の自治とツーリズム	前半のまとめ
第8回	なぜ地元の人びとは踊りの観光資源化を望まないのか？	伝統文化の観光化
第9回	水を愛でる自然観からみたアクアツーリズム	生活空間の観光化①
第10回	アクアツーリズムの担い手論	生活空間の観光化②
第11回	アクアツーリズムの論理と価値	生活空間の観光化③
第12回	銀座のローカル・ルールとアクアツーリズム	生活空間の観光化④
第13回	地域ツーリズムの理論と実践	観光の大衆性を相対化する新しい観光論の構想
第14回	講義のまとめと試験	本講義の知見と意義の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
適宜アナウンスするが、各回の振り返りは不可欠となる。配布資料に記載された参考文献を参照すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
毎回資料を配布する。

【参考書】
毎回の配布資料に参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
講義内のコメント・リアクションペーパー（10%）、期末試験（90%）の総合評価。到達目標が達成されているかを確認する。

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパー等を通じて学生からのコメントを適宜授業内容に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを積極的に活用する。

【その他の重要事項】
担当教員は地域づくり活動の現場における実務経験を有しており、その経験に基づいてより有効性のある政策論を議論していく。

【Outline (in English)】
【Course outline】The purpose of this course is to help students master the basic concepts of community tourism studies.【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to describe major methods and theories of community tourism studies, discuss the role of local community policy and apply the treatment of community tourism problems.【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on reaction papers(10%) and term-end examination (90%).

ENG300JB（その他の工学 / Engineering 300）

住民参加の手法

杉崎　和久

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域づくりの現場では、住民等の地域の多様な主体が地域の資源や課題、各主体の思いやニーズなどを共有し、それらを踏まえて効果的な活動を検討し、それを実施するプロセスが重要である。
この講義では、これらのプロセスを実施する際に必要となる対話手法（住民参加手法）の特徴を理解し、運用できる能力を獲得する。

【到達目標】
住民参加が求められる社会背景を理解し、地域の多様な主体がプロジェクトの中で適切に住民参加手法の選択・開発、そして運用ができる能力を習得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
住民参加の役割・効果、具体的な活用事例、基本的な考え方等の基本事項については、講義形式で理解を深める。さらに、代表的な住民参加手法については、効果等の特徴を把握するために講義の中で体験する。また、地域の多様な主体による対話の重要となる社会的背景等の理解をするために基本文献を講読し、概要等を報告するレポート課題を出題する。
授業は、原則として対面で行う。対面の講義の中でオンラインツールを活用した手法を体験する。なお、レポートについては、その内容を用いたグループワークを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の進め方、目標等を説明する（オンラインでの実施）。
第2回	住民参加の事例紹介１	事例を通じて、住民参加全体をデザインする考え方を紹介する。
第3回	住民参加の事例紹介２	事例を通じて、地域住民等が対話をするワークショップのねらい・手法等について紹介する。
第4回	住民参加の事例紹介３	事例を通じて、ステークホルダーの特徴に合わせた意向収集の手法等について紹介する。
第5回	意見表出を促す手法	参加者からの意見表出を促す手法を体験する。
第6回	意見整理のための手法	参加者から出た意見を整理するための手法を体験する。
第7回	意見を誘発するフレームワーク	参加者からの意見を誘発するフレームワークを用いた対話を体験する。
第8回	コロナ禍におけるオンラインを用いた対話手法	オンラインツールを用いた対話の体験する。
第9回	対話の空間（場）づくり	創造的な対話を促す空間のあり方を学ぶ。
第10回	対話を可視化させる手法	議論経過を共有するための手法（ファシリテーショングラフィック等）を体験する。
第11回	多様な参加者の知恵を共有する手法（レポート発表）	レポート内容（関係する文献の内容・感想）を受講者間で共有する体験をする。
第12回	現場の情報を共有する手法	即地的な地域情報を共有する手法（まちあるき）を定見する。
第13回	ファシリテーターの役割と聴く姿勢	創造的な会議を生み出す役割（ファシリテーター）と技術、聴く姿勢について体験を通じて学ぶ。
第14回	総括	授業全体を振り返り、住民参加を実施する上でのポイントを再確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業では適宜レジュメを配布する

【参考書】
中野民夫「ワークショップ」（岩波新書）
世田谷トラストまちづくり「参加のデザイン道具箱」
その他、講義の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・授業への貢献（７０%）、中間レポート（３０%）
・授業への貢献は、講義ごとにワークへの参加状況やリアクションペーパーの内容などを踏まえて行う。
・レポートは住民参加の手法に関する文献を読み、その概要を整理し、自分の意見をまとめて提出する。なお、レポート内容を用いて行う授業回がある。

【学生の意見等からの気づき】
地域づくりの現場での参加手法を体験するだけでなく、その背景となる理論や経緯等についても適切に解説していく。

【学生が準備すべき機器他】
授業は、原則として対面で行う。
しかし、オンラインツールを用いたグループワークを行うこともある。その際には、タブレットあるいはパソコンが用いる。

【その他の重要事項】
・受講者の人数等により、授業内容、方法等を変更する場合がある。
・講義では対話手法の体験を重視している。そのため、事例紹介等をのぞけば、グループワークを多用行う。
・担当教員は、複数の地方自治体の現場において、行政と地域住民をつなぐまちづくりコーディネーターとして勤務経験を有する教員が地域での実践事例を交えながら、市民参加の手法に関する実習をする。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The aim of this course is to help students acquire the citizen participation method.
【Learning Objectives】
The goals of this course are to understand the characteristics of the citizen participation method and to acquire the ability to operate.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】
Grading will be decided based on mid-term report (30%), and in-class contribution (70%)
In-class contribution is evaluated by attendance at the lesson and the contents of the reaction paper of each lesson.

ARSx300JB（地域研究（その他）/ Area studies(Others) 300）

地域交通マネジメント論

吉田　樹

配当年次／単位数：2〜4年次／2単位
備考（履修条件等）：2026年度の授業実施日は、9月11日・14日・15日。

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
高齢化と人口減少が同時に進む今日，生活や交流に欠かせない移動手段をどう確保すればよいのでしょうか。最近では，運転士不足を背景に，都市部でもバスの廃止や減便が生じており，ウェルビーイングの実現には，行政と市民，交通事業者が三位一体となる「地域交通マネジメント」が欠かせません。この授業では，地域の鉄道やバス，タクシーなどの公共交通を基本に，自家用車の新たな活用やMaaS（統合的移動サービス）の構築，自動運転をはじめとした次世代モビリティにも対象を拡げます。そのうえで，多様なモビリティツールをどのように計画し，マネジメントしていけばよいかに焦点をあて「地域交通マネジメント」を推進するための見方・考え方を獲得することを目的とします。

【到達目標】
①日本における交通政策の変遷を理解していること
②交通産業のしくみや課題を理解していること
③公共交通やモビリティツールを地域づくりに活かすための方法論を提案できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本授業は，オータムセッションの集中講義で行います。各日の前半は，担当教員による講義を通して，地域交通マネジメントに関わる専門知識を習得します。後半は，講義内容の理解を深めるとともに，都市や地域の交通が抱える諸課題に関心を持つことを目的として，学習支援システムHoppiiを介した演習課題に取り組み，教室内での発表や討議を行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入：「地域交通マネジメント」概論	地域交通に関わる今日的課題とマネジメントの意義を概観する
第2回	理論と技術①：現代の交通問題と交通政策の立案プロセス	現代の交通問題を概観したうえで，交通政策の立案プロセスを学ぶ
第3回	理論と技術②：交通に関わる調査手法	交通政策を立案する際の調査手法を学ぶ
第4回	政策①：地域公共交通の諸問題と事業制度	地域内の公共交通が抱える諸問題を事業制度とともに概観する
第5回	演習・討議①：身近な都市や地域の交通課題を知る	地方公共団体が作成する交通計画・政策をレビューする
第6回	政策②：日本の地域交通政策と海外との比較	地域交通分野の政策や法制度について，日本と諸外国を比較する
第7回	政策③：交通のユニバーサルデザイン	移動困難者のウェルビーイングを高める交通施策を学ぶ
第8回	政策④：コンパクトシティと公共交通ネットワーク	持続可能な都市と交通を目指すプロジェクトの事例を紹介する
第9回	政策⑤：「まちづくり」と「公共交通」との連携	持続可能な都市を実現するための公共交通政策について，事例と典型的課題を紹介する
第10回	演習・討議②：高齢者の移動手段確保を考える	日常生活に欠かせない「くらしの足」を確保するための方法論を考える
第11回	交通と情報①：モビリティを変革する「情報」	移動手段（モビリティ）と情報通信技術との融合の現状や課題を概観する
第12回	交通と情報②：新たなモビリティサービスとMaaSへの期待	国内におけるMaaSの取組事例から，その期待と課題を考える
第13回	演習・討議③：新たなモビリティサービスの都市への活用	新たなモビリティサービスが都市や交通にどのようなインパクトを与えるかを考える
第14回	まとめ：ウェルビーイングを実現する交通のあり方	ウェルビーイングを実現する地域交通マネジメントのあり方を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内の演習課題を取り組むために，地方公共団体における交通計画のレビューなどの準備が必要です。また，最近では，バス・タクシーの運転士不足やローカル鉄道の存廃問題，自家用車を活用した「ライドシェア」の普及など，地域交通に関わる報道が多くあります。是非，関心を持っていただき，本授業の内外でいろいろ質問してください。本授業の準備・復習時間は，各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。各回の講義資料に基づき授業を進めます。講義資料は，学習支援システムHoppiiにPDFファイルで提供します。

【参考書】
宿利 正史・軸丸 真二 編『地域公共交通政策論　第2版』（東京大学出版会）
秋山 哲男・吉田 樹 編著『生活支援の地域公共交通』（学芸出版社）
野村 実 著『クルマ社会の地域公共交通－多様なアクターの参画によるモビリティ確保の方策－』（晃洋書房）

【成績評価の方法と基準】
平常点（70％）：授業への参加状況（10％），各日の授業内で実施する演習課題の成果と取り組み状況（60％）
レポート（30％）：本授業全体の理解度を確認するレポートの作成（内容と実施方法は，授業時間中に提示します）

【学生の意見等からの気づき】
事例紹介に写真や動画を取り入れ，受講するみなさんに，都市や地域が抱える交通の諸課題に関心を持っていただけるように努めます。

【学生が準備すべき機器他】
本授業の受講にあたり，ノートパソコンやタブレット端末をお持ちください。講義資料の閲覧や演習課題の作成・提出のために必要です。なお，本授業は，朝から夕方までの集中講義です。バッテリー容量に不安がある場合は，講義資料を印刷してお持ちください。

【その他の重要事項】
交通政策審議会地域公共交通部会などの委員に参画し，地域交通の「現場」に数多く関わってきました。自身の経験談（成功も失敗も）を交えながら，愉しく学べるように心がけます。

【Outline (in English)】
Course outline
The objective of this class is to understand the concept of local public transportation planning methods and management.
Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to do the followings:
－A. Understanding of transportation policy in Japan
－B. Understanding of the characteristics of the transportation industry
－C. To be able to propose methodologies for utilizing transport services for community development
Learning activities outside of classroom
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting day. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end report: 30%, in-class contribution: 70%

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

ボランタリーアクション（2021年度以降入学者）

髙井　大輔

配当年次／単位数：福コミ：2〜4・臨心：1〜4年次／2単位
備考（履修条件等）：2020年度以前入学者と2021年度以降入学者で『福祉コミュニティ学科生の単位算入先の科目』および『配当年次』が異なるため、注意すること。

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ボランタリーアクションとは、奉仕的な活動にとどまらず、地域や社会課題に対し様々な手法でその解決や新しい価値創造を図る自発的で主体的な取り組みです。本授業は、ボランタリーアクションについての全体的な講義を行うとともに，さまざまな現場での実践的な取り組みを必要に応じゲストを招きながら具体的に紹介することで，ボランタリーアクションについての理解を深め、これについて学生それぞれが考える機会とします。

【到達目標】
1.ボランティア及びNPOの意味、役割、これまでの歴史について理解する
2.ボランタリーアクションの意義について学問的見地および実践的立場の両面から学び、その可能性を考える
3.現代社会や地域が抱える課題を認識し、自身の体験等も踏まえながら、その解決方法を検討することができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義はボランタリーアクションに関連する各回ごとに設定したテーマに沿って行います。受講者にはリアクションペーパー及びミニレポートを提出してもらい、記載された内容や質問については、次の講義で紹介・回答し、前回の講義の振り返りとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方や全体の流れについての説明
第2回	ボランティアの概念 -ボランタリーアクションとは何か-	ボランティアという言葉の概念、ボランタリーアクションの意味と意義を理解する
第3回	NPO・ボランティアの歴史	ＮＰＯ・ボランティアの歴史的な背景やその特徴的な事例を学ぶ
第4回	SDGsの意味と意義 -SDGsとは何か-	SDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）の内容と意義を理解する
第5回	現代社会におけるボランタリーアクションの概要	現代社会におけるボランタリーアクションの種類と分類からその特徴を理解する
第6回	事例から学ぶ① -福祉サービスとボランタリーアクション-	福祉事業の中で活躍するボランティアの事例を取り上げ、ボランタリーアクションの意義を考える
第7回	事例から学ぶ② -営利事業とボランタリーアクション-	営利事業と結びつけて実践されているボランタリーアクションの事例を取り上げ、その意義を考える
第8回	ＮＰＯ法人制度の内容とその歴史	ＮＰＯ法人制度の内容や制定過程、その他の法人制度との比較から、その役割を理解する
第9回	事例から学ぶ③ -個人的な活動から組織化へ-	社会課題の解決に取り組む個人レベルの活動から組織化するまでのプロセスを、事例から理解する
第10回	事例から学ぶ④ -NPO法人の組織運営-	実際のNPO法人を事例として、NPO法人の特徴や意義、運営の仕組みを理解する
第11回	企業や行政とボランタリーアクション	企業における社会貢献活動・CSRや行政に関わるボランティアの現状と特徴を学ぶ
第12回	中間支援組織の役割とその歴史	中間支援組織の概要やその役割を学び、ボランタリーアクションの発展にとって、それらが持つ意味について理解する
第13回	事例から学ぶ⑤ -多様な市民・組織の協働によるボランタリーアクション-	多様な市民や組織が連携して実践されているボランタリーアクションの事例から、“協働”の可能性を考える
第14回	授業の振り返りと補足	全体を通しての授業の振り返りと補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義で配布する資料及び紹介する文献を使用したり、関心のある活動や講義で扱う分野の事例をインターネット等で調べたりすることで予習・復習をしてください。レポートは、文献を講読し、概要・感想をまとめる他、実体験をもとに意見を述べられるようにする必要があるため、授業内で紹介する市民活動等への参加も推奨します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定せず、適宜資料を配布します。

【参考書】
必要なものを随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
・期末レポート（50％）
・平常点（授業の出席、授業内課題の提出など）（50％）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline (in English)】
【Course outline】
"Voluntary action” is not just a service activity, but a voluntary and proactive effort to solve local and social issues by various methods and create new value. This class will deepen the understanding of “Voluntary action” by giving an overall lecture and various practical efforts by inviting guests as needed and be an opportunity for each student to think about.
【Learning Objectives】
1.Understand the meaning and role of volunteers and NPOs, and their history.
2.Learn the significance of “Voluntary action” from both an academic and practical standpoint.
3.Recognize the problems faced by modern society and the region, and consider how to solve them while taking into account student’s own experiences.
【Learning activities outside of classroom】
Prepare and review by using books to be introduced and handouts, and by researching the Internet etc. for examples of activities you are interested or fields taken in the lecture. In addition, recommend that you participate in the civic activities introduced in the lecture. The standard time to prepare and review is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
・Report (50%)
・Attendance and submission of assignments (50%)

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

ボランタリーアクション（2020年度以前入学者）

髙井　大輔

配当年次／単位数：1～4年次／2単位
備考（履修条件等）：2020年度以前入学者と2021年度以降入学者で『福祉コミュニティ学科生の単位算入先の科目』および『配当年次』が異なるため、注意すること。

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ボランタリーアクションとは、奉仕的な活動にとどまらず、地域や社会課題に対し様々な手法でその解決や新しい価値創造を図る自発的で主体的な取り組みです。本授業は、ボランタリーアクションについての全体的な講義を行うとともに，さまざまな現場での実践的な取り組みを必要に応じゲストを招きながら具体的に紹介することで，ボランタリーアクションについての理解を深め、これについて学生それぞれが考える機会とします。

【到達目標】
1.ボランティア及びNPOの意味、役割、これまでの歴史について理解する
2.ボランタリーアクションの意義について学問的見地および実践的立場の両面から学び、その可能性を考える
3.現代社会や地域が抱える課題を認識し、自身の体験等も踏まえながら、その解決方法を検討することができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義はボランタリーアクションに関連する各回ごとに設定したテーマに沿って行います。受講者にはリアクションペーパー及びミニレポートを提出してもらい、記載された内容や質問については、次の講義で紹介・回答し、前回の講義の振り返りとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方や全体の流れについての説明
第2回	ボランティアの概念 -ボランタリーアクションとは何か-	ボランティアという言葉の概念、ボランタリーアクションの意味と意義を理解する
第3回	NPO・ボランティアの歴史	ＮＰＯ・ボランティアの歴史的な背景やその特徴的な事例を学ぶ
第4回	SDGsの意味と意義 -SDGsとは何か-	SDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）の内容と意義を理解する
第5回	現代社会におけるボランタリーアクションの概要	現代社会におけるボランタリーアクションの種類と分類からその特徴を理解する
第6回	事例から学ぶ① -福祉サービスとボランタリーアクション-	福祉事業の中で活躍するボランティアの事例を取り上げ、ボランタリーアクションの意義を考える
第7回	事例から学ぶ② -営利事業とボランタリーアクション-	営利事業と結びつけて実践されているボランタリーアクションの事例を取り上げ、その意義を考える
第8回	ＮＰＯ法人制度の内容とその歴史	ＮＰＯ法人制度の内容や制定過程、その他の法人制度との比較から、その役割を理解する
第9回	事例から学ぶ③ -個人的な活動から組織化へ-	社会課題の解決に取り組む個人レベルの活動から組織化するまでのプロセスを、事例から理解する
第10回	事例から学ぶ④ -NPO法人の組織運営-	実際のNPO法人を事例として、NPO法人の特徴や意義、運営の仕組みを理解する
第11回	企業や行政とボランタリーアクション	企業における社会貢献活動・CSRや行政に関わるボランティアの現状と特徴を学ぶ
第12回	中間支援組織の役割とその歴史	中間支援組織の概要やその役割を学び、ボランタリーアクションの発展にとって、それらが持つ意味について理解する
第13回	事例から学ぶ⑤ -多様な市民・組織の協働によるボランタリーアクション-	多様な市民や組織が連携して実践されているボランタリーアクションの事例から、“協働”の可能性を考える
第14回	授業の振り返りと補足	全体を通しての授業の振り返りと補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義で配布する資料及び紹介する文献を使用したり、関心のある活動や講義で扱う分野の事例をインターネット等で調べたりすることで予習・復習をしてください。レポートは、文献を講読し、概要・感想をまとめる他、実体験をもとに意見を述べられるようにする必要があるため、授業内で紹介する市民活動等への参加も推奨します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定せず、適宜資料を配布します。

【参考書】
必要なものを随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
・期末レポート（50％）
・平常点（授業の出席、授業内課題の提出など）（50％）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline (in English)】
【Course outline】
"Voluntary action” is not just a service activity, but a voluntary and proactive effort to solve local and social issues by various methods and create new value. This class will deepen the understanding of “Voluntary action” by giving an overall lecture and various practical efforts by inviting guests as needed and be an opportunity for each student to think about.
【Learning Objectives】
1.Understand the meaning and role of volunteers and NPOs, and their history.
2.Learn the significance of “Voluntary action” from both an academic and practical standpoint.
3.Recognize the problems faced by modern society and the region, and consider how to solve them while taking into account student’s own experiences.
【Learning activities outside of classroom】
Prepare and review by using books to be introduced and handouts, and by researching the Internet etc. for examples of activities you are interested or fields taken in the lecture. In addition, recommend that you participate in the civic activities introduced in the lecture. The standard time to prepare and review is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
・Report (50%)
・Attendance and submission of assignments (50%)

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

Disability and Development in Asia

佐野　竜平

配当年次／単位数：2〜4年次／2単位

その他属性：〈グ〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Aligned with the principles of the United Nations Convention on the Rights of Persons with Disabilities (CRPD) and the Sustainable Development Goals (SDGs), this course provides a comprehensive overview of the theory and practice of disability and development in Asia.

【到達目標】
By the end of this course, students will have gained fundamental knowledge and skills concerning disability and development in Asia, drawing on perspectives from local contexts.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
This course is conducted entirely online via live Zoom sessions. All announcements, course materials, assignments, and feedback will be managed through the Learning Management System (Web Class). Furthermore, guest speakers will be featured occasionally to facilitate dynamic and practical discussions.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
No.1	Introduction	Overview of the planned sessions
No.2	Comparative Study(1)	Persons with disabilities in Pakistan
No.3	Comparative Study(2)	Persons with disabilities in Nepal
No.4	Comparative Study(3)	Persons with disabilities in Afghanistan
No.5	Comparative Study(4)	Persons with disabilities in India
No.6	Comparative Study(5)	Persons with disabilities in Bangladesh
No.7	Comparative Study(6)	Persons with disabilities in Vietnam
No.8	Comparative Study(7)	Persons with disabilities in Cambodia
No.9	Comparative Study(8)	Persons with disabilities in Malaysia
No.10	Comparative Study(9)	Persons with disabilities in Thailand
No.11	Comparative Study(10)	Persons with disabilities in Myanmar
No.12	Comparative Study(11)	Persons with disabilities in the Philippines
No.13	Comparative Study(12)	Persons with disabilities in Indonesia
No.14	Review	Reviewing the past lectures and feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to review the materials distributed in each lecture. The standard time required for preparation and review in this course is approximately 2 hours each per session.

【テキスト（教科書）】
Provided as needed based on the content.

【参考書】
United Nations Convention on the Rights of Persons with Disabilities
https://www.ohchr.org/EN/HRBodies/CRPD/Pages/ConventionRightsPersonsWithDisabilities.aspx
States Parties Reports of the Convention on the Rights of Persons with Disabilities
https://www.ohchr.org/EN/HRBodies/CRPD/Pages/CRPDIndex.aspx

【成績評価の方法と基準】
In-class participation:40%, Reaction paper through Web Class:60%

【学生の意見等からの気づき】
To the greatest extent possible, student suggestions regarding lecture content and planning will be incorporated.

【学生が準備すべき機器他】
Hardware and software for online class (PC, Zoom, etc)

【その他の重要事項】
The above plan is subject to minor changes. The lectures will incorporate insights from the professor's extensive professional experience with international organizations and projects, as well as ongoing domestic and international activities.

【担当教員の専門分野 / Expertise】
Disability-Inclusive and Sustainable Development, International Cooperation, Regional Development in Asia (Southeast Asia and other Asia)

【Outline (in English)】
Aligned with the principles of the United Nations Convention on the Rights of Persons with Disabilities (CRPD) and the Sustainable Development Goals (SDGs), this course provides a comprehensive overview of the theory and practice of disability and development in Asia.

SOW300JB,SOW300JC（社会福祉学 / Social Welfare 300 , 社会福祉学 / Social Welfare 300）

セルフヘルプグループ

横川　剛毅

配当年次／単位数：2〜4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人が生活するうえで、さまざまな困難や生きづらさがあります。同じような生きづらさをもつ人たちの集まりがセルフヘルプグループ（SHG=自助グループ）です。その意義を理解することがこの科目の目的です。

【到達目標】
次の2点を目標とします。
①さまざまな困難や生きづらさを理解することによって、支え合いについての考えを他者に伝えることができる。
②SHGの役割と意義を言語化できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この科目は学生同士が協働しながら学びます。講義形式と併せて、視聴覚教材・ゲストスピーカーの声や姿をもとに、毎回、小グループでのディスカッションを取り入れます。そのため受講者には、相応の主体性と協調性を求め評価にあたってはそれらを平常点として重視します。併せて、基本的に「休まない」「遅刻しない」心構えを求めます。課題のフィードバックについては、①前週の授業のリアクションペーパーを授業冒頭に匿名で全体に対して紹介して共有を図ります。②発表に関しては、教員が評価コメントを授業内で伝えます。なお、履修者数、授業の進度などを考慮し、下記の授業計画を若干変更することがあり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション　SHGとは何か	この授業の全体像を把握する。またSHGの定義を学ぶ
第2回	知的障がいのある人の地域生活	障がいを隠さない生き方について学ぶ
第3回	摂食障がいの困難	摂食障がいについて学ぶ
第4回	摂食障がいの SHG	摂食障がいのSHGについて学ぶ
第5回	パニック障がいの理解とSHG	パニック障がいのある当事者の手記から学ぶ
第6回	精神障がいの理解	精神障がいを理解しSHGについて学ぶ
第7回	ゲストスピーカーから学ぶ①	精神障がいのある親をもつ子どものSHGから、実践を学ぶ
第8回	依存症とは　ゲーム依存を中心に	多様な依存症を知り、特にゲーム依存について学ぶ
第9回	アルコール依存症の困難	アルコール依存症について学ぶ
第10回	ゲストスピーカーから学ぶ②	ゲストスピーカーの語りから依存症と回復について考える
第11回	アルコール依存症者の SHG	アルコール依存症者のSHGについて学ぶ
第12回	学びの振り返りと、発表テーマ設定、及び発表準備	発表テーマを設定し、プレゼンテーション資料を作成する
第13回	学びの成果の共有①	一人ひとりが履修者全体に、学びの成果をプレゼンテーションする
第14回	学びの成果の共有②	一人ひとりが履修者全体に、学びの成果をプレゼンテーションする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
グループ内でのシェアや、全体への発表・レポート作成に向け、授業内容だけでなく、自分自身が関心のあるSHGについて調べたり情報収集したりして学びを深めましょう。本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。基本的に毎回プリントを配布します。

【参考書】
「セルフヘルプ・グループ　―当事者へのまなざし―」（久保紘章 著）相川書房　2004他、授業内で適宜伝えます。

【成績評価の方法と基準】
ディスカッション参画度合いなどの平常点（20％）、
リアクション（30％）、発表・レポート課題（50％）。

【学生の意見等からの気づき】
一昨年度の授業改善アンケートや、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどを通した学びの意義が見出されました。そのため、この科目の本質である「語り合いと共有」を大切にしていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
授業配布プリント収納用にクリアファイル（A4サイズ・20シート以上）を準備しておく。

【Outline (in English)】
【Course outline】
When a person lives, there are various difficulty and difficulty in living.　People's gathering with difficulty in living equally is a self-helping group (SHG).It's the purpose of this classroom to understand the significance of SHG.
【Learning Objectives】
At the end of the course, students are expected to about following two.
① By understanding various difficulty and difficulty in living, it's possible to tell ideas about mutual support.
②Can be put into words about The role and the significance of SHG.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policies】
The posture overlooked in this class meeting:20%、Reaction paper:30%、Report:50％

SOW300JB,SOW300JC（社会福祉学 / Social Welfare 300 , 社会福祉学 / Social Welfare 300）

スクールソーシャルワーク

宮地　さつき

配当年次／単位数：2〜4年次／2単位

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スクールソーシャルワークの実際について、現場である学校と社会状況、また児童生徒と家族の理解も含めて検討していく。

【到達目標】
・スクールソーシャルワーカー導入の背景として、学校現場と子どもと家族の現状を理解する。
・海外の動向も含めた、スクールソーシャルワーカーの歴史と発展過程を理解する。
・スクールソーシャルワークの視点と実践モデルを理解し、それが実際にどのように活用されているのかを考察する。
・学校現場におけるスクールソーシャルワーカーの展開と、今後の可能性について考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・上記の目標を達成するために、①社会的な背景とともに様々な状況にある子どもと家族、および教育と学校の現状を理解する。②スクールソーシャルワーカーとは何かを諸外国の歴史的発展過程も含めて理解し、実践での独自性について考察する。③学校現場でのスクールソーシャルワーク実践について、事例の検討も含めながら考察を深めていく。
・講義形式を中心とするが、視聴覚教材の活用やゲストスピーカーからの学びも得る。授業では必要に応じて、ディスカッションや課題、リアクションペーパーの提出を求める。
・ゲストスピーカーの日程等により、授業計画が前後することがあり得る。
・リアクションペーパーは、次回以降の授業の中で、名前等を伏せて紹介していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション／子どもと家族の理解１	教育と福祉について、貧困と不平等、社会問題と家族
第2回	子どもと家族の理解２	現代の子育てと子育ち、多様化する家族
第3回	学校・教育の現状１	教育費、学校現場と教育の現状
第4回	学校・教育の現状２	学校現場に福祉援助が入るということ
第5回	スクールソーシャルワーカーの歴史と展開	日本および海外における動向
第6回	スクールソーシャルワークの価値と倫理	ソーシャルワークの価値と倫理、子どもの権利条約
第7回	スクールソーシャルワークの視点と実践モデル	スクールソーシャルワークで用いられる視点とモデルの検討
第8回	スクールソーシャルワーク実践１	不登校、いじめ、校内暴力と支援
第9回	スクールソーシャルワーク実践２	子どもの虐待、多国籍の子どもと親支援
第10回	スクールソーシャルワーク実践３	発達の課題と特別支援
第11回	スクールソーシャルワーク実践４	非行問題と多様な課題をもつ生徒への支援
第12回	ゲストスピーカー	現職のスクールソーシャルワーカーによる講義
第13回	多職種連携の現状と課題	学校内外の社会資源、地域での連携の実際、チーム学校、スーパービジョンの必要性と実際
第14回	スクールソーシャルワークのこれから	スクールソーシャルワークの限界と今後の展開

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業の復習を行い、期末試験に備えること。
・本授業の準備・復習時間は各回４時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
講義内で資料を配布する。

【参考書】
・山野則子・野田正人・半場利美佳編（2016）『よくわかるスクールソーシャルワーク（第２版）』ミネルヴァ書房
・鈴木庸裕編（2018）『学校福祉とは何か』ミネルヴァ書房
・大塚美和子・西野緑・峯本耕治（2020）『「チーム学校」を実現するスクールソーシャルワーク』明石書店
他の参考文献は、講義内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー（30%）、講義内課題（20%）、定期試験（50%）

【学生の意見等からの気づき】
前半は講義形式での授業が多くなるが、後半になるにつれてグループワークを盛り込んでいくことで、アウトプットする機会が増え、学びを深めていくことができる。
また、福祉、教育、心理、まちづくりなど、多様な事柄に関心を持つ学生が受講しているため、他者の意見を聴くことで新たな視点や発見がある。
外部講師として現任のスクールソーシャルワーカーを招聘することで、よりリアルな現状として理解を深めることができる。

【Outline (in English)】
This course will examine major issues in schools. We will consider the main problems of school, families, and society. This course will also examine how social work can intervene to address these problems. Students will be enhancing their necessary knowledge and skills in school social work.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (20%), term-end examination (50%), and in-class contribution (30%).

ARSx100JB（地域研究（その他）/ Area studies(Others) 100）

まちづくりの思想

水野　雅男、図司　直也、佐野　竜平、土肥　将敦、野田　岳仁、杉浦　ちなみ

配当年次／単位数：1～4年次／2単位
備考（履修条件等）：2020年度以前入学者のみ受講可能。

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
コミュニティマネジメント（まちづくり）とは何か、その原則や方策、あるいは農山村、都市、地域、コミュニティの捉え方について、市民活動やソーシャルビジネスの実践事例を通じて理解する。

【到達目標】
日本国内や海外のコミュニティマネジメント（まちづくり）、地域再生の取り組みとその実態を把握し、それらが内包する意味と現代的意義について幅広く理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
教員6名がオムニバス形式で講義を担当する。実践事例やケーススタディでは、関連スライドやＤＶＤ等を活用して紹介する。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス（図司）	「自分ごと」から地域を感じる
第2回	「地域／まち」をつくるとは？（図司）	地域づくりを実践する現場に触れる
第3回	若者は「地域」で何ができるのか？（図司）	地域づくりに動き出した仲間の姿に触れる
第4回	なぜ人びとは地域の自然を守るのか？（野田）	地元の人びとの生活の立場から考える
第5回	ツーリズムによる地域再生（野田）	大衆的な観光地を目指さない観光まちづくり
第6回	コミュニティと企業（土肥）	地域固有の企業とステイクホルダー
第7回	コミュニティとソーシャルビジネス（土肥）	ソーシャル・ビジネスの可能性と課題
第8回	学びがつくる地域（杉浦）	学校外での学びの空間
第9回	地域で文化を学び伝える（杉浦）	暮らしの中にある豊かさ
第10回	グローバル社会のまちづくり（佐野）	日本内外の視野からみるまちづくり
第11回	グローバルなまちづくり人材になるために（佐野）	共生社会に生きる視点と具体例
第12回	アート＆クラフトとまちづくり（水野）	アート＆クラフトによる地域資源の発掘
第13回	地域資源の保全活用によるまちづくり（水野）	歴史的建造物の保全活用の意義と実践事例
第14回	震災復旧と復興まちづくり（水野）	ボランティアキャンプと復興まちづくり実践事例

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞、雑誌、書籍等によるまちづくり関連報道、論文等に関心を持つ。旅行等の機会、出身市町村、居住地等、身近な地域について調べる。講義で示した実例等について、より詳しく調べ自らの関心を深める。本授業の予習・復習時間は各2時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、授業中に資料を配布する。

【参考書】
授業中に随時示す。

【成績評価の方法と基準】
平常点（リアクションペーパーのコメント）100％で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
前年度の授業改善アンケート結果を反映して改善する。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて、学習支援システムを利用して教材を掲載する。

【その他の重要事項】
授業を担当する6名の教員がそれぞれ地域プランニング、ソーシャルビジネス、まちづくり活動などのフィールドワークに基づいてコミュニティマネジメント（まちづくり）の考え方を具体的に紹介する。

【Outline (in English)】
< Course outline>
The aim of this course is to help students acquire what community management is, its principles and measures, or how to understand agricultural and mountain villages, cities, regions, and communities through practical examples of civic activities and social business.
< Learning Objectives>
By the end of the course, students should be able to do the followings:
Understand the community management in Japan and overseas, the efforts for regional revitalization and their actual conditions, and broadly understand the meaning and modern significance of them.
< Learning activities outside of classroom>
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
< Grading Criteria /Policy>
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports: 100%

ARSx200JB（地域研究（その他）/ Area studies(Others) 200）

地域の歴史と文化

野田　岳仁、水野　雅男、図司　直也、土肥　将敦

配当年次／単位数：1〜4年次／2単位
備考（履修条件等）：2020年度以前入学者のみ受講可能。
その他属性：〈実〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ローカルイノベーションが立ち現れる社会的な背景や新たな社会変革を創出する仕組みとはどのようなものであるのかを各地の実践事例を通じて理解することを目的とする。

【到達目標】
ローカルイノベーションの基本的な考え方をマスターし、自らがローカルイノベーションを創出するプレイヤーになるための知識や技能について理解を深めることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
教員４名（水野・図司・土肥・野田）が具体的な事例を取り上げ、オムニバス形式で講義を担当する。１地域を２回の講義で構成し、１回目では、地域の概要やイノベーターについて担当教員がレクチャーを行う。２回目は、当該地域からゲストスピーカーを招いてのレクチャー、担当教員、受講生を交えてディスカッションを行う。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／イントロダクション（水野・図司・土肥・野田）	ローカルイノベーションとは何か
第2回	景観まちづくりにおけるローカルイノベーション①（野田）	景観まちづくりについての概要と社会的背景についてのレクチャー
第3回	景観まちづくりにおけるローカルイノベーション②（土肥・野田）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第4回	地域ツーリズムにおけるローカルイノベーション①（野田）	地域ツーリズムについての概要と社会的背景についてのレクチャー
第5回	地域ツーリズムにおけるローカルイノベーション②（土肥・野田）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第6回	半島先端におけるローカルイノベーション①（水野）	世界農業遺産の環境保全活用についての概要と社会的背景についてのレクチャー
第7回	半島先端におけるローカルイノベーション②（水野・土肥）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第8回	多様なライフスタイルでローカルイノベーション①（水野）	ライフスタイル研究と移住推進の市民事業についてのレクチャー
第9回	多様なライフスタイルでローカルイノベーション②（水野・土肥）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第10回	若者と地域をつなぐローカルイノベーション①（図司）	地域に向かう若者の動向と社会的背景についてのレクチャー
第11回	若者と地域をつなぐローカルイノベーション②（図司・土肥）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第12回	農山村再生に向けたローカルイノベーション①（図司）	農山村における地域づくりの概要と社会的背景についてのレクチャー
第13回	農山村再生に向けたローカルイノベーション②（図司・土肥）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第14回	総括（水野・図司・土肥・野田）	６事例からの学びと提言

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関心のある分野や領域でどのようなローカルイノベーションが創出されているのか事前に調べておく。講義で取り上げた地域やゲストスピーカーの活動については、メディアの記事、論文、書籍等を通じて、より詳しく探求すること。本講義の予習・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて講義内で資料を配布する。

【参考書】
講義内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（リアクションペーパーへのコメント）100%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
前年度授業改善アンケートの結果を反映させるとともに、リアクションペーパー等を通じて学生の意見や要望には積極的に応えていく。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布や課題提出等に学習支援システムを積極的に活用する。

【その他の重要事項】
講義を担当する４名の教員は、それぞれ地域プランニング、まちづくり活動等の豊富なフィールド経験を有している。それらの経験に基づいてローカルイノベーションの考え方を示していく。

【Outline (in English)】
【Course outline】The purpose of this course is to master the basic concept of local innovation through various case studies. 【Learning Objectives】The goal of this course is to understand the knowledge and skills needed to become a player in creating local innovation. 【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on reaction papers(100%).

MAN300JB（経営学 / Management 300）

地域経営論（SSI）

遠藤　聖子

配当年次／単位数：2〜4年次／2単位
備考（履修条件等）：SSI生向け科目。SSI生以外は授業コード「N1151」を選択すること。

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
少子高齢化、人口減少に直面した我が国では、地域でその社会的課題に対し様々な手法で解決に取り組んでいます。本講義では、この取り組みを「地域経営＝地域のまちづくり」と捉え、誰が、何を、どのようにマネジメントして、持続可能な地域づくり・まちづくりを行なっているか事例を中心に学びます。そして、地域で起きている課題を自分ごととして考え、地域のあり方、まちづくりにおける市民・行政・企業・大学などの役割と協働のあり方について考察します。

【到達目標】
次の事項について基本的な理解を得るとともに、テーマごとの課題とその対応方針についても問題意識を高めることを到達目標とします。
・地域経営に関する基本的な枠組み、法制度及び諸制度、考え方
・地域経営に関する国と地方の関係、地方分権と自治
・地域経営に関する市民(住民)、事業者、行政等の連携・協力・分担の考え方
・地域経営の手法

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は原則、「講義」と「講義テーマに応じた全体、またはグループ討議等」により進めます。受講生が、地域経営、地域づくり、まちづくりについて具体的なイメージを持って思考できるよう事例紹介を中心に進めます。各回講義のに対するリアクションペーパーで示された問いやつぶやきを講義の中で紹介し、双方向のやりとりをしながら受講者全体の理解が深まるよう進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 地域経営とは	・講義ガイダンス ・「地域経営」の全体像とまちづくり ・視点の整理 ・各回講義の要点解説
第2回	地方分権と地方自治、その系譜	・講義ガイダンス（再） ・「地方分権」「地方自治」の系譜 ・今日的課題
第3回	地域経営における行政の役割とは	・行政が取り組む事例の紹介
第4回	住民参加とまちづくり①	・まちづくり、地域経営における法律と条例の役割 ・まちづくり条例の系譜 ・まちづくりを担う組織
第5回	住民参加とまちづくり②	・まちづくりセンター ・まちづくりにおける紛争とその歴史 ・住民参加の意義 ・地域経営における合意形成の方法とあり方の考察
第6回	官民産学連携のまちづくり	各地の ・エリアマネジメント ・アーバンデザインセンター等、果たす役割と取り組み
第7回	地域のストックを活かすまちづくり①	・風景づくり ・歴史、文化を活かす ・リノベーション　等、 まちづくりの取り組みと課題
第8回	地域のストックを活かすまちづくり②	・公共施設、公共空間の更新と魅力化 ・空き家、空き地の活用　等、 各地の取り組みと課題
第9回	商業地・中心市街地のまちづくり①	・商業地、中心市街地の現状と課題 ・まちなか再生の動き　等、 各地の取り組みと課題
第10回	商業地・中心市街地のまちづくり②	・まちづくり会社（TMO） ・まちなか観光（DMO） 等、まちづくりを担う組織の役割と取り組み、課題
第11回	郊外住宅地のまちづくり	・戸建て住宅地の管理 ・ニュータウン、郊外住宅地の取り組み ・団地、マンション管理組合と自治会 等、まちづくりを担う組織の役割と取り組み、課題
第12回	災害とまちづくり	・大規模災害、大規模震災にみる地域、まちづくりの課題と取り組みの系譜 ・これからの課題
第13回	福祉・スポーツとまちづくり	・各地で取り組まれる福祉やスポーツをキーワードにしたまちづくりの現在 ・レポート課題の解説
第14回	講義の総括	・受講生の感想 ・講義の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・少子高齢化、人口減少社会における地域経営、地域づくり、まちづくりに関する広範な書籍、新聞記事等の通読を薦めます。本講義の復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。毎回、パワーポイント資料を事前にアップします。

【参考書】
講義において適宜紹介しますが、次の書籍を参考図書として薦めます。
・「平成都市計画史ー転換期の30年間が残したもの・受け継ぐもの」饗庭 伸 著（共栄書房/2021年）
・「アーバンデザイン講座」前田 英寿 等　著（彰国社/2018年）

【成績評価の方法と基準】
①講義または、その後の全体またはグループ討議等の内容を踏まえたリアクションペーパーの提出40％
②レポートの提出60％（レポート課題は6月前半に提示）

【学生の意見等からの気づき】
まちづくりの実務者がその経験を踏まえて、具体的な事例を授業で紹介している点が本講義の特徴です。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
特にありません。

【Outline (in English)】
【Course outline】

Faced with a declining birthrate, an aging population, and a shrinking population, Japan's local communities are using a variety of methods to address social issues. In this lecture, this approach will be considered as "regional management = regional community development. You will learn who, what, and how sustainable regional and community development is carried out, focusing on case studies. The course will also consider local issues as if they were their own, and examine the roles of citizens, government, business, and universities in community development and how they should work together. In Japan, facing declining birthrates, an aging population, and a shrinking population, local communities are working to solve social issues using a variety of methods. In this lecture, we will consider these efforts as "regional management =regional community development. We will learn who, what, and how sustainable regional and community development is carried out, focusing on case studies. We will also consider issues that arise in the community as if they were our own, and discuss how the community should be, and the roles and collaboration of citizens, government, businesses, and universities in community development.

【Learning Objectives】

The objective of the course is to provide participants with a basic understanding of the following issues, and to raise their awareness of the issues and policies related to each theme.

・Basic framework, legal system, and various systems and ideas related to regional management

・ Relationship between the national and local governments, decentralization, and self-governance related to regional management

・ Collaboration, cooperation, and sharing of responsibilities among citizens (residents), businesses, and governments related to regional management

・ Methods of regional management

【Learning activities outside of classroom】

Students will be required to read a wide range of books and articles related to urban and regional planning and regional management in a society with a declining population, low birthrate and aging society. In this class, we will review a wide range of articles on urban and regional development and regional management in a declining population and an aging society. The standard review time for this class is two hours each.

【Grading Criteria/Policy】

(1) Reaction paper based on the lecture and subsequent plenary discussions, mini-workshops, etc.: 50%

(2) Report: 50% (report assignment will be presented in the first half of June)

MAN300JB（経営学 / Management 300）

NPO論（SSI）

渡真利　紘一

配当年次／単位数：2〜4年次／2単位
備考（履修条件等）：SSI生向け科目。SSI生以外は授業コード「N1155」を選択すること。

その他属性：〈実〉〈S〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「NPO/非営利組織」は単に行政サービスを補完する組織ではなく、新しい未知なる価値を生み出し、市民社会を創造する主体であることを理解し、その実践のための方法を学びます。併せて、NPOの成立した歴史的背景やその社会的役割をはじめ、運営上の課題や他の主体（ボランティア、行政、民間企業(CSR)、助成財団など）との関係から、今後の社会のあり方を考えていきます。

【到達目標】
・NPOの社会的意義を理解し、実践の方法について具体的にイメージすることができる
・自らの関心分野のNPO活動の考案や授業のなかで気になったテーマに関する研究を通じ、社会との主体的な関わり方を学ぶ
NPOを論じる過程で、受講者自らが、自分らしく在ること／他者に対して寛容であること／仲間を持つこと／社会と本音で向き合うこと等の重要性を認識する機会につながればと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業の前半は、NPOに関する基本的な内容（歴史的背景や社会的意義、運営方法や他の社会資源との関係等）について、映像資料や参考書等を交えて紹介します。後半は、NPO活動実践者から実践を聞き、体験的に実践を把握できる機会をつくります。授業形態は講義を主とします。受講者各々が授業を通じて感じたことや考えたことを言葉にし、共有するなかでの学びも大切にします。
各回の授業計画の変更が生じる場合があります。変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション/NPOのイメージ	NPOのイメージや昨今の社会情勢を共有し、本講義の目的や目標、進め方を受講生と決定する。
第2回	NPOの活動分野と関心分野	映像資料等を活用しながら、NPOの活動分野について知るとともに各々の関心分野について話し合う。
第3回	NPOの歴史的背景	非営利な活動の歴史的背景やNPO法設立経緯等から、NPOの文脈を辿る。
第4回	NPOの社会的意義	行政や企業等との比較を通じ、NPOの社会的意義について考察する。
第5回	NPOの組織運営	NPO組織の立ち上げや運営方法について基本的な内容を理解する。
第6回	NPOと他の主体との関係	他の主体（ボランティア、行政、民間企業(CSR)、助成財団など）との関係について把握する。
第7回	中間課題の共有	中間課題で調べたり考えたことを共有し、お互いの観点から学ぶ。
第8回	実践から考えるシリーズ「資金を調達する」	クラウドファンディングや会費による基金創設、助成金申請など、NPOの多様な財源確保策を取り上げ、各手段の特徴や資金調達の際に配慮すべきことについて考察する。
第9回	実践から考えるシリーズ「協力関係をつくる」	協力関係をつくる理論や具体例を取り上げ、協力関係をつくる方法について考察する。
第10回	NPOの活動事例紹介	NPO活動に携わる者（ゲスト）から、NPOの具体的な実践事例を学ぶ。
第11回	NPOの活動事例紹介	NPO活動に携わる者（ゲスト）から、NPOの具体的な実践事例を学ぶ。
第12回	期末課題に向けた準備1	グループ又は個人で期末課題の準備を行う。
第13回	期末課題に向けた準備2	グループ又は個人で期末課題の準備を行う。
第14回	最終講義「これからの市民社会とわたしたち」	授業の振り返りやまとめを行うとともに、これからの社会を生きる私たちにとって大切な観点とは何か、検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の振り返りの時間を大切にしてください。
また、授業で気になったキーワードや考え方について本やネット、ニュースや映画等から更なる情報をインプットしたり、学んだ内容を周囲に話す等、言葉によるアウトプットを心がけ、自らの「観」を養っていくことを期待します。
授業で紹介したNPOの主催するイベント等へ参加したり、NPO活動へボランティアや取材等を通じて主体的に関わることを推奨します。本授業の準備・復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介します。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
（1）平常点（出席・リアクション）50点、（2）中間課題（NPO活動計画書）10点、（3）期末課題（準備の過程、レポート）40点。
平常点については、授業ごとに授業中の発言又はリアクションペーパーによって評価・採点します。
なお、成績評価の観点の例は以下のとおりです。
・NPOを論じることで社会の捉え方がどのくらい多様になったか
・受講者自らの関心分野の活動や研究テーマにどのくらい主体的に理解を深める関わりができたか
・クラスメイトが関心分野への理解を深めることにどのくらい協力して取り組めたか
（注）授業を欠席する場合は事前に連絡してください。
（注）実習や就職活動、部活動や健康上の理由などで授業への出席があまりできない人は、出来るだけ早く教員に知らせてください。

【学生の意見等からの気づき】
・受講者同士がお互いの観点を尊重して学びを深める環境をつくります。
・授業内容の理解の手助けとなる書籍や映像、記事等を紹介します。
・NPO活動の企画立案を具体的に検討する内容や実践からNPO活動を考察する内容の充実を図ります。

【学生が準備すべき機器他】
講義資料の閲覧や調べ物をする際に使用するため、パソコン又はスマートフォンを持参してください。

【その他の重要事項】
授業計画の内容は、社会情勢や授業の展開によって、変更があり得ることを申し添えます。

【Outline (in English)】
NPO/Non Profit Organization is not just organizations to cover government services, but it provides new values and creates civil societies proactively.
Throughout the class, we understand methods of cooperation with NPOs and the future of our society learning historical background of its establishment, its social roles, operational challenges and relations of other social resources such as volunteers, public administrations, CSRs and grant making foundations.
The goals of this course are to “To understand Social significance of Non Profit Organization”.
By the end of the course, students should be able to do the followings:
- Being yourself.
- Being tolerant of others.
- Facing society in earnest.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 40%、Short reports : 10%、in class contribution: 50%

CMF300JB（その他の複合領域 / Complex systems(Others) 300）

コミュニティアート（SSI）

吉野　裕之

配当年次／単位数：2〜4年次／2単位
備考（履修条件等）：SSI生向け科目。SSI生以外は授業コード「N1162」を選択すること。

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
多くの事例を通して、アートは単に芸術作品のことではなく、まち＝コミュニティを豊かに耕す日常的な実践であることを理解し、その実践のための方法を学ぶとともに、これからのまちづくりのあり方を考えていく。

【到達目標】
まち＝コミュニティは最も身近な社会であり、私たちの生活の現場であることの意味を理解し、コミュニティアートとは住民がそれぞれの立場でまち＝コミュニティの価値を高めていく行為であるという視点から、こうした実践の分析や評価、企画を行うことができるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この授業でいうアートとは、いわゆる美術だけでなく、文芸、音楽、演劇など、さらに暮らしに根づいた生活文化をも含めたもの／ことを指し、こうしたアートをまちづくりにおいてどのように活用するかについて学ぶ。前半では「まちづくりとは何か」「アートとは何か」について、後半では「まちづくりにおけるよりよいアートの活用のしかた」について学ぶ。
方法としては、講義形式が中心にはなるが、ワークシートを活用した思考のトレーニングなども取り入れていく。また、リアクションペーパーなどにおける優れたコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義内容全般の説明。
第2回	ＮＰＯ・市民主体のまちづくりの意義	ＮＰＯ・市民主体のまちづくりの意味や意義についての説明。（授業の展開によって、若干の変更があり得る。以下同）
第3回	ＮＰＯ・市民主体のまちづくりの事例（１）	ＮＰＯ・市民活動によるまちづくりの事例（先進地域のまちづくりの歴史）の紹介と解説。
第4回	ＮＰＯ・市民主体のまちづくりの事例（２）	ＮＰＯ・市民活動によるまちづくりの事例（学生が主体となった活動の事例）の紹介と解説。
第5回	ＮＰＯ・市民主体のまちづくりの事例（３）	ＮＰＯ・市民活動によるまちづくりの事例（中高齢者が主体となった活動の事例）の紹介と解説。
第6回	生活の現場としてのまちをめぐる考察	実体験に基づくまちをめぐる考察とＮＰＯ・市民主体のまちづくりの意味の考察。
第7回	アートの意味	アートの意味（意味の歴史的変遷や芸術家のことばなど）の説明。
第8回	都市空間・まちなかのアートの変遷、コミュニティアートの要件と機能	都市空間・まちなかのアート（パブリックアートやコミュニティアートなど）の変遷の説明、コミュニティアートの要件と機能の説明。
第9回	コミュニティアートの事例（１）	コミュニティアートの事例（基本的な考え方を理解するための事例）の紹介と解説。
第10回	コミュニティアートの事例（２）	コミュニティアートの事例（大都市／拠点型）の紹介と解説。
第11回	コミュニティアートの事例（３）	コミュニティアートの事例（大都市／まちなか展開型）の紹介と解説。
第12回	コミュニティアートの事例（４）	コミュニティアートの事例（地方都市／地域密着型）の紹介と解説。
第13回	コミュニティアートの事例（５）	コミュニティアートの事例（地方都市／地域交流型）の紹介と解説。
第14回	これからのまちづくりとアート	これからのまちづくりとアートの関係のあり方についての考察。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、必ず授業の復習をすること。また、授業に関連する新聞記事や文献などに関心をもつとともに、日々の生活のさまざまなもの／ことを、授業との関連で捉え直していくように心掛けること。さらには、まちづくりやアートに関わるイベントなどには積極的に参加することが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は1回につき4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。（必要に応じて適宜配布する。）

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（リアクションペーパーなど）：30点　期末レポート：70点
平常点におけるリアクションペーパーなどでは、1回〜数回の授業の内容の理解度について確認する。
期末レポートでは、コミュニティアートの意味の理解度やその分析・評価などの習得度について確認する。

【学生の意見等からの気づき】
これまでと同様だが、応用力、思考力がついた、新しい発見があったなどの感想をもつ学生が多い。自分が大きく変化できたということだろう。今年度も引き続きこうした授業を展開していきたい。

【Outline (in English)】
(Course outline)
We will understand that art is a powerful way to revitalize the community, learn methods for practicing it, and think about the way of community design in the future.
(Learning Objectives)
By the end of the course, students will be able to do the followings:
– Analysis and evaluation of cases about community art
– Planning of community art
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
– Reviewing the class meeting
– Reading literature related to the class meeting
– Participating in events related to community design and art
(Grading Criteria /Policy)
Final grade will be calculated according to the following process.
Short reports : 30%、Term-end report : 70%

TRS300JB（観光学 / Tourism Studies 300）

地域ツーリズム（SSI）

野田　岳仁

配当年次／単位数：2〜4年次／2単位
備考（履修条件等）：SSI生向け科目。SSI生以外は授業コード「N1165」を選択すること。

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、地域ツーリズムの論理とその仕組みを理解することを通じて、地域社会における持続的な観光のあり方を模索することを目的としている。地域ツーリズムとは、観光の本質にある“大衆性”を相対化し、地域課題の解決や現場に暮らす人びとの幸せ（ウェルビーイング）の実現を目指す新しい観光実践である。それゆえ本講義では、地域ツーリズムの典型として、”水辺空間の観光化”、”伝統文化の観光化”、”生活空間の観光化”の3つのテーマのケーススタディを扱う。地域ツーリズムという新しい観光実践を理解するうえで大切なことは、現場に暮らす人びとの立場に立って、問題の本質を理解し、その解決に応えようとする視点を持つことである。従来の大衆的な観光とは異なる特徴を持つからこそ、地域ツーリズムを理解する新しい方法論を構想していく必要があるからである。本講義では、現場の人びとの立場からの持続可能な観光のあり方を探究していく。

【到達目標】
大衆的な観光との差異に注目しながら、地域ツーリズムの基本的な考え方を理解し、地域ツーリズムを捉える視点を養うこと。そのうえで、現場の人びとが抱える課題に対して、本講義の知見を活かして有効性のある政策論を構想する力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本講義では”いくら儲かるか”、”いかに集客を伸ばせるのか”といった大衆的な観光のイメージを相対化して、現場の人びとの立場から観光という現象を捉え直していく。DVDなどの視覚資料を積極的に活用する。授業の展開によって若干の変更がありうる。授業計画に変更がある場合は学習支援システムにて適時提示する。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地域ツーリズムとは？	地域づくりの手段としての「観光」論
第2回	地域ツーリズムをとらえる視点	人びとの「生活」を捉える方法から
第3回	大衆的な観光地は本当に稼げるのか？	マスツーリズムの功罪
第4回	観光地化を目指さない美しいむらづくり	競争から共創の観光まちづくり
第5回	地域ツーリズムにおける成功とは？	水辺空間の観光化①
第6回	生活保全としての地域ツーリズム	水辺空間の観光化②
第7回	地域の自治とツーリズム	前半のまとめ
第8回	なぜ地元の人びとは踊りの観光資源化を望まないのか？	伝統文化の観光化
第9回	水を愛でる自然観からみたアクアツーリズム	生活空間の観光化①
第10回	アクアツーリズムの担い手論	生活空間の観光化②
第11回	アクアツーリズムの論理と価値	生活空間の観光化③
第12回	銀座のローカル・ルールとアクアツーリズム	生活空間の観光化④
第13回	地域ツーリズムの理論と実践	観光の大衆性を相対化する新しい観光論の構想
第14回	講義のまとめと試験	本講義の知見と意義の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
適宜アナウンスするが、各回の振り返りは不可欠となる。配布資料に記載された参考文献を参照すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
毎回資料を配布する。

【参考書】
毎回の配布資料に参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
講義内のコメント・リアクションペーパー（10%）、期末試験（90%）の総合評価。到達目標が達成されているかを確認する。

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパー等を通じて学生からのコメントを適宜授業内容に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを積極的に活用する。

【その他の重要事項】
担当教員は地域づくり活動の現場における実務経験を有しており、その経験に基づいてより有効性のある政策論を議論していく。

【Outline (in English)】
【Course outline】The purpose of this course is to help students master the basic concepts of community tourism studies.【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to describe major methods and theories of community tourism studies, discuss the role of local community policy and apply the treatment of community tourism problems.【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on reaction papers(10%) and term-end examination (90%).

CUA300LA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 300）

文化人類学方法論Ｂ

2017年度以降入学者

菊池　真理

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：火3/Tue.3
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、これまでの文化人類学的研究における議論や実践を踏まえて、他者と自分を別様に理解し、表現する方法について学ぶ。1）理性や客観的分析による理解を見直し、身体的な経験の次元から他者や社会を捉えなおそうとする人類学の情動論、2）儀礼とパフォーマンスの人類学とにおける議論や実践、3）文化人類学の新しい民族誌の可能性を拓いている作品に触れることを通じて学ぶ。「わからないまま」他者に圧倒され、他者との新たな関係性に自分を見いだすという、他者と自分を理解することの可能性を学ぶ。また、戯曲を演じることを通じて、他者に「なる」ということ、自分を「しる」ことや新たに創造（表現）するということについて学ぶ。

【到達目標】
・人類学の情動論、儀礼とパフォーマンスの人類学的研究における議論を理解できる。
・民族誌や映像の読解だけでなく、それに揺さぶられる経験や、それを通じて他者と自分を「しる」という実践から、自他を別様に理解する方法を身につける。
・戯曲を演じることを通じて、他者に「なる」ということ、自分を「しる」ことや新たに創造（表現）する方法を体得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
・基本的に、履修者による発表、朗読、ディスカッション、ドラマリーディングの形式で授業を進めるが、適宜講義も取り入れる。
・発表者は指定する文献についてレジュメを作成し、それに基づいて発表を行う。それを受けて履修者全員でディスカッションを行う。コメンテーターは事前にコメントを準備する。
・指定するテキストを朗読し、テーマについてディスカッションを行う。
・全ての履修者は文献やテキストを熟読の上で授業に参加すること。
・リアクション・ペーパーなどで履修者から出された興味深いコメントや質問等を授業内で取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・授業の進め方、受講上の注意点 ・学生の自己紹介（本講義を受講した理由・動機など）
第2回	情動の人類学①	情動の人類学的研究の紹介
第3回	情動の人類学②	文献発表とディスカッション
第4回	別様の「しり方」と表現①	スリランカ、内戦についての概説
第5回	別様の「しり方」と表現②	映像鑑賞
第6回	別様の「しり方」と表現③	初見2021『ハレルヤ村の漁師たち』の朗読、ディスカッション
第7回	別様の「しり方」と表現④	初見2021『ハレルヤ村の漁師たち』の朗読、ディスカッション
第8回	他者の傷みの「しり方」	・スリランカ内戦にまつわる憑依儀礼に関する民族誌的研究の紹介 ・ディスカッション
第9回	儀礼とパフォーマンスの人類学①	儀礼・パフォーマンス研究についての講義
第10回	儀礼とパフォーマンスの人類学②	文献発表とディスカッション
第11回	儀礼とパフォーマンスの人類学③	文献発表とディスカッション
第12回	ドラマリーディング①他者に「なる」／自分を「しる」	戯曲を演じる実践
第13回	ドラマリーディング②他者に「なる」／自分を「しる」	戯曲を演じる実践
第14回	総括	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・発表、ディスカッション、朗読、ドラマリーディングに使用する文献の予習・復習を行う（発表担当者かどうかに関わらず文献を熟読）。
・図書館などで関連文献を探し、授業の理解を深める。
・発表のための資料作成やプレゼンテーション、朗読、ドラマリーディングの練習を行う。
・本授業の準備学修・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
・シェークナー，R. 1998『パフォーマンス研究：演劇と文化人類学の出会うところ』高橋雄一郎訳 人文書院
・ターナー，V. 1996『儀礼の過程』新思索社.
・初見かおり 2001『ハレルヤ村の漁師たち：スリランカ・タミルの村 内戦と信仰のエスノグラフィー』左右社.
（その他、必要に応じて関連資料を配布する。）

【参考書】
・小栗宏太 2022「情動の人類学：感情史との対話」『文化人類学』87(1): 94-105.
・西井涼子 2013『情動のエスノグラフィー：南タイの村で感じる・つながる・生きる』京都大学学術出版会.
・西井涼子・箭内匡編 2020『アフェクトクス（情動）：生の外側に触れる』京都大学学術出版会.
・Das, V. 2015. What does Ordinary Ethics Look Like. In M. Lambek, V. Das, D. Fassin, and W. Keane (eds) Four Lectures on Ethics: Anthropological Perspectives, pp. 53-117. The University of Chicago Press.
・Lawrence, P. 1997. Work of Oracles, Silence of Terror: Notes on the Injury of War in Eastern Sri Lanka. unpublished Ph.D. thesis submitted to the Faculty of the Graduate School of the University of Colorado.
———. 2000. Violence, Suffering, Amman: The Work of Oracles in Sri Lanka's Eastern War Zone. In Veena Das et al. (eds) Violence and Subjectivity, pp.171-204. Oxford University Press.
（以上の他、授業時に適宜紹介する。）

【成績評価の方法と基準】
・発表内容、リアクション・ペーパー、演劇、授業への参加態度など平常点（40％）
・映像鑑賞文（10％）
・学期末レポート（50％）

【学生の意見等からの気づき】
受講にあたって、文化人類学の基本的な考え方や方法論についての理解が必要となります。文化人類学の科目を受講したことがない学生さんを含め、事前に指定する課題文献に目を通しておいて下さい。初日の授業内でも短い概説を行う予定です。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用。

【その他の重要事項】
・対面をオンラインで同時配信するハイフレックス型授業は実施しません。

・履修者数の多寡やその他の事由により授業計画等に変更が生じることもあります。その場合は、授業内もしくは学習支援システムで周知します。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students learn theoretical discussion on anthropology of affect and anthropology of performance, and feeling and performing ethnography to explore possibilities of anthropology. The goals of this course are to understand different ways of understanding and expressing others and oneself. In addition, through performing a play, students will learn about what it means to "become" others, to "know" oneself. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on final report(50%), briefing paper on short film(10%) and in class contribution including presentation and reaction paper(40%).

BIO300LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 300）

教養ゼミⅠ

2017年度以降入学者

島野　智之

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：月4/Mon.4
単位数：2単位
定員制(20)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
最終的には，自然と私達の関係を見つめ直すことが目的である．生物としての人間を知るために，地球史における自然の形成プロセス（生命史）と生物の進化を学ぶ（自然史）．
用いる教科書は内容的に難しく感じるが，これまで生物学に触れたことがなくても理解できるように平易に説明する．
生物学の観点から生命とは何か，進化とは何かを考え、地球上に見られる生物の多様性がどの様に生み出されてきたのかを考える．
また，現在，生物進化の結果，維持されている生態系と人間との関係は，水産業，農業，林業などの産業によって結びついていることについても考える．
オータムセッション（秋学期として：9月13日～9月19日）では．春学期に学んだ自然史の知識をもとに，自然史博物館でのフィールドワークを実際におこない，展示などの調査に基づいて，博物館の展示の意義と内容，その展示手法を学ぶ．

【到達目標】
生命（生きていること）を考えるための基礎としての自然と人間についての価値観を考え，社会活動・社会生活の中に活かすことの出来るように説明できること．年度の最後に，種々の資料や調査を付き合わせて，各自の成果を発表にまとめる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
授業およびゼミ形式で行う。生物学の観点から，生命とは何か，進化とは何かを考え、地球上に見られる生物の多様性がどの様に生み出されてきたのかを講義し，レポートをまとめ，討議してもらう．
オータムセッション（秋学期として：9月13日～9月19日）では．春学期に学んだ自然史の知識をもとに，自然史博物館でのフィールドワークを実際におこない，展示などの調査に基づいて，博物館の展示の意義と内容，その展示手法を学ぶ．事後には討議，ゼミ形式でレポートに年度の最後としてまとめる．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス．進化の概念の歴史	博物館フィールドワークについて；調査の進め方；自然発生説；ダーウインの自然選択説；DNAの変異
第2回	無機物から有機物・原始生命体への化学進化	生物とは何か；43億年前に海が形成された証拠；熱水噴出孔での化学進化，など．
第3回	生命の誕生	原始独立栄養生物の誕生；高熱性アーキアと高熱性細菌；超高熱性菌のDNA2本鎖が解離しない仕組み
第4回	光合成生物と好気性生物の出現	光合成細菌の光合成；好気性生物の出現；シアノバクテリアの光合成，など．
第5回	真核生物の出現	酸素呼吸する真核生物の出現；真核生物がアーキアに由来する証拠；真核生物の起源となった原核生物，など．
第6回	多細胞かと有性生殖の獲得	単細胞時代に分岐していた植物・菌類・動物；多細胞生物の出現；有性生殖のはじまり，など．
第7回	遺伝的多様性と新規遺伝子の獲得をもたらす有性生殖	遺伝子の多様性をもたらす有性生殖；有性生殖は新規遺伝子の獲得を促進した；遺伝子ファミリーの形成，など．
第8回	動物の多様化	全球凍結が多細胞生物を多様化させた；脊椎動物の出現；エディアカラ生物群の絶滅とカンブリア爆発，など．
第9回	陸上植物の出現と多様化	陸上植物の起源；コケ植物が先か；前維管束植物が先か，など．
第10回	動物の陸上進出	節足動物の陸上進出；哺乳類の出現；鳥類の出現，など
第11回	進化を促進する仕組み	塩基配列の変異はランダムにおこる；ウニとヒトはほとんど同じ遺伝子を持つ；タンパク質は自律的に細胞を形成する，など．
第12回	エボデボー体制の進化ー	ダーウインフィンチの嘴の進化；節足動物の付属肢の進化；鳥エンハンサーが鳥類を進化させた，など
第13回	エボデボー特異体制の進化ー	ヘビの特異な形態をもたらした進化機構；フグの特異な形態をつくるしくみ，など．
第14回	まとめ．重要用語の振り返り．博物学について，生物の名前の付け方．	まとめと振り返り．ホモサピエンスの7万年前の大発明；博物学について；生物の名前の付け方．など．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
疑問などはそのままにせず，まず自分で解決するよう努力して下さい．事前につたえるので，討議に必要な事前の調査，あるいは，授業に必要な必要な知識などを予習していただきます（その方法などお知らせします）．
また，レポートは授業の内容に沿って作成するようにしてください。インターネットからのcopy &pasteは、容易に判明することが可能ですので行わないように．
本授業の準備・復習時間は，各2時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
更科 功 (著)2025
「世界一シンプルな進化論講義 生命・ヒト・生物――進化をめぐる6つの問い」 (ブルーバックス B 2282)
講談社 ISBN 978-4065382929

【参考書】
必要に応じて，その都度指示する．

【成績評価の方法と基準】
毎回行う授業内の小レポート（60%）および，授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）(40%) も加え，総合的に評価する．この成績評価の方法をもとに，本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする．

【学生の意見等からの気づき】
積極的に疑問点などについては，自分で調べることが大切である．

【学生が準備すべき機器他】
適宜パワーポイント資料の作成をおこなってもらう．適宜パソコンを使用できるようにしておくこと．

【その他の重要事項】
1) 現地調査（フィールドワーク）のための，交通費（宿泊はしません）が必要です（5,000～9,000円程度：入館料，ガイド料，交通費など，金額は前後することがあります．）．ガイダンスに必ず出席して下さい．

2) 選抜を行いますので最初の授業には必ず出席して下さい。また，受講希望者が定員（最大20名程度）を超えた場合にも、再度，選抜を行います．
3) 2017年度以降入学生：[半期科目「教養ゼミⅠ」、「教養ゼミII」として履修する学生]半期のみの履修登録が可能となる方．教養ゼミⅠ「自然史」と教養ゼミII 「自然史」を両方とも履修すること．
※どちらか一方だけの授業は履修できません．
4) 2016年度以前入学生：年間科目「自然史」または哲学科専門科目「人間学４（自然史)」として履修する方．年間科目として履修する方は、9月のオータムセッション（9月13日～9月19日）での，フィールドワークへの参加が可能であることを前提とし、履修登録を行うこと．
5) 授業の初めに、その日に必要な事項の説明を行いますので、くれぐれも遅刻しないようにご注意下さい。正当な理由のある遅刻を除き、１０分以上の遅刻は、イエロー・カードとなります。累積カード２枚で１回欠席となります。
6) 9月の初旬（オータムセッション：9月13日～9月19日）に，東京・神奈川でのフィールドワークを実施予定とし、台風等により実施不可となった場合は、再スケジュールとする。

【Outline (in English)】
Eventually, the objective is to reconsider our relationship with nature. To learn about the formation process of nature and the evolution of organisms in the history of the earth (natural history) in order to understand human beings as living organisms.
The textbook to be used may seem difficult in terms of content, but it will be explained in a simple manner so that students who have never been exposed to biology before can understand it.
From the viewpoint of biology, we will consider what life is and what evolution is, and how the diversity of life on the earth has been created.
We will also consider the relationship between humans and the ecosystems maintained as a result of biological evolution, which are currently linked by industries such as fisheries, agriculture, and forestry.
In the Autumn Session (as the Fall Semester: September 13 - 19). Based on the knowledge of natural history acquired in the spring semester, fieldwork will be conducted at a natural history museum to study the significance and contents of museum exhibits and their display techniques, based on surveys of exhibits and other materials.
Students are expected to complete the required assignments (class tests, assignment reports) at the end of each class.Your study time will be more than four hours for a class.
The basic grade is the report to be submitted at the end of the lecture/practice (60%). In addition to this, various documents to be submitted in the lecture (impressions of videos, etc., quizzes, etc.) (40%) will also be added, and students will be evaluated comprehensively.
Students who have achieved at least 60% of the objectives of the class will be graded on the basis of this grading system.

BIO300LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 300）

教養ゼミII

2017年度以降入学者

島野　智之

開講時期：オータムセッション/Autumn Session ｜ 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses
単位数：2単位
定員制(20)
※履修登録は学部事務にて行います。

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教養ゼミIIでは，オータムセッション（秋学期として：9月11日～9月17日）では．春学期に学んだ自然史の知識をもとに，自然史博物館でのフィールドワークを実際におこない，現地調査に基づいて，博物館の展示の意義と内容，その展示手法を学ぶ．
最終的には，自然と私達の関係を見つめ直すことが目的である．生物としての人間を知るために，地球史における自然の形成プロセス（生命史）と生物の進化を学ぶ（自然史）．
生物学の観点から生命とは何か，進化とは何かを考え、地球上に見られる生物の多様性がどの様に生み出されてきたのかを考える．
また，現在，生物進化の結果，維持されている生態系と人間との関係は，水産業，農業，林業などの産業によって結びついていることについても考える．

【到達目標】
生命（生きていること）を考えるための基礎としての自然と人間についての価値観を考え，社会活動・社会生活の中に活かすことの出来るように説明できること．年度の最後に，種々の資料や調査を付き合わせて，各自の成果を発表にまとめる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
オータムセッション（秋学期として：9月11日～9月17日）では．生物学の観点から，生命とは何か，進化とは何かを考え、地球上に見られる生物の多様性がどの様に生み出されてきたのかを討議し，社会活動・社会生活の中に活かすことの出来るように説明発表してもらう．
つぎに，春学期に学んだ自然史の知識をもとに，自然史博物館でのフィールドワークを実際におこない，展示などの調査に基づいて，博物館の展示の意義と内容，その展示手法を学ぶ．事後には討議，ゼミ形式でレポートに年度の最後としてまとめる．命を考えるための基礎としての自然と人間についての価値観を考え、できること。年度の最後に、種々の資料を付き合わせて、各自の成果を発表にまとめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	フィールドワークI (1)．	博物館学と博物学．博物館フィールドワークについて【講義】
第2回	フィールドワークI (2)	フィールドワークについてテーマの設定と討議
第3回	フィールドワークII (1)【現地フィールドワーク：国立科学博物館】	生物の進化を展示から理解しと博物館の展示形態を調査する (1)
第4回	フィールドワークII (2)【現地フィールドワーク：国立科学博物館】	生物の進化を展示から理解しと博物館の展示形態を調査する (2)
第5回	フィールドワークII (3)【現地フィールドワーク：国立科学博物館】	生物の進化を展示から理解しと博物館の展示形態を調査する (3)
第6回	フィールドワークII (4)【現地フィールドワーク：国立科学博物館】	生物の進化を展示から理解しと博物館の展示形態を調査する (4)
第7回	フィールドワークIII (1)【現地フィールドワーク：神奈川県立・生命の星地球博物館】	館の特徴である「地球史（地質）と組み合わせた生物の進化」という展示を理解し博物館の展示形態を調査する（1）
第8回	フィールドワークIII (2)【現地フィールドワーク：神奈川県立生命の星地球博物館】	館の特徴である「地球史（地質）と組み合わせた生物の進化」という展示を理解し博物館の展示形態を調査する（2）
第9回	フィールドワークIII (3)【現地フィールドワーク：神奈川県立生命の星地球博物館】	館の特徴である「地球史（地質）と組み合わせた生物の進化」という展示を理解し博物館の展示形態を調査する（3）
第10回	フィールドワークIV (1)【現地フィールドワーク：目黒寄生虫館】	館の特徴である「寄生虫の進化と適応」という展示を理解し博物館の展示形態を調査する（1）
第11回	フィールドワークIV (1)【現地フィールドワーク：目黒寄生虫館】	館の特徴である「寄生虫の進化と適応」という展示を理解し博物館の展示形態を調査する（2）
第12回	フィールドワークV (1)【現地フィールドワーク：国立科学博物館，付属自然教育園】	館の特徴である「自然や生態系を理解する」という展示を理解し，園の展示の工夫を調査する（1）
第13回	フィールドワークV (2)【現地フィールドワーク：国立科学博物館，付属自然教育園】	館の特徴である「自然や生態系を理解する」という展示を理解し，園の展示の工夫を調査する（2）
第14回	フィールドワークVI 討議・まとめ	各自で作成したレポートについて発表と討議をおこなう．フィールドワークのまとめ．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
疑問などはそのままにせず，まず自分で解決するよう努力して下さい．事前につたえるので，討議に必要な事前の調査，あるいは，授業に必要な必要な知識などを予習していただきます（その方法などお知らせします）．
また，レポートは授業の内容に沿って作成するようにしてください。インターネットからのcopy &pasteは、容易に判明することが可能ですので行わないように．
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
進化生物学 －ゲノミクスが解き明かす進化－，赤坂甲治（著），裳華房，2021年出版，定価3520円（本体3200円＋税10％）

【参考書】
必要に応じて，その都度指示する．

【成績評価の方法と基準】
毎回行うフィールドワーク後のレポート（60%）および，授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）(40%)も加え，総合的に評価する．この成績評価の方法をもとに，本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする．

【学生の意見等からの気づき】
積極的に疑問点などについては，自分で調べることが大切である．

【学生が準備すべき機器他】
適宜パワーポイント資料の作成をおこなってもらう．適宜パソコンを使用できるようにしておくこと．

【その他の重要事項】
1) 現地調査（フィールドワーク）のための，交通費（宿泊はしません）が必要です（5,000～9,000円程度：入館料，ガイド料，交通費など，金額は前後することがあります.）．ガイダンスに必ず出席して下さい.
2) 選抜を行いますので最初の授業には必ず出席して下さい。また，受講希望者が定員（最大20名程度）を超えた場合にも、再度，選抜を行います.
3) 2017年度以降入学生：[半期科目「教養ゼミⅠ」、「教養ゼミII」として履修する学生]半期のみの履修登録が可能となる方．教養ゼミⅠ「自然史」と教養ゼミII 「自然史」を両方とも履修すること.
※どちらか一方だけの授業は履修できません.
4) 2016年度以前入学生：年間科目「自然史」または哲学科専門科目「人間学４（自然史)」として履修する方．年間科目として履修する方は、9月のオータムセッション（9月11日～9月17日）での，フィールドワークへの参加が可能であることを前提とし、履修登録を行うこと.
5) 授業の初めに、その日に必要な事項の説明を行いますので、くれぐれも遅刻しないようにご注意下さい。正当な理由のある遅刻を除き、１０分以上の遅刻は、イエロー・カードとなります。累積カード２枚で１回欠席となります。
6) 9月の初旬（オータムセッション：9月11日～9月17日）に，東京・神奈川でのフィールドワークを実施予定とし、台風等により実施不可となった場合は、再スケジュールとする。

【Outline (in English)】
In the Autumn Session (as the Fall Semester: September 13 - 19). Based on the knowledge of natural history acquired in the spring semester, fieldwork will be conducted at a natural history museum to study the significance and contents of museum exhibits and their display techniques, based on surveys of exhibits.
Eventually, the objective is to reconsider our relationship with nature. To learn about the formation process of nature and the evolution of organisms in the history of the earth (natural history) in order to understand human beings as living organisms.
From the viewpoint of biology, we will consider what life is and what evolution is, and how the diversity of life on the earth has been created.
We will also consider the relationship between humans and the ecosystems maintained as a result of biological evolution, which are currently linked by industries such as fisheries, agriculture, and forestry.
Students are expected to complete the required assignments (class tests, assignment reports) at the end of each class.Your study time will be more than four hours for a class.
The basic grade is the report to be submitted at the end of the lecture/practice (60%). In addition to this, various documents to be submitted in the lecture (impressions of videos, etc., quizzes, etc.) (40%) will also be added, and students will be evaluated comprehensively.
Students who have achieved at least 60% of the objectives of the class will be graded on the basis of this grading system.

BIO300LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 300）

人間と地球環境

2017年度以降入学者

宇野　真介

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：月3/Mon.3
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現在「持続可能性」はキーワードとして国際的に広く認識されています。これは人間社会が、多種多様な環境問題に加え飢餓や貧困などの社会経済的な問題に直面し、自然環境、社会環境共に危機的状況にあるとの認識によるものです。本講座では、持続可能性の観点から人間と自然の関係、人間同士の関係のあり方を考察すべく、特に、誰もが接点を持つ「食」に関連する農業に注目し、環境問題の科学的側面だけでなく関連する社会的要素を含めた広い視野から学習していきます。これにより、現代社会が直面する問題の複雑さを理解するとともにより明確な考え・意見を持つための視点を得る機会を提供します。

【到達目標】
本授業では以下の３点を最終的到達目標とします。１）種々の環境問題を理解する上で不可欠な科学的基礎知識を取得すること。２）環境問題の科学的側面だけでなく、関連する社会的問題を理解すること。３）食を接点として授業で扱われる諸問題の関連性を理解し、人間社会が直面している問題について個人としての考え・意見を形成すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業はパワーポイントを使った講義形式を標準としますが、参加型の学習機会として演習（グループワーク）も行う予定です。また、各回の授業内容へのリアクションや質問を集約し、次回の授業で補足・フィードバックを行うことで学習内容の理解度をはかりつつ授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	多重危機の時代と持続可能性	導入として、全体のキーワードとなる持続可能性の概念について解説し、食と種々の環境問題との関連性を概観します。
第2回	生態系の基礎理解	生態系の基本的特徴について、システムとしての構造、機能、振る舞いの観点から考えます。
第3回	生物多様性とは	生物多様性の基本的特徴を解説するとともに、その保全が求められる理由について考えます。
第4回	土中環境	普段目を向けない地中の環境並びに自然環境の基盤としての土壌の重要性について考えます。
第5回	演習１：農地を支える生物	農地という生態系に着目し、食糧生産に関与する生物的要素についてグループワークを通して考えます。
第6回	農業の歴史と近代化	農業の歴史を概観するとともに、近代化のもたらした変化と食糧生産における成果について考えます。
第7回	近代農業の環境負荷	「慣行農法」として定着した近代的生産手法の環境負荷について考えます。
第8回	食糧生産と環境保全1：慣行農法からの展望	慣行農法における食糧供給と環境保全の両立の可能性について考えます。
第9回	食糧生産と環境保全2：代替農法からの展望	慣行農法に代わる「代替農法」について概観するとともに、食糧供給と環境保全の両立の可能性について考えます。
第10回	アグロエコロジーとは	持続可能なフードシステムの枠組みとして注目されるアグロエコロジーについて事例を交えて解説します。
第11回	畜産と感染症	新型コロナウイルスパンデミックを機に対策が急務とされている人獣共通感染症について、畜産との関係性から考えます。
第12回	演習２：飽食時代の飢餓	一見食糧が溢れているように見える現代における飢餓の問題について、グループワークを通して考えます。
第13回	フードシステムと需要・消費側の問題	食糧供給に伴う問題について、農作物自体の生産以外の面から考えます。
第14回	ローカリゼーションとコモンズ	食にまつわる諸問題の解決策について、「ローカリゼーション」と「コモンズ」の２つの視点から模索します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料の通読、授業内容の復習と他の回の学習内容との関連性の確認など、本授業の準備・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書はなし。配布される資料を使用。

【参考書】
適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は小テスト（40%）、期末レポート（30%）、平常点（30%）を基本とします。小テストは、学習内容の理解度（到達目標１、２）を定期的に評価するため2回実施する予定です。期末レポートは、学習内容の理解度を評価すると同時にそれに基づく個人的意見の展開（到達目標３）を評価するものです。平常点は、各回の学習状況やディスカッションでの参加度などを評価するものです。

【学生の意見等からの気づき】
映像資料の利用やグループワークは好評でもあり、学習内容の定着にも効果があるものと思われる。これに加え、各種WebClassの機能をより効果的に活用したい。

【学生が準備すべき機器他】
授業内外での学習支援システム（WebClass）の使用を想定していますので、利用可能な準備をして参加してください。

【その他の重要事項】
30名の定員制です。必要に応じて選抜を行います。

【Outline (in English)】
[Course outline] Sustainability has come to be recognized as a common challenge for the human society, which is a manifestation of the severity of various problems we as a species are faced with. This course examines environmental issues from the viewpoint of sustainability by focusing mainly on agriculture to provide students with reference points in their own daily lives in relation to the course materials via food-related elements. By doing so, the course provides students with an opportunity to learn not only about scientific aspects of environmental issues but also about relevant social issues in an attempt to provide a holistic view of human impact on the global environment.
[Learning objectives] Objectives of the course are: to acquire basic scientific understanding of various environmental issues; to understand related social problems; and to develop a personal opinion/understanding about various problems the human species faces based on a holistic understanding of human impact on the global environment.
[Learning activities outside of classroom] In addition to attending classes, students are expected to review contents of individual lectures and thoroughly utilize distributed materials and the online learning support system (WebClass). Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.
[Grading criteria/policy] Final grade will be determined based on quizzes (40%), final assignment (30%), and participation/in-class contribution (30%).

BIO300LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 300）

人間と地球環境

宇野　真介

授業コード：Q6335　｜　曜日・時限：月3/Mon.3
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：地理学科2〜4年年
備考（履修条件等）：定員制(30)
地理学科生は選択科目として履修する

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現在「持続可能性」はキーワードとして国際的に広く認識されています。これは人間社会が、多種多様な環境問題に加え飢餓や貧困などの社会経済的な問題に直面し、自然環境、社会環境共に危機的状況にあるとの認識によるものです。本講座では、持続可能性の観点から人間と自然の関係、人間同士の関係のあり方を考察すべく、特に、誰もが接点を持つ「食」に関連する農業に注目し、環境問題の科学的側面だけでなく関連する社会的要素を含めた広い視野から学習していきます。これにより、現代社会が直面する問題の複雑さを理解するとともにより明確な考え・意見を持つための視点を得る機会を提供します。

【到達目標】
本授業では以下の３点を最終的到達目標とします。１）種々の環境問題を理解する上で不可欠な科学的基礎知識を取得すること。２）環境問題の科学的側面だけでなく、関連する社会的問題を理解すること。３）食を接点として授業で扱われる諸問題の関連性を理解し、人間社会が直面している問題について個人としての考え・意見を形成すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業はパワーポイントを使った講義形式を標準としますが、参加型の学習機会として演習（グループワーク）も行う予定です。また、各回の授業内容へのリアクションや質問を集約し、次回の授業で補足・フィードバックを行うことで学習内容の理解度をはかりつつ授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	多重危機の時代と持続可能性	導入として、全体のキーワードとなる持続可能性の概念について解説し、食と種々の環境問題との関連性を概観します。
第2回	生態系の基礎理解	生態系の基本的特徴について、システムとしての構造、機能、振る舞いの観点から考えます。
第3回	生物多様性とは	生物多様性の基本的特徴を解説するとともに、その保全が求められる理由について考えます。
第4回	土中環境	普段目を向けない地中の環境並びに自然環境の基盤としての土壌の重要性について考えます。
第5回	演習１：農地を支える生物	農地という生態系に着目し、食糧生産に関与する生物的要素についてグループワークを通して考えます。
第6回	農業の歴史と近代化	農業の歴史を概観するとともに、近代化のもたらした変化と食糧生産における成果について考えます。
第7回	近代農業の環境負荷	「慣行農法」として定着した近代的生産手法の環境負荷について考えます。
第8回	食糧生産と環境保全1：慣行農法からの展望	慣行農法における食糧供給と環境保全の両立の可能性について考えます。
第9回	食糧生産と環境保全2：代替農法からの展望	慣行農法に代わる「代替農法」について概観するとともに、食糧供給と環境保全の両立の可能性について考えます。
第10回	アグロエコロジーとは	持続可能なフードシステムの枠組みとして注目されるアグロエコロジーについて事例を交えて解説します。
第11回	畜産と感染症	新型コロナウイルスパンデミックを機に対策が急務とされている人獣共通感染症について、畜産との関係性から考えます。
第12回	演習２：飽食時代の飢餓	一見食糧が溢れているように見える現代における飢餓の問題について、グループワークを通して考えます。
第13回	フードシステムと需要・消費側の問題	食糧供給に伴う問題について、農作物自体の生産以外の面から考えます。
第14回	ローカリゼーションとコモンズ	食にまつわる諸問題の解決策について、「ローカリゼーション」と「コモンズ」の２つの視点から模索します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料の通読、授業内容の復習と他の回の学習内容との関連性の確認など、本授業の準備・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書はなし。配布される資料を使用。

【参考書】
適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は小テスト（40%）、期末レポート（30%）、平常点（30%）を基本とします。小テストは、学習内容の理解度（到達目標１、２）を定期的に評価するため2回実施する予定です。期末レポートは、学習内容の理解度を評価すると同時にそれに基づく個人的意見の展開（到達目標３）を評価するものです。平常点は、各回の学習状況やディスカッションでの参加度などを評価するものです。

【学生の意見等からの気づき】
映像資料の利用やグループワークは好評でもあり、学習内容の定着にも効果があるものと思われる。これに加え、各種WebClassの機能をより効果的に活用したい。

【学生が準備すべき機器他】
授業内外での学習支援システム（WebClass）の使用を想定していますので、利用可能な準備をして参加してください。

【その他の重要事項】
30名の定員制です。必要に応じて選抜を行います。

【Outline (in English)】
[Course outline] Sustainability has come to be recognized as a common challenge for the human society, which is a manifestation of the severity of various problems we as a species are faced with. This course examines environmental issues from the viewpoint of sustainability by focusing mainly on agriculture to provide students with reference points in their own daily lives in relation to the course materials via food-related elements. By doing so, the course provides students with an opportunity to learn not only about scientific aspects of environmental issues but also about relevant social issues in an attempt to provide a holistic view of human impact on the global environment.
[Learning objectives] Objectives of the course are: to acquire basic scientific understanding of various environmental issues; to understand related social problems; and to develop a personal opinion/understanding about various problems the human species faces based on a holistic understanding of human impact on the global environment.
[Learning activities outside of classroom] In addition to attending classes, students are expected to review contents of individual lectures and thoroughly utilize distributed materials and the online learning support system (WebClass). Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.
[Grading criteria/policy] Final grade will be determined based on quizzes (40%), final assignment (30%), and participation/in-class contribution (30%).

BIO300LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 300）

Human Impact on the Global Environment

2017年度以降入学者

宇野　真介

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：月3/Mon.3
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Sustainability has come to be recognized as a common challenge for the human society, which is a manifestation of the severity of various problems we as a species are faced with. This course examines environmental issues from the viewpoint of sustainability by focusing mainly on agriculture to provide students with reference points in their own daily lives in relation to the course materials via food-related elements. By doing so, the course provides students with an opportunity to learn not only about scientific aspects of environmental issues but also about relevant social issues in an attempt to provide a holistic view of human impact on the global environment.

【到達目標】
This course is designed to teach about ecological and social issues. Therefore, the course objectives are: 1) to understand basic scientific concepts required to comprehend various environmental issues; 2) to understand social problems related to the environmental issues addressed in this course; and 3) to form personal perspective and opinion about the current state of human society by understanding the interrelated nature of the environmental and socioeconomic problems.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
The course is divided roughly into three parts. In the first part, students will learn about the basic features of ecosystem, biodiversity, and soil, in other words, the natural world that surrounds us and provides us with essential resources and services. The second part will focus on environmental issues related to agriculture (food production). Finally, the third part will mainly address socioeconomic aspects of relevant issues.
The course will be taught mainly in a face-to-face lecture format; however, there will also be opportunities for students to actively participate in class through, for example, group work and discussion. In addition to in-class interactions, students will submit their opinions about/reactions to the materials presented in each class, and the instructor will give feedback/answer questions in the subsequent class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Era of multiple crises and sustainability	As an introduction to the course, the concept of sustainability will be discussed, and an overview will be given on the connection between food and environmental issues.
Week 2	Understanding ecosystem	Basic characteristics of ecosystem will be discussed from the viewpoints of structure, function and behavior as a system.
Week 3	What is biodiversity?	Basic characteristic of biodiversity will be discussed, and the reasons why its conservation is necessary will be considered.
Week 4	Soil environment	General features of soil environment will be described, and its importance as the foundation of natural environment will be discussed.
Week 5	Agricultural field as a habitat	Group work will be used to integrate the concepts learned in the previous lectures and apply them to ecological problem solving.
Week 6	Historical background and modernization of agriculture	An overview of historical development of agriculture will be given, and changes and achievements brought about by modernization will be discussed.
Week 7	Environmental impact of modern agriculture	Environmental impact of modern production method or "conventional agriculture" will be discussed.
Week 8	Environmental conservation in the case of conventional agriculture	Could food production and environmental conservation both be achieved? This question will be addressed from the perspective of conventional agriculture.
Week 9	Environmental conservation in the case pf alternative agriculture	Could food production and environmental conservation both be achieved? This question will be addressed from the perspective of alternative agriculture.
Week 10	Agroecology	Agroecology will be discussed as a framework for achieving a sustainable food system.
Week 11	Livestock production and infectious diseases	The risk of zoonotic diseases will be discussed in relation to activities related to livestock production.
Week 12	Abundance and scarcity	Group work will be used to explore the complexity of the issue of hunger in the age of abundance.
Week 13	Localization and food system	The significance and importance of localized food production/supply system will be discussed.
Week 14	Thinking about solutions from the consumer side	Solutions for agriculture and food-related issues will be explored from the consumer side of food system.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to prepare for classes by thoroughly reading distributed materials and utilizing the online learning support system (WebClass) and also to review contents of individual lectures. Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

【テキスト（教科書）】
None. Reading materials will be distributed as needed.

【参考書】
To be announced as needed.

【成績評価の方法と基準】
Student performance will be graded based on quizzes (40%), a final assignment (30%), and participation/in-class contribution (30%). Quizzes will be used to evaluate understanding of course materials (Course objectives 1 and 2). The final assignment will be an opportunity for students to demonstrate their understanding of the course materials by presenting their personal analysis/opinion about the current state of human society (Course objective 3). Participation will be used to evaluate student performance in each class and in-class activities.

【学生の意見等からの気づき】
Providing opportunities for students to interact with other students and exchange their opinions proved to be effective in enhancing their learning.

【学生が準備すべき機器他】
Students will need to have access to Hosei's e-learning system (WebClass). Online format may be used, as needed, and students are expected to prepare necessary devices in such a case.

【その他の重要事項】
There is an enrollment limit of 30 students. There will be selection, if the limit is exceeded, and, to be included in the selection, you will be required to pre-register for the course a few days before the semester begins. Additional information will be provided through WebClass, as needed.

【Outline (in English)】
[Course outline] Sustainability has come to be recognized as a common challenge for the human society, which is a manifestation of the severity of various problems we as a species are faced with. This course examines environmental issues from the viewpoint of sustainability by focusing mainly on agriculture to provide students with reference points in their own daily lives in relation to the course materials via food-related elements. By doing so, the course provides students with an opportunity to learn not only about scientific aspects of environmental issues but also about relevant social issues in an attempt to provide a holistic view of human impact on the global environment.
[Learning objectives] Objectives of the course are: to acquire basic scientific understanding of various environmental issues; to understand related social problems; and to develop a personal opinion/understanding about various problems the human species faces based on a holistic understanding of human impact on the global environment.
[Learning activities outside of classroom] In addition to attending classes, students are expected to review contents of individual lectures and thoroughly utilize distributed materials and the online learning support system (WebClass). Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.
[Grading criteria/policy] Final grade will be determined based on quizzes (40%), final assignment (30%), and participation/in-class contribution (30%).

法政大学
HOSEI University